

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第357集

高林三入遺跡 八反田遺跡

(群馬県太田市)

(都) 3.3.2東毛幹線道路改良事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第357集

高^{たか}林^{はやし}三^み入^{にゅう}遺跡
八^{はっ}反^{たん}田^だ遺跡

(群馬県太田市)

(都) 3.3.2東毛幹線道路改良事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2005

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



高林三入・八反田遺跡遠景（南から）



高林三入・八反田遺跡遠景（東から）



高林三入遺跡出土初期須恵器把手付碗



高林三入遺跡C区7号住居出土土器

序

『高林三入遺跡・八反田遺跡』は、東毛幹線道路改良事業に伴って発掘調査された、太田市福沢町・高林北町・岩瀬川町・下浜田町に所在する遺跡の調査報告書です。両遺跡は、平成11・14・15・16年度と4次にわたり発掘調査し、整理事業は平成16年度～17年度まで、県土整備局と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託契約を締結し実施しました。

遺跡地は、大間々扇状地の南に位置し、平坦な沖積地の中に低い台地が残る地形となっており、周辺は、きれいに区画された水田が広がっています。調査では、旧石器時代のブロック（石器の分布）、古墳時代の竪穴住居跡・方形周溝墓、中近世の溝跡などの遺構と、数多くの土器・石器などの遺物が発見されました。特に、高林三入遺跡B区10号土坑から出土した手焙り形土器、C区7号住居から出土した初期須恵器把手付埴は、県内では出土例が少なく、たいへん貴重な発見となりました。今回の調査で明らかになった事実は、地域の歴史を明らかにする上で大いに役立つものと確信しております。

最後になりますが、県土整備局、太田土木事務所、群馬県教育委員会文化課、太田市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査担当者、作業員及び整理業務担当者、整理補助員の労をねぎらい序といたします。

平成17年7月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は、(都) 3.3.2東毛幹線道路改良事業に伴い発掘調査した「高林三入遺跡 (平成11・15・16年度)」
「八反田遺跡 (平成14・16年度)」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書に所収の遺跡名と発掘調査地の所在地番は、以下の通りである。
遺跡名 高林三入 (たかはやしみにゅう) 遺跡、所在地 群馬県太田市高林北町・岩瀬川町・福沢町
遺跡名 八反田 (はったんだ) 遺跡、所在地 群馬県太田市下浜田町
3. 発掘調査及び整理事業は、群馬県教育委員会が調整し、群馬県土木部 (太田土木事務所) と財団法人群馬
県埋蔵文化財調査事業団が委託契約を締結し実施した。
4. 発掘調査の体制及び期間は下記の通りである。

【平成11年度】

調査遺跡 高林三入遺跡

調査面積 20,191㎡

期 間 平成11年4月1日～平成12年3月31日

調査担当 高井佳弘 金井仁史 小宮山達雄

事務局 菅野 清、小野宇三郎、赤山容造、住谷 進、神保侑史、坂本敏夫、真下高幸、笠原秀樹、
小山建夫、須田朋子、吉田有光、片岡徳雄、岡嶋伸昌、柳岡良宏、並木綾子、今井もと子、
内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、若田誠、松下次男、吉田茂

【平成14年度】

調査遺跡 八反田遺跡

調査面積 6,378㎡

期 間 平成14年7月17日～平成14年11月30日

調査担当 須田正久 小林正

事務局 能登 健、真下高幸、佐藤明人、笠原秀樹、柳岡良宏、中澤恵子

【平成15年度】

調査遺跡 高林三入遺跡

調査面積 3,870㎡

期 間 平成15年11月1日～平成16年2月14日

調査担当 今井和久 森田真一

事務局 平野進一、真下高幸、中沢 悟、笠原秀樹、柳岡良宏、北野勝美、中澤恵子、金子三枝子

【平成16年度】

調査遺跡 高林三入遺跡、八反田遺跡

調査面積 1,312㎡、676㎡

期 間 平成16年4月1日～平成16年6月30日、平成16年8月1日～平成16年9月10日

調査担当 平方篤行 森田真一

事務局 平野進一、真下高幸、中沢 悟、笠原秀樹、柳岡良宏、今泉大作、清水秀紀、中澤恵子、
金子三枝子

5. 整理事業の体制及び期間は下記の通りである。

【平成16年度】

整理遺跡 高林三入遺跡、八反田遺跡

期 間 平成16年4月1日～平成16年9月30日 平成16年12月1日～平成17年3月31日

整理担当 今井和久

整理補助員 阿部和子、岩淵節子、長岡和恵、飯田文子、阿久津久子

事務局 小野宇三郎、住谷永市、神保侑史、矢崎俊夫、右島和夫、丸岡道雄、相京建史、竹内宏、高橋房雄、国定均、須田朋子、吉田有光、栗原幸代、佐藤聖行、阿久澤玄洋、今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、若田誠、松下次男、吉田茂

【平成17年度】

整理遺跡 高林三入遺跡、八反田遺跡

期 間 平成17年4月1日～平成17年7月31日

整理担当 今井和久

整理補助員 阿部和子、飯田文子、大勝桂子、清水ゆり子、星野智恵美

事務局 小野宇三郎、高橋勇夫、木村裕紀、津金澤吉茂、矢崎俊夫、西田健彦、中束耕史、宮前結城雄、相京建史、竹内宏、石井清、今泉大作、須田朋子、吉田有光、栗原幸代、清水秀紀、佐藤聖行、今井もと子、内山佳子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、若田誠、武藤秀典

6. 本書作成担当

編 集 今井和久

遺物観察 旧石器 岩崎泰一、縄文土器 関根慎二、陶磁器 大西雅弘、石・鉄製品 大江正行、埴輪 齋藤幸男、その他の遺物は事業団職員の指導・助言を受け、今井が行った。

執筆分担 第1章第2節 高井佳弘、今井和久、小林正、森田真一
第6章第4節 榎崎修一郎 他は今井和久

遺構写真撮影 調査担当者 遺物写真撮影 佐藤元彦

機械実測 富沢スミ江、伊東博子、岸弘子、廣津真希子、田中精子、酒井史恵

人骨・馬骨鑑定 榎崎修一郎 石材同定 飯島静男（群馬地質研究会）

地上測量 (株) 栗原総合測量、株式会社測設、アコン測量設計株式会社

空中写真撮影 株式会社シン技術コンサル 自然科学分析 古環境

7. 本遺跡の記録図・記録写真・出土遺物は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理し、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

8. 発掘調査及び本書作成にあたり、下記の関係機関・関係諸氏にご助言・ご指導・ご協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

群馬県土木部、太田土木事務所、太田市教育委員会、群馬県教育委員会文化課、地元関係者各位、石川正之助、関本寿雄、腰塚徳司、中村喜雄、吉田好孝、矢島博文、長沼吉嗣、三田村美彦、綿田弘実
当事業団職員 大木紳一郎、木津博明、友廣哲也、綿貫邦男、坂口一、石塚久則

凡 例

1. 挿図縮尺は図版に記載した。概要は以下の通りである。

遺構 全体図1/500・1/800、竪穴住居・掘立柱建物跡・竪穴状遺構1/60、竈1/30

方形周溝墓1/100、溝・水田跡1/100・1/200（断面図1/40・1/80）、井戸・土坑・ピット1/60

遺物 土器・陶磁器・瓦1/3・1/4、手捏ね土器・土製品1/1・1/2、古銭1/1、鉄・銅製品、木製品1/3

旧石器（接合資料1/2・単体4/5）、縄文（石鏃1/1、石槍・削器1/2）、石製品1/1・1/2・1/3・1/6

2. 遺構図の方位は座標北である。座標系は、国家座標第IX系（旧測地系）である。

3. 両遺跡とも、国家座標に基づいて5 m×5 mのグリッドを設定した。八反田遺跡では、X・Y軸の5桁数値のうち前2桁のX値29、Y値41は省略してある。また、高林三入遺跡では、「第1章第3節調査の方法」に示す通り、独自のグリッドを設定した。方眼杭は南東杭を基準にし、遺構のかかった面積の多いグリッド杭で位置を示した。

4. 遺構断面実測図及び等高線に記した数値はL= mで表示し、標高値を示す。

5. 遺構面積は、デジタルプランメーターによる3回の計測の平均値である。

6. 本書におけるテフラの名称は、次の略称で示した。

As-A・・・浅間A軽石、1783年（天明3年）、As-B・・・浅間B軽石、1108年（天仁元年）

Hr-FA・・・榛名二ッ岳渋川テフラ（6世紀初頭）、Hr-FP・・・榛名二ッ岳伊香保テフラ（6世紀中葉）

As-C・・・浅間C軽石（3世紀終末）、As-YP・・・浅間板鼻黄色軽石（1.3～1.4万年前）

As-OK2・・・浅間大窪沢第2軽石（1.6万年前）、As-OK1・・・浅間大窪沢第1軽石（1.7万年前）

As-Sr・・・浅間白糸軽石（1.8万年前）、As-BP・・・浅間板鼻褐色軽石群（1.9～2.4万年前）

AT・・・始良丹沢火山灰（2.4～2.5万年前）、Ag-k・・・赤城鹿沼軽石（3.1～3.2万年前）

7. 住居の方位は、竈の付設された住居では、竈を持つ壁（竈を持つと推定された壁）に直交する線を、炉の付設された住居では北辺に対して直交方向を主軸線とした。また、掘立柱建物跡・土坑・墓坑・ピットは、長軸方向を主軸線とした。

8. 遺構図中の「●」は土器、「■」は石器・石製品、「▲」は金属製品、自然石は点描、「住」は住居、「竪」は竪穴状遺構、「掘」は掘立柱建物、「溝」は溝、「井」は井戸、「土」は土坑、「周墓」は方形周溝墓、「倒」は倒木痕、「ピ」はピット、「P」は住居内・掘立柱建物の柱穴を表す。

9. 本書で使用したスクリーンパターンは、下記の通りである。なお、施釉の範囲は一点破線で表現した。

【遺構】

焼土分布



灰・炭化物分布



粘土分布



旧石器出土範囲



【遺物】

赤色塗彩



煤痕



10. 遺構番号は、高林三入遺跡では調査区毎・遺構毎に付し、八反田遺跡は遺構毎に付した。また、遺物番号は、遺構毎に登録した。遺物番号は、本文、挿図、観察表、写真図版と同一である。

11. 土器の実測図は原則として四分画法をとった。残存量が1/2以下の遺物は180°展開して図上復元した。回転実測の場合は土器の口縁線を切断し表現した。へら削りの方向は→で示す。

12. 色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、新版標準土色帖（1987年）によった。

目次

口絵

序

例言

凡例

目次 (挿図目次・表目次・写真図版目次)

第1章 発掘調査の経過と方法

第1節 調査に至る経緯……………1

第2節 調査の経過……………2

第3節 調査の方法

1 調査・整理方法……………6

2 基本土層……………8

第2章 周辺的环境

第1節 遺跡の立地……………9

第2節 周辺の遺跡……………11

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

第1節 遺跡の概要……………15

第2節 旧石器時代の調査……………16

第3節 竪穴住居・竪穴状遺構・方形周溝墓
……………36

第4節 掘立柱建物……………76

第5節 井戸・土坑・ピット……………90

第6節 溝・水田跡……………140

第7節 遺構外出土遺物……………197

第4章 八反田遺跡の遺構と遺物

第1節 遺跡の概要……………206

第2節 井戸・土坑・ピット……………206

第3節 溝……………213

第4節 遺構外出土遺物……………242

第5章 調査の成果

第1節 調査のまとめ……………243

第2節 群馬県内出土初期須恵器把手付碗に
ついて……………245

第3節 群馬県内出土手焙り型土器について

……………249

第6章 自然科学分析

第1節 高林三入遺跡の自然科学分析 (1)

……………251

第2節 高林三入遺跡の自然科学分析 (2)

……………261

第3節 八反田遺跡の土層とテフラ

(第1～3節、古環境)……………273

第4節 高林三入遺跡出土の人骨・馬骨

(榑崎修一郎)……………277

遺物観察表

高林三入遺跡……………289

八反田遺跡……………326

報告書抄録

写真図版

高林三入遺跡 (遺構、遺物)

八反田遺跡 (遺構、遺物)

奥付

挿 図 目 次

第1図	高林三入・八反田遺跡位置図……………1	第4図	基本土層図……………8
第2図	高林三入・八反田遺跡調査区図……………5	第5図	高林三入・八反田遺跡周辺地形分類図……………10
第3図	高林三入・八反田遺跡グリッド設定図……………7	第6図	高林三入・八反田遺跡周辺遺跡図……………13

高林三入遺跡

第7図	高林三入遺跡旧石器試掘図……………16	第59図	C区1号住居掘り方……………61
第8図	A-1①、A-2区石器分布図・出土石器……………20	第60図	C区1号住居炉・貯蔵穴……………62
第9図	A-1②区石器ブロック器種別分布図……………21	第61図	C区2号住居・掘り方……………62
第10図	A-1②区石器ブロック石材別分布図……………21	第62図	C区2号住居出土遺物……………63
第11図	A-1②区石器ブロック接合関係図……………22	第63図	C区3号住居出土遺物……………63
第12図	A-1②区礫群重量別分布図……………22	第64図	C区3号住居……………64
第13図	A-1②区礫群石材別分布図……………23	第65図	C区4号住居……………65
第14図	A-1②区礫群接合関係図……………23	第66図	C区4号住居炉、出土遺物……………66
第15図	A-1②区出土石器……………24	第67図	C区5号住居・炉、出土遺物……………67
第16図	A-1②区接合資料……………25	第68図	C区6号住居……………68
第17図	B-4区石器ブロック分布図……………29	第69図	C区6号住居掘り方、出土遺物(1)……………69
第18図	B-4区石器ブロック垂直分布図……………30	第70図	C区6号住居出土遺物(2)……………70
第19図	B-4区出土石器……………31	第71図	C区7号住居・掘り方……………71
第20図	B-4区接合資料(1)……………32	第72図	C区7号住居貯蔵穴・出土遺物(1)……………72
第21図	B-4区接合資料(2)……………33	第73図	C区7号住居出土遺物(2)……………73
第22図	B-4区接合資料(3)……………34	第74図	C区8号住居・掘り方……………74
第23図	C区出土石器……………34	第75図	C区8号住居出土遺物……………75
第24図	D区石器分布図、出土石器……………35	第76図	C区9号住居・掘り方、出土遺物……………75
第25図	A区竪穴住居・方形周溝墓全体図……………36	第77図	B区掘立柱建物全体図……………76
第26図	A区1号住居出土遺物……………36	第78図	B区1号掘立柱建物……………77
第27図	A区1号住居・掘り方……………37	第79図	B区2号掘立柱建物、出土遺物……………78
第28図	A区2号住居・掘り方、出土遺物……………38	第80図	B区3号掘立柱建物、出土遺物……………79
第29図	A区3号住居、出土遺物……………39	第81図	B区4号掘立柱建物……………80
第30図	A区1号方形周溝墓出土遺物……………40	第82図	B区5号掘立柱建物、出土遺物……………81
第31図	A区1号方形周溝墓……………41	第83図	C区掘立柱建物全体図……………81
第32図	B区竪穴住居・竪穴状遺構全体図……………42	第84図	C区1号掘立柱建物……………82
第33図	B区1号住居……………42	第85図	C区2号掘立柱建物……………83
第34図	B区1号住居炉……………43	第86図	C区3号掘立柱建物……………84
第35図	B区2号住居……………43	第87図	C区4号掘立柱建物、出土遺物……………85
第36図	B区2号住居出土遺物……………44	第88図	C区5号掘立柱建物……………86
第37図	B区3号住居貯蔵穴……………44	第89図	C区5号掘立柱建物出土遺物……………87
第38図	B区3号住居、出土遺物……………45	第90図	C区6号掘立柱建物……………87
第39図	B区4号住居……………45	第91図	C区7号掘立柱建物、出土遺物……………88
第40図	B区4号住居出土遺物……………46	第92図	C区8号掘立柱建物……………88
第41図	B区5号住居、出土遺物……………46	第93図	F区掘立柱建物全体図……………89
第42図	B区5号住居出土遺物……………47	第94図	F区1号掘立柱建物……………89
第43図	B区6号住居、出土遺物……………47	第95図	A区井戸・土坑・ピット全体図……………90
第44図	B区7号住居・掘り方、出土遺物……………48	第96図	A区1号井戸出土遺物(1)……………90
第45図	B区10号住居……………49	第97図	A区1号井戸、出土遺物(2)……………91
第46図	B区10号住居炉・貯蔵穴、出土遺物……………50	第98図	A区1号土坑、出土遺物(1)……………91
第47図	B区11号住居……………51	第99図	A区2～6号土坑、1・3号土坑出土遺物……………92
第48図	B区11号住居掘り方・南竈・北竈……………52	第100図	A区7～12号土坑……………93
第49図	B区11号住居出土遺物(1)……………53	第101図	A区13～18号土坑……………94
第50図	B区11号住居出土遺物(2)……………54	第102図	A区19～26号土坑……………95
第51図	B区12号住居、出土遺物……………55	第103図	A区27～32号土坑、27・32号土坑出土遺物……………96
第52図	B区13号住居……………56	第104図	A区33～42号土坑、37号土坑出土遺物……………97
第53図	B区14号住居・炉……………57	第105図	A区43～53号土坑、53号土坑出土遺物……………98
第54図	B区1号竪穴状遺構、出土遺物……………58	第106図	A区55～61号土坑、56・60・61号土坑出土遺物……………99
第55図	B区2号竪穴状遺構……………58	第107図	A区62～66号土坑、62・65・66号土坑出土遺物……………100
第56図	C区竪穴住居全体図……………59	第108図	A区65号土坑出土遺物(2)……………101
第57図	C区1号住居出土遺物(1)……………59	第109図	A区67～71号土坑、65・67～69・71号土坑出土遺物……………102
第58図	C区1号住居、出土遺物(2)……………60		

第110図	A区72～74号土坑、72号土坑出土遺物	103
第111図	A区73号土坑出土遺物	104
第112図	A区75号土坑、73～75号土坑出土遺物	105
第113図	A区76・77号土坑、出土遺物	106
第114図	A区78・79号土坑、出土遺物	107
第115図	A区79号土坑出土遺物	108
第116図	A区80号土坑、出土遺物	109
第117図	A区81号土坑・3号ピット、80号土坑・3号ピット 出土遺物	110
第118図	B区井戸・土坑全体図	111
第119図	B区1号井戸、出土遺物	111
第120図	B区2号井戸、出土遺物	112
第121図	B区1～9号土坑、2・3号土坑出土遺物	113
第122図	B区10・14・15・20号土坑、出土遺物	114
第123図	B区19・21～23・25・26・29号土坑	115
第124図	B区30～32・34～37号土坑、出土遺物	116
第125図	B区38～40・42・43号土坑・169号ピット、出土遺物	117
第126図	C区井戸・土坑全体図	118
第127図	C区1号井戸、出土遺物(1)	118
第128図	C区1号井戸出土遺物(2)	119
第129図	C区1・2号土坑	119
第130図	C区2号土坑出土遺物(1)	120
第131図	C区3～5号土坑、2・3号土坑出土遺物	121
第132図	C区6～10号土坑、10号土坑出土遺物	122
第133図	C区11～15号土坑、出土遺物	123
第134図	C区16・18・19・21・22号土坑、出土遺物	124
第135図	C区23～31号土坑	125
第136図	C区32・33号土坑、29・34・78号ピット・出土遺物	126
第137図	D区土坑全体図	127
第138図	D区1～4号土坑、4号土坑出土遺物	127
第139図	D区5・6号土坑、4・5号土坑出土遺物	128
第140図	D区7～10号土坑、10号土坑出土遺物	129
第141図	D区6・12・22・30号ピット、出土遺物	130
第142図	E区土坑・ピット全体図	131
第143図	E区1号土坑、出土遺物	131
第144図	F区井戸・土坑・ピット全体図	131
第145図	F区1号井戸出土遺物	131
第146図	F区1号井戸、1～3号土坑、5号ピット・出土遺物	132
第147図	A区溝全体図	140
第148図	A区1号溝出土遺物(1)	140
第149図	A区1号溝、出土遺物(2)	141
第150図	A区2号溝、出土遺物	142
第151図	A区3号溝	143
第152図	A区4・7・8・9・10号溝	144
第153図	A区4号溝出土遺物(1)	145
第154図	A区4号溝出土遺物(2)	146
第155図	A区5号溝、出土遺物	147
第156図	A区6・26、11号溝	148
第157図	A区12・13号溝、12号溝出土遺物	149
第158図	A区14号溝、出土遺物	150
第159図	A区15号溝、出土遺物	151
第160図	A区16～18号溝	152
第161図	A区19号溝、出土遺物	153
第162図	A区20・21号溝、20号溝出土遺物	154
第163図	A区22号溝、23号溝	155
第164図	A区25号溝、出土遺物	156
第165図	B区溝全体図	157
第166図	B区1・2・10号溝、2号溝出土遺物	158
第167図	B区3～8号溝、3号溝出土遺物	160
第168図	B区4・5・7・8号溝出土遺物	161
第169図	B区9・22、11、12・23号溝、11号溝出土遺物	162
第170図	B区13号溝	163
第171図	B区14A～E号溝	165
第172図	B区14号溝出土遺物	166
第173図	B区15～17号溝	166
第174図	B区15号溝出土遺物	167
第175図	B区19号溝、出土遺物	167
第176図	B区21号溝	168
第177図	B区21号溝出土遺物	169
第178図	B区24号溝、出土遺物	169
第179図	C区溝全体図	170
第180図	C区1・2号溝出土遺物	170
第181図	C区1・2号溝	171
第182図	C区3～6号溝	173
第183図	C区3～7・9号溝出土遺物	174
第184図	C区7～9号溝	175
第185図	D区溝全体図	176
第186図	D区1号溝出土遺物	176
第187図	D区1・2号溝、出土遺物	177
第188図	D区3号溝	178
第189図	D区4・5・7号溝、4・5号溝出土遺物	179
第190図	D区6号溝、出土遺物	180
第191図	D区8・9号溝、8号溝出土遺物	181
第192図	D区10～12号溝、12号溝出土遺物	183
第193図	D区13A・B号溝、出土遺物	184
第194図	D区14・15号溝	185
第195図	E区溝・水田跡全体図	185
第196図	E区1・2号溝、2号溝出土遺物	186
第197図	E区3号溝出土遺物	187
第198図	E区水田跡、3AB・15号溝	188
第199図	E区4・6・7号溝出土遺物	189
第200図	E区4～7号溝	190
第201図	E区4～6号溝	191
第202図	E区8～10号溝、8・10号溝出土遺物	192
第203図	E区11～14号溝、11号溝出土遺物	193
第204図	F区溝全体図	194
第205図	F区1号溝、出土遺物	194
第206図	F区2～6号溝、4号溝出土遺物	195
第207図	F区2～6号溝	196
第208図	縄文時代出土遺物(1)	197
第209図	縄文時代出土遺物(2)	198
第210図	古代出土遺物(1)	198
第211図	古代出土遺物(2)	199
第212図	古代出土遺物(3)	200
第213図	中世以降出土遺物(1)	200
第214図	中世以降出土遺物(2)	201
第215図	中世以降出土遺物(3)	202
第216図	中世以降出土遺物(4)	203
第217図	中世以降出土遺物(5)	204
第218図	中世以降出土遺物(6)	205

八反田遺跡

第219図	八反田遺跡井戸・土坑・ピット全体図	207	第236図	22・28・30A・B・31・33号溝	229
第220図	1号井戸、出土遺物	208	第237図	33号溝	230
第221図	2・3号井戸	209	第238図	25号溝	230
第222図	4・5号井戸、2号土坑	210	第239図	27・32号溝	232
第223図	3～5号土坑、2号土坑出土遺物	211	第240図	29・34号溝、29号溝出土遺物	233
第224図	9・11号土坑	212	第241図	26号溝(1)	234
第225図	八反田遺跡溝全体図	215	第242図	26号溝(2)、出土遺物	235
第226図	1・2号溝、2号溝出土遺物	216	第243図	35・40・41号溝	237
第227図	3号溝	217	第244図	35・41号溝出土遺物	238
第228図	4・5号溝	218	第245図	36～39号溝	239
第229図	6号溝、出土遺物	219	第246図	42・46号溝	240
第230図	7・17号溝	220	第247図	43～45・47・48号溝	241
第231図	8・14号溝	221	第248図	遺構外出土遺物	242
第232図	9・12・13号溝、13号溝出土遺物	224	第249図	関東地方(群馬県内)出土の把手付塊	246
第233図	15・16号溝、出土遺物	225	第250図	県内出土の把手付塊と相伴土師器	248
第234図	18・23号溝	226	第251図	群馬県内出土の手焙り形土器	250
第235図	19～21・24号溝、20号溝出土遺物	227			

付 図

付図1 高林三入遺跡全体図(1:500)

付図2 八反田遺跡全体図(1:500)

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	14	第21表	A区土坑計測表	133
第2表	A区ブロック別器種構成(%)	19	第22表	B区土坑計測表	134
第3表	A区ブロック別石材構成(%)	19	第23表	C区土坑計測表	135
第4表	A区礫群の石材構成(%)	19	第24表	D区土坑計測表	135
第5表	B区ブロック別石材構成(%)	28	第25表	E区土坑計測表	136
第6表	B区ブロック別器種構成(%)	29	第26表	F区土坑計測表	136
第7表	B区1号掘立柱建物柱穴計測表	77	第27表	A区ピット計測表	136
第8表	B区2号掘立柱建物柱穴計測表	76	第28表	B区ピット計測表	136
第9表	B区3号掘立柱建物柱穴計測表	78	第29表	C区ピット計測表	137
第10表	B区4号掘立柱建物柱穴計測表	79	第30表	D区ピット計測表	138
第11表	B区5号掘立柱建物柱穴計測表	80	第31表	E区ピット計測表	139
第12表	C区1号掘立柱建物柱穴計測表	82	第32表	F区ピット計測表	139
第13表	C区2号掘立柱建物柱穴計測表	83	第33表	八反田遺跡ピット計測表	212
第14表	C区3号掘立柱建物柱穴計測表	84	第34表	高林三入遺跡遺構数	244
第15表	C区4号掘立柱建物柱穴計測表	85	第35表	群馬県内出土須恵器把手付塊	247
第16表	C区5号掘立柱建物柱穴計測表	87	第36表	群馬県内出土須恵器把手付塊観察表	247
第17表	C区6号掘立柱建物柱穴計測表	87	第37表	群馬県内出土手焙り形土器	249
第18表	C区7号掘立柱建物柱穴計測表	88	第38表	群馬県内出土手焙り形土器観察表	249
第19表	C区8号掘立柱建物柱穴計測表	88		高林三入遺跡遺物観察表	289
第20表	F区1号掘立柱建物柱穴計測表	89		八反田遺跡遺物観察表	326

写真図版目次

高林三入遺跡

- PL1 高林三入・八反田遺跡全景（西上空から）
高林三入・八反田遺跡全景（南上空から）
- PL2 A区全景（南上空から）
A-1①区全景（南から）
A-2区全景（南上空から）
A-1②区全景（西から）
A-3区全景（西上空から）
- PL3 B-1区全景（南上空から）
B-2区全景（南上空から）
B-3区全景（西から）
B-4区全景（西から）
- PL4 C-1区全景（東から）
C-2区全景（東から）
C-3区全景（東から）
C-3区東側（南上空から）
C-4区全景（東から）
- PL5 D-1区全景（東から）
D-3区全景（東から）
D-4区全景（東から）
E-1区全景（西から）
- PL6 E-2区全景（西から）
E-3・4区全景（西から）
F-3区全景（東から）
F-4区全景（西から）
- PL7 A-1①区Bトレンチ全景（南から）
A-1①区石器出土状況（北から）
A-2①区Hトレンチ全景（南から）
A-2①区石器出土状況（南から）
A-1②区Hトレンチ全景（西から）
- PL8 A-1②区VI層石器出土状況（南から）
A-1②区VI層礫群出土状況（南から）
A-1②区VII層石器出土状況（南から）
A-1②区VII層石器出土状況（西から）
B-4区Aトレンチ全景（西から）
- PL9 B-4区1号ブロック石器出土状況（西から）
B-4区ナイフ形石器出土状況
B-4区石核出土状況（西から）
B-4区Aトレンチセクション（南から）
C-4区Bトレンチ全景（北から）
C-4区石器（石刃）出土状況（北から）
D-3区Aトレンチ全景（東から）
D-3区石器出土状況（東から）
- PL10 A区1号住居全景（西から）
A区1号住居竈セクション（北から）
A区1号住居遺物出土状況（西から）
A区2号住居全景（西上空から）
A区2号住居セクション（西から）
- PL11 A区3号住居掘り方全景（西から）
B区1号住居掘り方全景（南から）
- PL12 B区2号住居掘り方全景（南から）
B区2号住居遺物出土状況（南から）
B区3号住居掘り方全景（西から）
B区3号住居貯蔵穴遺物出土状況（南から）
B区4号住居掘り方全景（西から）
B区4号住居遺物出土状況（南から）
B区5号住居遺物出土状況（北から）
B区6号住居掘り方全景（北から）
- PL13 B区7号住居全景（北西から）
B区7号住居掘り方全景（北西から）
B区7号住居炉遺物出土状況（北から）
B区10号住居炉全景（東から）
B区10号住居掘り方全景（北から）
- PL14 B区10号住居貯蔵穴上層遺物出土状況（南から）
B区10号住居貯蔵穴下層遺物出土状況（南から）
B区11号住居遺物出土状況全景（東から）
B区11号住居全景（南から）
B区11号住居掘り方全景（南から）
- PL15 B区11号住居南竈セクション（東から）
B区11号住居北竈全景（南から）
B区12号住居掘り方全景（西から）
B区12号住居貯蔵穴遺物出土状況（東から）
B区13号住居掘り方全景（南から）
B区13号住居P3セクション（北から）
B区14号住居掘り方全景（西から）
B区14号住居炉検出状況（東から）
- PL16 C区1号住居全景（南東から）
C区1号住居掘り方全景（南東から）
C区1号住居炉全景（北から）
C区2号住居全景（南から）
C区2号住居貯蔵穴セクション（西から）
- PL17 C区3号住居掘り方全景（北から）
C区3号住居貯蔵穴セクション（南から）
C区3号住居貯蔵穴遺物出土状況（北から）
C区4号住居炉全景（北から）
C区4号住居貯蔵穴全景（南から）
- PL18 C区4号住居掘り方全景（東から）
C区5号住居掘り方全景（北から）
C区5号住居炉セクション（南から）
C区6号住居調査風景（北から）
C区6号住居掘り方全景（東から）
- PL19 C区6号住居全景（北から）
C区7号住居遺物出土状況全景（西から）
- PL20 C区7号住居把手付塊出土状況（東から）
C区7号住居把手付塊出土状況（北から）
C区7号住居掘り方全景（東から）
C区7号住居貯蔵穴遺物出土状況（西から）
C区7号住居遺物出土状況（北から）
- PL21 C区8号住居全景（西から）
C区8号住居炉全景（南から）
C区8号住居掘り方全景（西から）
C区9号住居全景（東から）
C区9号住居焼土塊セクション（南から）
- PL22 B区1号竪穴状遺構全景（西から）
B区2号竪穴状遺構全景（北から）
A区1号方形周溝墓全景（南東から）
A区東周溝遺物出土状況（南から）
A区東周溝内壺出土状況（南から）
- PL23 B区1号掘立柱建物全景（東から）
B区2号掘立柱建物全景（西から）
- PL24 B区4号掘立柱建物全景（西から）
B区5号掘立柱建物全景（西から）
- PL25 C区1号掘立柱建物全景（南から）

- C区2・8号掘立柱建物概念図
C区2・8号掘立柱建物全景（南から）
C区2号掘P5セクション（南から）
C区2号掘P5全景（南から）
- P L 26 C区6号掘立柱建物全景（北から）
C区4・6号掘立柱建物概念図
C区4・6号掘立柱建物全景（北から）
C区4号掘P1セクション（南から）
C区4号掘P1全景（南から）
- P L 27 C区5号掘立柱建物全景（東から）
C区5号掘P1全景（南から）
C区5号掘P2全景（南から）
C区7号掘立柱建物全景（東から）
F区1号掘立柱建物全景（南から）
- P L 28 A区1号井戸セクション（北から）
B区1号井戸・10号土坑全景（西から）
B区2号井戸全景（南東から）
B区2号井戸遺物出土状況（南から）
C区1号井戸全景（南から）
F区1号井戸セクション（南から）
A区1号土坑遺物出土状況（南から）
A区3号土坑全景（南から）
- P L 29 A区27号土坑全景（東から）
A区31・32号土坑全景（北から）
A区37号土坑全景（西から）
A区53号土坑全景（東から）
A区56号土坑遺物出土状況（北から）
A区60・61号土坑全景（北東から）
A区62号土坑遺物出土状況（北から）
A区65号土坑セクション（南から）
- P L 30 A区66号土坑セクション（西から）
A区67・68号土坑全景（北から）
A区69号土坑全景（南から）
A区71号土坑全景（北から）
A区73・74号土坑全景（西から）
A区75号土坑セクション（東から）
A区76号土坑全景（南から）
A区77号土坑全景（南から）
- P L 31 A区78号土坑馬骨出土状況（南から）
A区79号土坑全景（西から）
A区80号土坑全景（南から）
B区2号土坑全景（南から）
B区6号土坑全景（北から）
B区14号土坑全景（東から）
B区20号土坑遺物出土状況（西から）
B区30号土坑セクション（南から）
- P L 32 B区32号土坑全景（南から）
B区34号土坑遺物出土状況（南から）
B区39号土坑遺物出土状況（北から）
B区40号土坑全景（北から）
C区2号土坑遺物出土状況（西から）
C区3号土坑全景（南から）
C区6号土坑全景（南から）
C区10号土坑全景（南から）
- P L 33 C区11号土坑遺物出土状況（南から）
C区12号土坑全景（東から）
C区14・15号土坑全景（東から）
C区18号土坑セクション（東から）
C区22号土坑全景（西から）
D区4号土坑セクション（東から）
D区5号土坑全景（南から）
D区10号土坑遺物出土状況（東から）
- P L 34 E区1号土坑遺物出土状況（西から）
A区3号ピット全景（南から）
C区29号ピット遺物出土状況（東から）
C区34号ピット遺物出土状況（北から）
D区6号ピットセクション（東から）
D区12号ピット遺物出土状況（南から）
D区22号ピット遺物出土状況（南から）
F区5号ピット遺物出土状況（南から）
- P L 35 A区1A～E号溝全景（北から）
A区2号溝全景（北から）
A区5号溝全景（西から）
A-3区溝群（4号溝等）全景（東から）
A区23・25・26号溝全景（南上空から）
A区14号溝全景（北東から）
A区15号溝全景（南東から）
A区19号溝全景（北西から）
A区20号溝全景（北から）
- P L 36 B区2・10号溝全景（南東から）
B区3～8号溝全景（北西から）
B区11号溝全景（西から）
B区15号溝全景（南から）
B区14A～E号溝全景（南西から）
B区19号溝全景（東から）
B区21号溝全景（北西から）
B区24号溝全景（南から）
- P L 37 C-4区1・2号溝全景（南から）
C区8号溝全景（北西から）
C区7号溝全景（北西から）
C区3～6号溝全景（東から）
C区9号溝全景（南東から）
D区1・2号溝全景（北西から）
D区1号溝遺物出土状況（北から）
- P L 38 D区4・5号溝全景（東から）
D区6号溝全景（西から）
D区8号溝全景（西から）
D区13号溝全景（西から）
E区1～3・15号溝全景（南から）
E区4～6号溝全景（西から）
E-1区7号溝全景（北から）
E-3区7号溝全景（南から）
- P L 39 E区11～14号溝全景（東から）
E区8～10号溝全景（南東から）
F区1号溝全景（南から）
F区2A・B号溝全景（南から）
F区3・4号溝全景（北東から）
G区トレンチ全景（東から）
H区トレンチ調査状況（東から）
I区南側トレンチ全景（東から）
I区北側トレンチ全景（東から）
- P L 40 A-1①区出土石器
A-2区出土石器
A-1②区出土石器
- P L 41 A-1②区接合資料
B-4区出土石器
- P L 42 B-4区接合資料
C-4区出土石器
D-3区出土石器
- P L 43 A区1～3号住居出土遺物
A区1号周溝墓出土遺物
B区2～5号住居出土遺物
- P L 44 B区5～11号住居出土遺物
- P L 45 B区11・12号住居出土遺物

- B区1号竪穴状遺構出土遺物
C区1～4号住居出土遺物
P L 46 C区5～7号住居出土遺物
P L 47 C区8・9号住居出土遺物
B区2・3・5号掘立柱建物出土遺物
C区4・5・7号掘立柱建物出土遺物
A区1号井戸出土遺物
A区1・3・37号土坑出土遺物
P L 48 A区27・32・53・56・60～62・65～69・71・72号土坑出土遺物
P L 49 A区72～79号土坑出土遺物
P L 50 A区79・80号土坑出土遺物
A区3号ピット出土遺物
B区1・2号井戸出土遺物
B区2・6・10・14・20号土坑出土遺物
P L 51 B区30・32・34・39・40号土坑出土遺物
B区169号ピット出土遺物
C区1号井戸出土遺物
C区2号土坑出土遺物
P L 52 C区2・3・6・10～12・14・15・18号土坑出土遺物
C区29・34・78号ピット出土遺物
D区4・5・10号土坑出土遺物
D区6・12・22・30号ピット出土遺物
P L 53 E区1号土坑出土遺物
F区1号井戸出土遺物
F区5号ピット出土遺物
A区1・2・4号溝出土遺物
P L 54 A区4・5・12・14・15・19・20・25号溝出土遺物
B区2～5・7・8・11・14・15・19・21号溝出土遺物
P L 55 B区14・21・24号溝出土遺物
C区1～7・9号溝出土遺物
D区1・2・4～6号溝出土遺物
P L 56 D区8・12・13号溝出土遺物
E区2～4・6～8・10・11号溝出土遺物
F区1・4号溝出土遺物
遺構外(縄文)出土遺物
P L 57 遺構外(縄文、古代)出土遺物
P L 58 遺構外(中世以降)出土遺物
P L 59 遺構外(中世以降)出土遺物
P L 60 遺構外(中世以降)出土遺物

八反田遺跡

- P L 61 高林三入遺跡を望む(東から)
調査区北の風景(南から)
P L 62 I区全景(東から)
II区全景(北から)
III区上面東側全景(北から)
III区上面西側全景(北から)
III・IV区下面全景(東から)
IV区上面全景(東から)
IV区下面全景(北から)
V区全景(南から)
P L 63 1号井戸全景(北から)
1号井戸礫出土状況(北から)
2号井戸全景(北から)
3号井戸全景(北から)
4号井戸全景(北から)
5号井戸全景(北から)
2号土坑全景(北から)
3号土坑全景(北から)
P L 64 4号土坑全景(北から)
5号土坑全景(北東から)
9号土坑全景(北から)
11号土坑全景(北から)
1号溝全景(南から)
2号溝全景(南から)
3号溝全景(北から)
4号溝全景(東から)
P L 65 5号溝全景(南から)
6号溝と現市道全景(南から)
6号溝セクション(北から)
6号溝遺物出土状況(北から)
6・17・7号溝全景(北から)
8・14号溝全景(北から)
P L 66 9号溝全景(南から)
12号溝全景(東から)
13号溝全景(東から)
15・16号溝全景(西から)
18号溝全景(東から)
19・20・21号溝全景(東から)
23・24号溝全景(北から)
25号溝全景(西から)
P L 67 25・26号溝セクション(北から)
29号溝全景(東から)
30号溝全景(北から)
31・32号溝全景(北から)
33号溝全景(南から)
34号溝全景(南から)
47号溝全景(西から)
48号溝全景(北から)
P L 68 26号溝全景(東から)
26号溝調査風景(東から)
35・41号溝全景(北から)
36・37・38・39号溝全景(北から)
40号溝全景(東から)
42号溝全景(北から)
43・44・45号溝全景(東から)
46号溝全景(東から)
P L 69 1号井戸出土遺物
2号土坑出土遺物
2・6・13・15・16・20・26・29・35・41号溝出土遺物
遺構外出土遺物
P L 70 1号井戸出土遺物

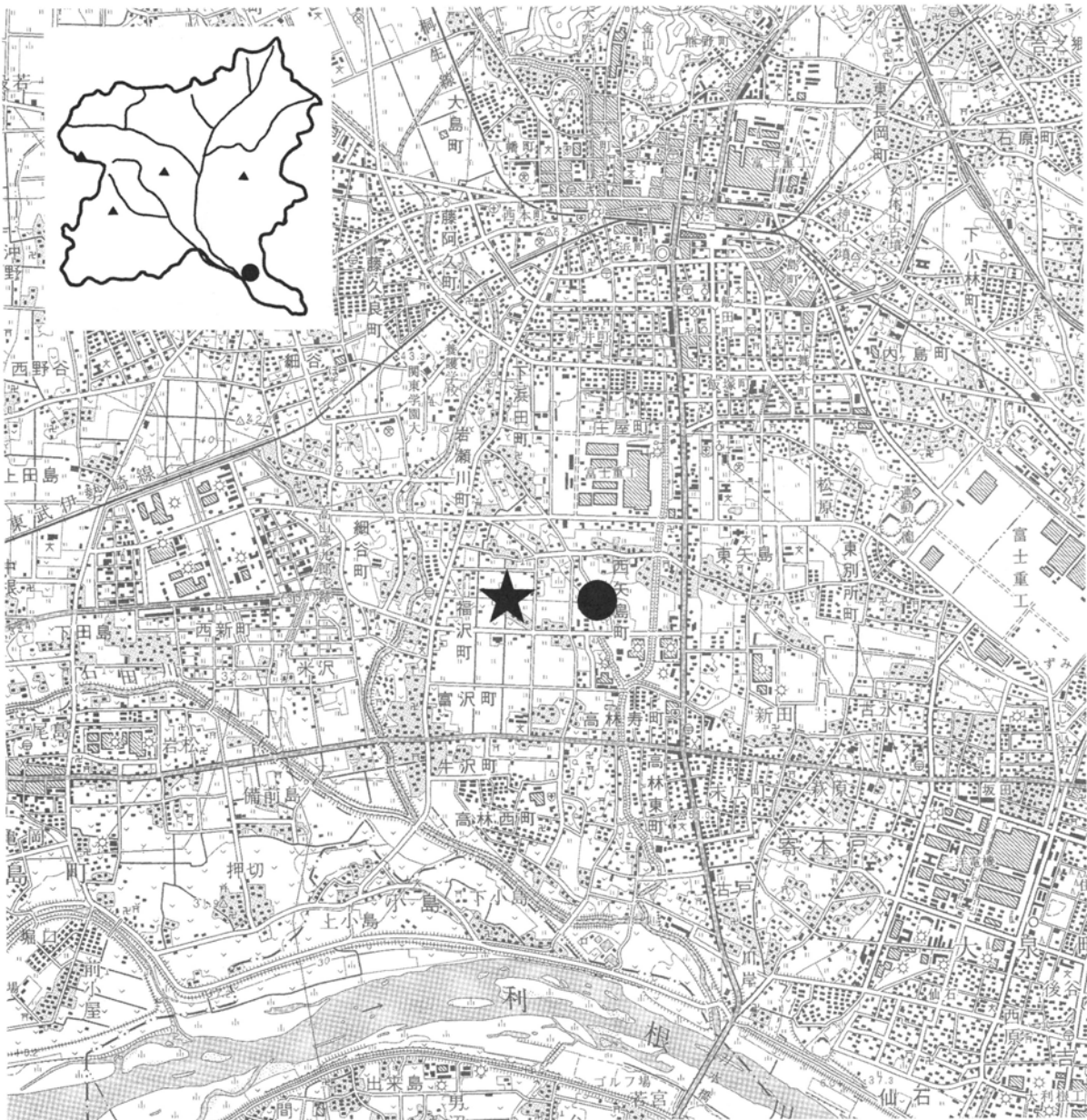
第1章 発掘調査の経過と方法

第1節 調査に至る経緯

太田市街地の渋滞緩和のために、国道354太田バイパス道路から繋がる、太田市都市計画道路3・3・2号東毛幹線道路改良事業（H11の事業名は東毛幹線街路事業）が群馬県土木部で計画された。この工事に先立ち道路建設地内の埋蔵文化財について、県土木部より県教育委員会文化財保護課（現、文化課）に問い合わせがあり、平成11年1月27日～29日（高林三入遺跡地内）、平成14年1月7日～8日

（八反田遺跡地内）の2回の試掘調査を実施し、遺跡が確認された。これを受け、高林三入遺跡は、第1次調査（平成11年度）、第2次調査（平成15年度）、第3次調査（平成16年度）の3度の調査を、八反田遺跡は第1次調査（平成14年度）、第2次調査（平成16年度）の2度の調査を断続的に実施し、両遺跡とも平成16年度をもって、全ての発掘調査を終了した。

（第1図 ★高林三入遺跡、●八反田遺跡）



第1図 高林三入・八反田遺跡位置図（国土地理院地形図1:50,000「深谷」使用）

第2節 調査の経過

1 高林三入遺跡

【平成11年度の調査】

調査初年度となる平成11年度は、県道太田小島線から岩瀬川までの間、延長約1kmを対象とし、そのうち未買収地や、その他の理由で除外した場所以外の地域で行った。

この周辺は道路幅が非常に狭いので、事務所用地、駐車場用地が限定されることになり、その選定・造成・建設に手間取った。そのため年度開始当初はそれら準備作業にあたり、重機による表土除去が開始できたのは4月26日であった。

調査対象地は格子状に設けられた道路・用排水路によって、1区画約700㎡に細かく分割されているので、作業員を効率的に配置するためには常時2～3地区を同時に調査する必要があった。しかも、用排水路はかなり脆弱な構造であり、それを重機が頻繁に越えることはできないので、排土置き場は道路を挟んで東あるいは西に接する区画を選定せざるをえず、そのため、同時に調査する区画は分散することになった。さらに周辺の道路幅が狭いため、大型の重機を搬入することができず、表土除去作業には通常よりも時間を要した。

調査は多くの遺構が予想され、さらに夏場の湧水の影響が少ない西側微高地上から開始した。まずD-1区、C-4区、D-4区の順で調査に入り、この3区画を平行して調査した。このうちC-4区は調査前に表土が削平されており、ハードローム上面が露出する状態であったため、直ぐに遺構確認に入った。5月13日にはD-1区が終了、同日からC-2区の調査を開始した。5月31日にはやはり表土が持ち去られたC-3区の調査に入った。以後、大体2地区を平行して調査することとし、6月1日D-3区開始、6月3日D-4区終了、6月7日C-4区終了、6月16日A-4区開始、6月28日C-3区終了、6月29日C-2区終了と、当初予定よりも速いペースで調査は進化した。これは、周辺

の地形から考えて最も多くの遺構が予想されたC-3・4区の表土が持ち去られ、ローム上面まで破壊されてしまっていたことが大きな要因となっている。その後、7月27日B-4区開始、7月29日D-3区終了、8月23日A-4区終了、同日B-3区開始と進んだ。

9月に入った時点で湧水量が減少したため、東側の低地部分の調査にはいることになった。まず、試掘調査でB軽石下の水田の存在が推定された、I-1区の調査を9月29日に開始した。ここでは東半部が大きく落ち込み、その底部にB軽石が堆積していたが、畔などは全くなく、水田の可能性はかなり低いものと思われた。そのためプラントオパール分析を行なったところ、イネのプラントオパールは見られず、水田ではないことが確定した。さらに、低地部に広く存在し水田耕作土と推定されていた黒色土が、年代上の問題から水田耕作土ではないことが確定し、低地部には遺構が存在しない可能性が高まった。そのため試掘調査を11月4日から12月7日にかけて、H・I区で行い、低地部には遺構がないことを確認した。

そのため10月以降も調査の中心はF区以西の微高地上となり、10月13日E-2区開始、10月19日E-4区開始、10月25日B-3区終了、11月11日E-2区終了、同日E-1区開始、11月18日B-4区終了、12月10日E-1区終了、12月15日C-1区開始と進めた。C-1区は今回の調査の中で最も遺構が濃密であり、12月21日E-4区が終了したあとはこの1地区のみに専念し、その後1月18日にF-3区を開始して2地区平行調査に戻した。2月10日F-3区終了、2月16日～3月7日F-4区調査、そして3月10日にC-1区を終了した。これで平成11年度の野外調査は終了し、その後整理作業を行なったのち、事務所を撤去し、全作業を終了した。

【平成15年度の調査】

平成15年度は、A-2区、A-3区、B-1区、B-2区、C-3区東を調査した。当初は、A-1区も調査範囲になっていたが、県教委文化課と太田土木事務所（以下、太田土木）の調整の結果、A-1区東側の福沢町集会所と公園の遊具を撤去後に、次年度（平成16年度）に調査することになった。また、太田土木から、調査工程・優先箇所の指示があり、B、C区を先行して12月末までに調査することになった。調査は、平成15年11月4日より調査区の東側（C-3区東）から開始し、平成16年2月13日まで実施した。調査区は、調査開始以前には宅地や畑などに利用されていたため、大小の攪乱が多数検出され、遺構の残存状況はあまり良好ではなかった。以下、調査日誌より、調査経過の概略を記す。

平成15年11月4日、重機によりC-3区東の表土除去をした。5日、B-1区の表土及び攪乱部分の除去を開始した。その後、継続してB-2区、A-2区、A-3区の表土除去を実施した。特に、B-1区は中央部に非常に大きな攪乱が広がっていた。また、重機で表土掘削時に、水道管を切断してしまい、太田市水道局職員に修復して頂いたこともあった。7日、太田土木事務所職員が来跡する。10日より作業員を導入し、C-3区東の遺構確認・遺構調査を進めた。また、測量会社に委託し、方眼杭打ち・ベンチマークの設置をした。12日、B-2区の表土除去を開始し、13日に終了した。21日、(株)シン技術コンサルの現場代理人他10名が現場見学・研修のため来跡した。27日、太田土木から依頼された業者がA-2区東の竹藪伐採作業を実施した。B、C区の調査は順調に進み、12月10日に空中写真撮影・高所作業車からの全景写真撮影を実施した。11日から遺構平面図・全体図等の作成を業者に委託し、実施した。また、同日から19日までB、C区の旧石器の試掘調査を実施したが、石器は検出されなかった。B・C区は22日～25日に重機による埋め戻し作業を実施し、26日に太田土木

へ引き渡した。

平成16年は、1月7日より作業員を導入し、A-2区の遺構確認・遺構調査を進めた。1月中は、上州名物の強風（空っ風）や降雪のため、調査が滞ることもあったが、ほぼ予定通りに1月21日に空中写真撮影・高所作業車からの全景写真撮影を実施した。22日からA-3区（2面）の遺構調査とA区の旧石器の試掘調査を開始した。A区は2月2日～4日に重機による埋め戻し作業を実施した。また、2月第1週は、図面・写真類の整理等の残務処理、遺物・発掘器材・事務用品等の搬出等を実施した。第2週には事務所・電気・水道等の撤去を行った。下旬には太田土木へA区を引き渡し、平成15年度の調査の全てを完了した。

【平成16年度の調査】

平成16年度は、A-1区を調査した。平成15年度の調査予定地であった調査区西側から調査を行った。A-1①区4月9日から作業員を導入し、23日には高所作業車からの全景写真撮影を終了させた。翌日から旧石器の試掘調査を実施した結果、石器が出土した。そのため、6月4日まで旧石器の本調査を行った。

A-1区西側の調査が終了した後、A-1②区調査を開始した。初めに重機による表土除去を行い、8月2日から作業員を導入した。炎天下の中ではあったが作業は順調に進み、27日には高所作業車による写真撮影を実施した。30日から、旧石器の試掘調査を始めた。その結果、焼けた礫や石器の剥片などが多く出土したため、調査期間を延長して旧石器の本調査を行った。9月10日には、高所作業車による撮影を行った。そして、16・17日に重機による埋め戻しを行い、調査は終了した。

2 八反田遺跡

【平成14年度の調査】

平成14年度は、Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅳ区を調査した。調査区の東側から調査を行うことを基本としたが、駐車場用地であった場所のアスファルトの撤去が遅れていたため、Ⅱ区と設定した箇所の調査は、後半に行った。

7月17日より調査の準備に入ったが、調査区は、畑や雑木林となっており、雑木の撤去を太田土木の委託業者が行ってから、調査に入った。調査区は、畑や雑木林などのため、遺構の残存状況が悪いところもあった。

平成14年8月20日、重機によりⅠ区の表土除去をした。翌21日より作業員を導入して遺構確認・遺構調査を進めた。また、測量会社に委託して方眼杭打ち・ベンチマークの設置を行った。28・29日には、重機を使用してⅣ区の試掘を行った。30日からは重機を使用して、Ⅳ区の表土除去を開始した。9月2日、Ⅰ区の空中写真撮影、高所作業車からの全体撮影を行い、その後、Ⅳ区の遺構確認作業を行った。翌3日から測量業者に委託して、Ⅰ区の平面測量を行った。11日、Ⅰ区の作業を終了し、重機による表土除去作業、作業員による遺構確認・遺構調査はⅣ区と併せてⅢ区でも始まった。翌12日、測量会社に委託して、方眼杭打ち・ベンチマークの設置を行った。9月から10月は雨が多く、台風により遺跡が水没することもあったが、10月25日に

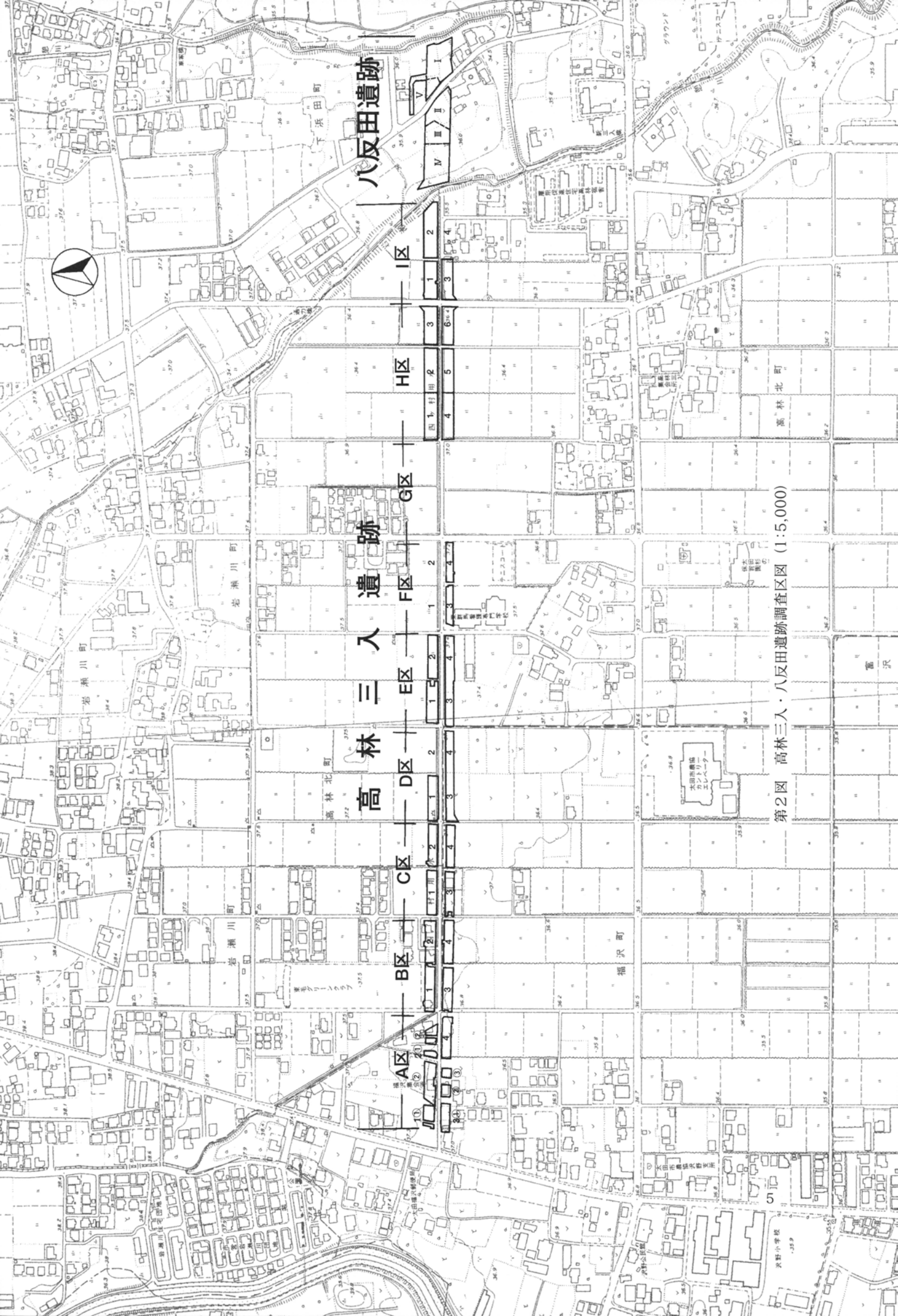
Ⅲ区・Ⅳ区の1面目の全体撮影を行い、28日より測量会社に委託して1面目の平面測量を行った。11月5日より、重機と作業員によりⅢ区・Ⅳ区の2面目の面出しを行い、11日にはⅡ区の表土掘削を重機によって行った。その後Ⅱ区とⅢ区・Ⅳ区の2面目の調査を行い、20日にこれらの全体撮影を行った。翌21日には測量会社に委託して平面測量を行い、22日からは現場やプレハブの撤収作業に入った。そして翌週の29日までにすべての調査とプレハブの撤去などの撤収作業を終了し、平成14年度の八反田遺跡の調査を終了した。

【平成16年度の調査】

平成16年度は、平成14年度に調査の行われなかった区域をⅤ区と設定し、調査を行った。調査は、高林三入遺跡A-1①の調査と同じ期間内に行われた。4月23日から重機による表土除去を行い、表土除去は28日に終了した。当初、4月下旬で終了する予定であった高林三入遺跡の調査が延長したため、八反田遺跡の調査は5月18日からとなった。調査では、平成14年度に確認した溝の続きを一条検出したのみとなった。27日には、高所作業車による写真撮影を行った。そして、31日から重機による埋め戻しを行い、6月2日に調査は終了した。



高林三入遺跡C区調査風景



八反田遺跡

高林 三入 遺跡

A区 — B区 — C区 — D区 — E区 — F区 — G区 — H区 — I区

第2図 高林三入・八反田遺跡調査区図 (1:5,000)

第3節 調査の方法

1 調査・整理方法

調査区の設定及び遺構番号の付け方（第2図参照）

高林三入遺跡の調査区は、県道小島・太田線から岩瀬川までで、総延長約1kmである。また、調査対象地内は、南北に走る現在の道路・水路によって細かく分けられているため、西から100ないし150mごとにA～I区に分割し、さらにその中を東西・南北に走る現在の道路・水路・畦畔で分け、複数区に細分して調査することにした。つまり、A区はA-1区・・・A-4区というように呼称した。遺構番号の付け方は、買収が終わったところから順次、調査を進めていく予定だったので、混乱を避けるため、調査区ごと、遺構ごとに通し番号を付した。つまり、A区1号住・1号土坑、B区1号住・B区1号土坑、C区1号住・C区1号土坑等・・・である。

八反田遺跡の調査区は、調査を行った順序でI～V区とローマ数字で付した。平成14年度はI～IV区を、平成16年度はV区を調査した。遺構番号の付け方は、遺構ごとに通し番号を付した。

グリッドの設定（第3図参照）

遺構・遺物の記録については、国家座標Ⅹ系を用いたグリッド設定を行い測量図化した。国家座標Ⅹ系の原点は北緯36° 00' 00"、東経135° 50' 00"（千葉県野田市）である。グリッド杭・水準点杭の測量は・打設は測量会社に委託した。両遺跡ともグリッドの呼称は、南東隅の方角杭番号で表した。

高林三入遺跡は、国家座標X=29,600、Y=-41,400のAA-Oを基準に西へ100mごとにA～K（100m×11=1,100m）、それぞれを5mごとにAA～AT（5m×20=100m）、北へ5mごとに1～40（5m×40=200m）とし調査区全域に5×5mグリッドを設定した。5m以内の地点では方眼杭の南東杭を基準に北、西方向への距離を+Om（mは省略）で表し位置を示した。

八反田遺跡は国家座標に基づいて、5×5mグリ

ッドを設定し、アルファベット等に読み替えることはせず、X値29、Y値41は省略し、X、Y軸の下3桁で呼称した。

調査手順

調査に際しては、表土部分及び攪乱部分については、重機による排土を行った。その後は、人力による精査及び小トレンチ調査を行い遺構確認、遺構調査を進めた。

実測方法

記録図面類は、住居跡1/20・竈1/10、井戸・土坑・ピットは1/20、溝は1/40を基準に作成した。平面図は、平板測量を主な手段としたが、竈・土坑は簡易やり方実測を施した。断面図は1/20を基準に竈は1/10で行い、水系レベルは標高で記すようにした。その他、全体図作成や一部の図面は業者委託した。

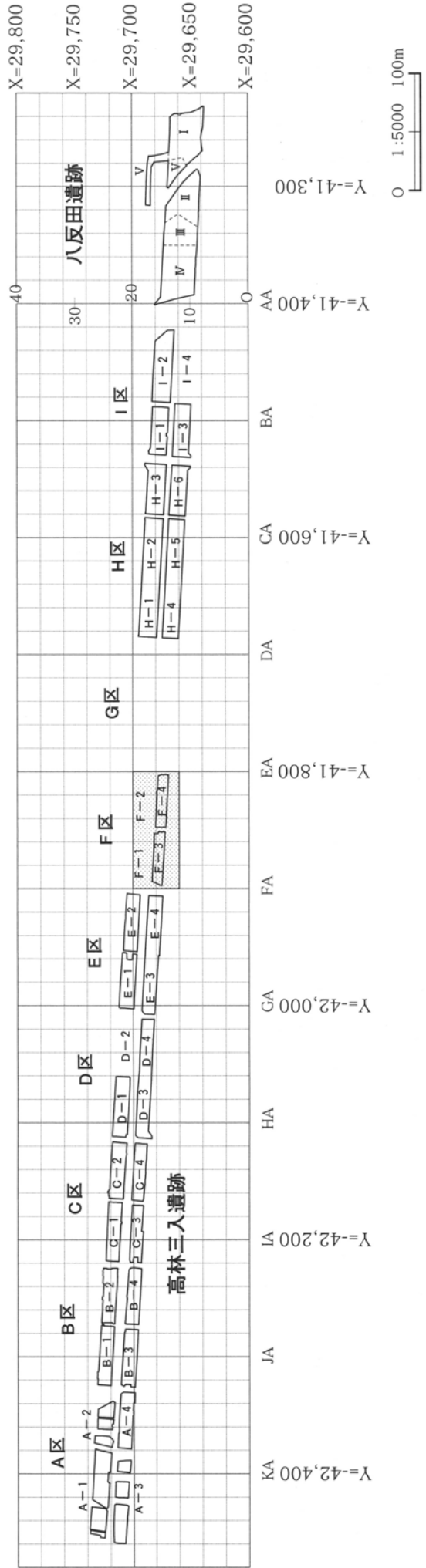
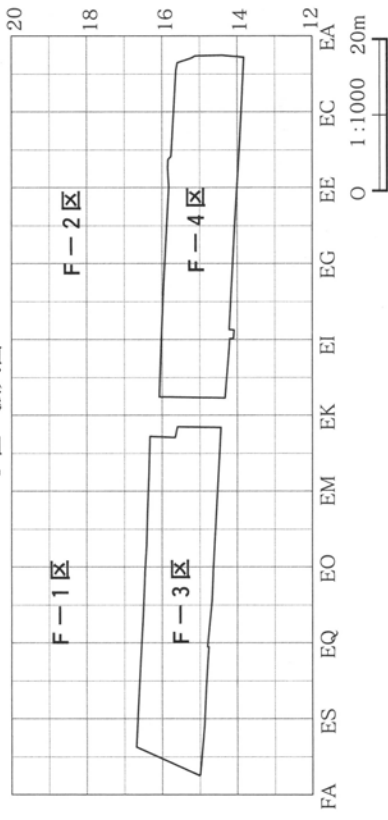
遺物取り上げ

出土遺物は、遺構を重視し遺構内で収束するように番号を付した。遺構外遺物については、グリッドごとに番号を付した。なお、微細片は出土遺構・出土グリッドを明記し取り上げた。

写真撮影

写真は、各遺構に対し担当職員により撮影した。遺構に対しては遺物出土状態、全景、土層断面等々撮影し、さらに特徴的な遺物出土状態、土層断面については接写を行った。全景写真の撮影は高所作業車を使用した。また、広域にわたる遺構等については業者委託によるラジコンヘリコプターによる撮影も行った。使用した主な機種は、カメラはブローニー版（120）一眼レフ6×7（ペンタックス）、ライカ版（135）一眼レフ35mm（キャノンEOS）。

F区 拡大図



第3図 高林三入・八反田遺跡グリッド設定図

第1章 発掘調査の経過と方法

フィルムは、モノクロはKodakTX120ISO400、KodakTX135-36ISO400及びリバーサルはKodachrome36ISO200である。

基本整理

調査途中より、出土遺物の洗浄・注記、図面・写真整理を行い、整理事業段階の省力化を図った。なお、平成15・16年度は、出土遺物の洗浄・注記は業者に委託し、実施した。

整理方法

実測図・写真・記述の三つの方法を用いて行う。視覚的な方法を主に記述で補足し、わかりやすく、簡潔で、正確な報告書を目指して作業を進めた。

2 基本土層

遺跡地は大間々扇状地の南に位置し、周辺は平坦な沖積地の中に、ごく低い台地が残る地形となっている。高林三入遺跡A～D区では、ローム層が比較的安定して堆積していたが、E区付近を境として東側が低地（八反田遺跡も含む）となっており、良好なローム層の堆積が見られなかった。そこで、高林三入遺跡A・B・C・D区では、旧石器の試掘調査を実施し、その結果石器が出土している。

高林三入遺跡・八反田遺跡は東西幅約1kmあり、地点により土層の堆積状況が異なるが、ここでは、両遺跡で見られる標準的な土層を模式図で紹介する。I層は、現表土・耕作土で暗褐色土である。II層は、As-AまたはAs-B軽石が含まれる暗灰褐色砂質土である。中・近世～近・現代と思われる溝等の遺構の覆土になっている。高林三入遺跡I区の低地部分ではAs-B軽石純層の堆積が確認された。III層は、白色軽石粒・灰白色軽石粒を含む黒褐色土である。白色軽石の中には角閃石が含まれるものがあり、Hr-FAに伴うパミスと考えられる。灰白色軽石は発砲がよく、As-C軽石と思われる。八反田遺跡では、III層の下層は、黒色又は灰色粘質土層が堆積してい

る。IV層は、ローム漸移層である。V層は、As-YPを含む黄褐色ローム層である。VI層は褐灰色砂質土である。VII層はAs-BP（ブロック）を含むにぶい黄褐色ローム層である。高林三入遺跡B区では自然科学（テフラ）分析の結果、V層とVI層の間に、As-OK1/OK2軽石、As-Sr軽石を含む明黄褐色ローム層が検出されている。VIII層は、ATを含む暗色帯上層で、IX層はATを含まない暗色帯下層である。Xは明黄褐色ロームで鉄分の凝集が見られ、高林三入遺跡B・C区ではリモナイト・バンドが看取された。XIは粘性の非常に強い黒色粘質土層、XIIは黄褐色ローム層で、C区ではAs-k軽石が確認されている。土層・テフラ等の詳細は、第6章自然科学分析第1～3節を参照されたい。

V	V	V	V	V
I 現表土・耕作土				
II As-A・As-B 混土				
III Hr-FA・As-C混土				
IV ローム漸移層				
V 黄褐色ローム (As-YP含む)				
VI 褐灰色砂質土				
VII にぶい黄褐色ローム (As-BP含む)				
VIII 暗色帯上層 (ATを含む)				
IX 暗色帯下層				
X 明黄褐色ローム				
XI 黒色粘質土				
XII 黄褐色ローム				

第4図 基本土層図

第2章 周辺の環境

第1節 遺跡の立地

高林三入遺跡・八反田遺跡は、群馬県太田市岩瀬川町・福沢町・高林北町・下浜田町に所在する。太田市は群馬県の南東部に位置し、北東は渡良瀬川を挟んで栃木県足利市と、南は利根川を挟んで埼玉県大里郡妻沼町と、南西は石田川を挟んで埼玉県大里郡妻沼町小島地区と県境を成している。利根川の変流が原因で飛び地となっている小島地区は、現在、太田市への合併問題が持ち上がっている。

遺跡地周辺の地形を概観すると、北は大間々扇状地の先端部、北東は八王子丘陵・金山丘陵、東は由良台地、西は木崎台地に囲まれた北西から南東に伸びる扇端低地となっている。つまり、遺跡地は大間々扇状地の南に位置し、周辺は平坦な沖積地の中に、ごく低い台地が残る地形となっている。また、高林三入遺跡C・D区付近を境として西側が低台地、東側（八反田遺跡も含む）が沖積地となっているが、E区からF区にかけても幅の狭い微高地が見られる。高林三入遺跡の西100mを蛇川が、高林三入遺跡と八反田遺跡の境を岩瀬川が、八反田遺跡のすぐ東を憩川がほぼ北から南へ流下し、石田川・利根川へ合流している。

地形的に見ると、市域の大半は平坦な地形を成し、北から茶臼山丘陵が張り出している。平坦部は、更新世の扇状地を含む洪積台地と沖積低地からなる地形で、標高は市域の北西から南東へと緩やかに傾斜している。高林三入遺跡の標高は約36~37m、八反田遺跡の標高は約36mである。周辺は、昭和40年代に進められた圃場整備により、方形に区画された水田と住宅地が広がり、所々に畑として残る微高地が点在している。

市街地から利根川の間南部地域には、新井・飯塚・矢島・高林の四列の洪積台地がほぼ東西方向に分布し、台地と台地の間は沖積低地となっている。台地は、厚さ2~3m弱の関東ローム層に覆われている。

本遺跡が位置する高林台地は、県立がんセンター東毛病院西方から大泉町へ続く台地である。南北の幅1.8km弱、標高は、古戸町で34m前後、東毛病院付近が36m余り、大泉町との境界が35m前後である。高林台地は、大泉町の北部で竜舞南部の飯塚台地と接するが、八重笠付近でも30~28m、大泉町の台地東端でも30mを示す。高林台地は、全体的には東から緩やかに傾斜し、北から南へ傾斜する大間々及び渡良瀬川扇状地に対して直行する分布状態を示している。台地と沖積低地との境は、北縁では1m程度ではっきりしないが、南縁では古戸町付近で比高3m前後の緩傾斜段丘崖、八瀬川との合流点以西の石田川左岸では比高2m程度の段丘崖をもって利根川沖積低地（標高30m）と接する。この台地を南北に横断する八瀬川は、幅20m前後、深さ4~5m程度の谷を切って石田川へ合流する。狭い谷の中には平野では珍しい河岸段丘が二段形成されている。

高林台地は、中部ローム層以上のテフラに覆われていると思われる。東毛病院付近のローム層を観察すると、上部ローム層に浅間板鼻黄色軽石（As-YP）・浅間板鼻褐色軽石群（As-BP）が確認され、As-BP直下に厚さ1~3cmの始良丹沢火山灰（AT）が存在する。その下の真っ黒な粘土は中部ローム層の最上位に位置するのが暗色帯で、これ以下の粘土化したローム（凝灰質粘土）が中部ローム層に相当すると思われる。中部ローム層には、上位から赤城鹿沼軽石（Ag-k）、間層を置いて八崎軽石層、さらに間層を置いて湯之口軽石層が堆積する。その下位が下部ローム層になる。

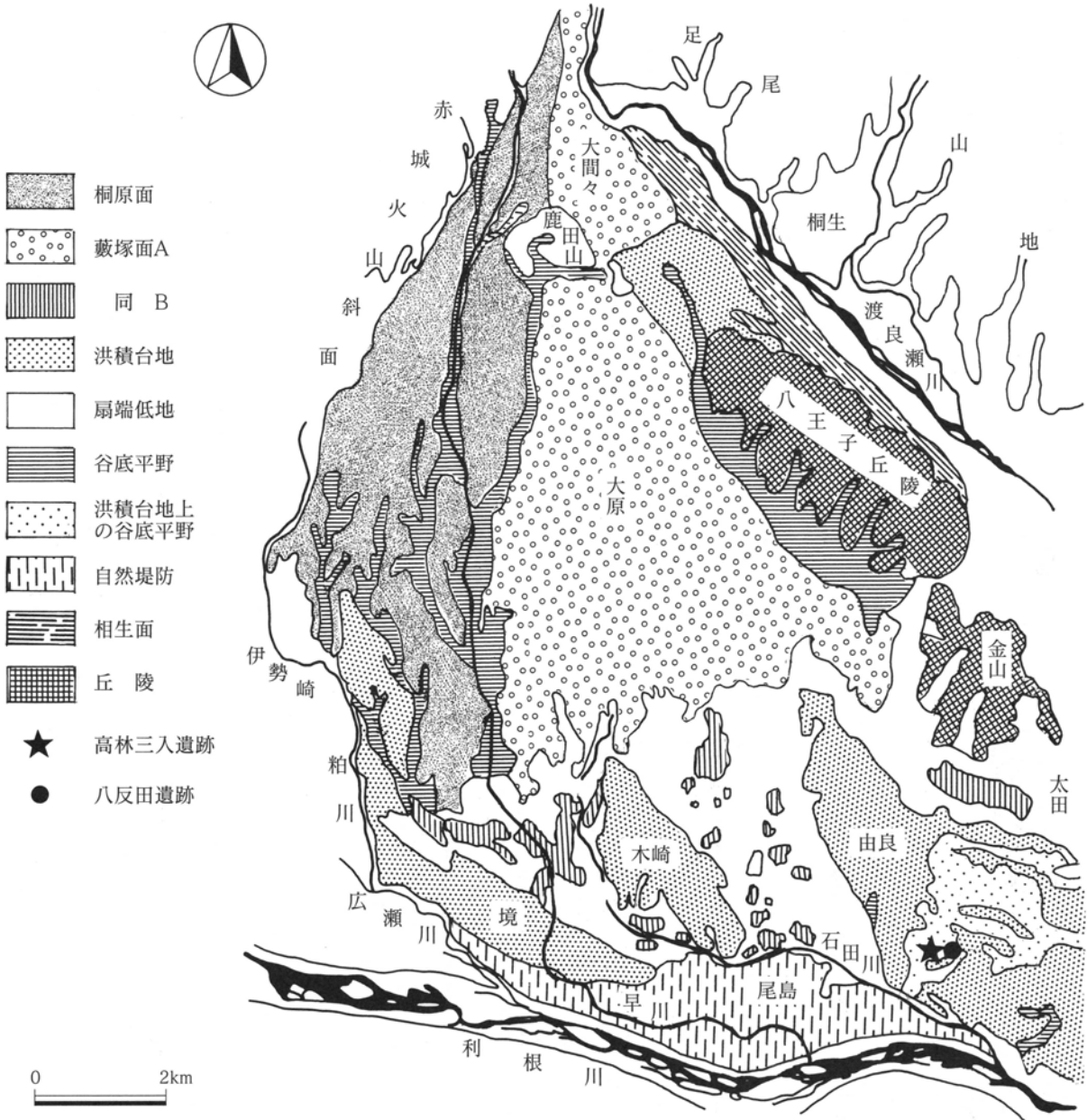
ほぼ東西に延びる洪積台地列の間は沖積低地で、水田地帯になっている。特に飯塚台地と矢島台地の間の矢島低地は、幅700m前後の広さがあり、その水田は条里制を呈する。また、高林台地と由良台地の間も広く、この水田地割りもかつては条里型地

第2章 周辺の環境

割りであった。台地間の沖積世低地では、薄い沖積層が粘土化した関東ローム層を覆っている。つまり、洪積台地の表面を、沖積層が薄くカバーしていると考えられる。おそらく、台地形成（台地構成層の堆積）時点でその表面には緩やかな起伏があり、相対的に高いところは現在の台地となり、低いところが沖積低地になっているものと推測される。

引用・参考文献

- 1996『太田市史』通史編・自然（太田市）
- 1996『太田市史』通史編・原始古代（太田市）
- 1987『新田町誌』第2巻資料編（下）（新田町誌刊行委員会）



第5図 高林三入・八反田遺跡周辺地形分類図

第2節 周辺の遺跡

今回の調査によって、検出された遺構の時期は、旧石器・縄文・古墳・奈良・平安時代から中近世にかけてである。調査区の出土遺物の中には縄文時代前期～後期・弥生時代後期の土器片も若干検出されている。ここでは本遺跡地周辺の歴史的環境を時代別に概観してみたい。

旧石器時代

旧石器時代では、八王子丘陵・金山丘陵周辺と市街地南部の沖積低地内に残るローム層低台地に遺跡が分布している。東別所遺跡（3）では、最終末期の槍先形尖頭器が出土している。未報告であるが、北関東道の事前調査の平成15年度に八ヶ入遺跡では細石刃石器・剥片が約1,600点出土して注目を集めている。遺跡地と同じ台地状に位置する、福沢新田遺跡（4）では黒曜石製の搔器、細谷合ノ谷遺跡（5）（ともに未報告）では黒曜石製のナイフ形石器が出土している。（両遺跡ともに未報告）

高林三入遺跡A区では、石器ブロック・礫群が検出され、B区では、石器ブロックが検出され、ナイフ形石器・石核・剥片が計200点以上出土している。八反田遺跡では旧石器時代の遺構・遺物は検出されていない。

縄文時代

縄文時代の遺跡では、草創期の爪形文土器が梁場遺跡（6）で出土している。早期では、撚糸文土器が梁場遺跡、古戸遺跡（7）や牛沢遺跡（8）で発見されている。梁場遺跡では中期後半の埋甕が確認されている。後期の遺跡としては、寄木戸遺跡（9）、細谷合ノ谷遺跡があげられる。細谷合ノ谷遺跡では後期中葉の竪穴住居・袋状土坑・埋甕などが確認されている。また上記矢太神沼は、後期の集落遺跡でもある。晩期では寄木戸遺跡で注口土器が出土している。

高林三入遺跡A区では、縄文時代後期初頭の土坑1基が検出されている。その他に遺構外から前期～

後期の土器片約100点、石鏃・石槍・削器などの石器が十数点出土している。八反田遺跡では縄文時代の遺構・遺物は検出されていない。

弥生時代

弥生時代の遺構は、本遺跡周辺では現在まで検出されていない。大泉町の仙石道祖遺跡で中期（須和田式）土器片が出土している。

両遺跡ともに弥生時代の遺構は検出されていないが、高林三入遺跡では後期の土器片が数点出土している。

古墳時代

前期の遺跡では、上野地域の古墳時代前期を代表する土器である石田川式土器の標識遺跡である石田川遺跡（10）がある。1952（昭和27）年の石田川河川改修工事に伴う土取り工事によって発見され、群馬大学の尾崎喜左雄・松島榮治等によって発掘調査が実施され、東海系の特徴を示す出土土器一式が石田川式土器と命名された。古墳時代前期の極めて重要な遺跡として位置づけられている。同じく前期の遺跡では、昭和34年に明治大学の塚初重・小林三郎らによって発掘調査された高林遺跡（11）がある。前期（初頭）の古墳では、銅鏃30点、三角縁神獣鏡などの銅鏡3面が出土している頼母子古墳（12）がある。現在は削平されて現存しないが、円墳と考えられ、副葬品などから太田市周辺では最初に出現した古墳の一つと考えられている。また、朝子塚古墳（13）は、頼母子古墳のあとを受けて出現した、4世紀後半の墳丘長124mを測る前方後円墳である。富沢古墳群（22）では、方形周溝墓11基、円形周溝墓1基が確認されている。古墳時代中期～後期の古墳としては、本遺跡の南約1.5kmに展開する高林古墳群（14）が大きな意味を持っている。現存する墳丘だけでも14基を数えるこの古墳群は、かつては80基以上で形成されていた5世紀から6世紀を中心とする大群集墳である。一方、その東には6世紀代の東矢島古墳群（15）が展開している。

第2章 周辺の環境

また石田川遺跡の北西にあった米沢ニッ山古墳(16)は5世紀代の前方後円墳で、墳丘長は74mを測る。出土遺物で特筆すべきは、大泉町の仙石丘山遺跡(40)4号住居(中期後半)から初期須恵器把手付碗が出土している。把手付碗については、第5章第2節を参照されたい。

高林三入遺跡では、古墳時代前期～中期の竪穴住居・方形周溝墓などの遺構が検出され、たくさんの土師器が出土しており、本遺跡から南約1kmに位置する朝子塚古墳、高林遺跡との関連が注目される。八反田遺跡では当該期の遺構はなく、遺物も少ない。

奈良・平安時代

古代になると、東矢島遺跡(32)では古代寺院(東矢島廃寺)の存在を想定させる瓦の出土が知られている。高林向野遺跡(33)、高林梁場遺跡(34)、細谷八幡遺跡(35)では、集落跡が確認され、高林向野遺跡・高林梁場遺跡からは緑釉陶器などが出土している。また、細谷南遺跡(36)では、平安時代後期の水田跡(As-B水田)が検出されている。東西に走る現在の国道354号線の北側では太田南部条里地割りが、最近まで比較的良好に残っていた。八反田遺跡を分断する市道付近には、東山道武蔵路が走っていたとの推定もあるが、調査の結果、現在まだ不明確である。なお国道407号線の旧道は上記条里と一致しており、近世には古戸太田道として残っていた。

高林三入遺跡A区では、平安時代の竪穴住居が2軒確認されたが、全体的にこの時期の遺構・遺物は少ない。八反田遺跡では数条の溝が検出された。

中近世

中世では、遺跡地周辺には、富沢館跡(51)、牛沢城跡(52)、岩松館跡(53)、高林城跡(54)、矢島城跡(55)、大島館(56)、仙石城跡(57)、などの城跡・館跡が存在するが、遺構の残存状態が悪く、ほとんど壊滅状態である。富沢館は富沢氏の居城と伝えられ、存続期間は16世紀代で、堀跡が残っており、現在は正法寺がある。牛沢城は牛沢氏の居城と伝えられ、存続期間は16世紀代で、堀・

土居・戸口跡が残っている。岩松館は、岩松新田氏の居城と伝えられ、存続期間は16世紀代で、堀・土居・櫓台・戸口跡が残っている。岩松館跡は昭和62～63年に一部発掘調査が行われている。矢島館は、存続期間は16世紀代で、堀・土居が残っており、北西側に現在は八坂神社が鎮座する。

高林三入・八反田遺跡ともに、中世以降の方形に曲がる、館(屋敷)に伴う区画溝と想定される遺構が何条か検出されたが、内部施設等は確認できず詳細は不明である。また、両遺跡ともに、この時期の溝・井戸・土坑などが数多く検出された。また、高林三入遺跡A区では近世末の墓坑群が検出され、人骨・馬骨・古銭・陶磁器などが出土している。

引用・参考文献

- 2004『年報23』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 2003『年報・鳥山下遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 2003『梁場遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 2001『群馬県文化財情報システム』群馬県教育委員会
- 1996『太田市史通史編・原始古代』太田市
- 1996『太田市史通史編・中世』太田市
- 1991『太田市文化財地図』太田市教育委員会
- 1989『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会
- 1990『群馬県史通史編』群馬県
- 1983『大泉町誌(下巻)歴史編』大泉町
- 1981『群馬県史資料編3』群馬県
- 1971『群馬県遺跡台帳東毛編』群馬県教育委員会
- 1971『群馬県古城址の研究 上巻』山崎一
- 1968『考古学集刊第3巻下』(東京考古学会)



第6図 高林三入・八反田遺跡周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代	遺跡の概要(主な遺構・遺物)	主な文献・報告書等
1	高林三入遺跡	旧石器～中世	本遺跡	本書
2	八反田遺跡	古墳～中世	本遺跡	本書
3	東別所遺跡	旧石器	旧石器槍先形尖頭器	市:太田市史
4	福沢新田遺跡	旧石器～中世	旧石器黒曜石製の搔器。平安竪穴住居。中世溝。	団:年報22,23
5	細谷合ノ谷遺跡	旧石器・縄文～平安	旧石器ナイフ形石器。縄文後期竪穴住居、埋甕、土坑。	団:年報23,24
6	梁場遺跡	縄文・古代	縄文草創期爪形文土器、中期埋甕。平安竪穴住居。	団:梁場遺跡
7	古戸遺跡	縄文	縄文早期燃糸文土器	市:太田市史
8	牛沢遺跡	縄文	縄文早期燃糸文土器	市:太田市史
9	寄木戸遺跡	縄文	縄文後期竪穴住居。	市:太田市史
10	石田川遺跡	古墳	前期竪穴住居、石田川式土器。中期竪穴住居。	石:石田川遺跡
11	高林遺跡	古墳	前期竪穴住居、石田川式土器。	東:考古学集刊第3巻下
12	頼母子古墳	古墳	前期古墳(円墳か)。銅鏡28本、銅鏡3面、刀身一振など。	市:太田市史
13	朝子塚古墳	古墳	4世紀後半の前方後円墳。形象埴輪(家形、盾形)、円筒埴輪。	市:太田市史
14	高林古墳群	古墳	古墳時代中期～後期の古墳群。	市:太田市史
15	東矢島古墳群	古墳	後期の古墳群。	市:太田市史
16	米沢ニツ山古墳	古墳	5世紀後半の前方後円墳、鶏形埴輪。	県:太田市米沢ニツ山古墳
17	米沢西遺跡	古墳	前期竪穴住居、石田川土器。	県:太田市米沢ニツ山古墳
18	米沢中遺跡	古墳	舟形土製品。前期の土器。	市:太田市史
19	五反田遺跡	古墳	前期竪穴住居、石田川土器。	市:太田市史
20	細谷古墳群	古墳	冠稲荷神社内に5基。	県:群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)
21	岩瀬川古墳群	古墳	後期の古墳群。	市:太田市史
22	富沢古墳群 (富沢遺跡)	古墳	前期の集落と周溝墓・古墳、銅鏡(5号墳)。後期の集落と古墳群。方形周溝墓11基、円形周溝墓1基。	市:太田市史
23	沢野村27号墳	古墳	中期の前方後円墳。	市:太田市史
24	鐘塚古墳	古墳	5世紀前半(沢野村45号墳)の円墳。削平され現存しない。	市:太田市史
25	沢野村102号墳	古墳	終末期(7世紀前半)の複室構造横穴石室を持つ円墳か。	市:太田市史
26	小谷場古墳群	古墳	中～後期の古墳群。	市:太田市史
27	高林西原古墳群	古墳	後期(6世紀後半)の円墳。	団:年報21
28	高林西原公園古墳	古墳	後期(6世紀後半)の円墳。	市:太田市史
29	沢野村96号墳	古墳	後期(6世紀後半)の円墳。	市:太田市史
30	西矢島古墳群	古墳	47号は前方後円墳。他は円墳からなる後期の古墳群。	市:太田市史
31	飯塚古墳群	古墳	方形周溝墓4基、円形周溝墓1基。	市:太田市史
32	東矢島遺跡 (東矢島鹿寺)	奈良・平安	寺院もしくは官衙跡、古代瓦。	市:太田市史
33	高林向野遺跡	奈良・平安	平安の集落、緑釉陶器。	市:太田市史
34	高林梁場遺跡	古墳後期～平安	古墳後期の集落。平安の集落、緑釉陶器。	市:市内遺跡X
35	細谷八幡遺跡	奈良・平安	奈良・平安の竪穴住居。	団:年報21,22
36	細谷南遺跡	古墳～平安	古墳・奈良・平安の竪穴住居。平安後期(As-B下)の水田	団:年報21
37	小谷場遺跡	古墳～平安	平安の竪穴住居(9世紀)。	市:太田市史
38	道知塚遺跡	古墳	古墳の集落。	県:群馬県文化財情報システム
39	新ヶ谷戸遺跡	古墳・奈良	古墳・奈良の集落。	県:群馬県文化財情報システム
40	仙石丘山遺跡	古墳・奈平	古墳・奈良・平安の竪穴住居。初期須恵器把手付埴輪。	町:大泉町誌下巻歴史編
41	細谷清川遺跡	古墳	古墳の集落。	県:群馬県文化財情報システム
42	細谷東遺跡	古墳・奈良	古墳・奈良の集落。	県:群馬県文化財情報システム
43	細谷中遺跡	古墳～平安	古墳～平安の集落。	県:群馬県文化財情報システム
44	川窪遺跡	古墳～平安	古墳前～後期、及び平安の集落跡。	市:太田市史
45	塚畑遺跡	縄文・古墳・平安	縄文中期土坑。古墳～平安の竪穴住居。	団:年報21
46	浜町遺跡	古墳・平安	古墳～平安の竪穴住居。中世の溝、井戸。	団:年報20～23
47	宮内遺跡	縄文～中世	縄文前期包含層。古墳～平安の竪穴住居。	団:年報20,22
48	稲荷前遺跡	平安	平安の竪穴住居。	団:年報20
49	三島木遺跡	縄文・奈平・中世	奈・平の土坑。中世の掘立柱建物。	団:年報20
50	城之内遺跡	古墳～中世	古墳の竪穴住居。中世の大島城の堀(障子堀)。	団:年報21
51	富沢館跡	中世	堀跡	県:群馬県の中世城館跡
52	牛沢館跡	中世	堀、土居、戸口跡	県:群馬県の中世城館跡
53	岩松館跡	中世	堀、土居、戸口、櫓台跡	県:群馬県の中世城館跡
54	高林城跡	中世	遺構消滅	県:群馬県の中世城館跡
55	矢島館跡	中世	堀、土居跡	県:群馬県の中世城館跡
56	大島館跡	中世	土居、戸口跡	県:群馬県の中世城館跡
57	仙石城跡	中世	堀、土居、戸口、帯郭跡	県:群馬県の中世城館跡
58	稲荷塚古墳	古墳	全長50m程の前方後円墳か。刀、馬具、玉、鈴など。	市:太田市史
59	新井館跡	中世	堀跡。	県:群馬県の中世城館跡
60	新井古墳群	古墳	後期のすべて円墳からなる古墳群。	市:太田市史
61	五(御)庵稲荷古墳	古墳	円墳。	県:群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)
62	稲荷塚古墳	古墳	前方後円墳。	市:太田市文化財地図
63	稲荷山古墳	古墳	径20mの円墳。敬称埴輪(武人・馬) 太田高校敷地内にある。	県:群馬県遺跡台帳Ⅰ(東毛編)
64	舞台遺跡	古墳	古墳後期の集落跡。	市:太田市史
65	藤阿久大道北遺跡	古墳	古墳の竪穴住居。	市:太田市文化財地図

県:群馬県教育委員会
市:太田市、市教育委員会

団:(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
町:大泉町

東:東京考古学会
石:「石田川」刊行会

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

第1節 高林三入遺跡の概要

高林三入遺跡では、古墳時代前・中期の遺構を中心に、旧石器時代から近世に至る遺構・遺物を検出した。遺構は、西側の低台地上（A～D区）で多く検出されたが、大部分の調査区が圃場整備や後世の耕作のため削平を受けていたため、遺構の残存状態はきわめて悪かった。沖積地となるG・H・I区では、県教委の試掘でAs-B軽石純層が確認され、当初、水田跡の存在を想定していたが、再度トレンチによる試掘調査を行った結果、遺構は確認できなかった。以下、各時代ごとに遺跡の概要を記すことにする。

旧石器時代

A区からD区にかけての低台地上で旧石器の試掘を行った。その結果、数カ所で遺物の出土を確認し、その部分で調査区を拡大して本調査を行った。A区では、As-BP層から2ヶ所ずつの石器ブロックと礫群、暗色帯上部から剥片4点が出土した。B区では暗色帯下部を中心としたブロックを5ヶ所確認した。総数は約100点で、大部分が剥片だが石核・ナイフ形石器なども含まれ、そのうち13個の接合資料が確認できた。C区からは暗色帯の下から石刃1点が出土した。D区でもAs-BPを含む層から2点、暗色帯下部から1点出土している。

縄文・弥生時代

縄文時代の土坑1基が検出されているが、弥生時代の遺構は検出されていない。遺構外の遺物として縄文時代の土器片計約100点、石鏃・石槍などの石器十数点が出土した。土器片は何れも破片で摩滅の激しいものが多かった。時期は前期後半から後期前半で、特に前期後半（諸磯式）の土器片が多く出土している。弥生時代では後期の土器片が数点出土しているのみである。出土遺物は第7節遺構外遺物の項で報告する。

古墳時代

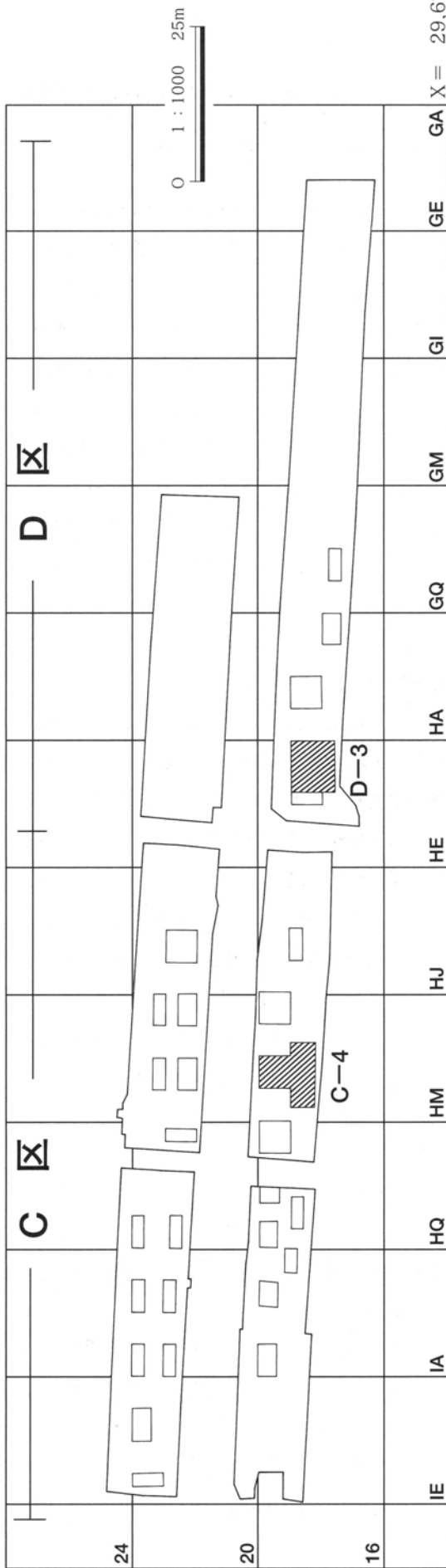
本遺跡からは古墳時代前期から中期の土器が大量に出土し、多くの遺構がこの時期のものである。特にB・C区の低台地上では、竪穴住居21軒と掘立柱建物11棟と土坑・井戸・ピット多数を確認した。またA区では竪穴住居1棟と方形周溝墓1基が検出されている。B・C区は、広範囲で攪乱や削平を受けており、残存状態が良好ならば、さらに多くの前期から中期の竪穴住居・掘立柱建物が存在していた集落があったと想定される。出土遺物の中で注目しているのは、B区10号土坑出土の手焙り形土器とC区7号住居出土の初期須恵把手付碗である。ともに県内では出土例が少なく、特に把手付碗は多数の土師器と共伴して出土しており、貴重な資料である。

奈良・平安時代

明らかにこの時期のものとして認定できる遺構はA区で検出された竪穴住居2軒である。ともに東に竈が検出されたが、後世の耕作などで削平されており残存状態が悪かった。また、この時期の遺物を出土する溝を数条確認したが、本時代の遺物は比較的少ない。なお、周辺は条里遺構のような方形区画が残るが、本遺跡内の区画は戦後の圃場整備によるものであり、古代の遺構ではない。

中世以降

A区では、近世末の墓と思われる土坑が数十基検出され、人骨、古銭、陶磁器などの遺物が出土している。また、用水路と思われる、低台地を南北に横切る溝・低台地から沖積地へ西から東へ走向する溝が何条も検出された。これらは古墳時代から中近世までの遺構と思われるが、中には近世の遺物を多量に含むものがあり、数条の溝がこの時期のものと考えられる。また、E区では水田跡が確認された。



第7図 高林三入遺跡旧石器試掘図

第2節 旧石器時代の調査

旧石器時代の概要

A区からD区にかけての低台地上で旧石器の試掘調査を行った(第7図参照)。その結果、6ヵ所で遺物の出土を確認し調査区を拡張して本調査を行った。A-1②区では、As-BP層から2ヶ所の石器ブロック及び礫群を確認した。総数は78点で、大部分が剥片類だったが、切出形石器・石核・敲石などが含まれていた。13例の接合資料(うち7例は礫群・構成礫の接合資料)が確認された。このほか、A区では暗色帯上部から剥片1点(A-2区)、剥片3点(A-1①区)が出土した。

B区では暗色帯下部を中心としたブロックを5ヵ所確認した。総数は98点で、大部分が剥片類であったが、ナイフ形石器・石核なども含まれていた。13例の接合資料が確認された。時期は、テフラ分析によりAs-BPをブロック状に含む黄色硬質ローム層(VII層)から、暗色帯下部(IX層)にかけてと思われる。

C区からは暗色帯の下の層から石刃1点が出土した。また、D区でもAs-BPを含む層から剥片2点、暗色帯下部からナイフ形石器1点が出土している。

(1) A区の調査

1、概要

A区では合計42ヵ所の試掘トレンチを設定し、旧石器の試掘調査を実施した。その結果、A-1①区Bトレンチ(KI-26G)、A-1②区Hトレンチ(JT-25G)、A-2区Hトレンチ(JO-24G)で石器の出土が確認されたので、調査区を拡張し本調査を実施した。その結果、A-1②区では、石器・礫群の広がり(2ヶ所ずつのブロック・礫群)が確認され、総数78点に及ぶ石器が出土した。

2、出土石器

【A-1①区出土石器】

剥片(第8図1~3、PL40)

1は幅広剥片。2は小形の縦長剥片で剥片下半部欠く。2・3の石材は黒色安山岩。3は、黒曜石製の縦長剥片で上半部を欠く。

【A-2区出土石器】

剥片(第8図4、PL40)

4は、幅広剥片で、調査時に剥片先端を欠損している。石材はチョコレート色の硬質頁岩。

【A-1②区出土石器】

以下の石器は、ほとんどが2ヶ所の石器ブロック、礫群内から出土している。

切出形石器(第15図、PL40)

第15図1の1点が出土している。小形の横長剥片を素材に用い、左右両側縁を粗く加工して石器を作り出している。1号ブロック出土。石材は黒色頁岩。

加工痕のある剥片(第15図、PL40)

第15図2の1点が出土している。小形の幅広剥片を素材にして、右側縁・先端部に丁寧な連続剥離をしている。1号ブロック出土。石材は黒色頁岩。

剥片類(第15図、PL40)

第15図3~8の6点(剥片5、碎片1)が出土している。長さ2cm~3.5cmの小形の縦長剥片である。3~6・8は1号ブロック出土。7はHトレンチ覆土出土。6点とも石材は黒色頁岩。

石核(第15図、PL40)

第15図9の1点が出土している。接合関係が確認できない単独出土である。頻繁な打面転移を繰り返しながら、小形幅広剥片を剥離している。1号ブロック出土。石材は珪質頁岩。

敲石(第15図、PL40)

第15図10の1点が出土している。棒状礫を用いた小形の敲石である。礫の小口部分を使用しており、敲打痕が残っている。礫重量は16.4gで、小形剥片の剥離に用いたものと思われる。1号ブロック出土。石材は黒色頁岩。

接合資料-1 (第16図、P L41)

剥片6点からなる接合資料。1号ブロックから出土した剥片5点と2号ブロック出土の1点が接合している。現状で高さ6.3cm・幅4.3cmを測る。90度打面転移を繰り返しながら、剥片1~6を剥離している。1は打面打出剥片、2~6が目的剥片である。母岩は黒色頁岩-1。

接合資料-2 (第16図、P L41)

剥片1点、碎片1点からなる接合資料。1号ブロック内で接合している。現状で長さ2.8cm・幅2.5cmを測る。上端の平坦打面から碎片を剥離している。母岩は黒色頁岩-2。

接合資料-3 (第16図、P L41)

剥片1点、碎片1点からなる接合資料。1号ブロック内で接合している。現状で長さ2.8cm・幅1.6cmを測る。剥離の段階で、下部先端が割れたと思われる。母岩は黒色頁岩-2。

接合資料-4 (第16図、P L41)

剥片2点からなる接合資料。1号ブロック内で接合している。現状で長さ3.9cm・幅3.6cmを測る。上端の平坦打面から縦長剥片1を剥離した後、90度打面転移して剥片を剥離している。母岩は黒色頁岩-3。

接合資料-5 (第16図、P L41)

剥片2点からなる接合資料。1号ブロック内で接合している。現状で長さ4.5cm・幅3.3cmを測る。円礫の上端打面から小形の縦長剥片を剥離している。母岩は黒色頁岩-5。

接合資料-6 (第16図、P L41)

剥片2点からなる接合資料。1号ブロック内で接合している。現状で長さ2.9cm・幅1.5cmを測る。上端の平坦打面から幅広剥片を剥離する時に、中央部から2つに割れたものと思われる。石材は黒色安

山岩。

3、石器と礫の分布

A-1②区からは、2ヶ所ずつの石器ブロック、2カ所の礫群が検出されている。

1号石器ブロック (第9~11図、P L7・8)

位置 JS-25 (A-1②区)

規模 長径4.5m・短径2.4m

分布状態 比較的密集して分布する。

出土層位 VI層に6点、VII層に25点出土している。

出土点数 31点

器種構成 切出形石器1点、加工痕のある剥片1点、敲石1点、石核1点、剥片12点、碎片15点

石材構成 黒色頁岩20点、珪質頁岩2点、泥岩7点、チャート1点、溶結凝灰岩1点

その他 接合資料6例(接-1~6)を確認している。そのうち1例(接-1)は2号ブロックと接合関係を有する。1号ブロックに隣接。

2号石器ブロック (第9~11図、P L7・8)

位置 JT-25 (A-1②区)

規模 長径2.6m・短径1.7m

分布状態 散漫に分布する。

出土層位 VII層に出土している。

出土点数 4点

器種構成 剥片1点、碎片3点

石材構成 黒色頁岩1点、チャート3点

その他 接合資料1例(接-1)を確認しているが、1号ブロックと接合関係を有する。1号ブロックに隣接。

1号礫群 (第12~14図、P L7・8)

位置 JS-25 (A-1②区)

規模 長径5.9m・短径2.6m

分布状態 比較的密集して分布する。

出土層位 VII層に出土している。

出土点数 32点

石材構成 チャート9点、溶結凝灰岩8点、ホルン

フェルス8点、砂岩6点、珪質頁岩1点
 その他 礫重量は平均19.93g、(最大99.48g、最小1.08g)を測る。接合礫資料は4例(接-7・8・9・11)で、そのうち1例(接-11)は2号礫群と接合関係を有する。2号礫群に隣接。

2号礫群 (第12~14図、PL7・8)

位置 JT-25 (A-1②区)

規模 長径3.3m・短径1.9m

分布状態 散漫に分布する。

出土層位 VII層に出土している。

出土点数 10点

石材構成 チャート1点、溶結凝灰岩3点、ホルンフェルス1点、砂岩5点

その他 礫重量は平均12.66g、(最大48.55g、最小0.56g)を測る。接合礫資料は2例(接-10・11)で、そのうち1例(接-11)は1号礫群と接合関係を有する。1号礫群に隣接。

4、石材別(器種別)分布

石器群の石材構成は黒色頁岩を主体とし、他には泥岩・チャート・珪質頁岩などを含むものであった。石器群の示準的石器は、切出形石器でこのほかには石核・敲石・加工痕のある剥片、各1点が組成した。石器製作が行われたのは石器の密集している1号石器ブロック南側と想定され、母岩分類した黒色頁岩5母岩は、いずれもこの地点に分布していた。北東側の石器分布は希薄であった。また、2号ブロック西側から出土したチャート3点は碎片類であり、同一母岩から剥離されたものと思われる。

礫群とブロックの位置関係はほぼ重複する関係にあるが、石器分布と礫群の集中部は微妙にズレていた。礫群構成礫の平均重量は18.20gで、小形破損礫が主体を占めた。1号礫群と2号礫群には礫の接合関係があり、石材構成も概ね一致するものであった。破損礫が多く、採取礫の形状は必ずしも明らかではないが、接合復元された礫形状からみて、100~200g(接-9は174.34g、接-11は108.74

g)程度の小形円礫が主体であったと想定している。

第2表 A区ブロック別器種構成(%)

	敲石	切出形	加工痕	石核	剥片	碎片	合計
1号ブロック	1 3.2%	1 3.2%	1 3.2%	1 3.2%	12 38.7%	15 48.4%	31 100.0%
2号ブロック	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%	4 100.0%
ブロック外	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計	1 2.8%	1 2.8%	1 2.8%	1 2.8%	14 38.9%	18 50.0%	36 100.0%

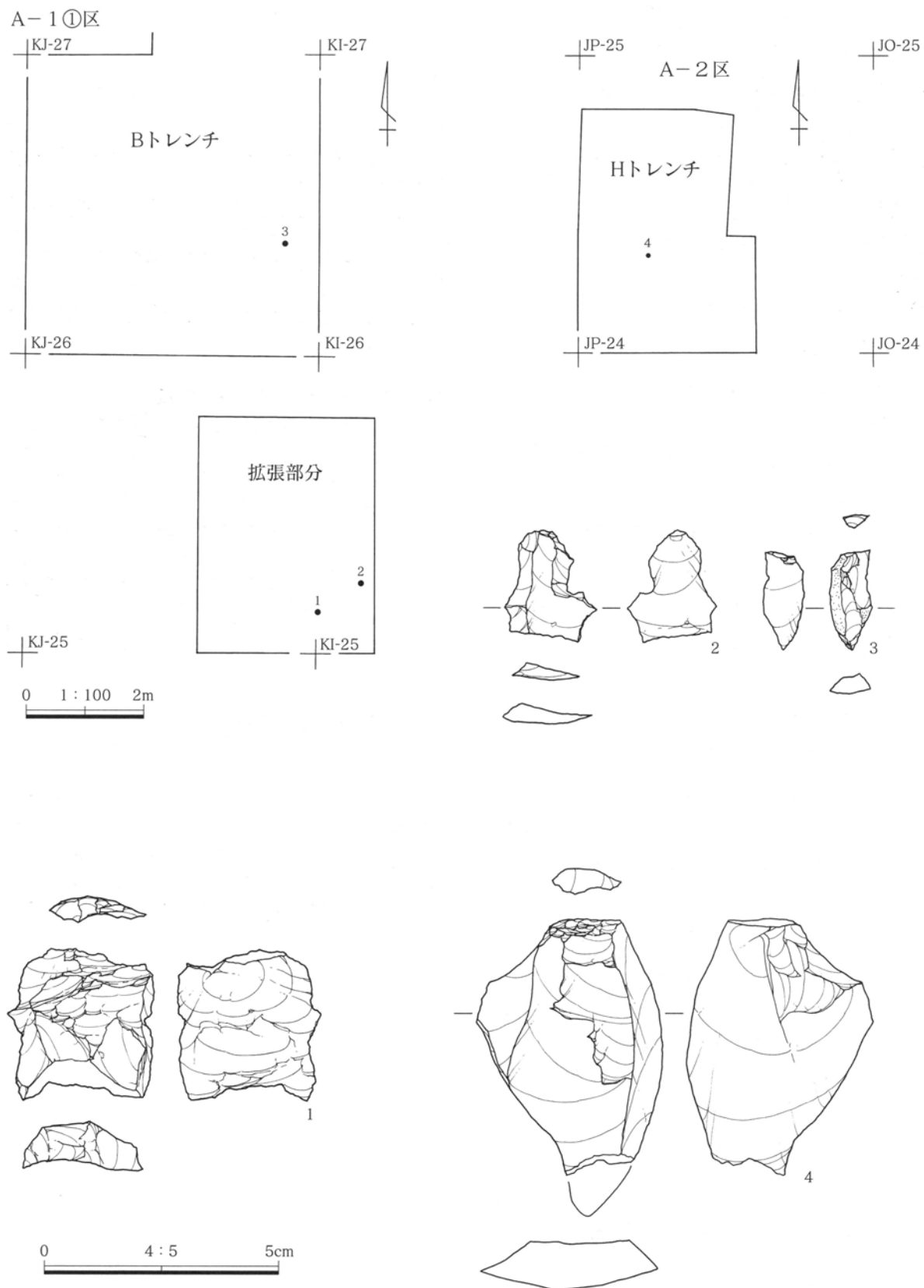
第3表 A区ブロック別石材構成(%)

	黒色頁岩	溶結凝灰岩	泥岩	チャート	珪質頁岩	合計
1号ブロック	20 64.5%	1 3.2%	7 22.6%	1 3.2%	2 6.5%	31 100.0%
2号ブロック	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%	0 0.0%	4 100.0%
ブロック外	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計	22 61.1%	1 2.8%	7 19.4%	4 11.1%	2 5.6%	36 100.0%

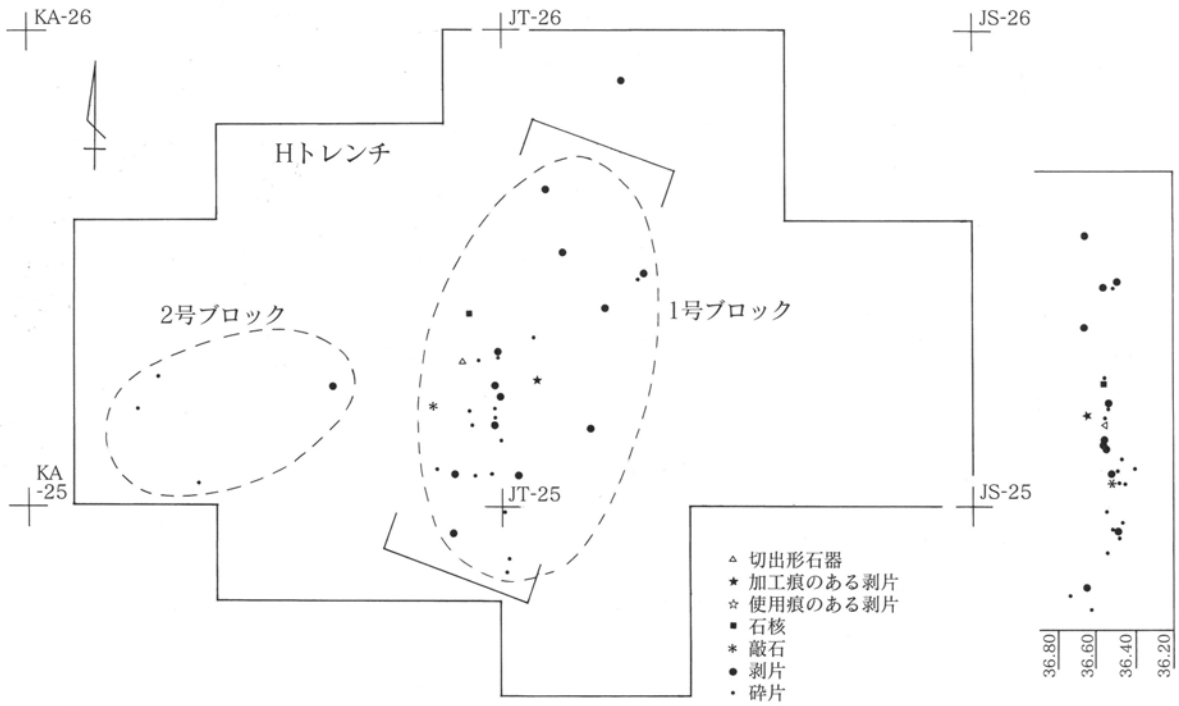
第4表 A区礫群の石材構成(%)

	チャート	溶結凝灰岩	ホルンヘルス	砂岩	珪質頁岩	合計
1号礫群	9 28.1%	8 25.0%	8 25.0%	6 18.8%	1 3.1%	32 100.0%
2号礫群	1 10.0%	3 30.0%	1 10.0%	5 50.0%	0 0.0%	10 100.0%
合計	10 23.8%	11 26.2%	9 21.4%	11 26.2%	1 2.4%	42 100.0%

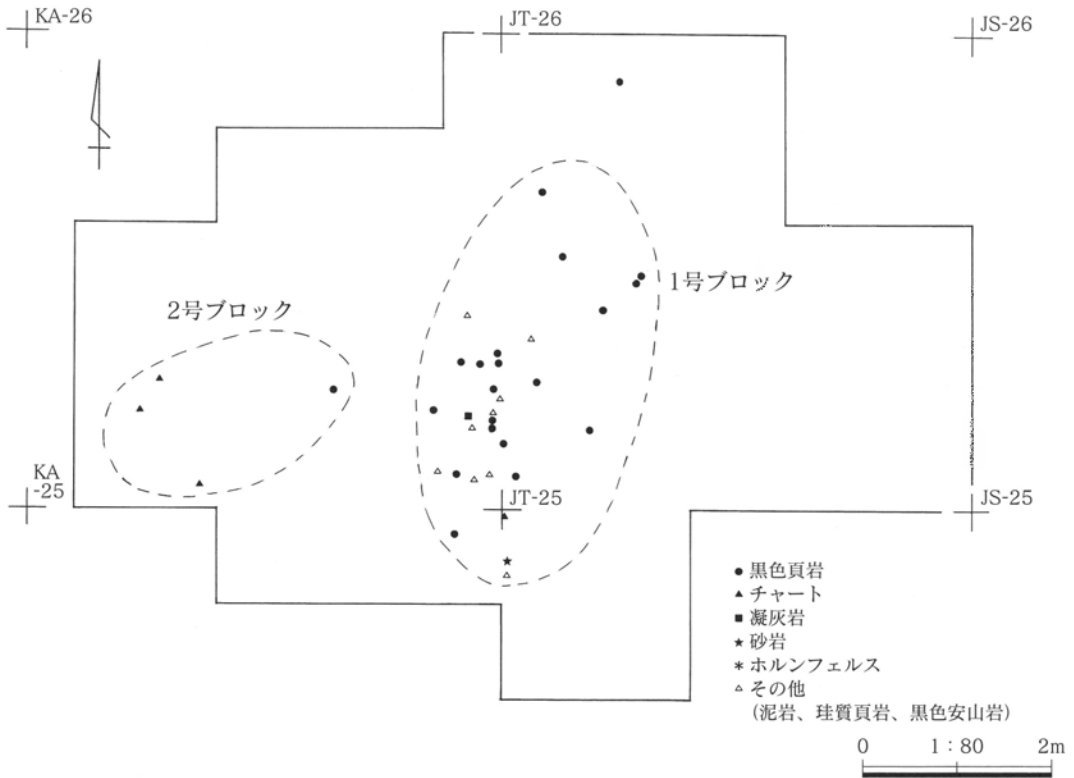
第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物



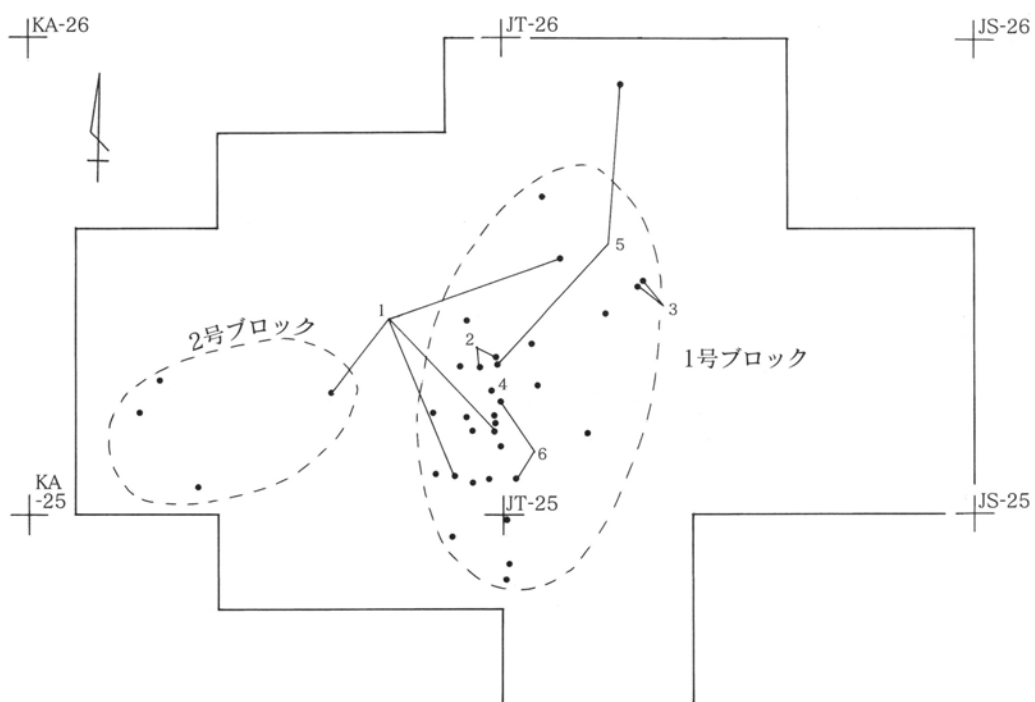
第8図 A-1 ①、A-2区石器分布図・出土石器



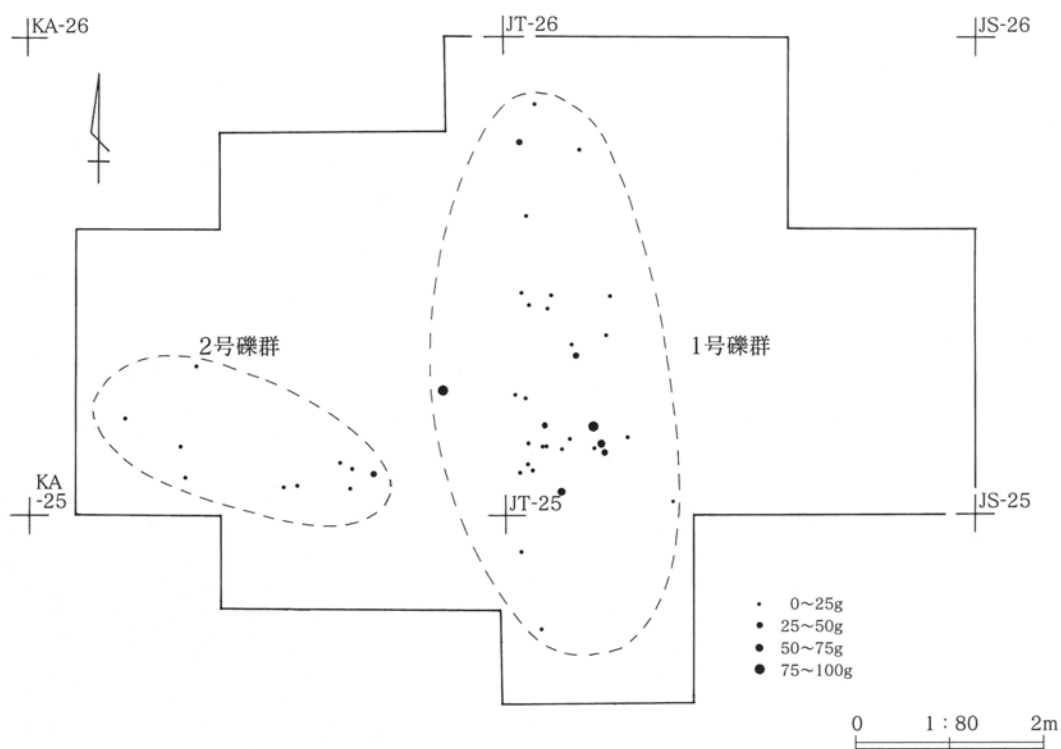
第9図 A-1②区石器ブロック器種別分布図



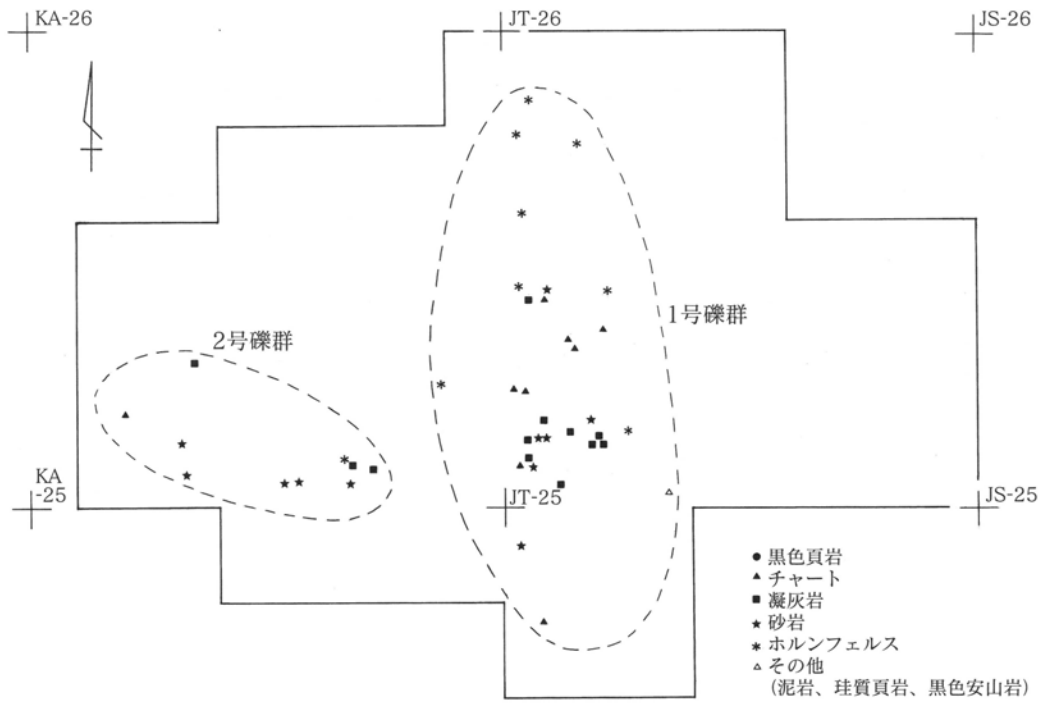
第10図 A-1②区石器ブロック石材別分布図



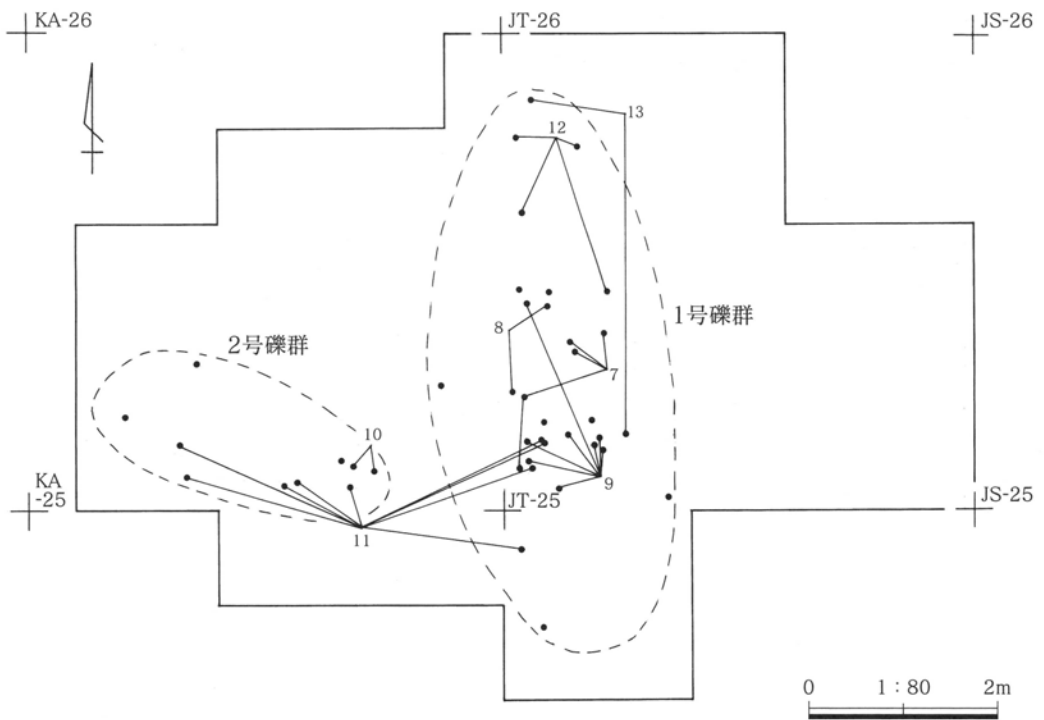
第11図 A-1②区石器ブロック接合関係図



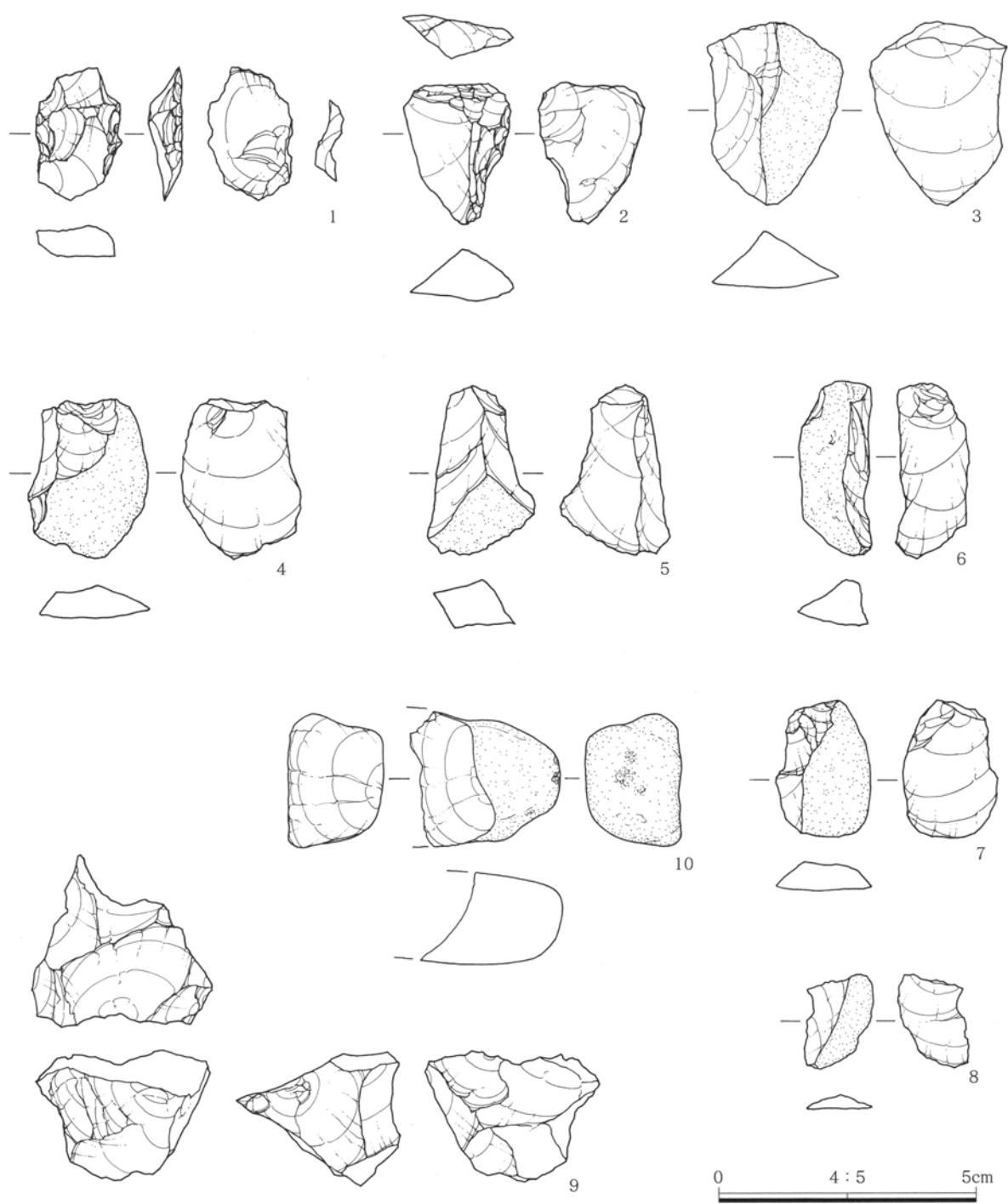
第12図 A-1②区礫群重量別分布図



第13図 A-1②区礫群石材別分布図



第14図 A-1②区礫群接合関係図



第15図 A-1②区出土石器



第16図 A-1②区接合資料

(2) B区の調査

1、概要

B区では合計23ヵ所の試掘トレンチを設定し、旧石器の試掘調査を実施し、B-4区Aトレンチで(IM-2OG)石器の出土が確認されたので、調査区を拡張し本調査を実施した。その結果、石器の広がり(5ヵ所のブロック)が確認され、総数98点に及ぶ石器が出土した。

2、出土石器

ナイフ形石器(第19図、P L41)

5点が出土している。

第19図1は、一側縁加工したナイフ。小形の縦長剥片を素材に、左側縁を丁寧に刃つぶし加工し連続剥離している。5号ブロック出土。石材はチャート。搬入石器。4も一側縁加工したナイフ。小形の縦長剥片を素材に、左側縁を連続剥離している。基部には加工前の頭部調整が残り、右側縁には使用痕(刃こぼれ)が見られる。4号ブロック出土。石材は黒曜石。2は、端辺加工のナイフ。小形の縦長剥片を素材に、左側縁先端部のみを丁寧にノッチ状に連続剥離して加工している。2号ブロック出土。石材はチャート。搬入石器。3も、端辺加工のナイフ。小形の石刃様の剥片を素材に、先端部及び基部を連続剥離している。先端部は直線的に加工されている。2号ブロック出土。石材はチャート。

12は、一側縁加工したナイフ。幅広剥片を素材に、右側縁を丁寧に連続剥離している。B区表土採集(出土場所不明)。石材は乳白色の珪質頁岩。

切出形石器(第19図、P L41)

第19図5の1点が出土している。小形の横長剥片を素材に、左右両側縁を加工して連続剥離して加工している。先端部を僅かに欠損している。2号ブロック出土。石材は黒色安山岩。搬入石器。

加工痕のある剥片(第19図、P L41)

2点が出土している。第19図6は、小形の幅広

剥片を素材にして、右側縁を粗く剥離している。4号ブロック出土。チャート。7は、小形の幅広剥片を素材にして、剥片先端部に微細な加工をしている。1号ブロック出土。石材はチャート。

使用痕のある剥片(第19図、P L41)

2点が出土している。第19図8は、小形の縦長剥片を用いたもの。表面側・右側縁が刃こぼれている。2号ブロック出土。チャート。10は小形の横長剥片を用いたもの。表面側・右側縁が刃こぼれている。1号ブロック出土。石材はチャート。

縦長剥片(第19図、P L41)

第19図9の1点が出土している。9は、石器背面側に節理面を残す小形の縦長剥片である。1号ブロック出土。石材はチャート。

石核(第19図、P L41)

第19図11の1点が出土している。接合関係が確認できない単独出土である。形状は賽子状で、左右両面に節理面が見られ、90度打面転移をしながら剥片剥離を繰り返している。3号ブロック出土。石材はチャート。

接合資料-1(第20図、P L42)

石核1点、剥片3点からなる接合資料。1号ブロック内で接合している。現状で長さ4.4cm・幅3.1cmを測る。まず、節理面を利用して2つの石核を作り、90度打面転移をしながら、剥片1・2を剥離している。石材はチャート。

接合資料-2(第20図、P L42)

剥片5点、碎片1点からなる接合資料。1号ブロック内の剥片・碎片と2号ブロック内の碎片、ブロック外の剥片が接合している。剥片剥離は正面左側・下端で小形剥片1・2を連続剥離した後に、90°石核を回転させ、剥片3を剥離する。剥片4・5も同様に石核を回転させ、剥離した剥片であるが、

剥片3及び4・5を剥離する間の打点移動は明確ではない。

打面の残存状況などからみて、長さ・幅6cm・厚さ4cmを測る板状石核が想定される。脈状の節理の発達するチャートを用いており、意図した剥片の剥離には失敗しているようである。石材はチャート。

接合資料-3 (第22図、P L42)

石核1点、剥片2点からなる接合資料。1号ブロック内の剥片と2号ブロック内の碎片、ブロック外の石核が接合している。厚い板状剥片を石核に用い、小形の縦長・幅広剥片を連続剥離している。石材はチャート。

接合資料-4 (第21図、P L42)

加工痕のある剥片1点、剥片2点からなる接合資料。2号ブロック内の剥片と4号ブロック内の加工痕のある剥片が接合している。左側面に礫面を残す。上端の平坦打面から剥片1・2を連続剥離した後、打面転移をし、剥片3を剥離している。剥片3の打点は、1・2の作業面を利用している。石材はチャート。

接合資料-5 (第21図、P L42)

剥片3点からなる接合資料。2号ブロック内で接合している。上端の平坦打面から剥片1～3を連続剥離している。石材はチャート。

接合資料-6 (第21図、P L42)

剥片2点からなる接合資料。2号ブロック内で接合している。上端の平坦打面から小形の幅広剥片を剥離している。石材はチャート。

接合資料-7 (第21図、P L42)

剥片2点からなる接合資料。2号ブロック内で接合している。下部に礫面を残す。打点を左右に振りながら小形の幅広剥片1・2を連続剥離している。石材はチャート。

接合資料-8 (第22図、P L42)

加工痕のある剥片1点、剥片1点からなる接合資料。3号ブロック内で接合している。上端の平坦打面から小形の幅広剥片を剥離している。下部に節理面を残す。1の剥片は、先端(端辺)加工している。石材はチャート。

接合資料-9 (第21図、P L42)

剥片4点からなる接合資料。1号ブロック内の剥片と2号ブロック内の剥片が接合している。上部に節理面を残す。上端の平坦打面から小形の縦長剥片を剥離している。石材はチャート。

接合資料-10 (第21図、P L42)

剥片2点からなる接合資料。1号ブロック内の剥片と2号ブロック内の剥片が接合している。小形の縦長剥片を剥離している。左から右へ打点を移動しながら、剥片1→2を剥離している。石材はチャート。

接合資料-11 (第22図、P L42)

使用痕のある剥片2点からなる接合資料。2号ブロック内で接合している。剥離の段階で、下部先端が割れたと思われる。石材はチャート。

接合資料-12 (第20図、P L42)

剥片2点からなる接合資料。2号ブロック内で接合している。上端の平坦打面から小形の幅広剥片を剥離している。石材はチャート。

接合資料-13 (第22図、P L42)

剥片1点、碎片1点からなる接合資料。2号ブロック内で接合している。比較的剥離が進んだ段階の接合資料である。碎片を剥離している。石材はチャート。

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

3、石器と礫の分布

1号石器ブロック (第18図、PL8・9)

位置 IN-21 (B-4区)

規模 長径2.9m・短径1.9m

分布状態 密集して分布する。

出土層位 Ⅷ層 (暗色帯上層) に2点、Ⅸ層 (暗色帯下層) に29点出土している。

出土点数 31点

器種構成 加工痕のある剥片1点、使用痕のある剥片1点、石核1点、剥片19点、碎片9点

石材構成 チャート31点

その他 接合資料5例 (接-1, 2, 3, 9, 10) を確認している。そのうち3例は他のブロックと接合関係を有する。2号ブロックに隣接。

2号石器ブロック (第18図、PL8)

位置 IM-20 (B-4区)

規模 長径5.3m・短径3.4m

分布状態 比較的密集して分布する。

出土層位 Ⅷ層に3点、Ⅸ層に40点、Ⅹ層に1点出土している。

出土点数 44点

器種構成 ナイフ形石器2点、切出形石器1点、使用痕のある剥片3点、礫片1点、剥片24点、碎片13点

石材構成 チャート42点、黒色安山岩1点、細角礫質凝灰岩1点

その他 接合資料11例 (接-2~7, 9~13) を確認している。そのうち5例は他のブロックと接合関係を有する。1、3号ブロックに隣接。

3号石器ブロック (第18図、PL8)

位置 IM-21 (B-4区)

規模 長径3.5m・短径2.3m

分布状態 散漫に分布する。

出土層位 Ⅷ層に2点、Ⅸ層に3点出土している。

出土点数 5点

器種構成 加工痕のある剥片1点、石核1点、剥片

3点

石材構成 チャート5点

その他 接合資料1例 (接-8) を確認している。2号ブロックに隣接。

4号石器ブロック (第18図、PL8)

位置 IM-20 (B-4区)

規模 長径5.1m・短径2.8m

分布状態 散漫に分布する。

出土層位 Ⅷ層に3点、Ⅸ層に5点出土している。

出土点数 8点

器種構成 ナイフ形石器1点、加工痕のある剥片2点、剥片3点、碎片2点

石材構成 チャート7点、黒曜石1点

その他 接合資料1例 (接-4、2号ブロックと接合関係を有する) を確認している。2号ブロックにやや隣接。

5号石器ブロック (第18図、PL8)

位置 IN-20 (B-4区)

規模 長径4.3m・短径2.6m

分布状態 散漫に分布する。

出土層位 Ⅷ層に2点、Ⅸ層に3点出土している。

出土点数 5点

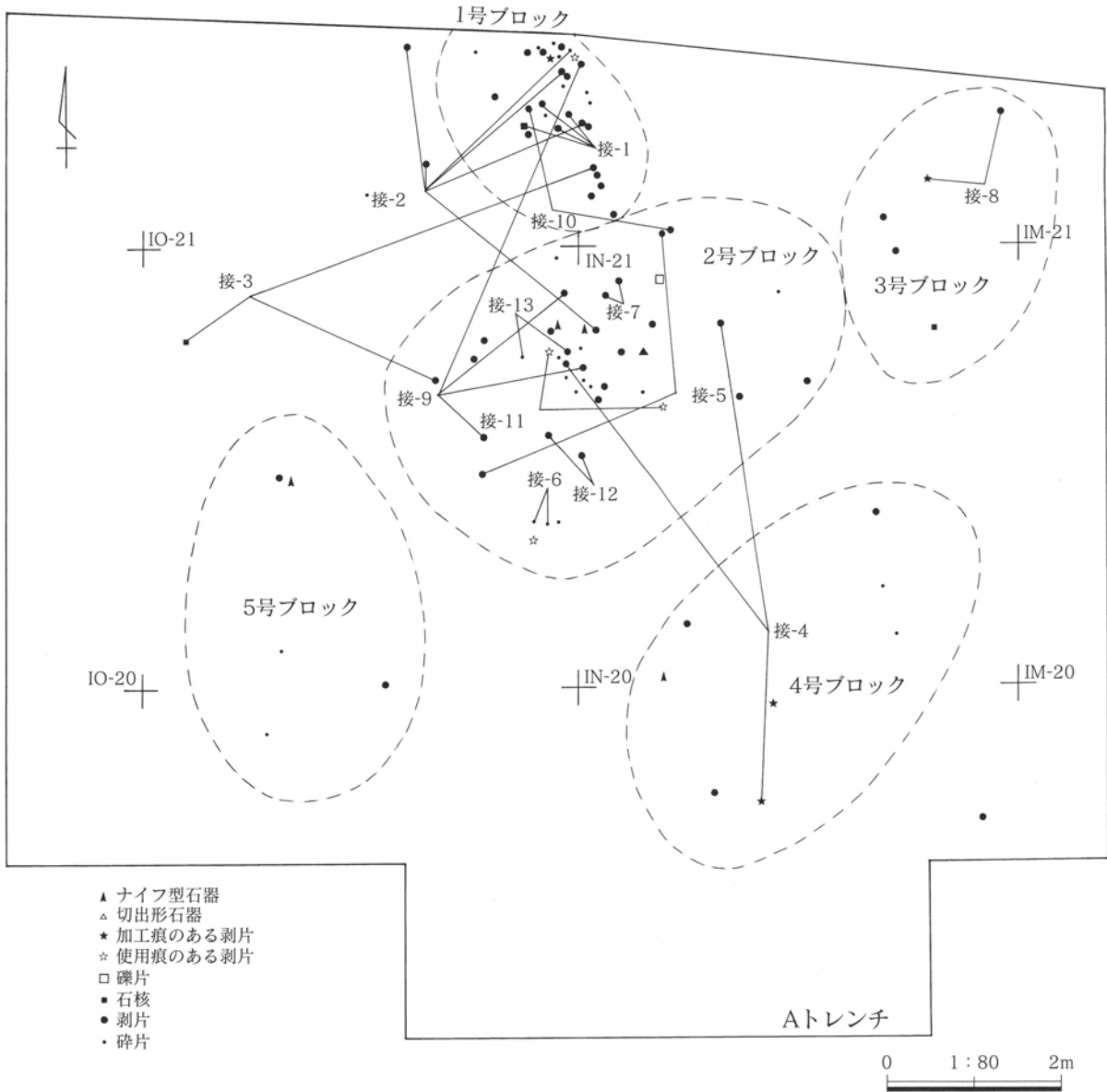
器種構成 ナイフ形石器1点、縦長剥片1点、剥片1点、碎片2点

石材構成 チャート、黒曜石、黒色安山岩、細角礫質凝灰岩

その他 接合資料なし。2号ブロックにやや隣接。

第5表 B区ブロック別石材構成 (%)

	チャート	黒曜石	黒色安山岩	細角礫質凝灰岩	合計
1号ブロック	31 100%	0 0%	0 0%	0 0%	31 100%
2号ブロック	42 95%	0 0%	1 2%	1 2%	44 100%
3号ブロック	5 100%	0 0%	0 0%	0 0%	5 100%
4号ブロック	7 88%	1 13%	0 0%	0 0%	8 100%
5号ブロック	5 100%	0 0%	0 0%	0 0%	5 100%
ブロック外	5 100%	0 0%	0 0%	0 0%	5 100%
合計	95 97%	1 1%	1 1%	1 1%	98 100%

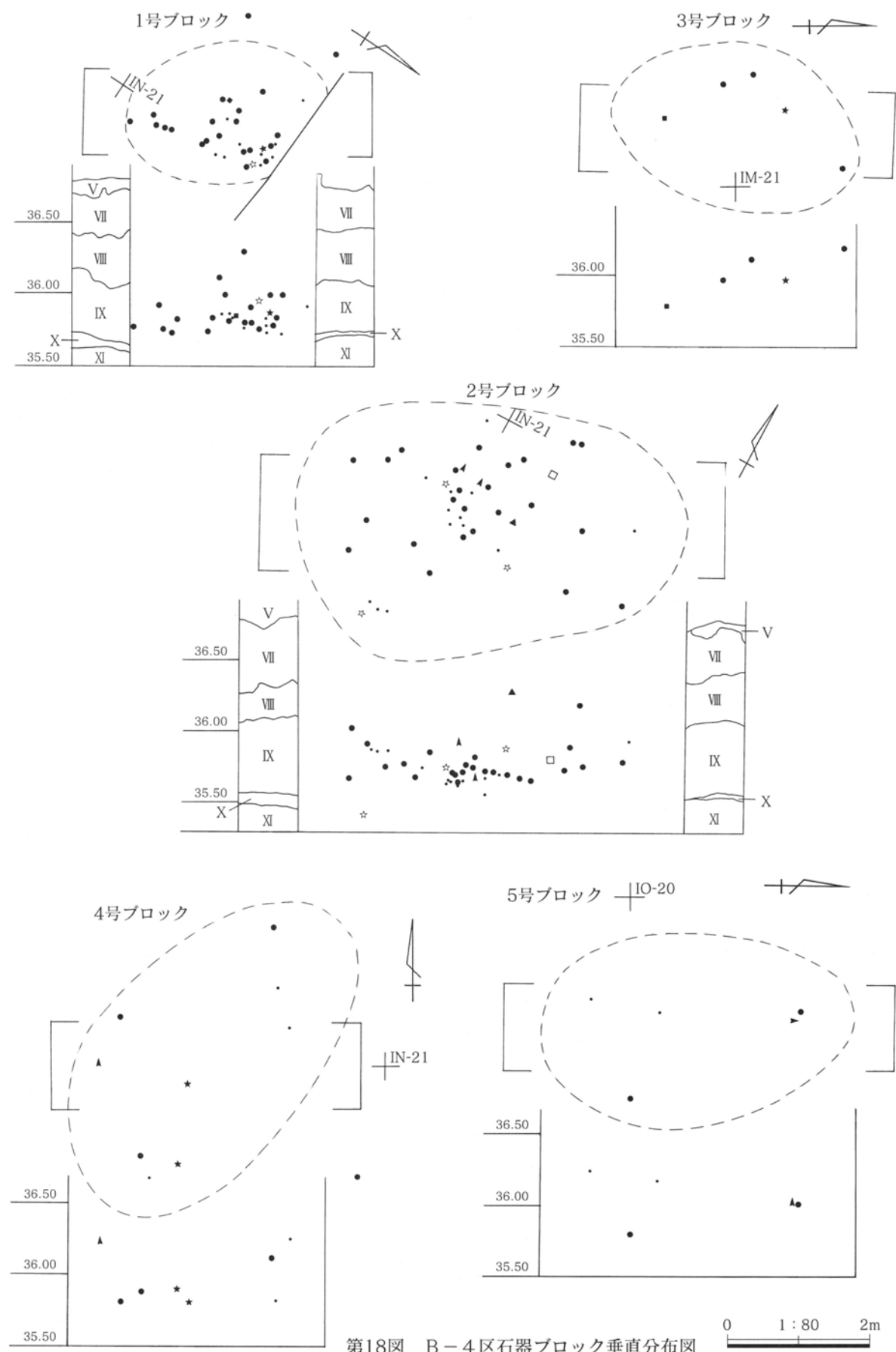


第17図 B-4区石器ブロック分布図

第6表 B区ブロック別器種構成 (%)

	ナイフ	切出形	加工痕	使用痕	縦長剥片	石核	剥片	碎片	礫	合計
1号ブロック	0	0	1	1	0	1	19	9	0	31
	0%	0%	3%	3%	0%	3%	61%	29%	0%	100%
2号ブロック	2	1	0	3	0	0	24	13	1	44
	5%	2%	0%	7%	0%	0%	55%	30%	2%	100%
3号ブロック	0	0	1	0	0	0	3	1	0	5
	0%	0%	20%	0%	0%	0%	60%	20%	0%	100%
4号ブロック	1	0	2	0	0	0	3	2	0	8
	13%	0%	25%	0%	0%	0%	38%	25%	0%	100%
5号ブロック	1	0	0	0	1	0	1	2	0	5
	20%	0%	0%	0%	20%	0%	20%	40%	0%	100%
ブロック外	0	0	0	0	0	1	3	1	0	5
	0%	0%	0%	0%	0%	20%	60%	20%	0%	100%
合計	4	1	4	4	1	2	53	28	1	98
	4%	1%	4%	4%	1%	2%	54%	29%	1%	100%

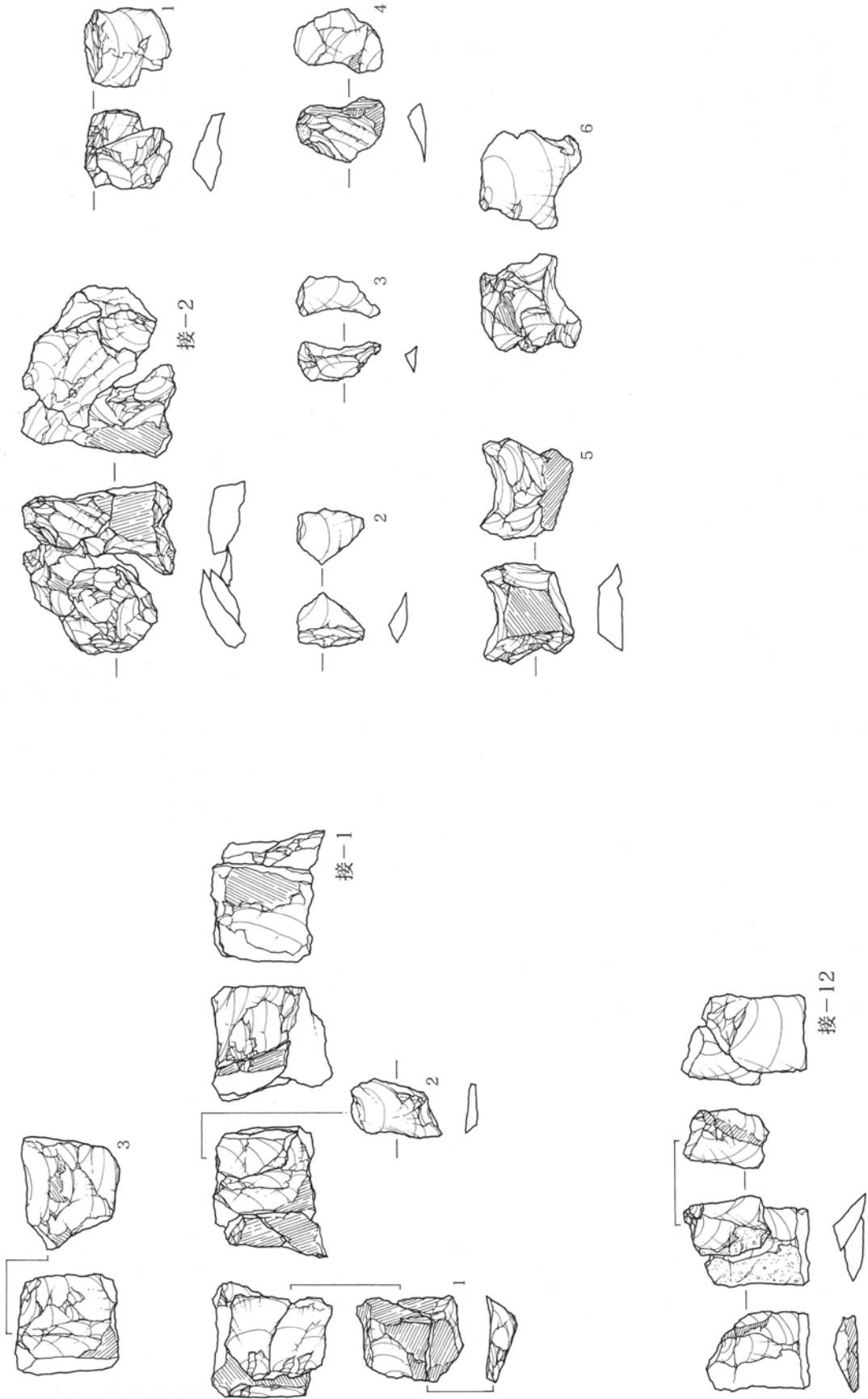
第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物



第18図 B-4区石器ブロック垂直分布図



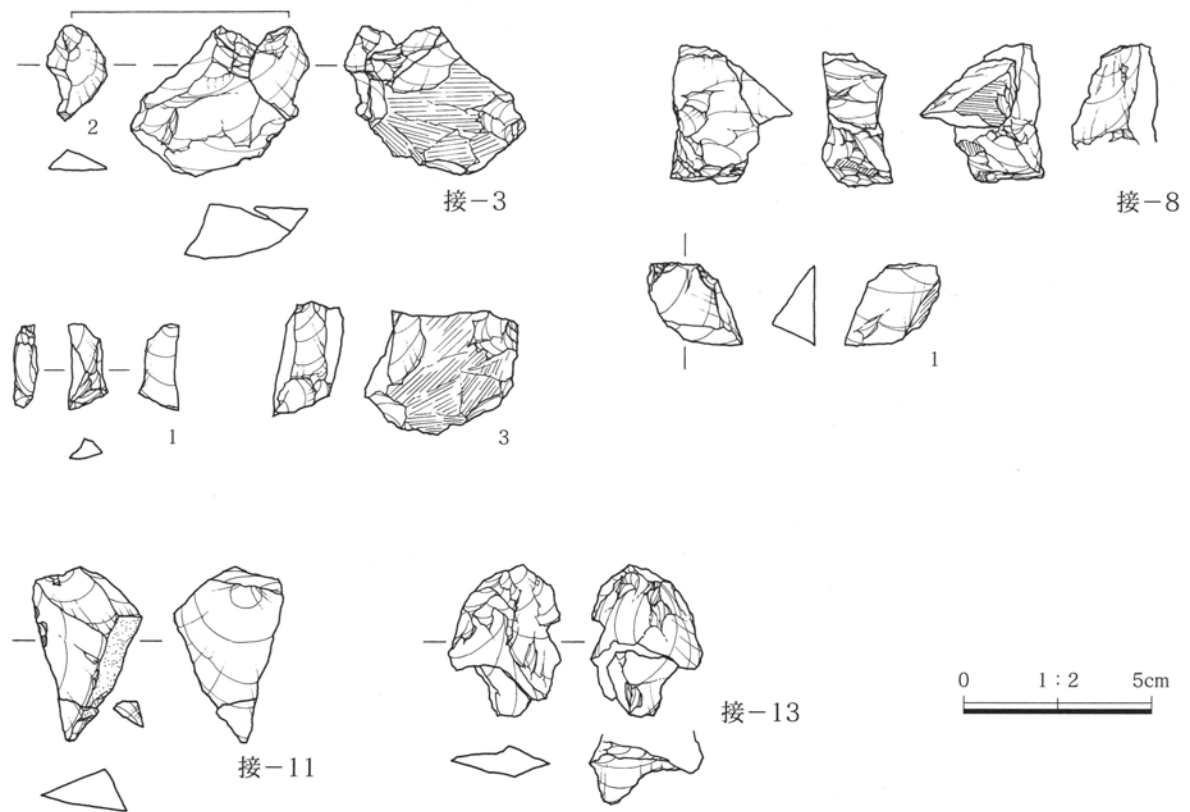
第19図 B-4区出土石器



第20図 B-4区接合資料(1)



第21図 B-4区接合資料 (2)



第22図 B-4区接合資料 (3)

(3) C区の調査

1、概要

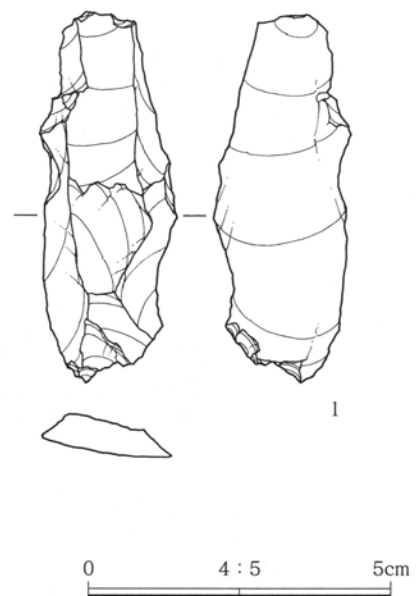
C区では合計23ヵ所の試掘トレンチを設定し、旧石器の試掘調査を実施した。その結果、C-4区Bトレンチで石刃1点が出土した。AT下位 (Ⅷ層) からAg-k (3.1~3.2万年前) の上位 (Ⅹ層) まで、その年代が求められる。石器の出土が確認された調査区を拡張し本調査を実施したが、石器の広がり確認できなかった。

2、出土石器

石刃 (第23図、PL9・42)

左右両側縁が並行する比較的形の整った石刃。背面側に残る剥離面構成から上下両端に打面を有した石刃石核から剥離されたものと思われる。打面は点状打面となっており、打面管理が行き届いている。

石材は赤褐色の珩質頁岩。Bトレンチ (HK-18 G) 出土。



第23図 C区出土石器

(4) D区の調査

1、概要

D区では合計5ヵ所の試掘トレンチを設定し、旧石器の試掘調査を実施した。その結果、D-3区AトレンチでAs-BPを含む層から2点、暗色帯下部から1点出土した。石器の出土が確認されたトレンチを拡張し本調査を実施したが、石器の広がり確認できなかった。

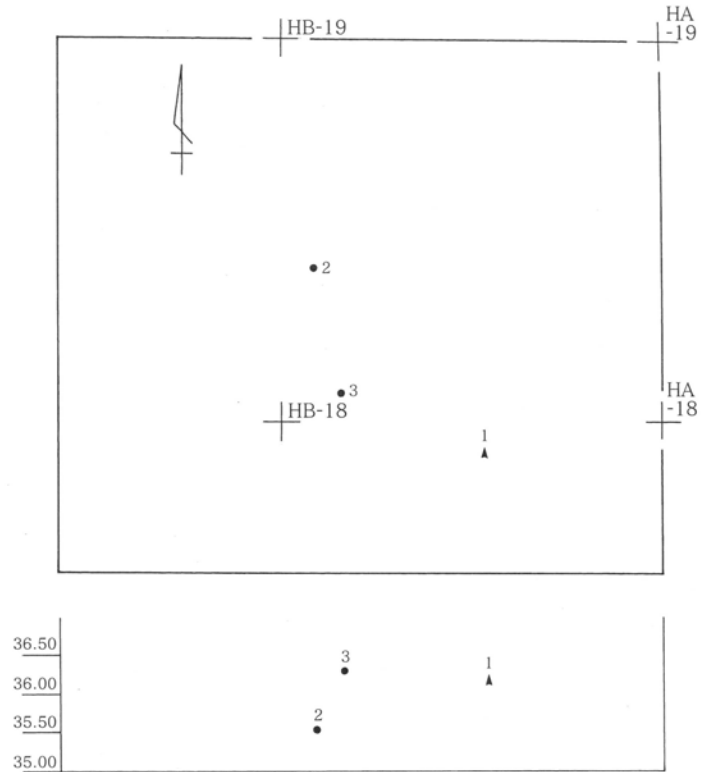
2、出土石器

ナイフ形石器 (第24図、PL9・42)

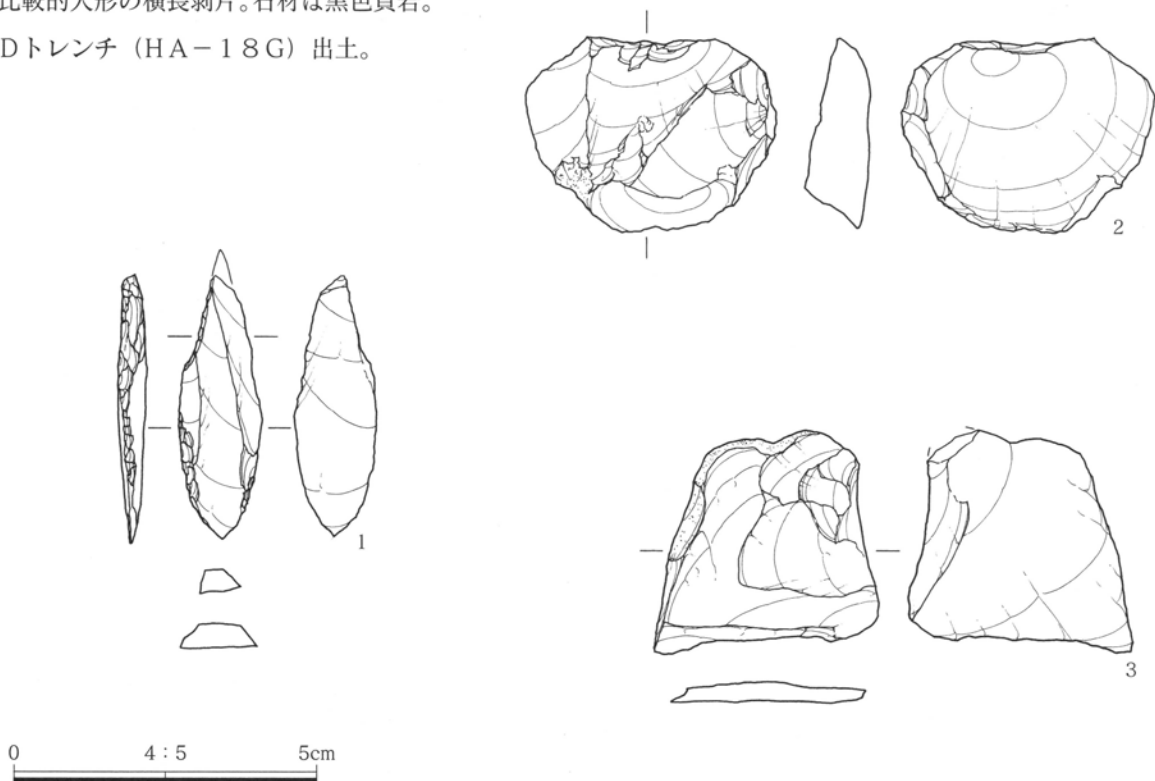
1は、二側縁加工したナイフ。小形の縦長剥片を素材に、左側縁、右側縁の基部を丁寧に連続剥離している。石材は黒色頁岩。Dトレンチ拡張部分 (HA-17G) 出土。

剥片 (第24図、PL9・42)

2は、大形の横長剥片。石材は黒曜石。Dトレンチ (HA-18G) 出土。3は、比較的大形の横長剥片。石材は黒色頁岩。Dトレンチ (HA-18G) 出土。



0 1 : 100 2m



第24図 D区石器分布図、出土石器

第3節 竪穴住居・竪穴状遺構・方形周溝墓

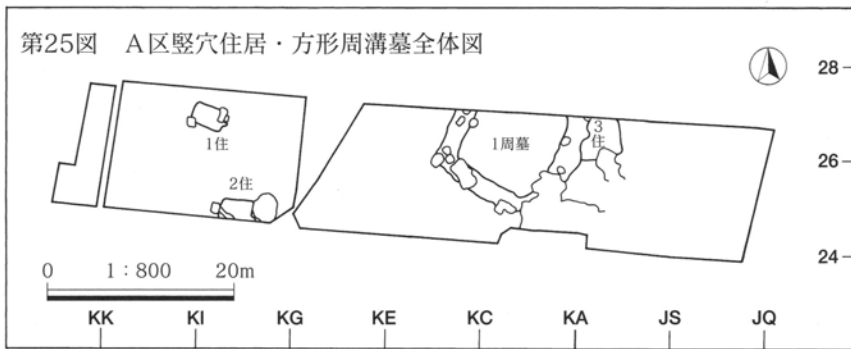
竪穴住居・竪穴状遺構・方形周溝墓の概要

竪穴住居は、A区（3軒ともA-1区）で3軒（平安時代2軒、古墳時代前期1軒）、B区で12軒（古墳時代前期10軒、中期2軒）、C区で9軒（古墳時代前期3軒、中期6軒）検出されている。竪穴住居は後世の耕作や攪乱で表土（遺構覆土）が削平されて残りが悪く、床面が確認されたのは9軒（A区1・2住、B区11住、C区2・4・6・7・

8・9住）で、他は掘り方のみの検出であった。B-2区で検出された8・9号住居は調査当初、住居として調査したが、平面形は不整形を呈し、出土遺物も少なかったため、それぞれ1・2号竪穴状遺構として報告する。

方形周溝墓は、A区で1基（A-1区）検出された。表土が薄い上に、後世の攪乱がひどく、残存状態はあまり良好ではなかった。

(1) A区竪穴住居・方形周溝墓



A区1号住居（第26・27図、P L10・43）

位置 KH-26（A-1区）

重複 なし。

形態 長軸3.9m、短軸2.4mの長方形を呈する。

面積 8.75㎡

方位 N-66° -W

床面 遺構確認面より3m掘り込んで床面となる。

床面の標高は平均36.74mを測る。表土が薄く、攪乱などにより残存状態が悪かった。

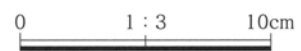
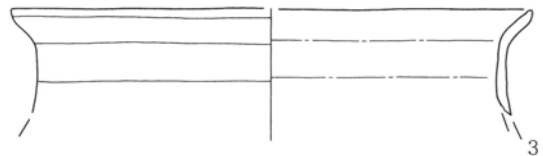
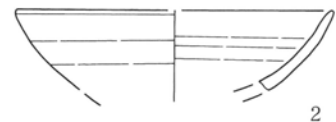
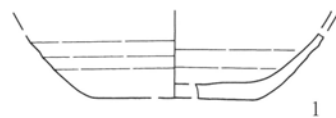
壁溝・貯蔵穴 検出されなかった。住居の中央付近で長径1.39m・短径1.02m・深さ0.24mの床下土坑を検出した。

柱穴 ピット1は径38cm・深さ20cmを測る。

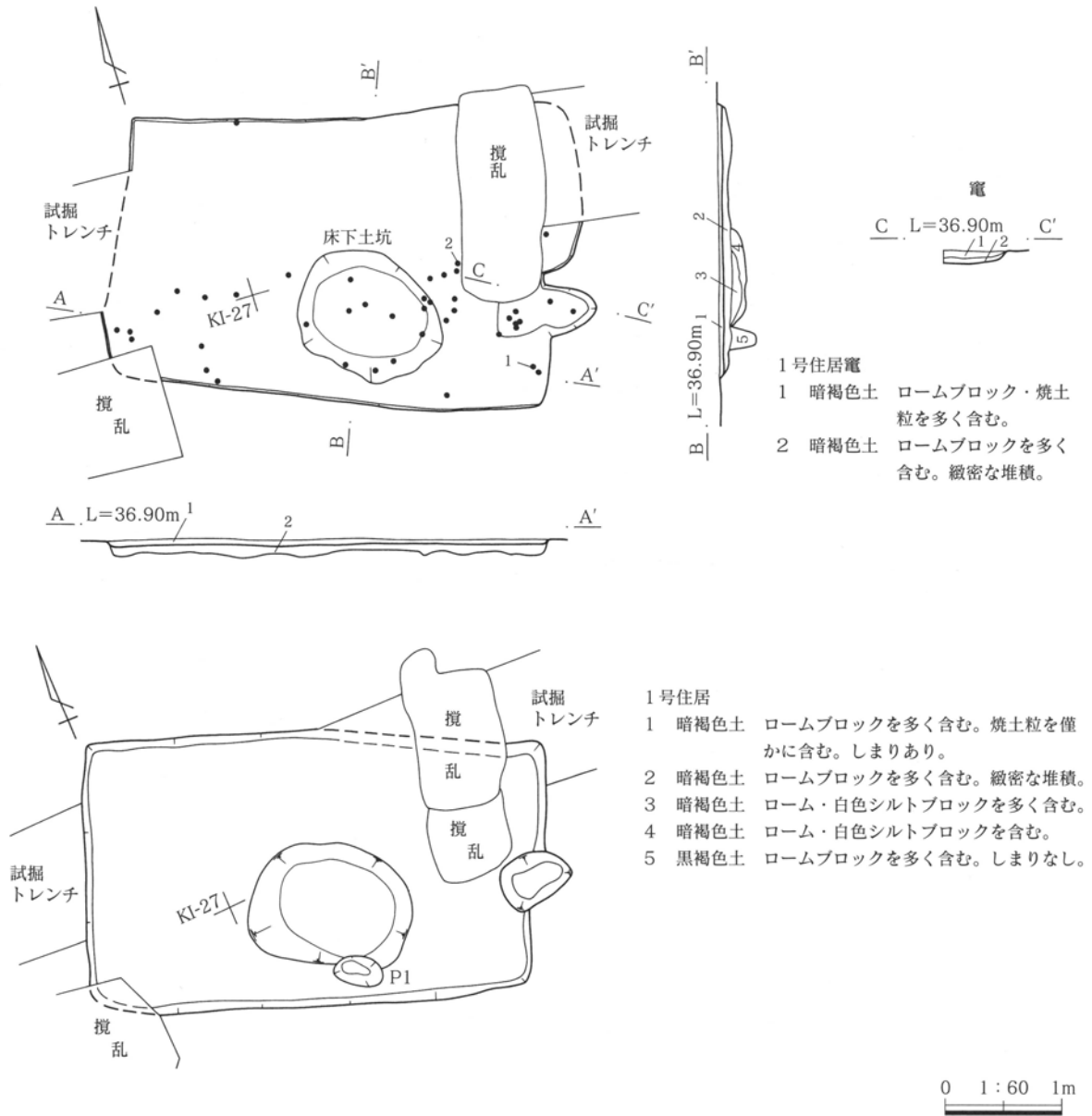
竈 東壁のほぼ南寄りに設置。規模は、両袖39cm、煙道48cmを測る。

遺物 須恵器坏、土師器甕が出土している。他に土師器片（コの字甕など）160g、須恵器片20gが出土。

所見 出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第26図 A区1号住居出土遺物



第27図 A区1号住居・掘り方

A区2号住居 (第28図、PL10・43)

位置 KH-24 (A-1区)

重複 14・17号溝と重複している。本住居が古い。

形態 長軸3.7m、短軸(2.5)mを測る。

面積 (8.65) m²

方位 N-79°-W

床面 遺構確認面より4cm掘り込んで床面となる。

床面の標高は平均36.68mを測る。

壁溝・貯蔵穴 検出されなかった。住居の中央付近で長径1.42m・短径1.16m・深さ0.26mの床下土

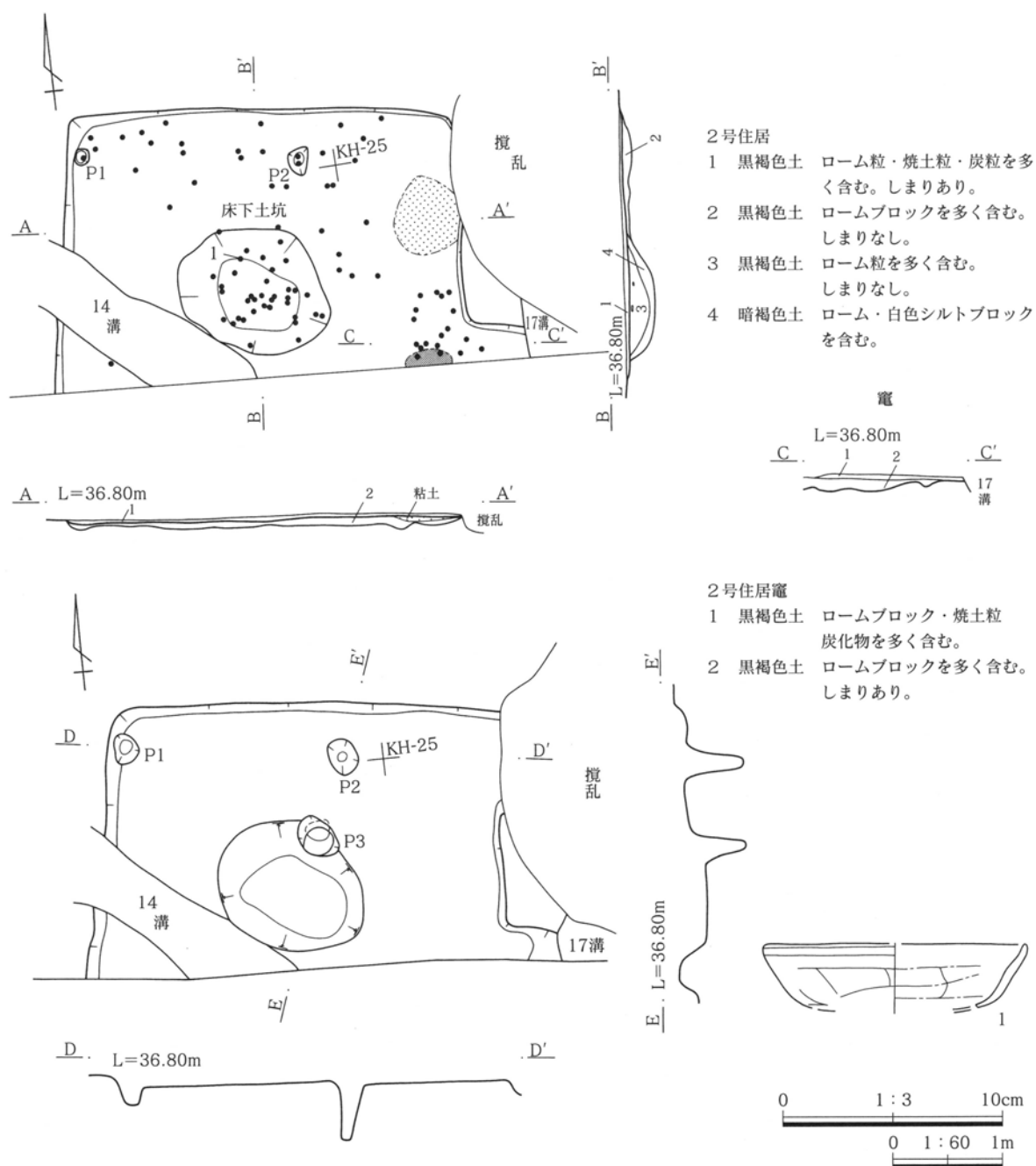
坑を検出した。

柱穴 ピット1は径28cm・深さ18cm、ピット2は径31cm・深さ44cm、ピット3は径41cm・深さ42cmを測る。

竈 東壁に設置。規模は、両袖(30)cm、煙道(60)cmを測る。燃烧部付近に焼土分布が確認された。

遺物 土師器片が出土している。他に土師器片250g、須恵器片5g出土。

所見 出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第28図 A区2号住居・掘り方、出土遺物

A区3号住居 (第29図、P L11・43)

位置 JT-25 (A-1区)

重複 1号方形周溝墓と重複している。本住居が古い。

形態 長軸(4.6)m、短軸(3.6)mを測る。

面積 (14.05) m²

方位 測定不可能

床面 攪乱が多く、床面は検出できなかった。掘り方面の標高は平均36.88mを測る。

壁溝・炉 検出されなかった。北東隅に焼土分布が確認された。

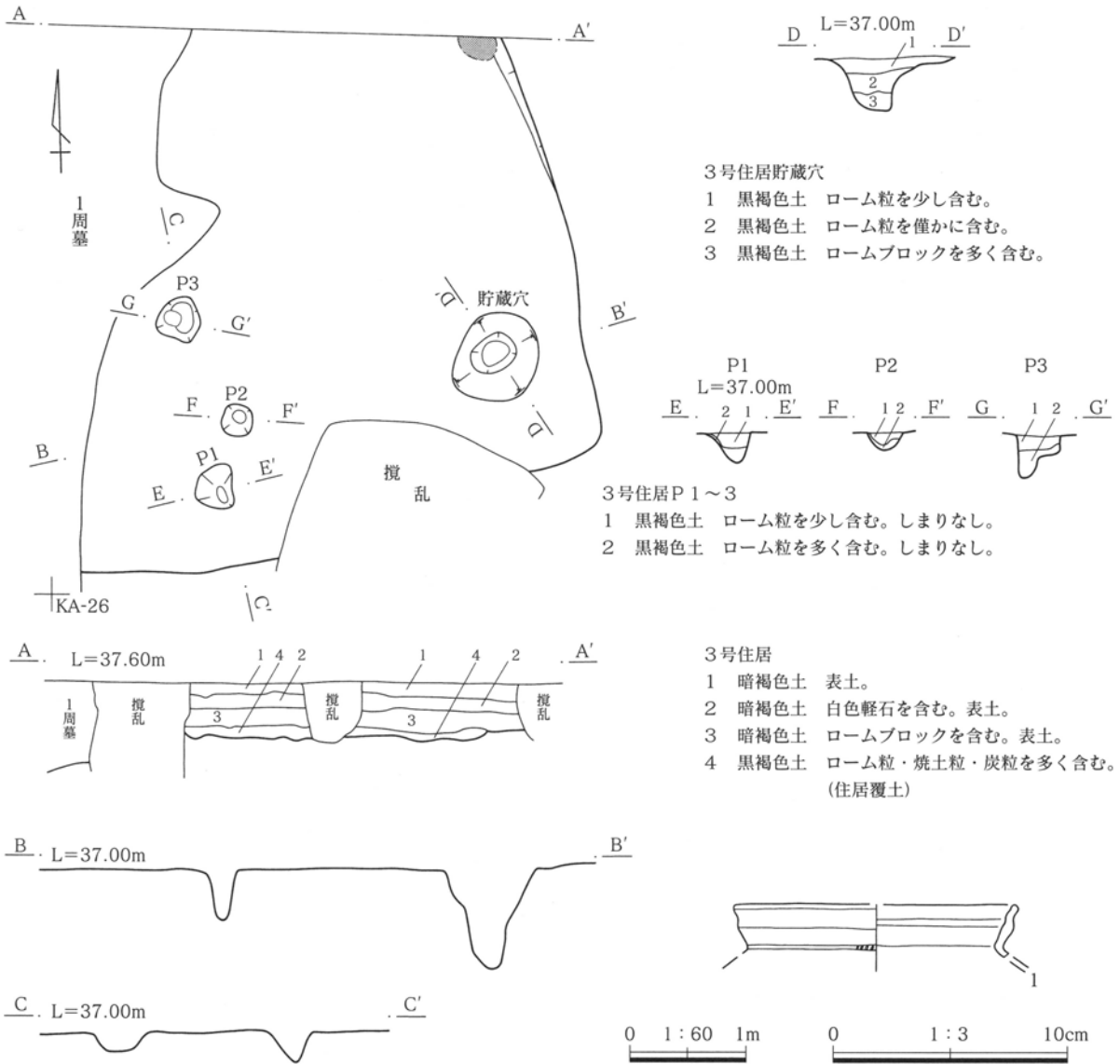
貯蔵穴 住居の南東隅に設置。径86cm・深さ46cmのほぼ円形を呈する。

柱穴 ピット1は径32cm・深さ24cm、ピット2

は径30cm・深さ16cm、ピット3は径38cm・深さ36cmを測る。

遺物 土師器台付甕が出土している。他に、土師器片85gが出土。

所見 出土遺物が少なく、時期の認定は困難だが、方形周溝墓が本住居を壊して造られていること、周辺からの出土遺物は古式土師器が多いことなどから、古墳時代前期（4世紀前半）と考えられる。



A区1号方形周溝墓 (第30・31図、P L22・43)
 位置 KA~C-25~27 (A-1区)
 重複 3号住居、58~74・79号土坑、22号溝と重複している。本遺構が3住より新しく、他の遺構より古い。
 長軸方位 N-65° -W (東西軸)

面積 全形：(131.53) m²、方台部：(72.47) m²
 形態 北側が調査区外、南側が後世の攪乱などのため、正確な形態は不明であるが、北東隅の周溝がやや内側に曲がっていることから、ほぼ正方形を呈すると想定される。
 規模 全長：長軸（東西）14.0m・短軸（南北）

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

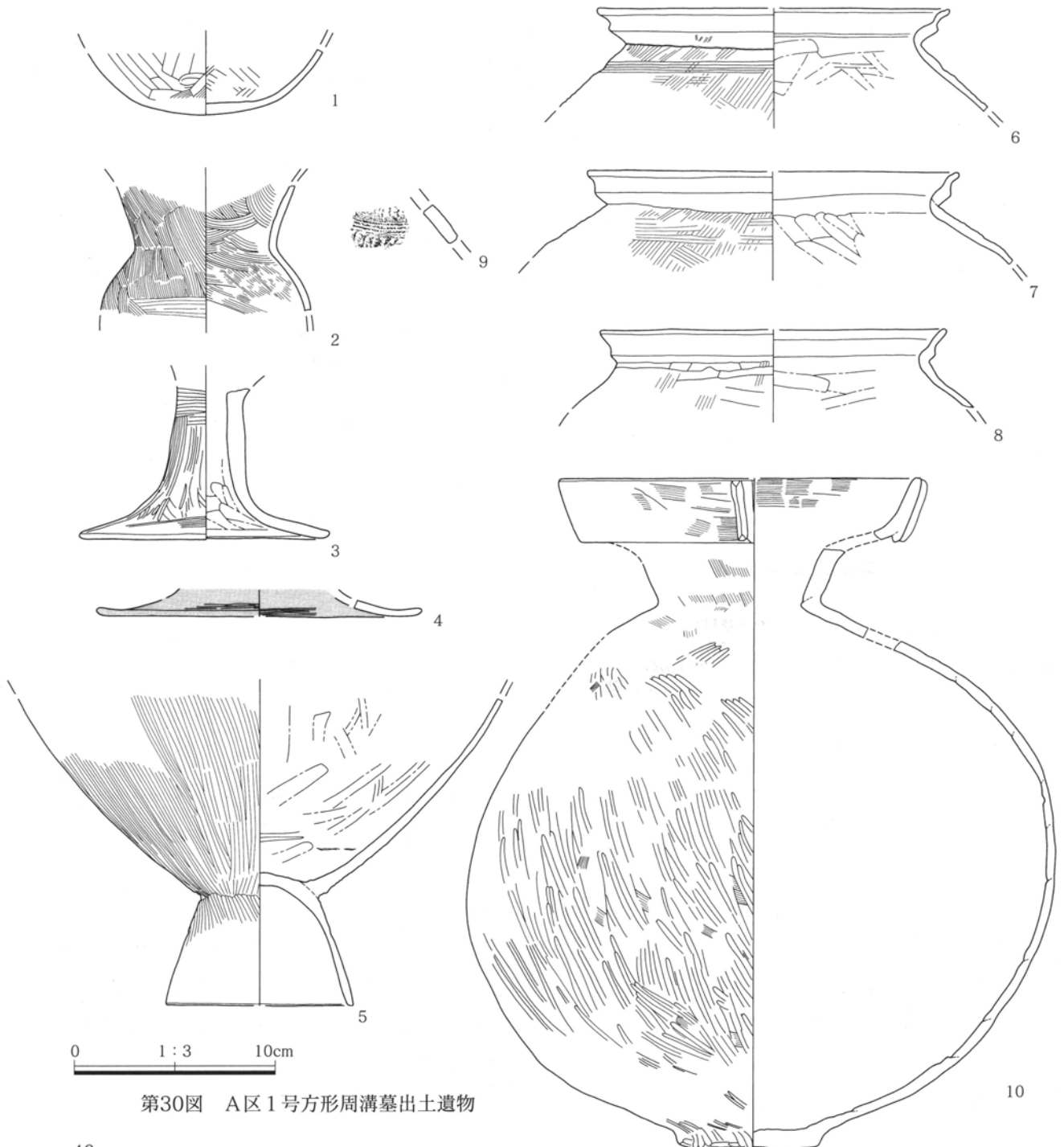
(12.0) m、方台部：東西軸9.2m・南北軸(9.0m)を測る。

方台部(主体部) 台状部の盛土及び主体部の掘り込みは、検出できなかった。

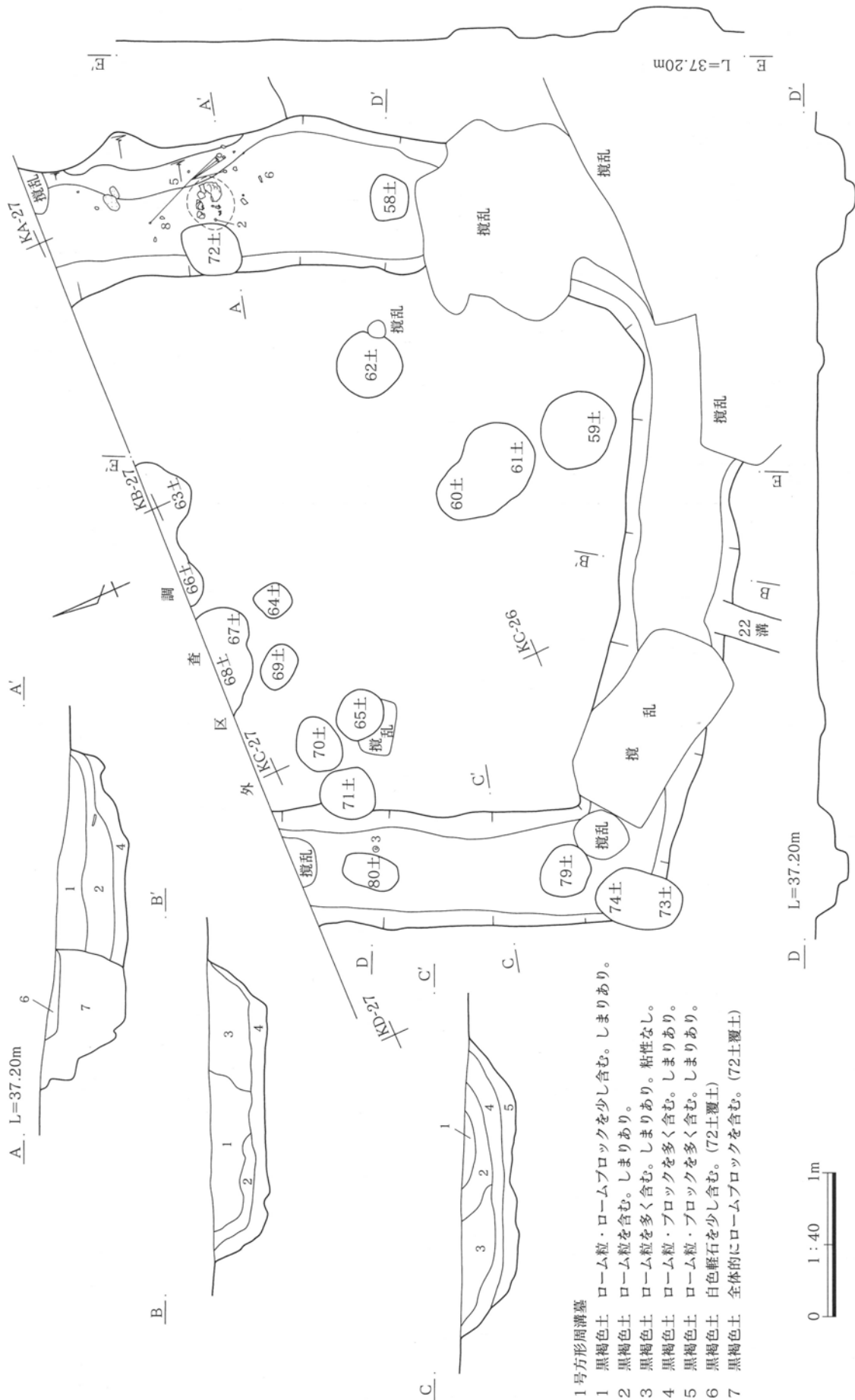
周溝 断面形は逆台形を呈する。規模は上幅1.9~2.6m・下幅1.2~2.0m、深さ0.5~0.6mを測り、西側に比べ東側がやや幅広く、底面は凹凸が少ない。

遺物 土師器壺・埴・台付甕が出土している。他に、土師器片930gが出土。出土遺物は比較的少なく、ほとんどが東側の周溝で確認された。遺物番号10の壺は周溝底面(+27~36cm)より浮いて出土しており、周溝が埋没していく過程で、方台部におかれていたものが転落したと想定される。

所見 出土遺物・覆土から時期は古墳時代前期と考えられる。



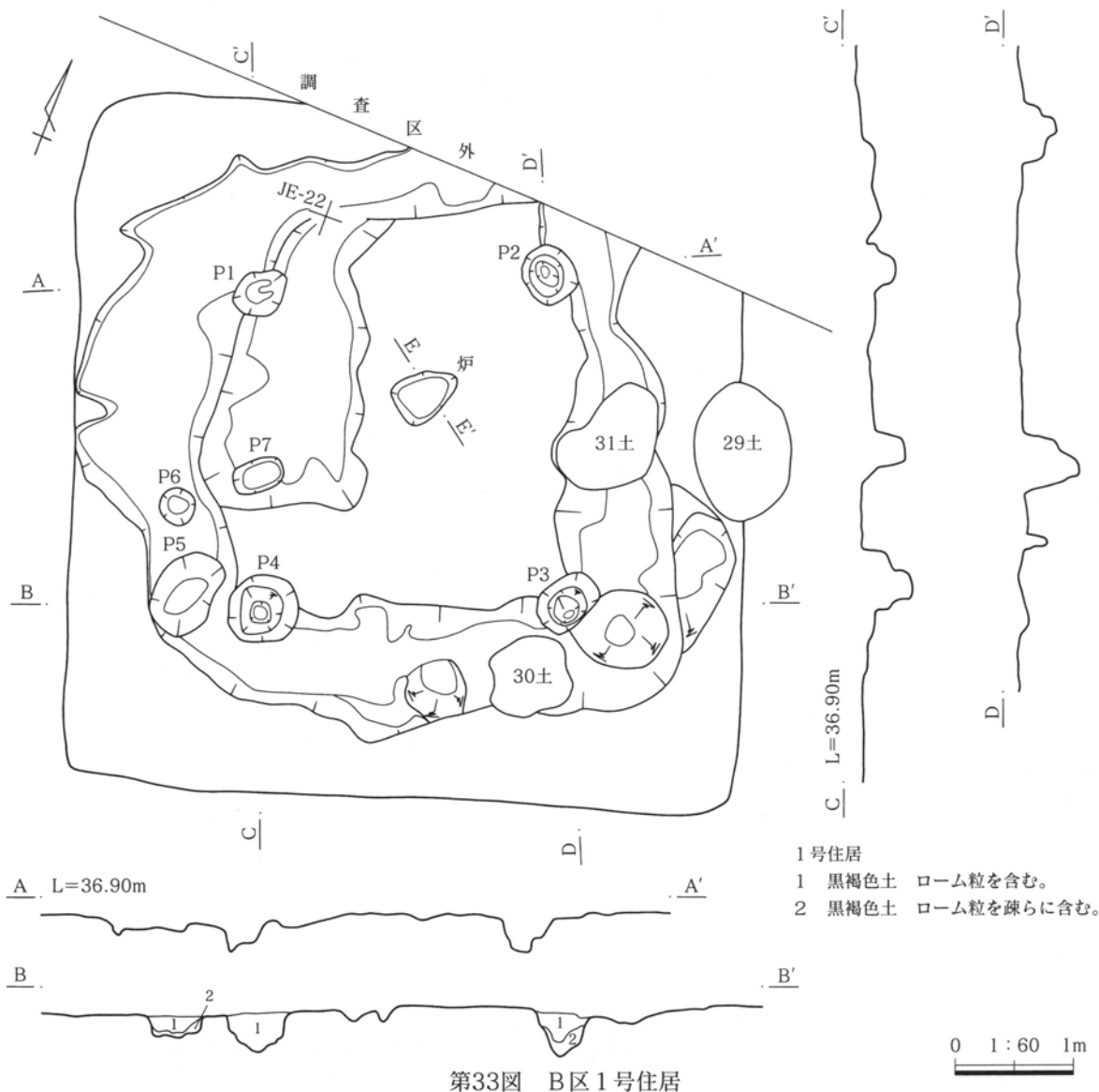
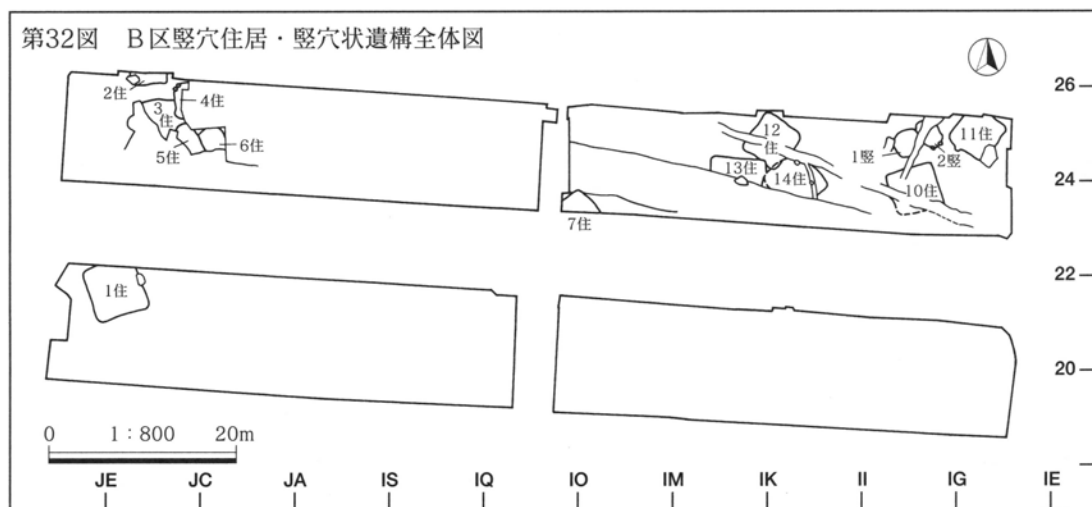
第30図 A区1号方形周溝墓出土遺物



第31図 A区1号方形周溝墓

- 1号方形周溝墓
- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックを少し含む。しまりあり。
 - 2 黒褐色土 ローム粒を含む。しまりあり。
 - 3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。しまりあり。粘性なし。
 - 4 黒褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。しまりあり。
 - 5 黒褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。しまりあり。
 - 6 黒褐色土 白色脛石を少し含む。(72土覆土)
 - 7 黒褐色土 全体的にロームブロックを含む。(72土覆土)

(2) B区竪穴住居・竪穴状遺構



第33図 B区1号住居

B区1号住居 (第33・34図、PL11)

位置 JD-21 (B-3区)

重複 29・30・31号土坑と重複している。

形態 長軸5.8m、短軸5.7mの隅丸方形を呈する。

面積 (24.89) m²

方位 N-19° -W

床面 攪乱のため床面は検出できなかったため、柱穴等から住居範囲を想定した。掘り方面の標高は平均36.75mを測る。

壁溝・貯蔵穴 検出されなかった。

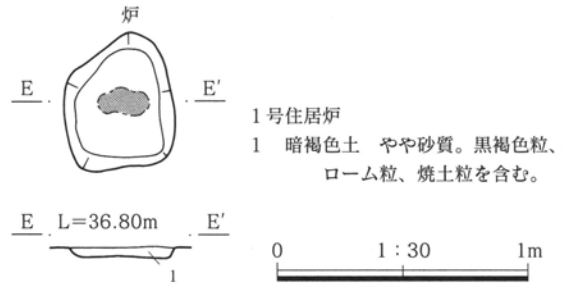
柱穴 ピット1は、径40cm・深さ21cm。ピット2は、径48cm・深さ27cm。ピット3は、径54cm

・深さ46cm。ピット4は、径59cm・深さ42cmを測る。

炉 ほぼ中央部に設置。規模は、長軸56cm、短軸36cm、深さ4cmを測る。

遺物 掲載遺物はないが、S字状口縁台付甕などの土師器片70gが出土している。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第34図 B区1号住居炉

B区2号住居 (第35・36図、PL12・43)

位置 JD-26 (B-1区)

重複 なし。

形態 長軸4.0m、短軸(1.3)mを測る。

面積 (4.61) m²

方位 測定不可能。

床面 攪乱のため床面は検出できなかった。掘り方面の標高は平均37.07mを測る。

壁溝 検出されなかった。

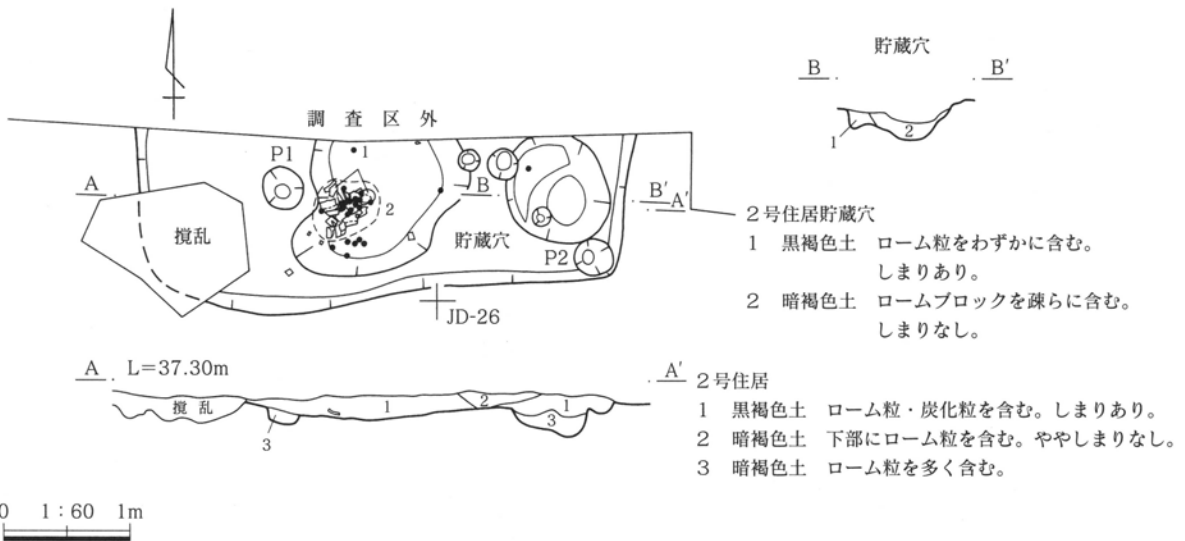
貯蔵穴 住居の南東隅に設置。径88cm・深さ16cmの楕円形を呈する。

柱穴 ピット1は、径31cm・深さ17cm、ピット2は、径32cm・深さ27cmを測る。

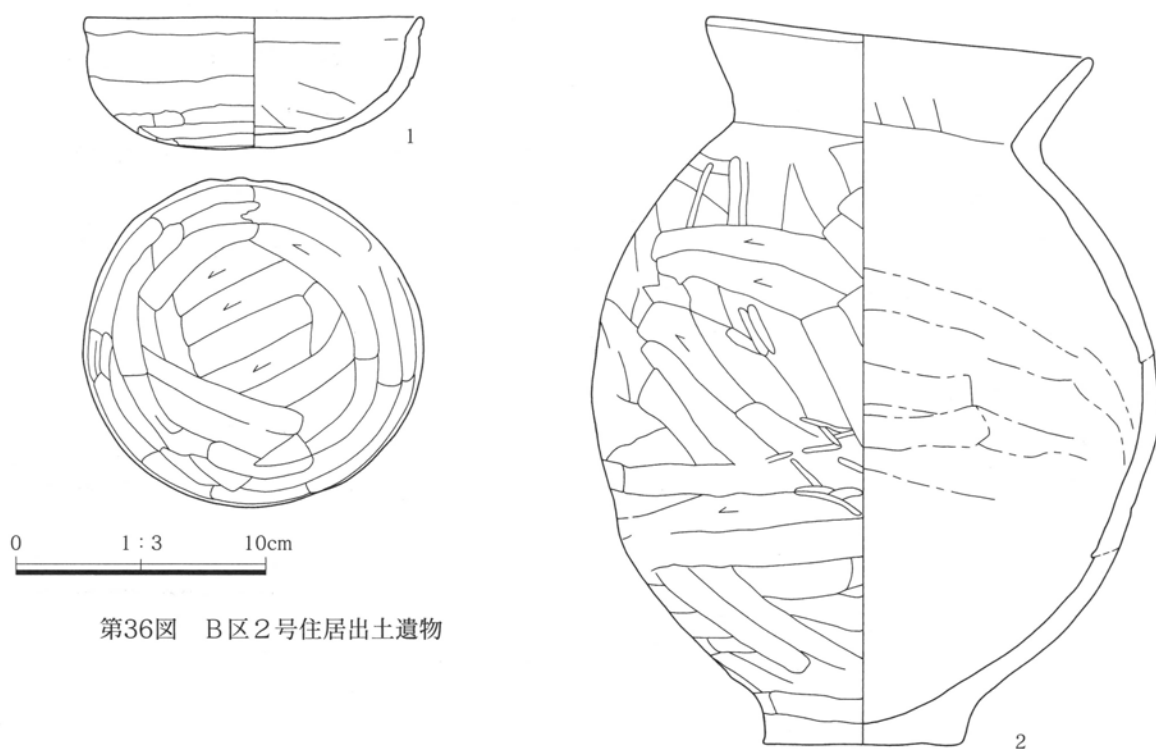
竈 検出されなかったが、遺物からB区11住とほぼ同時期のため、竈は調査区外の北側に設置されていたと想定される。

遺物 土師器坏・甕が出土している。他に、土師器片945gが出土。

所見 出土遺物から古墳時代中期(5世紀後半)と考えられる。



第35図 B区2号住居



第36図 B区2号住居出土遺物

B区3号住居 (第37・38図、P L12・43)

位置 J C-25 (B-1区)

重複 4号住居と重複している。本住居が古い。

形態 長軸 (3.5) m、短軸 (0.8) mを測る。

面積 (10.85) m²

方位 N-1° -W

床面 攪乱のため床面は検出できなかった。掘り方面の標高は平均37.07mを測る。

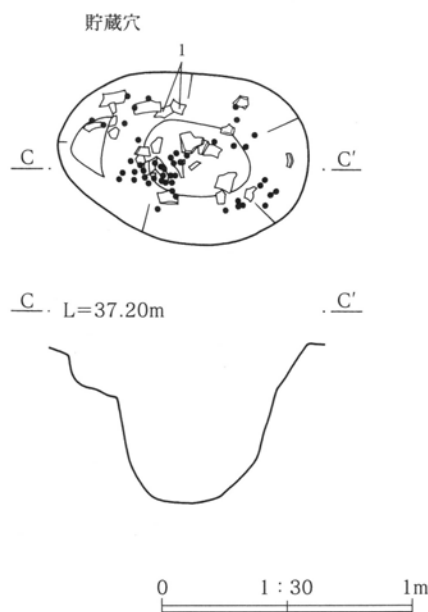
壁溝・炉 検出されなかった。

貯蔵穴 住居の北西隅に設置。径98cm・深さ61cmの楕円形を呈する。

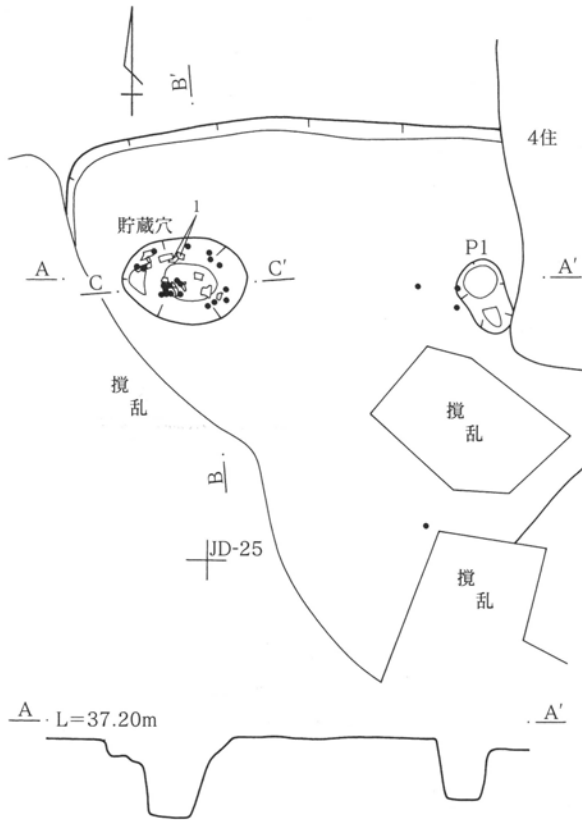
柱穴 ピット1は、径38cm・深さ42cmを測る。

遺物 土師器台付甕が出土している。他に、土師器片1.14kgが出土。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



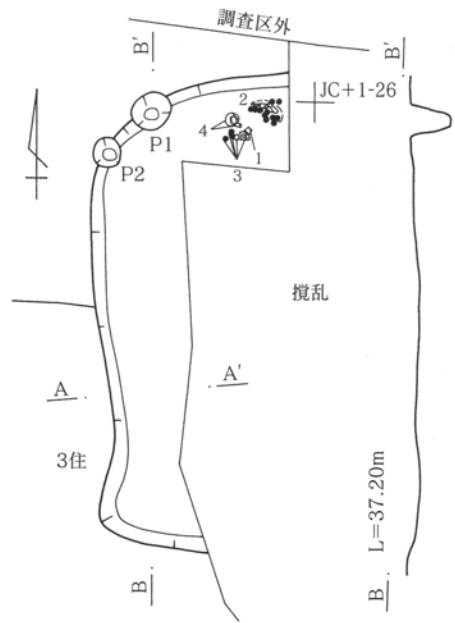
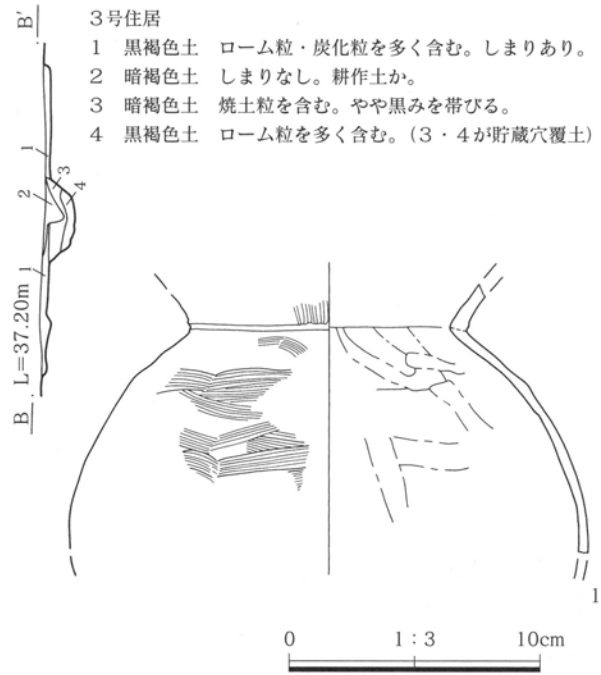
第37図 B区3号住居貯蔵穴



0 1:60 1m

第38図 B区3号住居、出土遺物

B区4号住居 (第39・40図、P L12・43)
 位置 JC-25 (B-1区)
 重複 3号住居と重複している。本住居が新しい。
 形態 長軸3.7m、短軸(1.5)mを測る。
 面積 (2.10) m²
 方位 N-4°-W
 床面 攪乱のため床面は検出できなかった。掘り方面の標高は平均37.09mを測る。
 壁溝・貯蔵穴・炉 検出されなかった。
 柱穴 ピット1は、径31cm・深さ25cm、ピット2は、径22cm・深さ12cmを測る。
 遺物 土師器短頸壺・台付甕が出土している。他に、土師器片60gが出土。
 所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

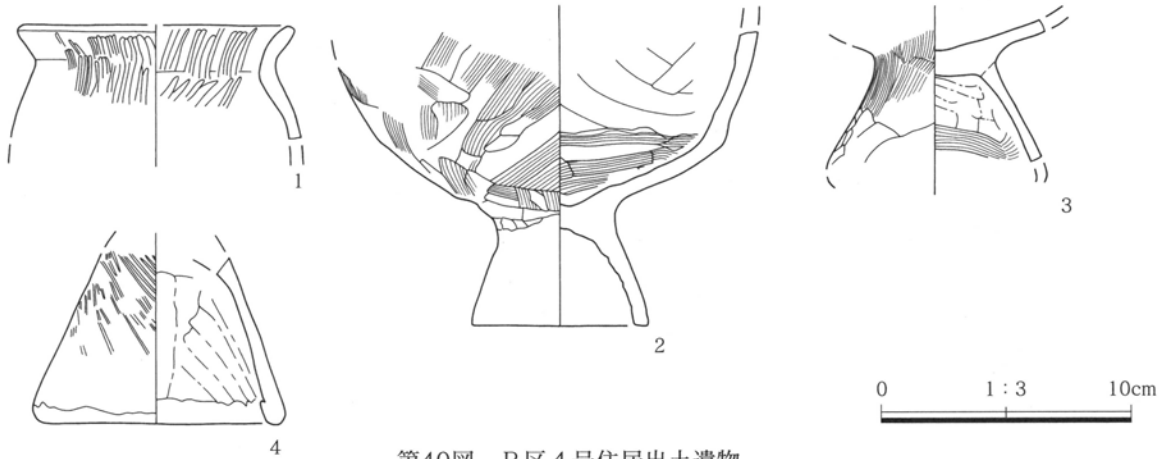


0 1:60 1m

L=37.20m
A 3住 A'

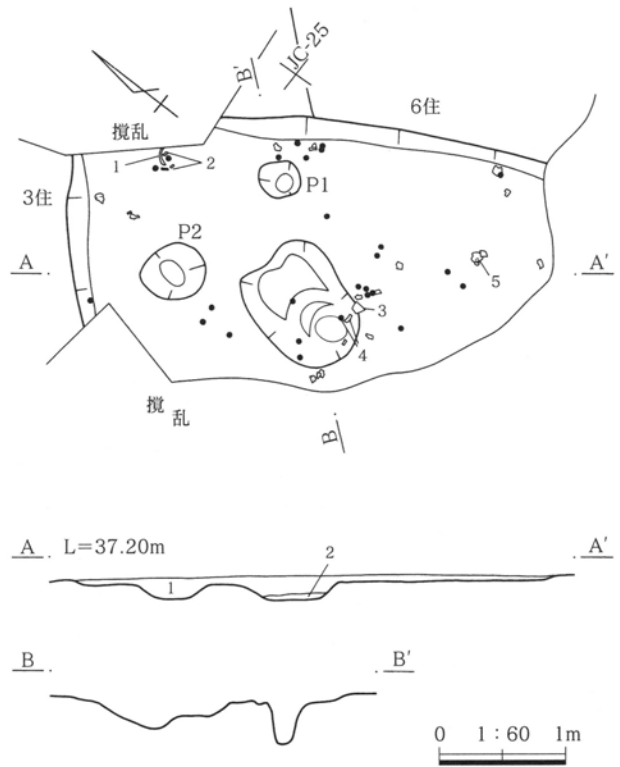
4号住居
 1 黒褐色土 ローム粒・白色粒を含む。
 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む。

第39図 B区4号住居



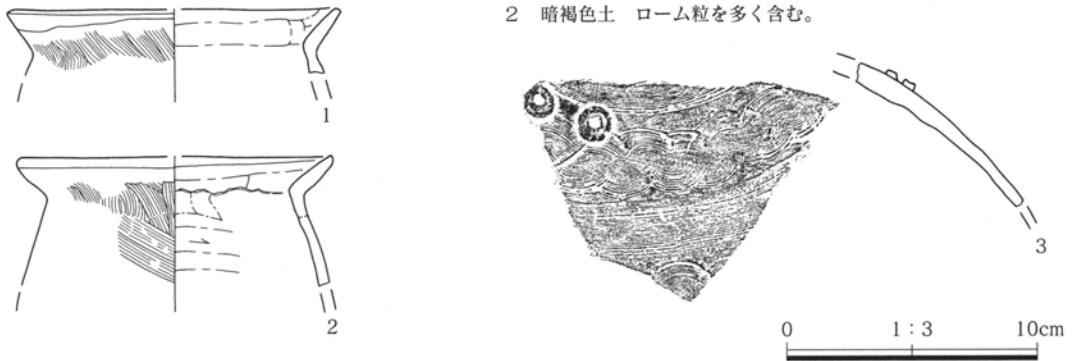
第40図 B区4号住居出土遺物

B区5号住居 (第41・42図、P L12・43・44)
位置 J C-24 (B-1区)
重複 6号住居と重複している。本住居が新しい。
形態 長軸 (3.8) m、短軸 (1.4) mを測る。
面積 (5.75) m²
方位 N-47° - E
床面 攪乱のため床面は検出できなかった。掘り方面の標高は平均36.98mを測る。
壁溝・貯蔵穴 検出されなかった。
柱穴 ピット1は、径34cm・深さ33cm、ピット2は、径46cm・深さ33cmを測る。
炉 住居のほぼ中央部に設置。長軸95cm、短軸72cm、深さ25cmを測る。
遺物 土師器小型甕・壺・台付甕が出土している。他に、土師器片790gが出土。
所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

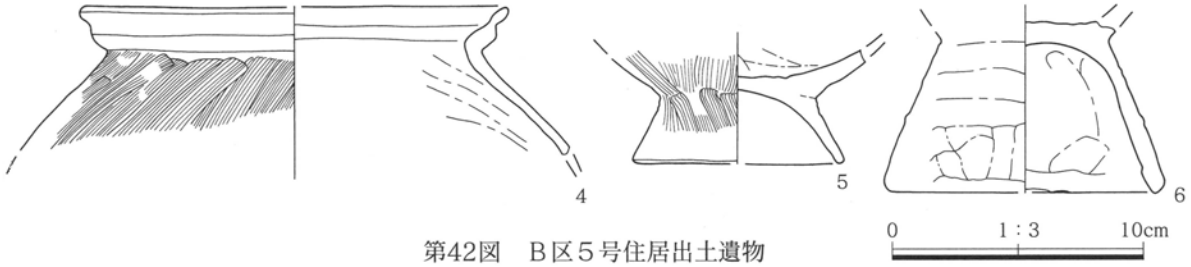


5号住居

- 1 黒褐色土 ローム粒・炭化粒・白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む。



第41図 B区5号住居、出土遺物



第42図 B区5号住居出土遺物

B区6号住居 (第43図、P L12・44)

位置 JB-24 (B-1区)

重複 5号住居と重複している。本住居が古い。

形態 長軸 (3.1) m、短軸 (2.0) mを測る。

面積 (5.33) m²

方位 N-44° - E

床面 攪乱のため床面は検出できなかった。掘り方面の標高は平均37.00mを測る。

壁溝 検出されなかった。

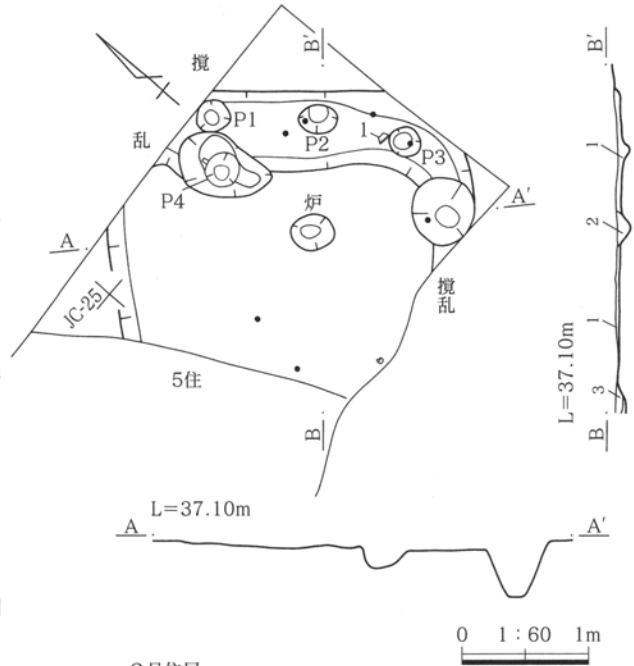
貯蔵穴 住居の北東隅に設置。径50cm・深さ38cmの楕円形を呈する。

柱穴 ピット1は径26cm・深さ21cm、ピット2は径28cm・深さ23cm、ピット3は径24cm・深さ23cm、ピット4は径27cm・深さ37cmを測る。

炉 住居のほぼ中央部に設置。長軸46cm、短軸38cm、深さ27cmを測る。

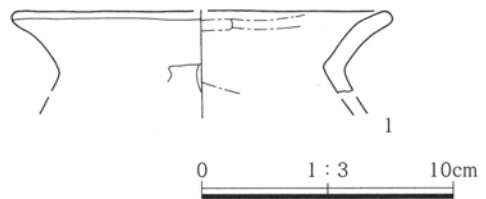
遺物 土師器甕が出土している。他に土師器片350g、陶磁器小片 (混入遺物) が出土。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



6号住居

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。(5住覆土)



第43図 B区6号住居、出土遺物

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 ピット1は径49cm・深さ41cm、ピット2は径36cm・深さ31cmを測る。

炉 長軸38cm、短軸30cm、深さ12cmを測る。

遺物 土師器台付甕が出土している。他に土師器片670gが出土。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

B区7号住居 (第44図、P L13・44)

位置 IN-23 (B-2区)

重複 37号土坑と重複している。本住居が古い。

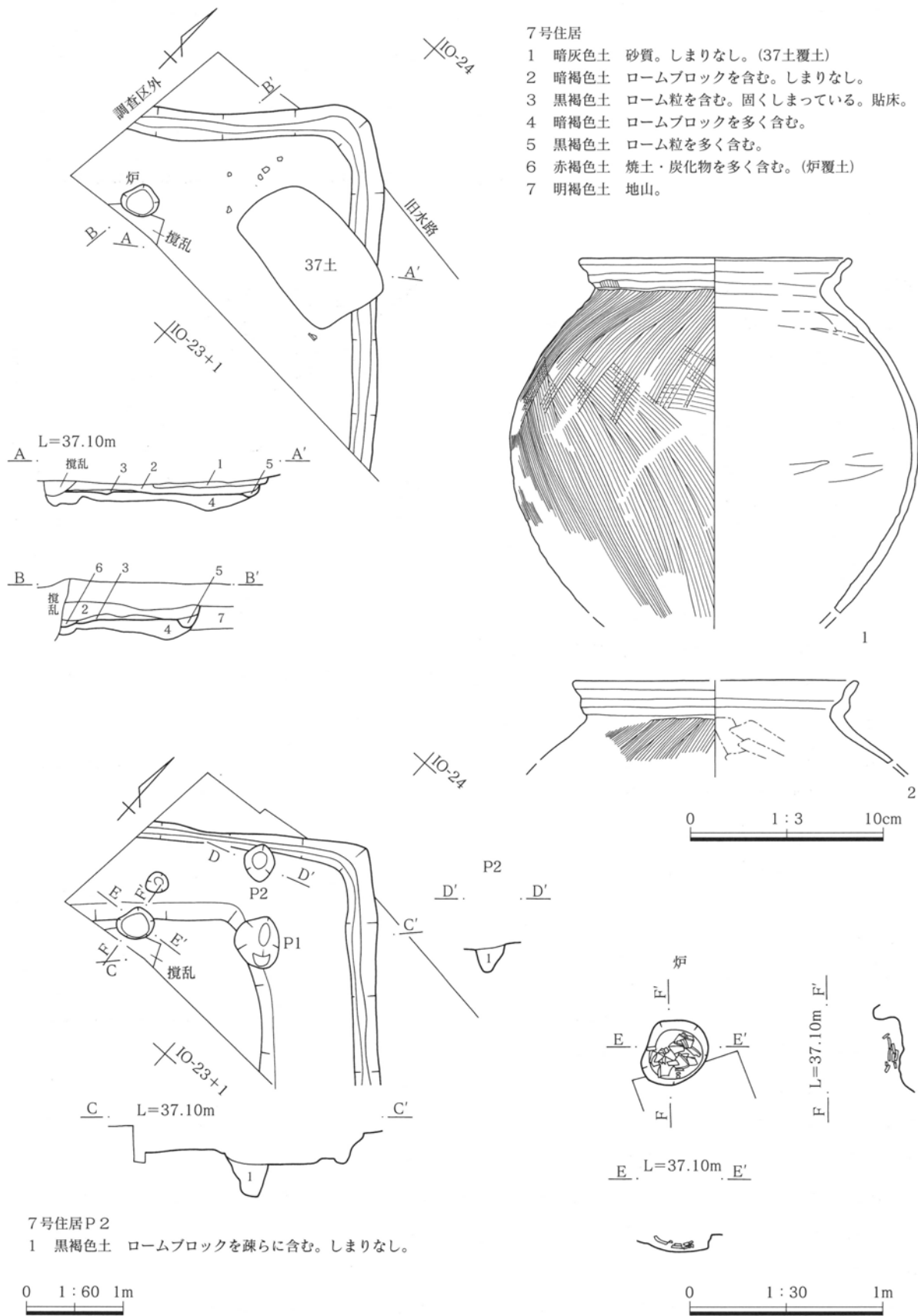
形態 長軸 (3.5) m、短軸 (2.2) mを測る。

面積 (6.61) m²

方位 N-54° - E

床面 遺構確認面から18cm掘り込んで、床面になる。床面は一部貼床構造で、ロームブロックを含む黒褐色粘質土で固く踏み固められていた。標高は平均36.78mを測る。

壁溝 幅約23cm、深さ約4cmの壁溝が一周している。



第44図 B区7号住居・掘り方、出土遺物

B区10号住居 (第45・46図、P L13・14・44)

位置 IG-23 (B-2区)

重複 21・24号溝と重複している。本住居が古い。

形態 長軸4.8m、短軸4.6mの隅丸方形を呈する。

面積 (18.50) m²

方位 N-18° -E

床面 攪乱のため、確認面は使用面下までおよんでおり、掘り方面しか検出できなかった。掘り方面の標高は平均37.10mを測る。

壁溝 検出されなかった。

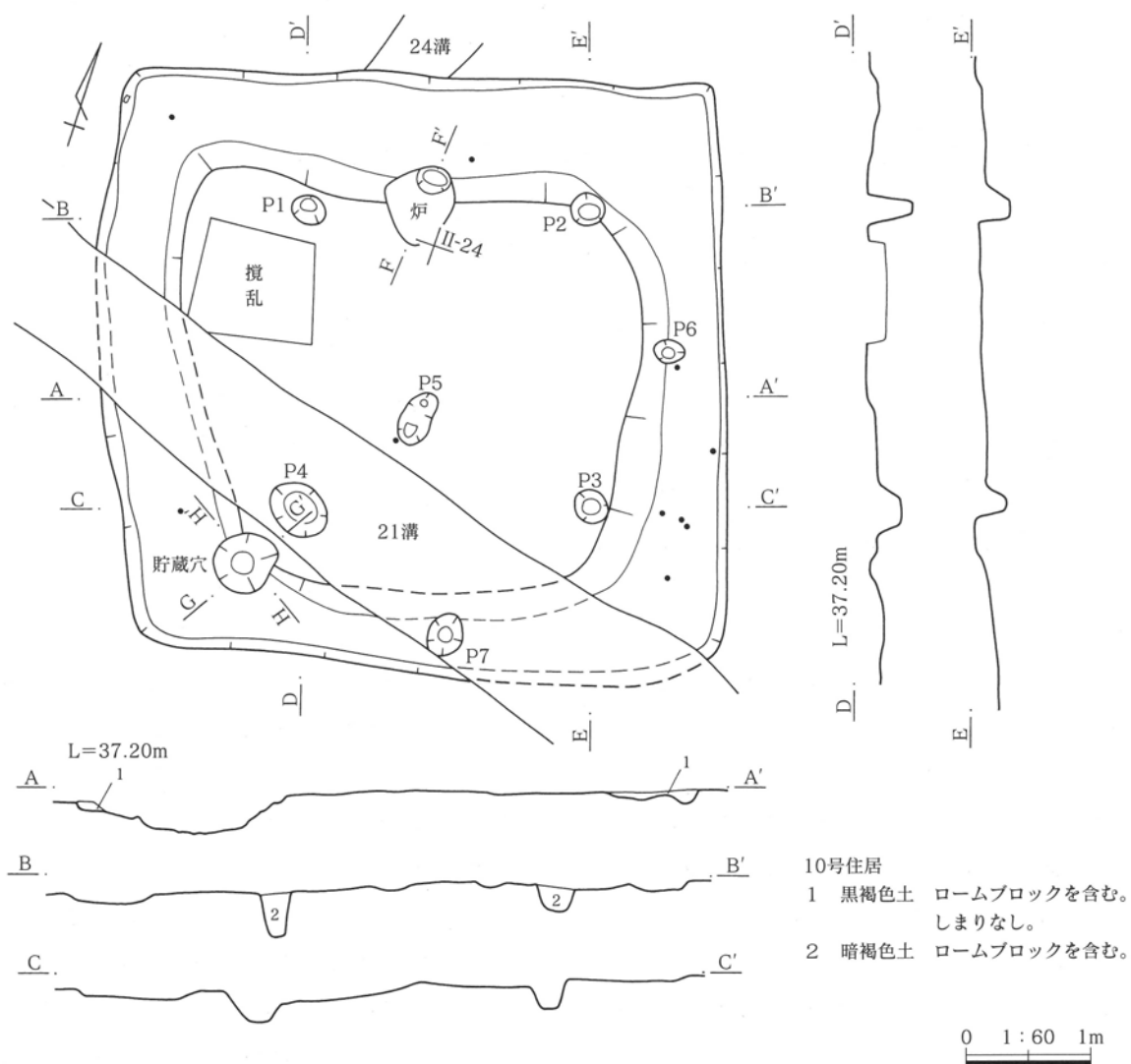
貯蔵穴 南西隅に設置。径46cm、深さ44cmを測る。

柱穴 ピット1は径26cm・深さ21cm、ピット2は径28cm・深さ19cm、ピット3は径27cm・深さ17cm、ピット4は径46cm・深さ19cmを測る。

炉 北側のほぼ中央に設置。削平されていて残存悪いが、僅かに焼土・炭化物の分布を検出した。長軸65cm、短軸59cm、深さ3cmを測る。

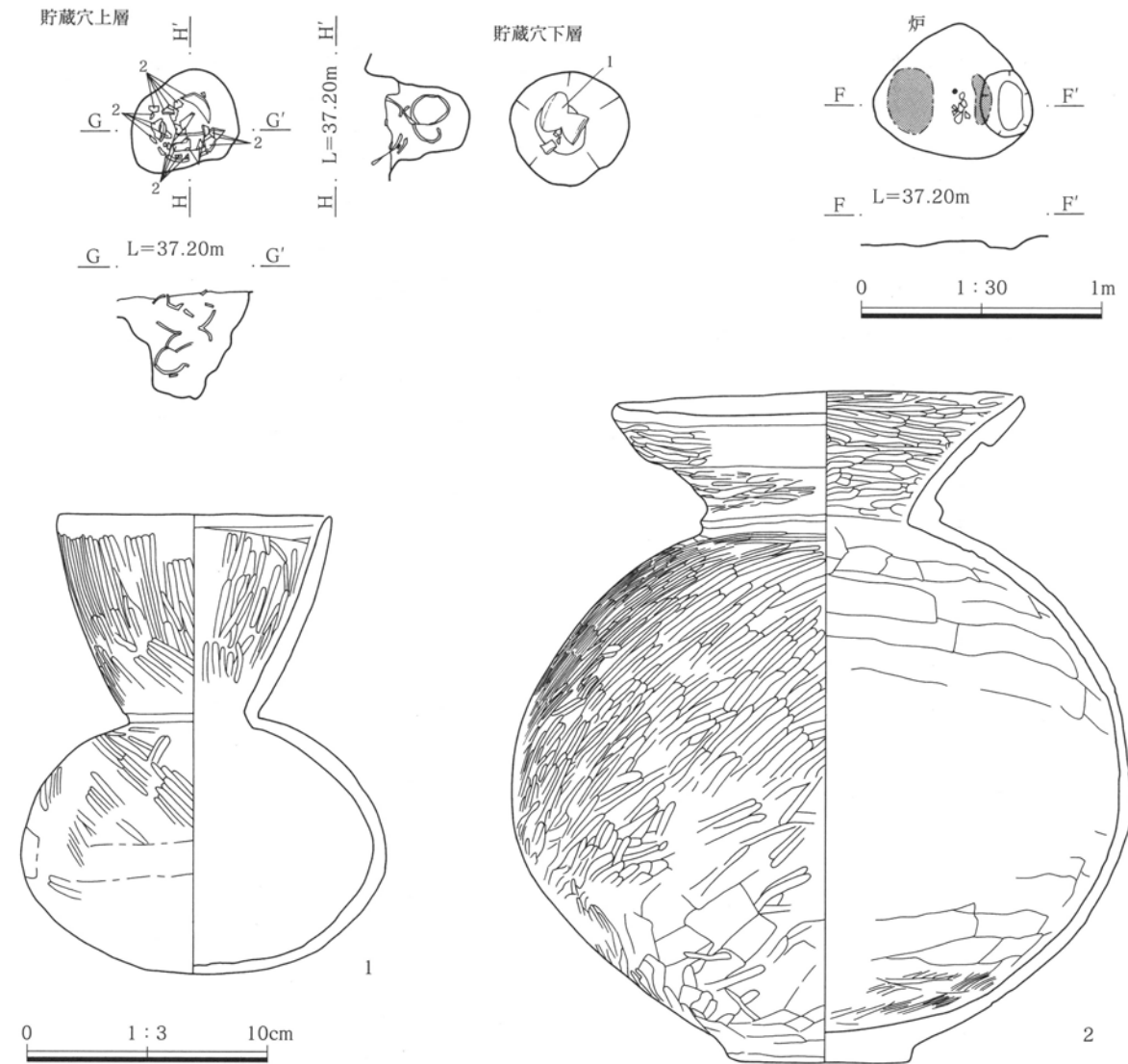
遺物 土師器埴・壺が出土している。他に土師器片420gが出土している。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第45図 B区10号住居

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物



第46図 B区10号住居炉・貯蔵穴、出土遺物

B区11号住居 (第47～50図、P L14・15・44・45)

位置 I F-24 (B-2区)

重複 なし。

形態 長軸4.5m、短軸4.4mの方形を呈する。

面積 (19.50) m²

方位 N-36° - E

床面 遺構確認面から15cm掘り込んで、床面になる。床面は一部貼床構造で、ロームブロックを含む黒褐色粘質土で固く踏み固められていた。標高は平均37.01mを測る。

壁溝 幅約20cm、深さ約6cmの壁溝がほぼ一周している。

貯蔵穴 住居の北東隅に設置。径64cm・深さ38cm

の楕円形を呈する。

柱穴 ピット1は径38cm・深さ25cm、ピット2は径34cm・深さ21cm、ピット3は、径34cm・深さ46cm、ピット4は径41cm・深さ65cmを測る。

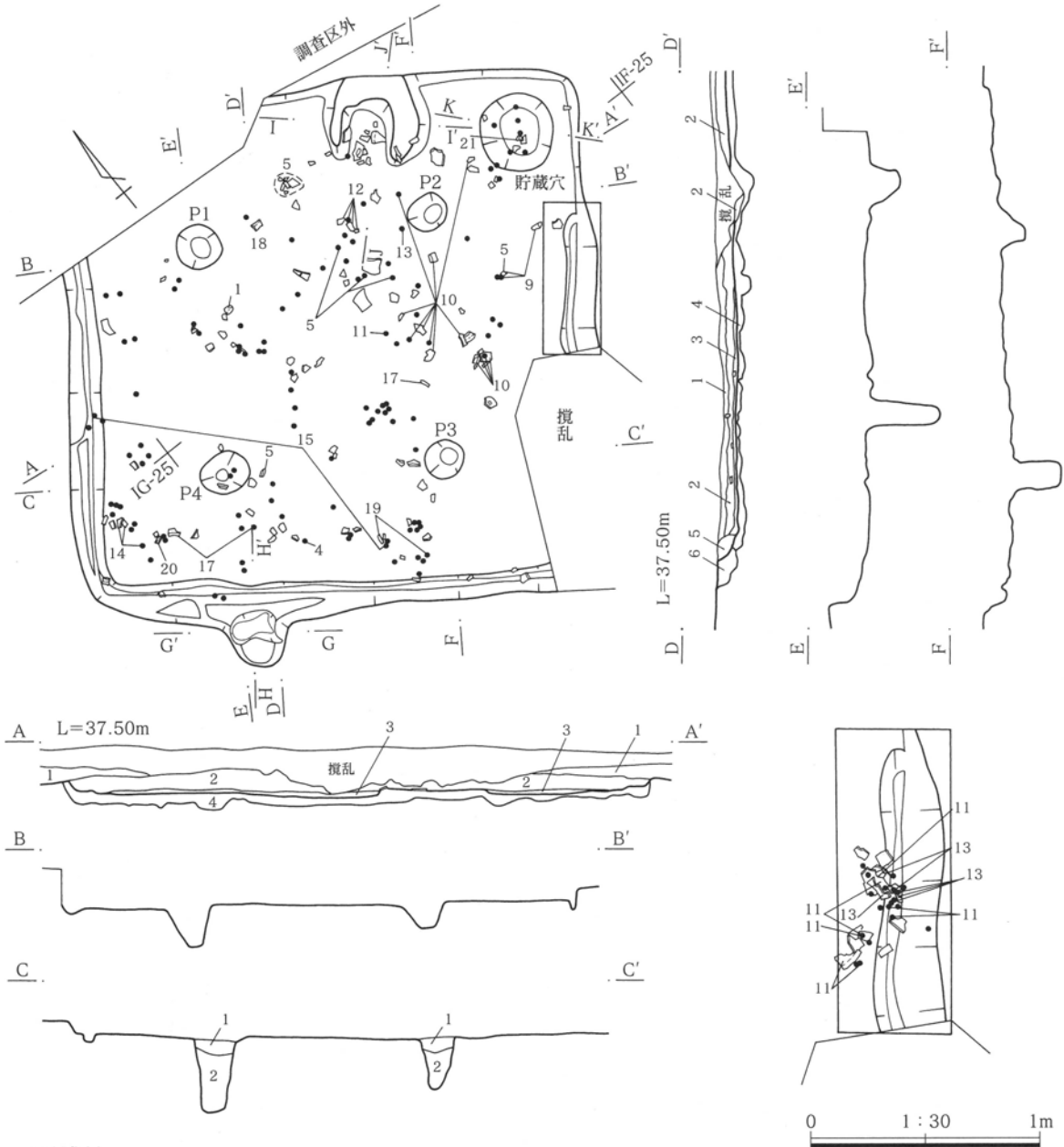
南竈 南壁面の西寄りに設置されていた。南竈を壊して壁溝が掘削されており、残存状態が悪い。焼土の塊が出土した。両袖方向78cm、煙道方向55cmを測る。

北竈 北壁面のほぼ中央を掘り込んで造られている。両袖は石材ではなく、粘質土を張り付けて造られていた。燃焼部内から土師器高坏、左右の袖部から甕が出土した。両袖方向46cm、煙道方向82cmを測る。南竈を廃棄した後、北竈を設置したと思わ

れる。

遺物 土師器坏・高坏・壺・甕・台付甕・手捏ね土器、砥石が出土している。遺物量は豊富で他に、土師器片17.86kgが出土している。

所見 出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と考えられる。周辺には4世紀代の住居が存在することから、台付甕は混入遺物と考えられる。



11号住居

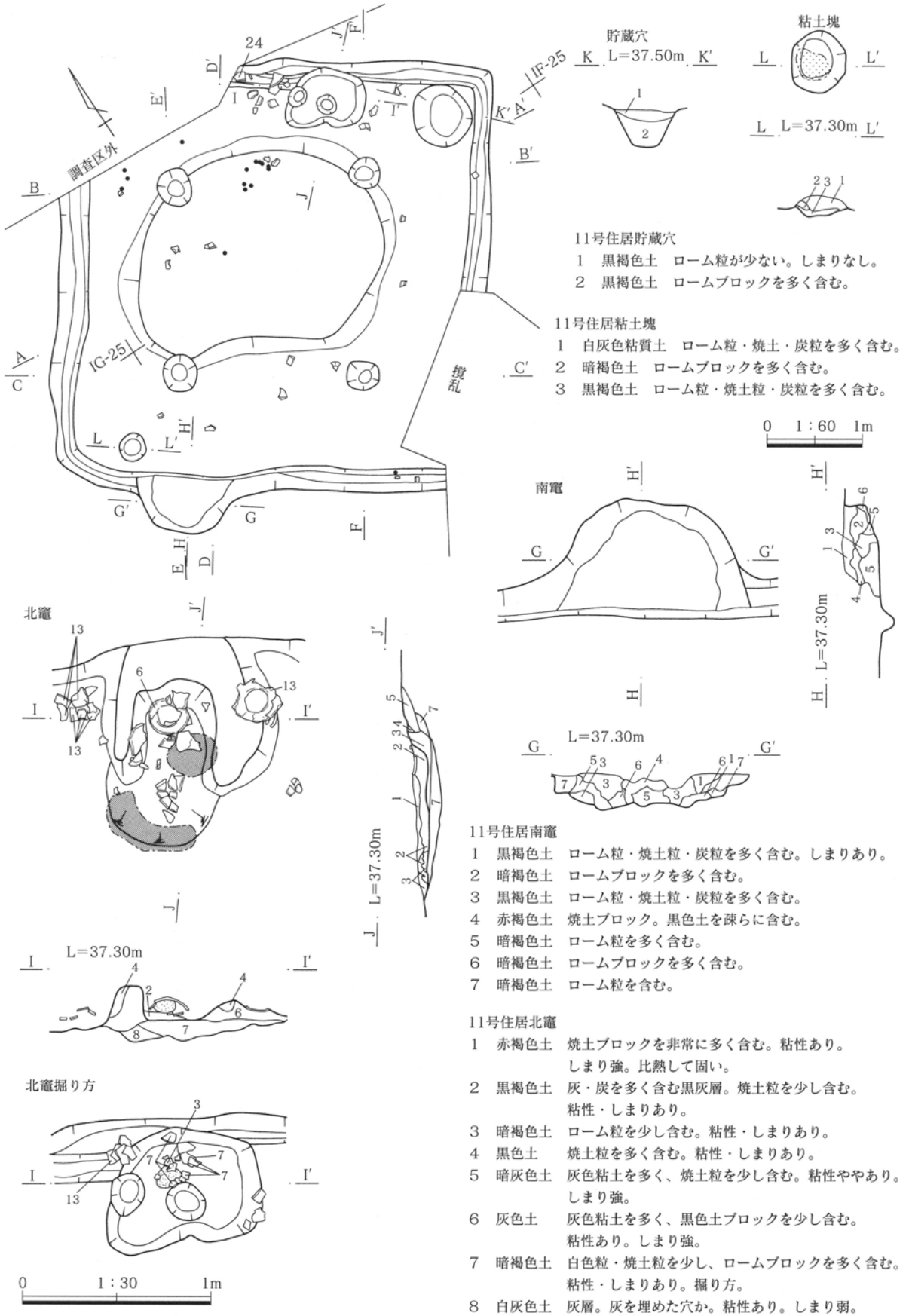
- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・白色粒を含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 1層より黒みを帯びる。
- 3 黒褐色土 ローム粒を含む。固くしまっている。貼床。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。掘り方覆土。
- 5 暗褐色土 炭粒・焼土粒・ローム粒を多く含む。(南竈)
- 6 暗褐色土 炭粒・焼土粒・ローム粒を含む。(南竈)

11号住居P3・4

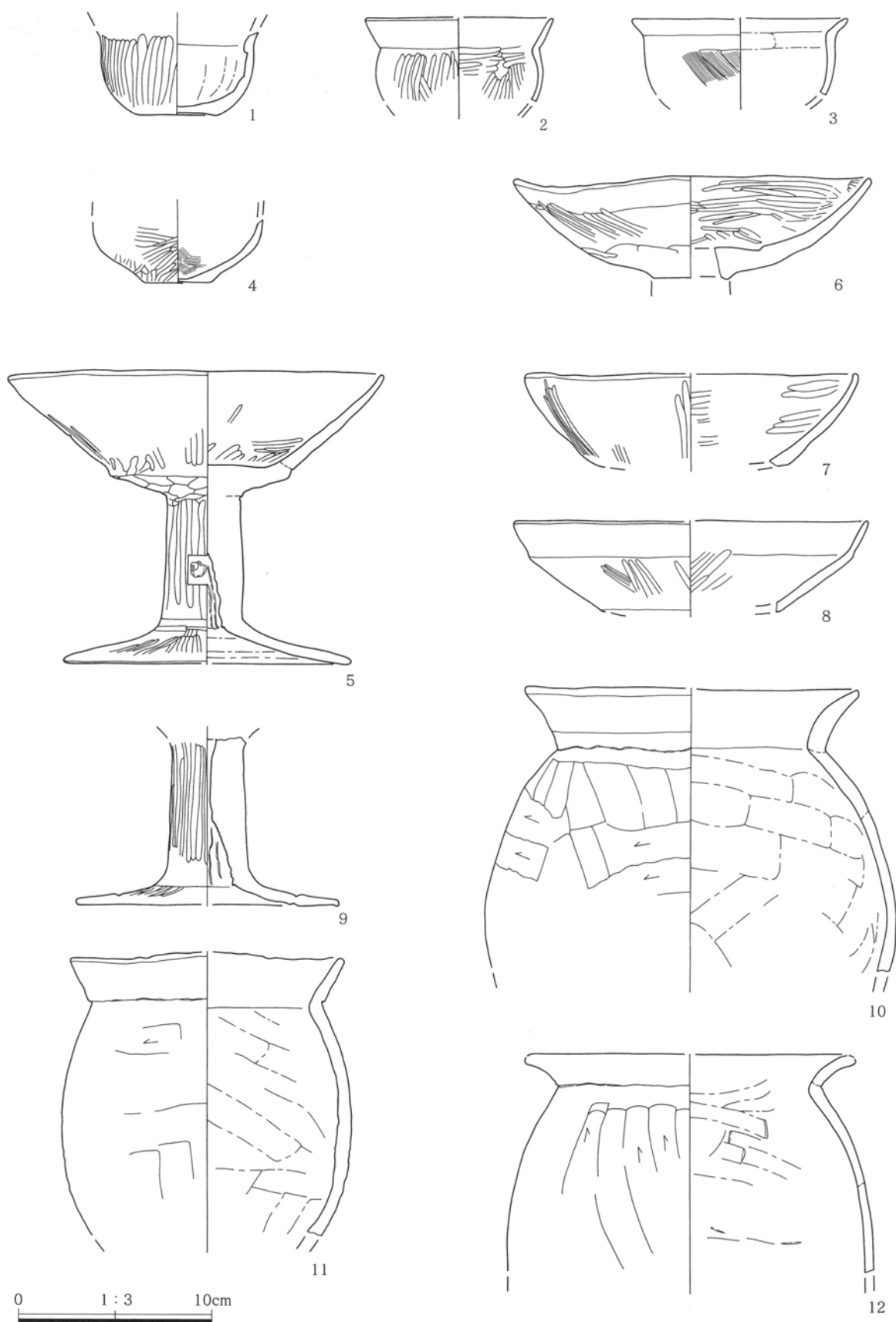
- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 1層より黒みを帯びる。しまりなし。

0 1:60 1m

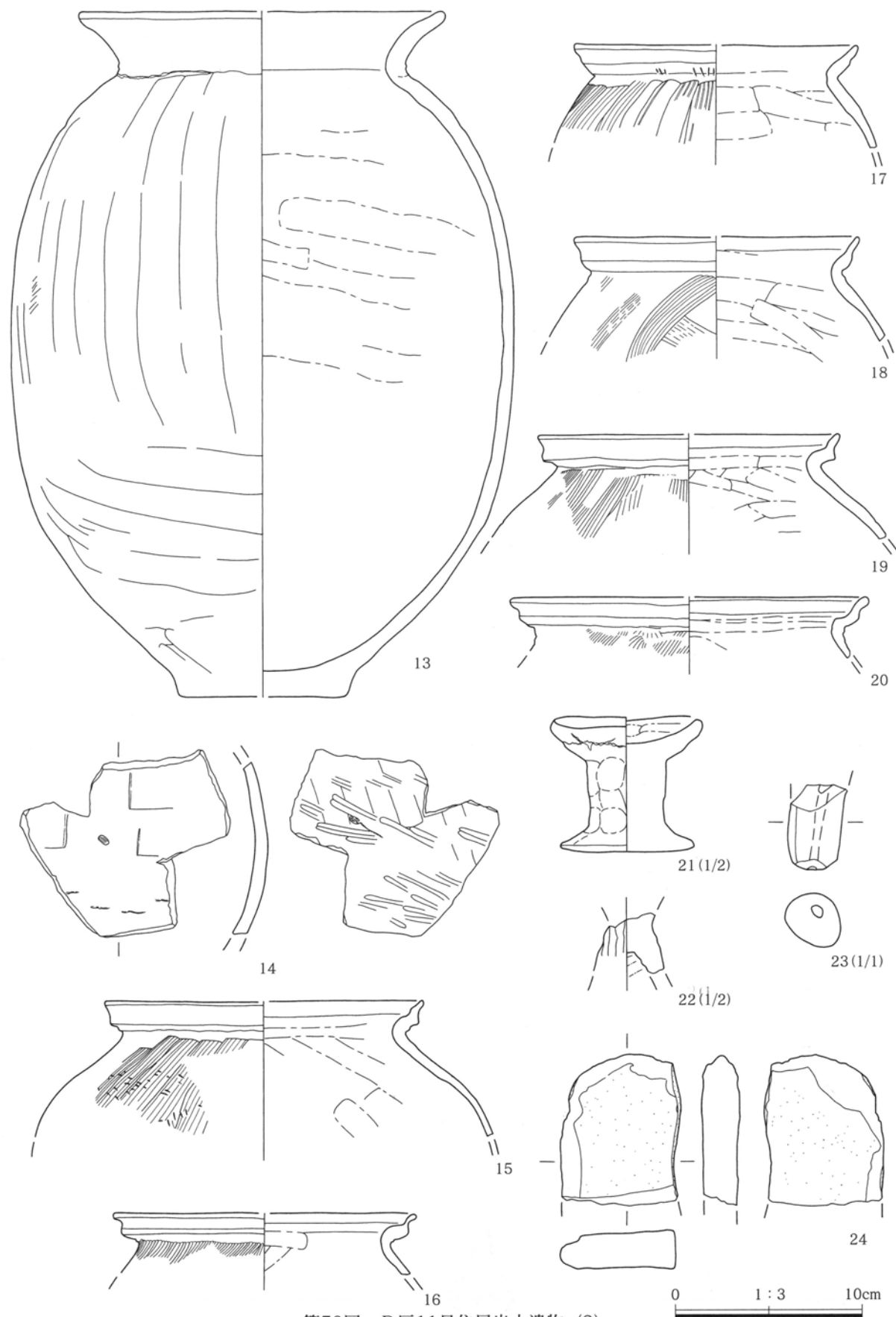
第47図 B区11号住居



第48図 B区11号住居掘り方・南竈・北竈



第49図 B区11号住居出土遺物 (1)



第50図 B区11号住居出土遺物 (2)

B区12号住居 (第51図、P L15・45)

位置 I J-24 (B-2区)

重複 13・14号住居、21号溝と重複。本住居が13・14号住居より新しく、21号溝より古い。

形態 長軸4.8m、短軸4.5mの隅丸方形を呈する。

面積 (16.49) m²

方位 N-29° -E

床面 攪乱のため、確認面は使用面下までおよんでおり、掘り方面しか検出できなかった。掘り方面の標高は平均36.99mを測る。

壁溝 検出されなかった。

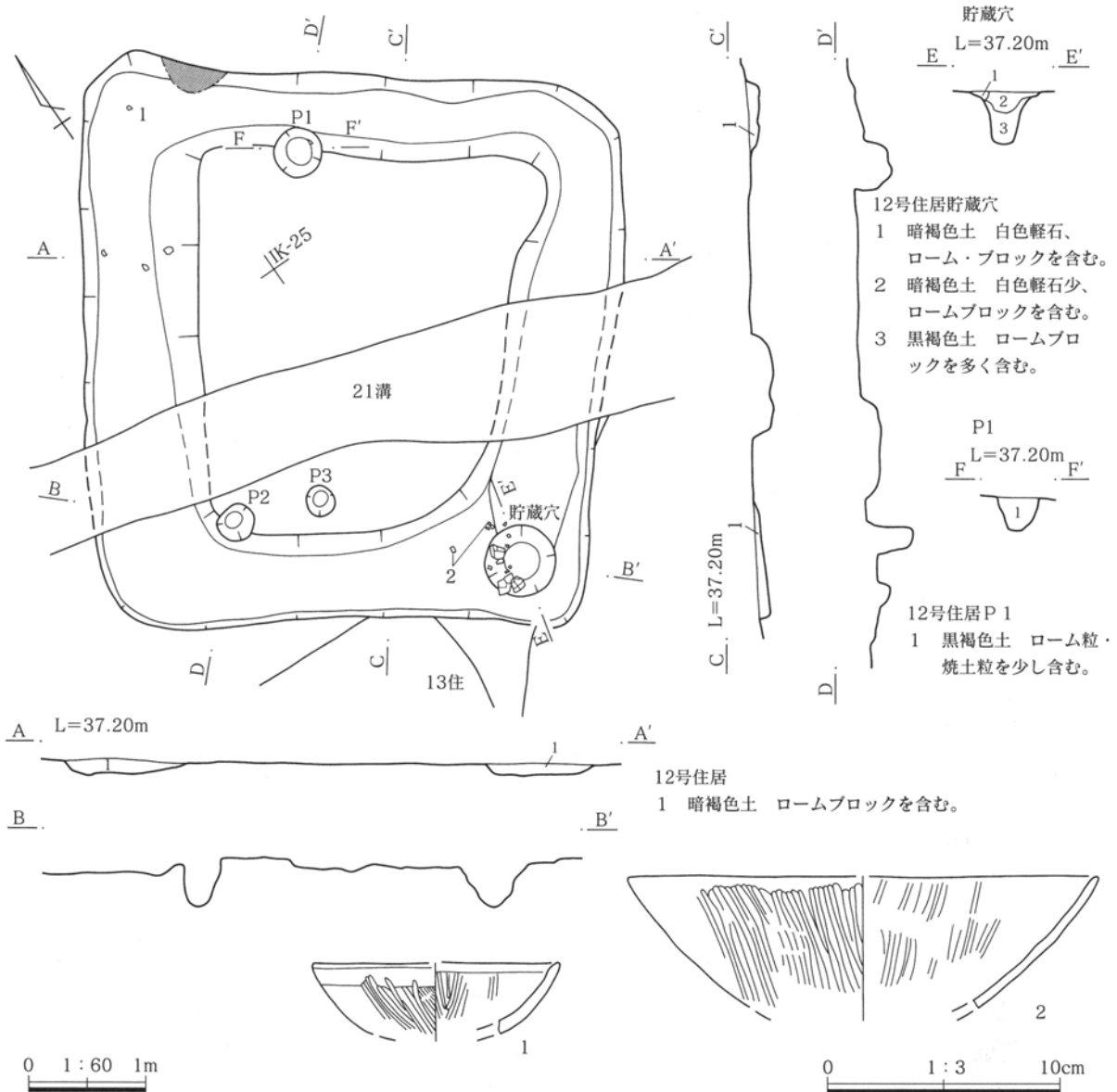
貯蔵穴 南東隅に設置。径60cm、深さ41cmを測る。掲載していないが、土師器甕の胴部片が出土している。

柱穴 ピット1は径39cm・深さ27cm、ピット2は径31cm・深さ32cm、ピット3は、径24cm・深さ14cmを測る。

炉 検出されなかった。住居のほぼ中央を走向する21溝によって削平されたと思われる。

遺物 土師器鉢・高坏が出土している。他に土師器片710gが出土。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第51図 B区12号住居、出土遺物

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

B区13号住居 (第52図、P L15)

位置 IK-24 (B-2区)

重複 12号住居、34号土坑、旧水路と重複。本住居が古い。

形態 長軸5.5m、短軸(2.9)mの隅丸方形を呈する。

面積 (13.10) m²

方位 N-6°-E

床面 攪乱のため、確認面は使用面下までおよんでおり、掘り方面しか検出できなかった。掘り方面の

標高は平均36.78mを測る。

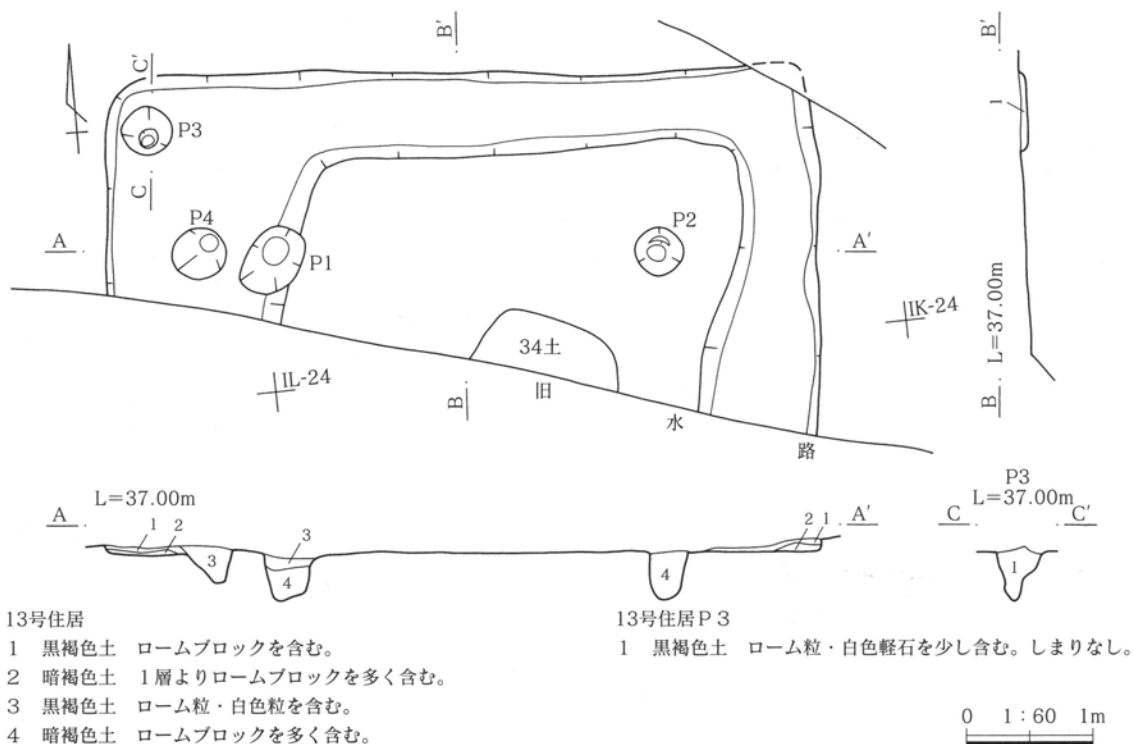
壁溝・貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 ピット1は径48cm・深さ34cm、ピット2は径36cm・深さ38cm、ピット3は、径40cm・深さ41cm、ピット4は径42cm・深さ24cmを測る。

炉 検出されなかった。住居のほぼ中央を走向する旧水路によって削平されたと思われる。

遺物 掲載遺物はないが、他に土師器片65gが出土している。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第52図 B区13号住居

B区14号住居 (第53図、P L15)

位置 IK-24 (B-2区)

重複 12号住居、21・22号溝、旧水路と重複。本住居が古い。

形態 長軸5.2m、短軸(4.8)mの隅丸方形を呈する。

面積 (17.59) m²

方位 N-48°-E

床面 攪乱のため、確認面は使用面下までおよんで

おり、掘り方面しか検出できなかった。掘り方面の標高は平均36.92mを測る。

壁溝・貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 ピット1は径32cm・深さ28cm、ピット2は径36cm・深さ22cm、ピット3は、径37cm・深さ16cm、ピット4は径31cm・深さ19cmを測る。

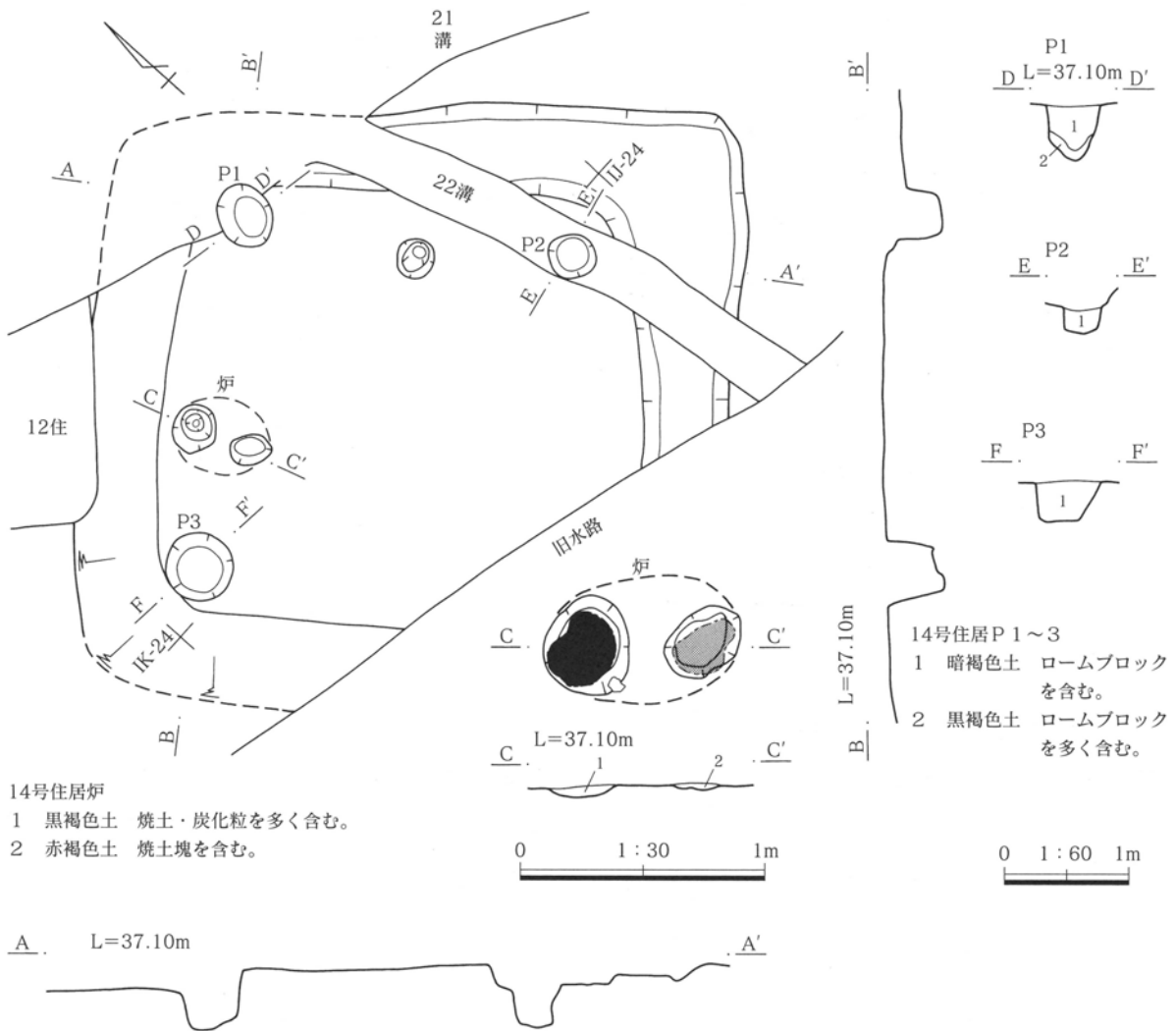
炉 住居の南西側のほぼ中央に設置。削平されていて残存悪いが、僅かに焼土・炭化物の分布を検出し、炉の残骸と思われる径28~36cm・深さ3~5cm

の2ヵ所の窪みを確認した。

遺物 掲載遺物はないが、他に土師器片50gが

土している。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第53図 B区14号住居・炉

B区1号竪穴状遺構 (第54図、P L22)

位置 IH-24 (B-2区)

重複 24号溝と重複している。本遺構が古い。

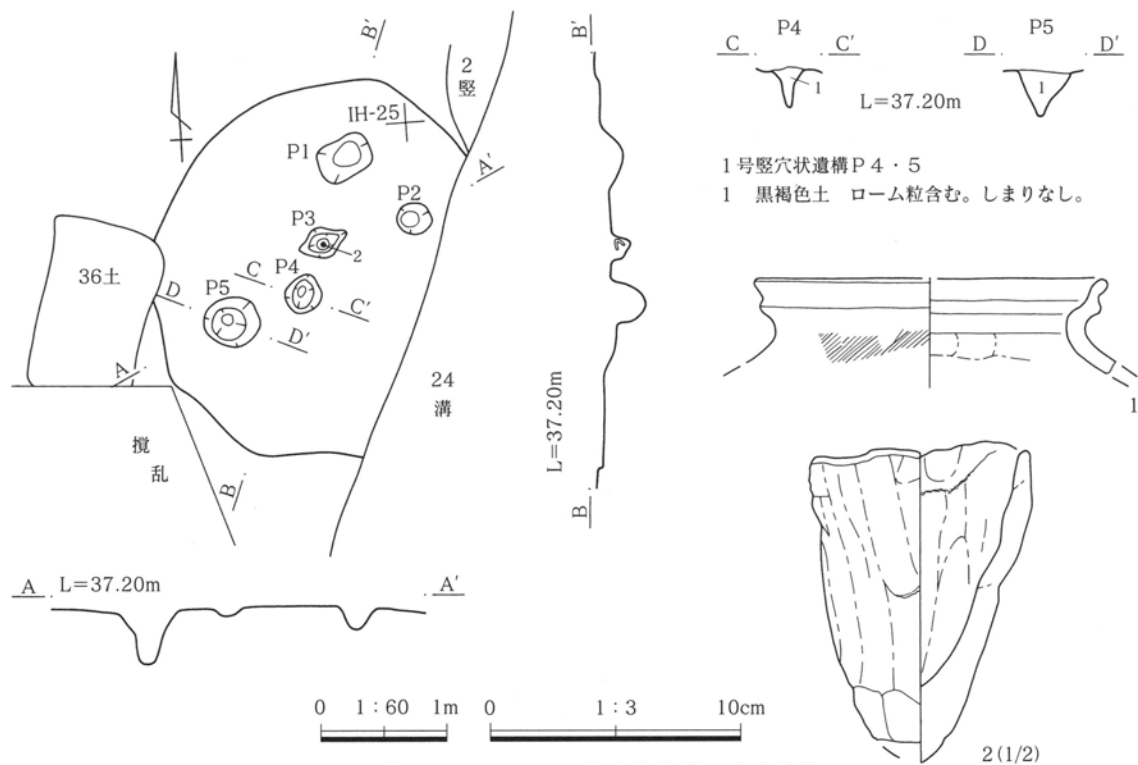
形態 長軸3.1m、短軸(2.1)mの不整形を呈する。

面積 (5.43) m²

床面 遺構確認面より4cm掘り込んで床面(掘り方)らしい平坦な面を検出した。標高は平均37.07mを測る。

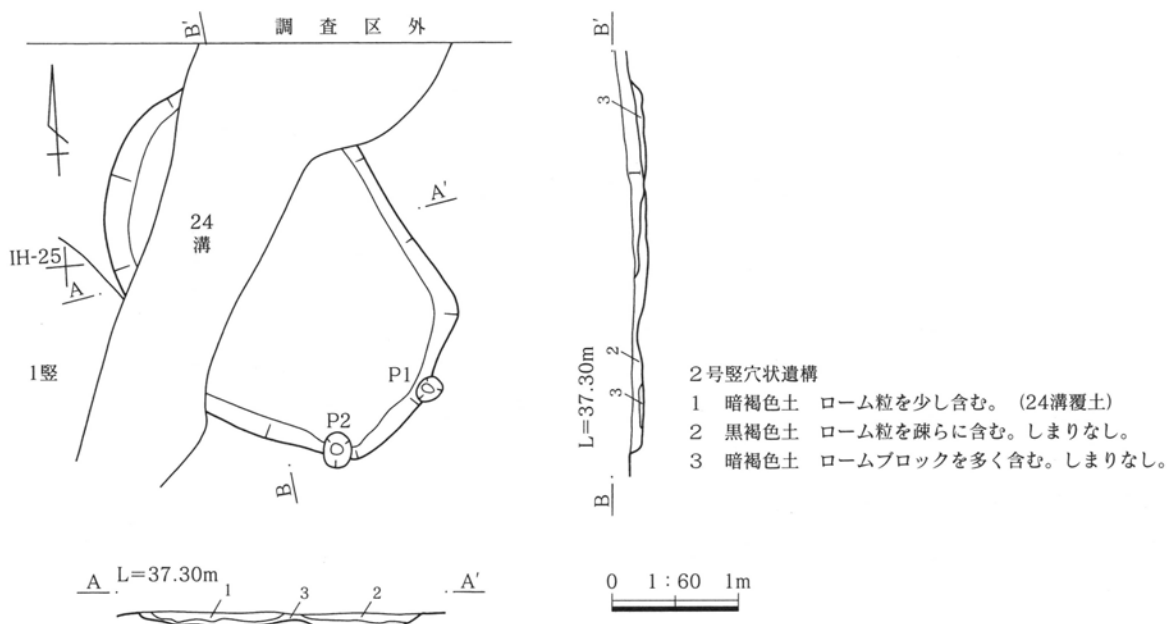
柱穴 ピット1は径41cm・深さ11cm、ピット2は径26cm・深さ16cm、ピット3は、径24cm・深さ21cm。ピット4は径29cm・深さ28cm、ピット5は径42cm・深さ42cmを測る。ピット3からは土師器高坏が出土している。

遺物 土師器高坏、台付甕が出土している。他に土師器片60gが出土。

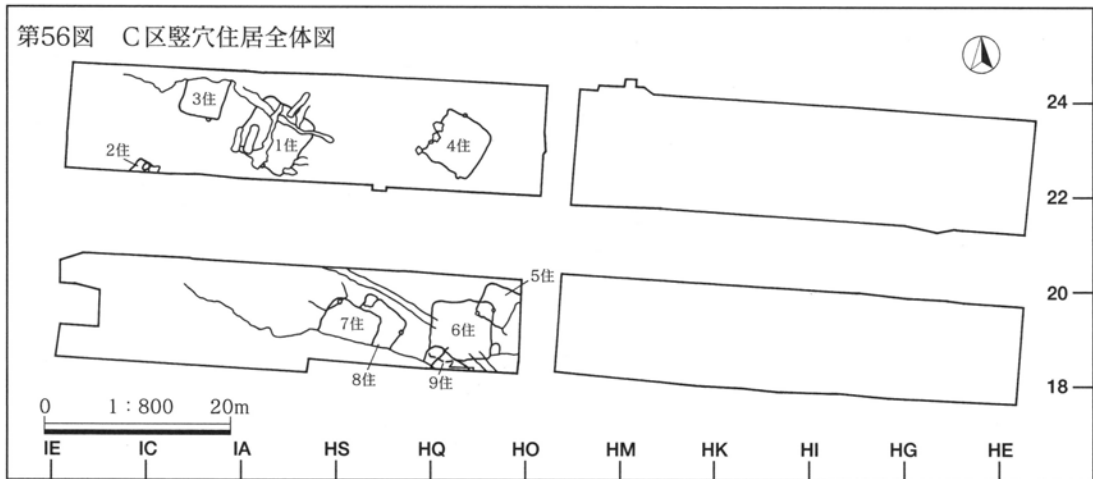


B区2号竪穴状遺構 (第55図、P L22)
位置 IG-24 (B-2区)
重複 24号溝と重複している。本遺構が古い。
形態 長軸3.2m、短軸2.2mの不整形を呈する。

面積 (3.69) m²
床面 遺構確認面より5cm掘り込んで床面(掘り方)らしい平坦な面を検出した。標高は平均37.09mを測る。



(3) C区竪穴住居



C区1号住居 (第57~60図、PL16・45)

位置 HT-23 (C-1区)

重複 16・18号土坑、7号溝と重複している。本住居が古い。

形態 長軸6.6m、短軸6.5mの隅丸方形を呈する。

面積 (31.97) m²

方位 N-38° - E

床面 遺構確認面から8cm掘り込んで、床面になる。床面は一部貼床構造で、ロームブロックを含む黒褐色粘質土で固く踏み固められていた。標高は平均36.92mを測る。

壁溝 所々、攪乱や他の遺構で壊されているが、幅約24cm、深さ約6cmの壁溝がほぼ一周している。

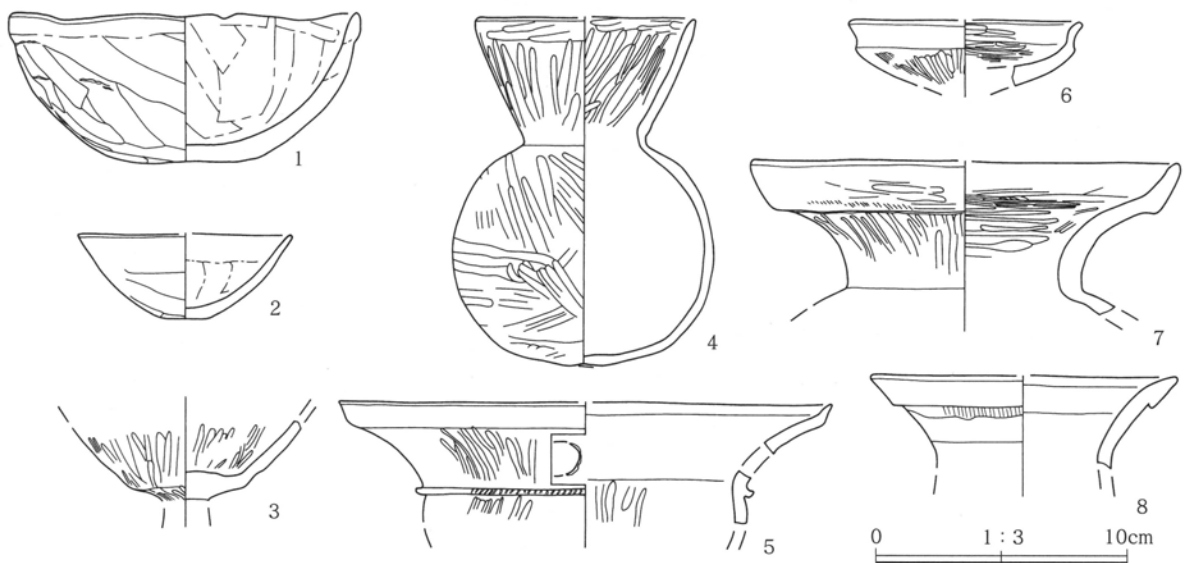
貯蔵穴 住居の南東隅に設置。長軸101cm・短軸68cm・深さ18cmの隅丸長方形を呈する。

柱穴 ピット1は径56cm・深さ34cm、ピット2は径48cm・深さ50cm、ピット3は、径49cm・深さ54cm。ピット4は、18号土坑で壊されたと思われる、確認できなかった。

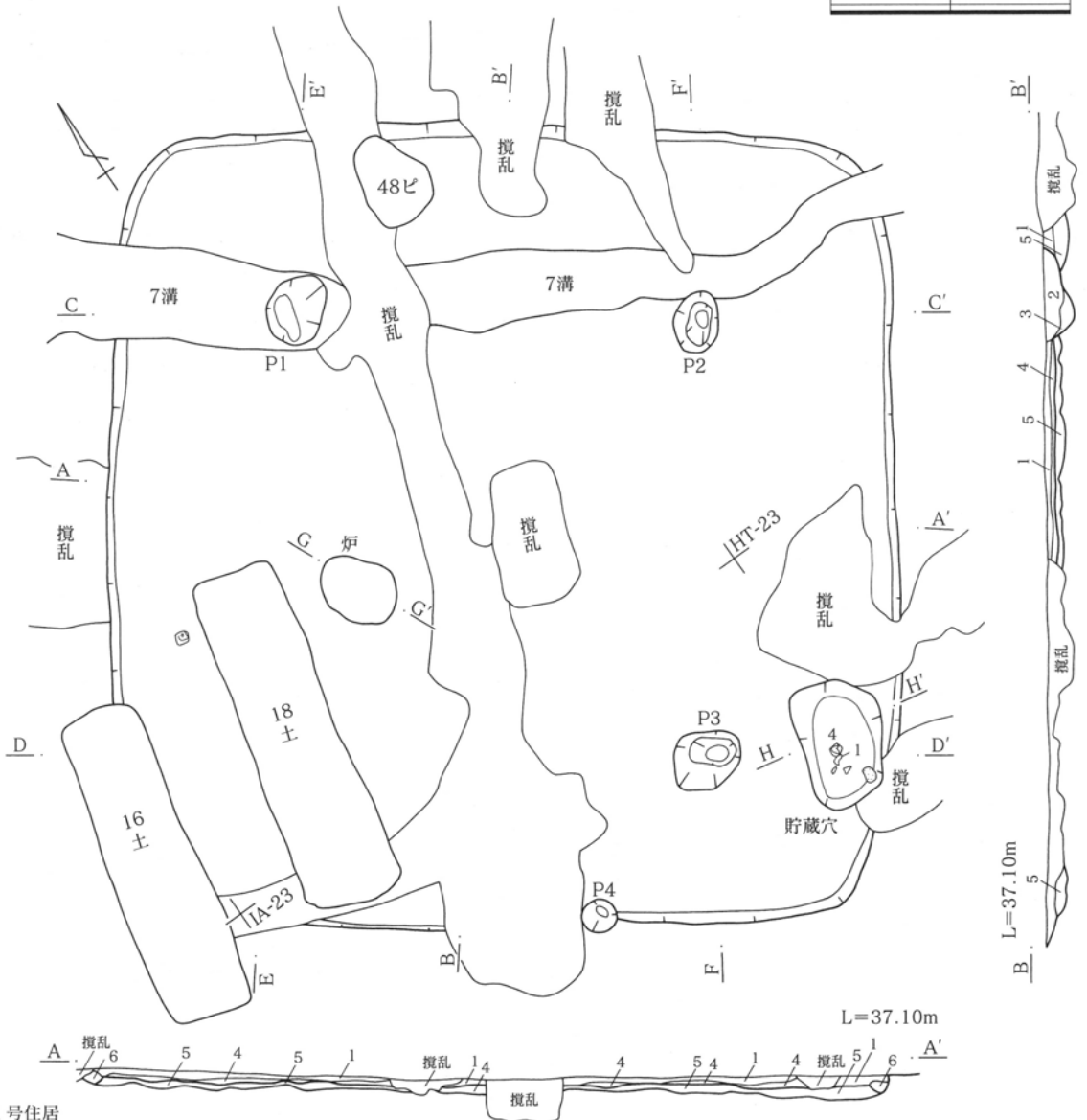
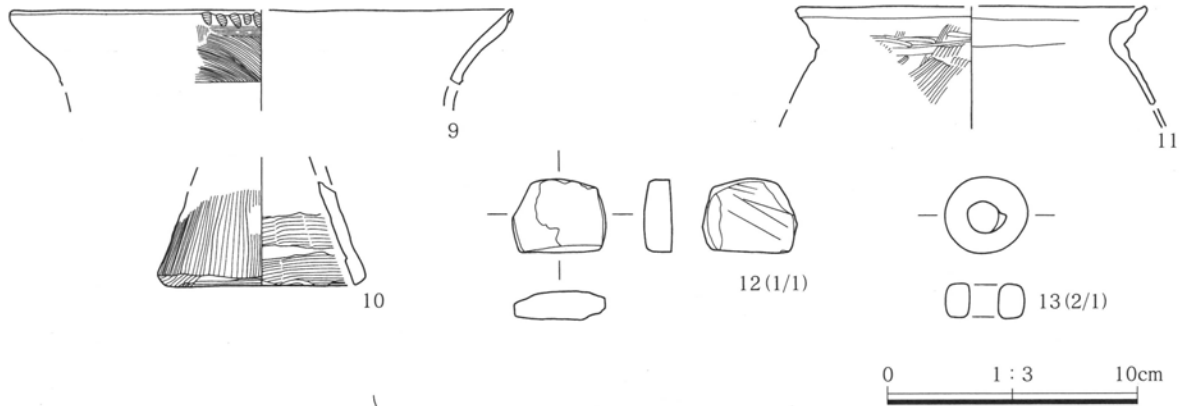
炉 やや西側の中央部に設置。規模は、長軸68cm、短軸54cm、深さ3cmを測る。

遺物 土師器坏・高坏・直口壺・器台・壺・台付甕が出土している。他に、土師器片2.86kgが出土。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



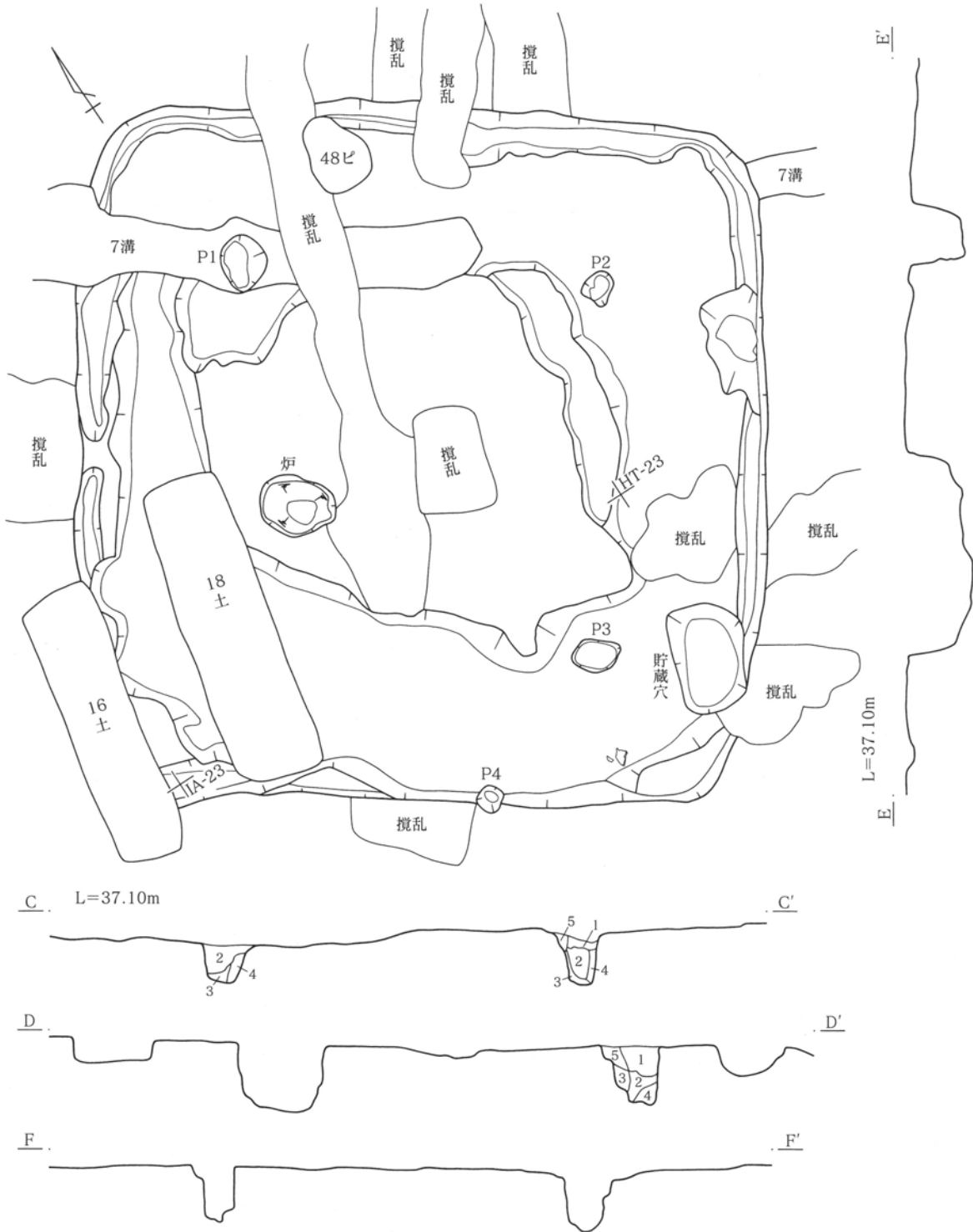
第57図 C区1号住居出土遺物 (1)



1号住居

- 1 暗褐色土 やや砂質。ローム粒・黒褐色土・白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 やや砂質。ローム粒を少し、黒褐色土を多く含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。(2・3層は7溝覆土)
- 4 黒褐色土 ローム粒を少し含む。固くしまっている。(貼床)
- 5 にぶい黄褐色土 ローム主体で暗褐色土を含む。
- 6 暗褐色土 やや砂質。暗褐色土とロームの混土。非常に脆い。

第58図 C区1号住居、出土遺物(2)

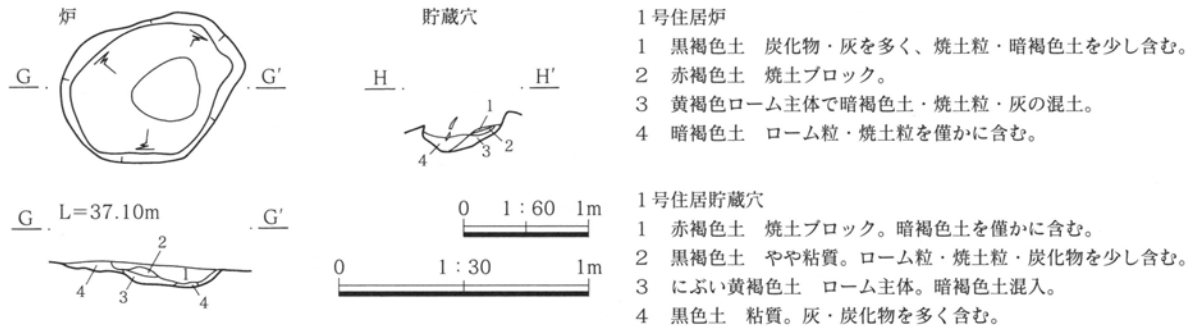


1号住居P1・2・3

- 1 暗褐色土 ローム粒を少し、黒褐色土を多く含む。やや脆い。
- 2 暗褐色土 ローム粒を僅かに、黒褐色土を多く含む。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム主体で暗褐色土を含む。しまりあり。
- 4 3層と似ているが、暗褐色土が少ない。崩落土か。
- 5 暗褐色土 ローム粒・黒褐色土を含む。やや脆く崩れやすい。

0 1:60 1m

第59図 C区1号住居掘り方



第60図 C区1号住居炉・貯蔵穴

C区2号住居 (第61・62図、P L16・45)

位置 IC-22 (C-1区)

重複 16ピットと重複している。本住居が古い。

形態 長軸 (1.6) m、短軸 (1.3) mを測る。

面積 (1.46) m²

方位 測定不可能。

床面 遺構確認面から7cm掘り込んで、床面になる。標高は平均36.94mを測る。

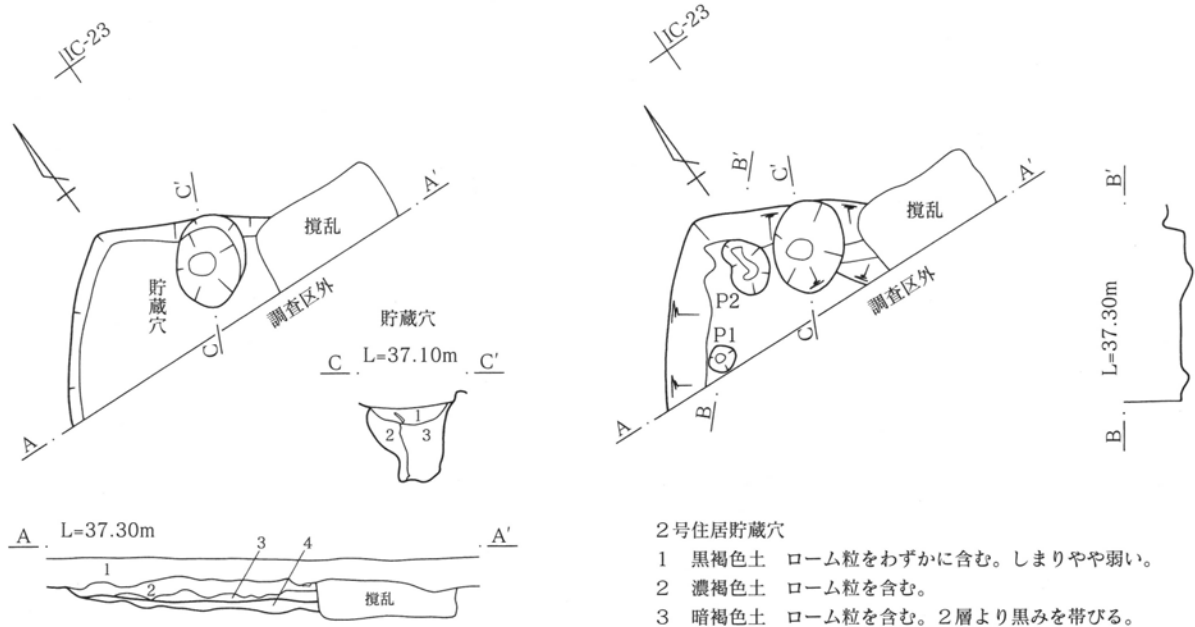
壁溝・炉 検出できなかった。

貯蔵穴 住居の北東に設置。長軸72cm・短軸54cm・深さ54cmの隅丸長方形を呈する。

柱穴 ピット1は径22cm・深さ8cm、ピット2は径43cm・深さ9cmを測る。

遺物 土師器鉢・高坏が出土している。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。住居のほとんどが調査区外のため詳細は明らかにできなかった。



2号住居

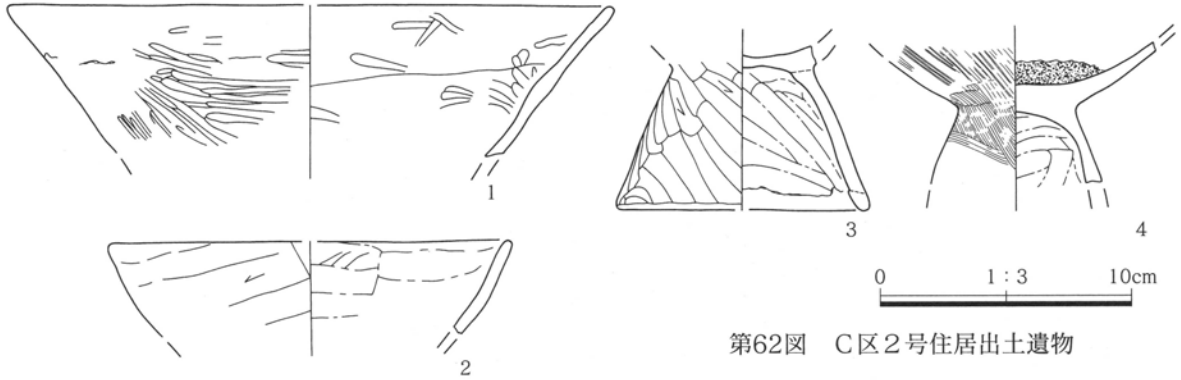
1 暗灰褐色土 表土。

2 暗褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。

3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。

4 にぶい黄褐色土 ローム主体で暗褐色土を含む。

第61図 C区2号住居・掘り方



第62図 C区2号住居出土遺物

C区3号住居 (第63・64図、PL17・45)

位置 IA-24 (C-1区)

重複 7号掘立柱建物と重複している。本住居が古い。

形態 長軸4.3m、短軸(4.3)mの隅丸方形を呈する。

面積 (16.49) m²

方位 N-17° - E

床面 攪乱のため、確認面は使用面下までおよんでおり、掘り方面しか検出できなかった。掘り方面の標高は平均36.95mを測る。

壁溝 検出できなかった。

貯蔵穴 住居の北東隅に設置。長軸84cm・短軸

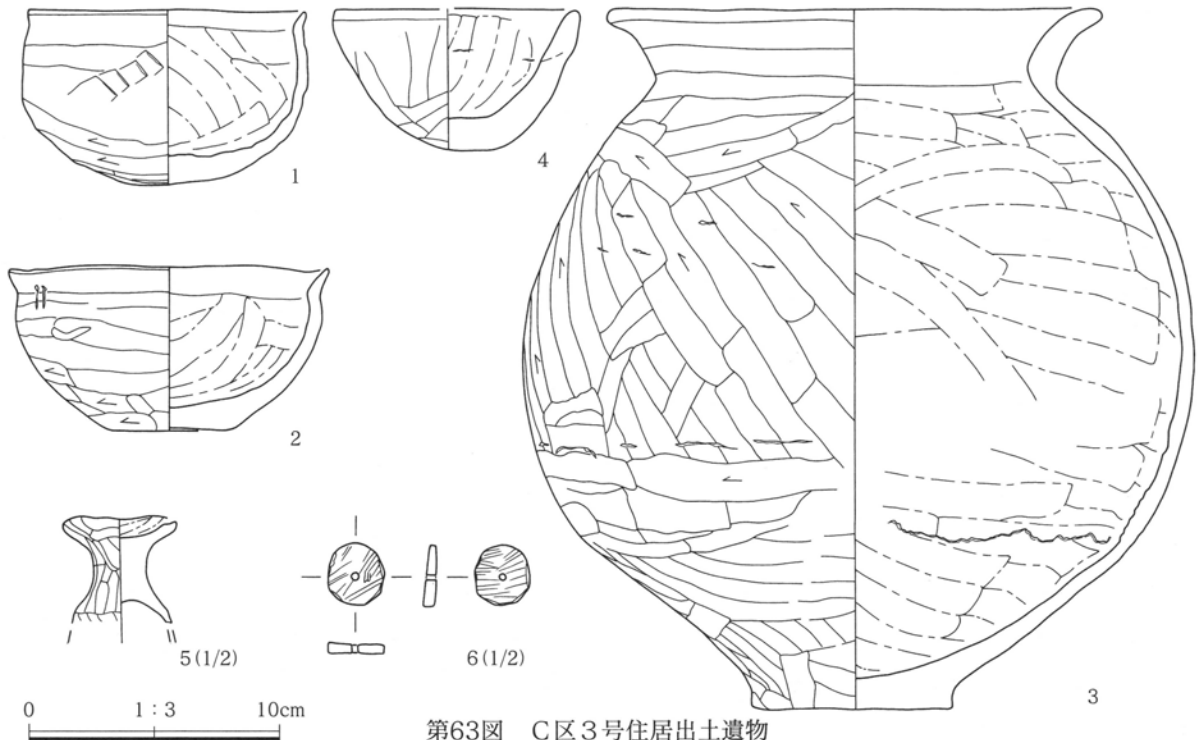
49cm・深さ42cmの隅丸長方形を呈する。

柱穴 ピット1は径28cm・深さ36cm、ピット2は径30cm・深さ40cm、ピット3は、径27cm・深さ34cm、ピット4は径28cm・深さ34cmを測る。その他にピット5~10の6基を検出した。

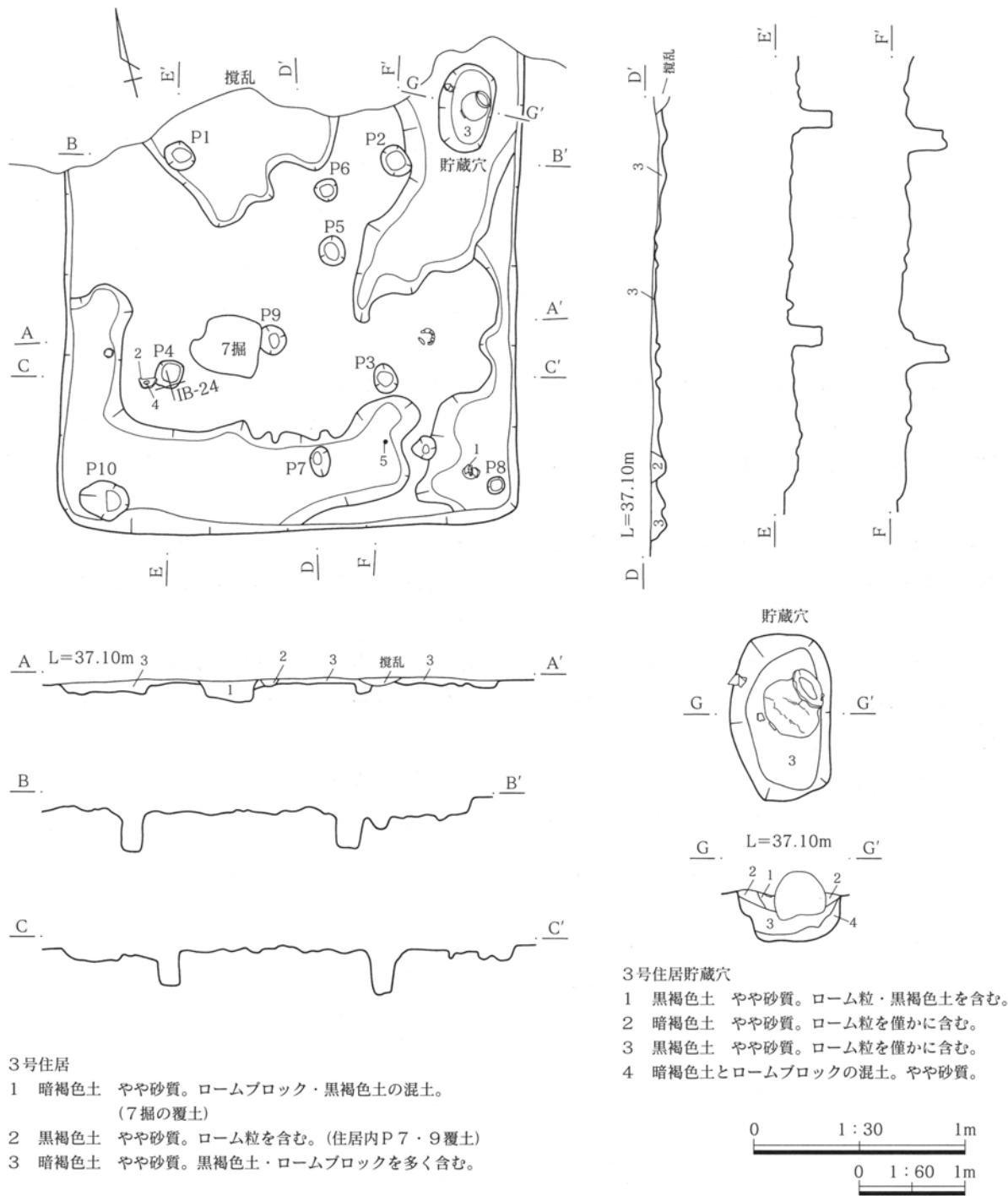
竈 攪乱のため検出できなかったが、北壁に設置されていたと想定される。

遺物 土師器坏・甕・手捏ね土器・石製模造品(有孔円盤)が出土している。他に、土師器片1.07kgが出土。

所見 出土遺物から古墳時代中期(5世紀後半)と考えられる。



第63図 C区3号住居出土遺物



第64図 C区3号住居

C区4号住居 (第65・66図、PL17・18・45)

位置 HP-23 (C-1区)

重複 5号掘立柱建物、49号ピットと重複している。本住居が古い。

形態 長軸5.7m、短軸5.1mの隅丸長方形を呈する。

面積 (29.81) m²

方位 N-31° - E

床面 攪乱のため、確認面は使用面下までおよんでおり、掘り方面しか検出できなかった。掘り方面の標高は平均36.70mを測る。

壁溝 所々、攪乱や他の遺構で壊されているが、幅約28cm、深さ約12cmの壁溝がほぼ一周している。

貯蔵穴 住居の南西隅の攪乱によって壊されたと思われる。

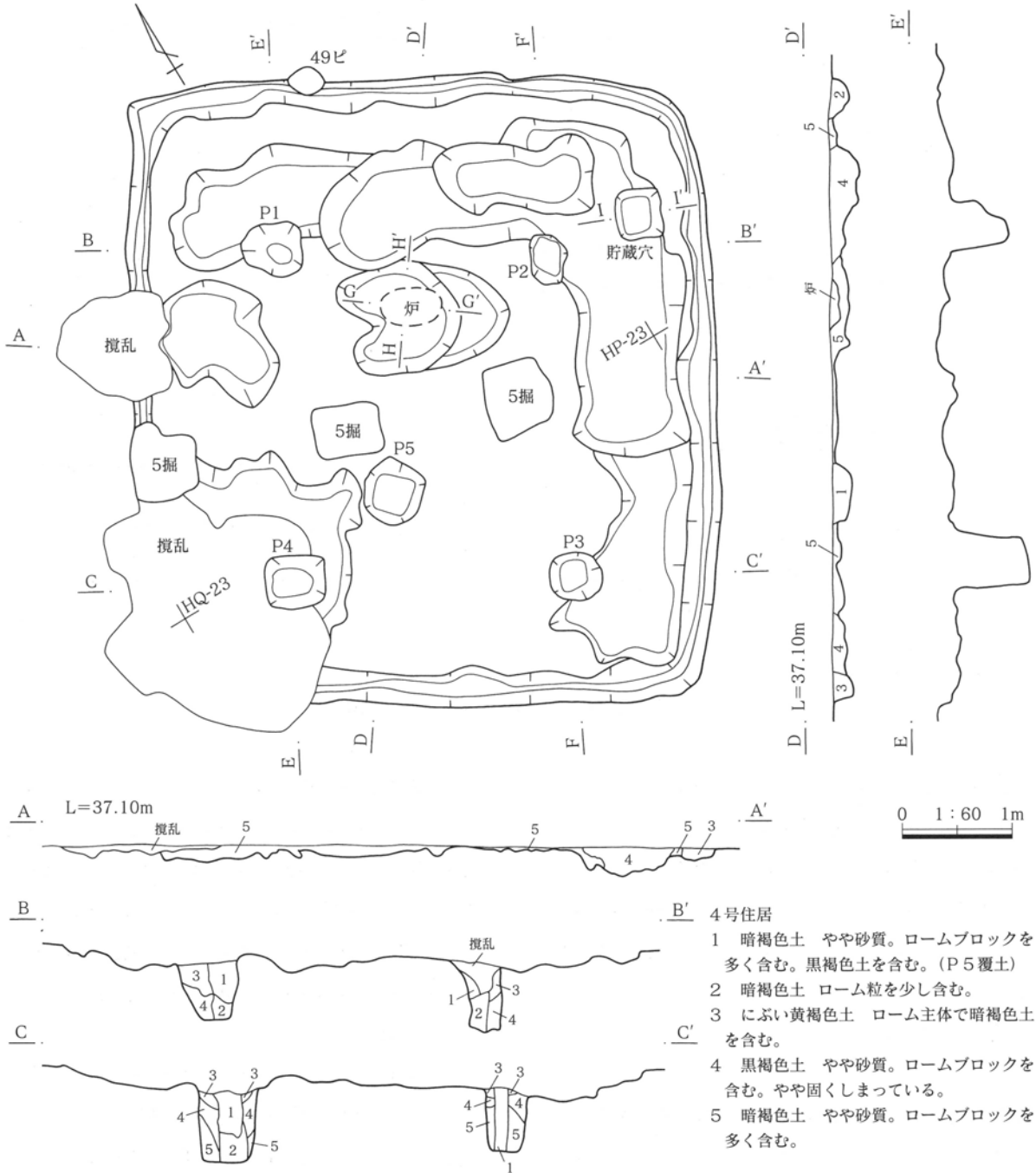
柱穴 ピット1は径50cm・深さ54cm、ピット2は径48cm・深さ61cm、ピット3は、径44cm・深さ64cm、ピット4は径48cm・深さ67cm、ピット5は、径54cm・深さ18cm、ピット6は径43cm

・深さ29cmを測る。

炉 ほぼ中央部に設置。規模は、長軸62cm、短軸45cm、深さ18cmを測る。

遺物 土師器高坏が出土している。他に、土師器片610g、須恵器片（混入遺物）が出土。

所見 出土遺物から古墳時代前期（4世紀）と考えられる。



第65図 C区4号住居

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

F, L=37.10m

F'



貯蔵穴
L=36.90m
I, I'



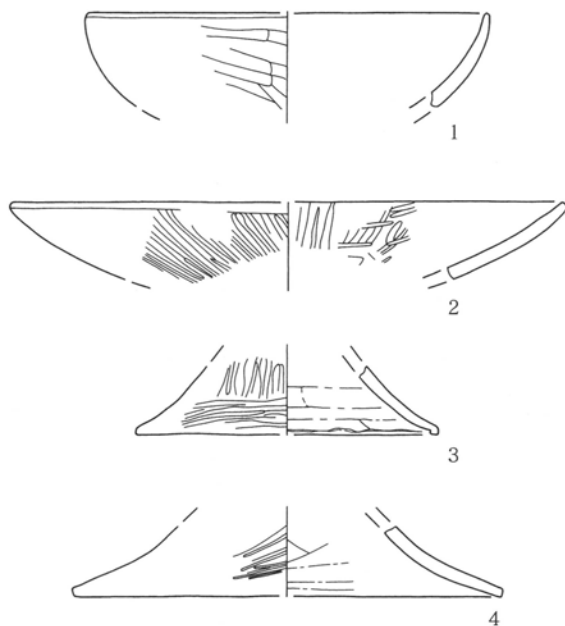
0 1:60 1m

4号住居P 1~4

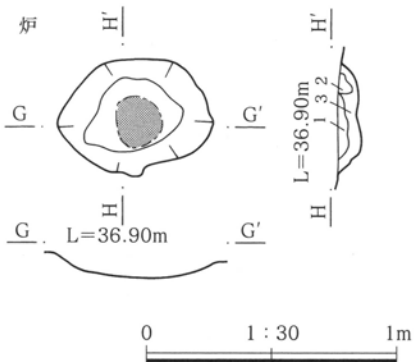
- 1 黒褐色土 砂質。ローム粒・暗褐色土を少し含む。
脆く崩れやすい。
- 2 黒褐色土 やや砂質。ローム粒を多く含む。
- 3 暗褐色土 やや砂質。ローム粒・ブロックを多く含む。
- 4 暗褐色土 やや砂質。ロームブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 砂質。ロームブロックを多く含む。
やや脆く崩れやすい。

4号住居貯蔵穴

- 1 黒褐色土 暗褐色土を多く、ローム粒を少し含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。1層より黒みを帯びる。
- 3 暗褐色土 ローム粒を僅かに含む。脆く崩れやすい。



0 1:3 10cm



4号住居炉

- 1 赤褐色土 焼土ブロック主体。炭化物・灰を含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック主体。
- 3 黒褐色土 ローム粒を多く、炭化物・灰を僅かに含む。

第66図 C区4号住居炉、出土遺物

C区5号住居 (第67図、P L18・46)

位置 HO-19 (C-3区)

重複 6号住居、21・22号土坑と重複している。
本住居が6住より新しく、21・22号土坑より古い。
形態 長軸3.8m、短軸(3.7)mの隅丸長方形を呈する。

面積 (13.32) m²

方位 N-28° -E

床面 攪乱のため、確認面は使用面下までおよんでおり、掘り方面しか検出できなかった。掘り方面の標高は平均36.89mを測る。

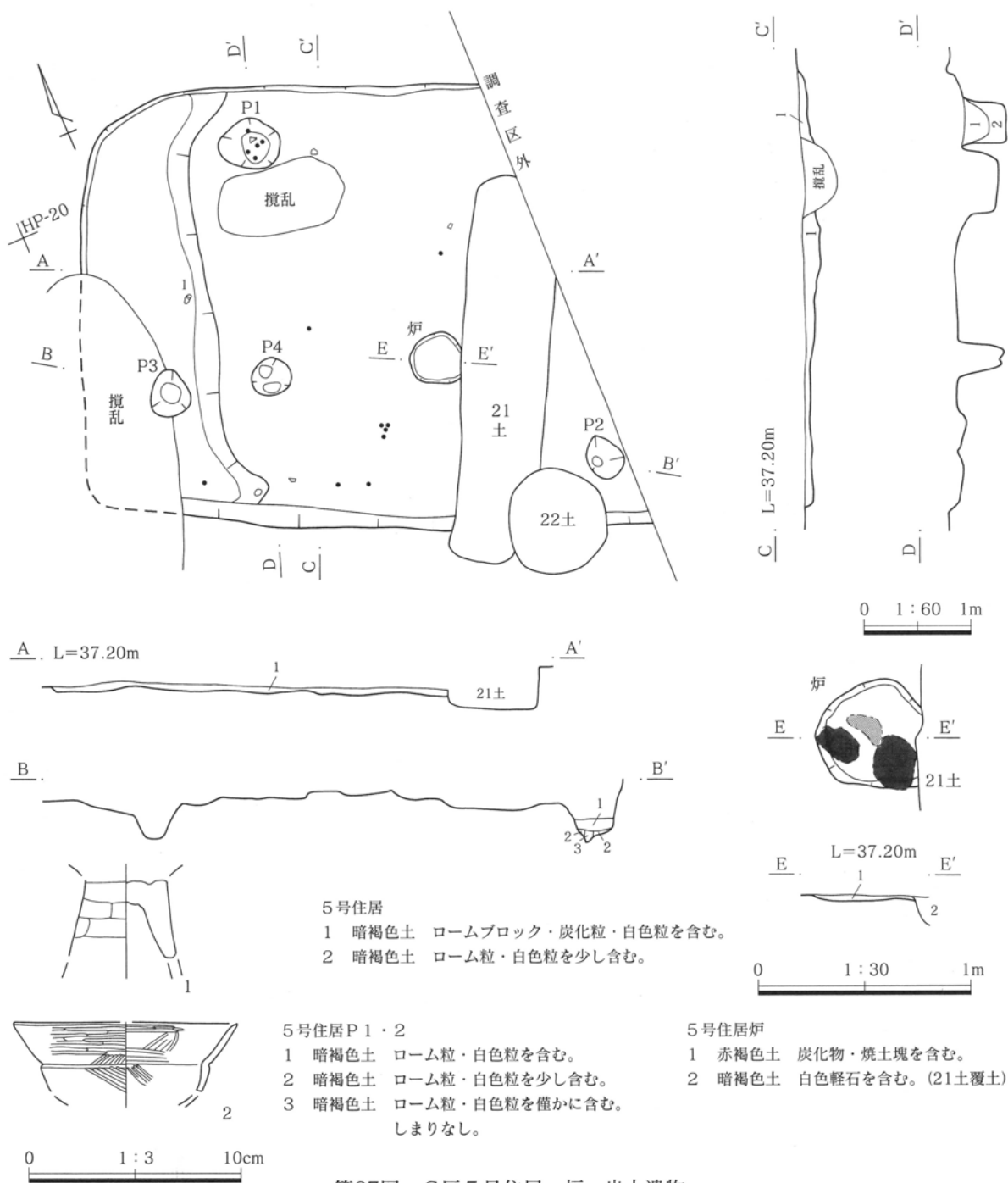
壁溝・貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 ピット1は径48cm・深さ46cm、ピット2は径38cm・深さ18cm、ピット3は、径42cm・深さ48cm、ピット4は径32cm・深さ46cmを測る。

炉 ほぼ中央部に設置。規模は、長軸52cm、短軸46cm、深さ3cmを測る。焼土塊・炭化物の分布が確認された。

遺物 土師器高坏・埴が出土している。他に、土師器片780g、須恵器片(混入遺物)が出土。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第67図 C区5号住居・炉、出土遺物

C区6号住居 (第68~70図、P L18・19・46)

位置 HP-19 (C-3区)

重複 5・9号住居、9号溝、20・24号土坑、60号ピットと重複している。本住居が古い。

形態 長軸6.3m、短軸6.4mの隅丸方形を呈する。

面積 (35.10) m²

方位 N-0°

床面 遺構確認面から14cm掘り込んで、床面になる。床面は一部貼床構造で、ロームブロックを含む黒褐色粘質土で固く踏み固められていた。標高は平均36.87mを測る。

壁溝 所々、攪乱や他の遺構で壊されているが、幅約26cm、深さ約6cmの壁溝がほぼ一周している。

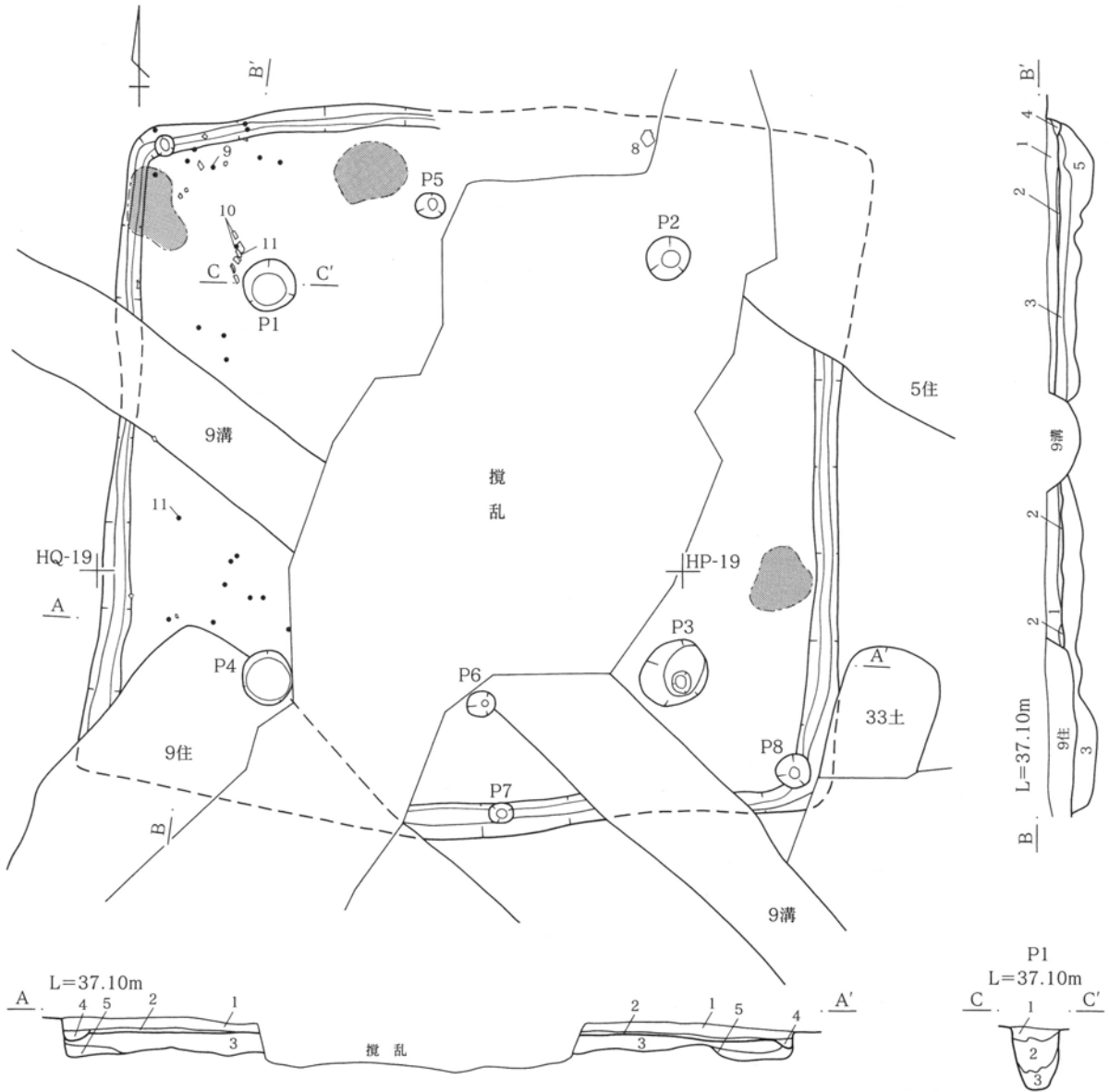
貯蔵穴・炉 住居の中央部に後世に掘られた大きな攪乱（民家が建っていた）があり、貯蔵穴と炉は壊されたと思われる。なお、焼土塊・炭化物の分布は、住居の北西隅と東隅で確認された。

柱穴 ピット1は径44cm・深さ40cm、ピット2は径38cm・深さ30cm、ピット3は、径54cm・深

さ68cm、ピット4は径44cm・深さ58cmを測る。

遺物 土師器鉢・直口壺・壺・小型甕・台付甕などが出土している。他に土師器片3.4kgが出土。

所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



6号住居

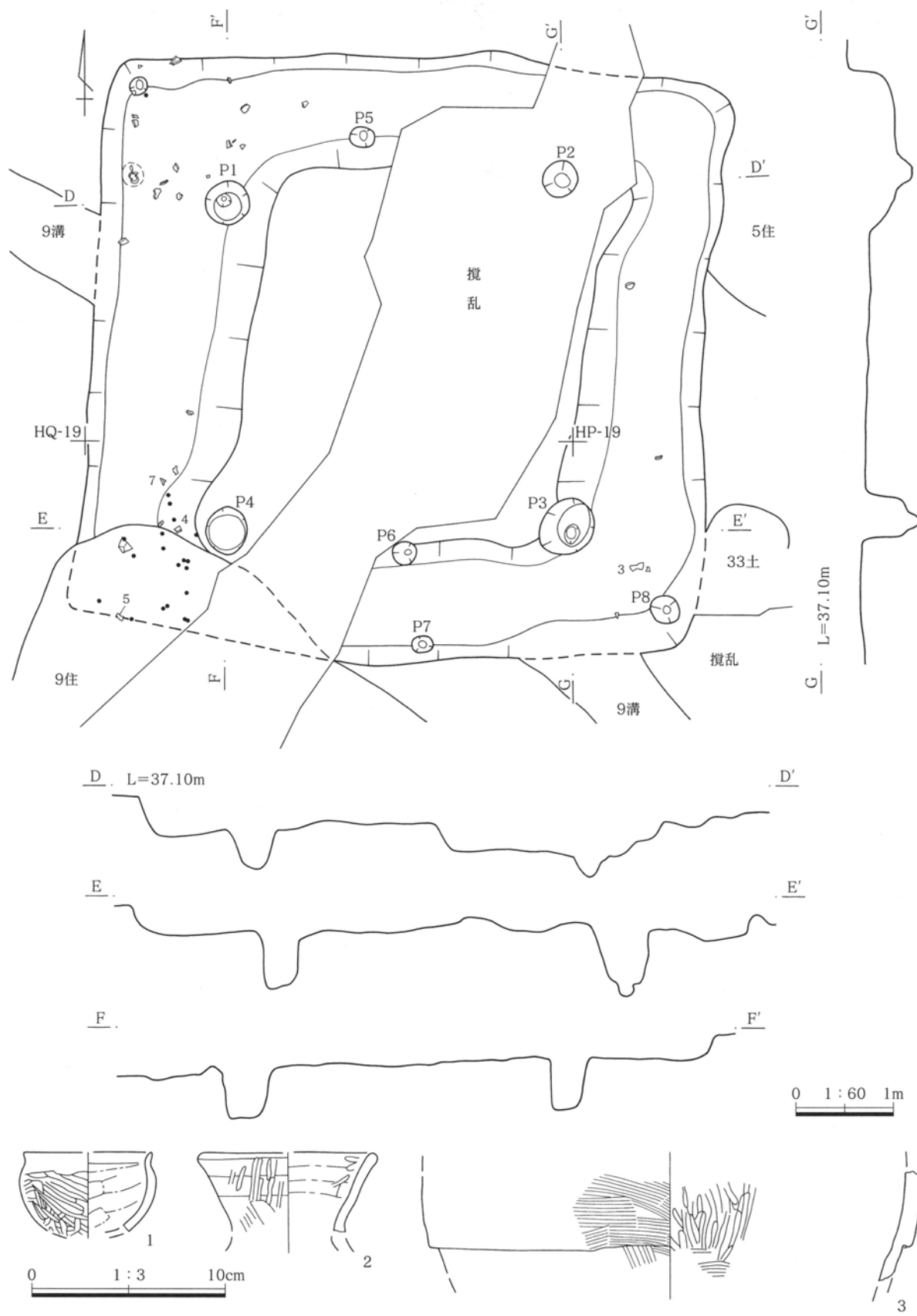
- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・白色軽石を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を含む。固くしまっている。(貼床)
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック・白色軽石を含む。
- 5 暗褐色土 ローム・黒色土ブロックを含む。

6号住居P1

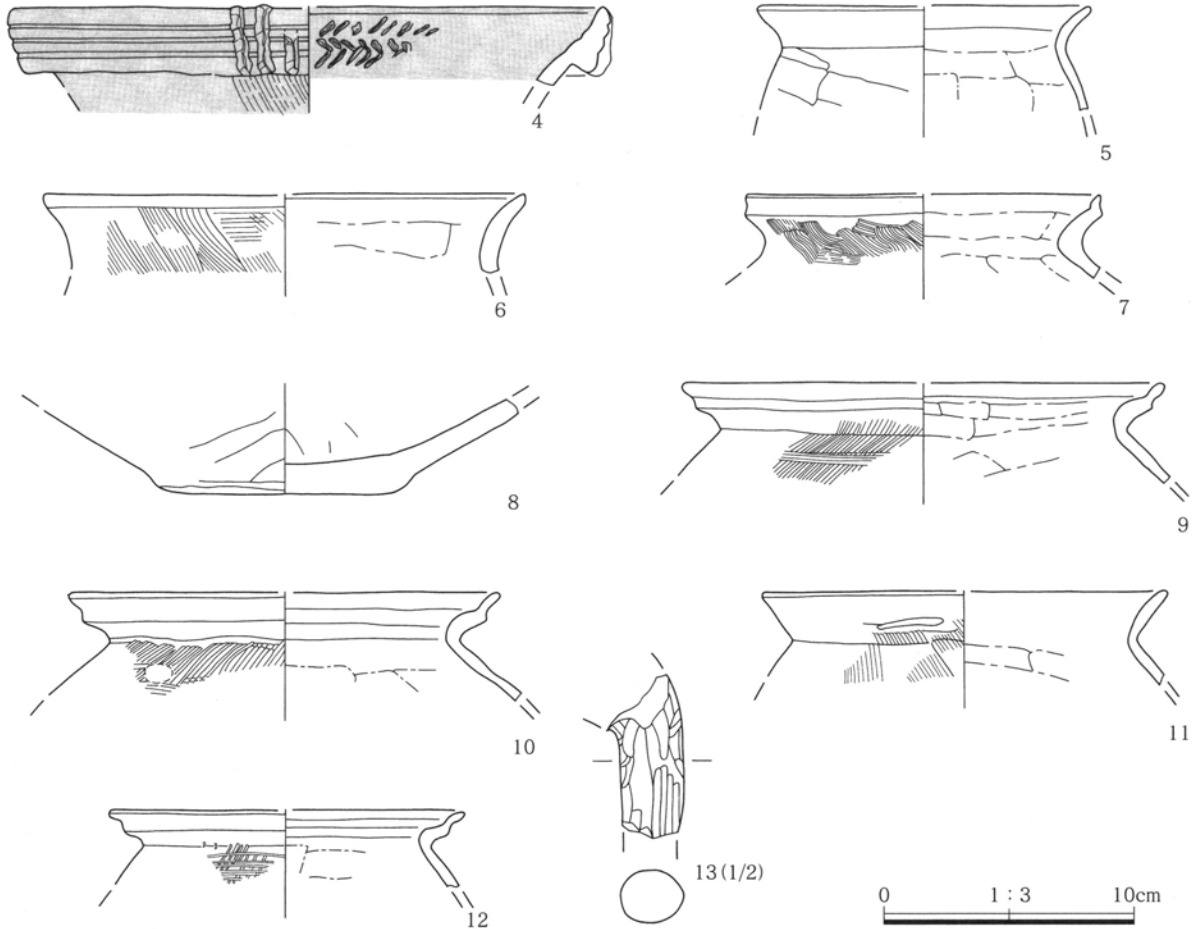
- 1 暗褐色土 ローム粒・白色軽石を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を含む。白色軽石を少し含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

0 1:60 1m

第68図 C区6号住居



第69図 C区6号住居掘り方、出土遺物 (1)



第70図 C区6号住居出土遺物 (2)

C区7号住居 (第71~73図、PL19・20・46)

位置 HR-19 (C-3区)

重複 8号住居と重複している。本住居が新しい。

形態 長軸5.8m、短軸(4.0)mの隅丸方形を呈する。

面積 (18.66) m²

方位 N-26° -E

床面 遺構確認面から9cm掘り込んで、床面になる。床面は一部貼床構造で、ロームブロックを含む黒褐色粘質土で固く踏み固められていた。標高は平均36.93mを測る。

壁溝 検出されなかった。

貯蔵穴 住居の北東隅に設置。長軸58cm・短軸56cm・深さ49cmの円形を呈する。内部から完形の高坏・直口壺が出土した。

柱穴 ピット1は径39cm・深さ28cm、ピット2は径37cm・深さ34cm、ピット3は、径43cm・深

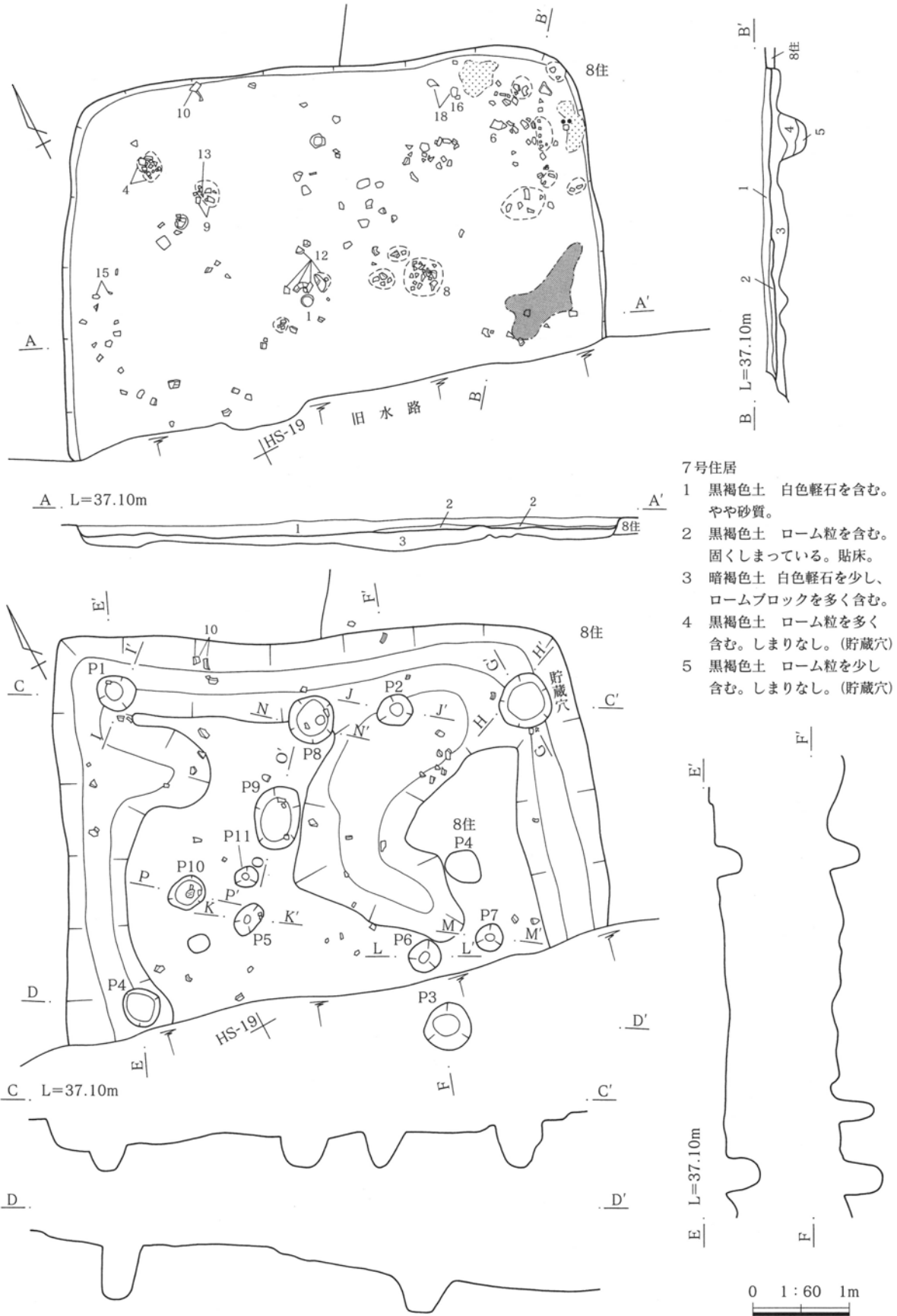
さ30cm、ピット4は径38cm・深さ52cmを測る。

その他にピット5~11の7基を検出した。

炉 遺物等から炉を持つ時期の住居と想定された。そこで、床面を慎重に精査した結果、焼土分布が南東隅・東側、灰白色粘土の分布が北東隅で確認されたが、炉は検出できなかった。

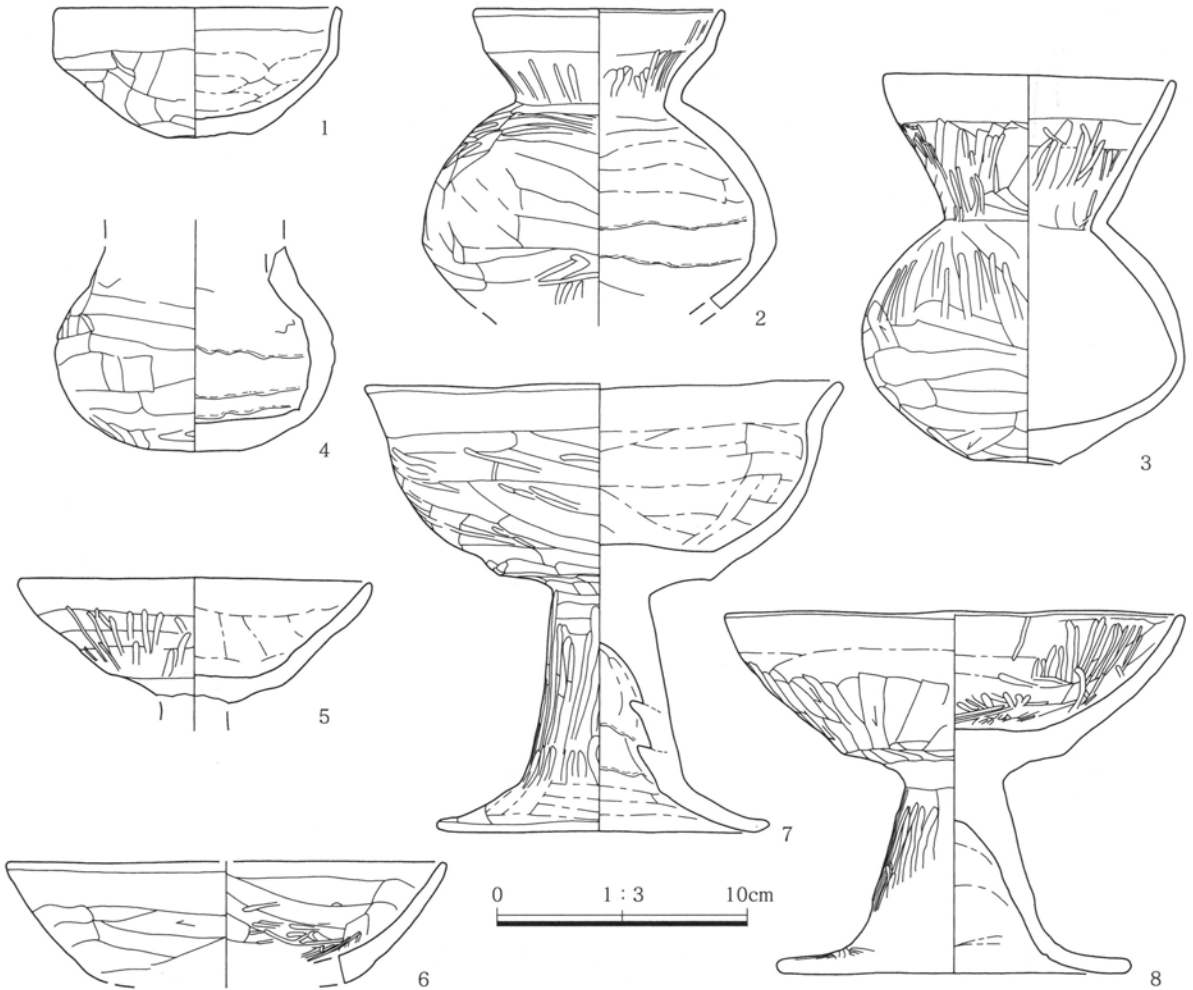
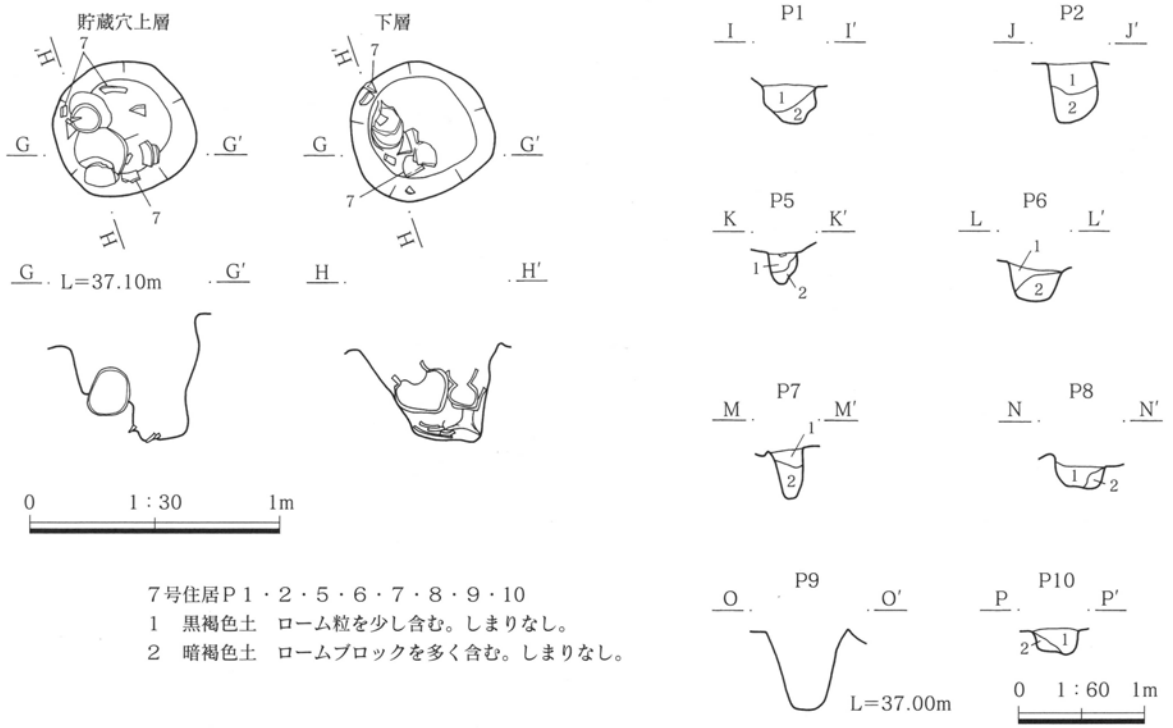
遺物 土師器坏・高坏・直口壺・甕・手捏ね土器、須恵器把手付塊(18)などが出土している。他に土師器片5.84kg、須恵器10gが出土。把手付塊の把手の付け方は、上の部分は体部に穴を開け把手を差し込んでいる。また、円盤状の粘土に、粘土を巻き上げて成形した後に、腰部に再度粘土を巻き付けて成形したと考えられる。

所見 出土遺物から古墳時代中期(5世紀中葉)と考えられる。

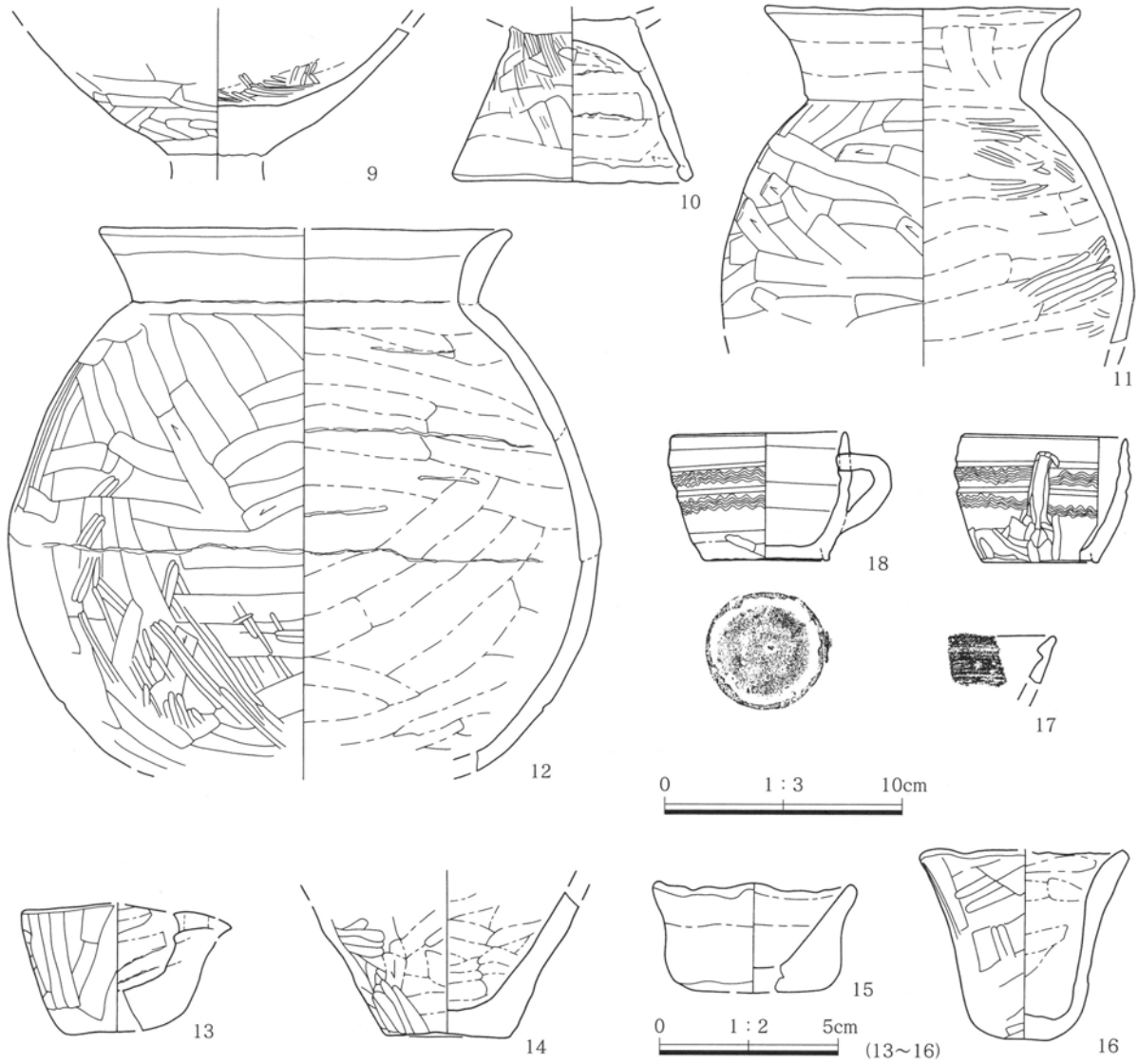


第71図 C区7号住居・掘り方

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物



第72図 C区7号住居貯蔵穴・出土遺物(1)



第73図 C区7号住居出土遺物 (2)

C区8号住居 (第74・75図、PL21・47)

位置 HR-19 (C-3区)

重複 7号住居、30号土坑と重複している。本住居が古い。

形態 長軸5.2m、短軸(3.4)mの隅丸長方形を呈する。

面積 (12.78) m²

方位 N-34°-E

床面 遺構確認面から5cm掘り込んで、床面になる。床面は一部貼床構造で、ロームブロックを含む黒褐色粘質土で固く踏み固められていた。標高は平均36.97mを測る。

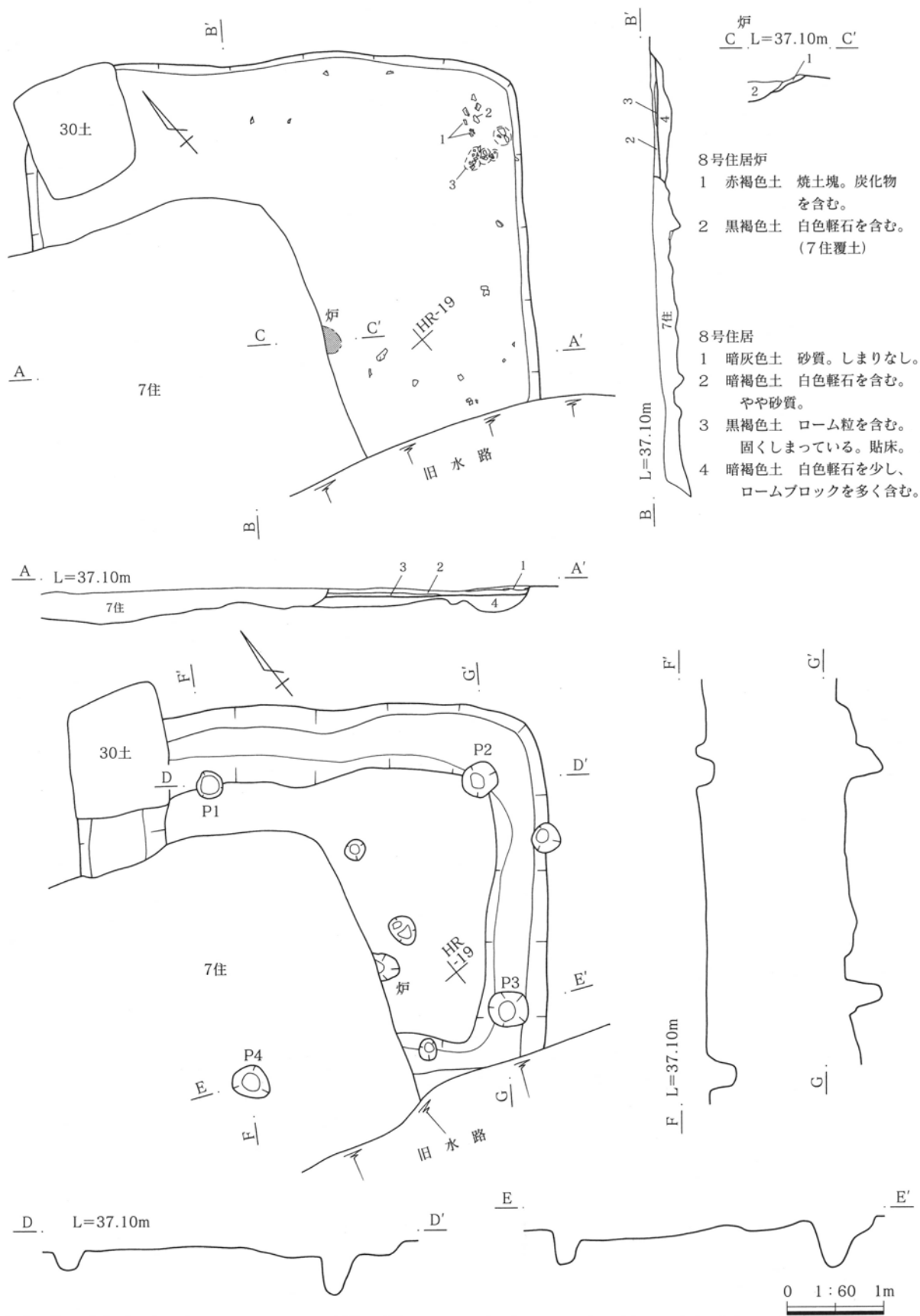
壁溝・貯蔵穴 検出できなかった。

柱穴 ピット1は径28cm・深さ21cm、ピット2は径36cm・深さ37cm、ピット3は、径46cm・深さ32cm、ピット4は径36cm・深さ23cmを測る。

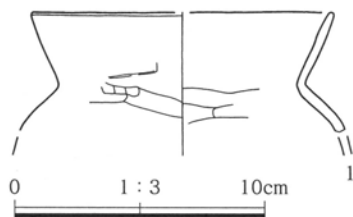
炉 ほぼ中央部に設置。7号住居に壊されており、炉の残骸が確認された。規模は径26cm、深さ5cmを測る。

遺物 土師器甕・台付甕が出土している。他に、土師器片520gが出土。

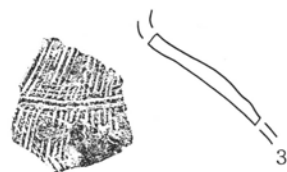
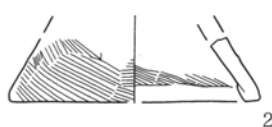
所見 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。



第74図 C区8号住居・掘り方



第75図 C区8号住居出土遺物



C区9号住居 (第76図、PL21・47)

位置 HP-18 (C-3区)

重複 6号住居と重複している。本住居が新しい。

形態 長軸 (4.2) m、短軸 (1.8) mを測る。

面積 (8.37) m²

方位 N-39° - E

床面 遺構確認面から15cm掘り込んで、床面になる。標高は平均36.82mを測る。

壁溝・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

炉 北西隅に焼土・炭化物の分布が確認されたが、

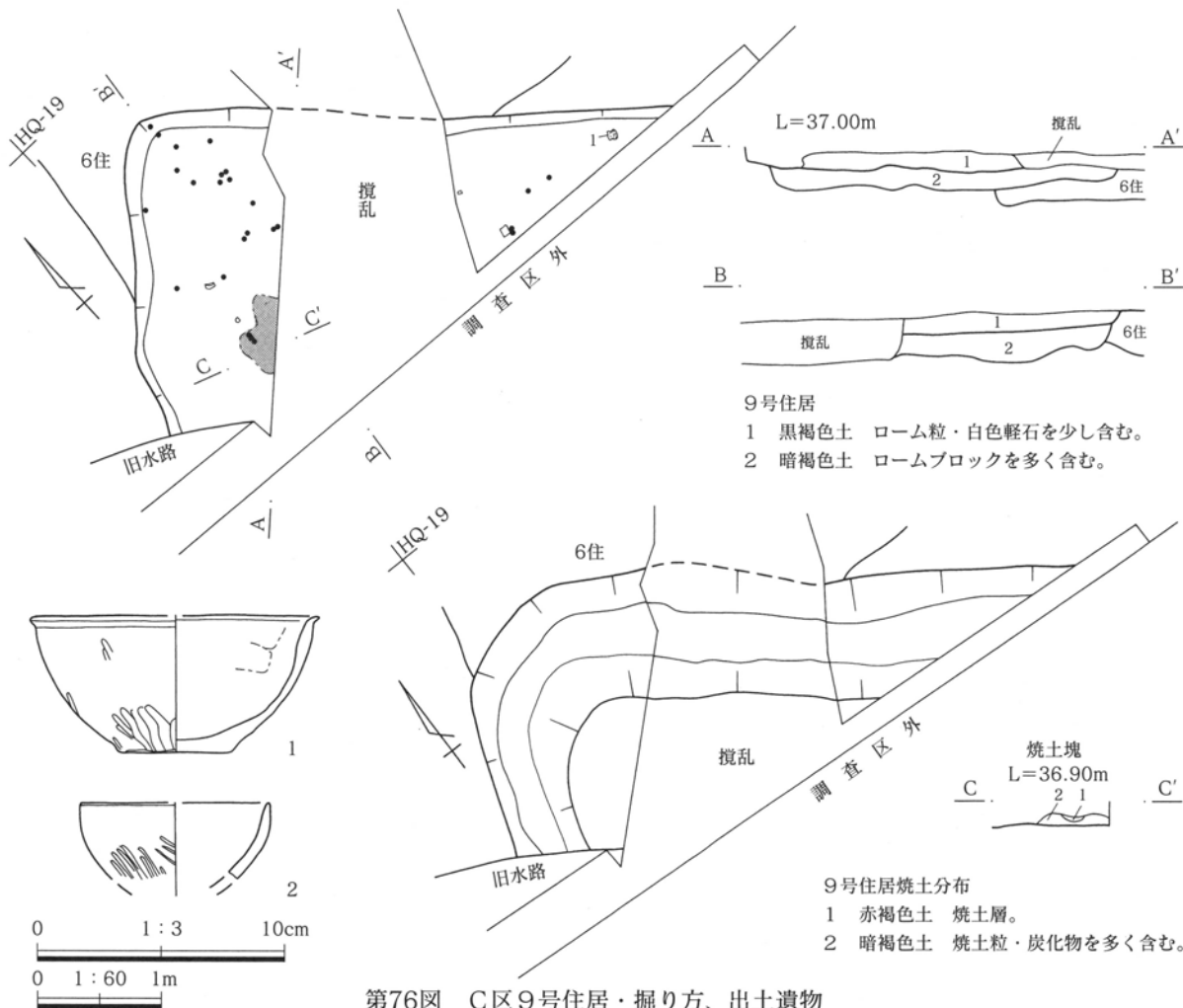
炉は検出できなかった。

遺物 土師器坏が出土している。他に土師器片550gが出土。

所見 出土遺物から古墳時代中期 (5世紀中葉) と考えられる。遺物等から7住と同時期に存在した可能性が高い。

柱穴 ピット1は径21cm・深さ13cm、ピット2は径26cm・深さ18cmを測る。

遺物 土師器片50gが出土している。



第76図 C区9号住居・掘り方、出土遺物

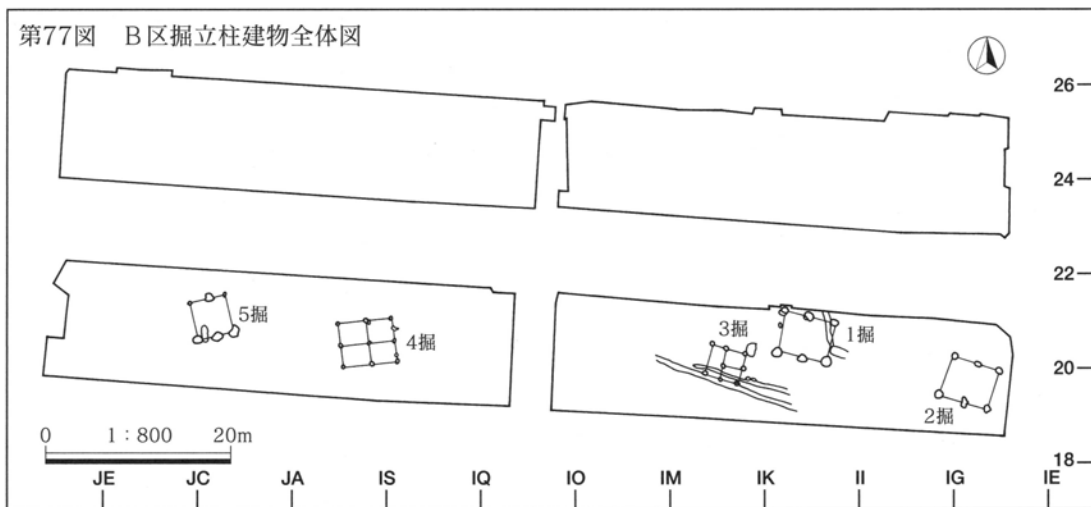
第4節 掘立柱建物

掘立柱建物の概要

掘立柱建物は、B区で5棟、C区で8棟、F区で1棟、計14棟検出された。掘立柱建物は出土遺物が少なく、はっきりとした時期の認定は難しいが、B・Cで検出された住居群と軸線がほぼ一致してい

るものが多く、柱穴の覆土等から概ね古墳時代前期から中期のものと想定される。また、検出された掘立柱建物の多くは1間×2間のもので、梁間が長い特徴的な形態のものである。

(1) B区掘立柱建物



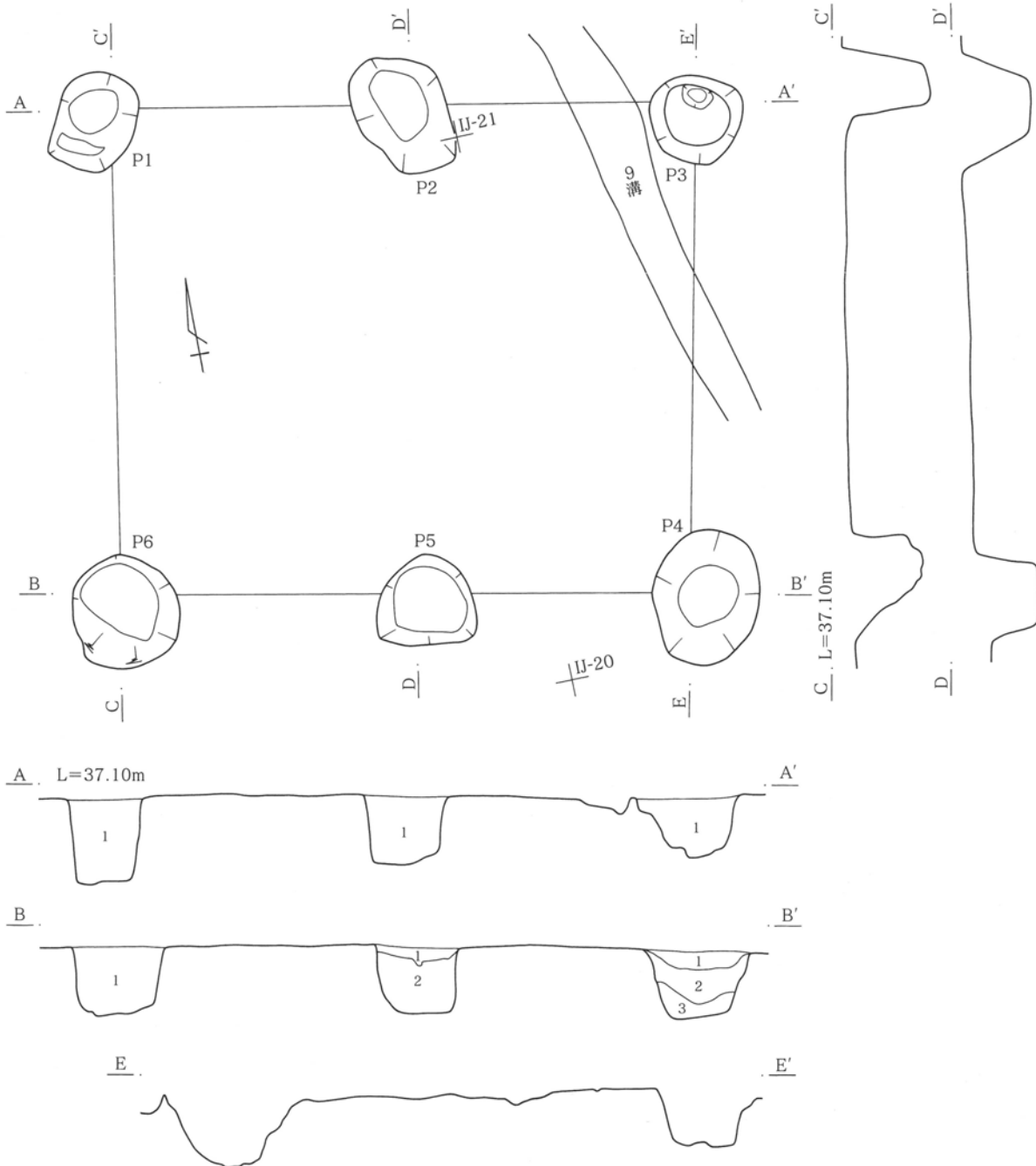
B区1号掘立柱建物 (第78図、P L23)
 位置 I I - 2 O (B-4区)
 重複 9号溝、14・15号土坑、53・54・62・64～70・78・79号ピットと重複している。
 形態 1間×2間
 規模 長軸5.4m×短軸4.5m
 方位 N-78° -W
 柱穴 掘り方の形態は円形及び楕円形。規模は長径84～121cm、短径69～96cm、深さ57～76cm。柱痕は不明である。
 遺物 掲載遺物はないが、土師器片60gが出土している。
 所見 覆土・出土遺物などから古墳時代前～中期と考えられる。

重複 なし。
 形態 1間×2間
 規模 長軸5.3m×短軸4.2m
 方位 N-73° -W
 柱穴 掘り方の形態は楕円形及び隅丸方形。規模は長径74～91cm、短径49～69cm、深さ56～85cm。柱痕は径18cm程である。
 遺物 土師器甕が出土している。他に、土師器片450gが出土している。
 所見 覆土・出土遺物などから古墳時代前～中期と考えられる。

第8表 B区2号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	74	49	56		P1～P2 255
2	74	51	59		P2～P3 250
3	84	52	61	19	P3～P4 432
4	78	69	72		P4～P5 255
5	81	68	85	18	P5～P6 276
6	91	68	65		P6～P1 426

B区2号掘立柱建物 (第79図、P L23・47)
 位置 I F - 1 9 (B-4区)



第7表 B区1号掘立柱建物柱穴計測表

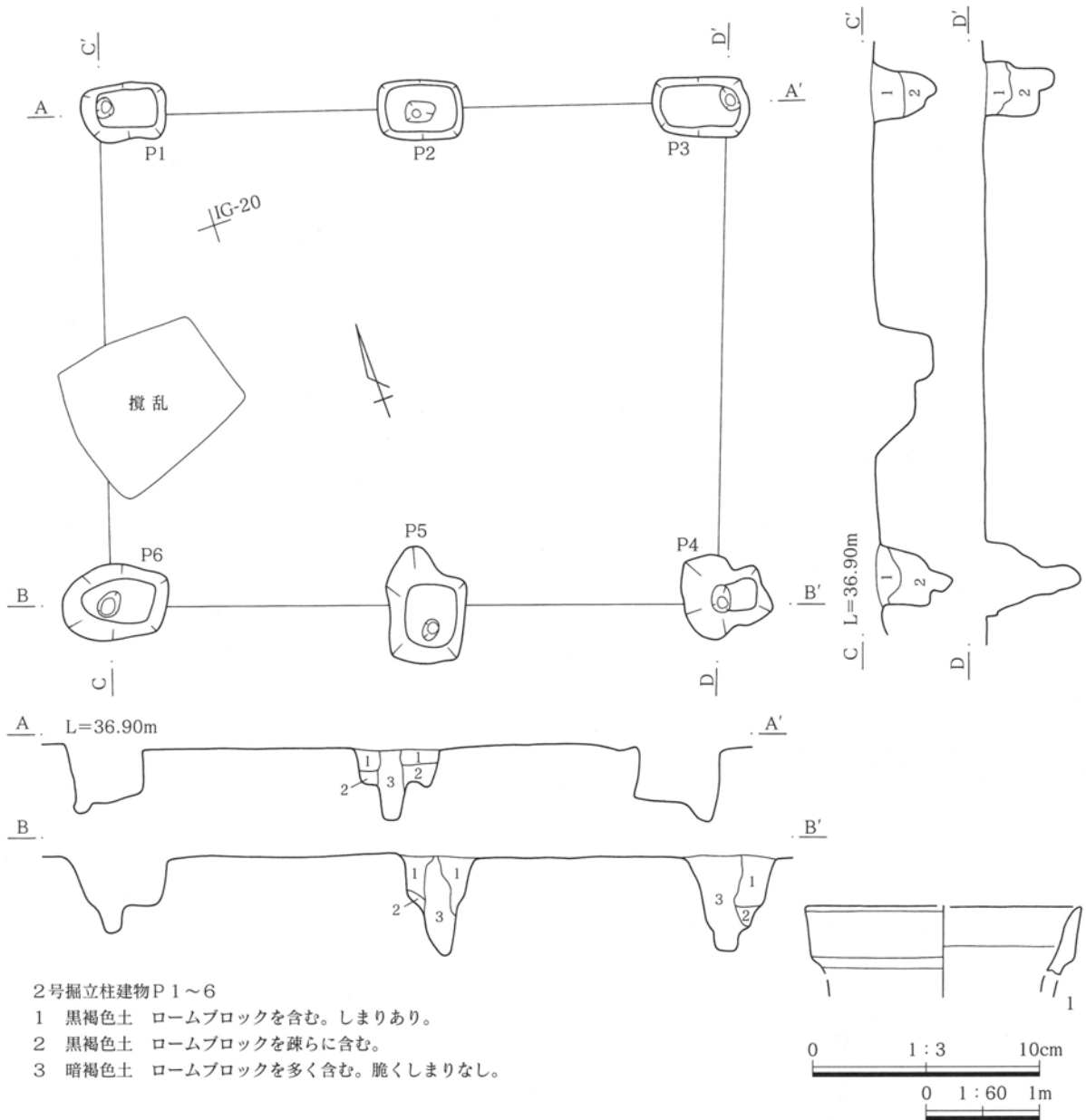
No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	89	69	76		P1~P2 268
2	117	82	65		P2~P3 270
3	84	79	57		P3~P4 438
4	121	96	57		P4~P5 260
5	91	70	60		P5~P6 278
6	100	96	59		P6~P1 448

1号掘立柱建物P1~6

- 1 黒褐色土 やや砂質。暗褐色土・ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土 暗褐色土・ロームブロックを含む。
- 3 灰褐色土 黒色土を含む。

0 1:60 1m

第78図 B区1号掘立柱建物



第79図 B区2号掘立柱建物、出土遺物

B区3号掘立柱建物 (第80図、P L47)

位置 I L-20 (B-4区)

重複 2・10号溝、8号土坑と重複している。

形態 2間×2間

規模 長軸3.3m×短軸3.1m

方位 N-72° -W

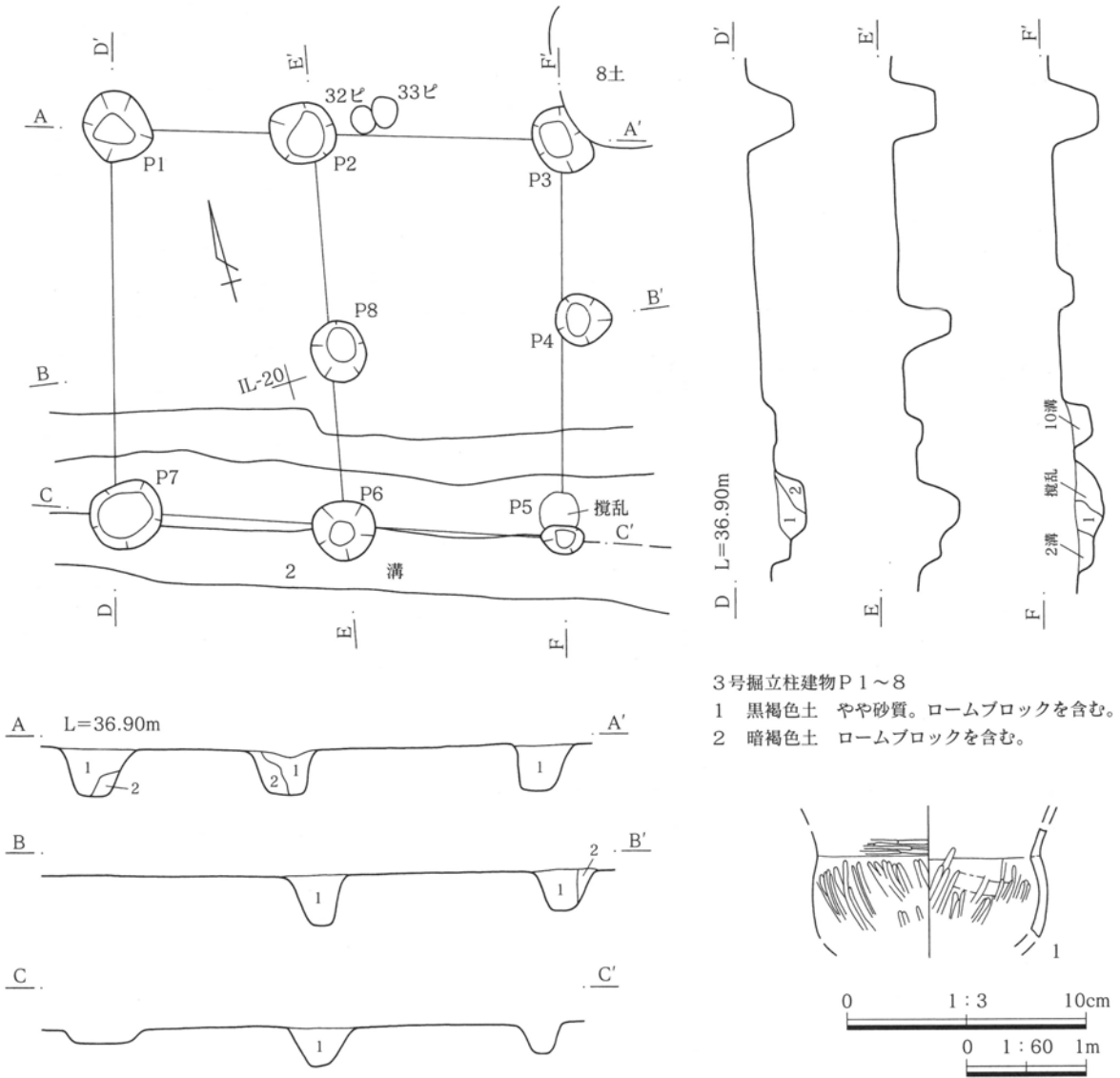
遺物 土師器鉢が出土している。他に、土師器片60gが出土している。

所見 覆土・出土遺物などから古墳時代前~中期と考えられる。

柱穴 掘り方の形態は円形及び楕円形。規模は長径36~58cm、短径28~50cm、深さ20~40cm。柱痕は不明。

第9表 B区3号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	58	50	39		P1~P2 160
2	52	50	37		P2~P3 213
3	58	40	40		P3~P4 149
4	44	42	30		P4~P5 162
5	36	28	20		P5~P6 188
6	46	44	28		P6~P7 185
7	58	54	27		P7~P1 324
8	54	44	42		P8~P2 172



第80図 B区3号掘立柱建物、出土遺物

B区4号掘立柱建物 (第81図、PL24)

位置 IS-20 (B-3区)

重複 113・116・119・131・134・135号ピットと重複している。

形態 2間×2間

規模 長軸5.6m×短軸4.6m

方位 N-83° -E

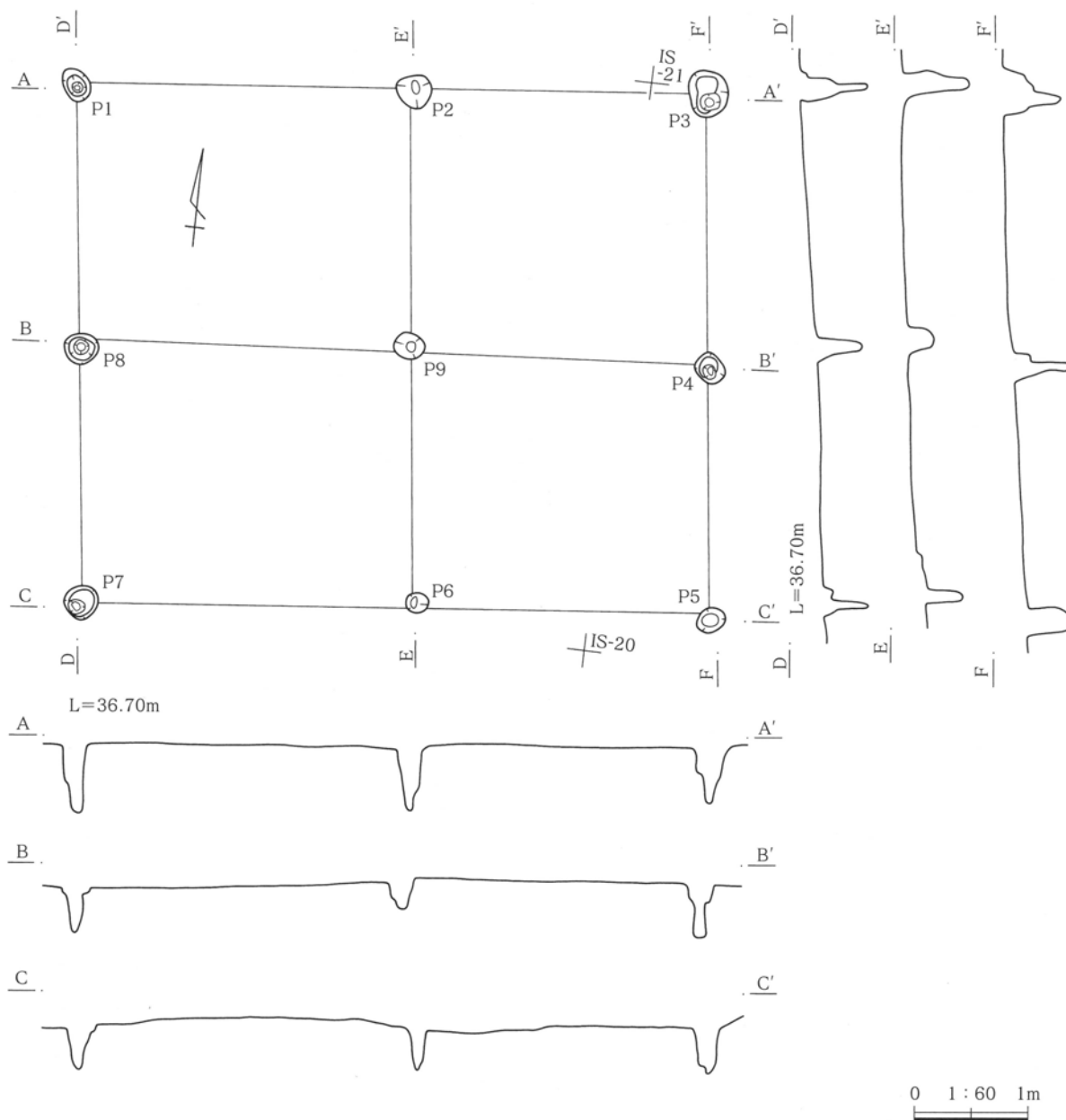
柱穴 掘り方の形態は円形及び楕円形。規模は長径19~39cm、短径19~32cm、深さ38~55cm。柱痕は不明。

遺物 なし。

所見 時期不明。

第10表 B区4号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	29	22	64		P1~P2 298
2	29	28	55		P2~P3 265
3	39	32	50		P3~P4 242
4	27	24	55		P4~P5 220
5	24	22	41		P5~P6 215
6	19	19	40		P6~P7 300
7	29	28	41		P7~P1 230
8	28	28	38		P8~P9 290
9	27	24	51		P9~P2 230



第81図 B区4号掘立柱建物

B区5号掘立柱建物 (第82図、P L24・47)

位置 JB-21 (B-3区)

重複 なし。

形態 1間×2間

規模 長軸3.9m×短軸3.8m

方位 N-75° - E

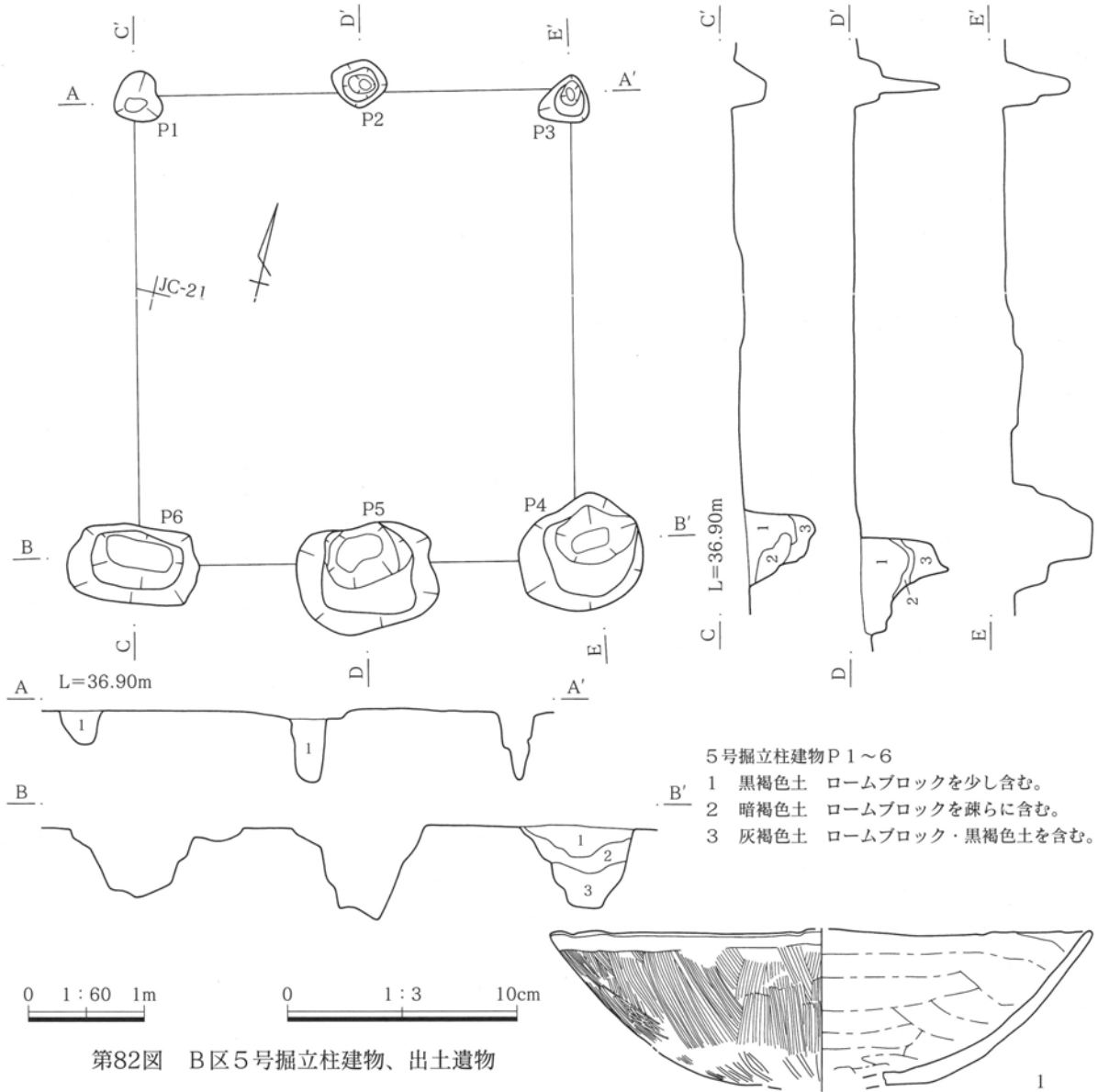
柱穴 掘り方の形態は楕円形及び隅丸方形。規模は長径40~116cm、短径31~96cm、深さ29~80cm。柱痕は不明。

遺物 土師器高坏が出土している。

所見 覆土・出土遺物などから古墳時代中期と考えられる。

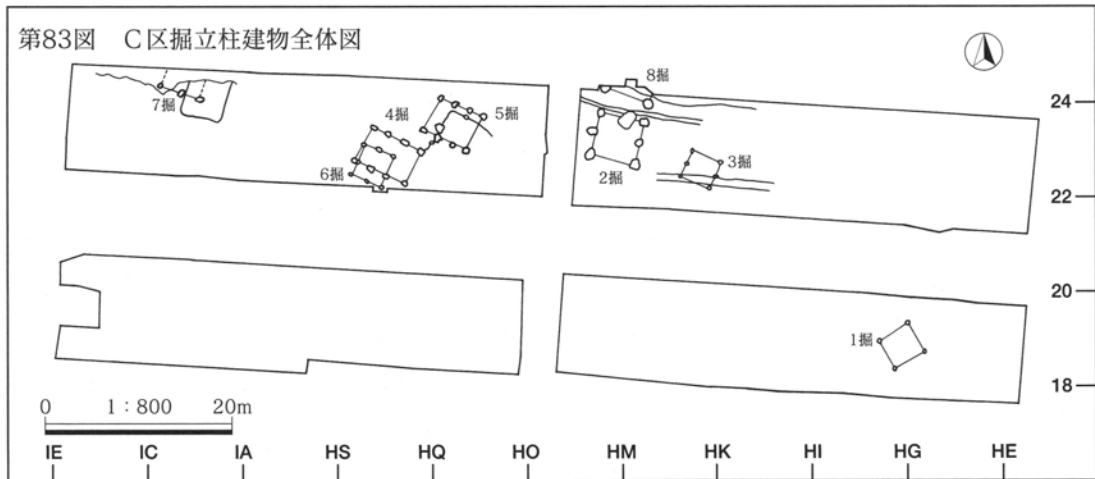
第11表 B区5号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	40	31	29		P1~P2 195
2	48	42	50		P2~P3 178
3	45	38	56		P3~P4 392
4	108	96	68		P4~P5 192
5	116	88	80		P5~P6 195
6	114	69	58		P6~P1 393



第82図 B区5号掘立柱建物、出土遺物

(2) C区掘立柱建物



第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

C区1号掘立柱建物 (第84図、P L25)

位置 HG-19 (C-4区)

重複 なし。

形態 1間×1間

規模 長軸3.5m×短軸3.3m

方位 N-59° -W

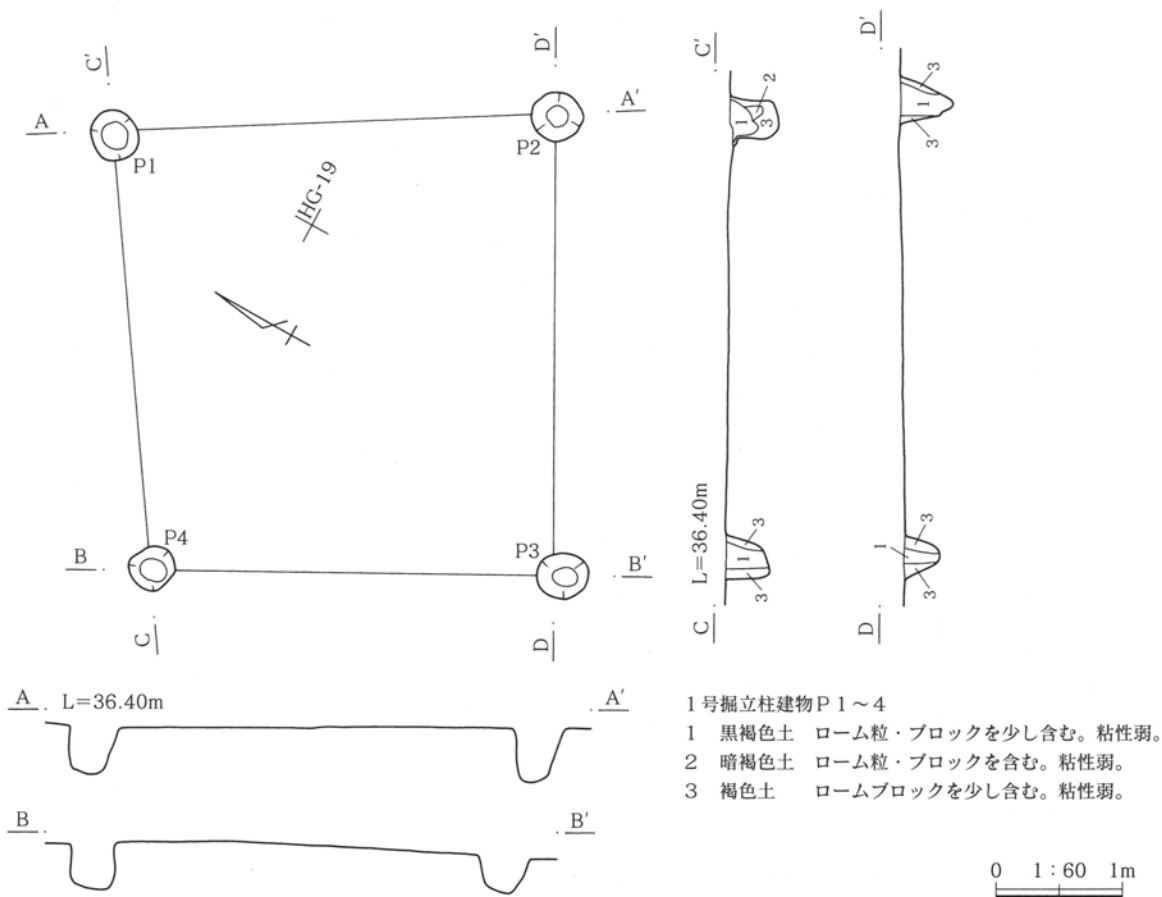
柱穴 掘り方の形態は円形及び楕円形。規模は長径32~38cm、短径30~36cm、深さ32~40cm。柱痕は径14cm程である。

遺物 なし。

所見 時期は不明。古墳時代前~中期の住居の柱穴の可能性も考えられる。

第12表 C区1号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	38	36	40		P1~P2 351
2	34	32	42	16	P2~P3 368
3	38	32	32		P3~P4 330
4	32	30	34	14	P4~P1 350



第84図 C区1号掘立柱建物

C区2号掘立柱建物 (第85図、P L25)

位置 HM-23 (C-2区)

重複 2号土坑と重複している。

形態 1間×2間

規模 長軸4.6m×短軸4.4m

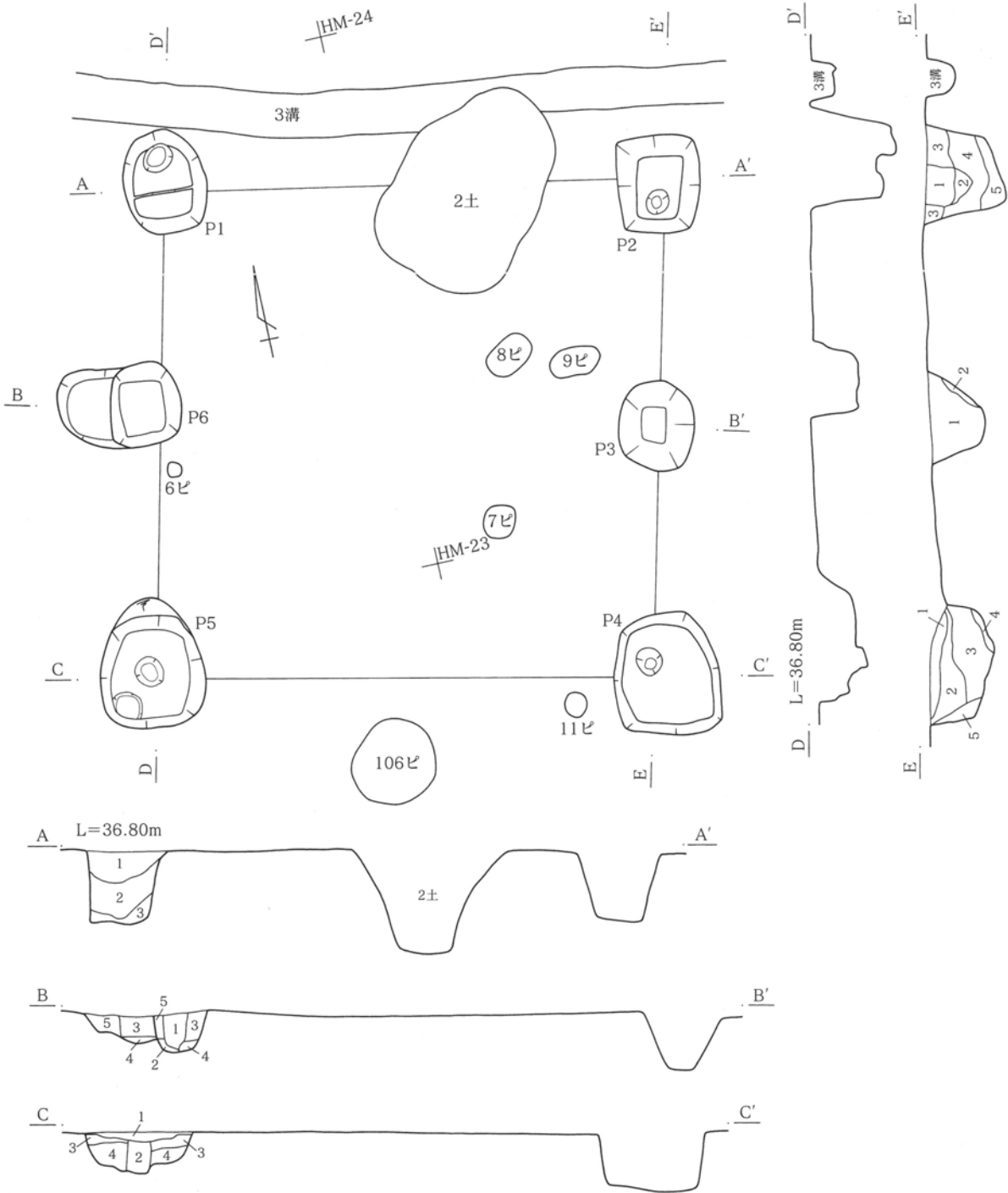
方位 N-12° -E

柱穴 掘り方の形態は隅丸方形。規模は長軸84~

108cm、短軸70~99cm、深さ39~72cm。柱痕は18~28cm程である。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片35gが出土している。

所見 覆土・出土遺物などから古墳時代前~中期と考えられる。



第13表 C区2号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	96	86	70		P1~P2 449
2	91	98	81	22	P2~P3 225
3	86	70	55		P3~P4 233
4	108	99	72	18	P4~P5 447
5	106	98	39	28	P5~P6 199
6	84	76	44	28	P6~P1 213

2号掘立柱建物P1~6

- 1 黒褐色土 ローム粒を含む。粘性やや弱。しまりやや弱。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。粘性中。
- 3 暗褐色土 黒褐色土とロームが混じる。
- 4 黒褐色土 ローム粒・ブロックを含む。粘性中。しまりやや強。
- 5 褐色土 ロームブロック・黒色土・鉄分を含む。しまり強。

0 1:60 1m

第85図 C区2号掘立柱建物

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

C区3号掘立柱建物 (第86図)

位置 HK-22 (C-2区)

重複 83・84号ピットと重複している。

形態 1間×2間

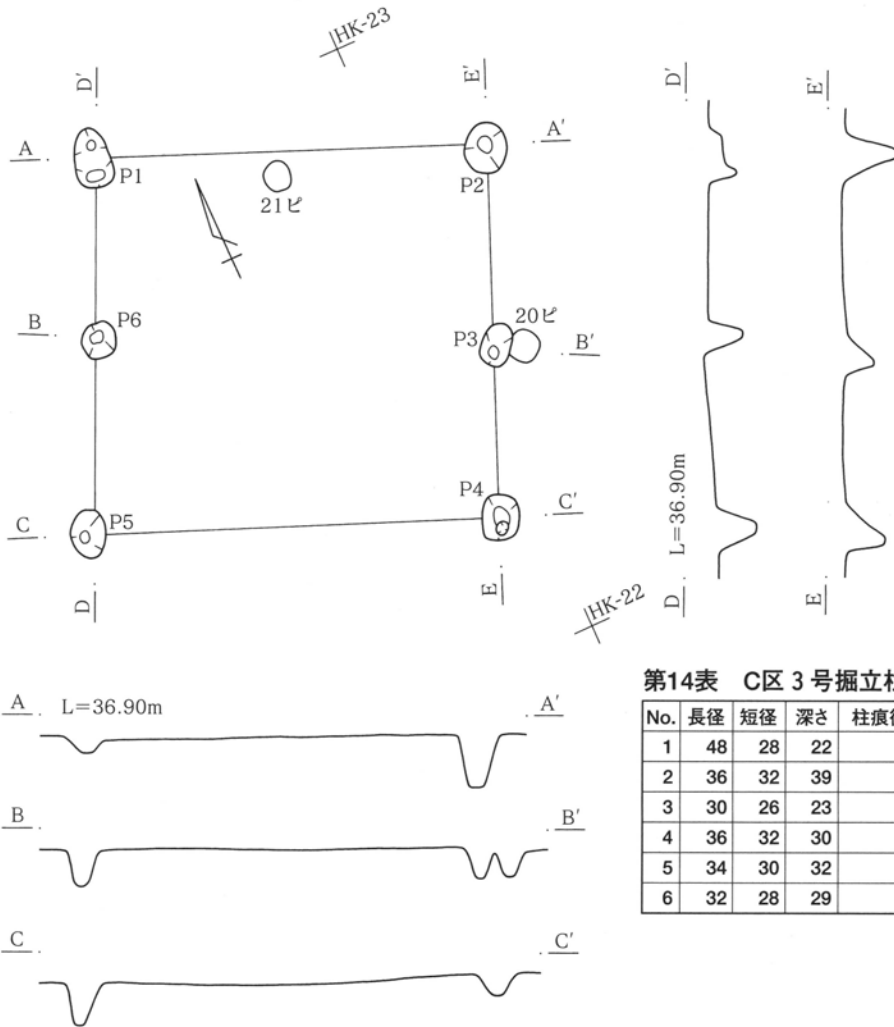
規模 長軸4.6m×短軸4.4m

方位 N-25° - E

柱穴 掘り方の形態は円形及び楕円形。規模は長径30~48cm、短径26~32cm、深さ22~39cm。柱痕は不明。

遺物 なし。

所見 時期は不明。



第86図 C区3号掘立柱建物

C区4号掘立柱建物 (第87図、P L26・47)

位置 HQ-22 (C-1区)

重複 6号掘立柱建物と重複している。

形態 1間×3間

規模 長軸6.1m×短軸4.0m

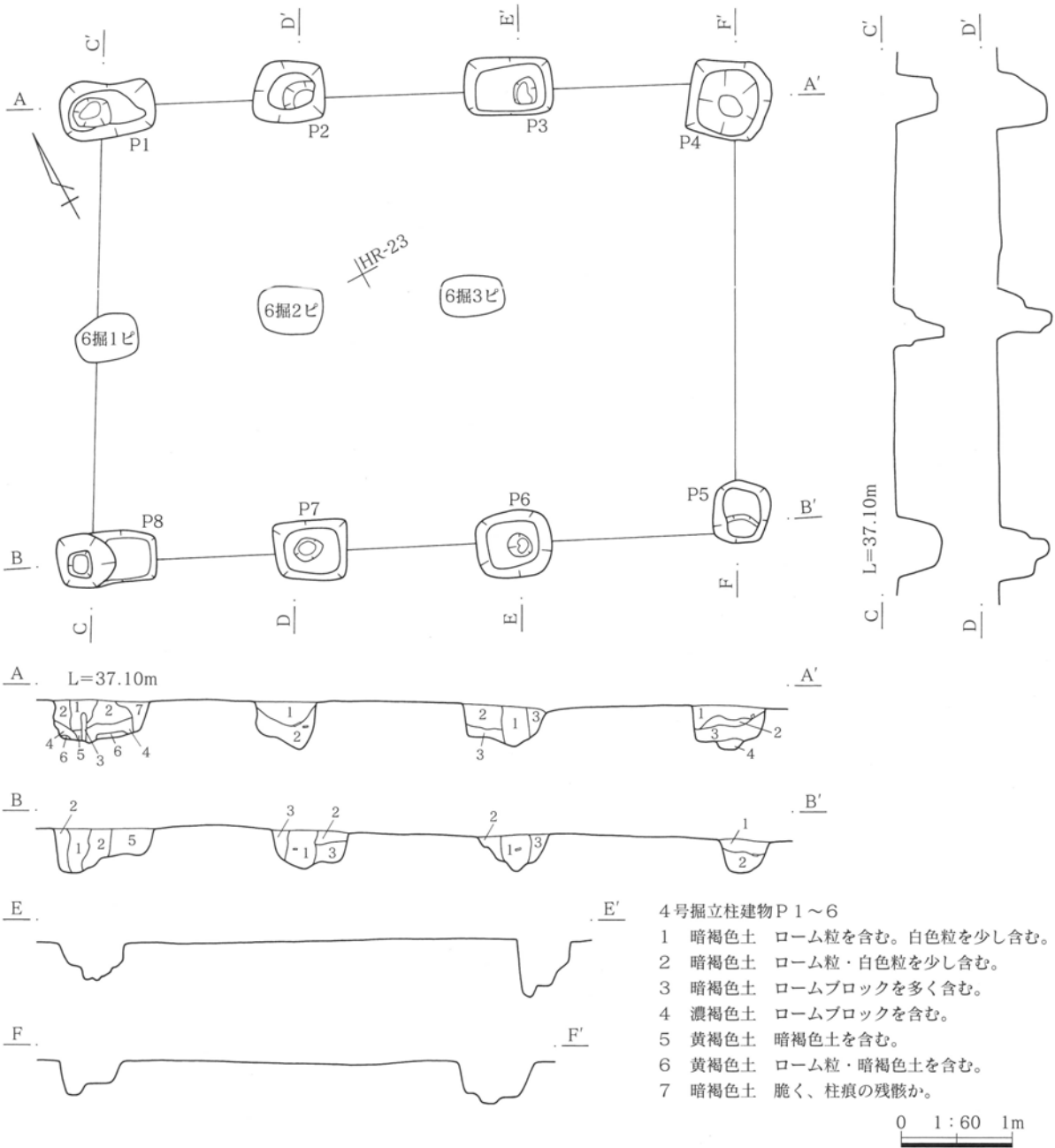
方位 N-28° - E

柱穴 掘り方の形態は隅丸方形。規模は長径62~

90cm、短径44~58cm、深さ38~60cm。柱痕は径20cm程である。

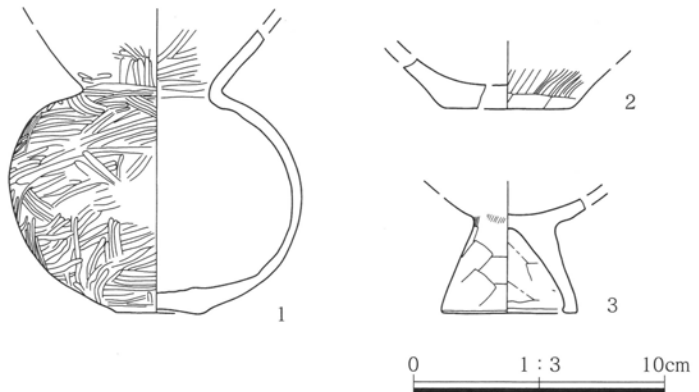
遺物 土師器埴 (P4)、甕 (P5)、台付甕 (P1) が出土している。他に、土師器片375gが出土。

所見 覆土・出土遺物などから古墳時代前期と考えられる。



第15表 C区4号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	84	48	60	10	P1~P2 188
2	62	56	54		P2~P3 200
3	79	49	50	28	P3~P4 202
4	63	55	42	16	P4~P5 405
5	43	40	30		P5~P6 200
6	70	58	45	24	P6~P7 190
7	64	52	42	24	P7~P8 200
8	90	44	38	18	P8~P1 408



第87図 C区4号掘立柱建物、出土遺物

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

C区5号掘立柱建物 (第88・89図、P L27・47)

位置 HP-23 (C-1区)

重複 4号住居と重複している。本遺構が新しい。

形態 1間×3間

規模 長軸5.0m×短軸3.9m

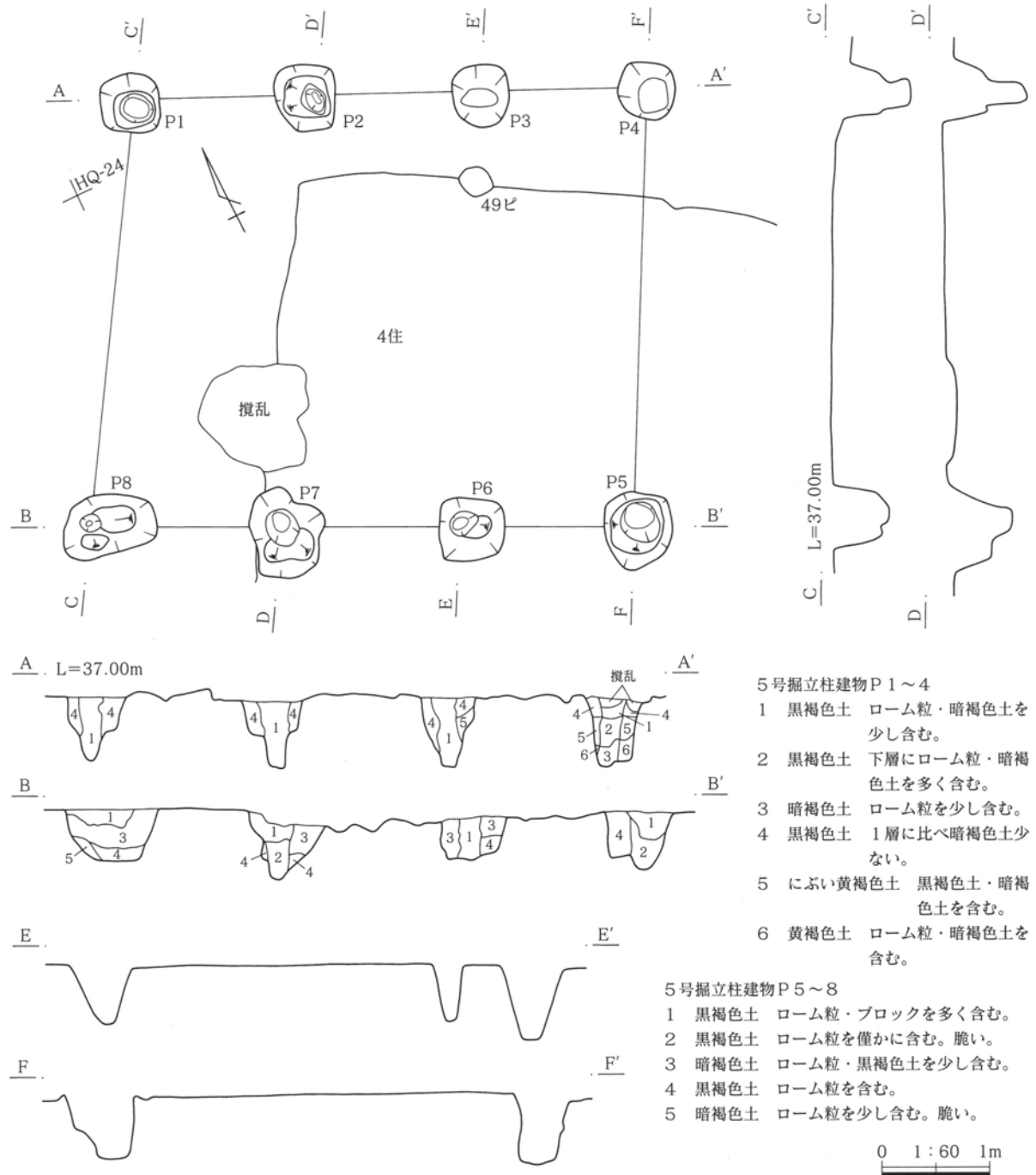
方位 N-63° -W

柱穴 掘り方の形態は円形及び楕円形。規模は長径

54~80cm、短径51~62cm、深さ52~61cm。柱痕は径19cm程である。

遺物 土師器器台 (P6)、甕 (P4)、台付甕 (P2, 3) が出土している。他に、土師器片355gが出土。

所見 覆土・出土遺物などから古墳時代前期と考えられる。



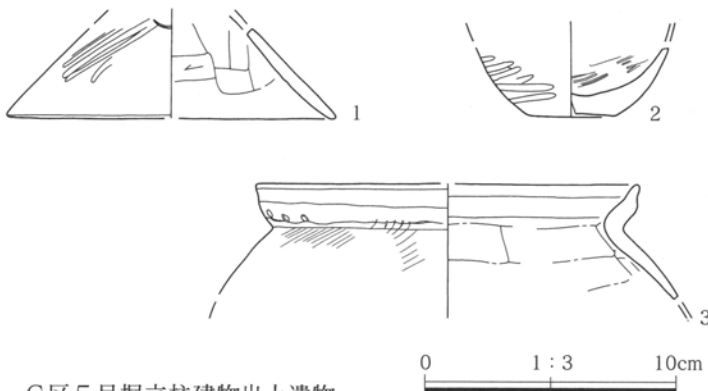
- 5号掘立柱建物P1~4
- 1 黒褐色土 ローム粒・暗褐色土を少し含む。
 - 2 黒褐色土 下層にローム粒・暗褐色土を多く含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒を少し含む。
 - 4 黒褐色土 1層に比べ暗褐色土少ない。
 - 5 にぶい黄褐色土 黒褐色土・暗褐色土を含む。
 - 6 黄褐色土 ローム粒・暗褐色土を含む。

- 5号掘立柱建物P5~8
- 1 黒褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。脆い。
 - 3 暗褐色土 ローム粒・黒褐色土を少し含む。
 - 4 黒褐色土 ローム粒を含む。
 - 5 暗褐色土 ローム粒を少し含む。脆い。

第88図 C区5号掘立柱建物

第16表 C区5号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	56	54	55	19	P1~P2 172
2	64	52	61	19	P2~P3 155
3	59	51	54	20	P3~P4 157
4	54	54	58	19	P4~P5 388
5	70	62	59		P5~P6 152
6	57	59	63	17	P6~P7 170
7	72	61	52	18	P7~P8 181
8	80	54	60		P8~P1 389



第89図 C区5号掘立柱建物出土遺物

C区6号掘立柱建物 (第90図、P L26)

位置 HR-22 (C-1区)

重複 4号掘立柱建物と重複している。

形態 1間×2間

規模 長軸3.5m×短軸3.3m

方位 N-22° - E

柱穴 掘り方の形態は円形及び隅丸方形。規模は長径42~56cm、短径36~42cm、深さ30~44cm。

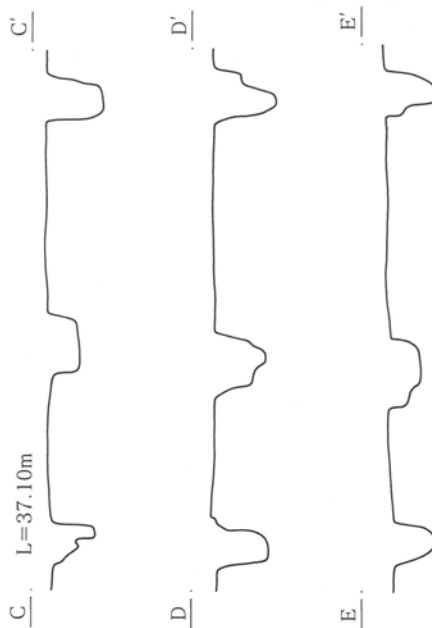
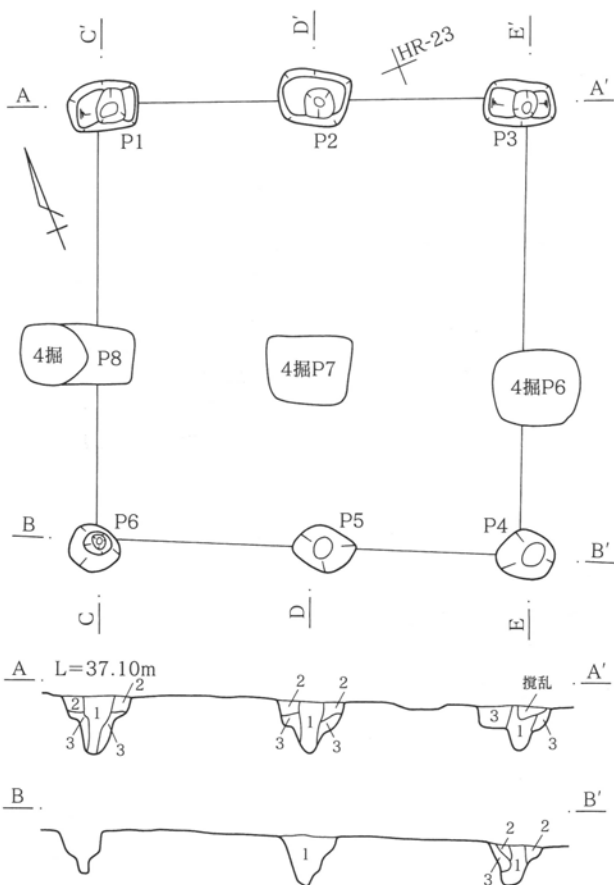
柱痕は径12cm程である。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片10gが出土。

所見 出土遺物少なく、時期は不明。

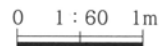
第17表 C区6号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	54	39	44	10	P1~P2 171
2	56	42	40	12	P2~P3 162
3	56	36	32	16	P3~P4 352
4	46	38	30	10	P4~P5 170
5	48	38	39		P5~P6 171
6	42	38	34		P6~P1 342



6号掘立柱建物P1~5

- 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒を少し含む。柱痕。
- 2 暗褐色土 ローム粒・白色粒を少し含む。1層より黒味強い。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。



第90図 C区6号掘立柱建物

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

C区7号掘立柱建物 (第91図、P L27・47)

位置 IB-24 (C-1区)

重複 3号住居と重複している。本遺構が古い。

形態・規模・方位 北側が攪乱のため不明。

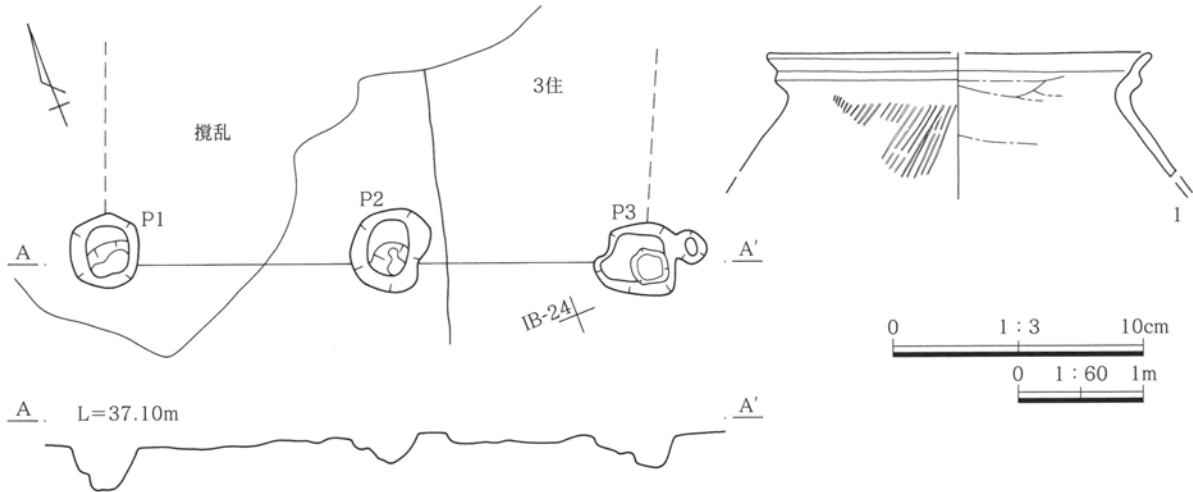
柱穴 掘り方の形態は円形及び楕円形。規模は長径56~64cm、短径54~60cm、深さ21~31cm。柱痕は不明。

遺物 P3から土師器台付甕が出土している。

所見 覆土・出土遺物などから古墳時代前期と考えられる。

第18表 C区7号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	56	54	31		P1~P2 225
2	64	60	21		P2~P3 212
3	62	58	26		



第91図 C区7号掘立柱建物、出土遺物

C区8号掘立柱建物 (第92図、P L25)

位置 HL-24 (C-2区)

重複 なし。

形態・規模・方位 北側が調査区外のため不明。

柱穴 掘り方の形態は隅丸方形。規模は長軸92~100cm、短径88cm、深さ60~72cm。柱痕は径

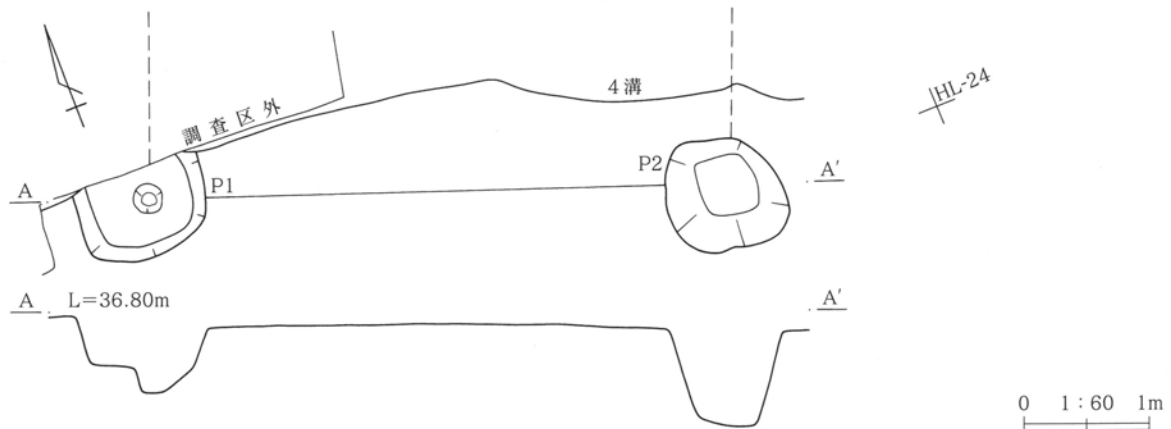
25cm程である。

遺物 なし。

所見 出土遺物なく、時期は不明。

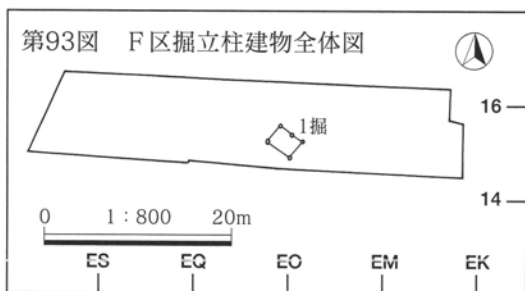
第19表 C区8号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	100	-	60	21	P1~P2 458
2	92	88	72	29	



第92図 C区8号掘立柱建物

(3) F区掘立柱建物



F区1号掘立柱建物 (第94図、P L 27)

位置 EO-15 (F-3区)

重複 なし。

形態 1間×2間

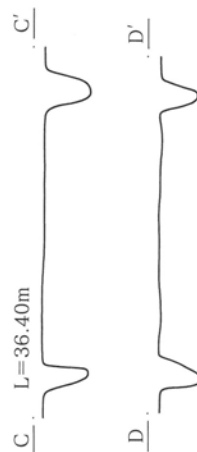
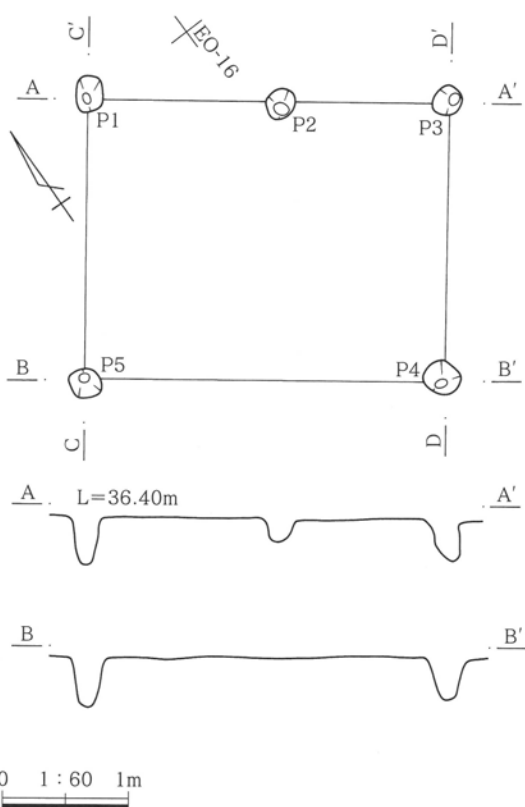
規模 長軸2.9m×短軸2.3m

方位 N-54° -W

柱穴 掘り方の形態は円形及び楕円形。規模は長径23~29cm、短径19~25cm、深さ14~37cm。柱痕は検出されなかった。

遺物 なし。

所見 出土遺物少なく、時期は不明。



第20表 F区1号掘立柱建物柱穴計測表

No.	長径	短径	深さ	柱痕径	柱間長
1	29	19	37		P1~P2 152
2	25	22	14		P2~P3 138
3	23	22	32		P3~P4 222
4	29	22	33		P4~P5 285
5	26	25	36		P5~P1 228

第94図 F区1号掘立柱建物

第5節 井戸・土坑・ピット

井戸・土坑・ピットの概要

本遺跡で検出された井戸は、A区1基、B区2基、C区1基、F区1基の計5基である。5基とも、人力で掘削し調査したため、安全面を考慮し、完掘できなかったものもある。また、A区の52・75・76・77号土坑も井戸の可能性があるが、調査時の遺構名である土坑で報告する。

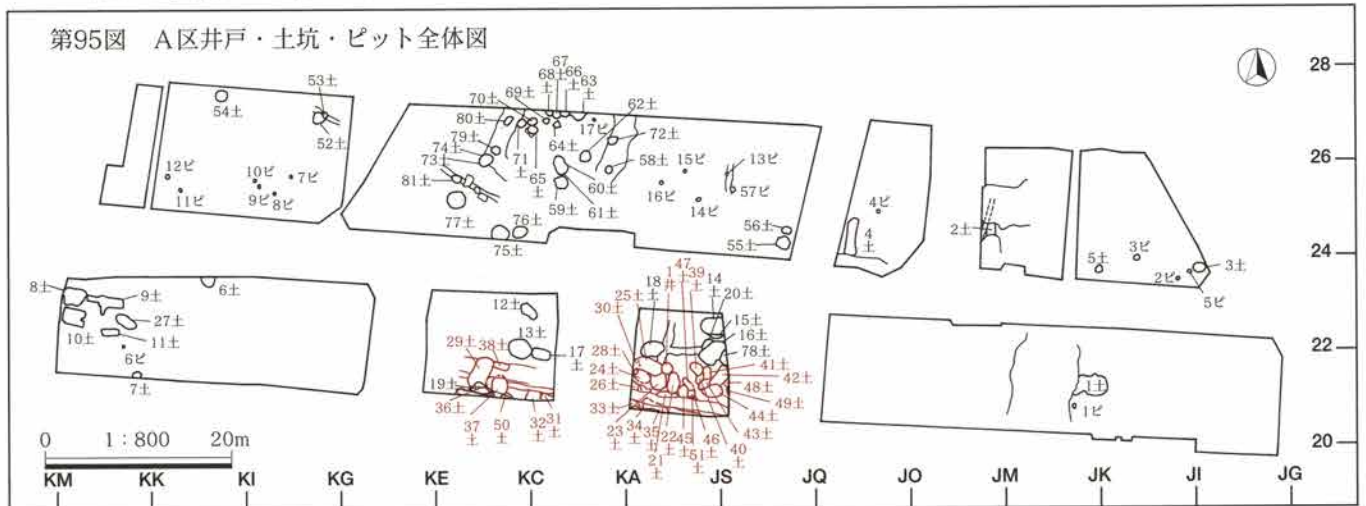
本遺跡で検出された土坑は、169基である。内訳はA区81基、B区43基、C区31基、D区10基、E区1基、F区3基である。A区27号土坑からは縄文土器（後期初頭称名寺式）の深鉢が出土している。A区で検出された15基の土坑は（58・63～71・73・74・78～80）、近世末の土坑墓で、人骨（歯）

・馬骨・古銭・カワラケ・陶磁器などが出土している。B区10号土坑からは土師器手焙り形土器が出土している。

本遺跡で検出されたピットは、372基である。内訳はA区18基、B区174基、C区104基、D区69基、E区2基、F区5基である。土坑・ピットの中には、掘立柱建物や竪穴住居の柱穴に変更になったものもある。（計測表の備考欄参照）

井戸・土坑はすべてを、ピットは掲載遺物のある遺構図を報告する。また、人骨・馬骨が出土したA区72・78・80号土坑は、詳細を報告する。（人骨・馬骨の詳細は、第6章第4節を参照されたい）土坑・ピットの詳細は計測表を参照されたい。

(1) A区井戸・土坑・ピット



A区1号井戸（第96・97図、P L28・47）

所見 出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。

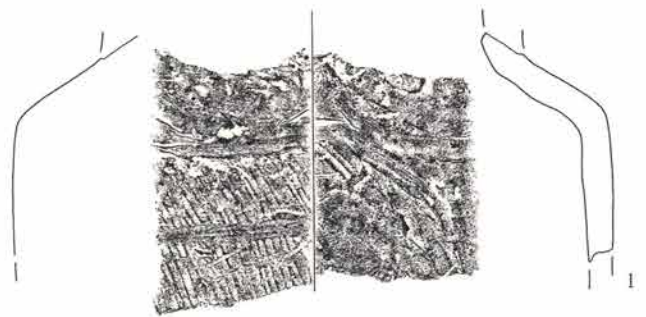
位置 JT-21 (A-3区)

重複 23・25号土坑と重複。本遺構が新しい。

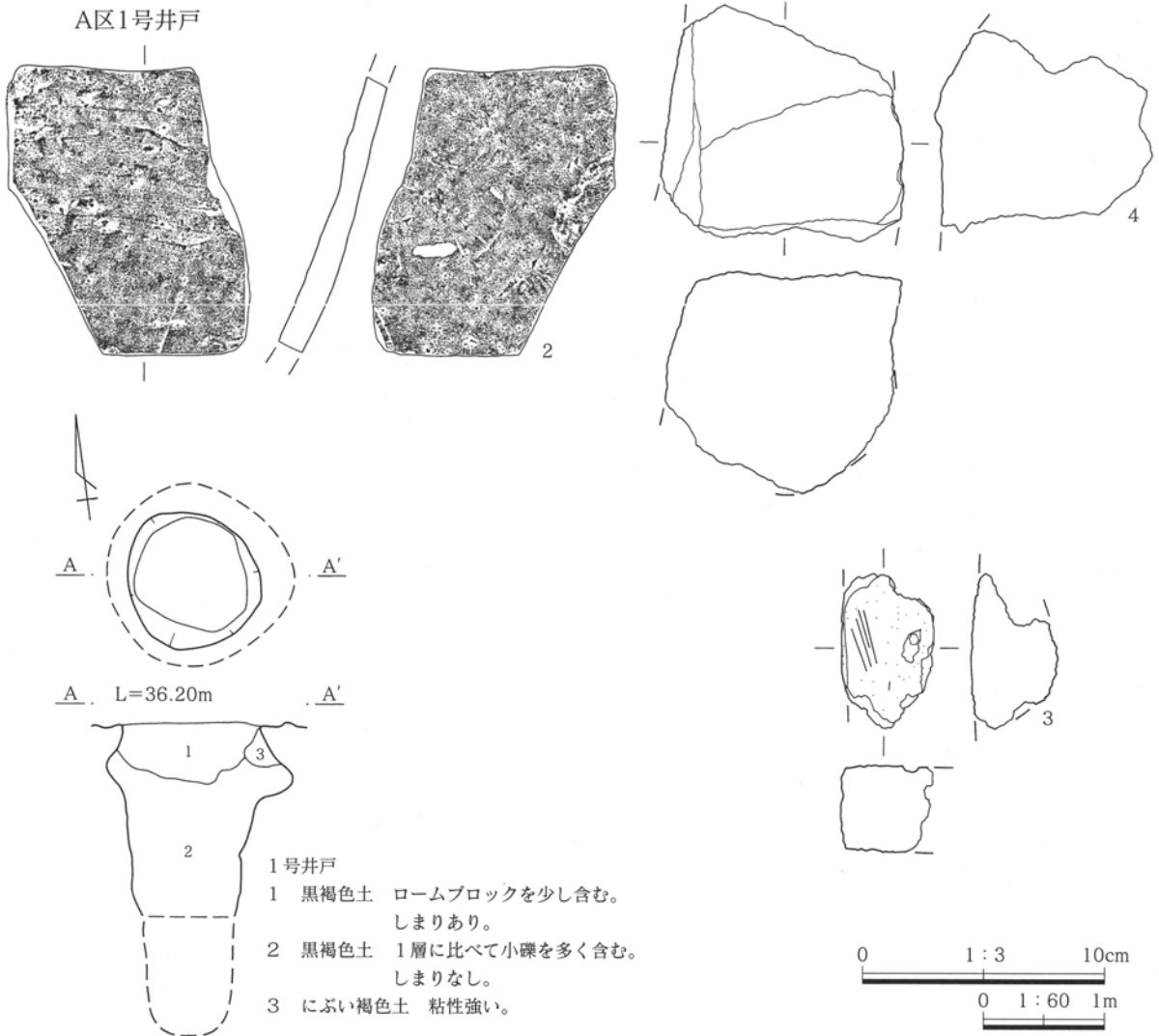
形態 確認面でほぼ円形を成す。断面は上位から0.6mの地点より徐々に細くなり、その下位は径0.6m程の筒状を呈す。上位から0.5m地点にアグリの痕跡が見られる。

規模 長軸×短軸 上面1.08m×1.12m、下面0.55m×0.62m、深さ(2.50)m

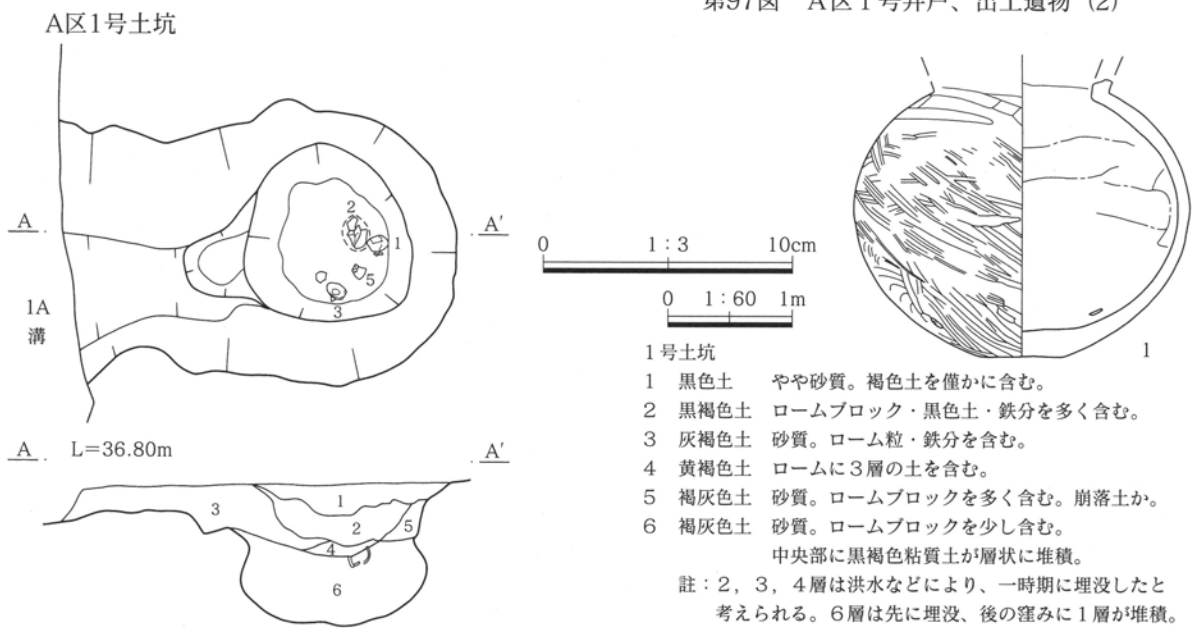
遺物 焼締陶器甕、砥石が出土している。他に、土師器片185g、埴輪片253gが出土。



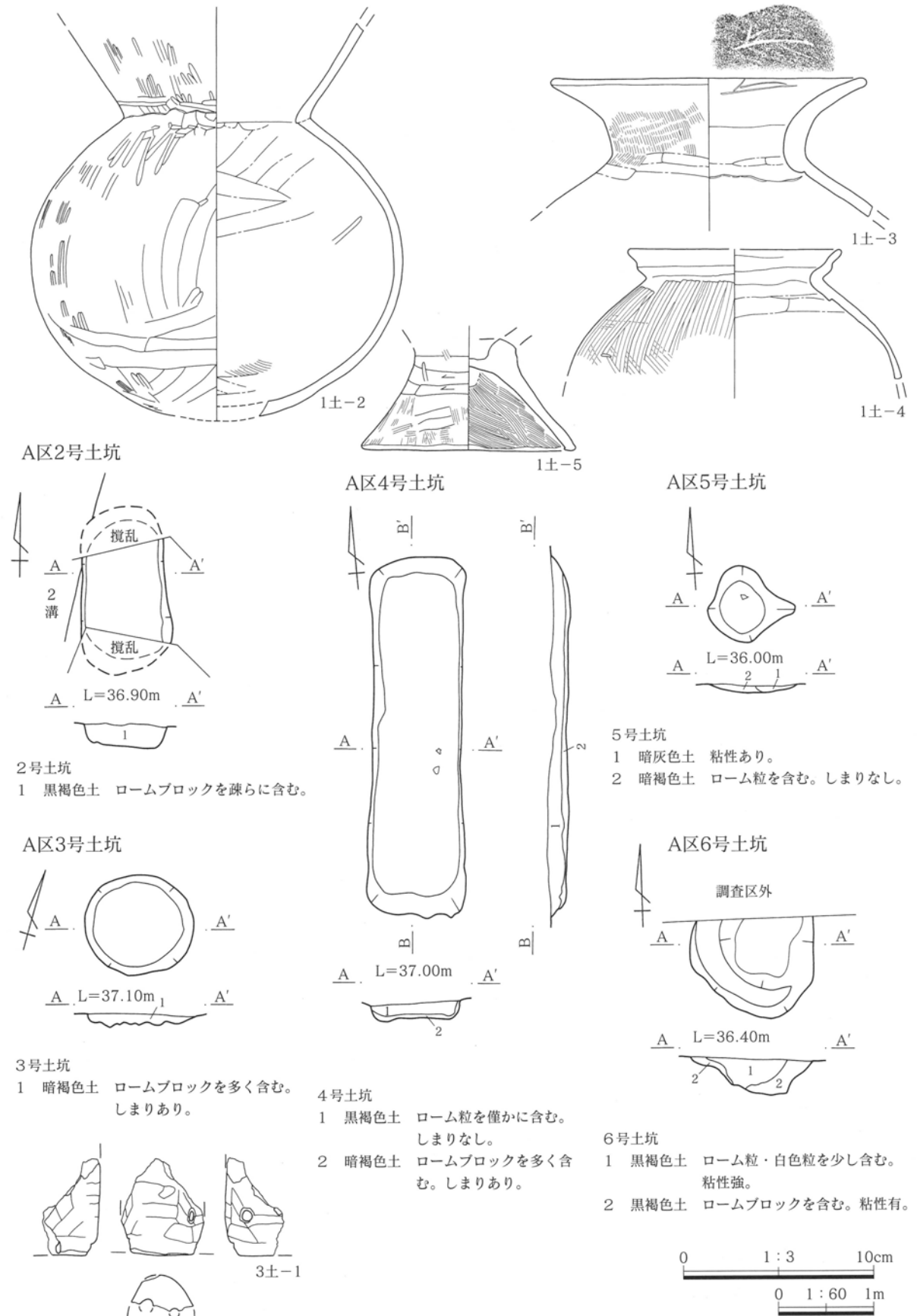
第96図 A区1号井戸出土遺物(1)



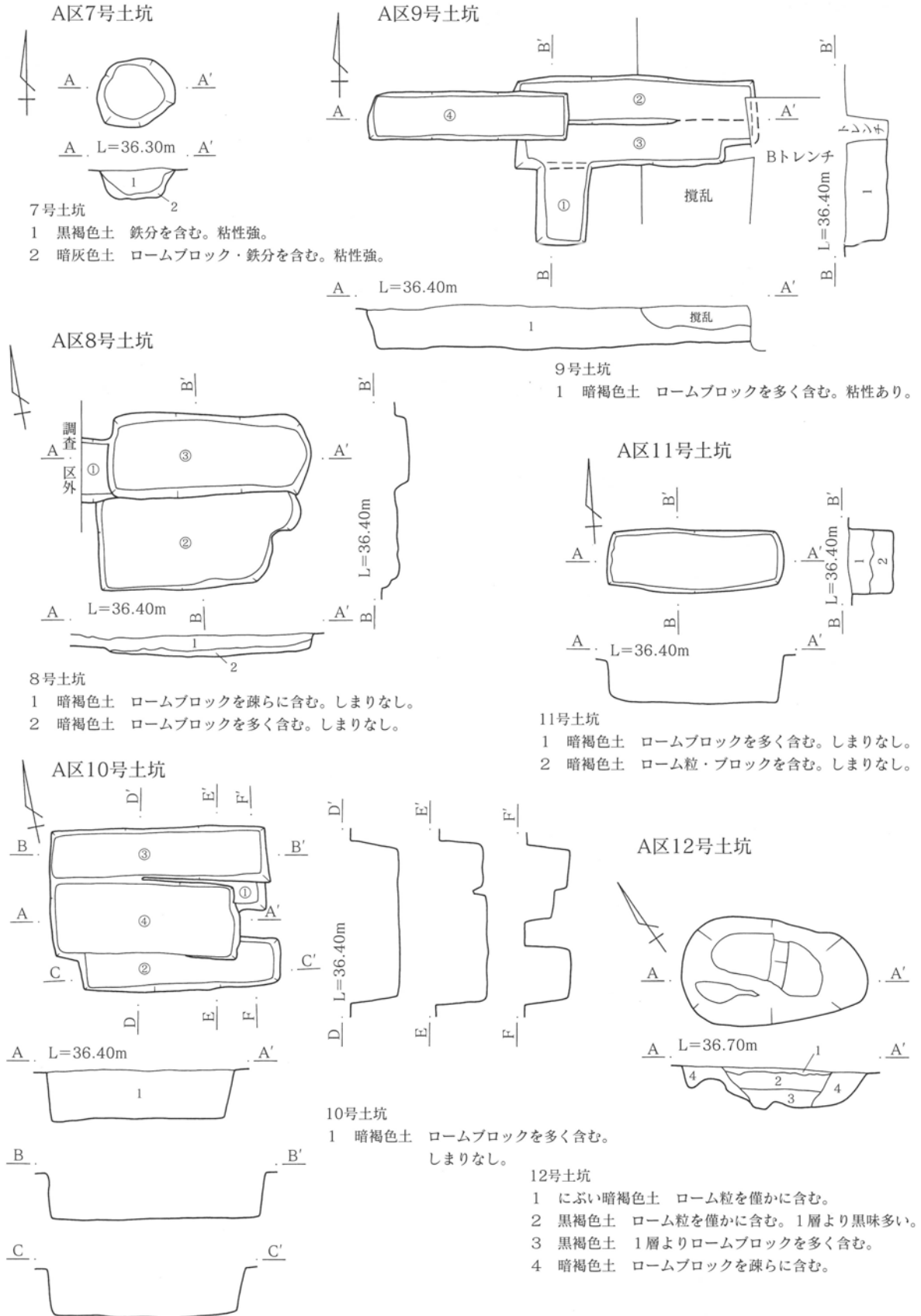
第97図 A区1号井戸、出土遺物 (2)



第98図 A区1号土坑、出土遺物 (1)

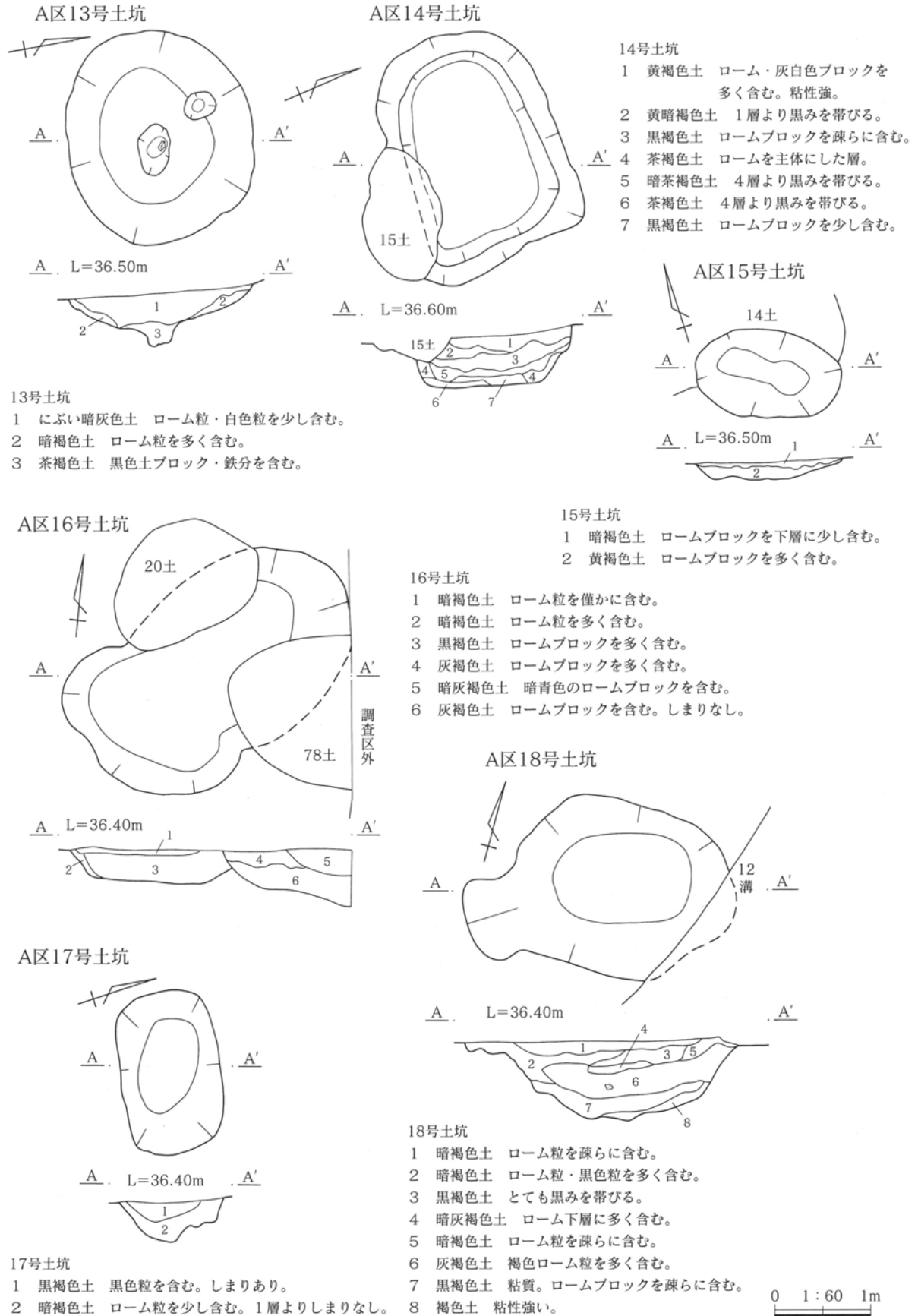


第99図 A区2～6号土坑、1・3号土坑出土遺物



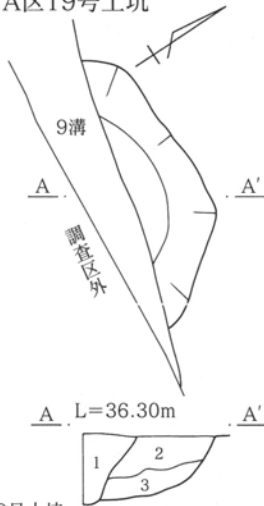
0 1:60 1m

第100図 A区7~12号土坑



第101図 A区13~18号土坑

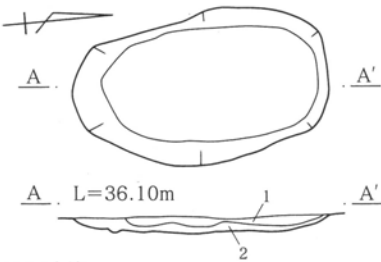
A区19号土坑



19号土坑

- 1 暗褐色土 しまりあり。(9溝覆土)
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。(19土覆土)
- 3 にぶい暗褐色土 ロームブロックを多く含む。(19土覆土)

A区22号土坑



22号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒を多く含む。やや粘性あり。
- 2 暗褐色土 ローム粒・黒色土ブロック・灰色粘土を含む。

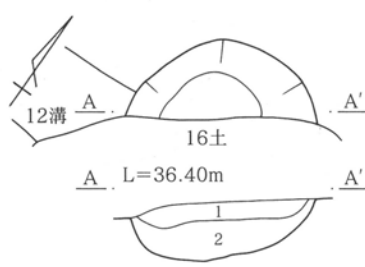
A区24号土坑



24号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒・ローム粒を含む。しまりなし。(28土覆土)
- 2 黒褐色土 下層にロームブロックを含む。

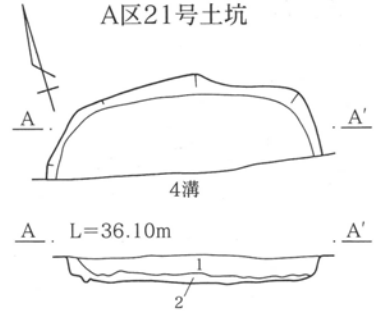
A区20号土坑



20号土坑

- 1 暗灰色土 ローム・黒色土ブロック、白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム・黒色土ブロックを多く含む。

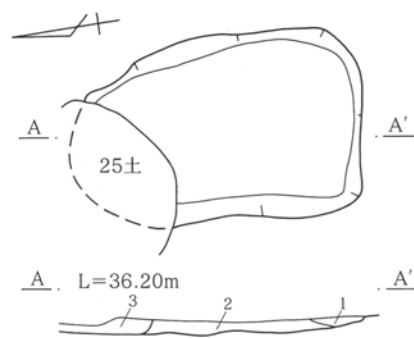
A区21号土坑



21号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・白色粒を少し含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。

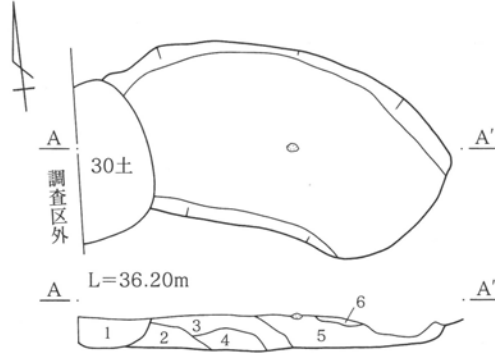
A区23号土坑



23号土坑

- 1 黄褐色土 ローム粒を多く含む。しまりなし。
- 2 暗褐色土 白色粒・ローム粒を疎らに含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒を含む。しまりあり。(25土覆土)

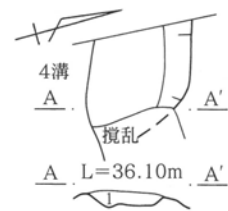
A区25号土坑



25号土坑

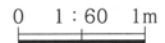
- 1 暗褐色土 ローム粒を多く含む。しまりあり。
- 2 地山 (30土覆土)
- 3 暗褐色土 ロームブロックを均一に含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまりなし。
- 6 暗褐色土 ローム粒を均一に含む。

A区26号土坑

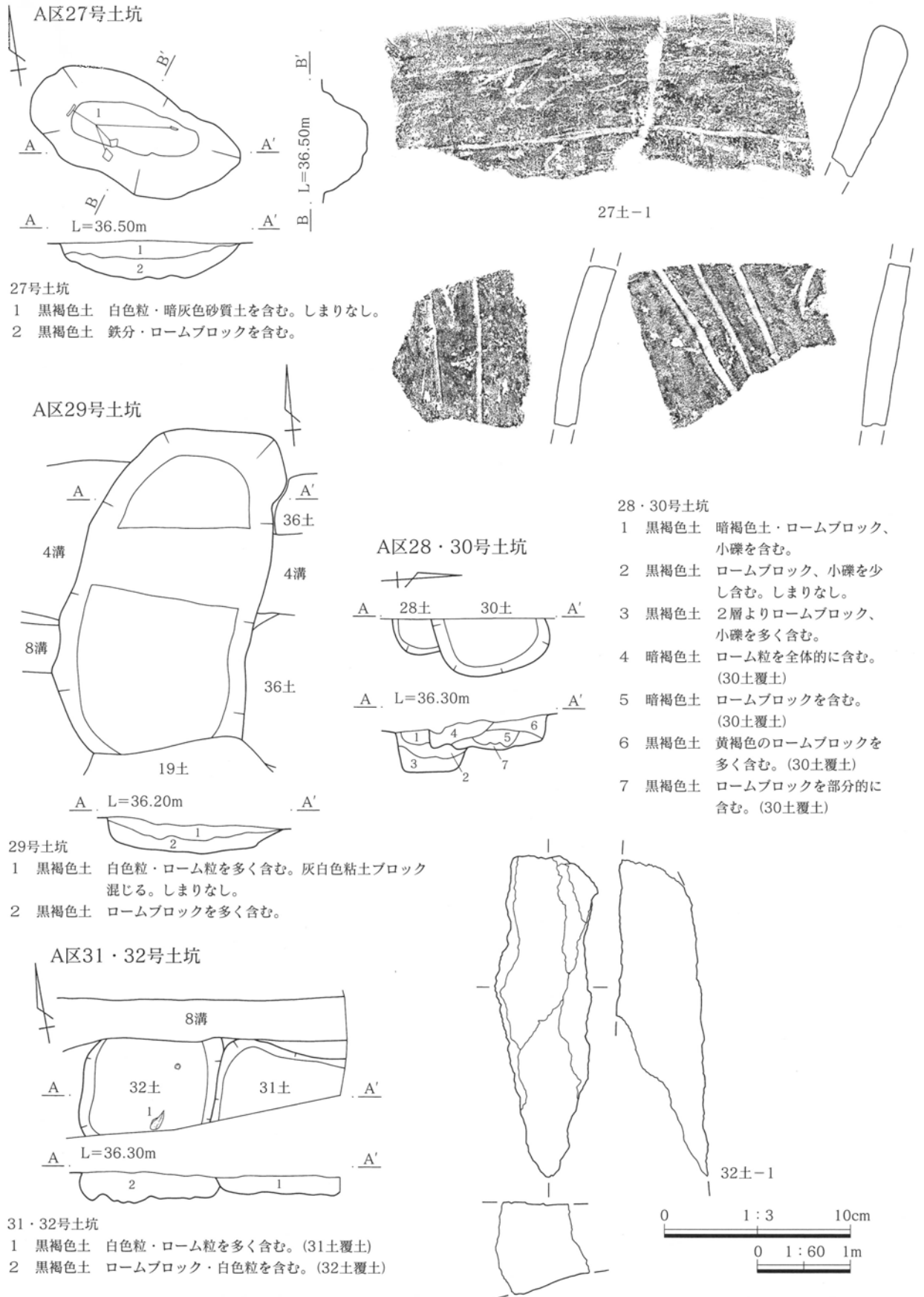


26号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまりなし。

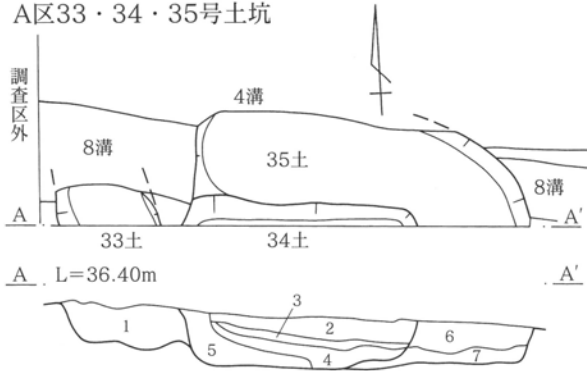


第102図 A区19～26号土坑



第103図 A区27～32号土坑、27・32号土坑出土遺物

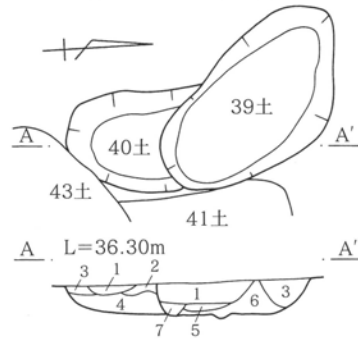
A区33・34・35号土坑



33・34・35号土坑

- 1 黒褐色土 下層に暗褐色のロームブロックを含む。(33土覆土)
- 2 黒褐色土 暗褐色のロームブロックを少し含む。(34土覆土)
- 3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。(34土覆土)
- 4 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。(34土覆土)
- 5 黒褐色土 暗褐色のロームブロックを含む。(34土覆土)
- 6 黒褐色土 黄褐色のロームブロックを多く含む。(35土覆土)
- 7 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。(35土覆土)

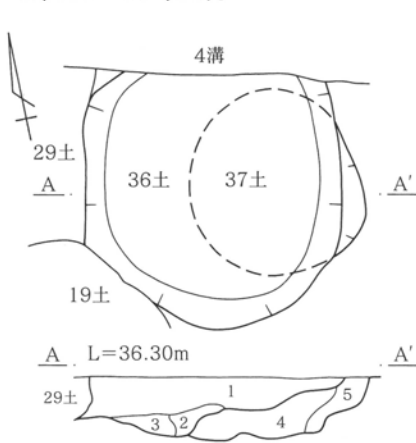
A区39・40号土坑



39・40号土坑

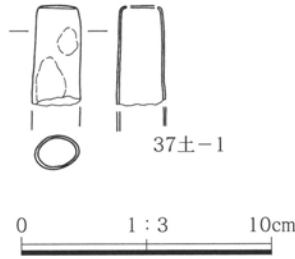
- 1 黒褐色土 ローム粒を含む。(40土覆土)
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。(40土覆土)
- 3 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。(40土覆土)
- 4 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。(40土覆土)
- 5 黒褐色土 ローム粒を少し含む。(39土覆土)
- 6 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。(39土覆土)
- 7 黒褐色土 ローム粒・灰白色ブロックを少し含む。(39土覆土)

A区36・37号土坑

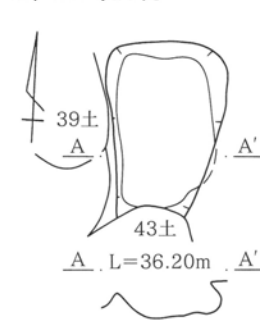


36・37号土坑

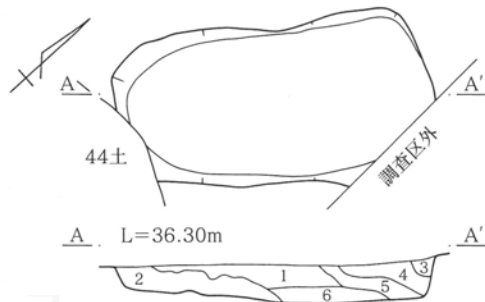
- 1 黒褐色土 下層に褐色ロームブロックを含む。(36土覆土)
- 2 にぶい褐色土 ロームブロックを多く含む。(36土覆土)
- 3 にぶい褐色土 2層より黒みを帯びる。(36土覆土)
- 4 黒褐色土 下層にロームブロックを含む。(37土覆土)
- 5 にぶい褐色土 ロームブロックを多く含む。(37土覆土)



A区41号土坑



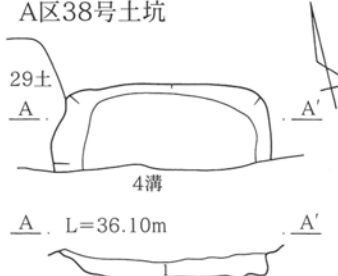
A区42号土坑



42号土坑

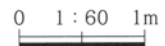
- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を含む。
- 3 褐色土 ローム粒を含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒・黒色土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 ローム・黒色土ブロックを含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒・黄褐色ブロックを含む。

A区38号土坑

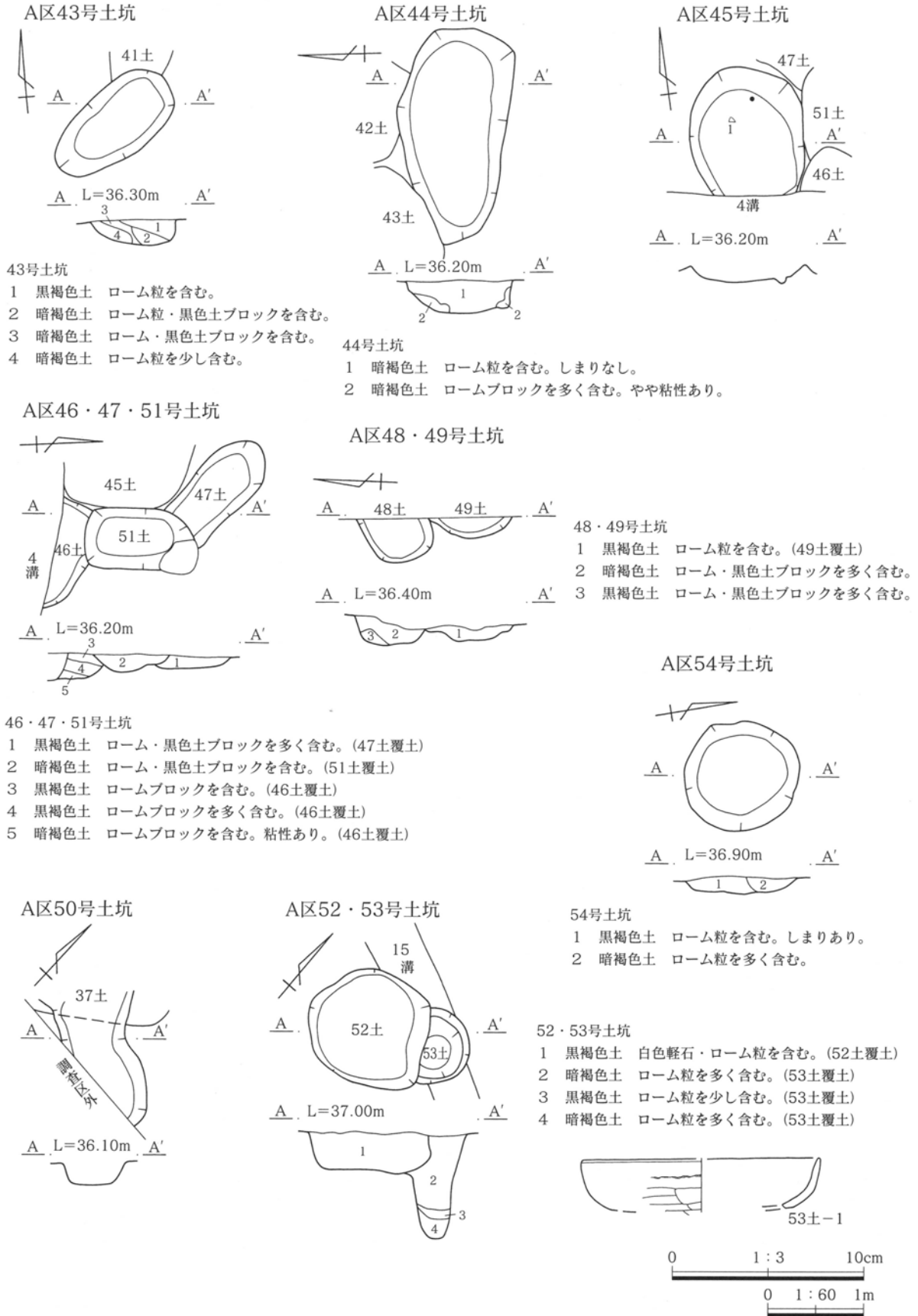


38号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック・灰白色粘土ブロックを含む。

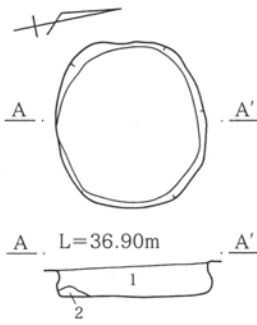


第104図 A区33~42号土坑、37号土坑出土遺物



第105図 A区43~53号土坑、53号土坑出土遺物

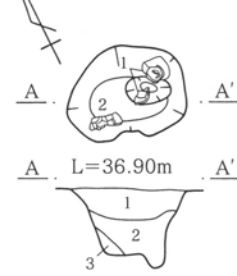
A区55号土坑



55号土坑

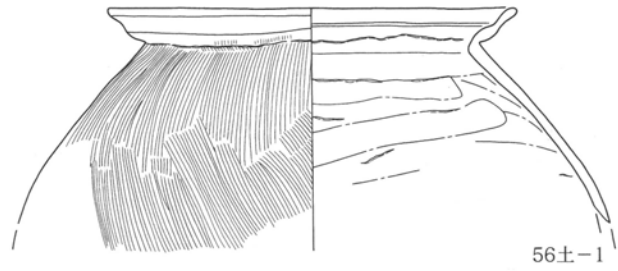
- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりあり。
- 2 黄褐色土 崩落土。

A区56号土坑

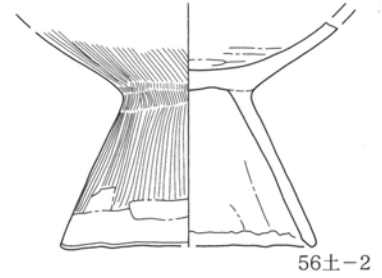


56号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒を多く含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土 ローム粒を多く含む。しまりなし。

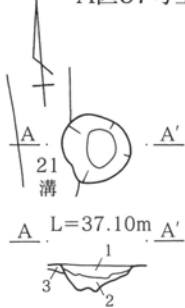


56土-1



56土-2

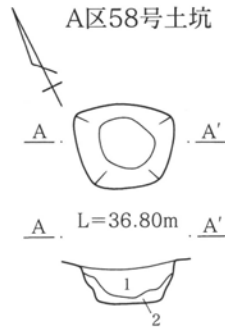
A区57号土坑



57号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒を僅かに含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。(21溝覆土)

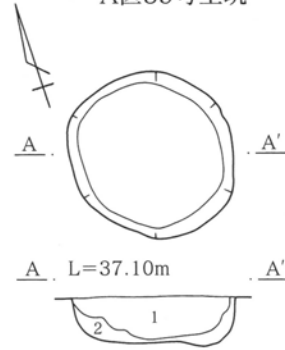
A区58号土坑



58号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。しまりあり。

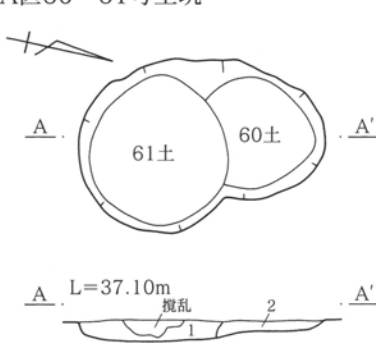
A区59号土坑



59号土坑

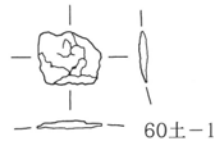
- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまりあり。

A区60・61号土坑



60・61号土坑

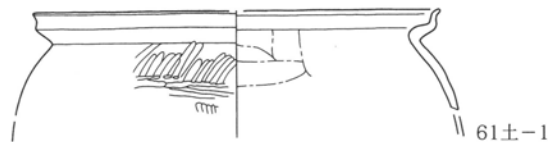
- 1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。しまりあり。



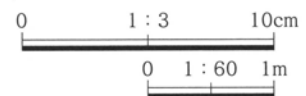
60土-1



60土-2(1/1)

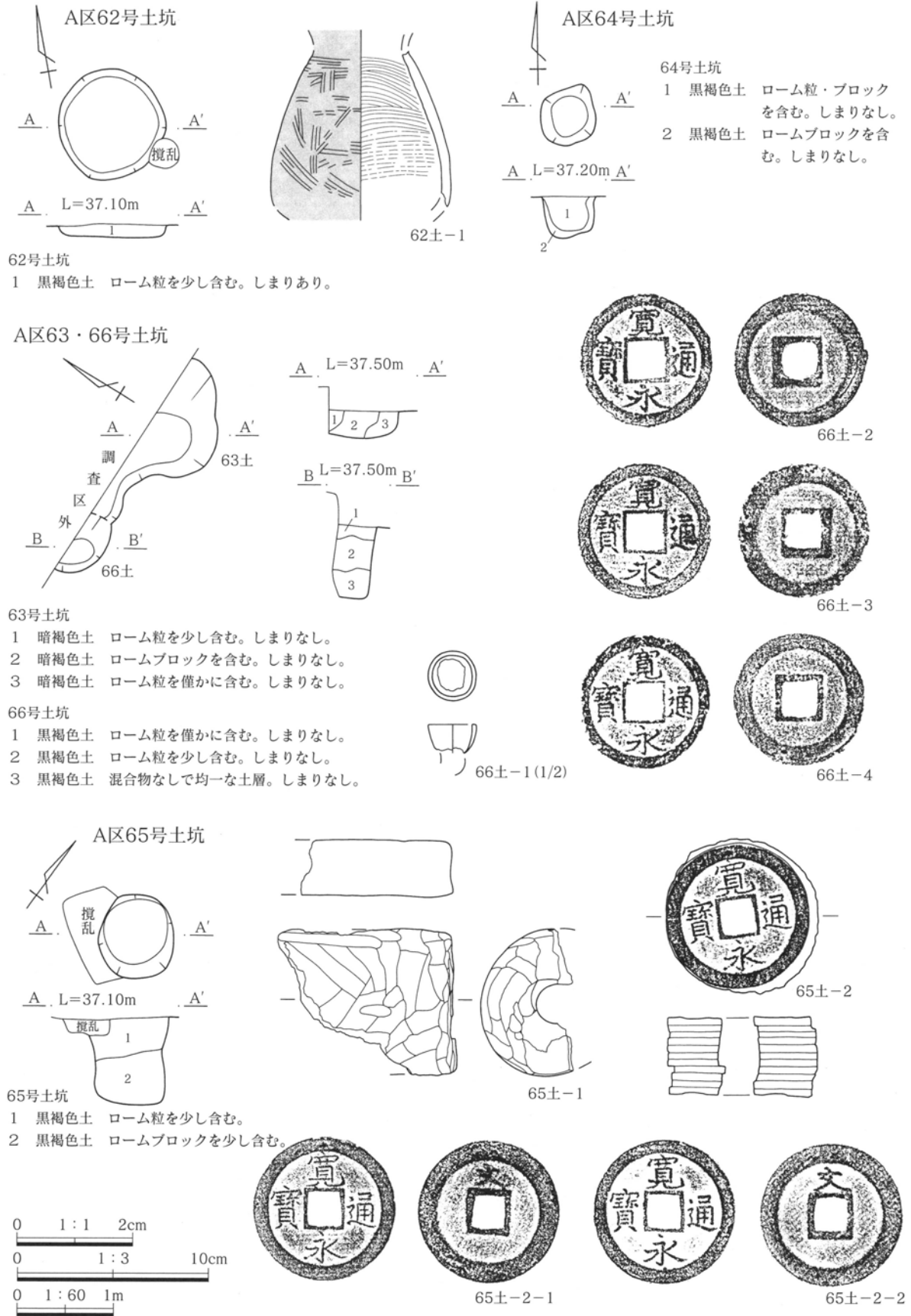


61土-1

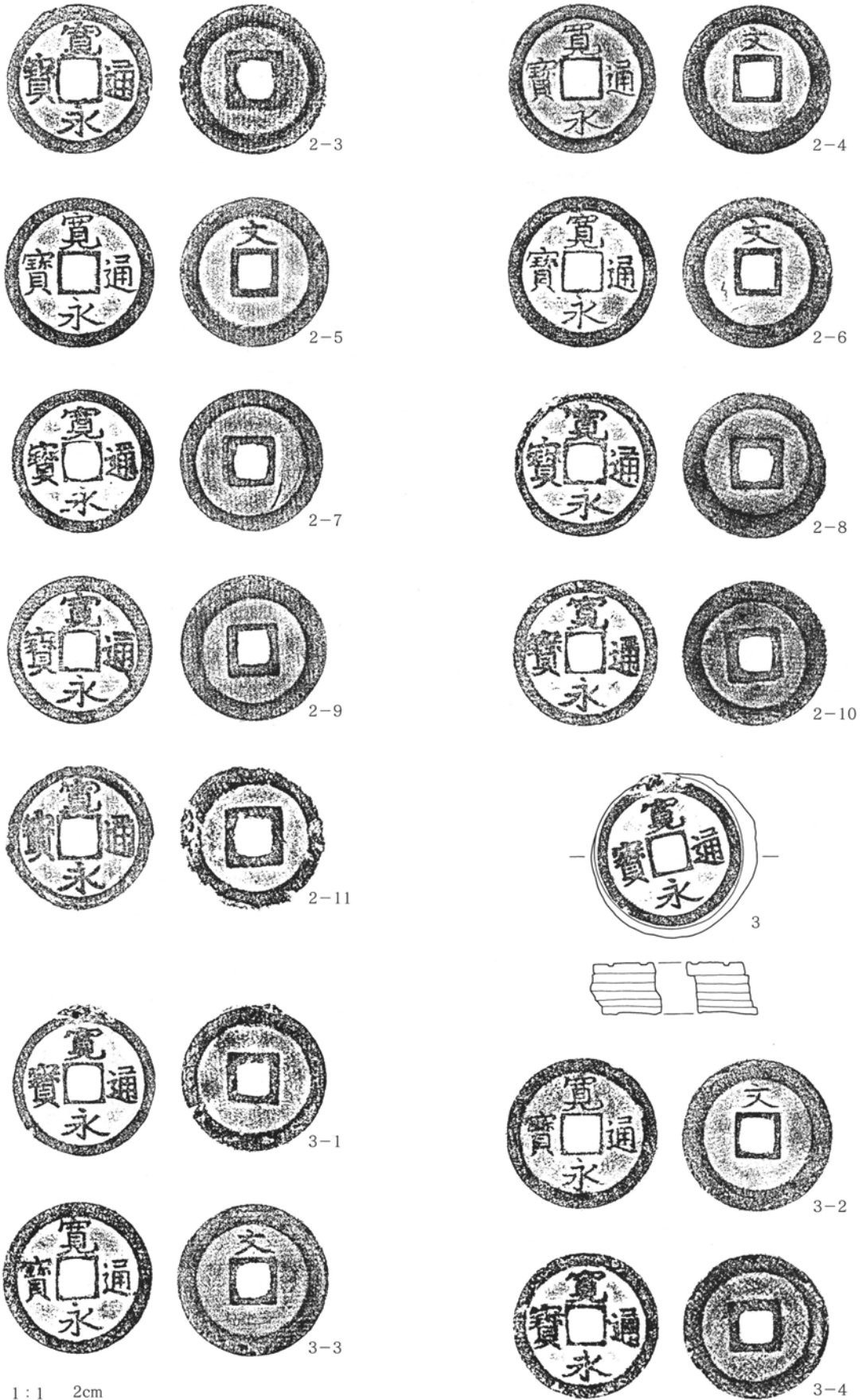


第106図 A区55~61号土坑、56・60・61号土坑出土遺物

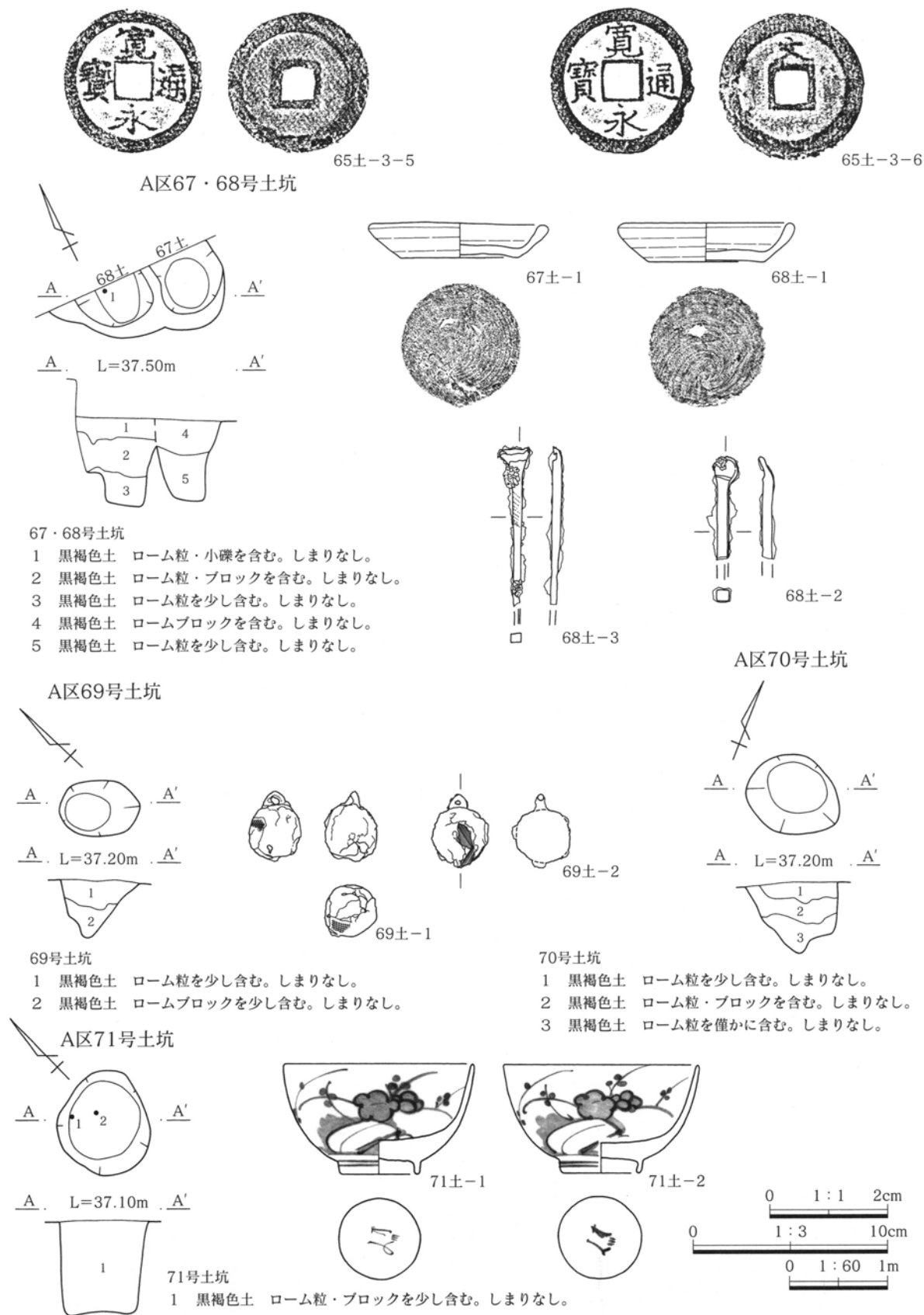
第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物



第107図 A区62～66号土坑、62・65・66号土坑出土遺物



第108図 A区65号土坑出土遺物 (2)



第109図 A区67~71号土坑、65・67~69・71号土坑出土遺物

A区72号土坑 (第110図、P L48・49)

位置 KA-26 (A-1区)

重複 1号方形周溝墓と重複している。本遺構が新しい。

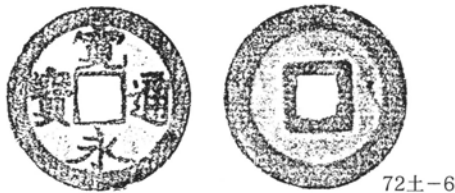
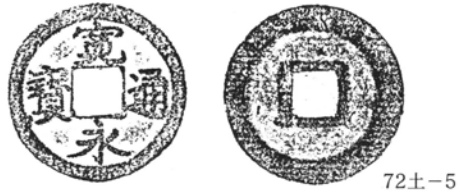
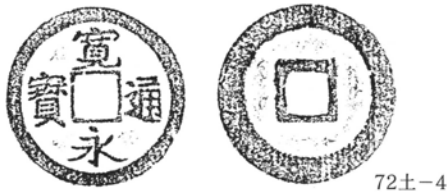
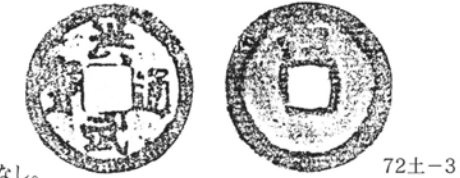
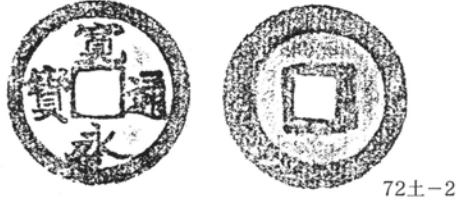
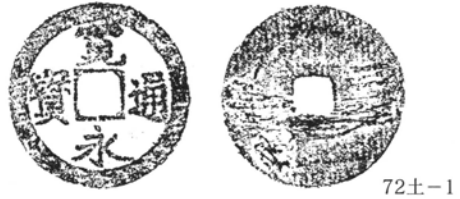
方位 N-37° -E

形態 楕円形

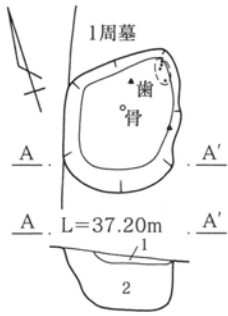
規模 長軸1.18m、短軸0.81m、深さ0.42m

遺物 人骨・歯、銅銭(寛永通寶)が出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は近世末と思われる。



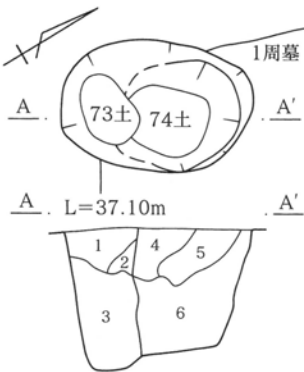
A区72号土坑



72号土坑

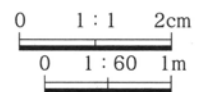
- 1 黒褐色土 白色軽石を少し含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまりなし。

A区73・74号土坑

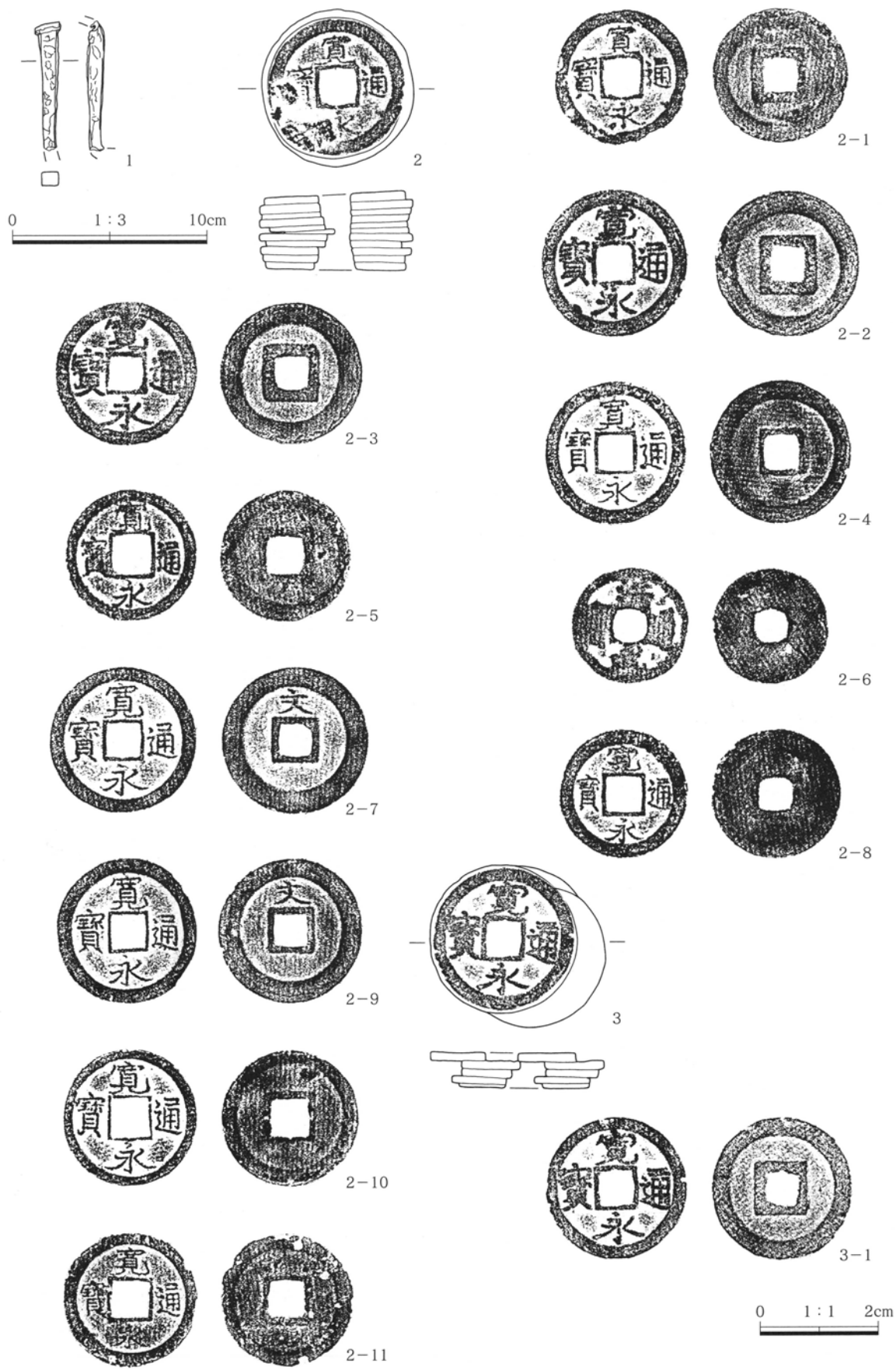


73・74号土坑

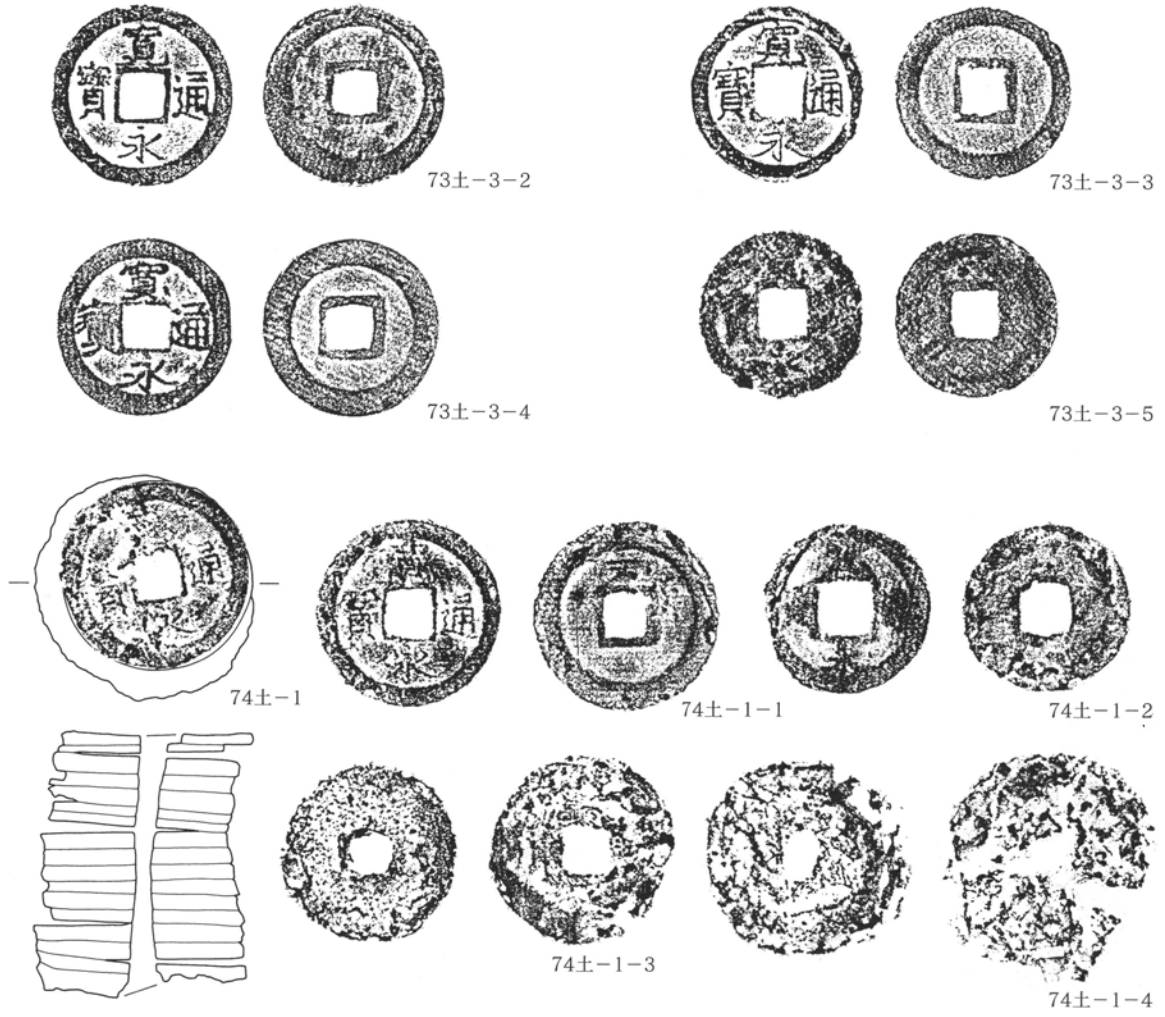
- 1 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりなし。
- 3 黒褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。しまりなし。
- 4 黒褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまりなし。
- 5 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりなし。
- 6 黒褐色土 ローム粒・ブロックを僅かに含む。しまりなし。



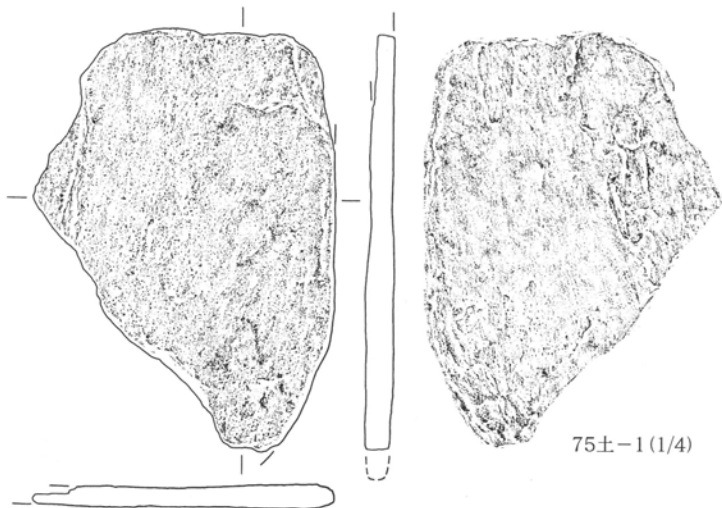
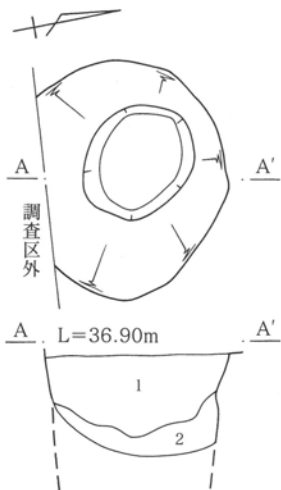
第110図 A区72~74号土坑、72号土坑出土遺物



第111図 A区73号土坑出土遺物



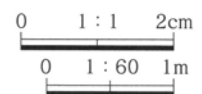
A区75号土坑



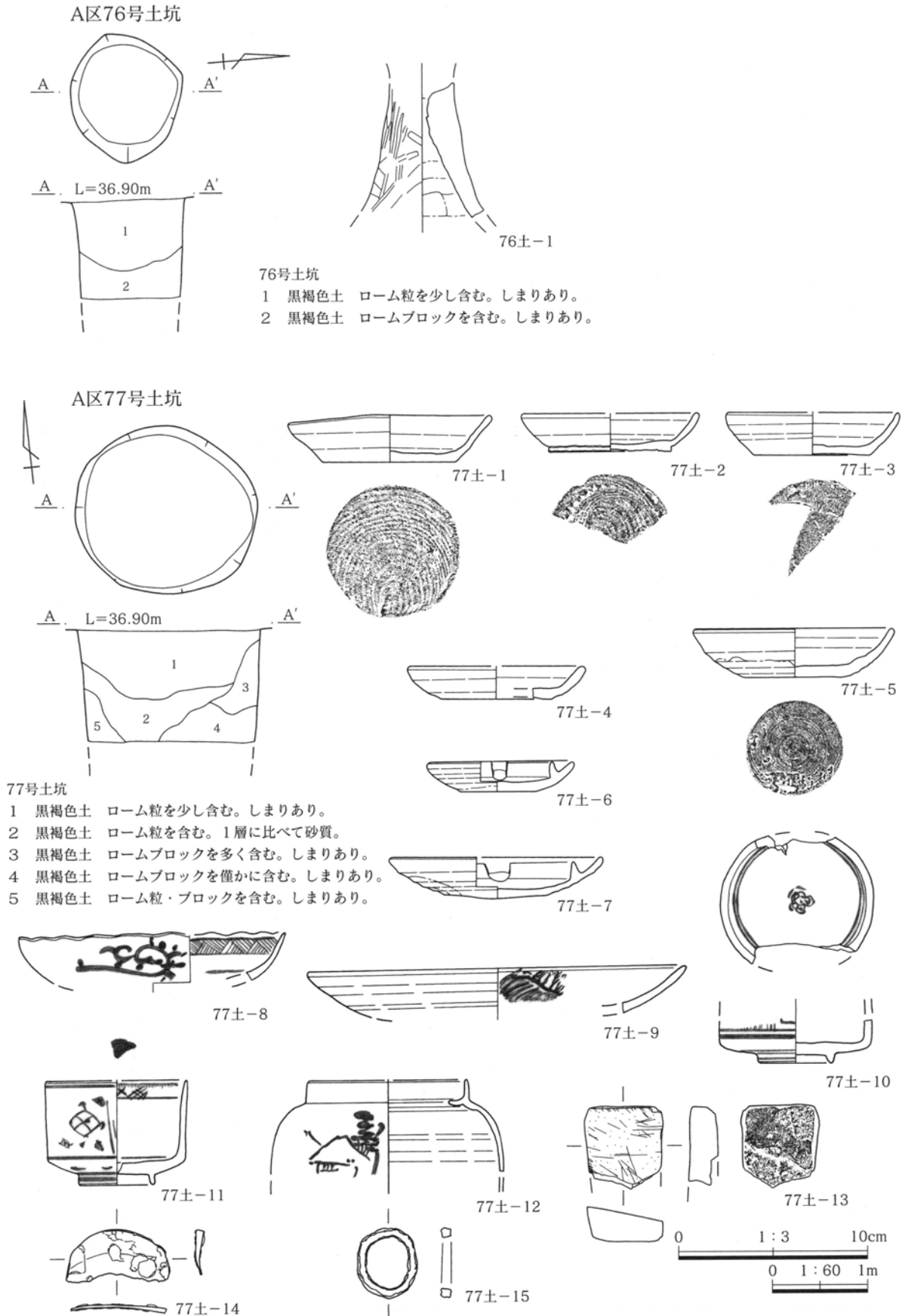
75土-1(1/4)

75号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまりあり。



第112図 A区75号土坑、73~75号土坑出土遺物



第113図 A区76・77号土坑、出土遺物

A区78号土坑 (第114図、PL31・49)

位置 JR-21 (A-3区)

重複 16号土坑と重複している。本遺構が新しい。

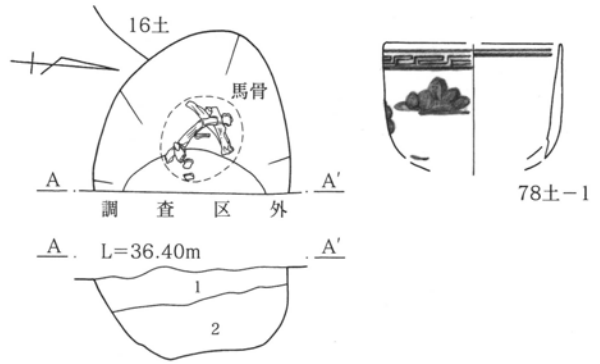
方位 測定不可能。

形態 楕円形

規模 長軸1.52m、短軸0.76m、深さ0.72m

遺物 馬骨、肥前磁器碗 (19世紀中頃) が出土している。他に、土師器片33g、軟質陶器片9gが出土。

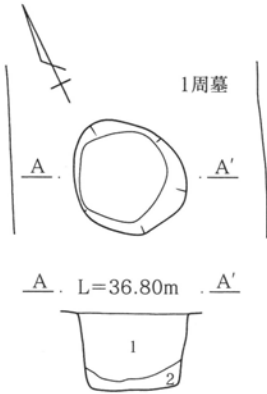
所見 土坑の東側が調査区外のために、全容は明らかにできなかった。出土遺物・覆土から時期は近世末と思われる。



78号土坑

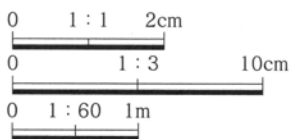
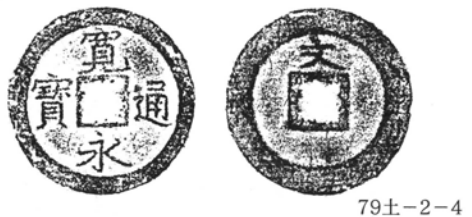
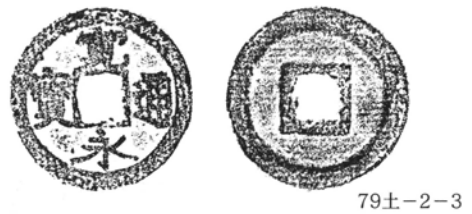
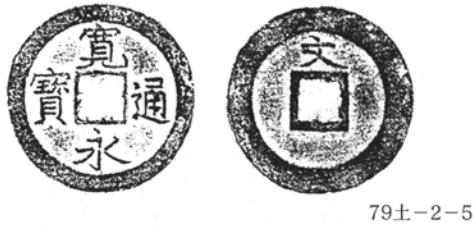
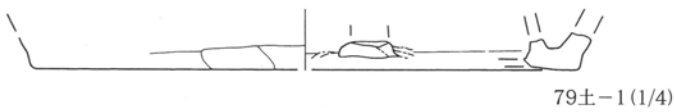
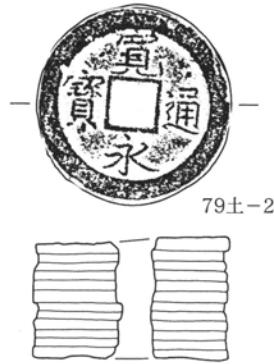
- 1 暗灰褐色土 粘質。暗青色ロームブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを少し含む。

A区79号土坑

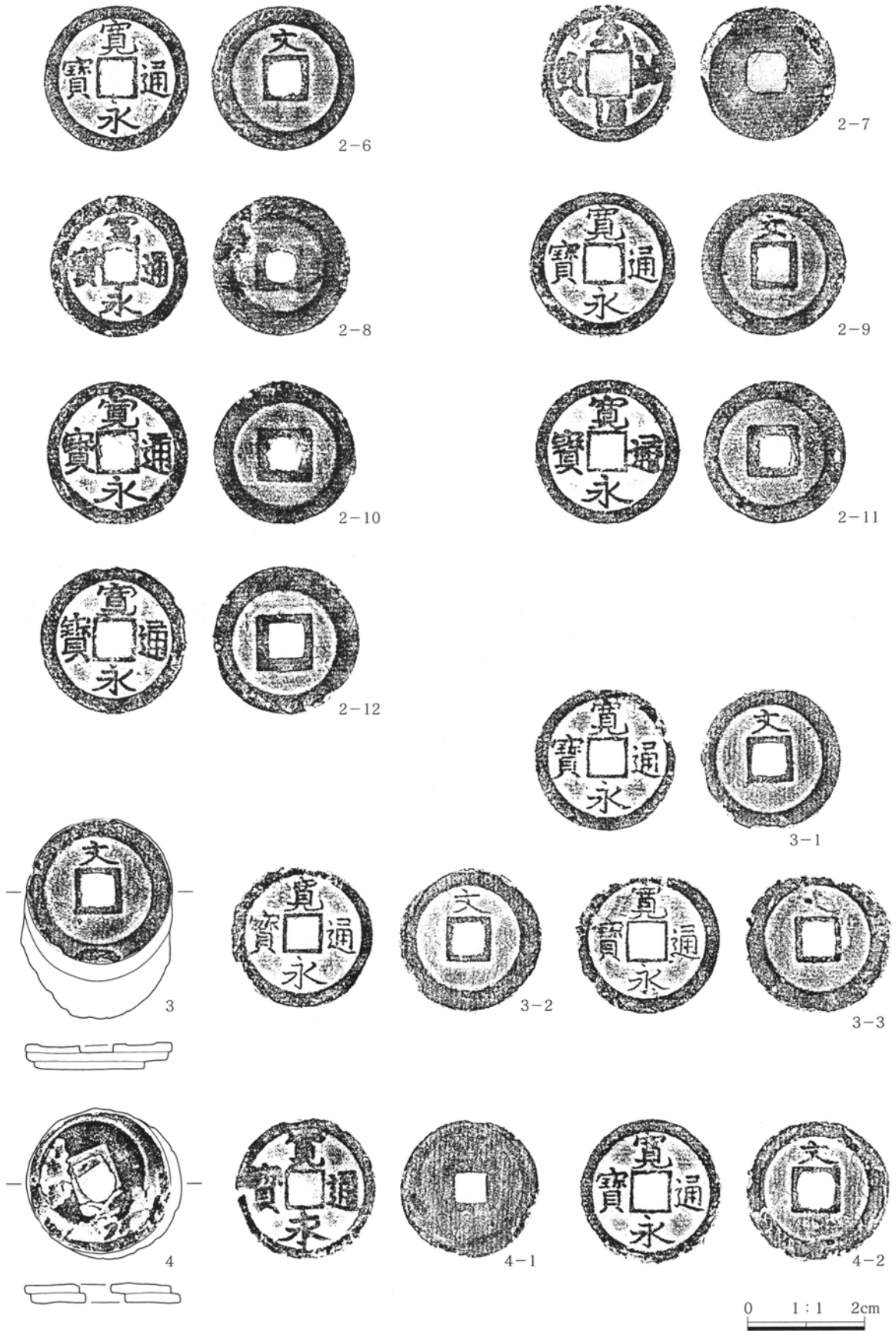


79号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。しまりあり。



第114図 A区78・79号土坑、出土遺物



第115図 A区79号土坑出土遺物

A区80号土坑 (第116・117図、PL31・50)

位置 KC-26 (A-1区)

重複 1号方形周溝墓と重複している。本遺構が新しい。

方位 N-41°-E

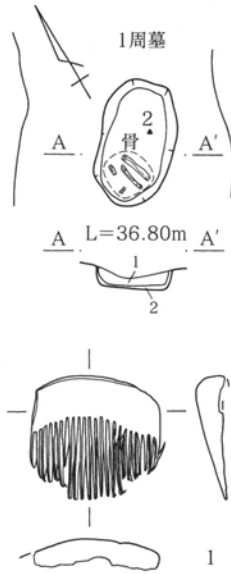
形態 楕円形

規模 長軸0.94m、短軸0.86m、深さ0.60m

遺物 人骨、銅銭 (寛永通寶)、櫛 (木製) が出土している。

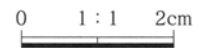
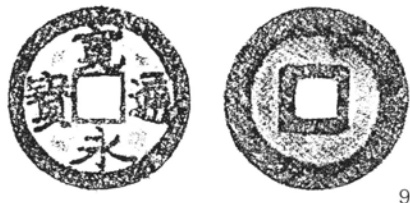
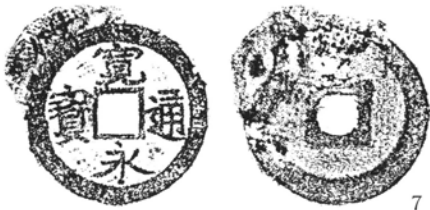
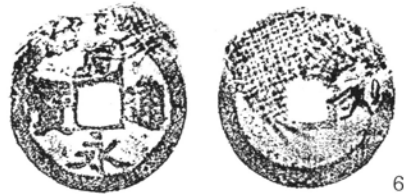
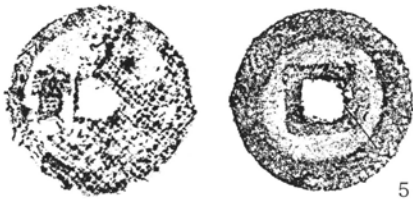
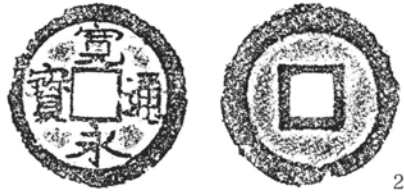
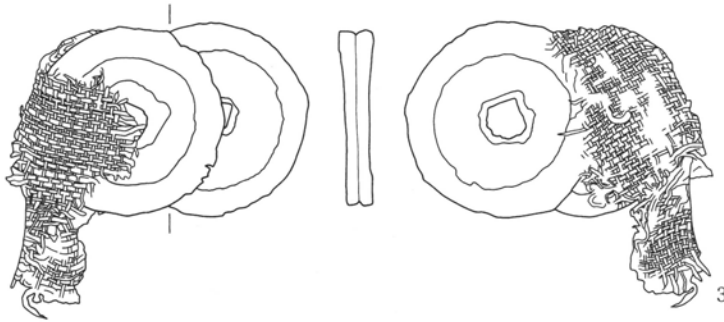
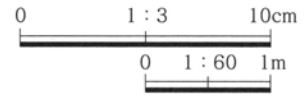
所見 出土遺物・覆土から時期は近世末と思われる。

*72・80号土坑の深度は、もっと深かったと想定される。調査時に1号方形周溝墓 (調査時には24号溝) と同時に調査したために、確認面が溝底部になってしまったために、確認された深度が浅くなった。人骨・馬骨の詳細は、第6章第4節を参照されたい。

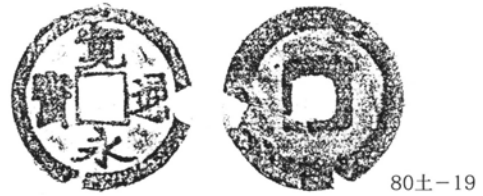
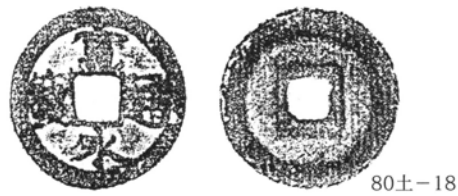
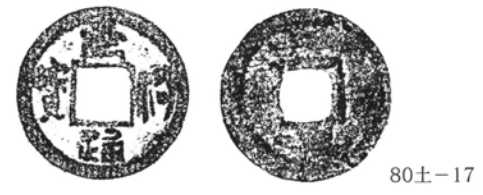
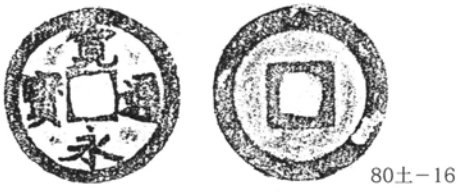
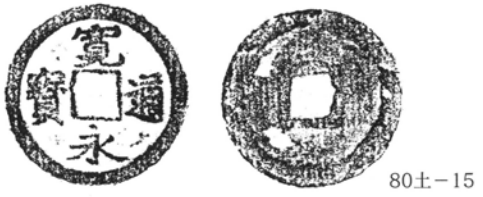
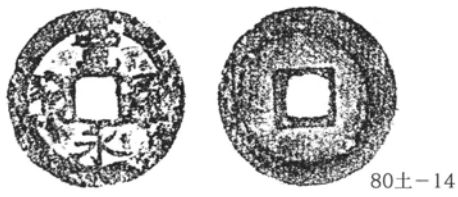
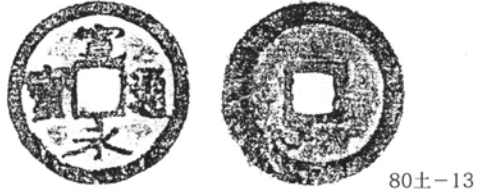
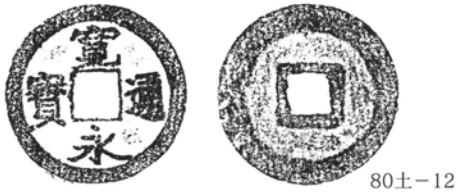
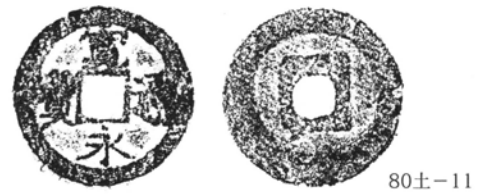
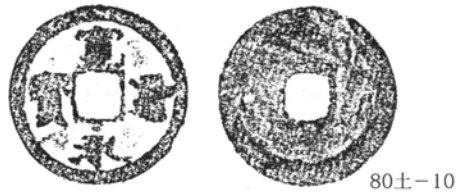


80号土坑

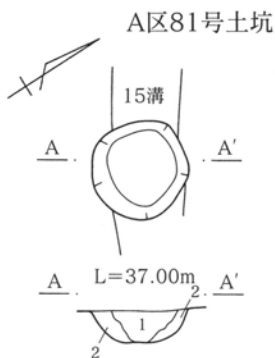
- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒を含む。しまりあり。



第116図 A区80号土坑、出土遺物

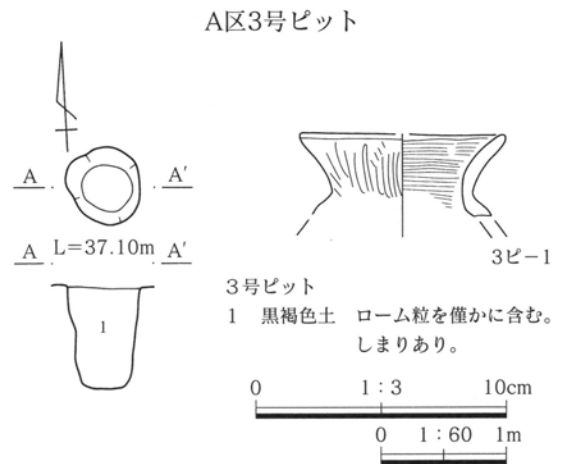


0 1:1 2cm



81号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。しまりなし。

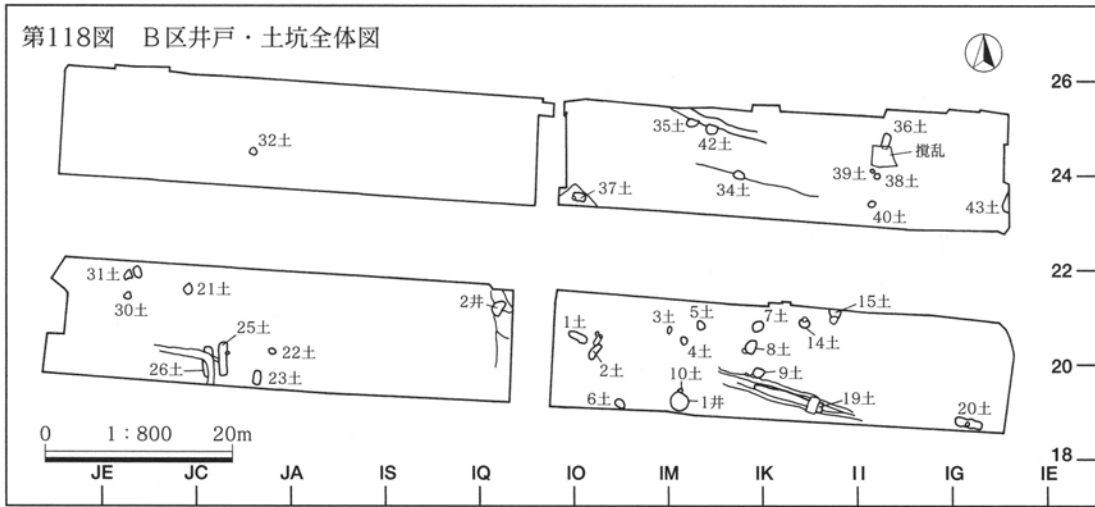


- 3号ピット
- 1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。しまりあり。

第117図 A区81号土坑・3号ピット、80号土坑・3号ピット出土遺物

(2) B区井戸・土坑・ピット

* B区のピット全体図は付図1を参照されたい。



B区1号井戸 (第119図、P L28・50)

位置 IL-19 (B-4区)

重複 10号土坑と重複している。本遺構が古い。

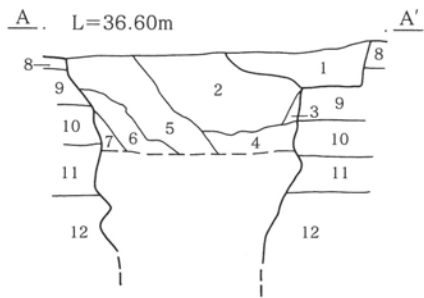
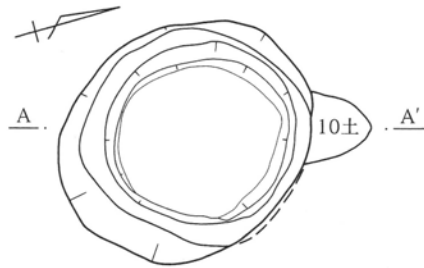
方位 N-6° -E

形態 確認面ではほぼ円形を成す。完掘しておらず、断面形は不明。

規模 長軸×短軸 上面2.1m×1.8m、下面、深さ不明。

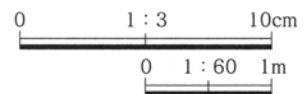
遺物 土師器壺・台付甕が出土している。他に、土師器片230g、縄文土器20g (混入遺物) が出土。

所見 完掘調査できなかったため詳細は不明だが、出土遺物・覆土から時期は古墳時代前期と思われる。



1号井戸

- 1 黒色砂質土 ロームブロックを多く含む。(10土覆土)
- 2 黒色砂質土 ロームブロックを少し含む。
- 3 黒色砂質土 ロームブロックを多く含む。非常に脆い。
- 4 黒褐色砂質土 灰褐色土を含む。
- 5 黒褐色土 2層に近似。ややローム粒少ない。
- 6 黒色砂質土 ロームブロックを含む。5層の土が混じる。
- 7 黒色砂質土 ロームブロックを多く含む。
- 8 ハードローム
- 9 黄褐色ローム
- 10 暗色帯
- 11 黄色ローム
- 12 白色粘土



第119図 B区1号井戸、出土遺物

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

B区2号井戸 (第120図、PL28・50)

位置 IP-21 (B-3区)

重複 3・12号溝と重複している。本遺構が古い。

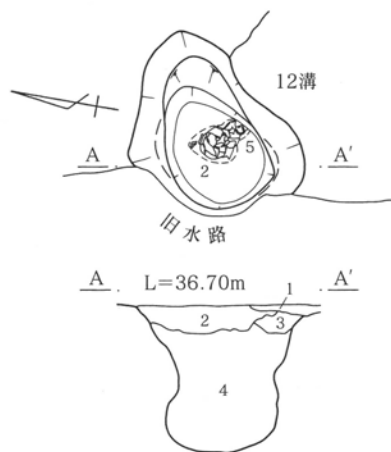
方位 N-70° -E

形態 確認面で楕円形を成す。断面は上位から0.5mの地点でやや細くなり、その下位は筒状を呈す。

規模 長軸×短軸 上面(1.44)m×1.35m、下面0.83m×0.65m、深さ1.05m

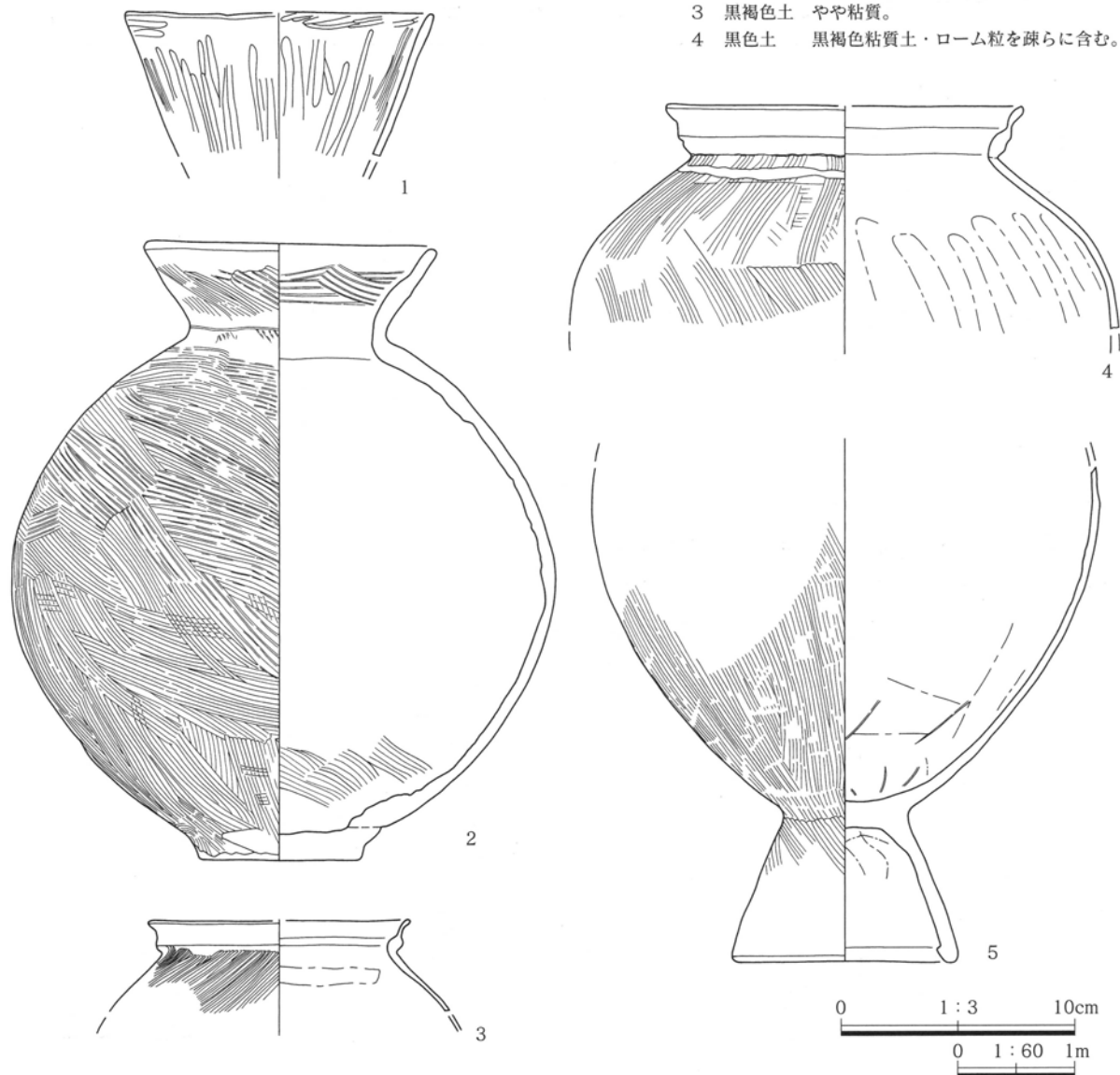
遺物 土師器埴・壺・台付甕が出土している。他に、土師器片380gが出土。

所見 出土遺物・覆土から時期は古墳時代前期と思われる。

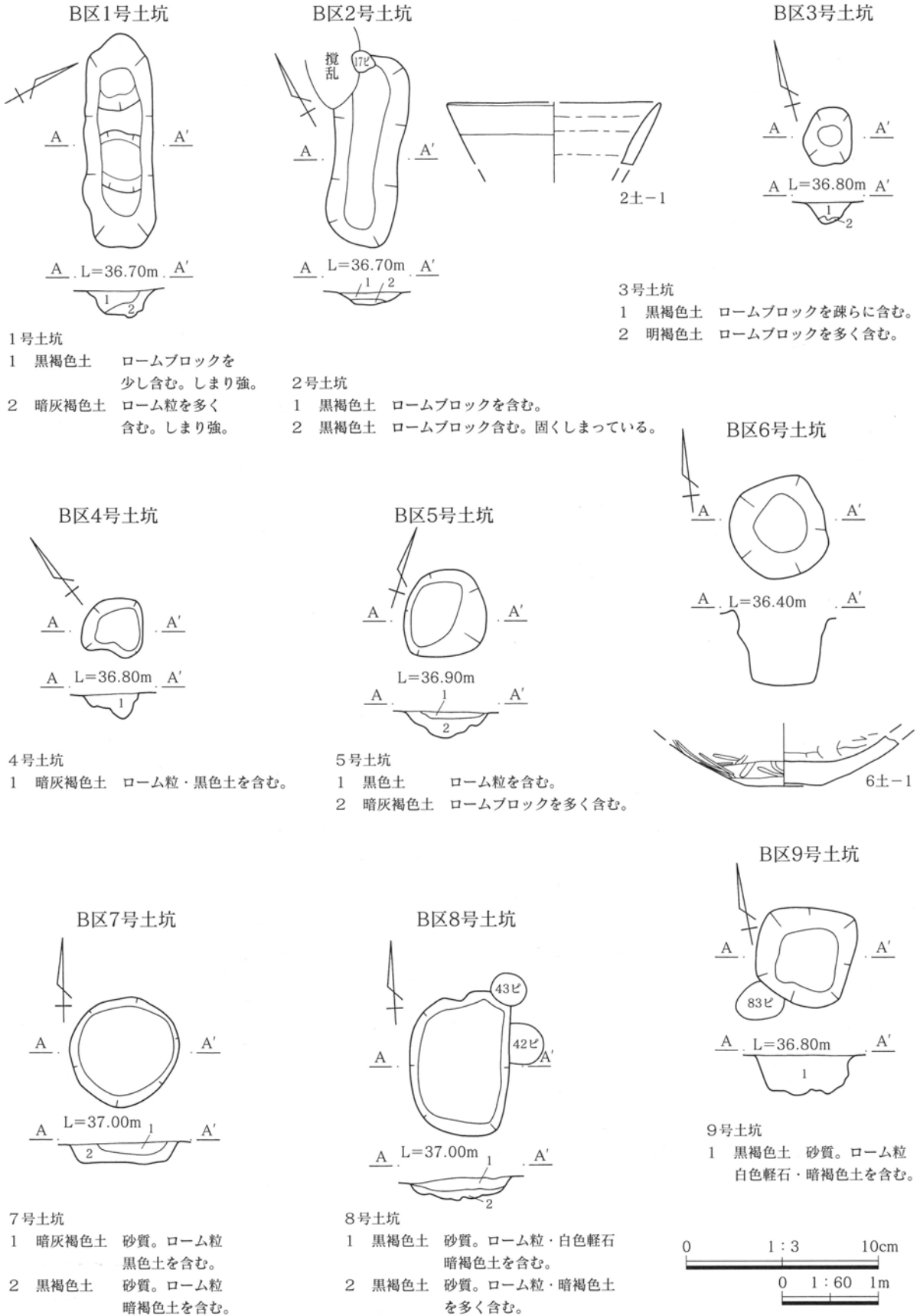


2号井戸

- 1 黒褐色土 (12溝覆土)
- 2 黒色土 ローム粒を疎らに含む。
- 3 黒褐色土 やや粘質。
- 4 黒色土 黒褐色粘質土・ローム粒を疎らに含む。



第120図 B区2号井戸、出土遺物

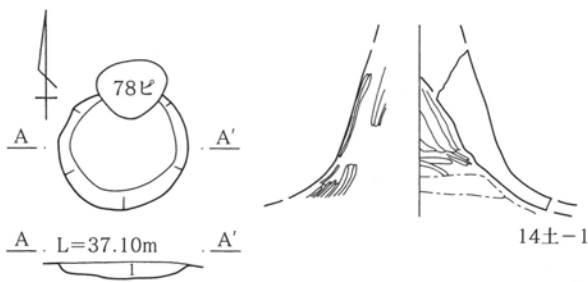


第121図 B区1～9号土坑、2・6号土坑出土遺物

B区10号土坑



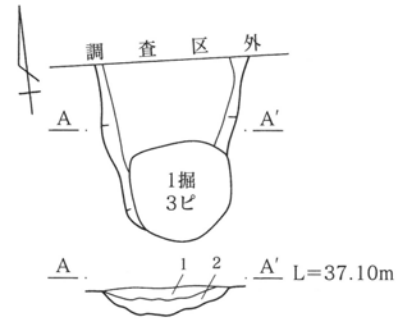
B区14号土坑



14号土坑

1 黒褐色土 やや砂質。ローム粒を僅かに含む。

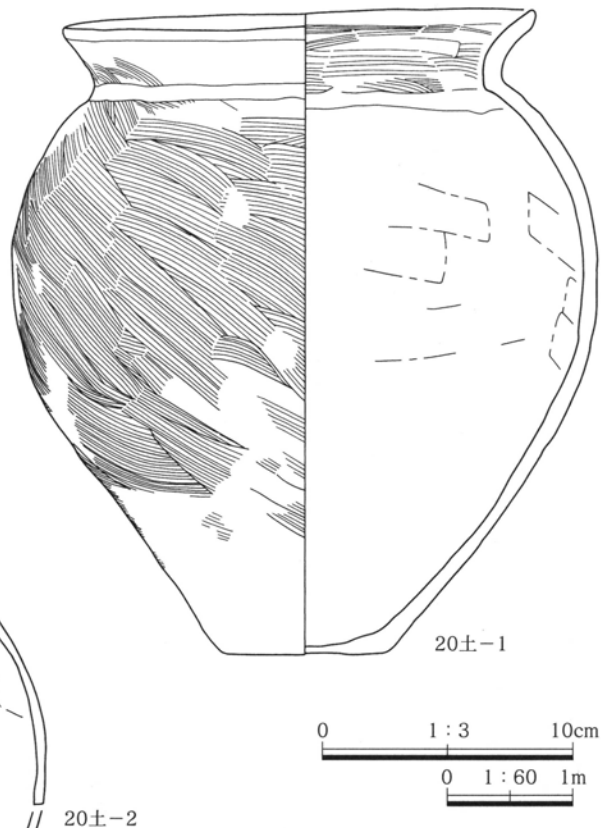
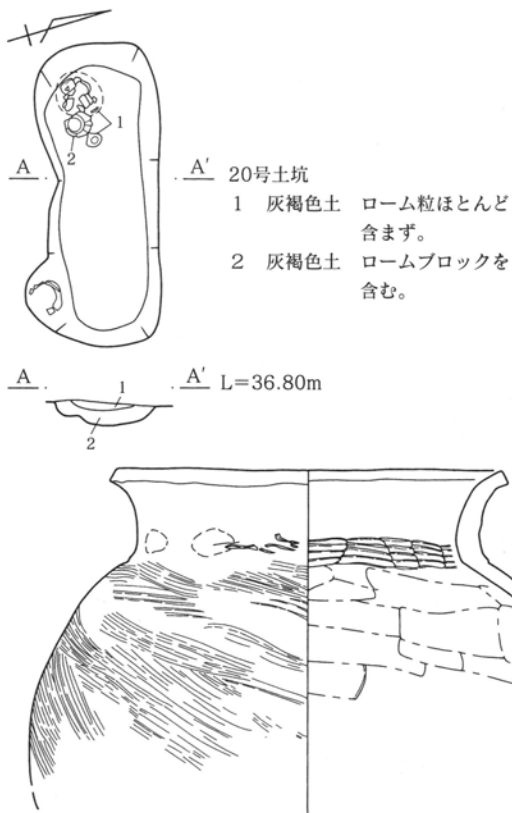
B区15号土坑



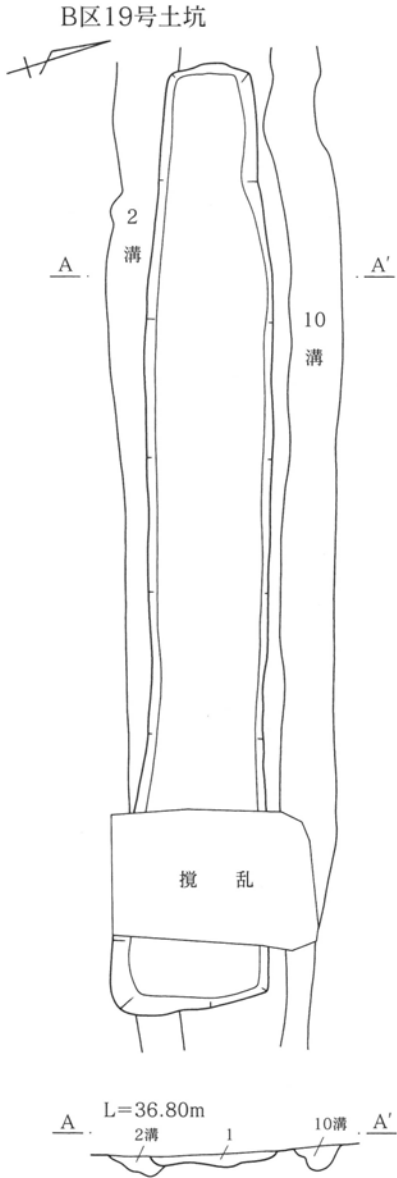
15号土坑

1 黒褐色土 やや砂質。ローム粒を僅かに含む。
2 暗褐色土 やや砂質。ロームブロックを多く含む。

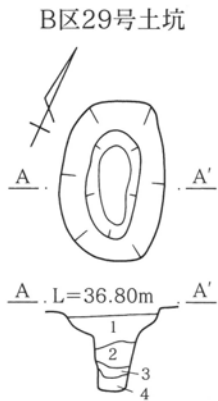
B区20号土坑



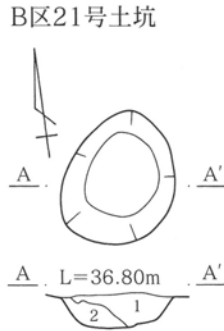
第122図 B区10・14・15・20号土坑、出土遺物



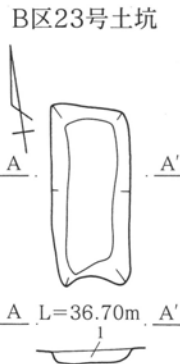
19号土坑
1 暗灰褐色土 ロームブロックを含む。



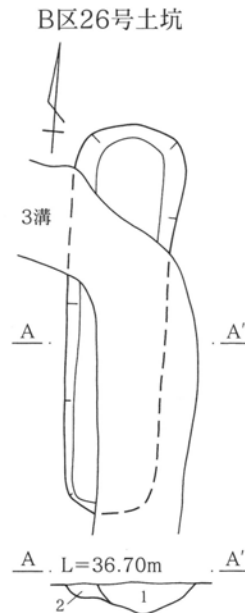
29号土坑
1 暗褐色土 ローム粒・白色軽石を含む。
2 黒褐色土 ローム粒を含む。
3 ローム主体に黒褐色土を含む。
4 黒褐色土 2層より褐色味帯びる。粘性あり。



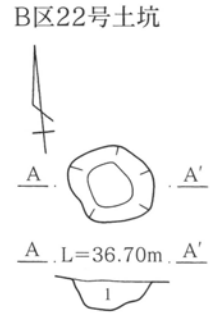
21号土坑
1 黒褐色土 ローム粒・炭化物を含む。しまりあり。
2 黒褐色土 1層より黒味強い。ローム粒を含む。しまりあり。



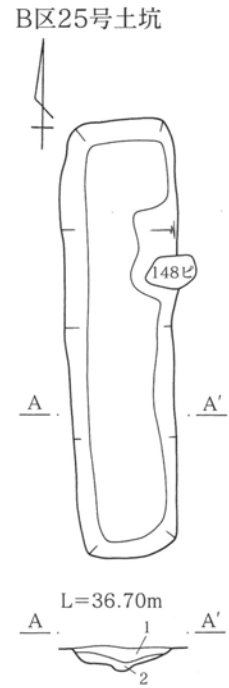
23号土坑
1 暗褐色土 ローム粒・ブロックを含む。



26号土坑
1 暗灰褐色土 やや砂質。(13溝覆土)
2 暗灰褐色土とロームの混土



22号土坑
1 暗褐色土 下部にロームを多く含む。

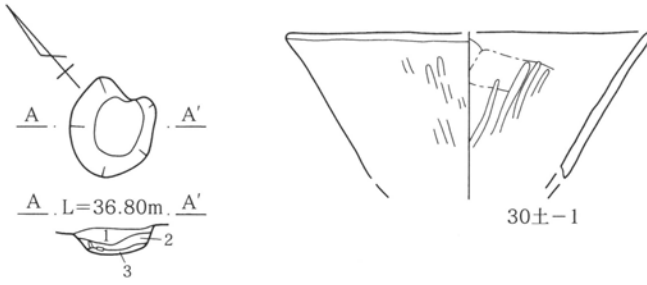


25号土坑
1 黒褐色土 やや砂質。
2 黒色土とロームの混土

0 1:60 1m

第123図 B区19・21~23・25・26・29号土坑

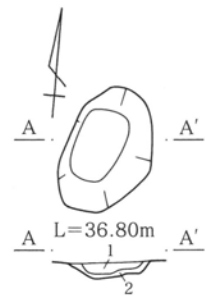
B区30号土坑



30号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少し含む。
- 3 灰褐色土 粘性強い。2層が混じる。

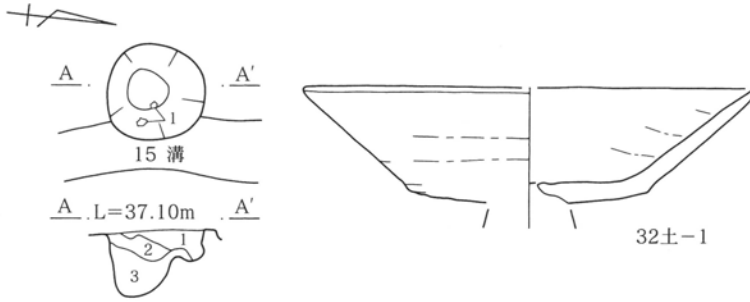
B区31号土坑



31号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。

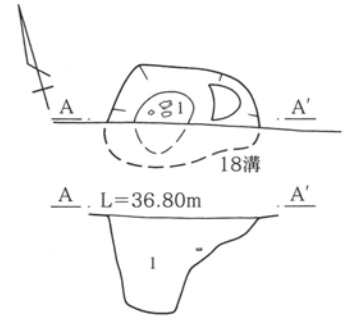
B区32号土坑



32号土坑

- 1 灰褐色土 ローム粒を含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 白色粒を含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒を含む。

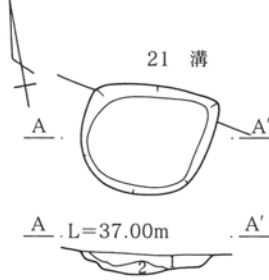
B区34号土坑



34号土坑

- 1 黒褐色土 黒色粒・ロームブロックを含む。

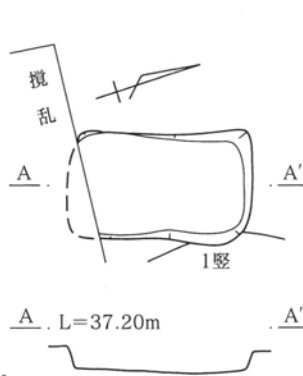
B区35号土坑



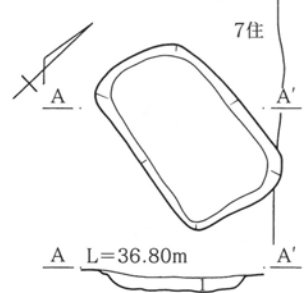
35号土坑

- 1 黒褐色土 黒色粒・ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

B区36号土坑

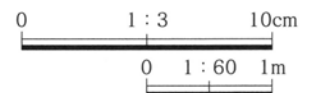


B区37号土坑



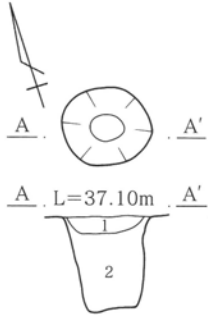
37号土坑

- 1 暗灰色土 砂質。しまりなし。



第124図 B区30~32・34~37号土坑、出土遺物

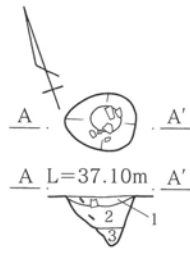
B区38号土坑



38号土坑

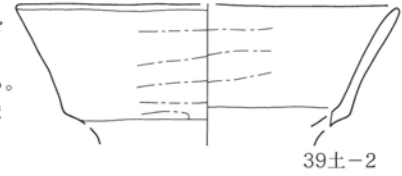
- 1 黒褐色土 ロームブロック・炭化粒を少し含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまりあり。

B区39号土坑

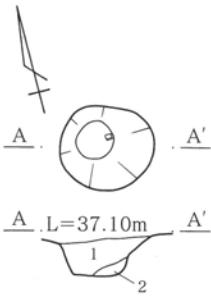


39号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・炭化粒・焼土粒を含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 1層よりもやや赤味を帯びる。
- 3 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。しまりなし。

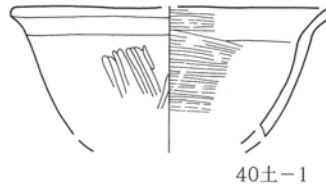


B区40号土坑

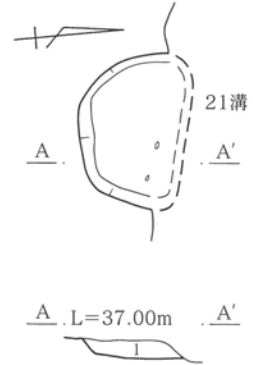


40号土坑

- 1 暗褐色土 下部にロームブロックを多く含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。



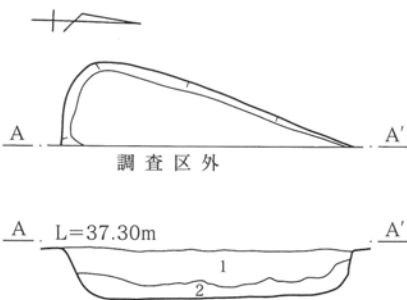
B区42号土坑



42号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。しまりなし。

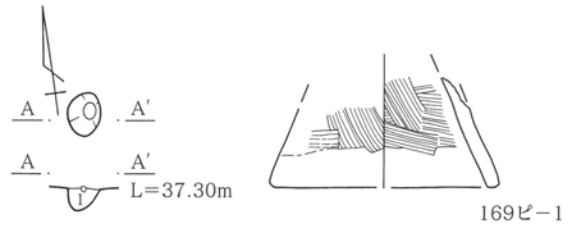
B区43号土坑



43号土坑

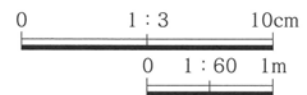
- 1 暗褐色土 砂質。ローム粒を少し含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

B区169号ピット



169号ピット

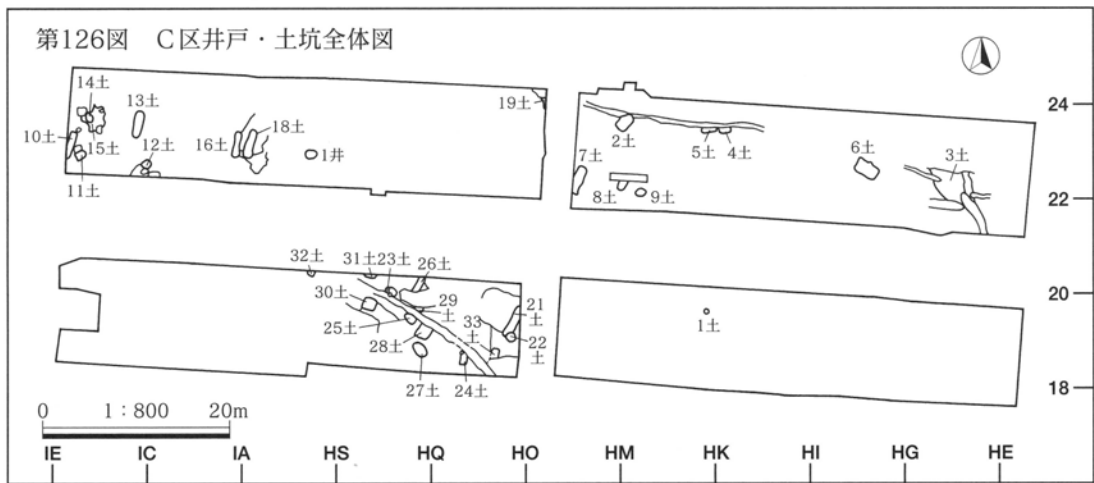
- 1 黒褐色土 ローム粒・白色粒を含む。しまりなし。



第125図 B区38~40・42・43号土坑・169号ピット、出土遺物

(3) C区井戸・土坑・ピット

* C区のピット全体図は付図1を参照されたい。



C区1号井戸 (第127・128図、P L28・51)

位置 HS-23 (C-1区)

重複 なし。

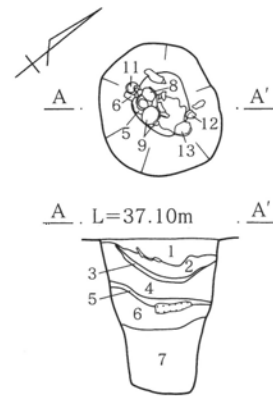
方位 N-82° -E

形態 確認面でほぼ円形を成す。断面形は筒状を呈す。アグリ等は確認されなかった。

規模 長軸×短軸 上面2.06m×1.92m、下面1.07m×0.88m、深さ1.21m。

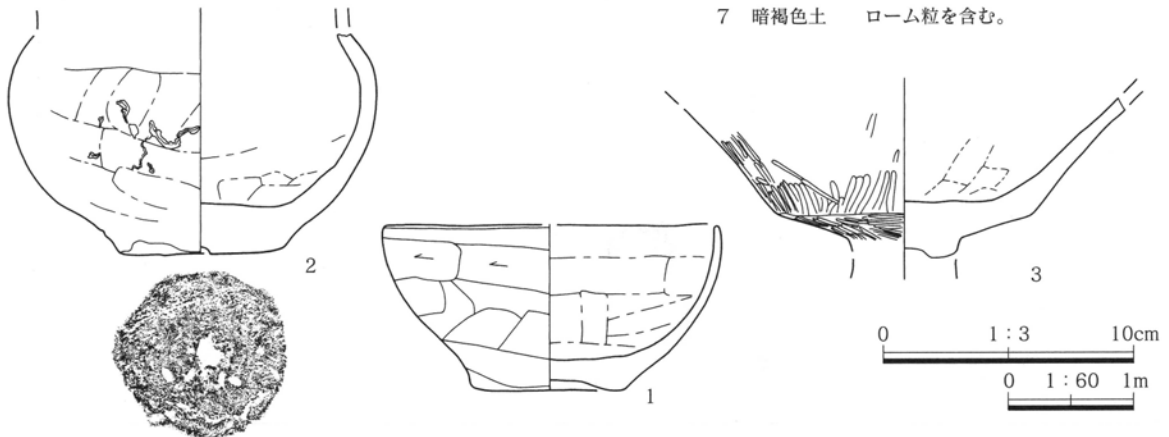
遺物 土師器坏・鉢・高坏・直口壺・壺・手捏ね土器が出土している。他に、土師器片360g、縄文土器30g (混入遺物) が出土。

所見 出土遺物・覆土から時期は古墳時代中期と思われる。

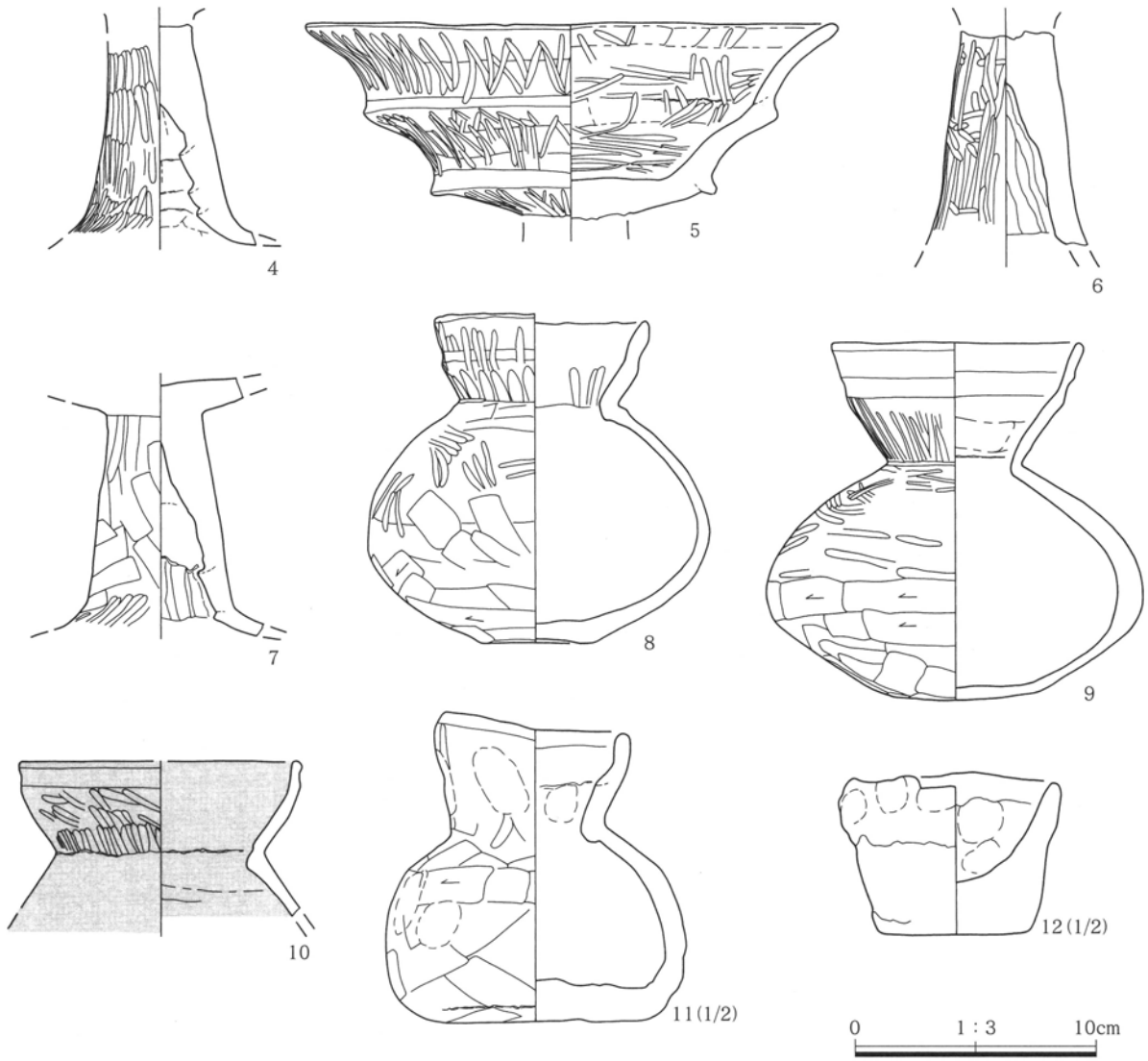


1号井戸

- 1 暗褐色土 ローム粒を疎らに含む。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒を疎らに含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒を疎らに含む。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒・ブロックを含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒を含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒を含む。

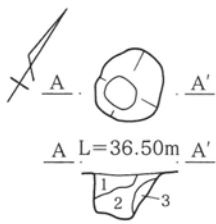


第127図 C区1号井戸、出土遺物 (1)



第128図 C区1号井戸出土遺物(2)

C区1号土坑



1号土坑

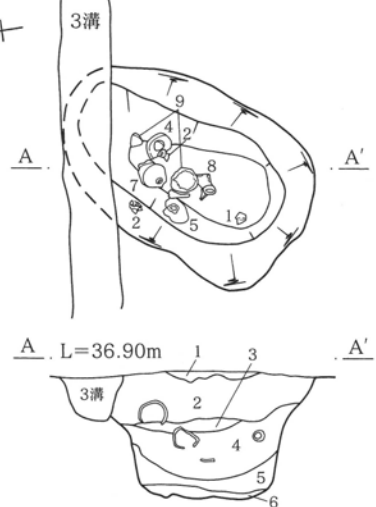
- 1 褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。粘性・しまり弱。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ブロックを含む。粘性・しまり弱。
- 3 暗褐色土 ローム粒・ブロックを少し含む。やや脆い。

2号土坑

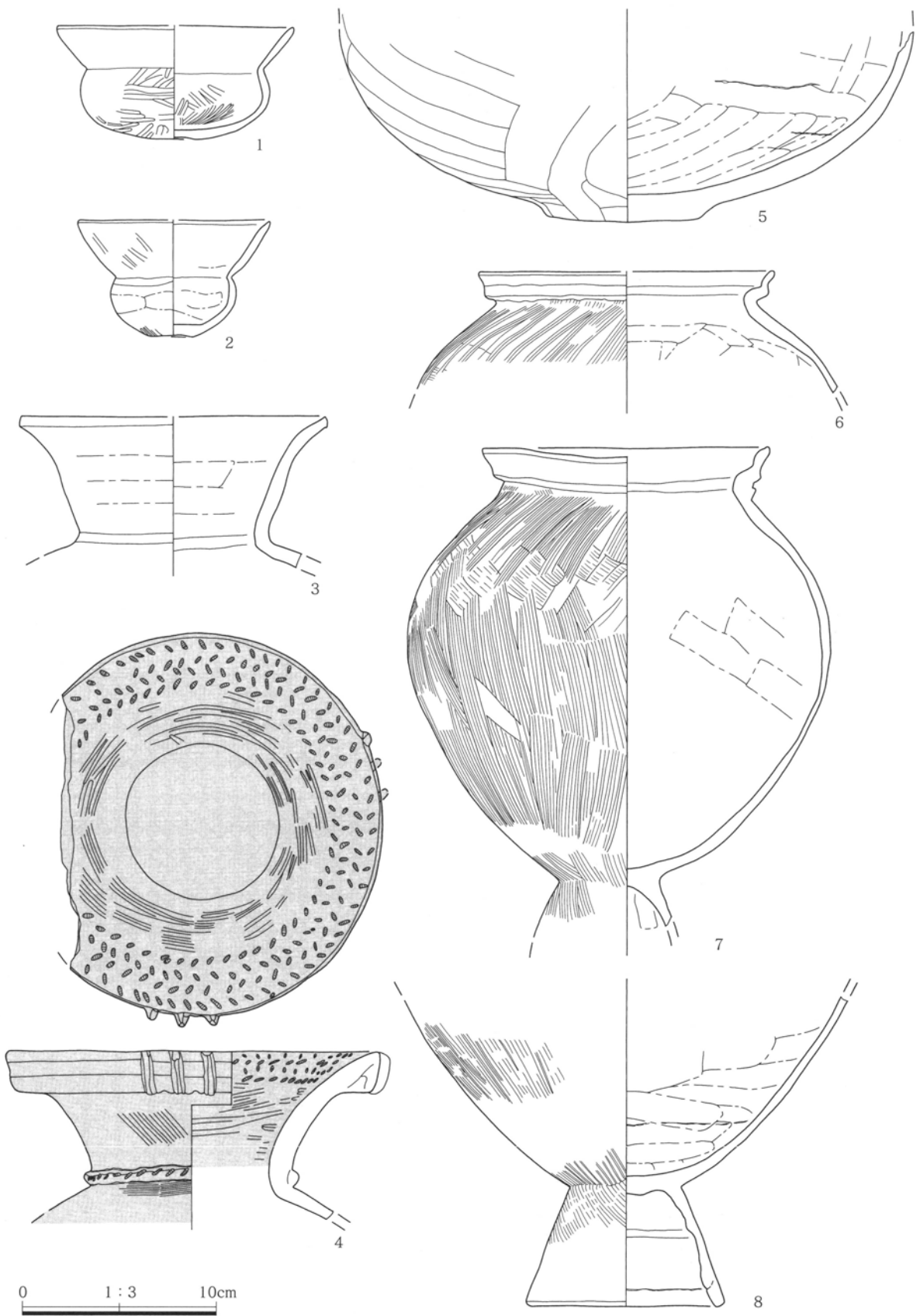
- 1 暗褐色土 褐色土粒・白色粒・鉄分を少し含む。粘性弱。しまり中。
- 2 暗褐色土 白色粒・鉄分を少し含む。粘性やや弱。しまり強。
- 3 暗褐色土 ローム粒を含む。粘性中。しまり強。
- 4 黒褐色土 ローム粒・鉄分を含む。粘性中。しまり強。
- 5 灰褐色土 ロームブロックを含む。
- 6 黄褐色土 ロームブロック・暗灰色砂を含む。しまり強く固い。

0 1:60 1m

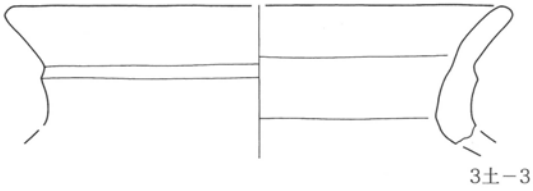
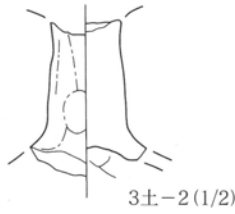
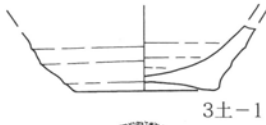
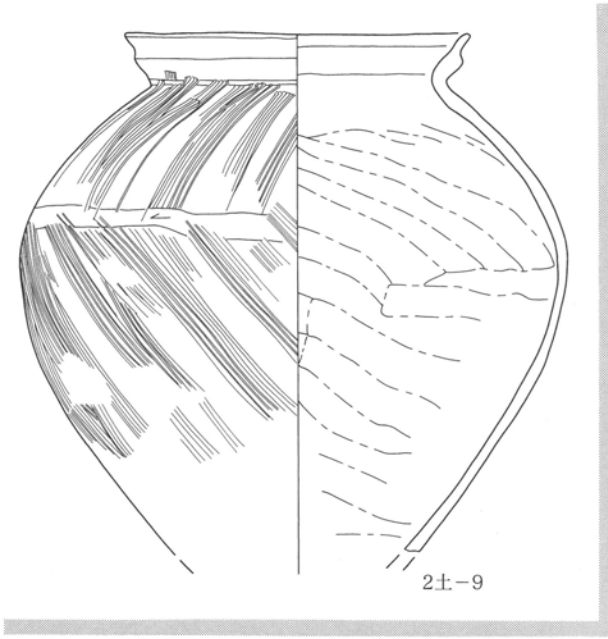
C区2号土坑



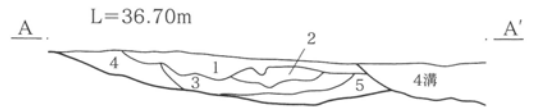
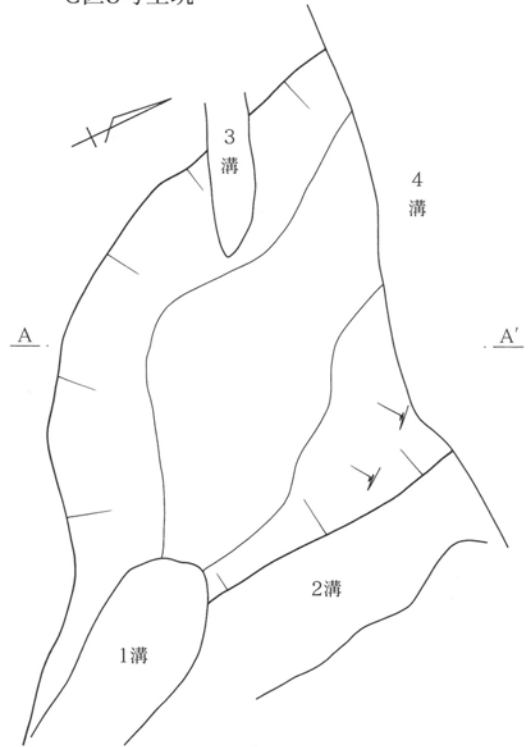
第129図 C区1・2号土坑



第130図 C区2号土坑出土遺物 (1)



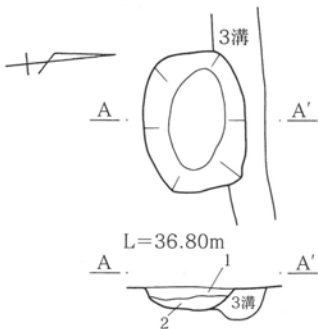
C区3号土坑



3号土坑

- 1 暗褐色土 As-Bを多く含む。
- 2 As-B層 下部に灰層あり。一次堆積か。
- 3 黒褐色土と灰褐色土の混合
- 4 灰褐色土
- 5 褐色土 褐色軽石・小礫・鉄分粒を多く含む。

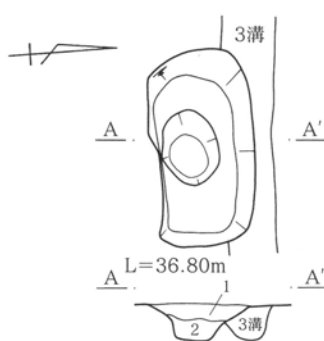
C区4号土坑



4号土坑

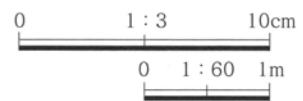
- 1 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む。

C区5号土坑



5号土坑

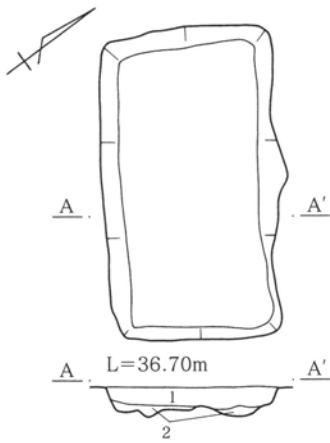
- 1 灰褐色土 ローム粒を含む。しまり強い。
- 2 灰褐色土 ローム粒を多く含む。しまり弱い。



第131図 C区3～5号土坑、2・3号土坑出土遺物

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

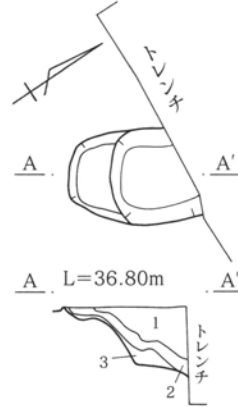
C区6号土坑



6号土坑

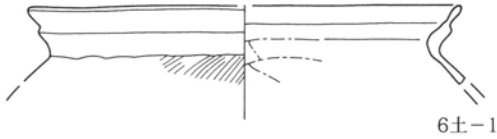
- 1 黒色土 ロームブロックを含む。しまり強。
- 2 ロームの崩落土 黒色土を疎らに含む。

C区8号土坑

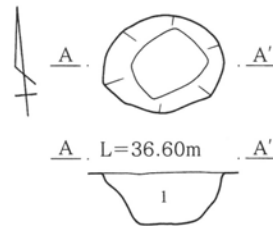


8号土坑

- 1 褐色土 ローム粒・黒褐色土を含む。しまりやや弱。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロックを疎らに含む。しまり中。
- 3 明褐色土 鉄分を含む。しまり強。



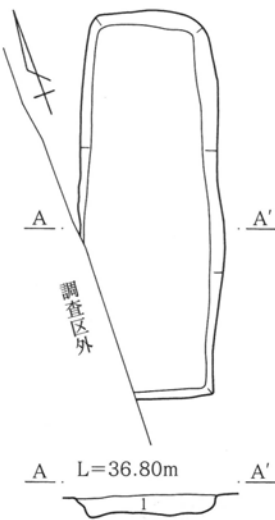
C区9号土坑



9号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・ブロックを含む。白色粒を少し含む。粘性・しまり弱。

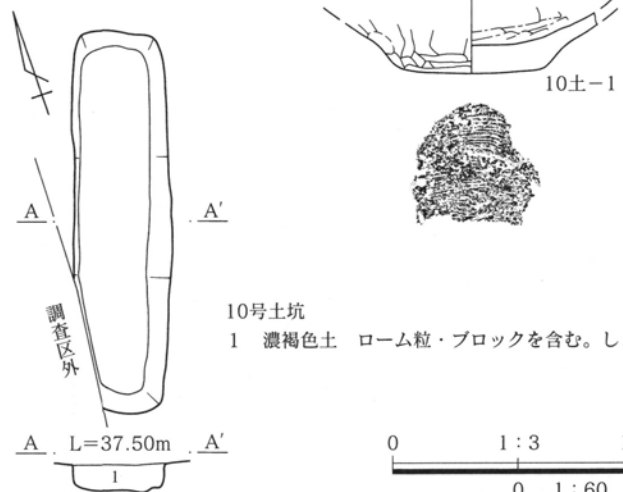
C区7号土坑



7号土坑

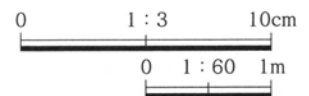
- 1 黒色土 ローム粒を含む。しまりなし。

C区10号土坑



10号土坑

- 1 濃褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまり弱。

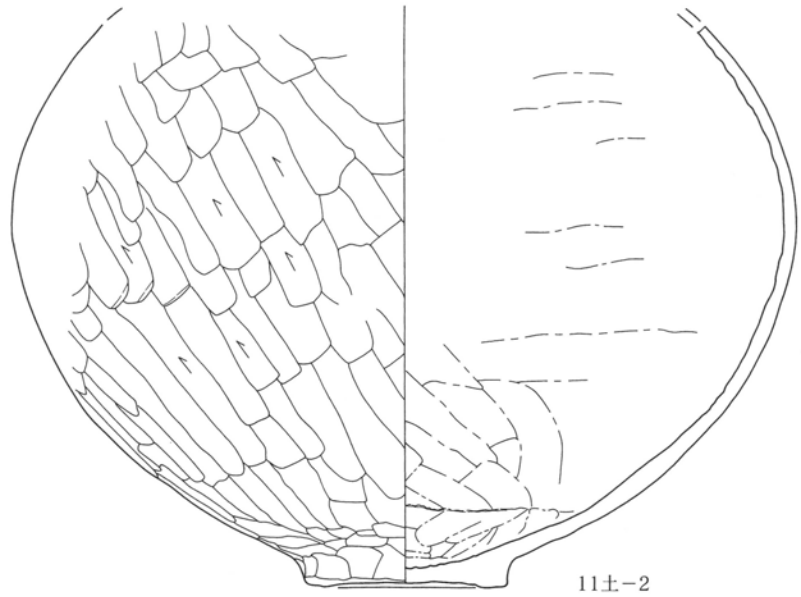


第132図 C区6～10号土坑、10号土坑出土遺物

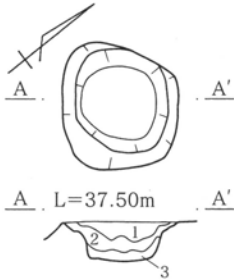


11号土坑

- 1 濃褐色土 ローム粒・黒褐色土を含む。
焼土粒少し含む。

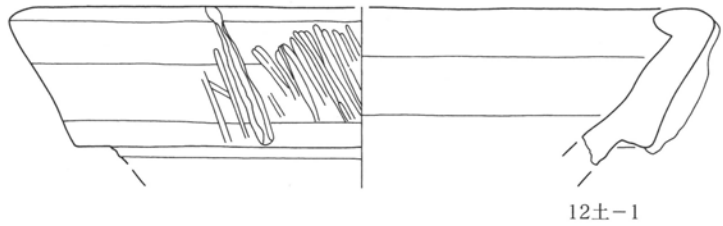


C区12号土坑

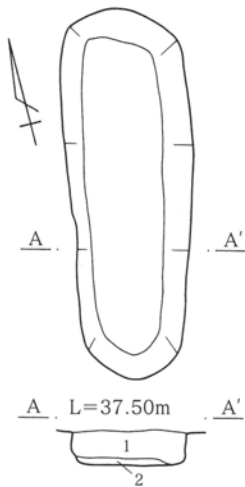


12号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を含む。
2 濃黄褐色土 ローム粒を多く含む。
3 暗褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。



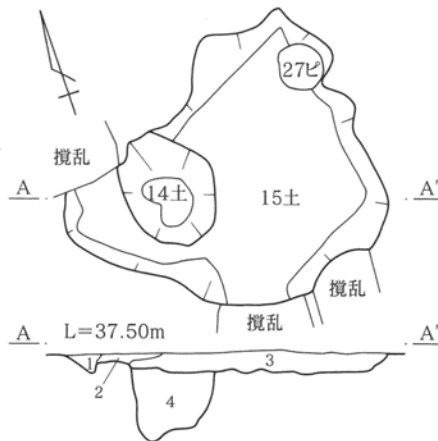
C区13号土坑



13号土坑

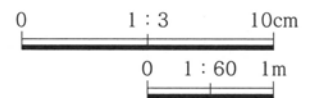
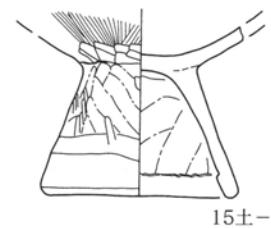
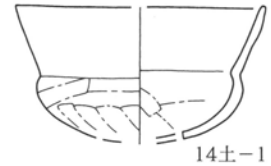
- 1 濃褐色土 ローム粒・ブロックを含む。しまり弱。
2 暗褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。しまり弱、脆い。

C区14・15号土坑

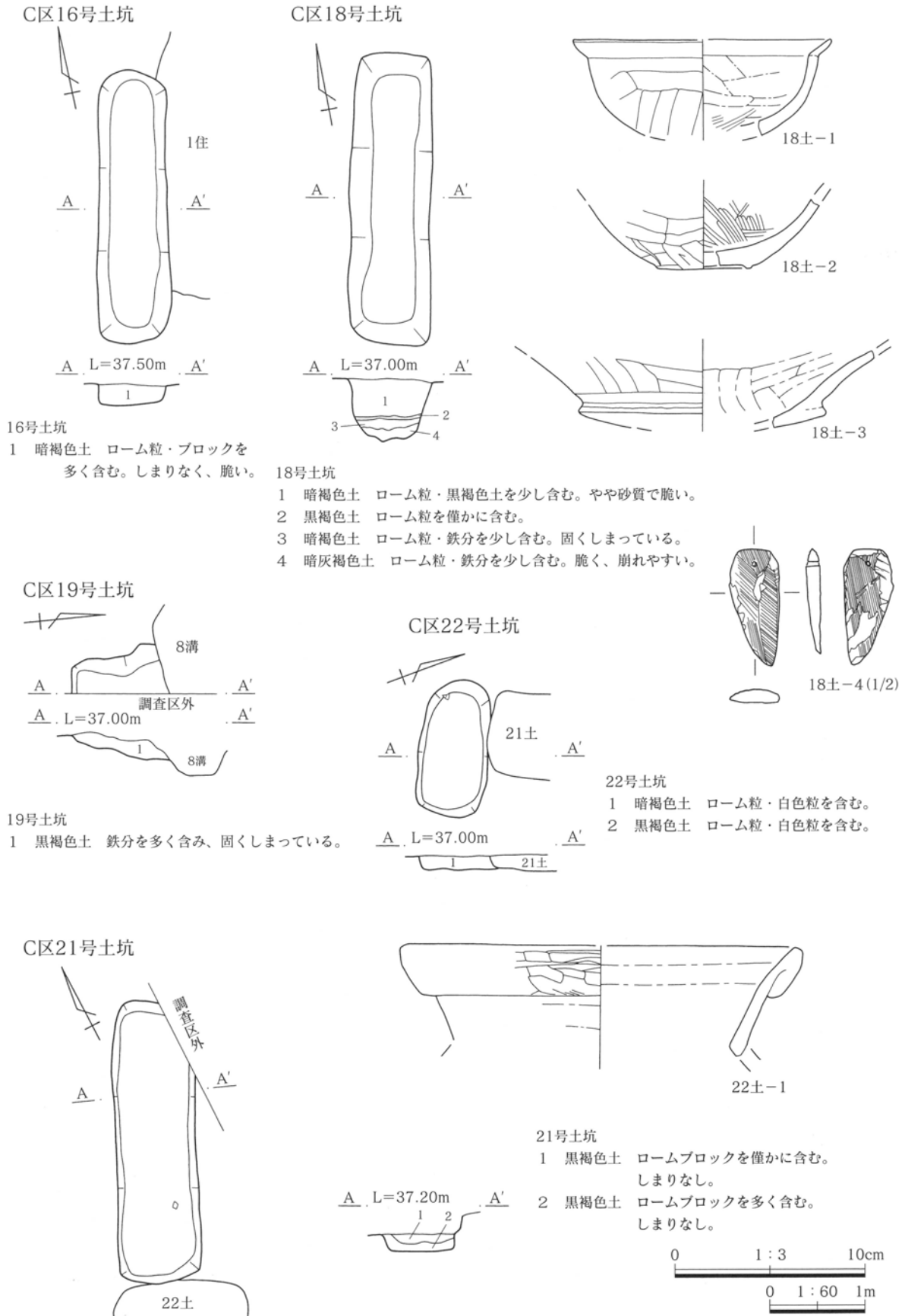


14・15号土坑

- 1 濃褐色土 脆く、やや砂っぽい土。
2 濃褐色土 1層の近似。ローム粒を僅かに含む。
3 濃褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。
4 暗褐色土 ローム粒・ブロックを多く含む。(14土覆土)

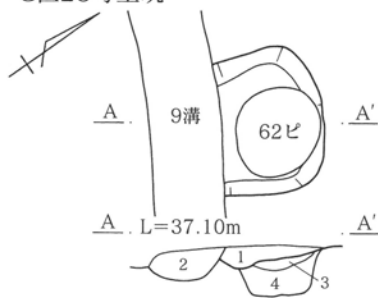


第133図 C区11~15号土坑、出土遺物



第134図 C区16・18・19・21・22号土坑、出土遺物

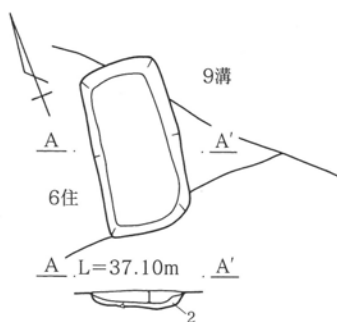
C区23号土坑



23号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・白色粒を少し含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒・白色粒を含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒・白色粒を多く含む。

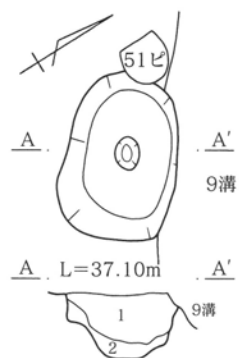
C区24号土坑



24号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・白色粒を含む。しまりなし。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。

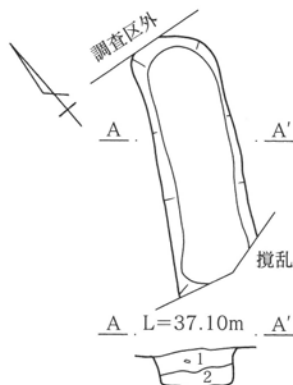
C区25号土坑



25号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒・白色粒を多く含む。
- 2 褐色土 ローム粒・白色粒を少し含む。

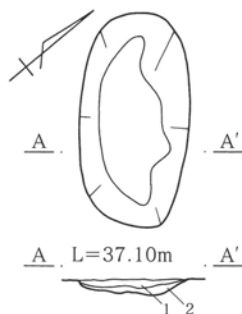
C区26号土坑



26号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・黒色土ブロック、白色粒を多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒・黒色土ブロック、白色粒を少し含む。

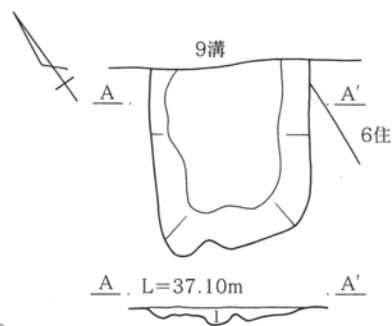
C区27号土坑



27号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を含む。

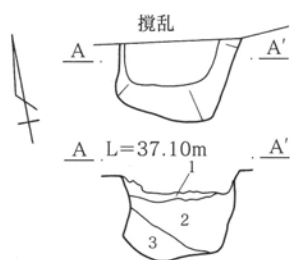
C区28号土坑



28号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒を僅かに、ロームブロックを下部に多く含む。

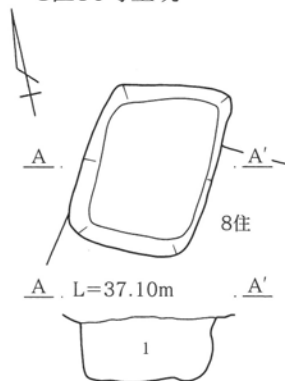
C区29号土坑



29号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒・白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 白色粒を少し、ロームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 白色粒を僅かに、ロームブロックを多く含む。

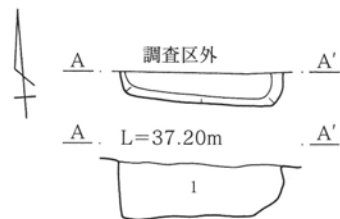
C区30号土坑



30号土坑

- 1 暗褐色土 ローム・黒色土ブロックを多く含む。砂質。

C区31号土坑



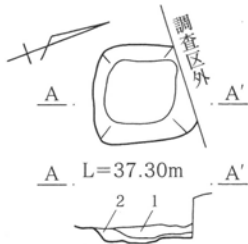
31号土坑

- 1 暗褐色土 ローム・黒色土ブロックを多く含む。砂質。

0 1:60 1m

第135図 C区23~31号土坑

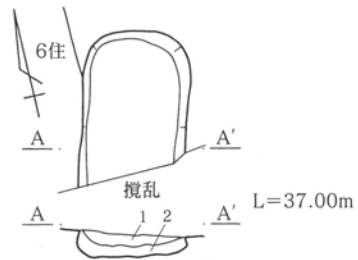
C区32号土坑



32号土坑

- 1 暗褐色土 ローム・黒色土ブロックを多く含む。砂質。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。しまりなし。

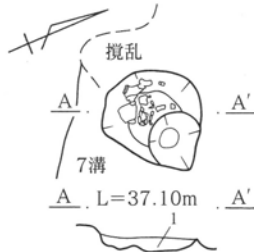
C区33号土坑



33号土坑

- 1 黒褐色土 白色粒を少し含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。しまりなし。

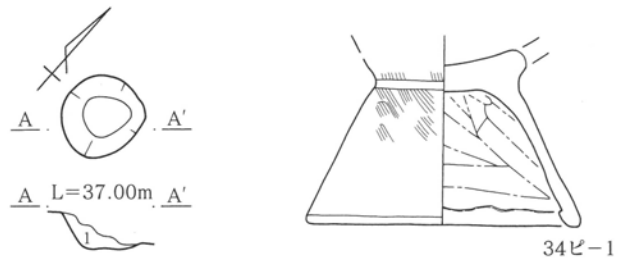
C区29号ピット



29号ピット

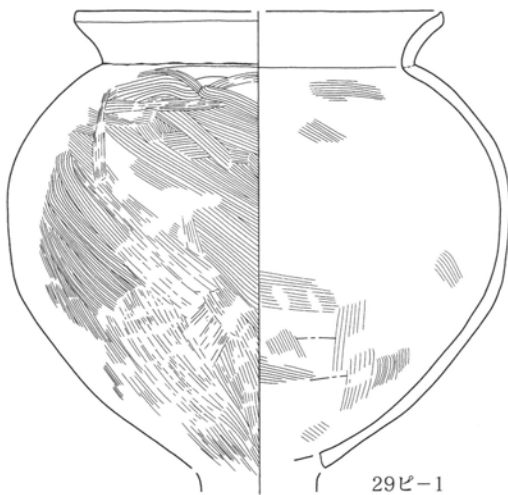
- 1 暗褐色土 ローム粒・ブロックを少し含む。

C区34号ピット

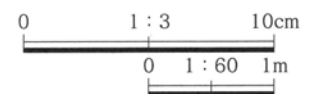
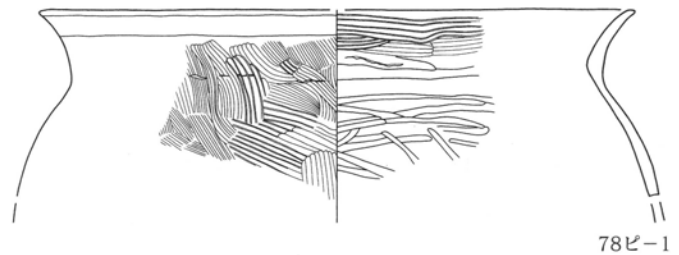
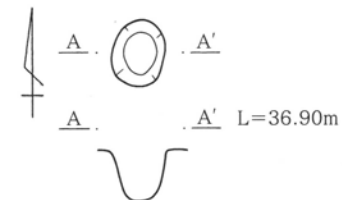


34号ピット

- 1 濃褐色土 ローム粒・ブロックを含む。



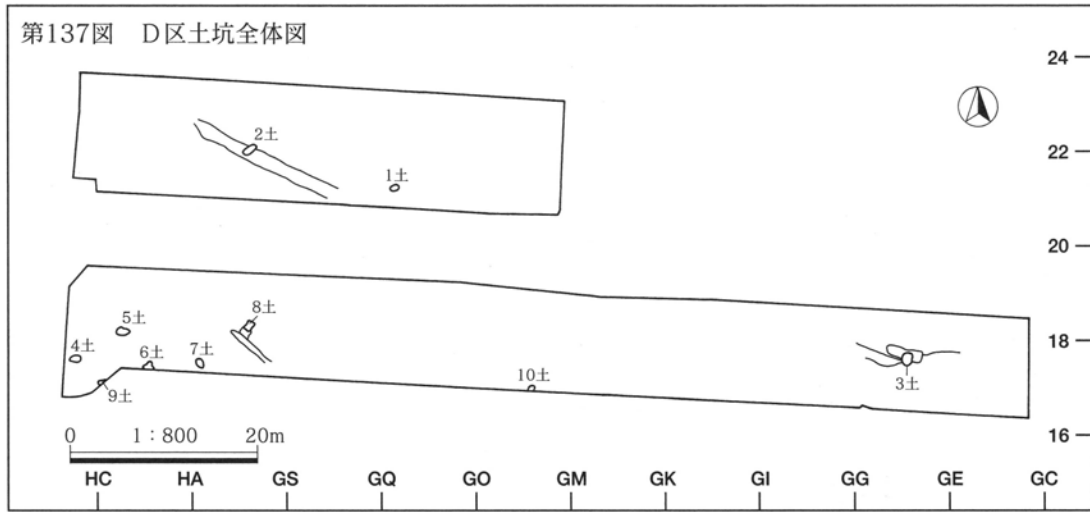
C区78号ピット



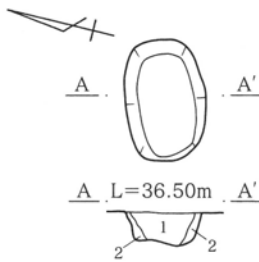
第136図 C区32・33号土坑、29・34・78号ピット・出土遺物

(4) D区井戸・土坑・ピット

* D区のピット全体図は付図1を参照されたい。



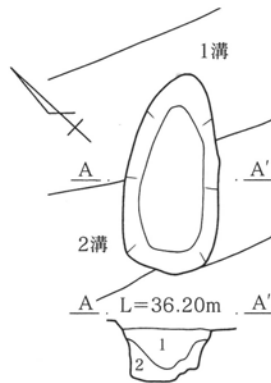
D区1号土坑



1号土坑

- 1 黒褐色土 粘性強。
- 2 灰褐色土 ローム粒・ブロックを含む。粘性強。

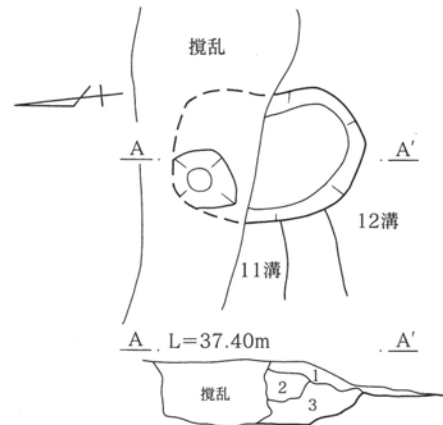
D区2号土坑



2号土坑

- 1 黒褐色土 粘性強。
- 2 灰褐色土 ローム粒・ブロックを含む。

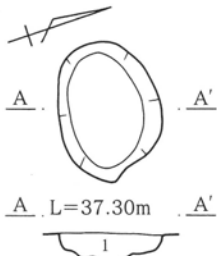
D区3号土坑



3号土坑

- 1 褐灰色土 砂質。流水に伴う砂が多く堆積。(12溝覆土)
- 2 黒褐色土 砂質。鉄分粒・砂を多く含む。(11溝覆土)
- 3 黒色土 やや粘質。ローム粒・砂を少し含む。

D区4号土坑

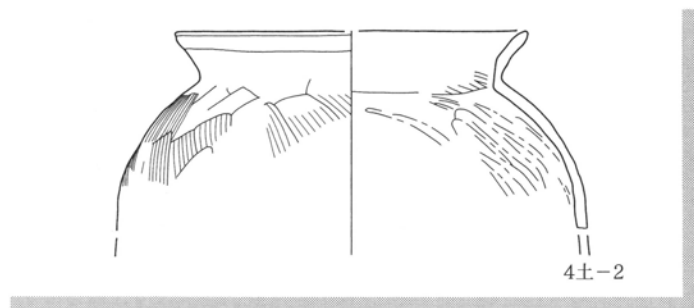


4号土坑

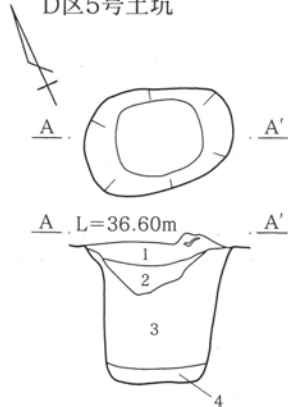
- 1 黒褐色土 白色粒を多く含む。粘性・しまり弱。



第138図 D区1～4号土坑、4号土坑出土遺物

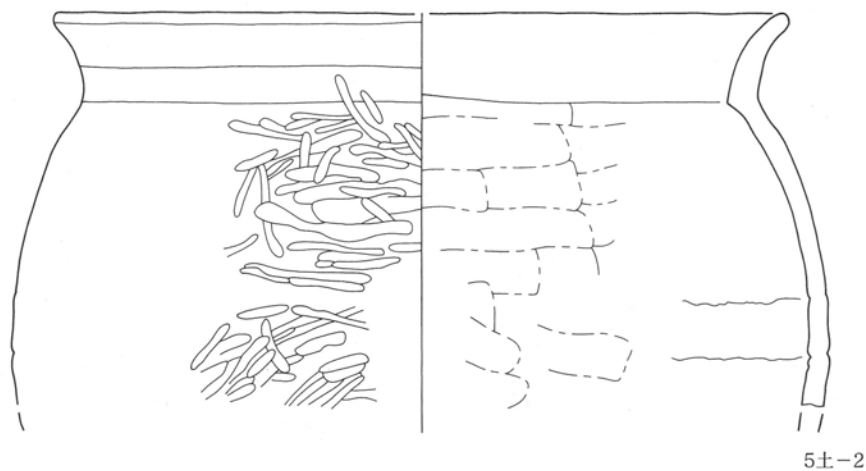
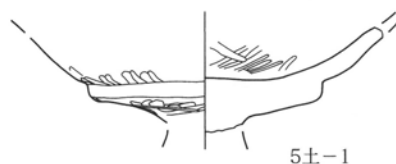


D区5号土坑

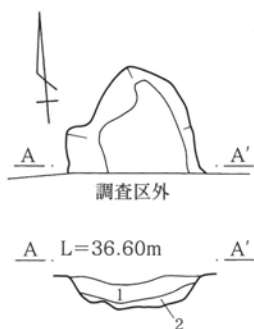


5号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒を含む。粘性弱。しまりやや弱。
- 2 黒色土 ローム粒を僅かに含む。粘性弱。しまりやや弱。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少し含む。粘性やや弱。しまりやや弱。
- 4 黒色土とロームの混土

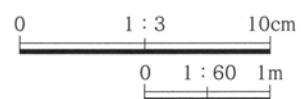


D区6号土坑



6号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を少し含む。粘性弱。しまり弱。
- 2 暗褐色土とロームの混土



第139図 D区5・6号土坑、4・5号土坑出土遺物

D区7号土坑



7号土坑

1 濃褐色土 ローム粒・ブロックを含む。
粘性弱。しまりやや弱。

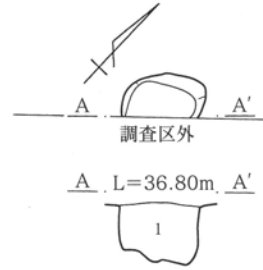
D区8号土坑



8号土坑

1 黒褐色土 ロームブロックを含む。
粘性弱。しまり強。
2 黄褐色土 黒褐色土ブロックを含む。
粘性中。しまり中。

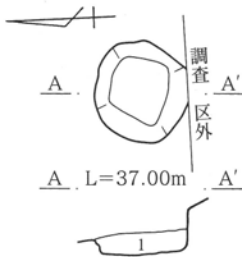
D区9号土坑



9号土坑

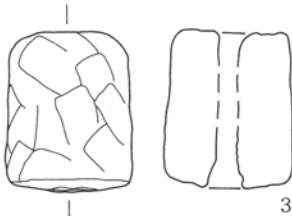
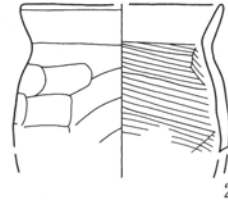
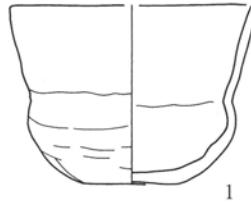
1 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。
粘性やや弱。しまり中。

D区10号土坑

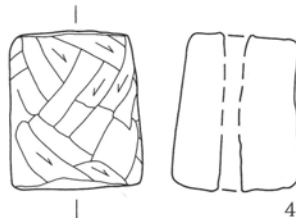


10号土坑

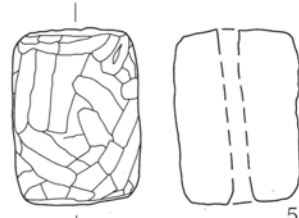
1 暗褐色土 ローム粒・ブロックを少し含む。粘性中。しまり強。



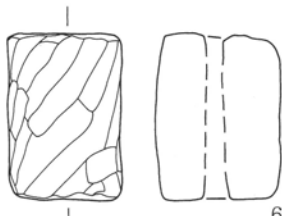
3



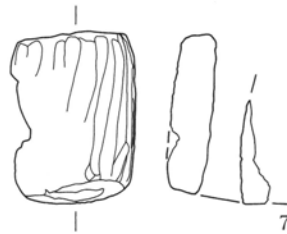
4



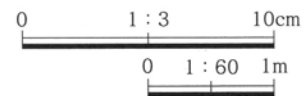
5



6



7



第140図 D区7～10号土坑、10号土坑出土遺物

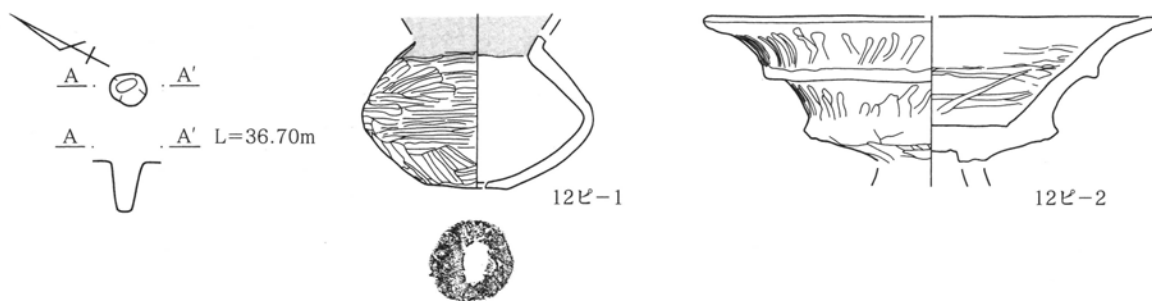
D区6号ピット



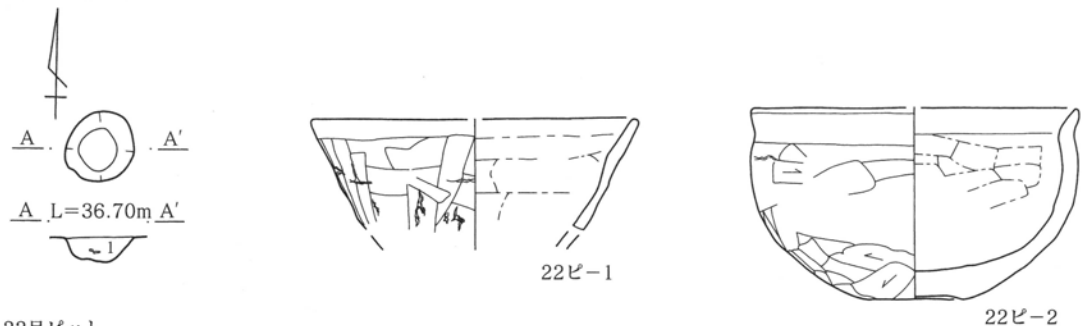
6号ピット

- 1 黒褐色土 ローム粒を含む。粘性弱。しまりやや弱。
- 2 暗褐色土 ローム粒を多く含む。粘性弱。しまり弱。

D区12号ピット



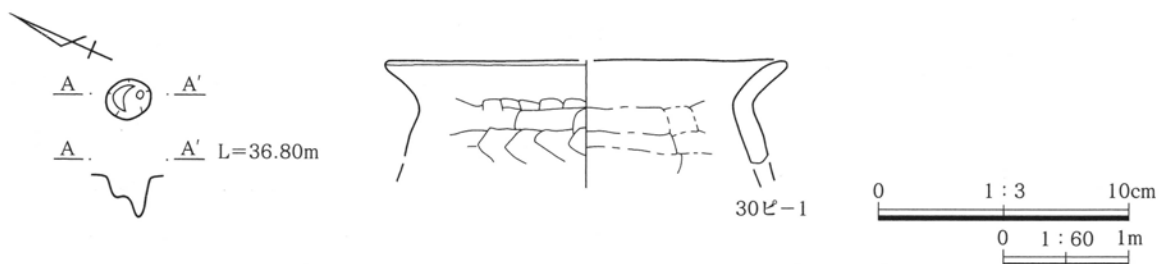
D区22号ピット



22号ピット

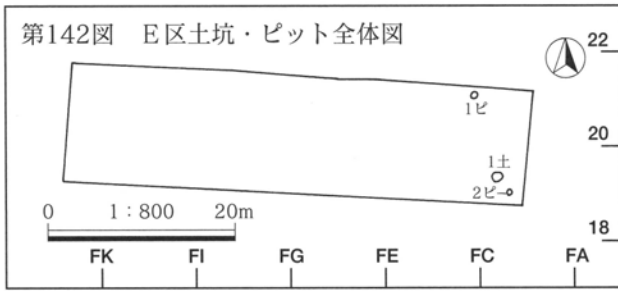
- 1 黒褐色土 ローム粒を含む。粘性弱。しまりやや弱。

D区30号ピット

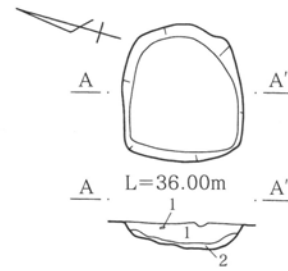


第141図 D区6・12・22・30号ピット、出土遺物

(5) E区井戸・土坑・ピット

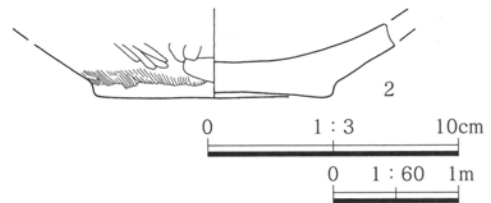
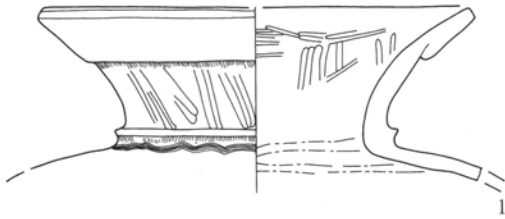


E区1号土坑



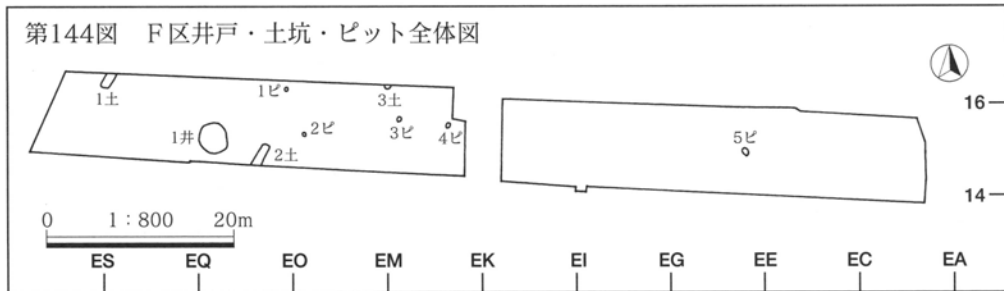
1号土坑

- 1 黒色土 ローム粒・ブロックを含む。粘性あり。しまり強。
- 2 濃褐色土 ローム粒を多く含む。粘性あり。



第143図 E区1号土坑、出土遺物

(6) F区井戸・土坑・ピット



F区1号井戸 (第145・146図、P L28・53)

位置 EP-15 (F-3区)

重複 なし。

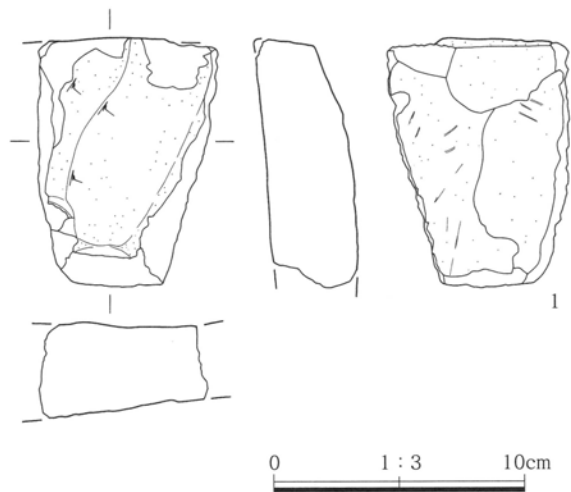
方位 N-0°

形態 平面形は楕円形、断面形はほぼ筒状を呈す。

規模 長軸×短軸 上面3.18m×2.75m、下面0.37m×0.57m、深さ2.76m。

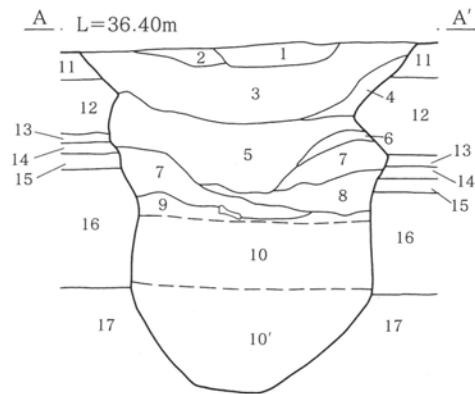
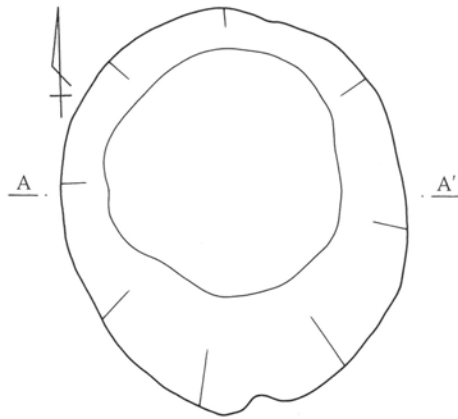
遺物 石製品(荒砥)が出土している。他に、土師器片4.3kg、軟質陶器片125gが出土。

所見 出土遺物・覆土から時期は中世以降と思われる。



第145図 F区1号井戸出土遺物

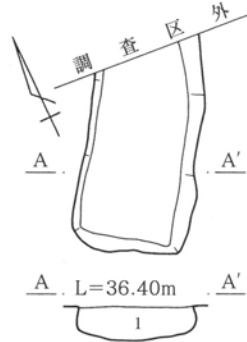
F区1号井戸



1号井戸

- 1 暗褐色土 青灰色粘質土ブロック・白色粒を含む。
- 2 黒褐色土 濃褐色土ブロック・白色粒を少し含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック・白色粒を含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒・ブロックを含む。3層より黒味強い。
- 5 黒褐色土 3層に近似。灰白色・黄白色ブロックを少し含む。
- 6 黒褐色土 4層に近似。ローム粒を少し含む。
- 7 黒褐色土 6層に近似。褐色土・ローム粒を少し含む。
- 8 褐色土 ローム粒・黒褐色土を含む。
- 9 黒褐色土 ローム粒を含む。
- 10 黒褐色土 粘質。灰色砂質土・灰色シルトを含む。
- 11 淡褐色土 水性堆積のローム。
- 12 濃褐色土 (暗色帯相当)
- 13 橙色土 粘質。全体的に鉄分による変色が認められる。
- 14 暗褐色粘質土
- 15 黒色粘質土
- 16 灰色シルト鉄分沈着が棒状に認められる。
- 17 灰色砂質土

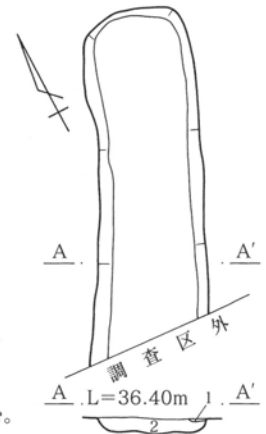
F区1号土坑



1号土坑

- 1 黒色土 ロームブロック・暗黄褐色土を含む。

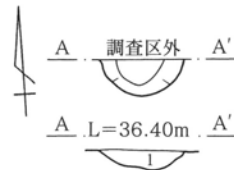
F区2号土坑



2号土坑

- 1 淡褐色土 攪乱か。
- 2 黒色土 ローム粒を含む。

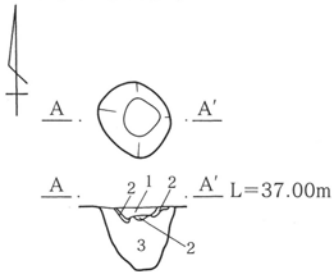
F区3号土坑



3号土坑

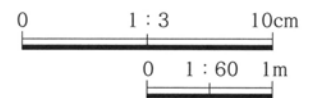
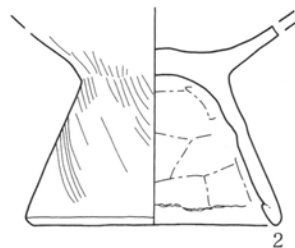
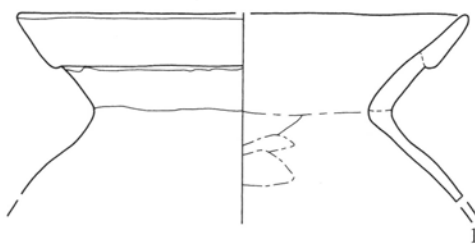
- 1 黒色土 ローム粒を少し含む。

F区5号ピット



5号ピット

- 1 黒褐色土 白色粒・鉄分粒を含む。固くしまる。
- 2 灰白色シルト主体で1層の土が混じる。鉄分を含む。
- 3 濃褐色土 白色粒を含む。固くしまる。



第146図 F区1号井戸、1～3号土坑、5号ピット・出土遺物

第21表 A区土坑計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	長軸方位	出土遺物(掲載遺物は除く)	重複関係	備考
1	JK-21	楕円形	3.40×2.12×1.14	N-84°-W	土師器1.9kg	1 A溝	
2	JM-24	長方形	(1.71)×0.86×0.17	N-7°-W	土師器55g	2溝	
3	JH-23	楕円形	1.13×1.03×0.10	N-85°-W	土師器130g、軟質陶器12g		
4	JP-24	隅丸長方形	3.68×0.92×0.22	N-7°-E	土師器39g、縄文土器15g		
5	JK-23	楕円形	0.90×0.80×0.07	N-2°-E	土師器14g		
6	KI-23	楕円形	1.22×(1.04)×0.40	N-7°-E	石10g		
7	KK-21	楕円形	0.80×0.69×0.29	N-70°-E			
8①	KL-23	不明	0.63×(0.27)×0.14	N-83°-W	土師器36g、軟質陶器70g		
8②	KL-23	不整形	2.23×(0.93)×0.13	N-85°-W			
8③	KL-23	隅丸長方形	2.08×0.81×0.14	N-83°-W			
9①	KK-22	隅丸長方形	(0.77)×0.53×0.41	N-3°-E	土師器10g、須恵器9g		
9②	KK-22	隅丸長方形	2.43×0.43×0.39	N-90°-E	石15g		
9③	KK-22	隅丸長方形	2.12×0.46×0.41	N-90°-E			
9④	KK-22	隅丸長方形	2.05×0.49×0.41	N-90°-E			
10①	KL-22	不明	(0.33)×(0.29)×不明	N-81°-W	土師器36g、軟質陶器142g		
10②	KL-22	隅丸長方形	2.01×0.50×0.50	N-79°-W	陶磁器19g、石12g		
10③	KL-22	隅丸長方形	2.20×0.50×0.48	N-79°-W			
10④	KL-22	隅丸長方形	1.90×0.75×0.51	N-78°-W			
11	KK-22	隅丸長方形	1.84×0.65×0.47	N-84°-W	軟質陶器14g		
12	KB-21	楕円形	1.90×1.07×0.40	N-44°-W	須恵器12g		
13	KC-22	楕円形	2.20×1.92×0.48	N-82°-W	土師器20g、須恵器89g		
14	JS-22	隅丸長方形	2.35×1.62×0.52	N-90°-W	土師器10g	15土	
15	JS-22	不整形	1.35×0.63×0.17	N-90°-W		14土	
16	JS-21	楕円形	3.12×1.86×0.39	N-45°-E		20・78土、12溝	
17	KB-21	隅丸長方形	1.82×1.06×0.39	N-77°-W	須恵器2g、軟質陶器5g		
18	JT-21	楕円形	2.34×1.63×0.78	N-74°-E	土師器5g、軟質陶器80g、瓦27g	10溝	
19	KC-21	不整形	(2.32)×(0.55)×0.17	N-76°-W		9溝	
20	JS-22	楕円形	1.51×(0.61)×0.13	N-79°-E		16土、12溝	
21	JT-21	楕円形	1.98×(0.69)×0.13	N-79°-W	土師器9g、縄文土器22g	4溝	
22	JS-22	楕円形	2.01×1.13×0.10	N-4°-E	土師器4g	21土	
23	JT-21	楕円形	(1.65)×1.40×0.06	N-9°-E	土師器32g、須恵器57g、縄文35g		
24	JT-21	楕円形	(1.52)×1.02×0.17	N-70°-W		10溝	
25	JT-21	楕円形	(2.16)×1.37×0.30	N-74°-W	土師器17g、陶磁器3g、縄文33g、埴輪50g、石117g	23・30溝、1井	
26	JT-21	楕円形	(0.79)×(0.66)×0.07	N-70°-W		4溝	
27	KK-22	楕円形	2.31×1.10×0.45	N-61°-W	土師器10g、軟質陶器22g、縄文土器出土		
28	JT-21	不明	0.87×(0.48)×0.26	N-5°-E	軟質陶器23g		
29	KC-21	楕円形	(3.45)×1.98×0.29	N-21°-E	土師器23g	19土、4溝	
30	JT-21	不明	(0.85)×(0.73)×0.16	N-87°-W			
31	KB-20	不明	(1.59)×(0.73)×0.04	N-71°-W		32土	
32	KB-21	楕円形	(1.39)×(1.16)×0.32	N-18°-E		31土、8溝	
33	JT-20	不明	(0.79)×(0.33)×0.27	N-87°-W			
34	JT-20	楕円形	(1.83)×(0.18)×0.04	N-85°-W		35土	
35	JT-20	楕円形	2.69×(0.74)×0.03	N-73°-W	石19g	34土、4溝	
36	KC-21	楕円形	(1.59)×(0.48)×0.06	N-9°-E		37土、8溝	
37	KC-21	楕円形	(1.98)×1.56×0.20	N-11°-E	軟質陶器32g	36・50土、4・8溝	
38	KC-21	楕円形	1.73×(0.62)×0.48	N-81°-W		4溝	
39	JS-21	楕円形	(1.77)×0.94×0.25	N-44°-W		40土	
40	JS-21	楕円形	(0.75)×(0.80)×0.18	N-5°-E		39土	
41	JS-21	隅丸長方形	(1.28)×0.76×0.28	N-2°-E	土師器19g、石20g	43土	
42	JS-21	隅丸長方形	(2.39)×1.17×0.27	N-38°-E	土師器40g、須恵器67g、縄文土器35g、石63g	44土	
43	JS-21	楕円形	1.41×0.72×0.11	N-61°-E		40・41・44土	
44	JS-21	楕円形	2.23×0.99×0.27	N-84°-W	土師器13g	42・43土	
45	JS-21	楕円形	(1.34)×1.19×0.14	N-5°-W	土師器4g	51土、4溝	
46	JS-20	不明	(1.11)×(0.34)×0.23	N-76°-W		51土、4溝	
47	JS-21	楕円形	(1.12)×0.53×0.10	N-46°-W		51土	
48	JR-21	隅丸長方形	(0.65)×(0.54)×0.17	N-52°-E			
49	JR-21	不明	(0.86)×(0.20)×0.10	N-3°-W			
50	KC-21	隅丸長方形	(0.75)×(0.56)×0.29	N-45°-W			

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	長軸方位	出土遺物(掲載遺物は除く)	重複関係	備考
51	JS-21	楕円形	(0.94)×0.63×0.21	N-0°		45・46・47土	
52	KG-27	楕円形	1.36×1.19×0.37	N-90°-W	土師器7g	53土、15溝	
53	KG-27	楕円形	(0.80)×0.80×0.106	N-0°		52土、15溝	井戸か
54	KI-27	楕円形	1.19×1.15×0.18	N-3°-E	土師器25g		
55	JQ-24	円形	1.28×1.20×0.25	N-11°-E	土師器37g		
56	JQ-24	不整形	0.92×0.68×0.38	N-64°-W	土師器45g		
57	JR-25	円形	0.57×0.51×0.20	N-63°-W	土師器47g	21溝	
58	KA-25	楕円形	0.81×0.68×0.25	N-48°-W		1周墓	近世墓
59	KB-25	楕円形	1.37×1.23×0.38	N-0°	土師器30g	1周墓	
60	KB-25	楕円形	1.13×(0.78)×0.08	N-62°-E	土師器15g	1周墓、61土	
61	KB-25	楕円形	1.27×(1.15)×0.18	N-62°-E	土師器10g	1周墓、60土	
62	KA-26	円形	1.13×1.08×0.18	N-0°	土師器35g、石12g	1周墓	
63	KA-26	不整形	(1.89)×(0.80)×0.29	N-84°-E		1周墓、66土	近世墓
64	KB-26	円形	0.66×0.58×0.44	N-28°-E	軟質陶器33g、石18g	1周墓	近世墓
65	KC-26	楕円形	0.85×0.81×0.90	N-49°-W	土師器15g	1周墓、71土	近世墓
66	KB-26	楕円形	(0.42)×(0.42)×0.73	N-0°		1周墓、63土	近世墓
67	KB-26	楕円形	(0.78)×(0.67)×0.82	N-0°		1周墓、68土	近世墓
68	KB-26	楕円形	(0.73)×(0.44)×0.88	N-0°	土師器22g、軟質陶器19g	1周墓、67土	近世墓
69	KB-26	楕円形	0.80×0.55×0.57	N-44°-W	土師器3g	1周墓	近世墓
70	KC-26	楕円形	0.99×0.81×0.70	N-87°-W	土師器27g	1周墓	近世墓
71	KC-26	楕円形	1.04×0.91×0.96	N-56°-E	土師器10g、石10g	1周墓、65土	近世墓
72	KA-25	楕円形	1.18×0.81×0.42	N-37°-E	人骨・歯、銅銭	1周墓	近世墓
73	KC-25	円形	0.87×(0.62)×1.10	N-66°-W		1周墓、74土	近世墓
74	KC-26	楕円形	1.00×(0.92)×0.99	N-65°-W		1周墓、73土	近世墓
75	KC-24	楕円形	1.74×1.70×0.79	N-43°-W	土師器77g、須恵器23g、軟質陶器192g、陶磁器11g、縄文23g、石35g、ガラス片7g		井戸
76	KC-24	円形	1.33×1.17×1.02	-	土師器80g、軟質土器50g、石223g		井戸
77	KD-25	楕円形	1.88×1.75×1.14	N-66°-W	土師器30g、須恵器35g、軟質陶器115g、陶磁器62g、カワラケ125g、石22g		井戸
78	JR-21	楕円形	(1.52)×(0.76)×0.72	-	土師器33g、軟質陶器9g、馬骨	16土	
79	KC-26	楕円形	0.94×0.86×0.60	N-12°-E	土師器12g	1周墓	近世墓
80	KC-26	楕円形	0.98×0.58×0.14	N-41°-E	人骨、銅銭、櫛	1周墓	近世墓
81	KD-25	円形	0.77×0.73×0.26	-	土師器30g、陶磁器9g	15溝	

第22表 B区土坑計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	長軸方位	出土遺物(掲載遺物は除く)	重複関係	備考
1	IO-20	隅丸長方形	2.17×0.70×0.28	N-63°-W			
2	IN-20	隅丸長方形	1.92×0.64×0.24	N-38°-E	土師器片250g	17ピ	
3	IM-20	円形	0.60×0.48×0.24	-			
4	IL-20	不整形	0.64×0.52×0.29	N-53°-W			
5	IL-20	隅丸長方形	0.86×0.86×0.20	N-74°-E	土師器片25g		
6	IN-19	円形	1.00×0.96×0.66	-	土師器片90g		
7	IK-20	楕円形	1.12×1.09×0.21	N-87°-W	土師器片10g		
8	IK-20	隅丸長方形	1.48×1.05×0.19	N-10°-E	土師器片50g	42・43・60ピ	
9	IK-19	隅丸長方形	1.02×0.98×0.49	N-77°-W	土師器片110g	83ピ	
10	IL-19	楕円形	0.45×(0.40)×0.36	N-79°-W	土師器手焙り形土器出土	1井	
11	IJ-20	楕円形	1.02×0.94×0.54	N-12°-E			1掘P6へ変更
12	IJ-21	楕円形	0.91×0.71×0.77	N-34°-E			1掘P1へ変更
13	IJ-21	楕円形	1.31×0.83×0.63	N-10°-W			1掘P2へ変更
14	IJ-20	楕円形	1.00×0.71×0.11	N-90°-W	土師器片10g		
15	II-21	不明	(1.12)×0.67×0.21	N-14°-E	土師器片40g	16土	
16	II-20	円形	0.81×0.80×0.59	-		15土	1掘P3へ変更
17	II-20	楕円形	1.23×0.95×0.57	N-17°-E			1掘P4へ変更
18	IJ-20	円形	0.80×0.79×0.59	-			1掘P5へ変更
19	II-19	隅丸長方形	6.32×0.78×0.20	N-72°-W	土師器片75g	2溝	
20	IF-18	隅丸長方形	2.88×0.73×0.22	N-77°-W	土師器片755g		
21	JC-21	円形	1.07×0.88×0.28	-	土師器片160g		
22	JC-20	円形	0.62×0.58×0.23	-	土師器片10g		
23	JA-19	隅丸長方形	1.32×0.64×0.11	N-7°-E			
24	JB-20	楕円形	1.07×0.99×0.68	N-77°-E			5掘P4へ変更
25	JB-20	隅丸長方形	3.42×0.80×0.32	N-0°	土師器片50g	148ピ	

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	長軸方位	出土遺物(掲載遺物は除く)	重複関係	備考
26	JB-20	隅丸長方形	(3.02)×0.87×0.16	N-0°			
27	JB-20	隅丸長方形	1.22×0.90×0.61	N-74°-E			5掘P5へ変更
28	JB-20	隅丸長方形	1.12×0.74×0.46	N-81°-E			5掘P6へ変更
29	JB-21	楕円形	1.27×0.80×0.68	N-20°-W	土師器片5g		
30	JB-21	不整形	0.64×0.64×0.26	N-81°-E	土師器片200g		
31	JD-21	楕円形	1.02×0.68×0.19	N-19°-E			
32	JA-24	円形	0.76×0.75×0.47	-	土師器片60g	15溝	
33	IJ-24	円形	0.60×0.60×0.40	-			12住貯へ変更
34	IK-24	楕円形	1.18×(0.42)×0.75	N-74°-W	土師器片150g	18溝、13住	
35	IL-25	隅丸方形	1.05×0.86×0.18	N-81°-W	土師器片100g、須恵器片7g	21溝	
36	IH-24	隅丸長方形	1.47×0.84×0.18	N-15°-E	土師器片20g	1 豎	
37	IN-23	隅丸方形	1.47×0.91×0.10	N-80°-W	土師器片25g	7住	
38	IH-23	円形	0.67×0.63×0.74	-			
39	IH-24	楕円形	0.54×0.45×0.39	N-74°-W	土師器片125g		
40	IH-23	円形	0.73×0.68×0.31	-	土師器片25g		
41	IJ-24	円形	0.55×0.55×0.32	-			14住P3へ変更
42	IL-24	隅丸方形	1.20×(0.84)×0.15	N-79°-E	土師器片40g		
43	IE-23	隅丸長方形	1.43×(0.60)×0.40	N-13°-E	土師器片15g	21溝	

第23表 C区土坑計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	長軸方位	出土遺物(掲載遺物は除く)	重複関係	備考
1	HK-19	楕円形	0.57×0.51×0.35	N-25°-W	土師器片10g		
2	HL-23	楕円形	1.95×1.35×0.97	N-39°-E	土師器片10g、須恵器45g	3溝	
3	HE-21	楕円形	4.30×3.16×0.42	N-54°-W	土師器片165g	1~4溝	
4	HJ-23	楕円形	1.08×(0.48)×0.31	N-90°-W	土師器片60g	3溝	
5	HJ-23	楕円形	1.56×(0.48)×0.29	N-86°-W	土師器片55g	3溝	
6	HG-22	隅丸長方形	2.46×1.38×0.18	N-58°-W	土師器片170g		
7	HM-22	隅丸長方形	3.03×1.07×0.15	N-25°-E	土師器片20g		
8	HL-22	隅丸長方形	(0.95)×0.64×0.48	N-31°-E	土師器片15g		
9	HL-22	楕円形	0.92×0.70×0.52	N-86°-E	土師器片35g		
10	ID-22	隅丸長方形	2.99×0.76×0.25	N-19°-E	土師器片35g		
11	ID-22	隅丸方形	1.06×0.87×0.21	N-67°-E	土師器片200g		
12	IB-22	隅丸方形	1.01×1.01×0.31	N-0°	土師器片80g		
13	IB-23	隅丸長方形	2.90×0.88×0.27	N-33°-E	土師器片85g、須恵器5g		
14	ID-23	楕円形	0.94×0.71×0.53	N-16°-W	土師器片50g		
15	IC-23	不整形	2.36×2.00×0.15	N-35°-E	土師器片350g		
16	IA-22	隅丸長方形	2.82×0.69×0.20	N-17°-E	土師器片240g		
17	欠番						
18	HT-23	隅丸長方形	2.97×0.83×0.47	N-9°-E	土師器片740g		
19	HN-24	不整形	(0.97)×(0.39)×0.13	N-0°	土師器片150g	8溝	
20	欠番						1住貯へ変更
21	HO-19	隅丸長方形	3.63×0.90×0.20	N-25°-E	土師器片250g、須恵器5g	5住、22土	
22	HO-19	円形	0.93×0.89×0.12	-	土師器片55g	21土	
23	HQ-19	隅丸方形	(1.01)×0.75×0.45	N-35°-E	土師器片10g	9溝、62ピ	
24	HP-18	隅丸長方形	1.37×0.78×0.15	N-6°-E		6住、9溝	
25	HQ-19	隅丸方形	1.24×0.88×0.75	N-49°-W	土師器片5g	9溝	
26	HQ-20	隅丸長方形	(1.92)×0.65×0.29	N-27°-E	土師器片140g		
27	HQ-18	隅丸長方形	1.67×0.87×0.11	N-48°-W	土師器片40g		
28	HQ-19	隅丸長方形	(1.42)×1.27×0.07	N-33°-E	土師器片25g	6住、9溝	
29	HQ-19	隅丸長方形	0.90×(0.59)×0.65	N-22°-E	土師器片10g		
30	HQ-19	隅丸方形	(1.36)×1.02×0.33	N-34°-E	土師器片170g	8住	
31	HR-20	隅丸長方形	1.28×(0.25)×0.32	N-87°-W	土師器片20g		
32	HS-20	隅丸方形	0.78×0.75×0.15	N-21°-E			
33	HO-18	隅丸長方形	(1.14)×0.85×0.14	N-13°-E	土師器片80g	6住	

第24表 D区土坑計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	長軸方位	出土遺物(掲載遺物は除く)	重複関係	備考
1	GP-21	隅丸長方形	0.95×0.62×0.24	N-72°-E			
2	GS-22	楕円形	1.55×0.75×0.55	N-53°-E	土師器片5g	1・2溝	
3	GE-17	楕円形	1.50×0.98×0.25	N-3°-E		11・12溝	
4	HC-17	楕円形	1.15×0.80×0.21	N-84°-W	土師器片1.2kg		

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	長軸方位	出土遺物(掲載遺物は除く)	重複関係	備考
5	HB-18	楕円形	1.18×0.77×1.00	N-25°-W	土師器片470g		
6	HA-17	不整形	1.04×(0.84)×0.21	N-84°-W			
7	GT-17	楕円形	1.04×0.66×0.29	N-7°-W	土師器片20g	51ピ	
8	GS-18	楕円形	1.16×0.70×0.31	N-72°-E		15溝	
9	HB-17	不整形	0.65×(0.32)×0.21	N-53°-E			
10	GM-17	隅丸方形	0.74×0.75×0.15	N-3°-E	土師器片330g		

第25表 E区土坑計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	長軸方位	出土遺物(掲載遺物は除く)	重複関係	備考
1	FB-19	隅丸方形	1.06×0.92×0.11	N-75°-E	土師器片22g		

第26表 F区土坑計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	長軸方位	出土遺物(掲載遺物は除く)	重複関係	備考
1	ER-16	隅丸長方形	(1.56)×0.89×0.26	N-30°-E	土師器片65g		
2	EO-14	隅丸長方形	(2.56)×0.86×0.10	N-28°-E	土師器片51g		
3	EM-16	円形	0.63×(0.28)×0.12	N-88°-W			

第27表 A区ピット計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
1	JK-20	円形	0.44×0.38×0.27	
2	JI-23	楕円形	0.34×0.25×0.05	
3	JJ-23	円形	0.63×0.56×0.77	
4	JO-24	円形	0.20×0.20×0.32	
5	JI-23	楕円形	0.39×0.29×0.43	
6	KK-22	楕円形	0.28×0.25×0.29	
7	KH-25	円形	0.32×0.30×0.28	
8	KH-25	円形	0.28×0.28×0.20	
9	KH-25	円形	0.28×0.28×0.20	
10	KH-25	円形	0.22×0.22×0.19	
11	KJ-25	不整形	0.36×0.32×0.17	
12	KJ-25	円形	0.43×0.37×0.28	
13	JR-25	楕円形	0.28×0.25×0.22	
14	JS-25	楕円形	0.51×0.38×0.17	
15	JS-25	楕円形	0.31×0.25×0.19	
16	JT-25	隅丸方形	0.42×0.32×0.21	
17	KA-26	隅丸方形	0.28×0.27×0.33	
18	KB-26	円形	0.38×0.35×0.26	

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
22	IM-19	楕円形	0.25×0.22×0.18	
23	IM-20	楕円形	0.33×0.23×0.31	
24	IL-20	楕円形	0.35×0.25×0.15	
25	IK-20	楕円形	0.27×0.25×0.28	
26	IL-20	楕円形	0.22×0.20×0.17	
27	IL-20	円形	0.16×0.14×0.16	
28	IL-20	楕円形	0.38×0.33×0.25	
29	IL-20	円形	0.60×0.56×0.39	3掘P1へ変更
30	IK-20	楕円形	0.58×0.52×0.37	3掘P2へ変更
31	IK-20	円形	0.47×0.40×0.42	3掘P8へ変更
32	IK-20	円形	0.22×0.20×0.19	
33	IK-20	円形	0.24×0.22×0.18	
34	IK-20	楕円形	0.45×0.32×0.25	
35	IK-20	楕円形	0.24×0.18×0.23	
36	IK-20	円形	0.24×0.24×0.22	
37	IK-20	楕円形	0.41×0.25×0.19	
38	IK-20	円形	0.28×0.26×0.24	
39	IK-20	楕円形	0.32×0.24×0.16	
40	IK-20	円形	0.25×0.25×0.20	
41	IK-20	楕円形	0.33×0.27×0.33	
42	IK-20	楕円形	0.40×0.34×0.18	
43	IK-20	楕円形	0.37×0.33×0.25	
44	IK-20	楕円形	0.37×0.32×0.19	
45	IK-20	隅丸方形	0.37×0.33×0.14	
46	IK-20	楕円形	0.33×0.27×0.19	
47	IJ-20	楕円形	0.37×0.35×0.22	
48	IJ-21	楕円形	0.34×0.32×0.17	
49	IJ-20	楕円形	0.36×0.25×0.24	
50	IJ-20	隅丸方形	0.32×0.28×0.15	
51	IJ-20	楕円形	0.38×0.24×0.19	
52	IJ-20	円形	0.28×0.24×0.21	
53	IJ-20	円形	0.28×0.25×0.17	
54	IJ-20	円形	0.32×0.31×0.19	
55	IJ-20	楕円形	0.41×0.38×0.21	
56	IJ-20	円形	0.30×0.28×0.22	
57	IJ-20	楕円形	0.42×0.31×0.14	
58	IJ-20	楕円形	0.48×0.40×0.36	
59	IK-19	楕円形	0.48×0.44×0.30	3掘P4へ変更
60	IK-20	楕円形	0.54×0.45×0.40	3掘P3へ変更
61	IM-20	楕円形	0.20×0.15×0.17	
62	IJ-20	円形	0.28×0.28×0.14	
63	IJ-20	円形	0.23×0.22×0.31	

第28表 B区ピット計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
1	IN-21	円形	0.31×0.30×0.13	
2	IN-21	楕円形	0.30×(0.22)×0.18	
3	IN-21	楕円形	0.24×0.80×0.48	
4	IN-20	不整形	0.34×0.32×0.43	
5	IN-21	円形	0.26×0.26×0.21	
6	IN-21	楕円形	0.34×0.26×0.30	
7	IM-21	隅丸長方形	0.50×0.26×0.30	
8	IN-20	円形	0.23×0.22×0.26	
9	IN-20	不整形	0.36×0.29×0.24	
10	IN-20	楕円形	0.44×0.26×0.31	
11	IN-20	楕円形	0.36×0.26×0.38	
12	IO-20	楕円形	0.21×0.13×0.29	
13	IO-20	楕円形	0.32×0.26×0.38	
14	IO-21	隅丸長方形	0.34×0.23×0.33	
15	IN-20	楕円形	0.41×0.33×0.51	
16	IO-21	不整形	0.22×0.20×0.26	
17	IN-17	楕円形	0.23×0.19×0.38	
18	IN-18	楕円形	0.27×0.13×0.31	
19	IO-19	不整形	0.23×0.17×0.53	
20	IN-20	円形	0.22×0.22×0.21	
21	IN-20	楕円形	0.29×0.23×0.31	

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
64	IJ-20	円形	0.26×0.26×0.15	
65	II-20	円形	0.25×0.25×0.24	
66	IK-20	楕円形	0.32×0.26×0.21	
67	IJ-20	円形	0.26×0.26×0.20	
68	IJ-20	楕円形	0.26×0.23×0.19	
69	II-20	隅丸方形	0.43×0.38×0.20	
70	II-20	楕円形	0.38×0.21×0.24	
71	IL-19	楕円形	0.60×0.53×0.27	3掘P7へ変更
72	II-19	円形	0.28×0.26×0.32	
73	IK-19	円形	0.52×0.52×0.33	3掘P6へ変更
74	II-20	円形	0.28×0.26×0.29	
75	IK-19	楕円形	0.47×0.36×0.41	
76	IK-19	楕円形	0.35×0.24×0.20	3掘P5へ変更
77	IL-19	円形	0.30×0.29×0.22	
78	IJ-20	楕円形	0.52×0.48×0.24	
79	IJ-20	円形	0.29×0.29×0.21	
80	IK-19	楕円形	0.40×0.33×0.30	
81	IK-19	楕円形	0.35×0.29×0.38	
82	IK-19	楕円形	0.31×0.23×0.32	
83	IK-19	楕円形	0.44×0.39×0.33	
84	IK-19	円形	0.28×0.26×0.33	
85	IH-20	楕円形	0.42×0.34×0.16	
86	IH-20	円形	0.35×0.35×0.30	
87	IH-20	円形	0.23×0.22×0.27	
88	II-19	楕円形	0.33×0.27×0.35	
89	II-19	円形	0.35×0.35×0.25	
90	II-19	円形	0.22×0.22×0.23	
91	II-19	円形	0.23×0.23×0.26	
92	IH-19	楕円形	0.45×0.38×0.20	
93	IH-19	円形	0.27×0.26×0.45	
94	IG-19	楕円形	0.32×0.27×0.32	
95	IH-19	円形	0.45×0.38×0.50	
96	IG-19	円形	0.41×0.39×0.54	
97	IG-20	円形	0.27×0.25×0.50	
98	IG-20	円形	0.31×0.28×0.35	
99	IG-21	円形	0.27×0.22×0.23	
100	IG-19	円形	0.22×0.21×0.14	
101	IG-19	円形	0.65×0.60×0.43	
102	IN-19	円形	0.34×0.29×0.55	
103	IF-18	楕円形	0.34×0.24×0.27	
104	IQ-19	円形	0.28×0.23×0.17	
105	IR-20	楕円形	0.46×0.34×0.47	
106	IR-21	円形	0.27×0.23×0.19	
107	IR-21	楕円形	0.41×0.37×0.18	
108	IR-21	楕円形	0.39×0.31×0.50	4掘P3へ変更
109	IR-21	楕円形	0.35×0.27×0.15	
110	IR-21	楕円形	0.33×0.28×0.17	
111	IR-21	楕円形	0.36×0.25×0.19	
112	IQ-21	円形	0.21×0.19×0.32	
113	IR-20	円形	0.38×0.32×0.21	
114	IR-20	不整形	0.41×0.28×0.33	
115	IR-20	円形	0.27×0.23×0.56	4掘P4へ変更
116	IS-20	楕円形	0.27×0.19×0.23	
117	IS-20	円形	0.25×0.25×0.29	4掘P9へ変更
118	IS-20	円形	0.18×0.18×0.40	4掘P6へ変更
119	IS-20	円形	0.20×0.20×0.23	
120	IS-21	楕円形	0.48×0.30×0.18	
121	IS-21	円形	0.26×0.26×0.27	
122	IR-21	円形	0.29×0.24×0.43	
123	IR-21	楕円形	0.27×0.17×0.24	
124	IS-20	円形	0.31×0.28×0.31	4掘P8へ変更

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
125	IS-20	円形	0.32×0.32×0.54	4掘P2へ変更
126	IS-20	円形	0.30×0.28×0.42	4掘P7へ変更
127	IS-20	円形	0.30×0.28×0.64	4掘P1へ変更
128	IR-20	円形	0.22×0.20×0.42	4掘P5へ変更
129	IR-21	円形	0.22×0.21×0.22	
130	IR-20	円形	0.28×0.26×0.24	
131	IR-20	不整形	0.44×0.28×0.21	
132	IR-20	楕円形	0.61×0.36×0.65	
133	IR-20	楕円形	0.39×0.30×0.14	
134	IS-20	円形	0.48×0.41×0.13	
135	IS-20	円形	0.28×0.28×0.23	
136	IT-20	楕円形	0.27×0.26×0.14	
137	IS-21	楕円形	0.42×0.37×0.20	
138	IT-21	隅丸方形	0.50×0.48×0.15	
139	IT-21	円形	0.38×0.38×0.25	
140	IT-21	楕円形	0.45×0.38×0.15	
141	JA-21	楕円形	0.34×0.23×0.30	
142	JA-21	楕円形	0.40×0.29×0.26	
143	JA-21	楕円形	0.47×0.31×0.33	
144	JA-21	楕円形	0.46×0.26×0.25	
145	JA-21	楕円形	0.41×0.31×0.28	
146	JA-20	円形	0.31×0.31×0.22	
147	JB-21	不整形	0.42×0.36×0.56	5掘P3へ変更
148	JB-20	楕円形	0.40×0.27×0.40	
149	JB-21	楕円形	0.49×0.39×0.49	5掘P2へ変更
150	JC-21	不整形	0.47×0.37×0.30	5掘P1へ変更
151	JC-21	隅丸方形	0.59×0.49×0.63	
152	JD-21	円形	0.48×0.47×0.44	1住P3へ変更
153	JD-19	楕円形	0.42×0.38×0.37	
154	JC-19	楕円形	0.87×(0.32)×0.16	
155	JD-22	円形	0.54×0.52×不明	1住P2へ変更
156	JE-21	楕円形	0.41×0.32×0.36	
157	JD-21	隅丸長方形	0.44×0.33×0.29	
158	JE-21	楕円形	0.53×0.43×0.27	1住P1へ変更
159	JD-21	楕円形	0.68×0.51×0.36	1住P4へ変更
160	JD-21	不整形	0.70×0.50×0.17	
161	IH-24	不整形	0.39×0.24×0.22	1竖P2へ変更
162	II-24	楕円形	0.52×0.43×0.35	
163	II-24	隅丸方形	0.55×0.49×0.37	
164	II-25	円形	0.46×0.44×0.44	
165	IJ-24	楕円形	0.50×0.44×0.29	
166	IJ-23	円形	0.38×0.36×0.30	
167	IH-24	円形	0.44×0.40×0.44	1竖P5へ変更
168	IH-24	円形	0.28×0.29×0.24	1竖P4へ変更
169	IG-24	円形	0.34×0.27×0.23	
170	IF-22	楕円形	0.67×0.49×0.44	
171	JD-25	円形	0.27×0.25×0.20	
172	JD-25	円形	0.36×0.35×0.12	
173	IQ-23	円形	0.53×0.45×不明	
174	II-23	円形	0.31×0.30×不明	

第29表 C区ピット計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
1	IA-24	円形	0.27×0.24×0.38	3住P1へ変更
2	IA-24	楕円形	0.30×0.24×0.27	3住P2へ変更
3	IA-23	楕円形	0.27×0.21×0.34	3住P3へ変更
4	IA-24	円形	0.28×0.28×0.32	3住P4へ変更
5	IA-24	楕円形	0.28×0.23×0.14	3住P5へ変更
6	IA-24	円形	0.21×0.20×0.13	3住P6へ変更
7	IA-23	楕円形	0.28×0.18×0.10	3住P7へ変更
8	IA-23	円形	0.15×0.14×0.26	3住P8へ変更

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
9	IA-24	円形	0.23×0.27×0.15	3住P9へ変更
10	IB-23	楕円形	0.46×0.34×0.29	3住P10へ変更
11	IA-23	円形	0.21×0.21×0.13	3住P11へ変更
12	IC-24	楕円形	0.37×0.26×0.33	
13	IB-22	楕円形	0.40×0.35×0.35	
14	IA-23	楕円形	0.34×0.27×0.44	
15	IA-23	楕円形	0.28×0.23×0.44	
16	IB-22	楕円形	0.73×0.55×0.71	2住貯へ変更
17	IA-22	円形	0.29×0.28×0.31	
18	ID-24	不整形	0.63×0.61×0.46	
19	ID-23	不整形	0.46×0.38×0.62	
20	ID-22	楕円形	0.63×0.44×0.43	
21	IC-21	円形	0.42×0.38×0.49	
22	IC-22	円形	0.51×0.45×0.35	
23	IC-23	円形	0.46×0.44×0.32	
24	IB-24	円形	0.59×0.55×0.34	7掘P1へ変更
25	IB-24	不整形	0.67×0.54×0.20	7掘P2へ変更
26	欠番			
27	IA-24	円形	0.37×0.35×0.18	
28	HT-24	不整形	0.66×0.57×0.22	7掘P3へ変更
29	HT-24	楕円形	0.87×0.81×0.22	
30	HT-24	円形	0.59×0.55×0.41	
31	HT-24	円形	0.42×(0.33)×0.29	
32	HT-24	不整形	0.92×0.62×0.71	
33	HS-24	円形	0.60×0.60×0.65	
34	HS-24	円形	0.66×0.64×0.17	
35	HR-24	円形	0.72×(0.48)×0.44	
36	HS-22	楕円形	0.62×0.53×0.31	
37	HR-23	円形	0.44×0.41×0.25	
38	欠番			
39	欠番			
40	HQ-22	隅丸方形	0.72×0.72×0.39	4掘P4へ変更
41	HQ-22	隅丸方形	0.54×0.52×0.20	4掘P5へ変更
42	HP-22	隅丸方形	0.57×0.54×0.16	
43	HO-24	楕円形	0.28×0.26×0.21	
44	HO-24	楕円形	0.52×0.47×0.21	
45	HO-23	隅丸方形	0.45×0.42×0.29	4住貯へ変更
46	HO-24	円形	0.32×0.30×0.23	
47	HO-22	円形	0.58×0.53×0.42	
48	欠番			
49	HP-23	楕円形	0.32×0.26×0.49	
50	HO-18	楕円形	0.57×0.40×0.27	
51	HQ-19	楕円形	0.42×0.37×0.56	
52	HS-19	楕円形	0.46×0.42×不明	
53	HP-19	円形	0.47×0.44×0.46	
54	HQ-19	円形	0.32×0.30×0.30	
55	HO-18	隅丸長方形	0.65×0.42×0.52	
56	HP-19	円形	0.25×0.22×0.14	
57	HO-19	円形	0.32×0.29×0.28	
58	HQ-19	楕円形	0.25×0.21×0.18	
59	HQ-18	楕円形	0.28×0.20×0.24	
60	HP-19	楕円形	0.48×0.28×0.50	
61	HQ-20	円形	0.40×0.39×0.53	
62	HQ-19	円形	0.67×0.62×0.41	
63	HQ-18	円形	0.30×0.30×0.40	
64	HP-18	円形	0.30×0.30×0.39	
65	HR-20	円形	0.43×0.37×0.20	
66	HR-20	楕円形	0.28×0.25×0.14	
67	HQ-20	円形	0.29×0.25×0.14	
68	HQ-18	楕円形	0.36×0.30×0.20	
69	HO-19	円形	0.25×0.25×0.20	

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
70	HM-22	円形	0.20×0.18×0.16	
71	HM-22	円形	0.25×0.23×0.19	
72	HM-22	円形	0.19×0.19×0.27	
73	HL-23	楕円形	0.70×0.57×0.58	
74	HM-23	円形	0.15×0.14×0.25	
75	HL-23	楕円形	0.35×0.30×0.59	
76	HL-23	楕円形	0.45×0.30×0.14	
77	HL-23	楕円形	0.47×0.27×0.31	
78	HK-22	楕円形	0.52×0.42×0.60	
79	HL-22	円形	0.22×0.21×0.19	
80	HL-23	楕円形	0.29×0.20×0.13	
81	HK-23	楕円形	0.74×0.40×0.14	
82	HK-21	楕円形	0.36×0.30×0.20	
83	HJ-22	円形	0.25×0.23×0.20	
84	HK-22	円形	0.24×0.22×0.32	
85	HI-21	円形	0.35×0.34×0.32	
86	HI-22	楕円形	0.32×0.26×0.19	
87	HH-21	楕円形	0.27×(0.23)×0.25	
88	HH-21	円形	0.28×0.27×0.26	
89	HH-22	円形	0.21×0.20×0.23	
90	HH-21	楕円形	0.24×0.18×0.16	
91	HH-21	楕円形	0.22×0.20×0.19	
92	HK-22	楕円形	0.51×(0.27)×0.26	
93	HH-22	円形	0.24×0.21×0.17	
94	HF-22	円形	0.26×0.25×0.28	
95	HF-22	円形	0.35×0.32×0.27	
96	HF-22	楕円形	0.40×0.35×0.31	
97	HG-22	円形	0.21×0.21×0.16	
98	HF-22	楕円形	0.33×0.24×0.14	
99	HF-22	楕円形	0.22×0.18×0.23	
100	HJ-23	楕円形	0.38×0.28×0.20	
101	HJ-23	楕円形	0.24×0.22×0.12	
102	HJ-23	楕円形	0.24×0.19×0.14	
103	HJ-23	楕円形	0.24×0.22×0.15	
104	HJ-23	円形	0.29×0.29×0.31	
105	HE-22	楕円形	0.38×0.28×0.36	
106	HM-22	楕円形	1.00×0.72×0.60	
107	HM-24	隅丸方形	1.03×(0.68)×0.57	8掘P1へ変更
108	HI-23	隅丸方形	1.04×0.90×0.77	8掘P2へ変更

第30表 D区ピット計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
1	GN-17	円形	0.21×0.21×0.16	
2	GR-18	隅丸方形	0.40×0.38×0.52	
3	GO-17	楕円形	0.36×0.26×0.32	
4	GS-17	円形	0.27×0.25×0.35	
5	GR-18	円形	0.59×0.53×0.37	
6	GR-18	円形	0.47×0.43×0.35	
7	GR-17	楕円形	0.23×0.18×0.28	
8	GQ-18	楕円形	0.24×0.17×0.26	
9	GP-17	楕円形	0.28×0.24×0.30	
10	GP-18	円形	0.34×0.30×0.43	
11	GP-18	楕円形	0.42×0.34×0.58	
12	GP-17	円形	0.27×0.27×0.40	
13	GP-17	隅丸方形	0.35×0.33×0.55	
14	GR-18	楕円形	0.37×0.32×0.20	
15	GR-18	円形	0.25×0.22×0.22	
16	GR-18	楕円形	0.30×0.23×0.18	
17	GR-17	楕円形	0.31×0.19×0.32	
18	GQ-18	楕円形	0.28×0.23×0.25	
19	GQ-18	楕円形	0.22×0.17×0.28	

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
20	GO-18	楕円形	0.28×0.20×0.18	
21	GT-19	円形	0.41×0.41×0.30	
22	GR-17	円形	0.55×0.53×0.25	
23	GR-17	楕円形	0.40×0.27×0.52	
24	GR-17	楕円形	0.26×0.14×0.33	
25	GR-18	円形	0.31×0.28×0.54	
26	GR-18	楕円形	0.55×0.42×0.27	
27	GR-18	楕円形	0.54×0.41×0.45	
28	GR-18	円形	0.27×0.26×0.24	
29	GN-17	円形	0.33×0.33×0.32	
30	GT-19	円形	0.33×0.32×0.11	
31	GT-19	円形	0.24×0.22×0.30	
32	GT-19	円形	0.25×0.24×0.24	
33	GT-19	円形	0.28×(0.22)×0.47	
34	GT-19	円形	0.28×0.26×0.40	
35	GT-19	楕円形	0.35×0.27×0.43	
36	GS-18	楕円形	0.42×0.26×0.55	
37	HA-18	円形	0.28×0.28×0.22	
38	GT-19	楕円形	0.34×0.24×0.30	
39	GT-19	楕円形	0.28×0.25×0.26	
40	GT-19	楕円形	0.33×0.28×0.23	
41	GT-18	円形	0.25×0.23×0.32	
42	GT-18	楕円形	0.30×0.26×0.29	
43	GN-17	楕円形	0.39×0.28×0.36	
44	GT-18	円形	0.33×0.33×0.26	
45	GT-17	円形	0.38×0.36×0.21	
46	GT-17	楕円形	0.46×0.36×0.25	
47	GT-17	楕円形	0.33×0.29×0.29	
48	GR-17	不整形	0.50×0.38×0.38	
49	HA-17	楕円形	0.66×0.38×0.26	
50	HA-17	円形	0.33×0.30×0.29	
51	GT-17	楕円形	0.42×(0.28)×0.18	
52	HA-19	円形	0.31×0.30×0.39	
53	HA-18	円形	0.21×0.21×0.34	
54	GM-17	楕円形	0.30×0.24×0.50	
55	HA-18	円形	0.18×0.17×0.25	
56	HB-18	円形	0.33×0.31×0.22	
57	HC-18	円形	0.33×0.32×0.22	
58	GR-18	楕円形	0.38×0.25×0.49	
59	HA-19	円形	0.54×0.50×0.27	
60	GT-19	円形	0.24×0.24×0.44	
61	HA-19	楕円形	0.34×0.27×0.23	
62	HB-19	円形	0.28×0.28×0.18	
63	GR-18	楕円形	0.54×0.34×0.22	
64	GS-18	円形	0.29×0.25×0.49	
65	GS-18	円形	0.25×0.22×0.28	
66	GS-17	円形	0.30×0.29×0.28	
67	GS-17	円形	0.26×0.27×0.29	
68	GG-18	楕円形	0.34×0.31×0.36	
69	GT-19	楕円形	0.38×0.22×0.32	

第31表 E区ピット計測表

番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
1	FC-21	楕円形	0.70×0.68×0.40	
2	FB-19	隅丸方形	0.52×0.41×0.32	

第32表 F区ピット計測表

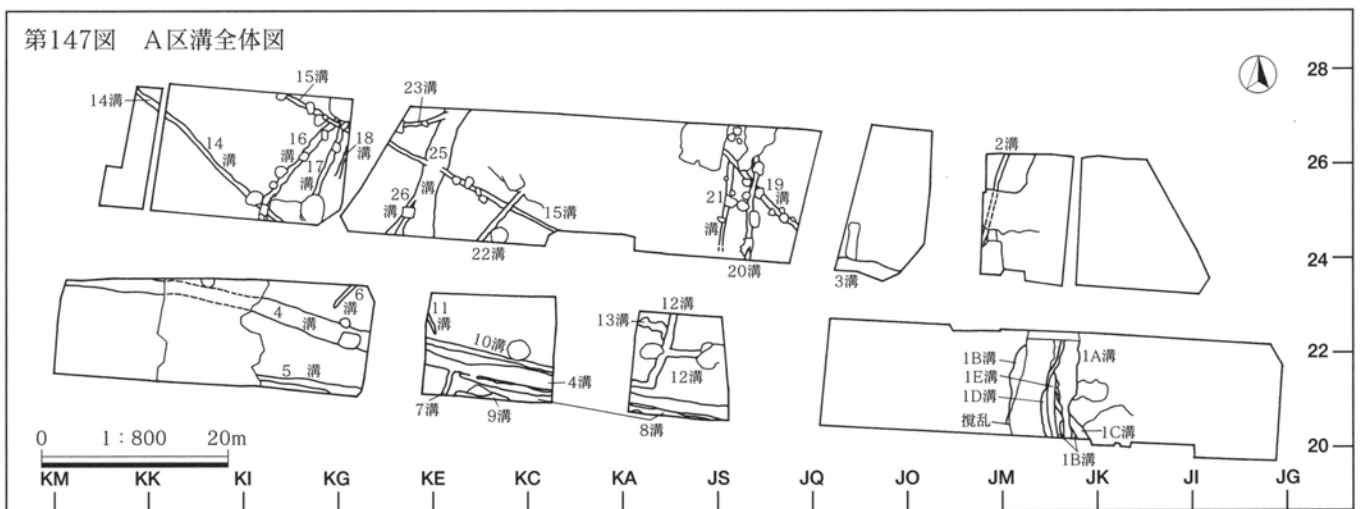
番号	位置	形状	規模(長軸×短軸×深)	備考
1	EO-16	隅丸方形	0.35×0.33×0.16	
2	EN-15	円形	0.26×0.21×0.14	
3	EI-15	楕円形	0.35×0.25×0.18	
4	EK-15	楕円形	0.40×0.32×0.58	
5	EE-14	楕円形	0.59×0.52×0.52	

第6節 溝・水田跡

溝・水田跡の概要

本遺跡の調査で検出された溝は、91条である。内訳はA区25条、B区22条、C区9条、D区15条、E区14条、F区6条である。溝の多くは、微高地を南から北へ横切る走向と南西から北東への走向で検出され、水田等に伴う用排水路の機能を果たしていたと思われる。時期は、覆土・出土遺物から概ね古墳前期時代から中世以降と思われる。E区では、

中世以降と思われる水田跡（水田面・畦・水路）が検出されている。数条の直角に曲がる溝は、屋敷等に伴う区画溝と考えられたが、内部施設等は確認できなかった。また、圃場整備前（昭和30年代）まで使用されていた用排水路が数本検出され、近世末の軟質陶器・陶磁器・瓦などの遺物が多量に出土した。旧水路は遺構としては扱わず、出土遺物は遺構外遺物として報告したい。

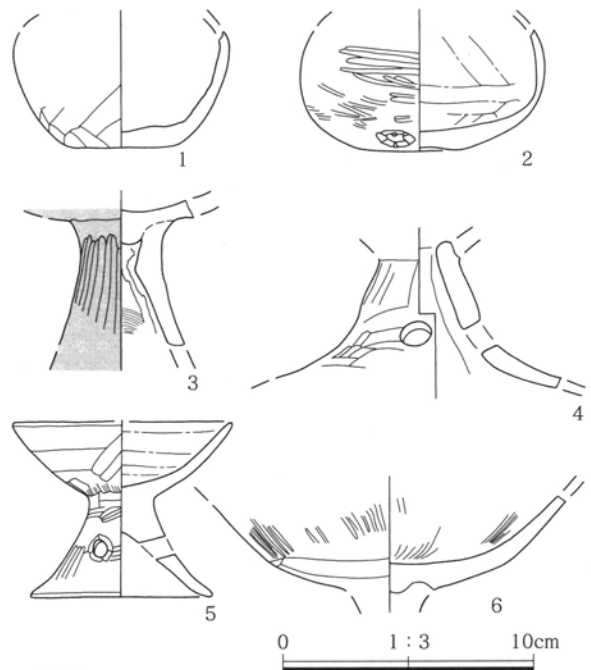


(1) A区溝

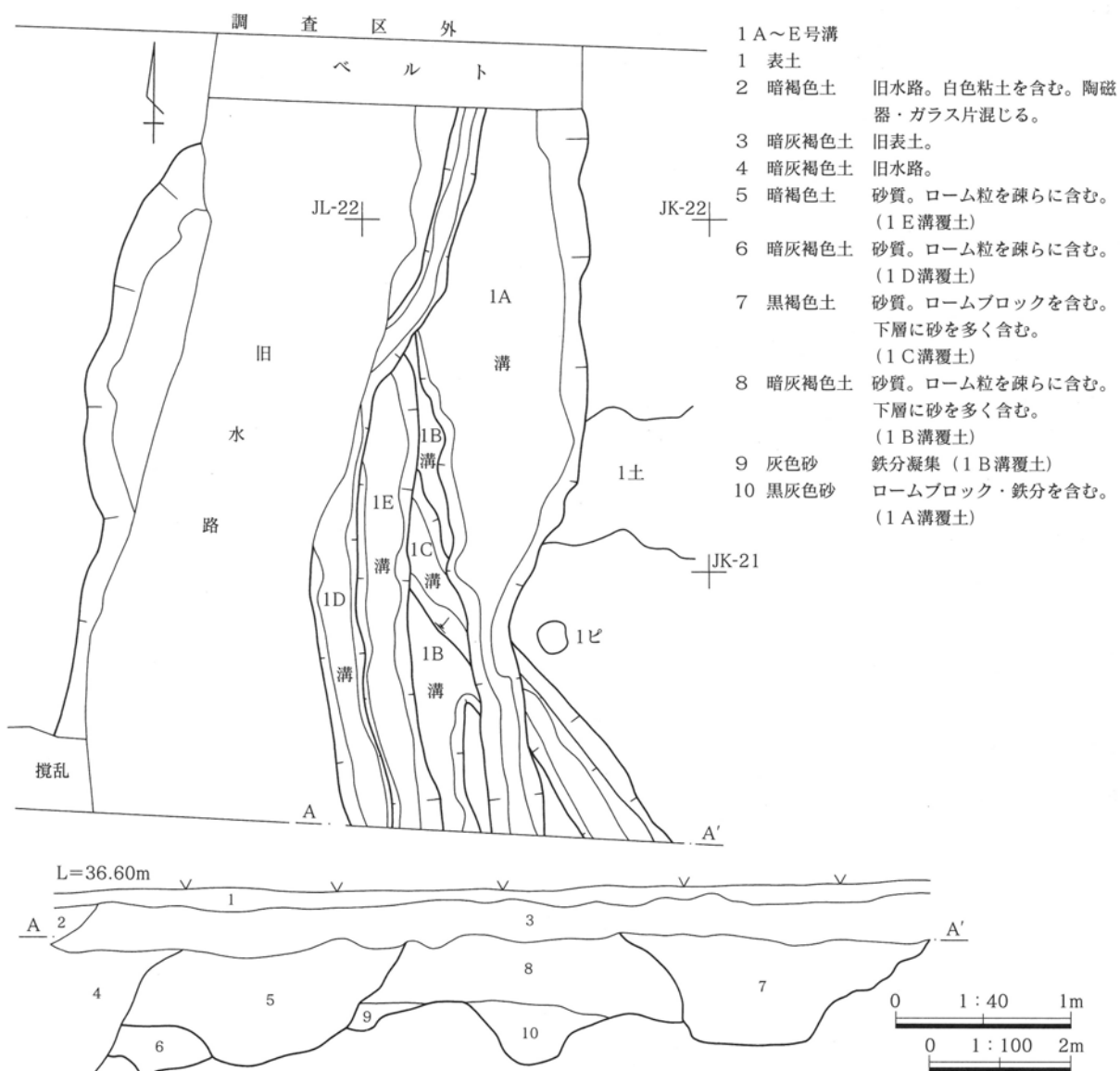
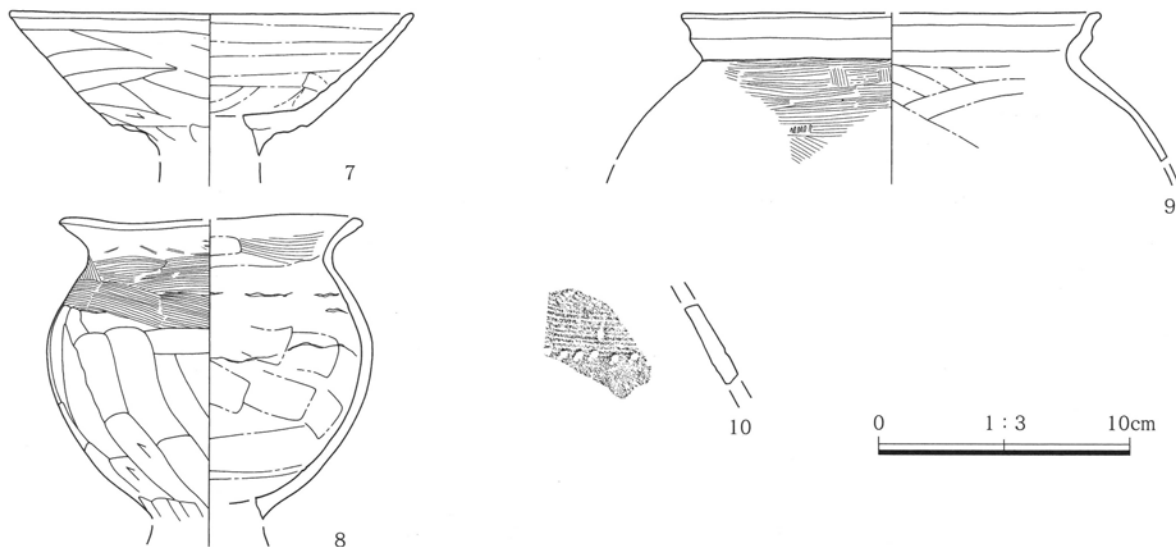
A区1号溝（第148・149図、P L35・53）

所見 A-4区で検出された1号溝はA～Eの5条の溝から構成され、時期は古墳時代前期～古代と思われる。新旧関係は1A→B→C→D→Eの順序で新しくなる。A-2区では旧水路の掘削により壊され、溝の痕跡は確認できなかった。1A～E溝は、規模・走向方向も異なるため、詳細は別々に報告したい。

遺物 土師器鉢・壺・高坏・台付甕が出土している。他に、土師器片8.4kg、須恵器片99g、軟質陶器69g、陶磁器片25g、縄文土器片97g、石215gが出土している。遺物のほとんどは1A・1B溝から出土している。



第148図 A区1号溝出土遺物(1)



- 1 A～E号溝
- 1 表土
 - 2 暗褐色土 旧水路。白色粘土を含む。陶磁器・ガラス片混じる。
 - 3 暗灰褐色土 旧表土。
 - 4 暗灰褐色土 旧水路。
 - 5 暗褐色土 砂質。ローム粒を疎らに含む。(1E溝覆土)
 - 6 暗灰褐色土 砂質。ローム粒を疎らに含む。(1D溝覆土)
 - 7 黒褐色土 砂質。ロームブロックを含む。下層に砂を多く含む。(1C溝覆土)
 - 8 暗灰褐色土 砂質。ローム粒を疎らに含む。下層に砂を多く含む。(1B溝覆土)
 - 9 灰色砂 鉄分凝集(1B溝覆土)
 - 10 黒灰色砂 ロームブロック・鉄分を含む。(1A溝覆土)

第149図 A区1号溝、出土遺物(2)

1 A号溝

位置 JK-22~JK-20 (A-4区)

重複 1号土坑と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長5.13m、上端0.37~1.02m、下端0.08~0.88m、深さ0.21~0.56mを測る。

走向 北から西へ (N-0°)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

1 B号溝

位置 JK-22~JK-20 (A-4区)

重複 なし。

規模 検出全長 (3.32) m、上端 (0.84) ~1.96 m、下端不明、深さ0.05~0.11mを測る。

走向 北から西へ (N-11° -E)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

1 C号溝

位置 JK-22~JK-20 (A-4区)

重複 なし。

規模 検出全長5.30m、上端0.56~0.74m、下端0.20~0.44m、深さ0.25~0.61mを測る。

走向 北西から南東へ (N-29° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

1 D号溝

位置 JK-22~JK-20 (A-4区)

重複 なし。

規模 検出全長4.57m、上端0.57~0.68m、下端0.36~0.48m、深さ0.04~0.17mを測る。

走向 北から西へ (N-18° -E)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形はV字状を呈する。

1 E号溝

位置 JK-21~JK-20 (A-4区)

重複 なし。

規模 検出全長6.20m、上端0.59~0.81m、下端0.26~0.53m、深さ0.10~0.18mを測る。

走向 北西から南東へ (N-6° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

A区2号溝 (第150図、PL35・53)

位置 JL-26~JM-24 (A-2区)

重複 2号土坑と重複している。本溝が古い。

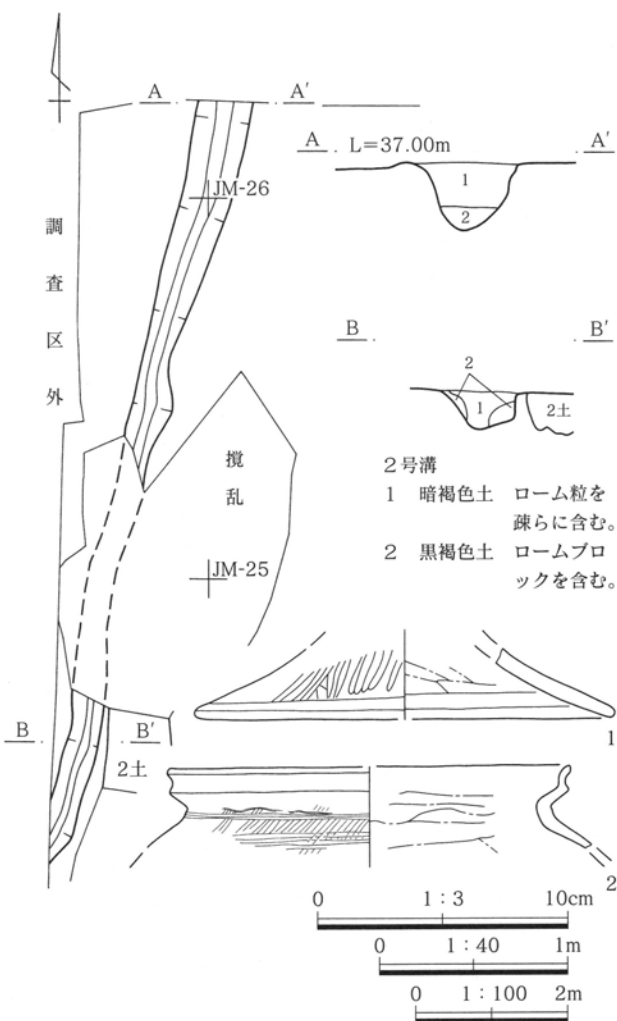
規模 検出全長5.79m、上端0.37~0.52m、下端0.15~0.25m、深さ0.22~0.33mを測る。

走向 北から南へ (N-14° -E)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 土師器高坏・台付甕が出土している。他に土師器片210gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代前期と思われる。



第150図 A区2号溝、出土遺物

A区3号溝 (第151図)

位置 JP-23~JO-23 (A-2区)

重複 なし。

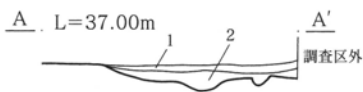
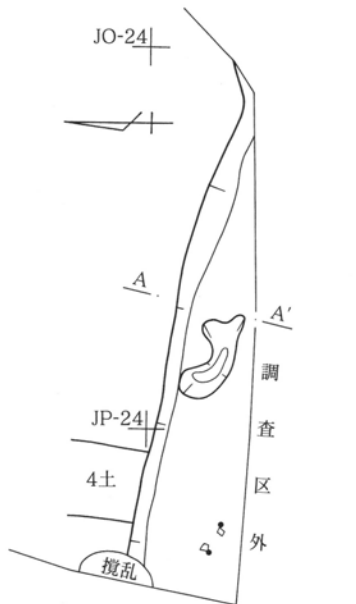
規模 検出全長5.50m、上端(1.09)~(1.48)m、下端(0.19)~(1.25)m、深さ0.02~0.04mを測る。

走向 北から南へ (N-76° -W)

形態 断面形は皿状を呈する。流水の痕跡は看取できなかつた。

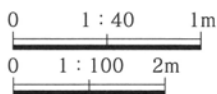
遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片385g、縄文土器片15g、石22gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代かと思われる。



3号溝

- 1 黒褐色土 白色粒・ローム粒を含む。しまりなし。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。しまりなし。



第151図 A区3号溝

A区4号溝 (第152~154図、PL35・53・54)

位置 KL-23~JR-20 (A-3区)

重複 21・26・29・35・37・38・45・46号土坑と重複してる。本溝が新しい。

規模 検出全長52.14m、上端1.03~2.10m、下端0.13~0.45m、深さ0.44~0.56mを測る。

走向 西から東へ (N-85° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 磁器碗・皿、陶器徳利・香炉・鉢・播り鉢などが出土してる。他に、土師器片63g、須恵器片40g、軟質陶器片1.7kg、陶磁器片1.6kg、石1.2kg、十能瓦片230g (破片7点)、植木鉢片3.4kgが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は近世末~近代と思われる。

A区7号溝 (第152図、PL35)

位置 KD-21 (A-3区)

重複 4号溝と重複している。本溝が古い。

規模 検出全長2.63m、上端0.53~0.63m、下端0.35~0.41m、深さ0.06~0.07mを測る。

走向 西から東へ (N-17° -E)

形態 ほぼ直線的に走向し、4号溝で壊され消滅する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 なし。

所見 出土遺物・覆土から、時期は近世と思われる。

A区8号溝 (第152図、PL35)

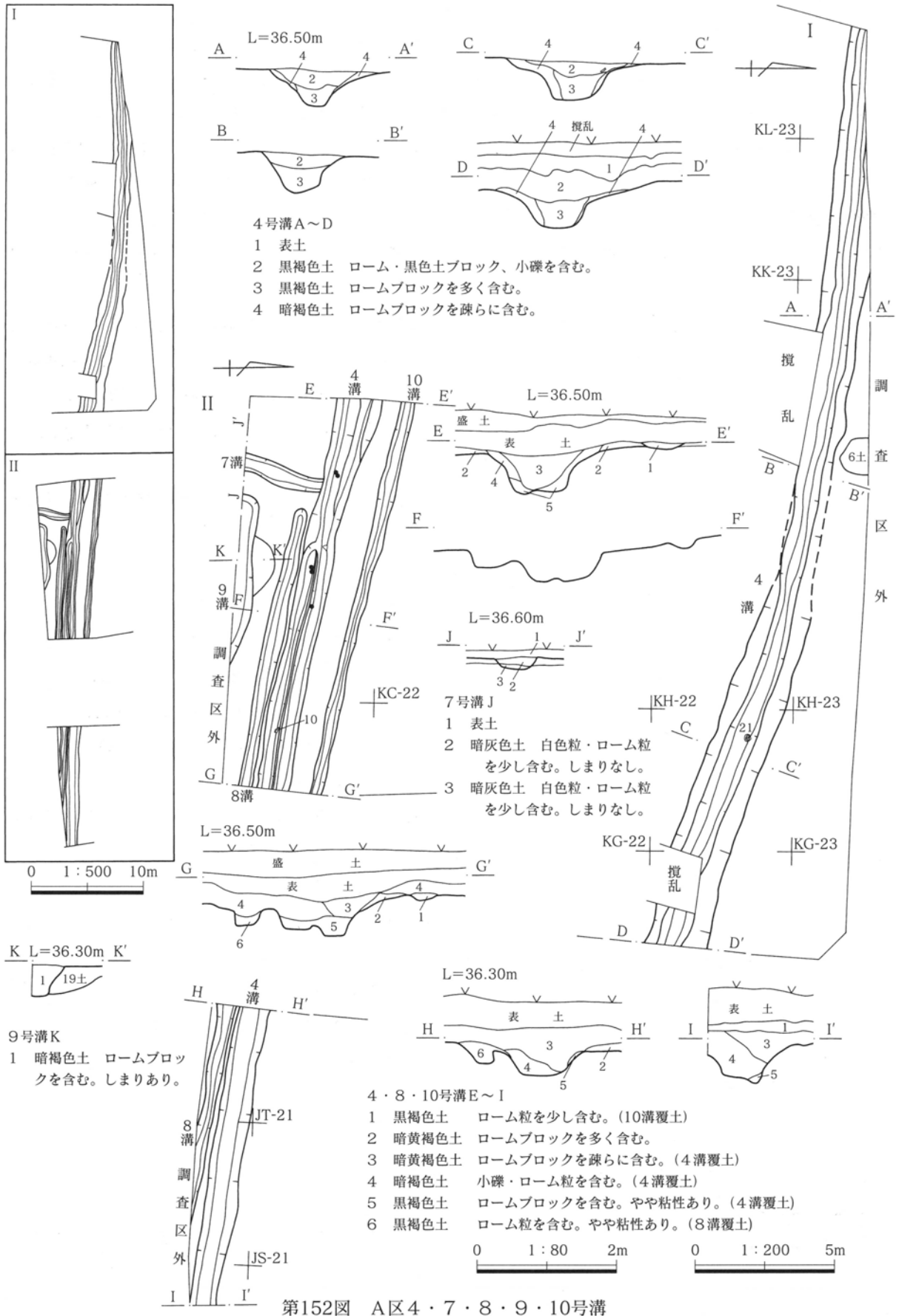
位置 KD-21~JR-20 (A-3区)

重複 29・31~37号土坑と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長16.76m、上端0.43~0.69m、下端0.21~0.39m、深さ0.14~0.29mを測る。

走向 西から東へ (N-79° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。



遺物 掲載遺物はないが、土師器片25gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代と思われる。

A区9号溝 (第152図、P L35)

位置 KD-21~KC-21 (A-3区)

重複 19・37・50号土坑と重複。本溝が新しい。

規模 検出全長 (6.0) m、上端 (0.43~0.56) m、下端 (0.21) ~ (0.39) m、深さ0.12~0.57mを測る。

走向 西から東へ (N-85° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 なし。

所見 時期は不明。

A区10号溝 (第152図、P L35)

位置 KE-22~KB-21 (A-3区)

重複 なし。

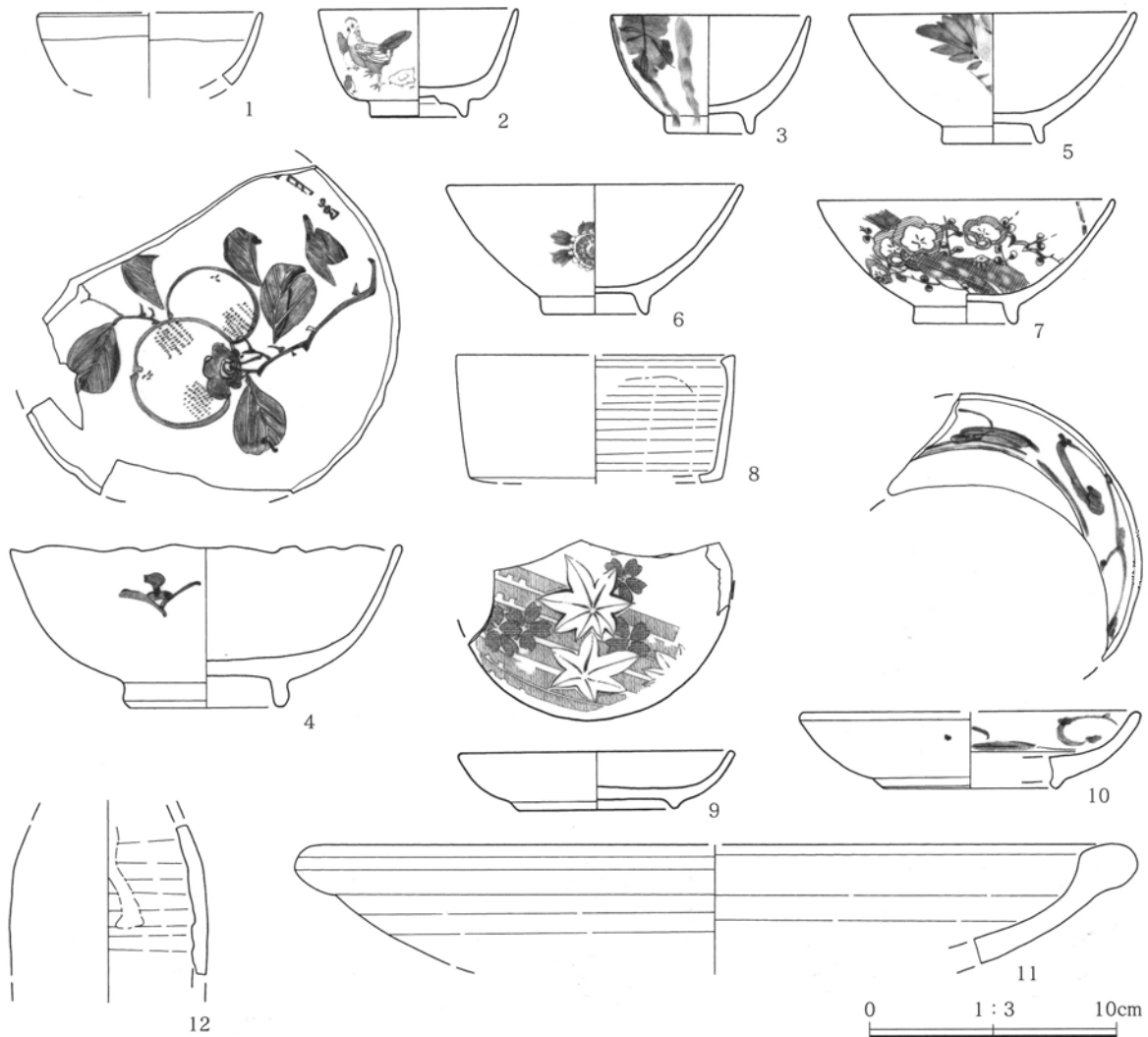
規模 検出全長13.90m、上端0.30~0.88m、下端0.12~0.61m、深さ0.05mと思われる。

走向 西から東へ (N-80° -W)

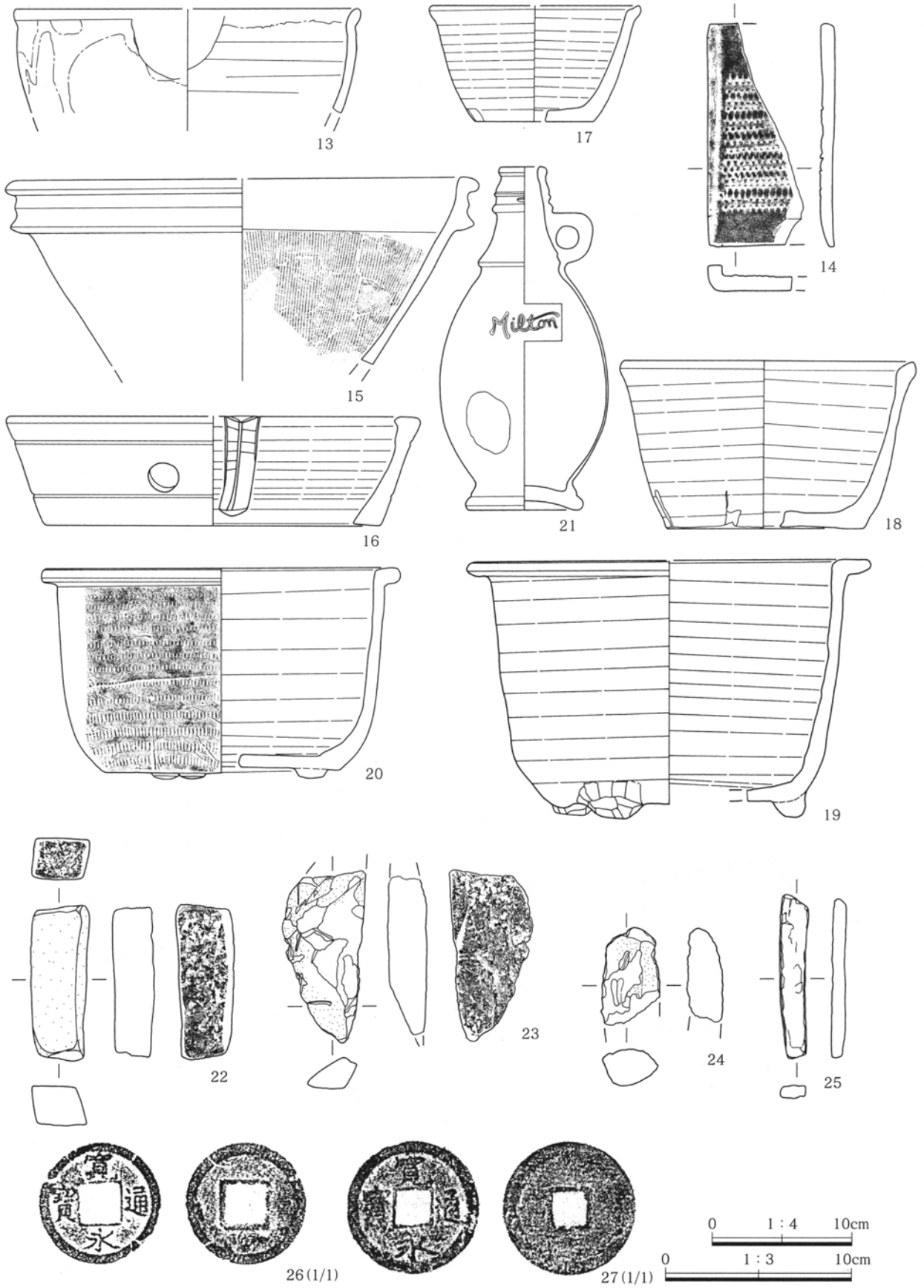
形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片50g、軟質陶器片20g、陶磁器片10g、縄文土器片57gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は近世と思われる。



第153図 A区4号溝出土遺物 (1)



第154図 A区4号溝出土遺物 (2)

A区5号溝 (第155図、P L35・54)

位置 KH-21~KF-21 (A-3区)

重複 なし。

規模 検出全長10.71m、上端0.43~0.89m、下端0.27~0.91m、深さ0.01~0.02mを測る。

走向 西から東へ (N-81° -W)

形態 ほぼ直線的に走向し、調査区の途中で消滅する。断面形は皿状を呈する。

遺物 軟質陶器焙烙が出土している。他に土師器片78g、軟質陶器片40g、石13gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は近世と思われる。

A区6号溝 (第156図)

位置 KF-23~KG-22 (A-3区)

重複 なし。

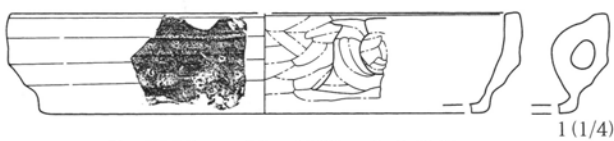
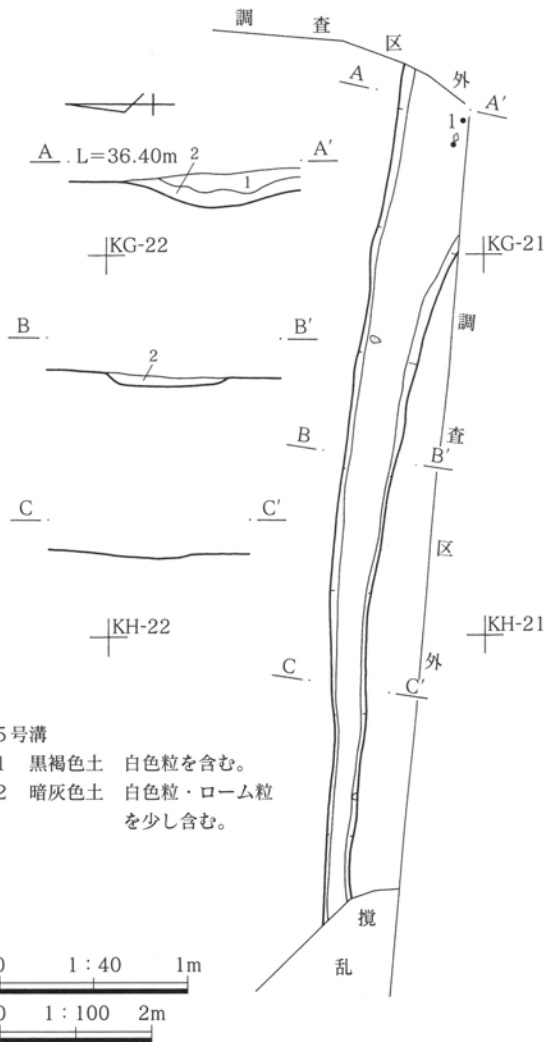
規模 検出全長3.13m、上端0.37~0.42m、下端0.16~0.18m、深さ0.03~0.09mを測る。

走向 西から東へ (N-41° -E)

形態 ほぼ直線的に走向し、調査区の途中で消滅する。断面形は皿状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、近代の植木鉢片1点(30g)が出土している。

所見 26号溝 (A-1区) と同一の溝と思われる。出土遺物・覆土から、時期は近代と思われる。



第155図 A区5号溝、出土遺物

A区26号溝 (第156図、P L35)

位置 KE-25~KE-24 (A-1区)

重複 25号溝と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長8.60m、上端0.32~0.65m、下端0.15~0.23m、深さ0.08~0.20mを測る。

走向 北東から南西へ (N-34° -E)

形態 調査区途中で出現し、ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片22g、石343gが出土している。

所見 6号溝 (A-3区) と同一の溝と思われる。出土遺物・覆土から、時期は近代と思われる。

A区11号溝 (第156図、P L35)

位置 KE-22~KD-22 (A-3区)

重複 なし。

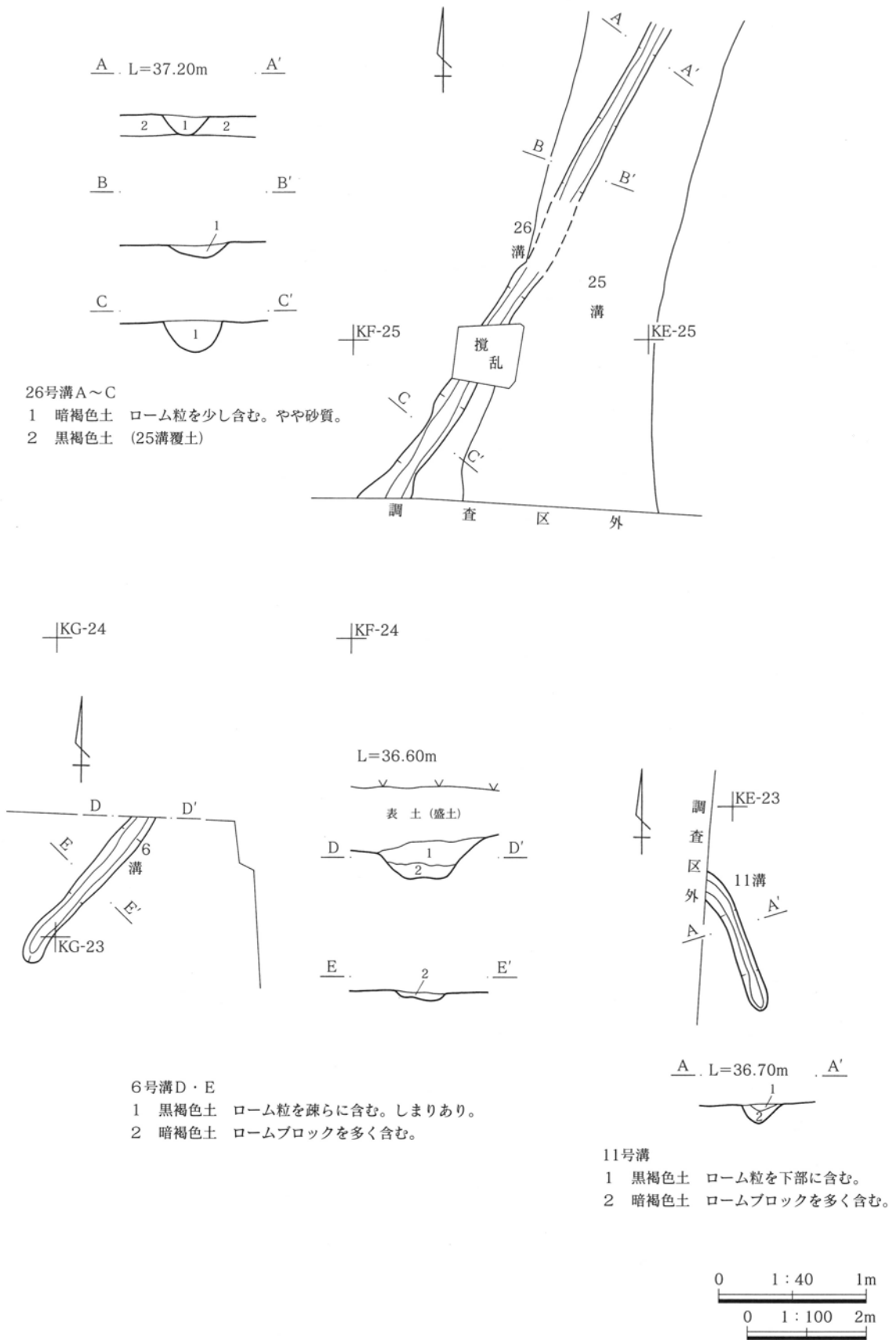
規模 検出全長1.72m、上端0.22~0.30m、下端0.09~0.12m、深さ0.04~0.17mを測る。

走向 北西から南東へ (N-21° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 なし。

所見 出土遺物・覆土から、時期は近世と思われる。



第156図 A区6・26、11号溝

A区12号溝 (第157図、P L35・54)

位置 JS-22~JT-21 (A-3区)

重複 13号溝、16・20号土坑と重複している。本溝が16・20土より古く、13号溝より新しい。

規模 検出全長13.33m、上端0.67~0.83m、下端0.27~0.57m、深さ0.07~0.10mを測る。

走向 南から北へ (N-17° -E) と西から東へ (N-85° -W)

形態 ほぼ直線的に走向し、途中で東へ、西へ走行を変える。断面形は皿状を呈する。

遺物 土製品 (土錘) が出土している。他に土師器片 (高坏脚部片) 149g、須恵器甕片40g、軟質陶器片63gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は近世と思われる。10号溝、13号溝とほぼ同時期。

A区13号溝 (第157図、P L35)

位置 JT-22 (A-3区)

重複 12号溝と重複している。本溝が古い。

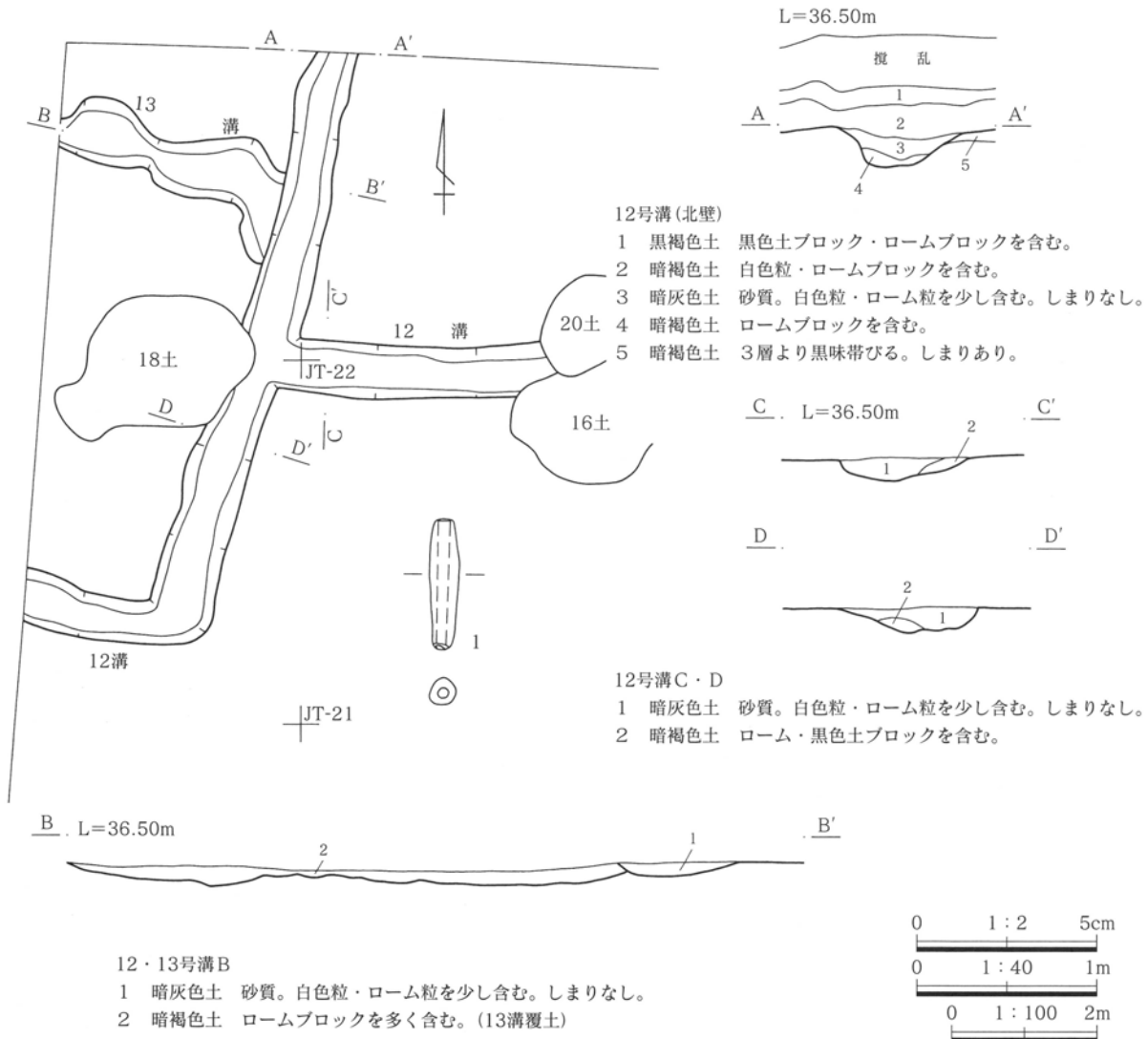
規模 検出全長3.01m、上端0.43~0.92m、下端0.09~0.60m、深さ0.04~0.07mを測る。

走向 西から東へ (N-73° -W)

形態 緩やかに蛇行しながら走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 なし。

所見 出土遺物・覆土から、時期は近世と思われる。



第157図 A区12・13号溝、12号溝出土遺物

A区14号溝 (第158図、P L35)

位置 KK-27~KH-24 (A-1区)

重複 2号住居、16号溝と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長14.10m、上端0.43~0.65m、下端0.20~0.60m、深さ0.15~0.24mを測る。

走向 西北から南東へ (N-50° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

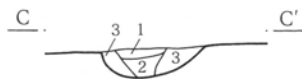
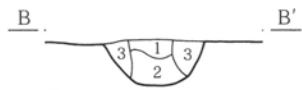
遺物 土師器甕が出土している。他に、土師器片3g、須恵器2gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代と思われる。



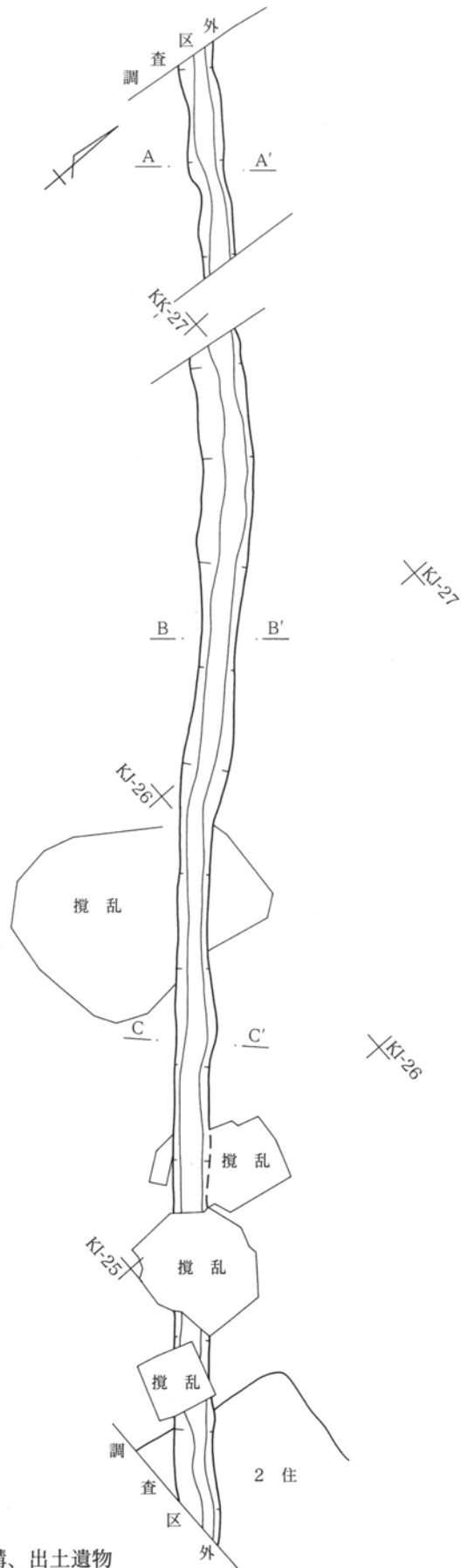
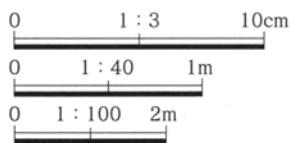
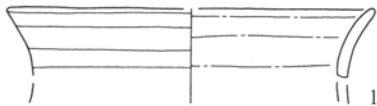
14号溝A

1 暗褐色土 鉄分を少し含む。しまりなし。

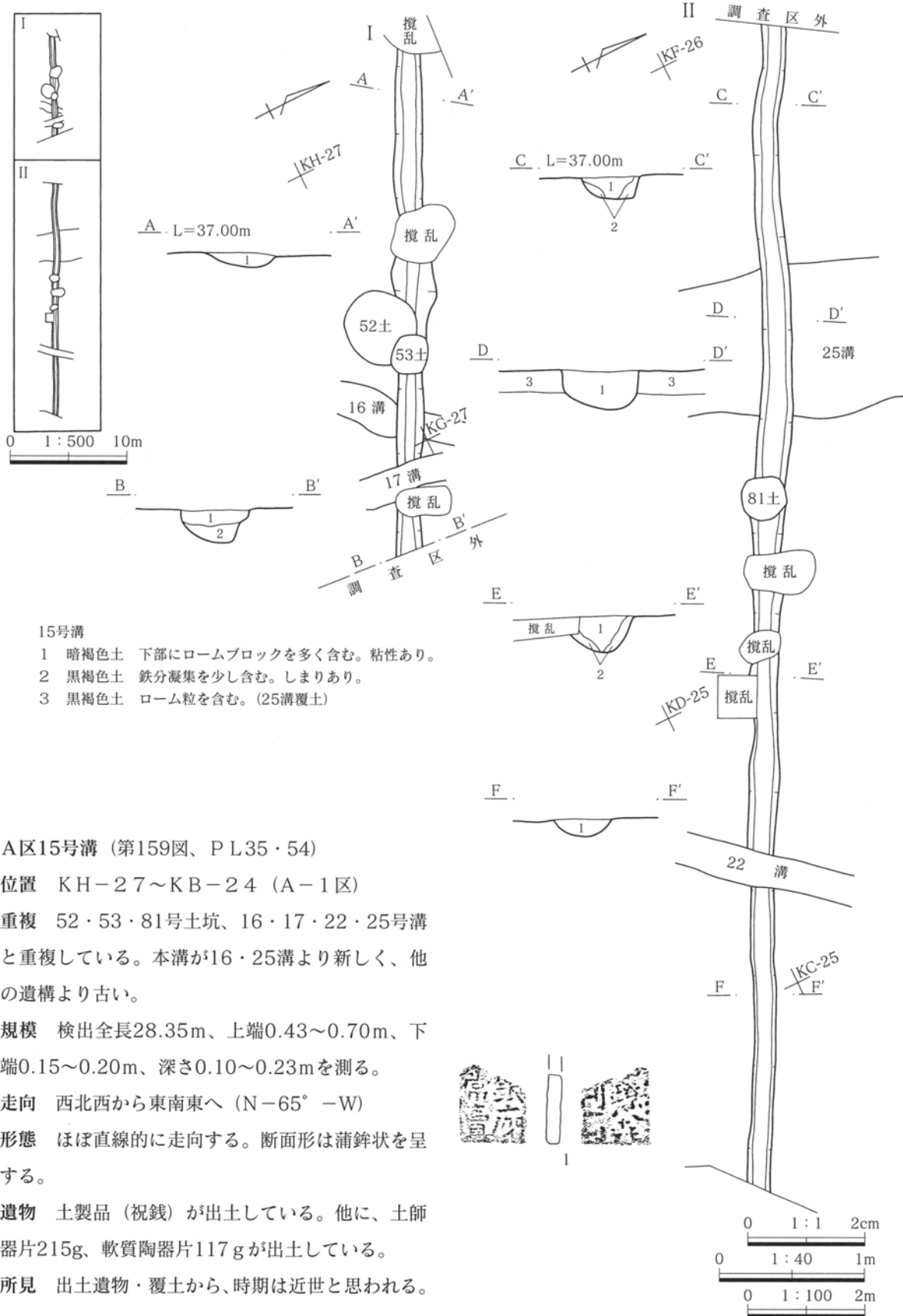


14号溝B・C

- 1 黒褐色土 白色粒を僅かに含む。
- 2 褐灰色土 全体に鉄分凝集が見られる。粘性あり。
- 3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。しまりなし。



第158図 A区14号溝、出土遺物



第159図 A区15号溝、出土遺物

A区16号溝 (第160図)

位置 KG-27~KH-25 (A-1区)

重複 14・15号溝、8号ピットと重複している。
本溝が他の遺構より古い。

規模 検出全長12.90m、上端0.73~1.00m、下端0.10~0.28m、深さ0.10~0.15mを測る。

走向 北東から南西へ (N-40° - E)

形態 緩やかに蛇行しながら走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 なし。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代と思われる。

A区17号溝 (第160図)

位置 KF-27~KG-25 (A-1区)

重複 2号住居、15号溝と重複している。本溝が他の遺構より新しい。

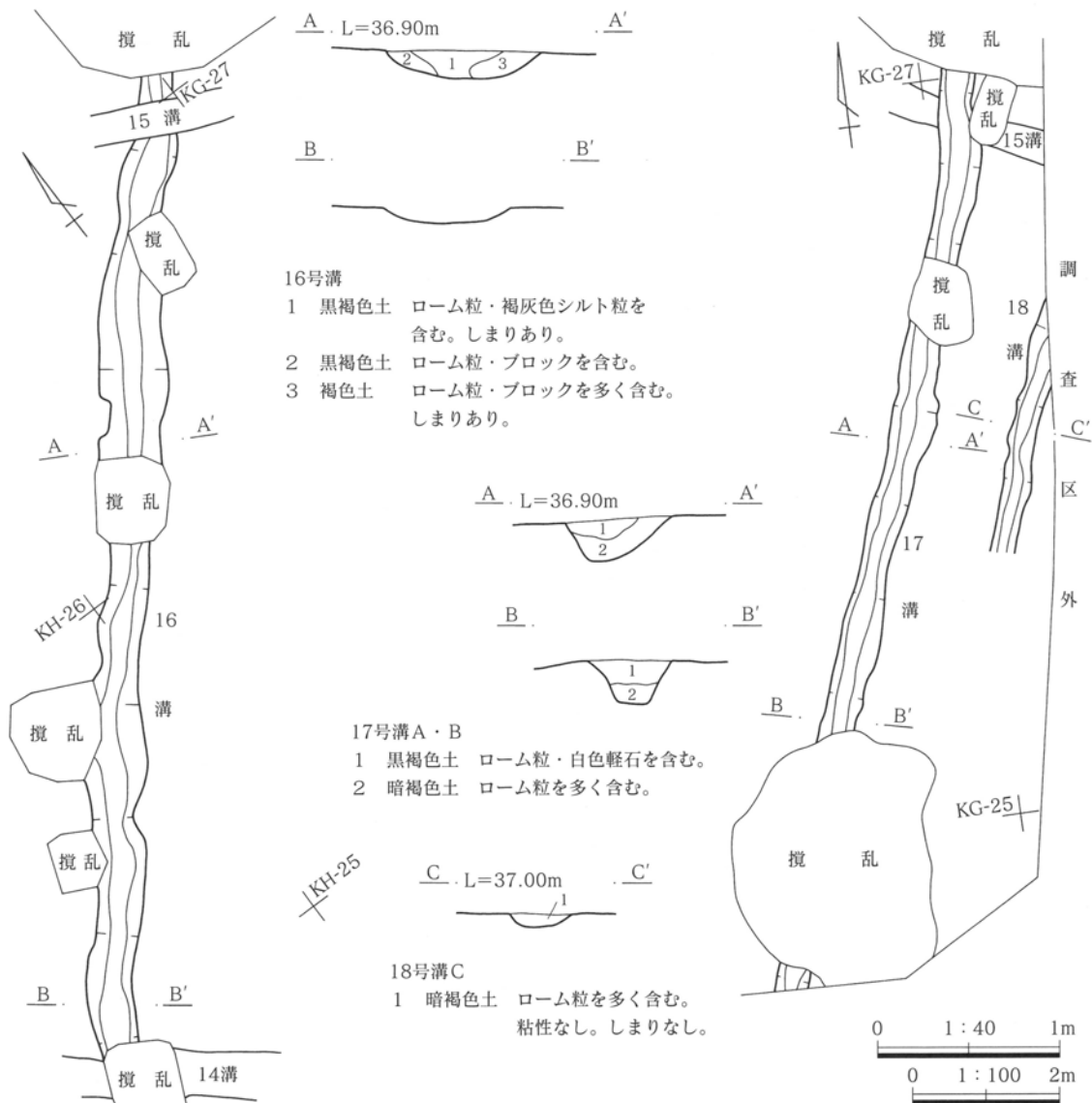
規模 検出全長9.40m、上端0.53~0.70m、下端0.15~0.38m、深さ0.23~0.24mを測る。

走向 北北東から南南西へ (N-22° - E)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形はV字状を呈する。

遺物 なし。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代と思われる。



第160図 A区16~18号溝

A区18号溝 (第160図)

位置 KF-26~KF-25 (A-1区)

重複 なし。

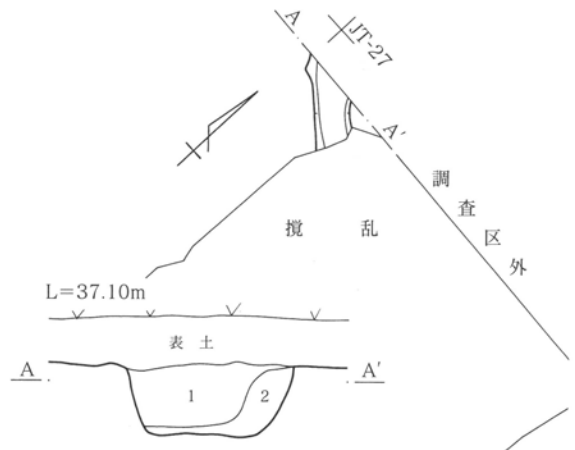
規模 検出全長3.15m、上端0.45~0.56m、下端0.05~0.18m、深さ0.02~0.07mを測る。

走向 北北東から南南西へ (N-20° - E)

形態 ほぼ直線的に走向し、調査区の途中で消滅する。断面形はV字状を呈する。

遺物 なし。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中近世と思われる。



A区19号溝 (第161図、PL35・54)

位置 JS-26~JQ-24 (A-1区)

重複 20・21号溝と重複している。本溝が20溝より古く、21溝より新しい。

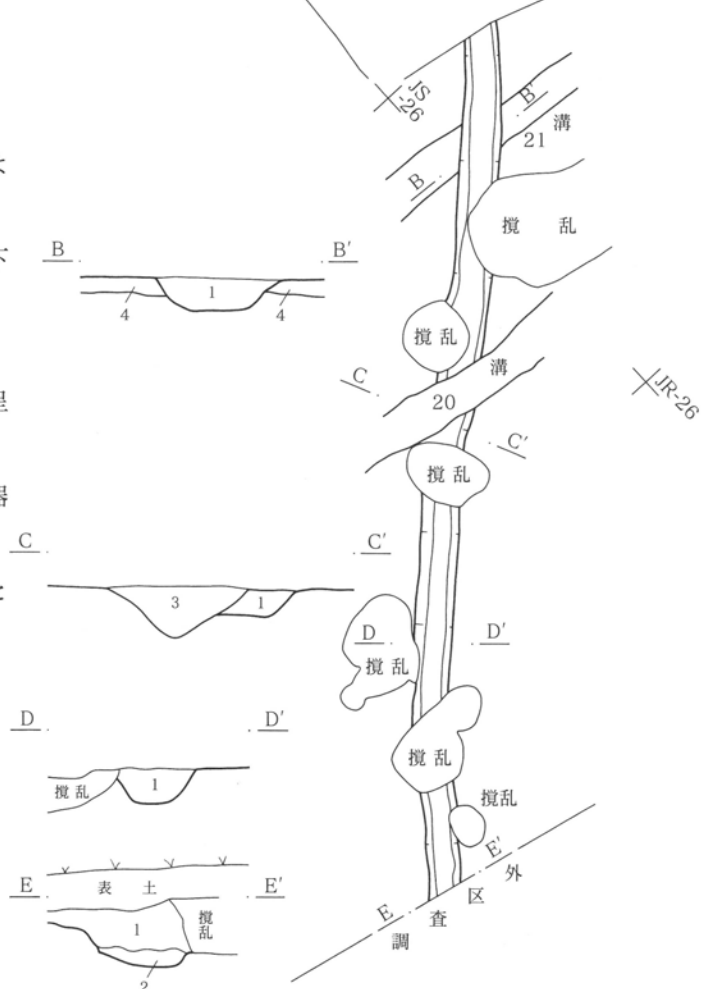
規模 検出全長12.15m、上端0.46~0.60m、下端0.12~0.20m、深さ0.19~0.28mを測る。

走向 北西から南東へ (N-45° - W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

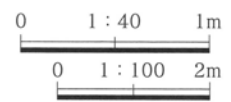
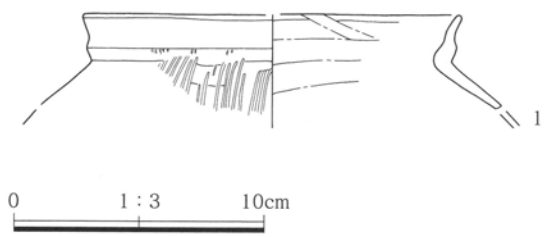
遺物 土師器台付甕が出土している。他に、土師器片395g、陶磁器片10gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代前期と思われる。



19号溝A~E

- 1 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒・ブロックを僅かに含む。しまりあり。
(20溝覆土)
- 4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまりあり。
(21溝覆土)



第161図 A区19号溝、出土遺物

A区20号溝 (第162図、PL35・54)

位置 JR-26~JR-24 (A-1区)

重複 19号溝と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長11.15m、上端0.36~0.70m、下端0.10~0.20m、深さ0.32~0.41mを測る。

走向 北から南へ (N-4°-E)

形態 やや蛇行しながらほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 土製品 (土錘) が出土している。他に、土師器片265gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代と思われる。

A区21号溝 (第162図)

位置 JR-26~JS-24 (A-1区)

重複 57号土坑、19号溝と重複している。本溝が古い。

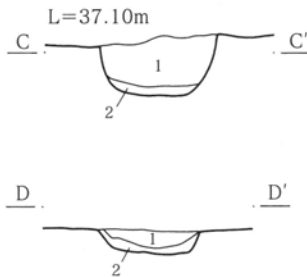
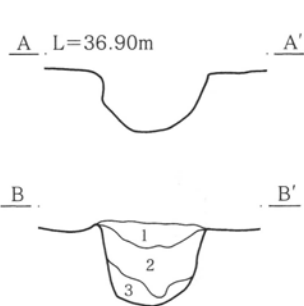
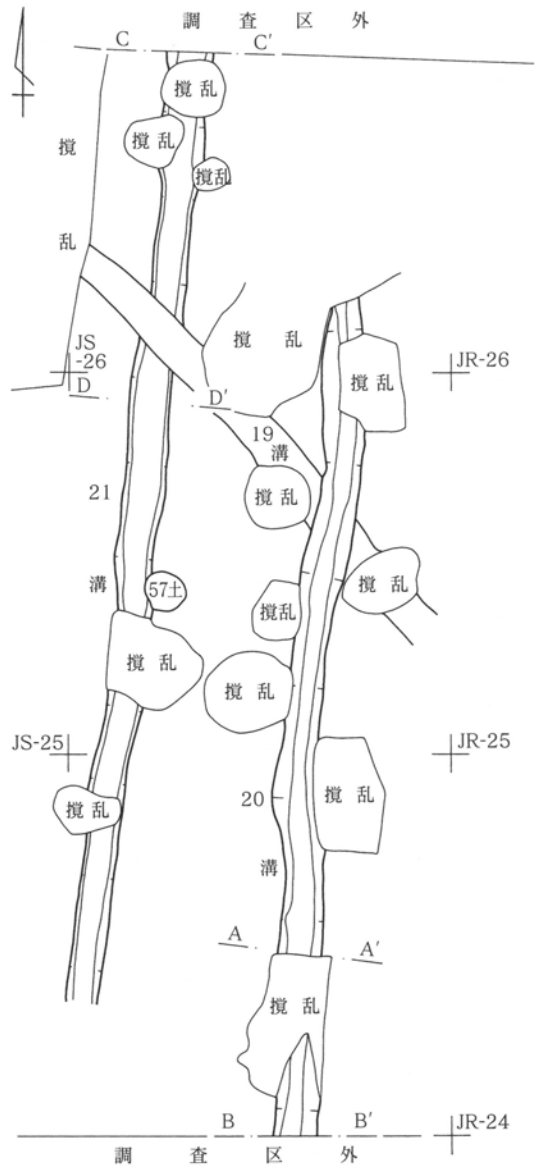
規模 検出全長11.15m、上端0.36~0.70m、下端0.10~0.20m、深さ0.32~0.41mを測る。

走向 北から南へ (N-7°-E)

形態 ほぼ直線的に走向し、調査区途中で消滅する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片275gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代前期と思われる。

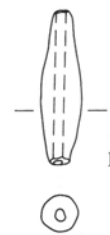


20号溝B

- 1 黒褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ブロック・白色シルトブロックを含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。

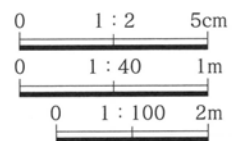
21号溝C・D

- 1 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。しまりあり。



1

○



第162図 A区20・21号溝、20号溝出土遺物

A区22号溝 (第163図)

位置 KC-25~KD-24 (A-1区)

重複 1号方形周溝墓、15号溝と重複している。
本溝が新しい。

規模 検出全長6.65m、上端0.34~0.65m、下端
0.15~0.26m、深さ0.15~0.19mを測る。

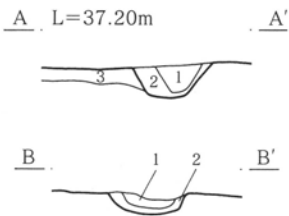
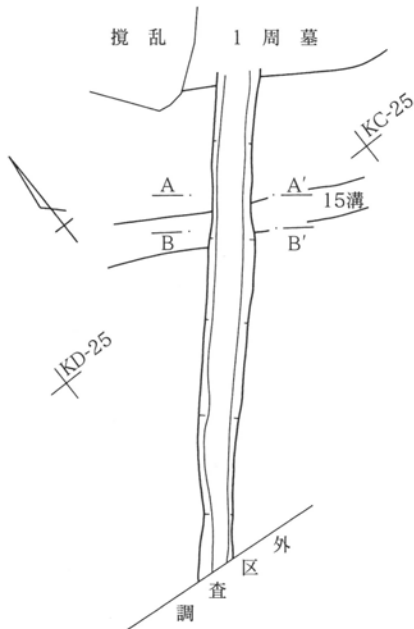
走向 北から南へ (N-40° - E)

形態 調査区途中で出現し、ほぼ直線的に走向する。

断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片35g、
石20gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中近世かと思
われる。



22号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 下部にロームブロックを多く含む。粘性あり。
(15溝覆土)

A区23号溝 (第163図、PL35)

位置 KD-27~KF-26 (A-1区)

重複 25号溝と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長4.55m、上端0.32~0.45m、下端
0.10~0.16m、深さ0.10~0.16mを測る。

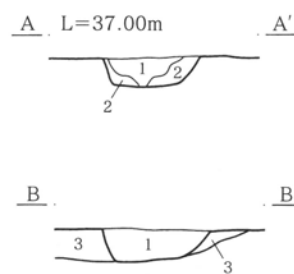
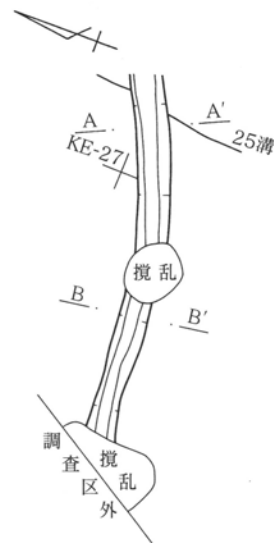
走向 東北東から西南西へ (N-78° - E)

形態 調査区途中で出現し、ほぼ直線的に走向する。

断面形は蒲鉾状を呈する。

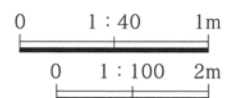
遺物 なし。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中近世かと思
われる。



23号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを少し含む。
- 3 黒褐色土 (25溝覆土)



第163図 A区22号溝、23号溝

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

A区25号溝 (第164図、P L35・54)

位置 KD-27~KE-24 (A-1区)

重複 15・23・26号溝と重複している。本溝が古い。

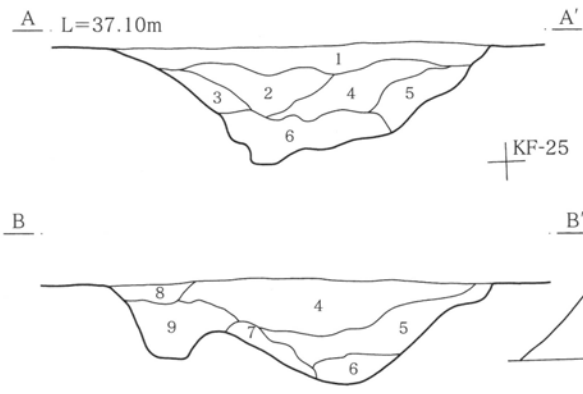
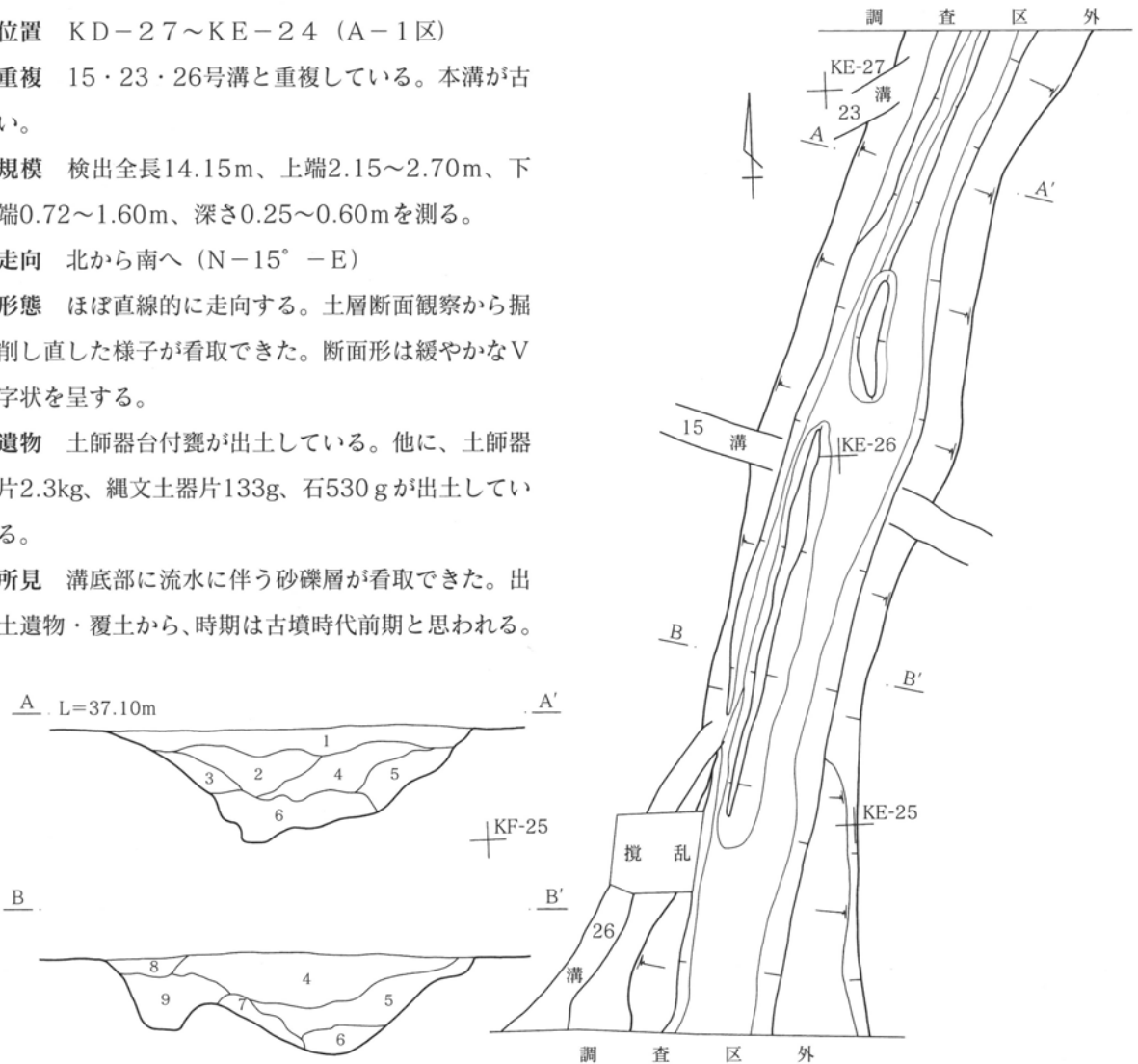
規模 検出全長14.15m、上端2.15~2.70m、下端0.72~1.60m、深さ0.25~0.60mを測る。

走向 北から南へ (N-15° - E)

形態 ほぼ直線的に走向する。土層断面観察から掘削し直した様子が看取できた。断面形は緩やかなV字状を呈する。

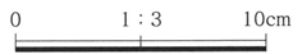
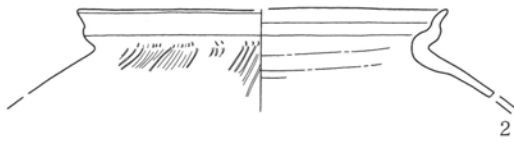
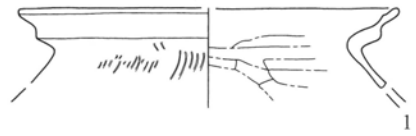
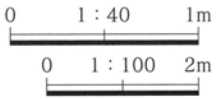
遺物 土師器台付甕が出土している。他に、土師器片2.3kg、縄文土器片133g、石530gが出土している。

所見 溝底部に流水に伴う砂礫層が看取できた。出土遺物・覆土から、時期は古墳時代前期と思われる。



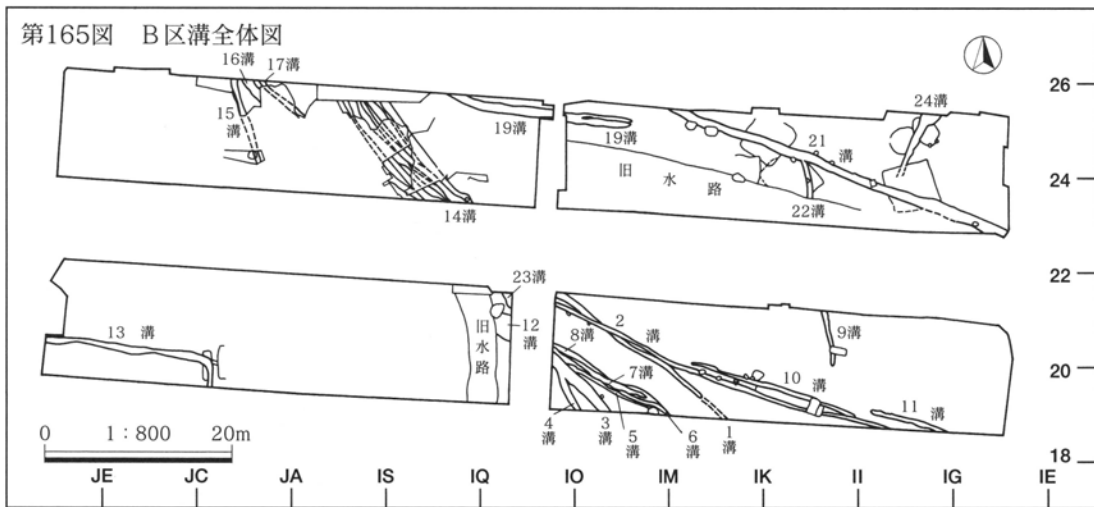
25号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒を僅かに含む。しまりあり。
- 2 黒色土 ローム粒を僅かに含む。しまりなし。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒を含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒を少し含む。下層に砂・小礫を含む。
- 7 黒褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 8 暗褐色土 ローム粒を少し含む。やや砂質。(26溝覆土)
- 9 黒褐色土 ローム粒を含む。下層に砂・小礫を含む。



第164図 A区25号溝、出土遺物

(2) B区溝



B区では、旧水路が北から南へ（B-1区～B-3区へ）、西から東へ（B-1区～B-2区へ）の走向で、2本検出された。北から南へ走向する水路の底部からは古代の溝と想定される14号溝が確認された。また、B-1区で検出された14A～E・15・16・17号の8条の溝は、それぞれB-4区で検出された1～8号の8条の溝に合流する同時期の遺構と想定されたが、道路・水路で分断されており、後世の攪乱もひどく、同一の遺構として認定するに至らなかった。そこで、個々の遺構番号を付して調査し、別の遺構として報告する。

B区1号溝（第165図）

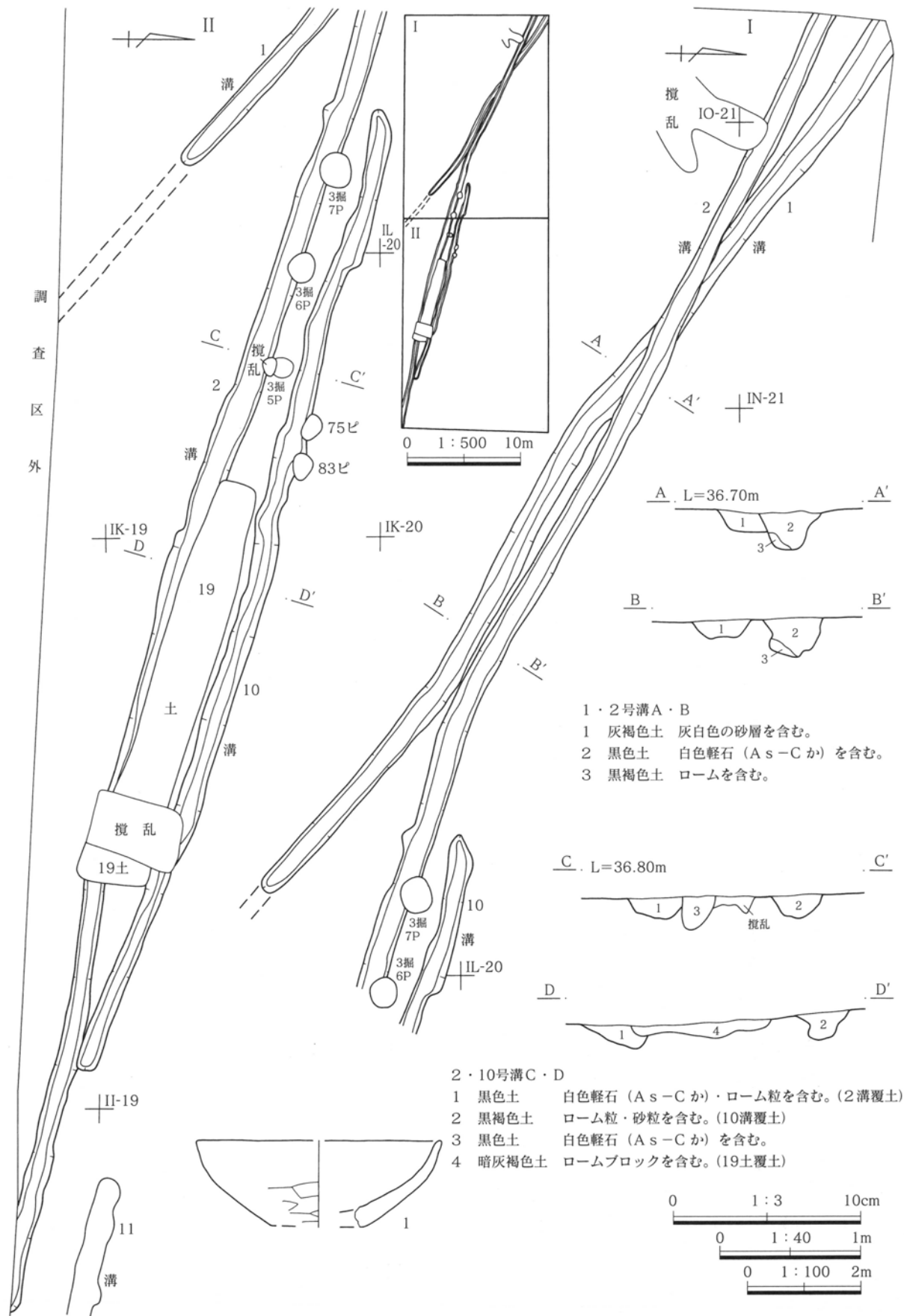
位置 IO-21～IL-19（B-4区）
 重複 2号溝と重複している。本溝が新しい。
 規模 検出全長18.5m、上端0.30～0.60m、下端0.20～0.30m、深さ0.04～0.28mを測る。
 走向 北西から南東へ（N-50°-W）
 形態 ほぼ直線的に走向し、調査区の途中で消滅する。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片370gが出土している。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。

B区2号溝（第165図、PL36・54）

位置 IO-21～IH-18（B-4区）
 重複 3号掘立柱建物、19号土坑、1号溝と重複している。本溝が19土、1溝より古い。
 規模 検出全長37.70m、上端0.30～0.40m、下端0.20～0.30m、深さ0.15～0.29mを測る。
 走向 北西から南東へ（N-65°-W）
 形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 土師器片が出土している。その他に、土師器片130gが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。

B区10号溝（第165図）

位置 IL-20～II-18（B-4区）
 重複 3号掘立柱建物、75・83号ピットと重複。
 規模 検出全長17.70m、上端0.40～0.50m、下端0.20～0.30m、深さ0.33～0.77mを測る。
 走向 西北西から東南東へ（N-75°-W）
 形態 ほぼ直線的に走向し、調査区の途中で消滅する。逆台形を呈する。
 遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片150gが出土している。
 所見 出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。



第166図 B区1・2・10号溝、2号溝出土遺物

B区3号溝 (第167図、P L36・54)

位置 IO-20~IN-19 (B-3・4区)
 重複 4・5・6・7・8号溝、102号ピットと重複している。本溝が4~8溝より新しい。
 規模 検出全長8.00m、上端1.00~1.10m、下端0.30~0.60m、深さ0.49~0.55mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-48° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。
 遺物 土師器埴・高坏・台付甕が出土している。4・5・6・7・8号溝と重複しており、混入遺物の可能性もある。その他に、土師器片2.43kgが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。

B区4号溝 (第167図、P L36・54)

位置 IO-19~IN-19 (B-4区)
 重複 3号溝と重複している。本溝が古い。
 規模 検出全長4.70m、上端0.50~0.70m、下端0.20~0.30m、深さ0.25~0.28mを測る。
 走向 北北西から南南東へ (N-22° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。
 遺物 土師器台付鉢・台付甕が出土している。その他に、土師器片800gが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。

B区5号溝 (第167図、P L36・54)

位置 IO-20~IM-19 (B-4区)
 重複 3・6・8号溝と重複している。本溝が3溝より古く、6・8溝より新しい。
 規模 検出全長10.80m、上端0.30~0.60m、下端0.10~0.20m、深さ0.04~0.15mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-58° -W)
 形態 6・7・8号溝と並行して、ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 土師器甕が出土している。その他に、土師器片600gが出土。

所見 B-3区12号溝と同一の遺構と想定される。出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。

B区6号溝 (第167図、P L36)

位置 IO-20~IM-19 (B-4区)
 重複 3・5号溝と重複している。本溝が古い。
 規模 検出全長12.90m、上端0.40~0.60m、下端0.10~0.15m、深さ0.04~0.10mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-62° -W)
 形態 5・7・8号溝と並行して、ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片200gが出土している。
 所見 B-3区12号溝と同一の遺構と想定される。出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。

B区7号溝 (第167図、P L36・54)

位置 IO-20~IM-19 (B-4区)
 重複 3・6・8号溝と重複している。本溝が3・6溝より古く、8溝より新しい。
 規模 検出全長10.00m、上端0.30~0.40m、下端0.20~0.25m、深さ0.04~0.09mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-68° -W)
 形態 5・6・8号溝と並行して、ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 土師器器台が出土している。その他に、土師器片400gが出土。

所見 B-3区12号溝と同一の遺構と想定される。出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。

B区8号溝 (第167図、P L36・54)

位置 IO-20~IL-18 (B-4区)
 重複 6・7号溝と重複している。本溝が古い。
 規模 検出全長14.50m、上端0.30~1.00m、下端0.30~0.55m、深さ0.09~0.23mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-75° -W)

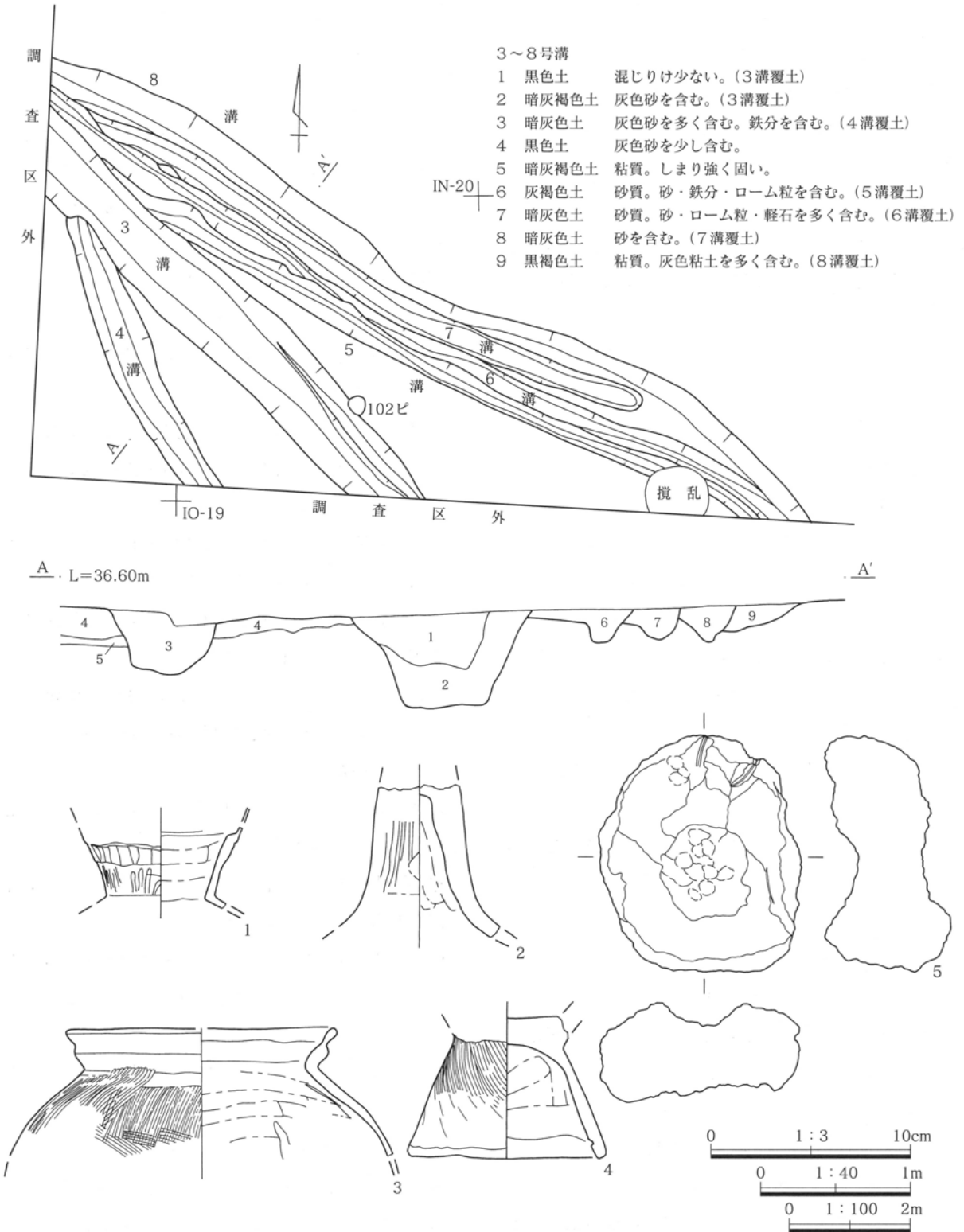
第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

形態 5・6・7号溝と並行して、ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

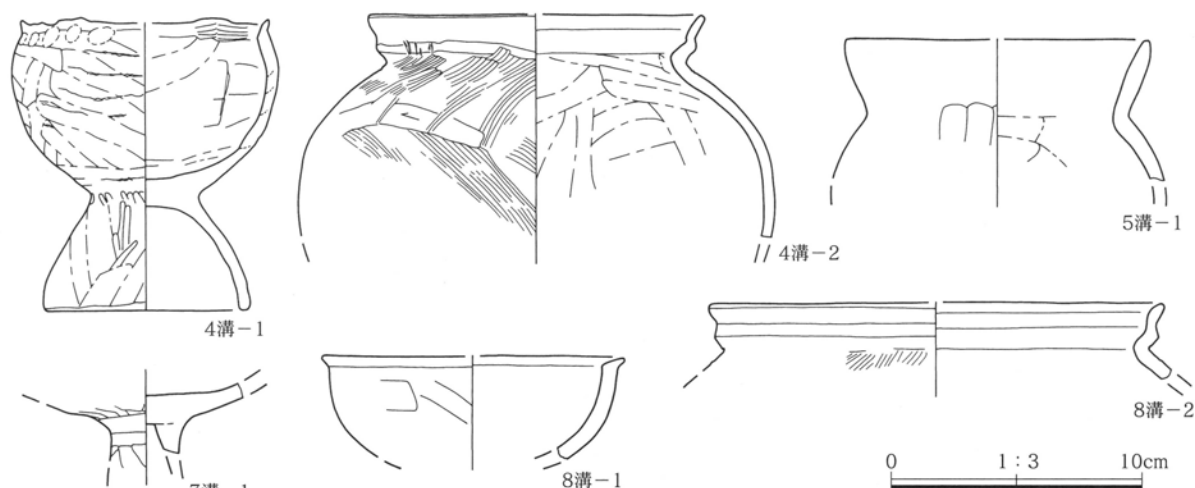
遺物 土師器坏・甕が出土している。その他に、土

師器片700gが出土。

所見 B-3区12号溝と同一の遺構と想定される。出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。



第167図 B区3～8号溝、3号溝出土遺物



第168図 B区4・5・7・8号溝出土遺物

B区9号溝 (第169図)

位置 II-21~II-20 (B-4区)

重複 1号掘立柱建物、15号土坑と重複している。

規模 検出全長5.80m、上端0.30~0.50m、下端0.25~0.30m、深さ0.03~0.07mを測る。

走向 北から南へ (N-15°-W) → (N-0°)

形態 ほぼ直線的に走向し、調査区の途中で消滅する。逆台形を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片40gが出土している。

所見 B-2区22号溝と同一の遺構と想定される。出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。

B区11号溝 (第169図、PL36・54)

位置 IH-19~IG-18 (B-4区)

重複 なし。

規模 検出全長7.50m、上端0.40~0.65m、下端0.20~0.30m、深さ0.17~0.20mを測る。

走向 西北西から東南東へ (N-78°-W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 土師器台付甕が出土している。その他に、土師器片150gが出土。

所見 出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。

B区22号溝 (第169図)

位置 JJ-24~IJ-23 (B-2区)

重複 14号住居と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長3.90m、上端0.40m、下端0.30m、深さ0.12mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-12°-W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器460gが出土している。

所見 B-4区9号溝と同一の遺構と想定される。出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。

B区12号溝 (第169図)

位置 IP-21~IP-20 (B-3区)

重複 2号井戸、旧水路と重複している。旧水路より古く、2号井戸より新しい。

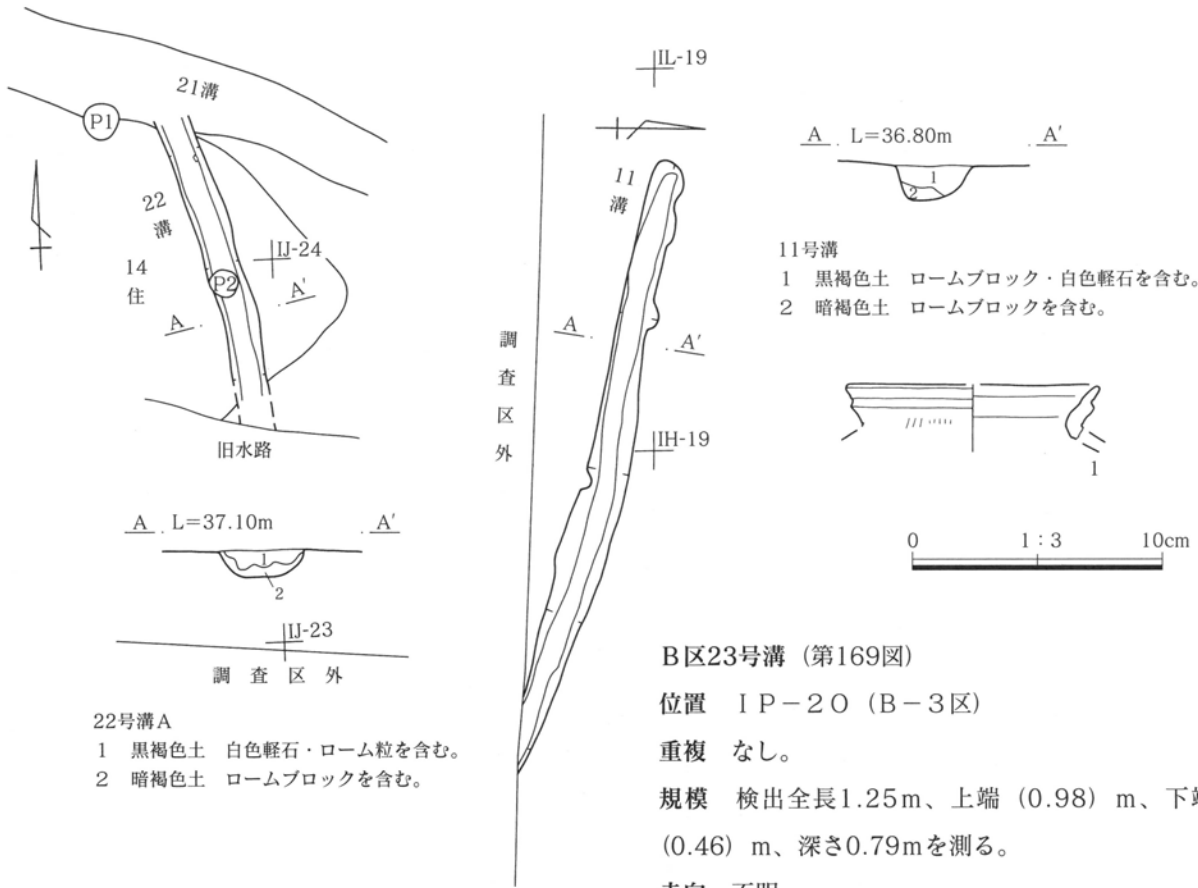
規模 検出全長1.80m、上端2.40~3.40m、下端1.90~2.40m、深さ0.06~0.11mを測る。

走向 西北西から東南東へ (N-75°-W)

形態 ほぼ直線的に走向し、断面形は皿状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片400gが出土している。

所見 B-4区4~8号溝と同一の遺構と想定される。出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。



B区23号溝 (第169図)

位置 IP-20 (B-3区)

重複 なし。

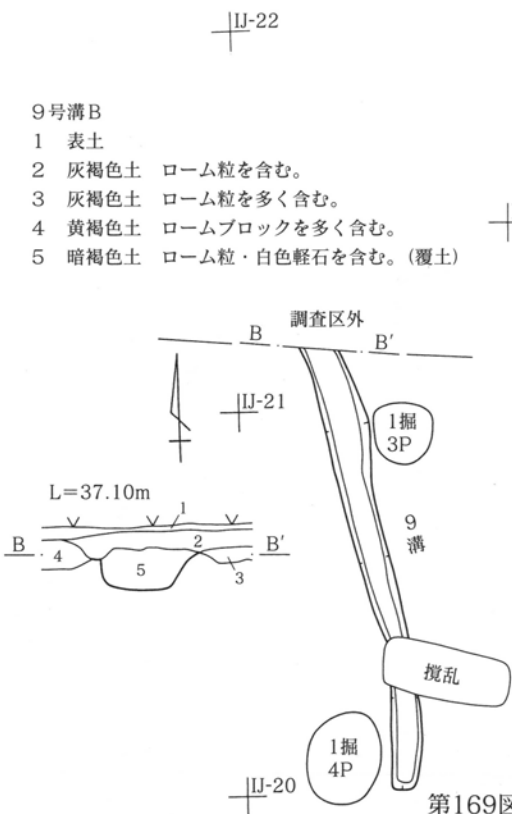
規模 検出全長1.25m、上端(0.98)m、下端(0.46)m、深さ0.79mを測る。

走向 不明

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形状を呈する。

遺物 なし。

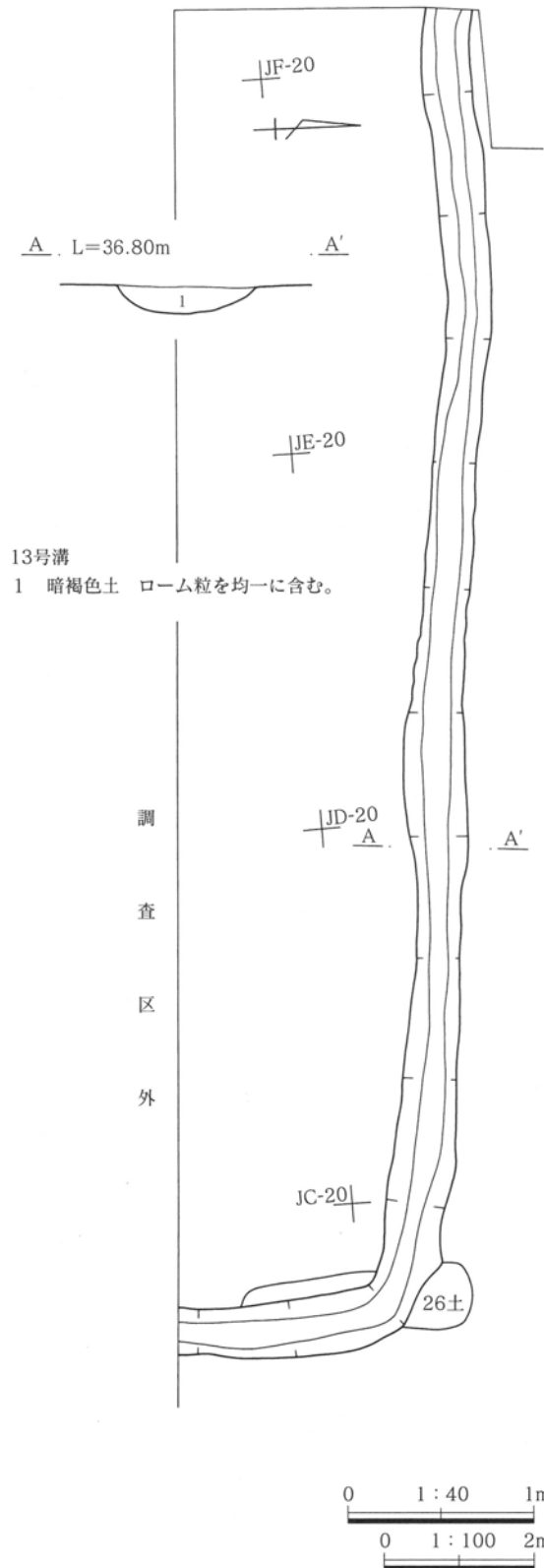
所見 B-4区3号溝と同一の遺構と想定される。出土遺物・覆土から時期は古墳時代と思われる。



第169図 B区9・22、11、12・23号溝、11号溝出土遺物

B区13号溝 (第170図)

位置 IF-20~IB-19 (B-3区)
 重複 26号土坑と重複している。本溝が新しい。
 規模 検出全長20.05m、上端0.60~0.85m、下端0.10~0.40m、深さ0.09~0.17mを測る。
 走向 西北西から東南東へ (N-80° -W) → 北から南へ (N-0°)
 形態 ほぼ直線的に走向し、途中で直角に曲がり、調査区外へ。断面形は皿状を呈する。
 遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片260gが出土している。
 所見 時期は不明 (中近世か)。



B区14号溝 (第171図、PL36・54・55)

14A号溝

位置 IS-25~IQ-23 (B-1区)
 重複 173号ピットと重複している。
 規模 検出全長6.80m、上端0.90~1.00m、下端0.25~0.30m、深さ0.04~0.30mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-34° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向するが、半分以上が攪乱で壊されている。断面形は蒲鉾状を呈する。

14B号溝

位置 IS-25~IQ-23 (B-1区)
 重複 なし。
 規模 検出全長3.40m、上端0.80~1.00m、下端0.30~0.60m、深さ0.08~0.15mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-40° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向するが、半分以上が攪乱で壊されている。断面形は蒲鉾状を呈する。

14C号溝

位置 IS-25~IQ-23 (B-1区)
 重複 なし。
 規模 検出全長8.20m、上端0.50~0.70m、下端0.20~0.30m、深さ0.04~0.15mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-38° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向するが、半分以上が攪乱で壊されている。溝底部から三日月状の工具痕が検出

された。断面形は蒲鉾状を呈する。

第170図 B区13号溝

14D号溝

位置 IS-25~IR-23 (B-1区)

重複 なし。

規模 検出全長7.45m、上端0.40~0.70m、下端0.20~0.60m、深さ0.01~0.09mを測る。

走向 北西から南東へ (N-44° -W)

形態 ほぼ直線的に走向するが、途中で二つの溝に分流する。溝底部から多数の三日月状の工具痕が検出された。断面形は皿状を呈する。

14E号溝

位置 IS-25~IR-23 (B-1区)

重複 なし。

規模 検出全長6.85m、上端0.30~0.60m、下端0.30~0.40m、深さ0.06~0.21mを測る。

走向 北西から南東へ (N-24° -W)

形態 ほぼ直線的に走向するが、半分以上が攪乱で壊されている。溝底部から三日月状の工具痕が検出された。断面形は蒲鉾状を呈する。

14号溝の出土遺物、所見

遺物 焼締陶器甕、砥石等の石製品が出土している。その他に、土師器片4.7kg、須恵器30g、軟質陶器65g、陶磁器15g、瓦485gが出土。

所見 B-4区1~8号溝と同一の遺構と想定されるが、上層は旧水路・後世の攪乱で壊されているため、混入遺物も多く、層位も安定していなかった。そのため、開削時期は古墳時代と思われるが、詳細は不明である。

B区15号溝 (第173・174図、PL36・54)

位置 JB-26~JA-24 (B-1区)

重複 32号土坑と重複している。本溝が古い。

規模 検出全長5.40m、上端0.55~0.60m、下端0.20~0.25m、深さ0.10mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-8° -W)

形態 ほぼ直線的に走向するが、半分以上が攪乱で壊されている。断面形は箱状を呈する。

遺物 土師器高坏・甕が出土している。その他に、

土師器片270gが出土。

所見 覆土・出土遺物から古墳時代と思われる。

B区16号溝 (第173図)

位置 JB-26~JA-25 (B-1区)

重複 なし。

規模 検出全長2.00m、上端0.90~1.00m、下端0.30m、深さ0.06~0.24mを測る。

走向 北西から南東へ (N-38° -W)

形態 ほぼ直線的に走向するが、ほとんどは攪乱で壊されている。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 なし。

所見 時期は不明だが、15・17号溝とほぼ同時期。

B区17号溝 (第173図)

位置 JA-26~IT-25 (B-1区)

重複 なし。

規模 検出全長1.80m、上端0.40m、下端0.20m、深さ0.23mを測る。

走向 北西から南東へ (N-47° -W)

形態 ほぼ直線的に走向すると思われるが、大部分は攪乱で壊されている。断面形は箱状を呈する。

遺物 なし。

所見 時期は不明だが、15・16号溝とほぼ同時期。

B区19号溝 (第175図、PL36・54)

位置 IQ-26~IM-25 (B-1・2区)

重複 なし。

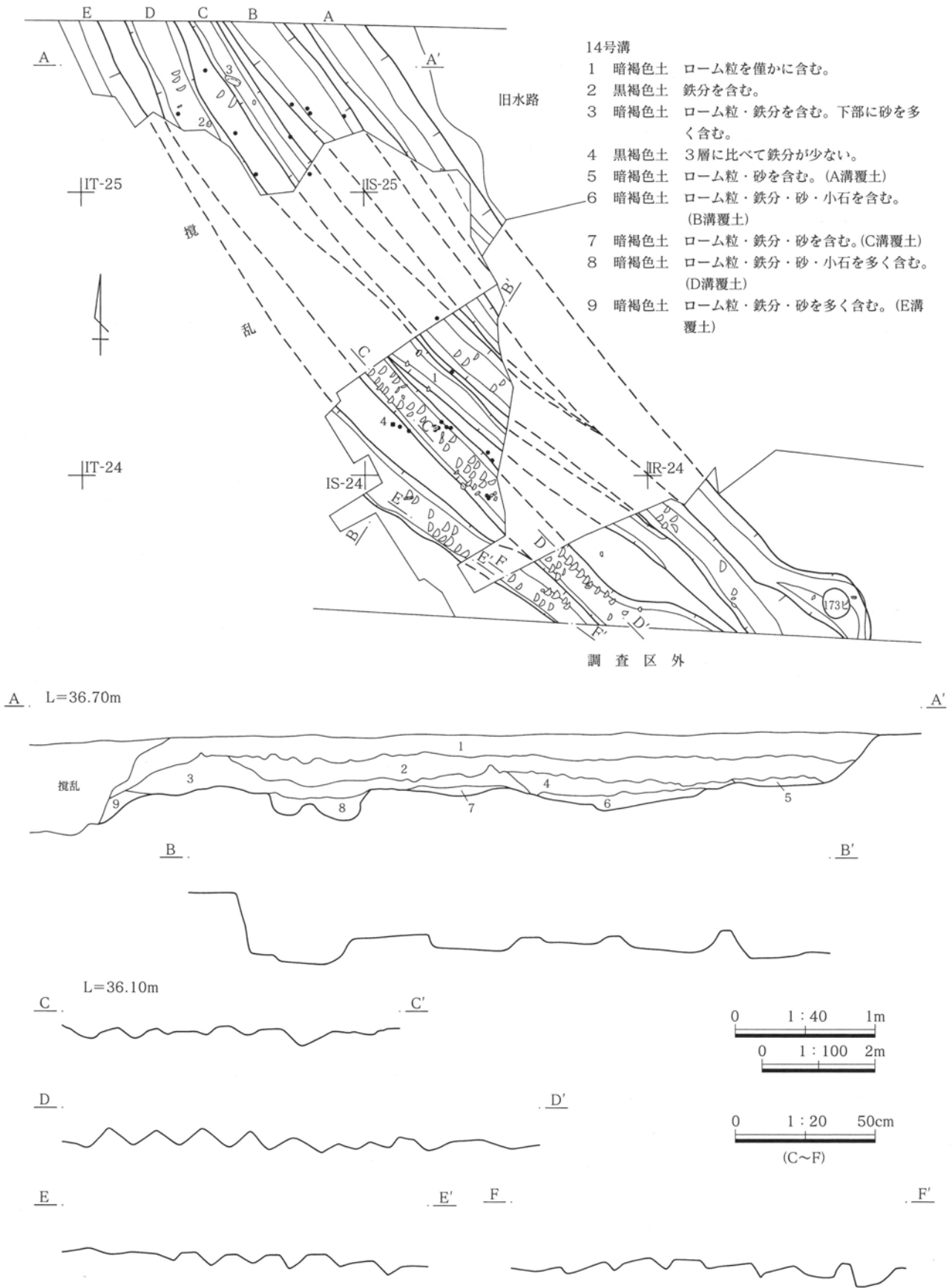
規模 検出全長14.70m、上端0.40~1.00m、下端0.30~0.40m、深さ0.10~0.20mを測る。

走向 北西から南東へ (N-75° -W)

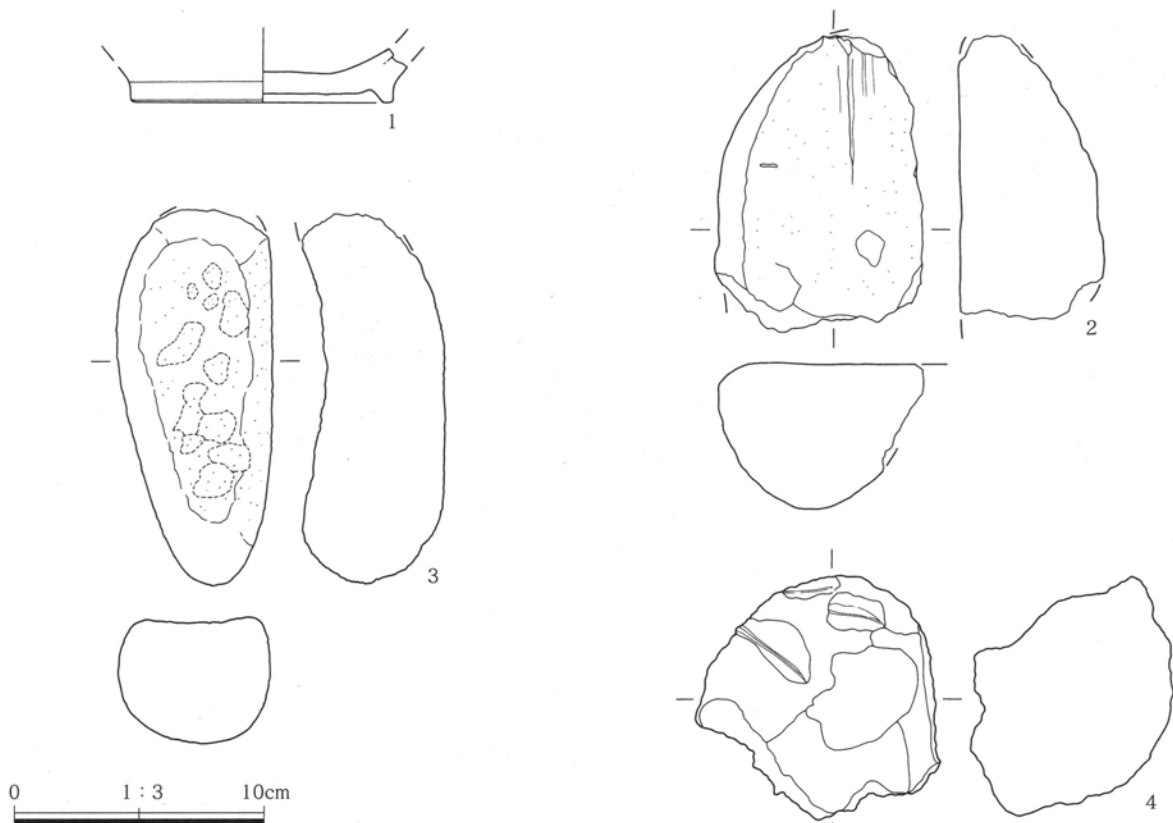
形態 ほぼ直線的に走向し、途中で二つの溝に分かれ、やがて消滅する。断面形は蒲鉾状・V字状を呈する。

遺物 陶磁器碗・皿が出土している。その他に土師器120g、軟質陶器80gなどが出土。

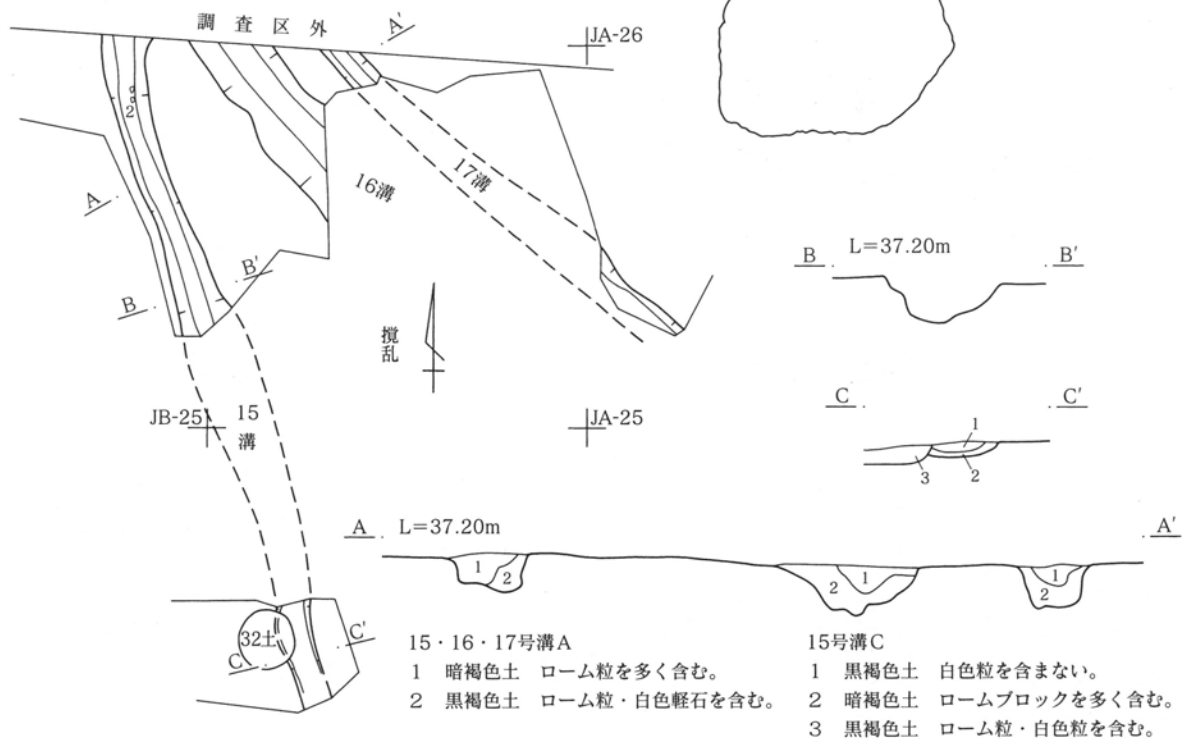
所見 覆土・出土遺物から時期は近世と思われる。



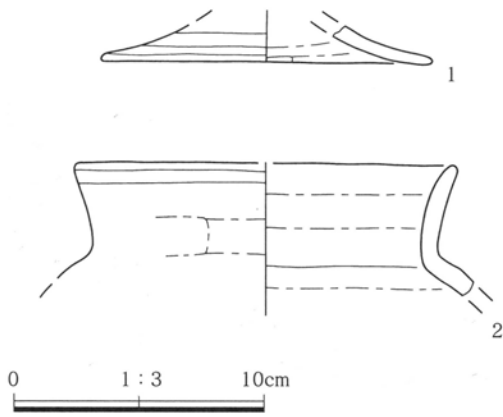
第171図 B区14A~E号溝



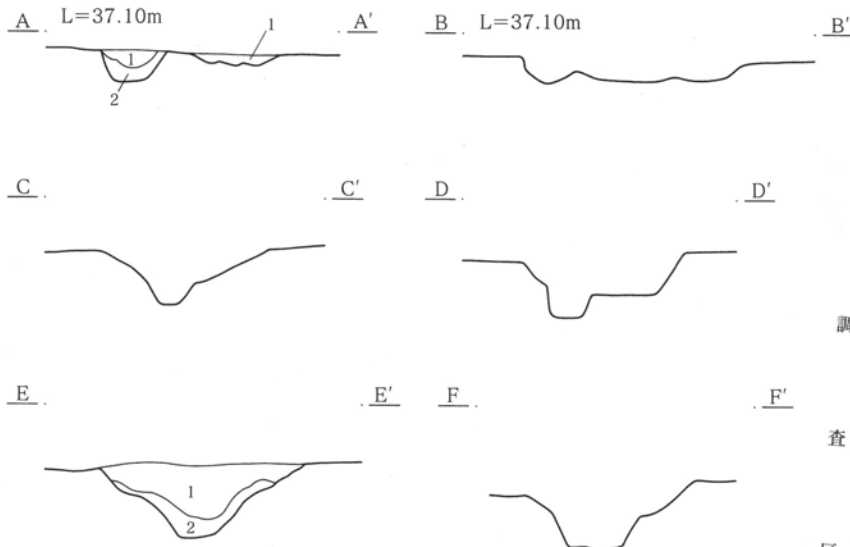
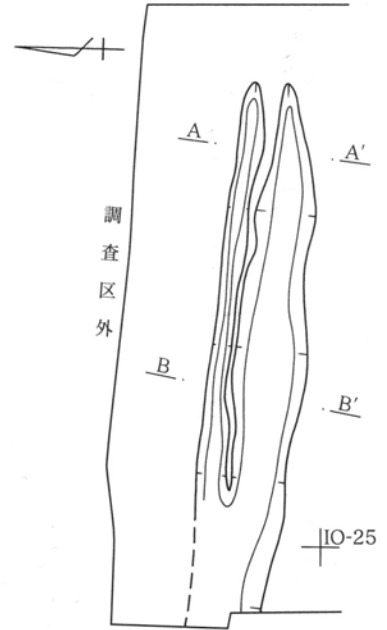
第172図 B区14号溝出土遺物



第173図 B区15～17号溝

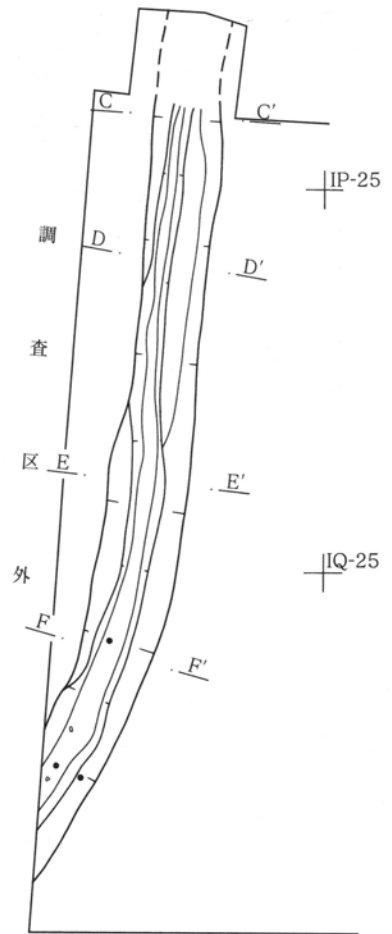
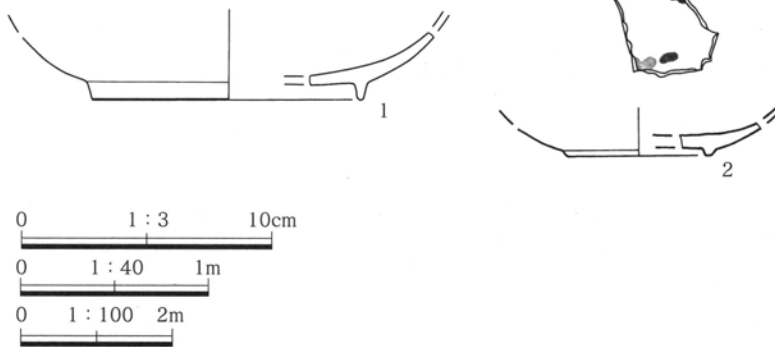


第174図 B区15号溝出土遺物

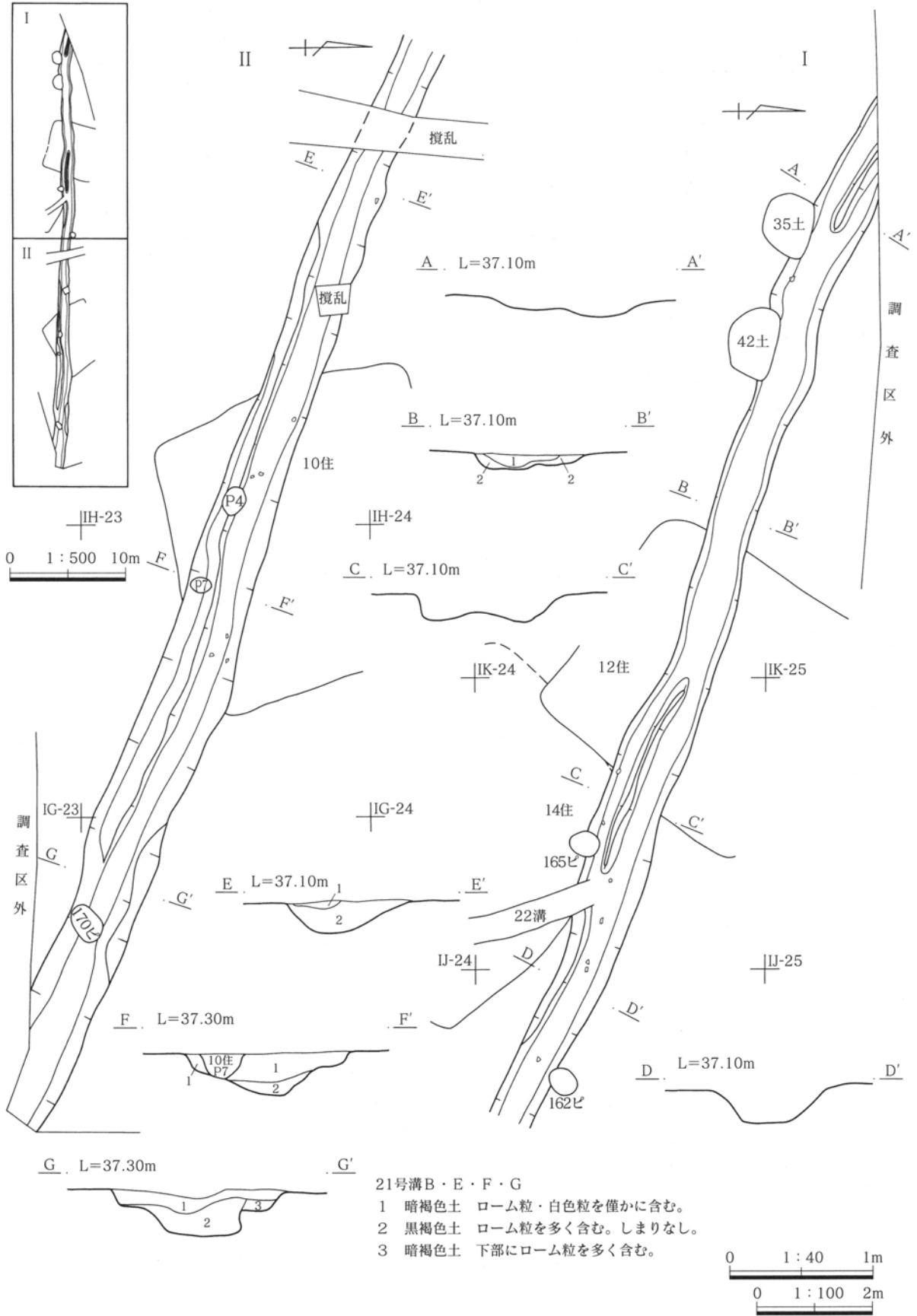


19号溝A・E

- 1 黒褐色土 ローム粒・炭化粒・白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒を含む。粘性あり。



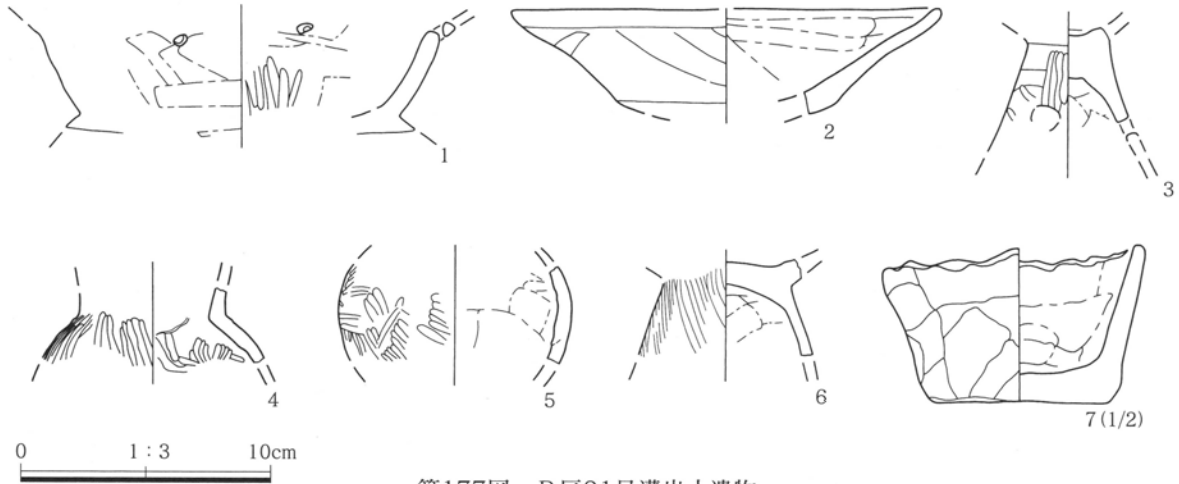
第175図 B区19号溝、出土遺物



第176図 B区21号溝

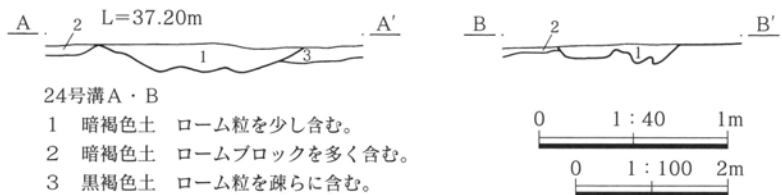
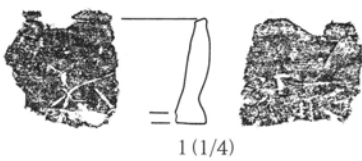
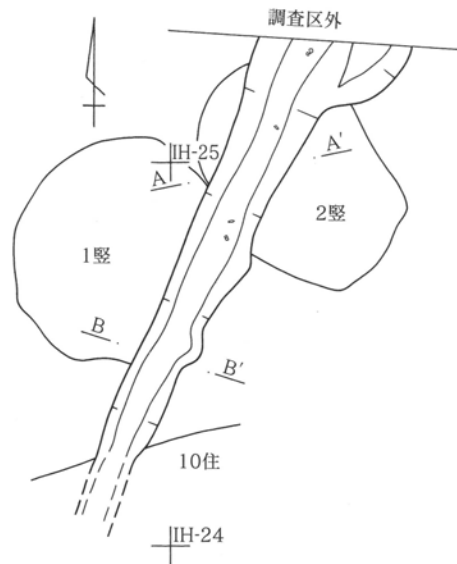
B区21号溝 (第176・177図、P L36・54・55)
 位置 I L-25~I E-22 (B-2区)
 重複 10・12・14号住居、35・42号土坑、22号溝、162・165・170ピットと重複している。
 本溝が10・12・14号住居、42号土坑より新しい。
 規模 検出全長36.20m、上端0.90~1.20m、下端0.50~0.60m、深さ0.10~0.20mを測る。

走向 北西から南東へ (N-66° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形・蒲鉾状を呈する。
 遺物 土師器高坏・器台・埴・台付甕・手捏ね土器が出土している。その他に土師器4.7kgなどが出土。
 所見 覆土・出土遺物から時期は古墳時代と思われる。



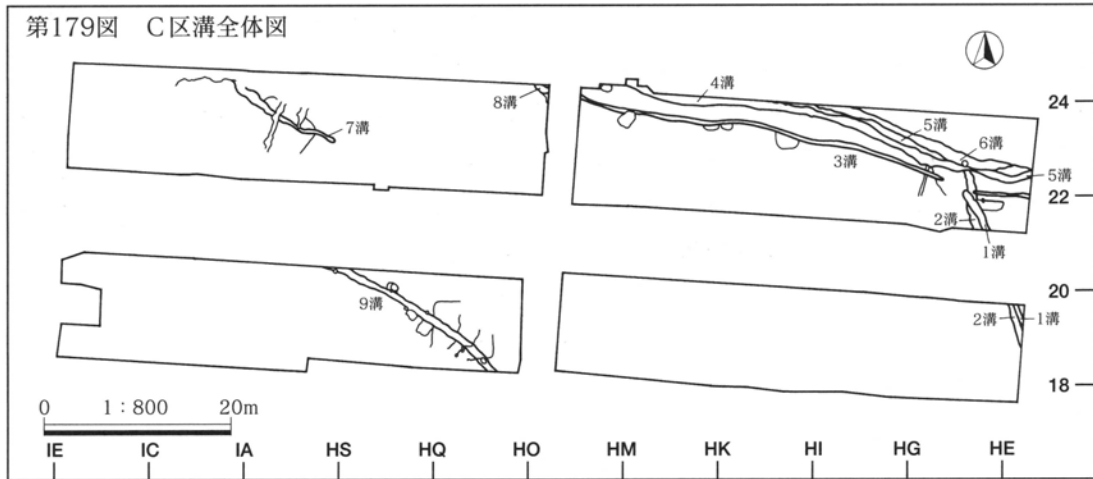
第177図 B区21号溝出土遺物

B区24号溝 (第178図、P L36・55)
 位置 I G-25~I H-24 (B-2区)
 重複 10号住居、1・2号竪穴状遺構と重複している。本溝が新しい。
 規模 検出全長5.34m、上端0.60~0.82m、下端0.25~0.34m、深さ0.07mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-75° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向し、調査区の中で消滅する。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 軟質陶器内耳鍋が出土している。その他に土師器220gなどが出土。
 所見 覆土・出土遺物から時期は近世と思われる。



第178図 B区24号溝、出土遺物

(3) C区溝



C区1号溝 (第180・181図、PL37・55)

位置 HE-22~HE-21 (C-2区)

重複 2号溝、3号土坑と重複している。本溝が古い。

規模 検出全長6.93m、上端0.54~0.80m、下端0.30~0.47m、深さ0.09~0.27mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-20°-W)

形態 ほぼ直線的に走向し、調査区外へ。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 土師器坏・壺・小型甕・甕が出土している。その他に、土師器片1.2kgが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。

C区2号溝 (第180・181図、PL37・55)

位置 HE-22~HE-21 (C-2区)

重複 3号溝、3号土坑と重複している。本溝が3号溝より新しく、3号土坑より古い。

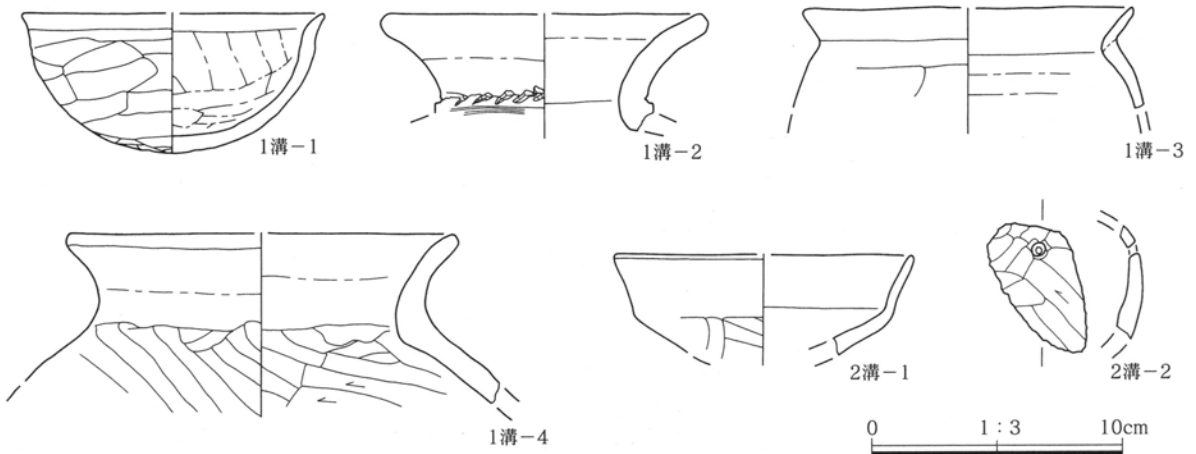
規模 検出全長10.59m、上端0.57~1.64m、下端0.20~0.47m、深さ0.08~0.35mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-18°-W)

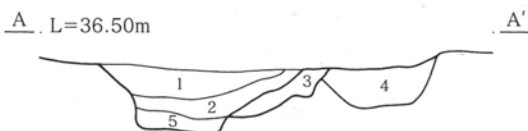
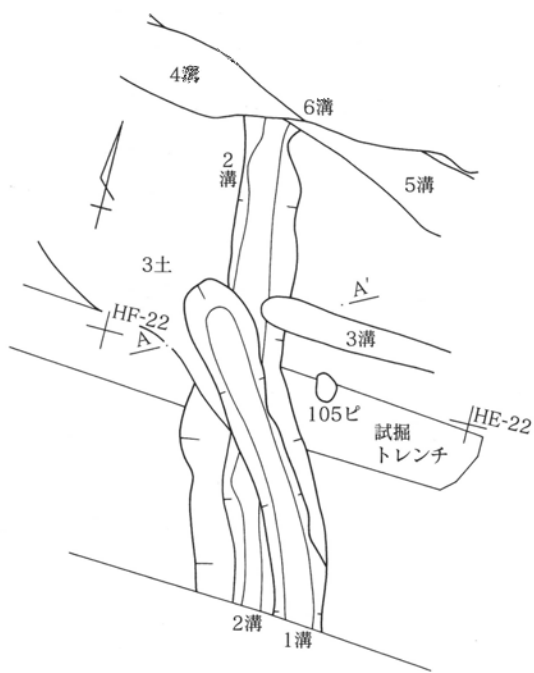
形態 ほぼ直線的に走向し、調査区外へ。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 土師器坏が出土している。その他に、土師器片720gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。

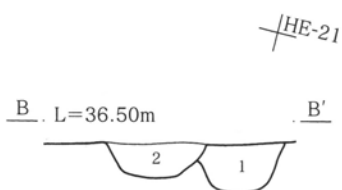


第180図 C区1・2号溝出土遺物

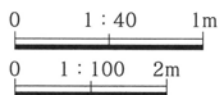
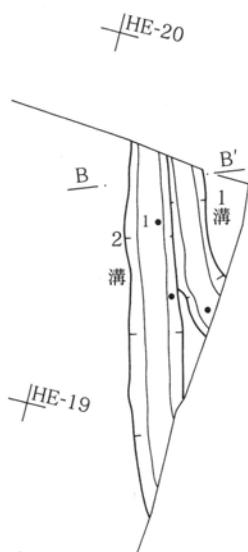


- 1・2号溝A
- 1 暗褐色土 黒褐色土を含む。白色粒を少し含む。粘性中。しまり中。(3土覆土)
 - 2 暗褐色土 砂質。ローム粒・鉄分を少し含む。(3土覆土)
 - 3 暗褐色土 白色粒を僅かに含む下層は鉄分で赤褐色に変色。粘性中。しまり中。(2溝覆土)
 - 4 暗褐色土 白色粒を少し含む。粘性中。しまりやや強。(3溝覆土)
 - 5 暗褐色土 鉄分粒を多く含む。粘性やや弱。しまり強。(1溝覆土)

第181図 C区1・2号溝



- 1・2号溝B
- 1 暗褐色土 ローム粒・ブロックを僅かに含む。粘性弱。しまり強。
 - 2 暗褐色土 ローム粒・ブロックを少し含む。1層より黄味強い。



C区3号溝 (第182・183図、PL37・55)

位置 HE-22~HD-22 (C-2区)

重複 2号溝、2・3・4・5号土坑と重複している。本溝が2号土坑より新しく、他の遺構より古い。

規模 検出全長28.53m、上端0.44~0.48m、下端0.09~0.24m、深さ0.27~0.36mを測る。

走向 西北西から南南東へ (N-89° -W)

形態 ほぼ直線的に走向し、調査区途中で3号土坑に一部が壊され消滅した後、再び出現する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 土師器高坏・直口壺・甕が出土している。その他に、土師器片785gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。

C区4号溝 (第182・183図、PL37・55)

位置 HL-24~HE-22 (C-2区)

重複 2・5・6号溝、3号土坑と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長36.44m、上端0.60~1.16m、下端0.32~0.57m、深さ0.02~0.25mを測る。

走向 西北西から南南東へ (N-80° -W)

形態 5・6号溝と並行してほぼ直線的に走向する。断面形は箱状を呈する。

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

遺物 土師器坏・甕・須恵器横瓶が出土している。その他に、土師器片4.3kg、須恵器片5gが出土。
所見 本溝は5・6号溝と並行して走向しており、前代に作られたものを掘削し直して用水路として使用したものと想定される。出土遺物・覆土から、時期は奈良・平安時代と思われる。

C区5号溝 (第182・183図、P L37・55)

位置 HI-23~HD-22 (C-2区)

重複 4・6号溝と重複している。本溝が6号溝より新しく、4号溝より古い。

規模 検出全長23.32m、上端0.73~0.82m、下端0.24~0.42m、深さ0.05~0.22mを測る。

走向 西北西から南南東へ (N-72° -W)

形態 4・6号溝と並行してほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 土師器坏・高坏・甕が出土している。その他に、土師器片1.15kgが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。

C区6号溝 (第182・183図、P L37・55)

位置 HH-23~HD-22 (C-2区)

重複 5・6号溝と重複している。本溝が古い。

規模 検出全長18.20m、上端0.45~1.16m、下端0.30~0.65m、深さ0.07~0.20mを測る。

走向 西北西から南南東へ (N-68° -W)

形態 4・5号溝と並行してほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 土師器坏・鉢・高坏・壺・甕・台付甕が出土している。その他に、土師器片6.6kgが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。

C区7号溝 (第183・184図、P L37・55)

位置 IA-24~HS-22 (C-1区)

重複 1号住居と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長11.42m、上端0.33~1.09m、下

端0.08~0.45m、深さ0.10~0.17mを測る。

走向 北西から南東へ (N-60° -W)

形態 ほぼ直線的に走向し、緩やかに蛇行した後、調査区途中で消滅する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 土師器壺が出土している。その他に、土師器片70gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代中期以降と思われる。

C区8号溝 (第184図、P L37)

位置 HM-24 (C-1区)

重複 19号土坑と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長1.48m、上端0.61~0.79m、下端0.09~0.39m、深さ0.24mを測る。

走向 北西から南東へ (N-55° -W)

形態 調査区の北東隅で検出されたため、詳細は不明。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片50gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代中期以降と思われる。

C区9号溝 (第183・184図、P L37・55)

位置 HS-20~HO-18 (C-3区)

重複 6号住居、23・24・25・28号土坑、54・55・60・65号ピットと重複している。

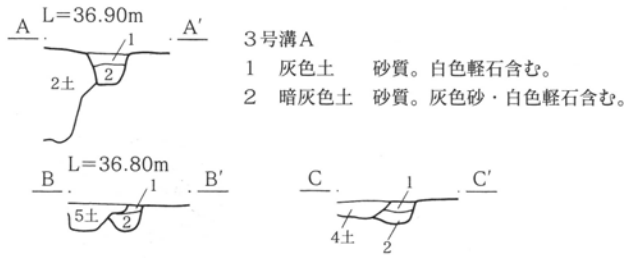
規模 検出全長18.58m、上端0.62~0.92m、下端0.22~0.41m、深さ0.20~0.30mを測る。

走向 北西から南東へ (N-60° -W)

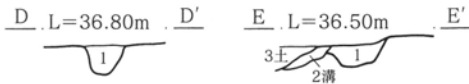
形態 ほぼ直線的に走向し、緩やかに蛇行した後、調査区途中で消滅する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 土師器甕・台付甕が出土している。その他に、土師器片2.3kg (一部は6住の遺物が混入か) が出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古墳時代と思われる。走向・覆土等から、B区21号溝と同一の遺構と想定される。

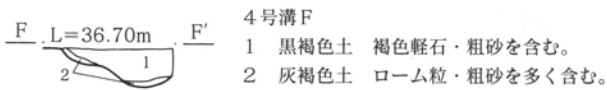


3号溝B・C
 1 灰褐色土 砂質。灰色砂を多く含む。しまり強。
 2 暗灰色土 砂質。灰色砂・ローム粒を含む。

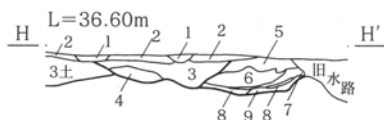


3号溝D
 1 灰褐色土 白色軽石を含む。しまり強く固い。砂質。

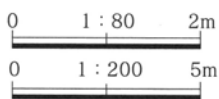
3号溝E
 1 暗褐色土 白色軽石を少し含む。しまりやや強。やや砂質。



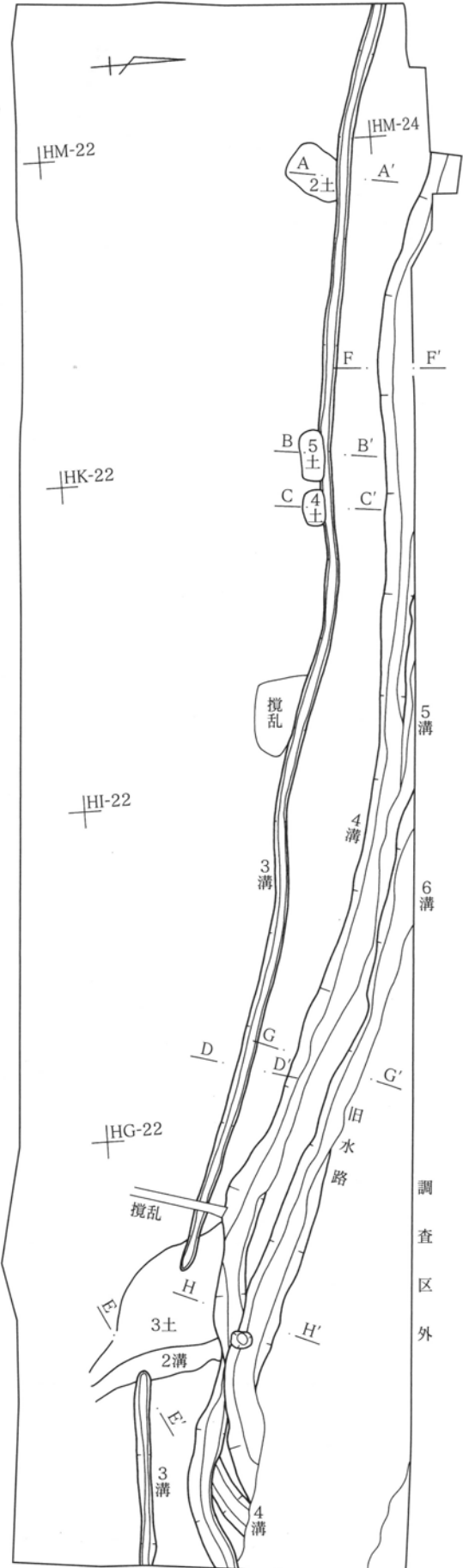
4・5・6号溝G
 1 黒褐色土 褐色軽石を含む。(4溝覆土)
 2 灰褐色土 褐色軽石・粗砂を多く含む。(4溝覆土)
 3 灰褐色土 灰色砂を多く含む。(5溝覆土)
 4 灰褐色土 砂質。(6溝覆土)
 5 灰色砂 軽石・小石を多く含む。(6溝覆土)

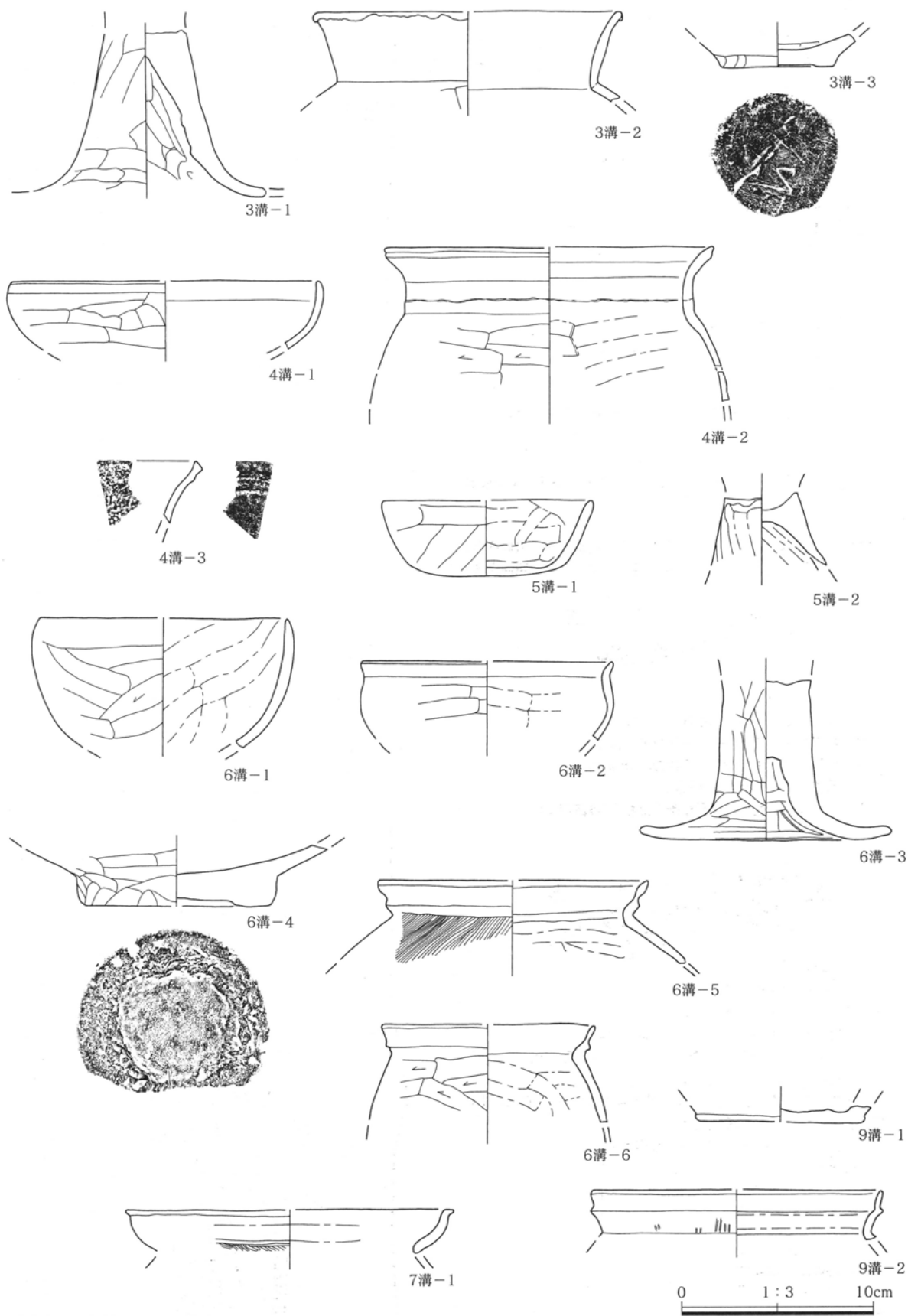


4・6号溝H
 1 As-B軽石の1次堆積か。
 2 暗褐色土 As-B軽石を多く含む。
 3 黒褐色土 褐色軽石を含む。(4溝覆土)
 4 褐色土 褐色軽石・粗砂を多く含む。(4溝覆土)
 5 灰褐色土 砂質。(6溝覆土)
 6 灰色砂と灰褐色砂質土の互層 小石を多く含む。(6溝覆土)
 7 灰褐色土 砂質。(6溝覆土)
 8 灰色砂 小石を多く含む。(6溝覆土)
 9 灰褐色土 砂質。(6溝覆土)



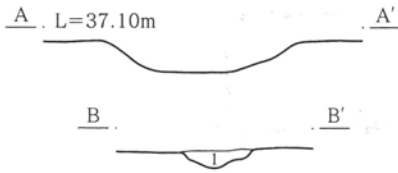
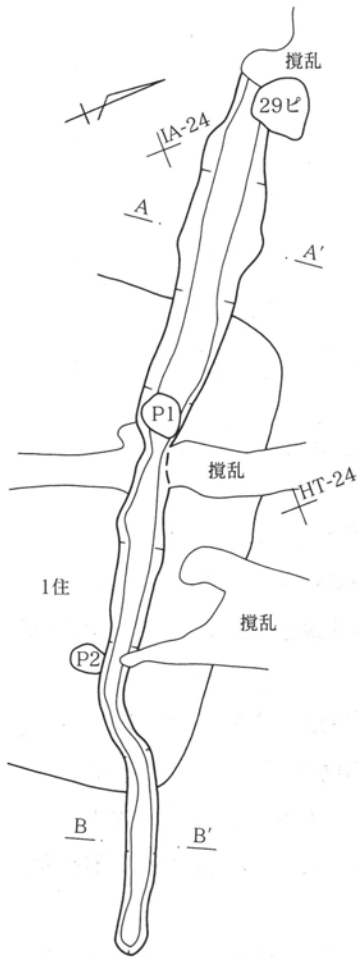
第182図 C区3~6号溝





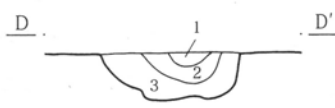
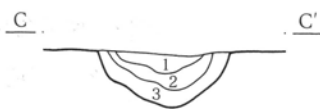
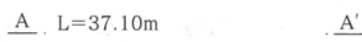
第183図 C区3~7・9号溝出土遺物

C区7号溝



7号溝

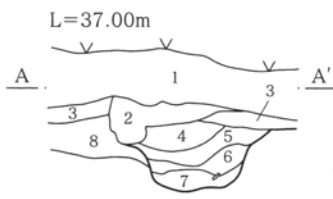
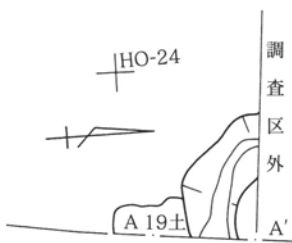
1 暗褐色土 やや砂質。ローム粒を少し、黒褐色土を多く含む。



9号溝A~D

- 1 暗褐色土 白色軽石・ローム粒を含む。
- 2 黒褐色土 1層より黒味帯びる。
- 3 暗褐色土 白色軽石・ロームブロックを含む。

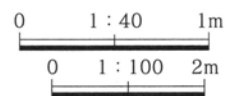
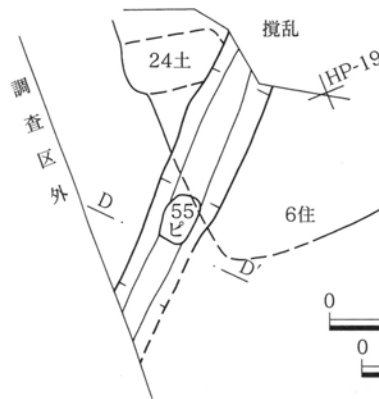
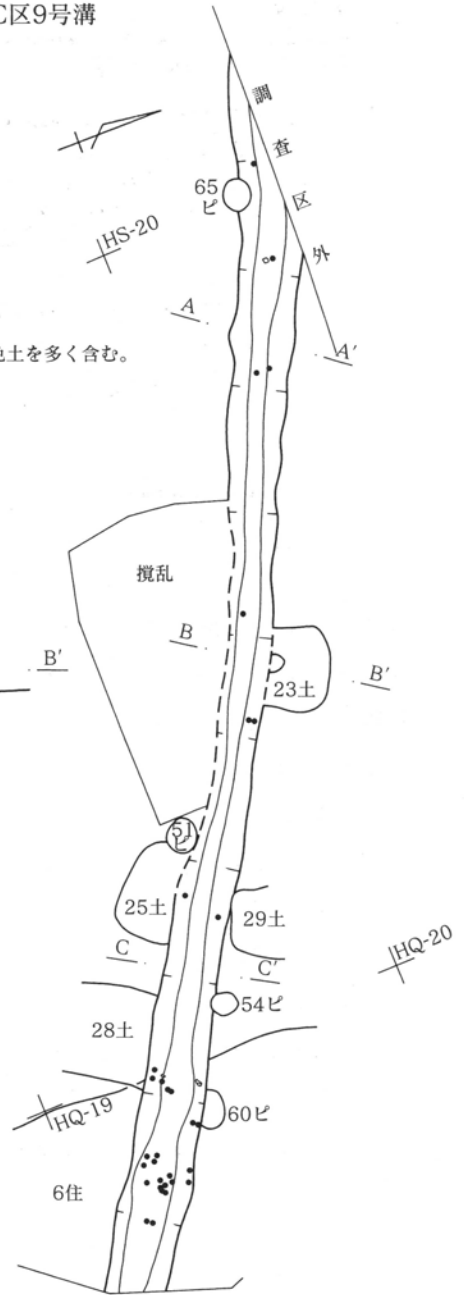
C区8号溝



8号溝

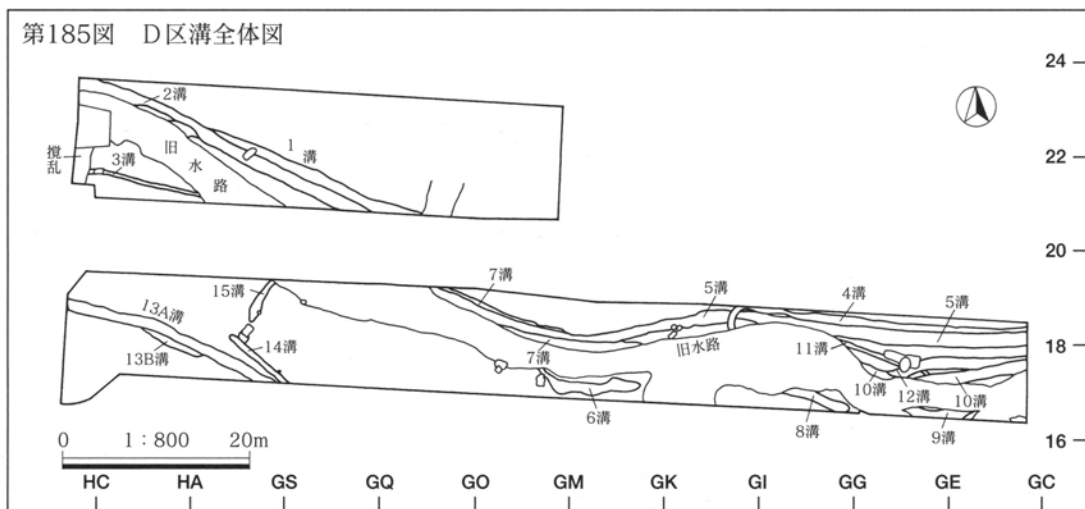
- 1 表土 暗褐色砂質土
- 2 暗褐色土 脆く崩れやすい。
- 3 暗褐色土 黒褐色土を僅かに含む。
- 4 暗褐色土 砂質。中央部に砂を多く含む。
- 5 黒褐色土 砂質。砂を多く含む。
- 6 暗褐色土 流水に伴う砂が層状に堆積。鉄分を少し含む。
- 7 暗褐色土 砂質。砂・鉄分を多く含む。
- 8 黒褐色土 鉄分を多く含み、固くしまっている。やや粘質。

C区9号溝



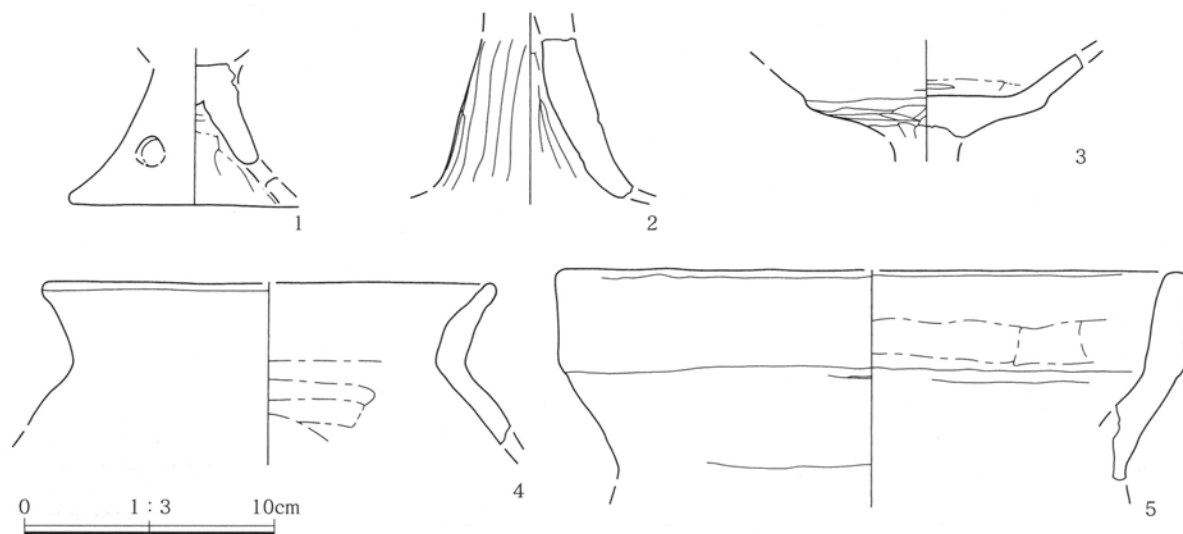
第184図 C区7~9号溝

(4) D区溝

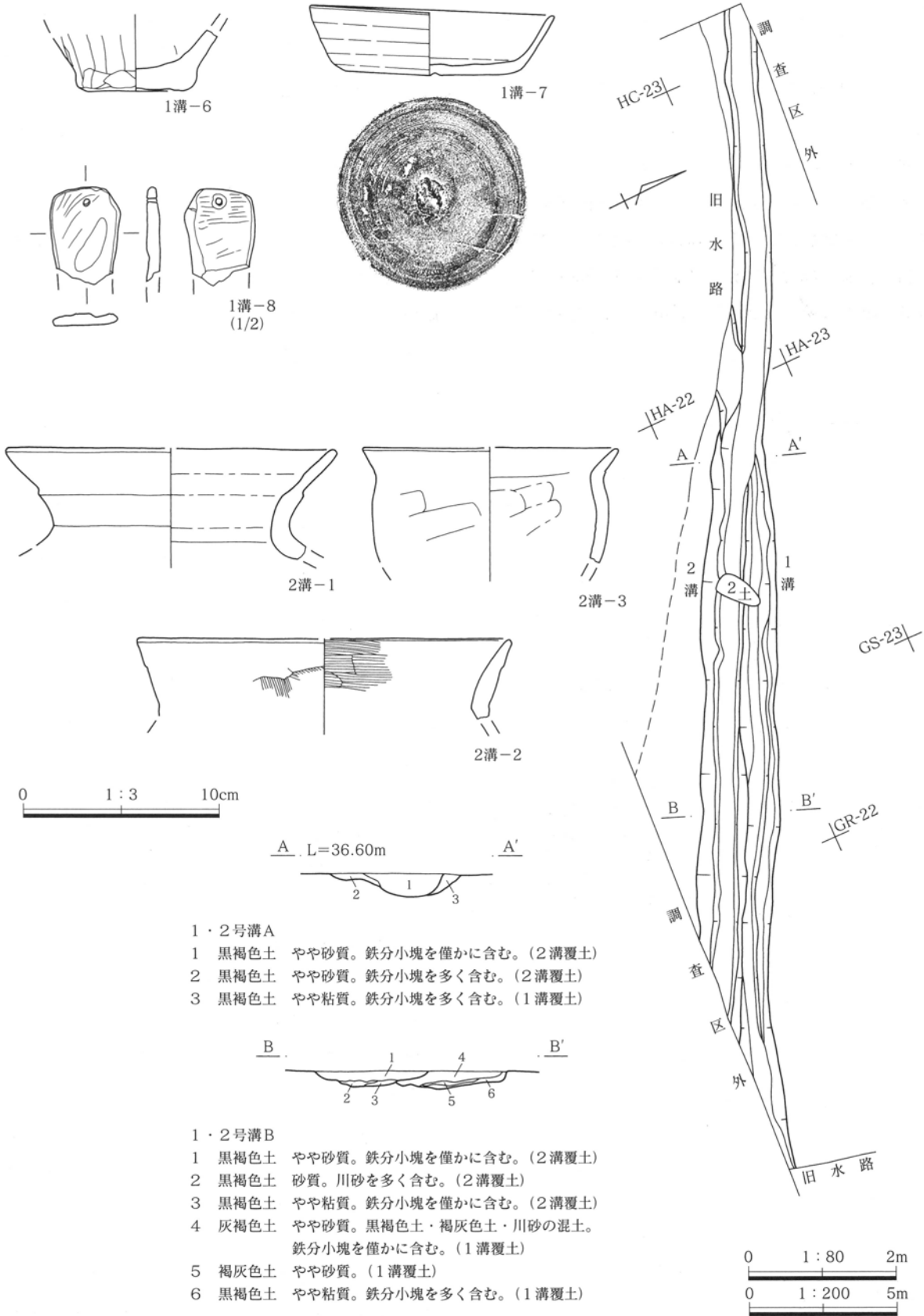


D区1号溝 (第186・187図、PL37・55)
 位置 HA-22~GP-21 (D-1区)
 重複 2号溝、2号土坑と重複している。本溝が2号土坑より新しく、2号溝より古い。
 規模 検出全長25.76m、上端1.05~1.52m、下端0.23~0.52m、深さ0.08~0.23mを測る。
 走向 西北西から東南東へ (N-67° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向し、調査区外へ。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 土師器器台・高坏・甕、須恵器坏が出土している。その他に、土師器片5.45kgが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は古代と思われる。

D区2号溝 (第187図、PL37・55)
 位置 HC-23~GQ-21 (D-1区)
 重複 1号溝、2号土坑と重複している。本溝が新しい。
 規模 検出全長32.80m、上端0.88~1.14m、下端0.52~0.68m、深さ0.07~0.23mを測る。
 走向 西北西から東南東へ (N-71° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向し、調査区外へ。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 土師器壺・小型甕・甕が出土している。その他に、土師器片3.35kgが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は古代と思われる。



第186図 D区1号溝出土遺物



第187図 D区1・2号溝、出土遺物

D区3号溝 (第188図)

位置 HC-21~GT-21 (D-1区)

重複 なし。

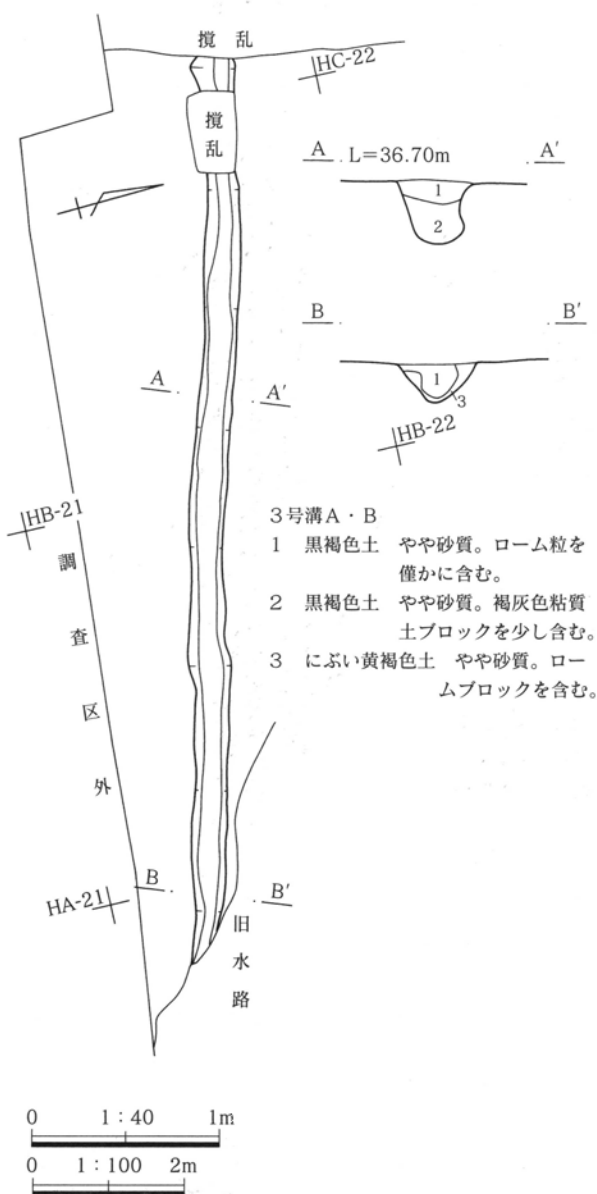
規模 検出全長11.82m、上端0.38~0.58m、下端0.12~0.34m、深さ0.12~0.34mを測る。

走向 西北西から東南東へ (N-77° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。(東側を旧水路、西側を攪乱で壊されている)断面形はV字状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片150gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代と思われる。



第188図 D区3号溝

D区4号溝 (第189図、P L38・55)

位置 GI-18~GC-18 (D-4区)

重複 5号溝と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長32.66m、上端0.50~1.00m、下端0.18~0.39m、深さ0.30~0.53mを測る。

走向 南西から北東へ (N-25° -E) →西から東へ (N-90° -E)

形態 ほぼ直線的に走向し、途中でほぼ直角に曲がる。断面形は逆台形を呈する。

遺物 軟質陶器内耳鍋、陶磁器が出土している。その他に、土師器片410g、須恵器115gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世と思われる。

D区5号溝 (第189図、P L38・55)

位置 GO-19~GC-18 (D-3・4区)

重複 4号溝と重複している。本溝が古い。

規模 検出全長64.77m、上端0.68~1.65m、下端0.28~0.92m、深さ0.10~0.39mを測る。

走向 ほぼ西から東へ (N-82° -W) → N-78° -E → N-90° -E)

形態 やや蛇行しながら、ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 軟質陶器内耳鍋・火舎が出土している。その他に、土師器片220g、軟質陶器50gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世と思われる。

D区7号溝 (第189図)

位置 GO-19~GK-17 (D-3・4区)

重複 5号溝と重複している。本溝が古い。

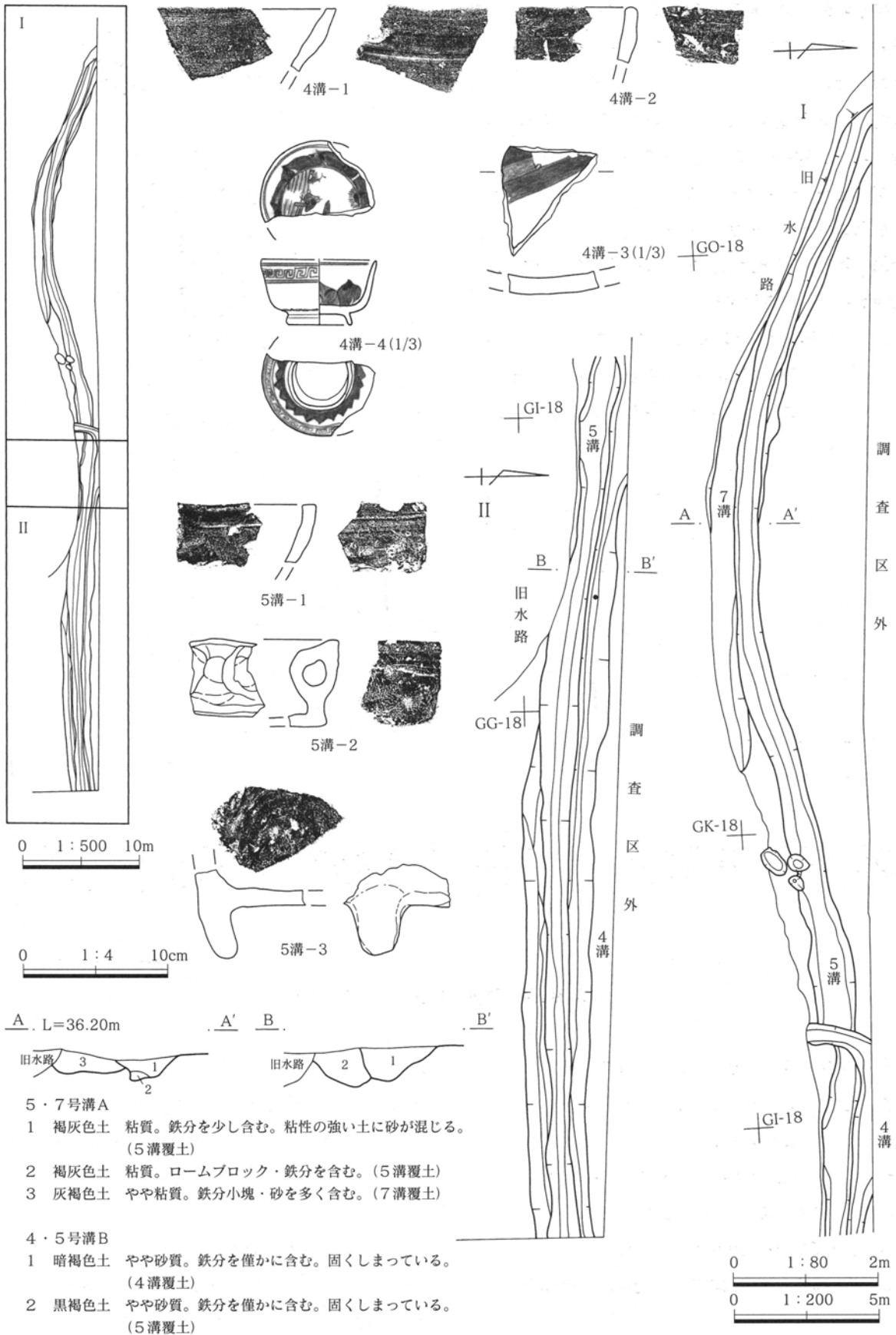
規模 検出全長22.58m、上端0.32~1.18m、下端0.13~0.27m、深さ0.07~0.20mを測る。

走向 西北西から東南東へ (N-87° -W)

形態 5号溝と並行し、ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 なし。

所見 出土遺物がなく時期は不明。他の遺構との重複関係・覆土から、時期はおよそ古代~中世と思われる。8・9号溝は同一の遺構と想定される。



第189図 D区4・5・7号溝、4・5号溝出土遺物

第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

D区6号溝 (第190図、P L38・55)

位置 GM-17~GK-17 (D-3・4区)

重複 なし。

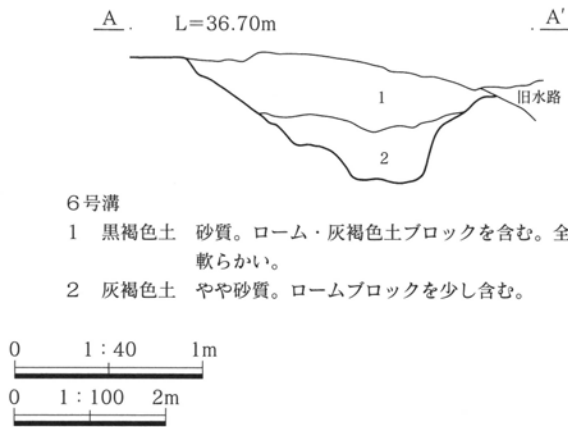
規模 検出全長10.45m、上端0.88~1.62m、下端0.42~1.06m、深さ0.09~0.36mを測る。

走向 北西から南東へ (N-53° -W) → 西南西から東北東へ (N-87° -W)

形態 蛇行して走向し、調査区の中で消滅する。断面形は逆台形を呈する。

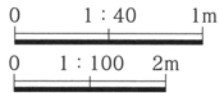
遺物 軟質陶器内耳鍋が出土している。他に、土師器片970g、須恵器100g、軟質陶器60gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世と思われる。



6号溝

- 1 黒褐色土 砂質。ローム・灰褐色土ブロックを含む。全体的に軟らかい。
- 2 灰褐色土 やや砂質。ロームブロックを少し含む。



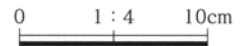
1



2



3



第190図 D区6号溝、出土遺物

D区8号溝 (第191図、P L38・56)

位置 GH-16~GG-16 (D-4区)

重複 なし。旧水路より新しい。

規模 検出全長5.34m、上端0.94~1.00m、下端0.31~0.40m、深さ0.11~0.41mを測る。

走向 西北西から東南東へ (N-65° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 須恵器高台付碗が出土している。その他に土

師器210g、鉄片が出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代末と思われる。旧水路の両側で検出された、9号溝は同一の遺構と想定される。

D区9号溝 (第191図)

位置 GE-16~GD-16 (D-4区)

重複 なし。

規模 検出全長2.72m、上端0.63~0.98m、下端

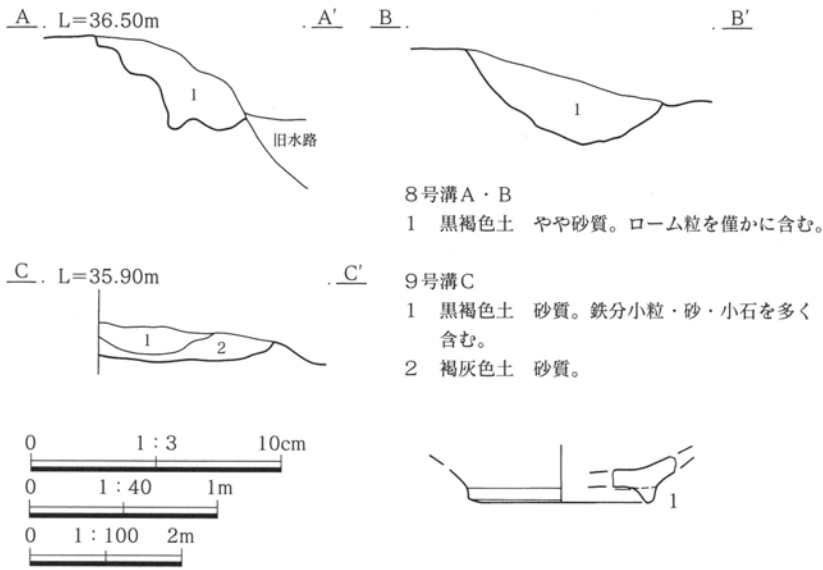
0.12~0.24m、深さ0.20~0.26mを測る。

走向 西南西から東北東へ (N-73° - E)

形態 5号溝と並行し、ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 なし。

所見 出土遺物がなく時期は不明。他の遺構との重複関係・覆土から、時期はおよそ古代~中世と思われる。旧水路の両側で検出された、8号溝は同一の遺構と想定される。



第191図 D区8・9号溝、8号溝出土遺物

D区10号溝 (第192図)

位置 GF-17~GC-17 (D-4区)

重複 12号溝と重複している。本溝が古い。

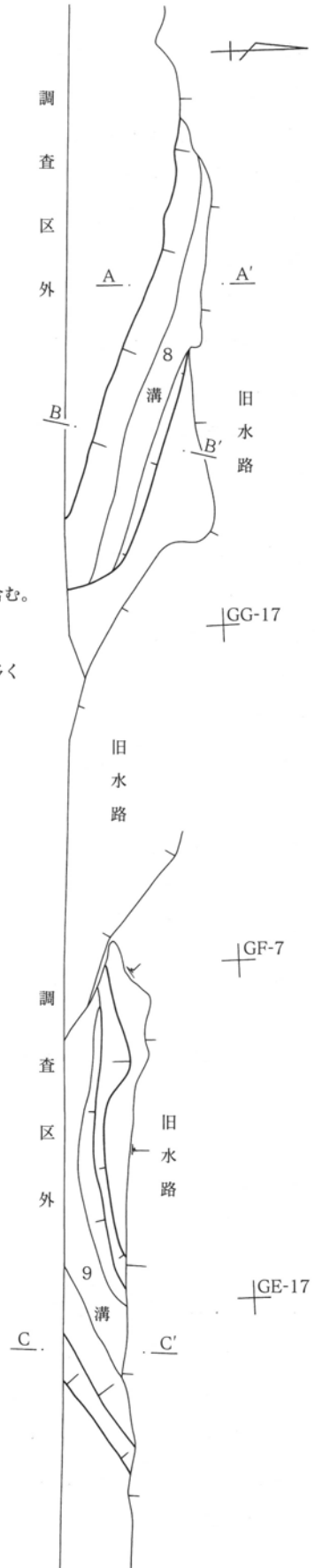
規模 検出全長11.27m、上端1.12~1.71m、下端0.57~0.88m、深さ0.06~0.37mを測る。

走向 西南西から東北東へ (N-78° - E)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片480g、鉄片5gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期はおよそ古代と思われる。



D区11号溝 (第192図)

位置 GG-18~GE-17 (D-4区)

重複 3号土坑と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長8.01m、上端0.21~0.58m、下端0.09~0.28m、深さ0.11~0.23mを測る。

走向 西南西から東北東へ (N-66° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は箱状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片1600gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期はおよそ古代と思われる。

D区12号溝 (第192図、PL56)

位置 GF-17~GC-17 (D-4区)

重複 10・11号溝、3号土坑と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長14.20m、上端1.22~1.47m、下端0.58~0.69m、深さ0.15~0.37mを測る。

走向 西南西から東北東へ (N-85° -E)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形はV字状を呈する。

遺物 土師器・坏、須恵器蓋、砥石が出土している。その他に、土師器片2.18kg、須恵器10gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期はおよそ古代と思われる。

D区13号溝 (第193図、PL38・56)

位置 HC-18~GS-17 (D-3区)

重複 なし。

規模 13A溝：検出全長22.20m、上端0.85~1.47m、下端0.27~0.35m、深さ0.41~0.46m。

13B溝：検出全長7.03m、上端0.48~0.65m、下端0.32~0.48m、深さ0.03~0.10mを測る。

検出全長14.20m、上端1.22~1.47m、下端0.58~0.69m、深さ0.15~0.37mを測る。

走向 西北西から東南東へ (N-74° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。13A溝の断面形は逆台形・13B溝は皿状を呈する。

遺物 土師器・坏・甑・台付甕・手捏ね土器、石製模造品が出土している。その他に、土師器片2.37kg、須恵器60gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期はおよそ古代と思われる。

D区14号溝 (第194図)

位置 GT-18~GS-17 (D-3区)

重複 15号溝と重複している。

規模 検出全長7.42m、上端0.42~0.57m、下端0.26~0.41m、深さ0.01~0.07mを測る。

走向 西北西から東南東へ (N-51° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片5gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期はおよそ古代と思われる。

D区15号溝 (第194図)

位置 GS-19~GS-18 (D-3区)

重複 14号溝、8号土坑、36号ピットと重複している。

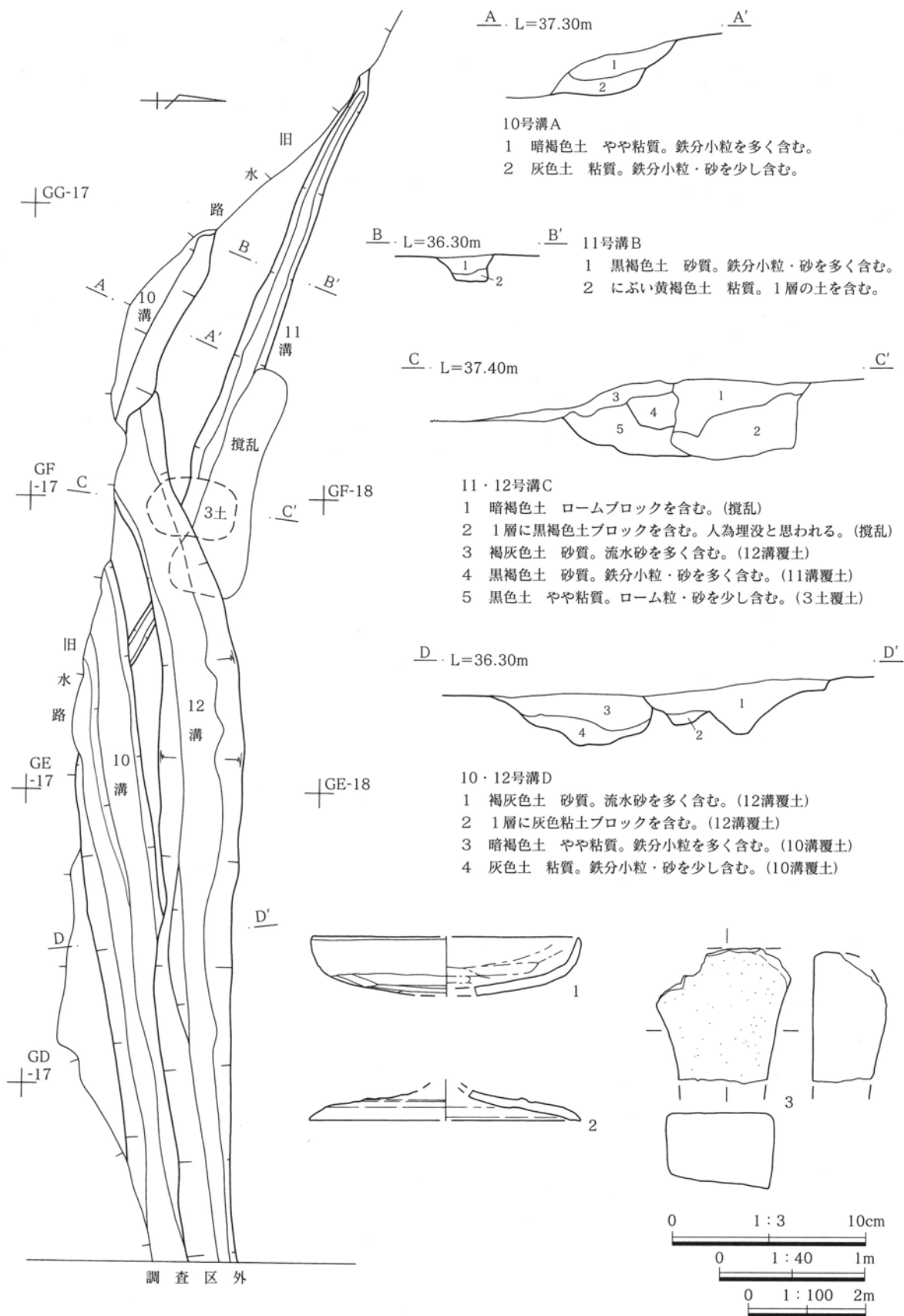
規模 検出全長5.75m、上端0.52~0.97m、下端0.32~0.68m、深さ0.01~0.07mを測る。

走向 北北東から南南西へ (N-28° -E)

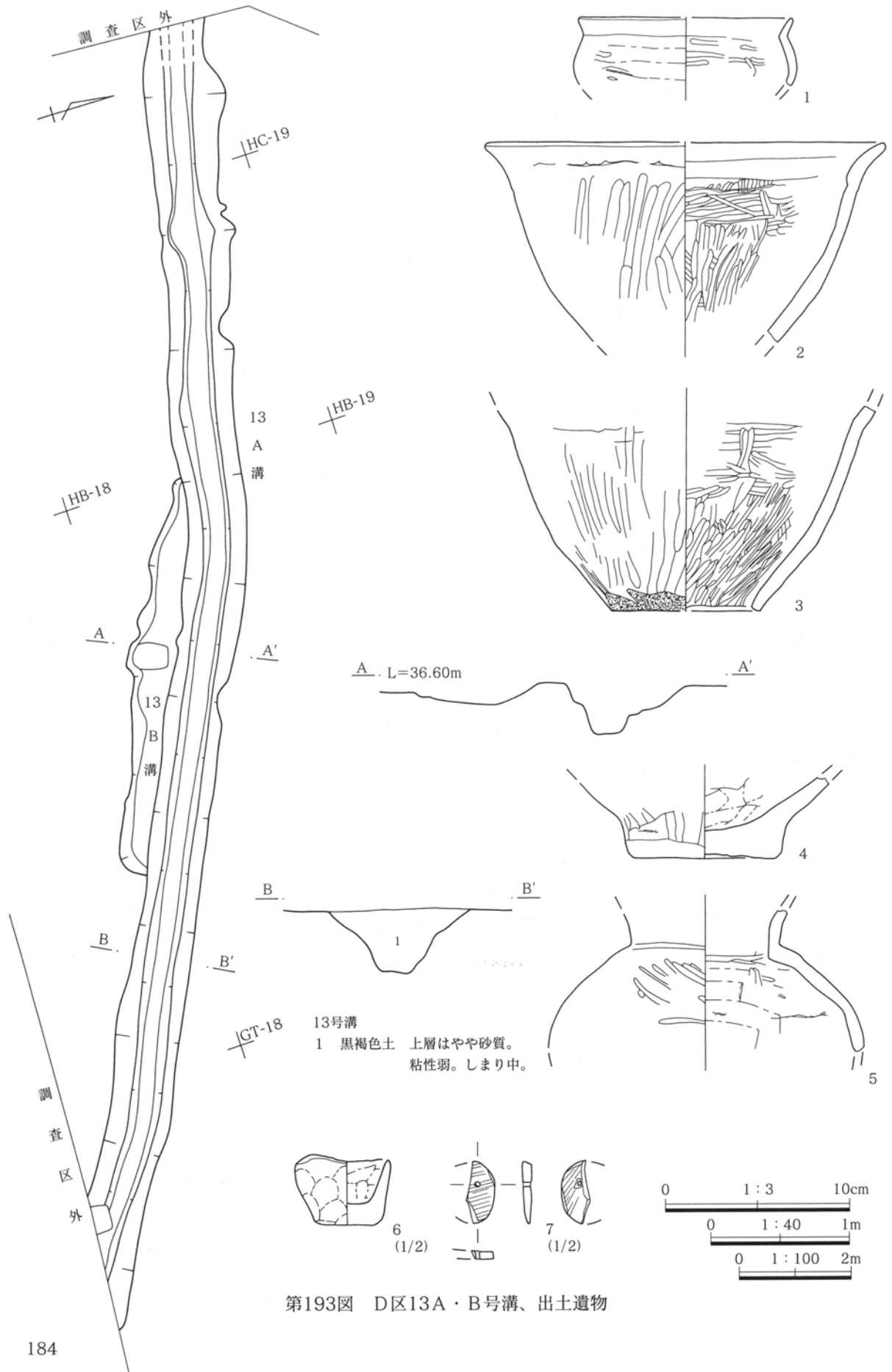
形態 ほぼ直線的に走向し、途中で8号土坑に壊され14号溝に合流する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片140gが出土している。

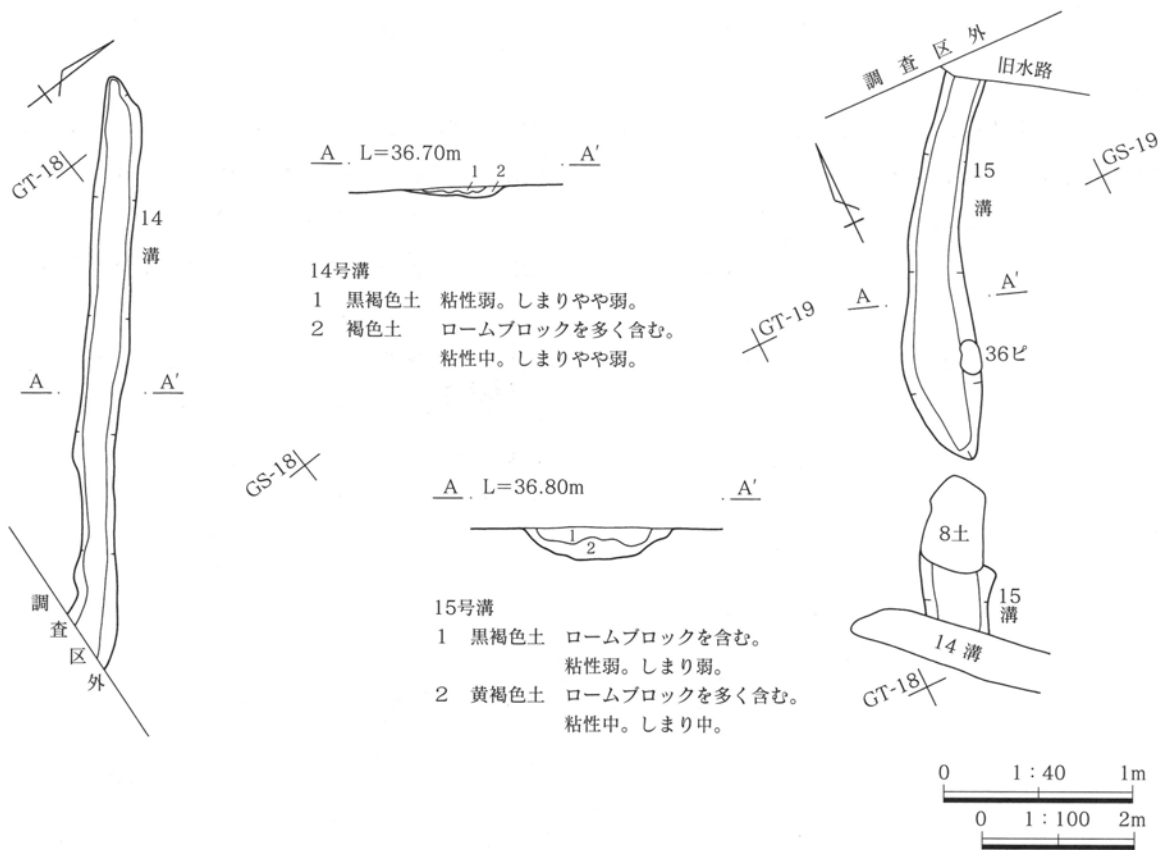
所見 出土遺物・覆土から、時期はおよそ古代と思われる。



第192図 D区10~12号溝、12号溝出土遺物

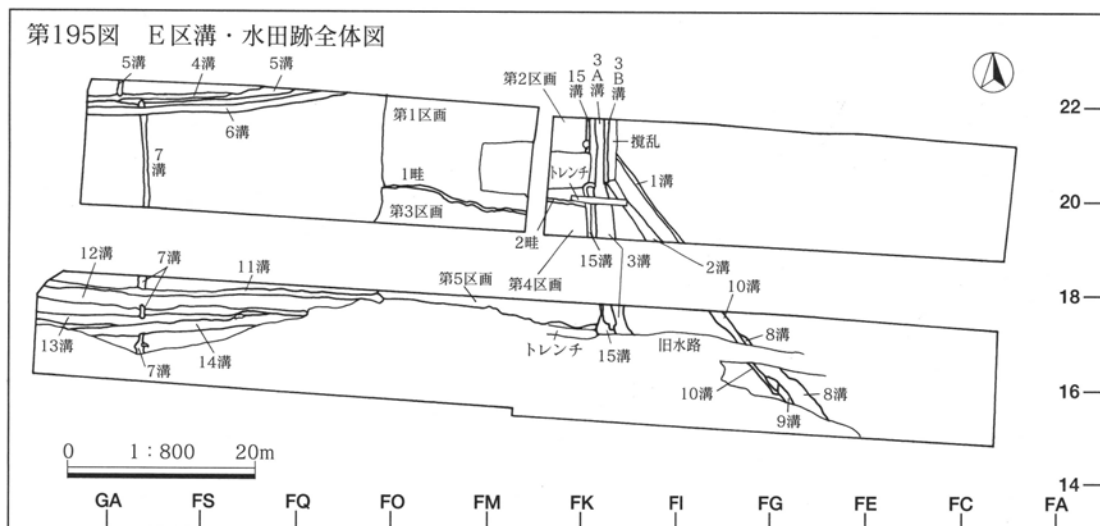


第193図 D区13A・B号溝、出土遺物



第194図 D区14・15号溝

(5) E区溝・水田跡



第3章 高林三入遺跡の遺構と遺物

E区1号溝 (第196図、P L38)

位置 FJ-20~FH-19 (E-2区)

重複 なし。

規模 検出全長11.65m、上端0.25~0.43m、下端0.12~0.23m、深さ0.04~0.13mを測る。

走向 北西から南東へ (N-36° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片15gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期はおおよそ古代と思われる。

E区2号溝 (第196図、P L38・56)

位置 FJ-20~FI-19 (E-2区)

重複 なし。

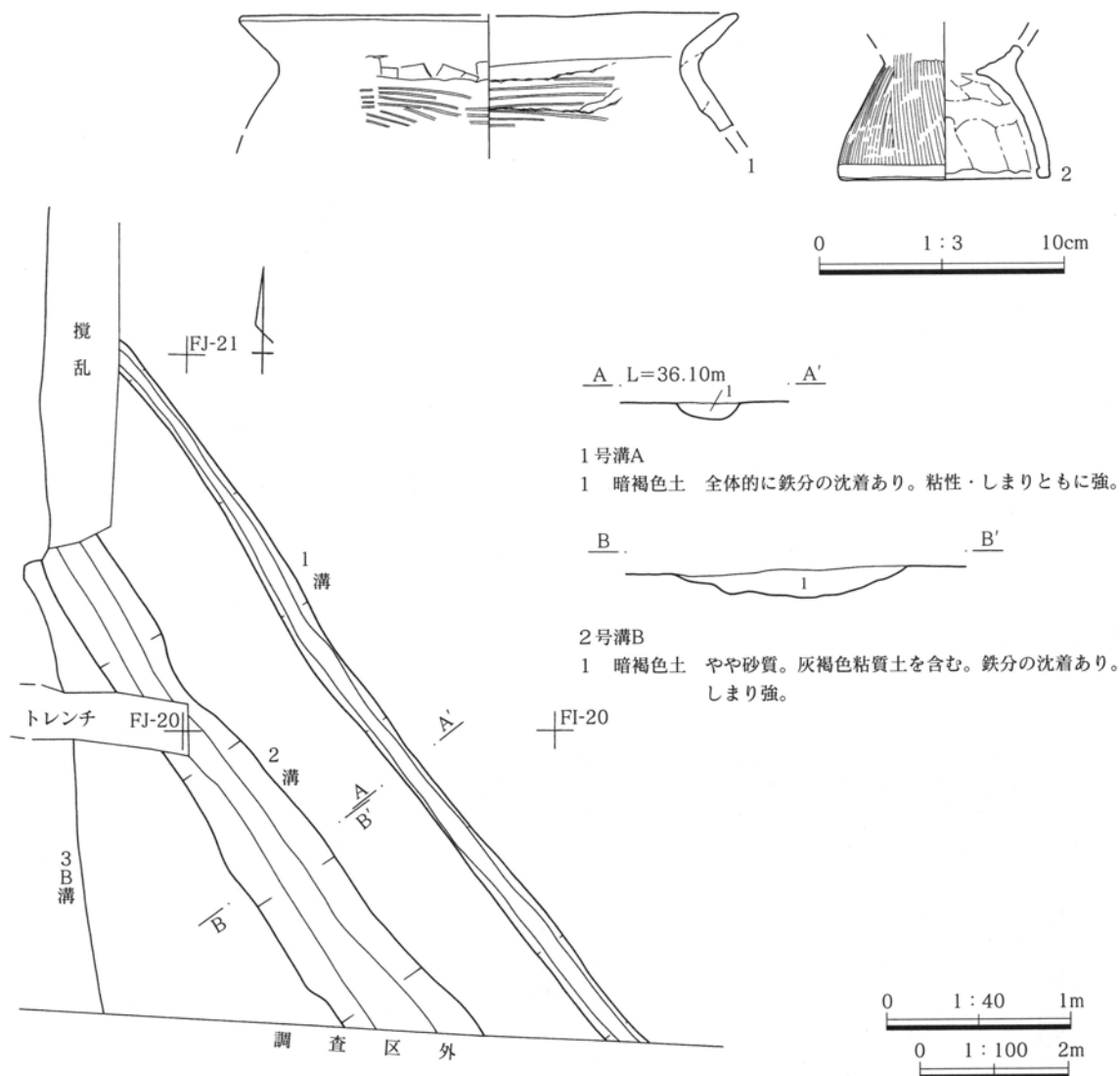
規模 検出全長7.82m、上端0.92~1.32m、下端0.26~0.62m、深さ0.02~0.16mを測る。

走向 北西から南東へ (N-33° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 土師器甕・台付甕が出土している。他に、土師器片170g、須恵器15gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期はおおよそ古墳時代と思われる。



第196図 E区1・2号溝、2号溝出土遺物

E区水田跡 (第197図、P L 5・6)

位置 F J～O-17～21 (E-2・4区)

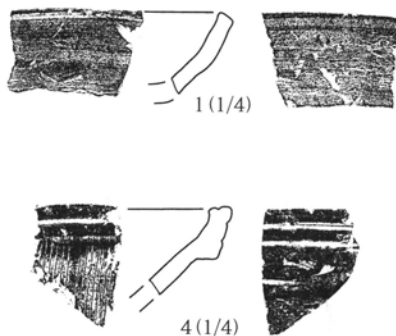
区画 (水田面) 水田区画は、5区画検出された。現在の道路・馬入れによって分断されているが、本来は、1と2、3・4・5は同じ区画を呈すると想定される。第1区画の面積は123.5㎡・標高は35.79～35.86m、第2区画の面積は17.2㎡・標高は35.75～35.85m、第3区画の面積は41.8㎡・標高は35.88～35.78m、第4区画の面積は14.2㎡・標高は35.88～35.75m、第5区画の面積は34.9㎡・標高は35.81～35.74mを測る。なお、水田面からは耕作痕、稲株痕、足跡などは検出できなかった。プラントオパール分析も行っていない。

畦畔 畦は2本検出された。1号畦は検出全長15.5m・幅0.39～0.75m・高さ0.02～0.08m・方位N-0°途中 (FN-20グリッド) からN-75°-W、2号畦は検出全長4.1m・幅0.44～0.64m・高さ0.05～0.08m・方位N-80°-Wである。

FL-20～FN-20付近では、1号畦の残骸が確認され、畦を造り直していることが看取できた。

水口・水路・配水 水口は確認できなかったが、FJ-20グリッドで3A号溝から15号溝への取水口が検出された。3A号溝と15号溝は、水田に伴う用排水路と思われる。また、配水の仕方は水口が検出されなかったことから、標高の高い第1(2)区画が満水になった後、畦をオーバーフローして、順次南側の第3(4, 5)区画へ流し込む「かけ流し」の方法をとっていた可能性が考えられる。

所見 時期は中世以降と思われる。



E区3号溝 (第197・198図、P L 38・56)

位置 F J-21～F J-17 (E-2・4区)

重複 なし。

規模 3A溝：検出全長15.96m、上端0.69～1.10m、下端0.15～0.55m、深さ0.17～0.29m。3B溝：検出全長12.83m、上端0.25～0.89m、下端0.10～0.28m、深さ0.06～0.25mを測る。

走向 北西から南東へ (N-2°-W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 軟質陶器内耳鍋、陶器灯明皿・碗・播鉢、瓦が出土している。他に、土師器片150g、須恵器片153g、軟質陶器片273g、陶磁器片460gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。3A溝と3B溝はほぼ同時期に埋没しており、水田に伴う水路と思われる。

E区15号溝 (第197・198図、P L 38)

位置 F J-21～F J-19 (E-2・4区)

重複 なし。

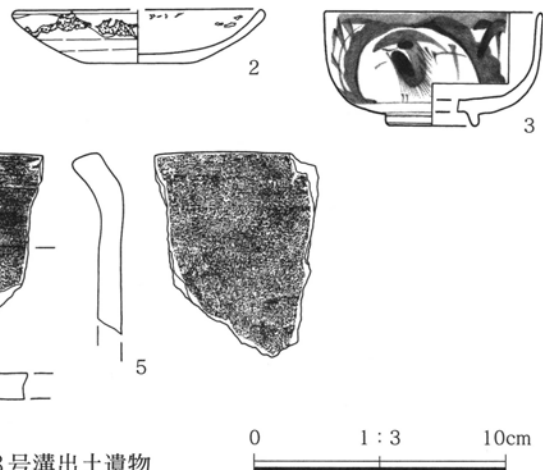
規模 検出全長9.92m、上端0.26～0.44m、下端0.12～0.24m、深さ0.02～0.06mを測る。

走向 北から南へ (N-0°)

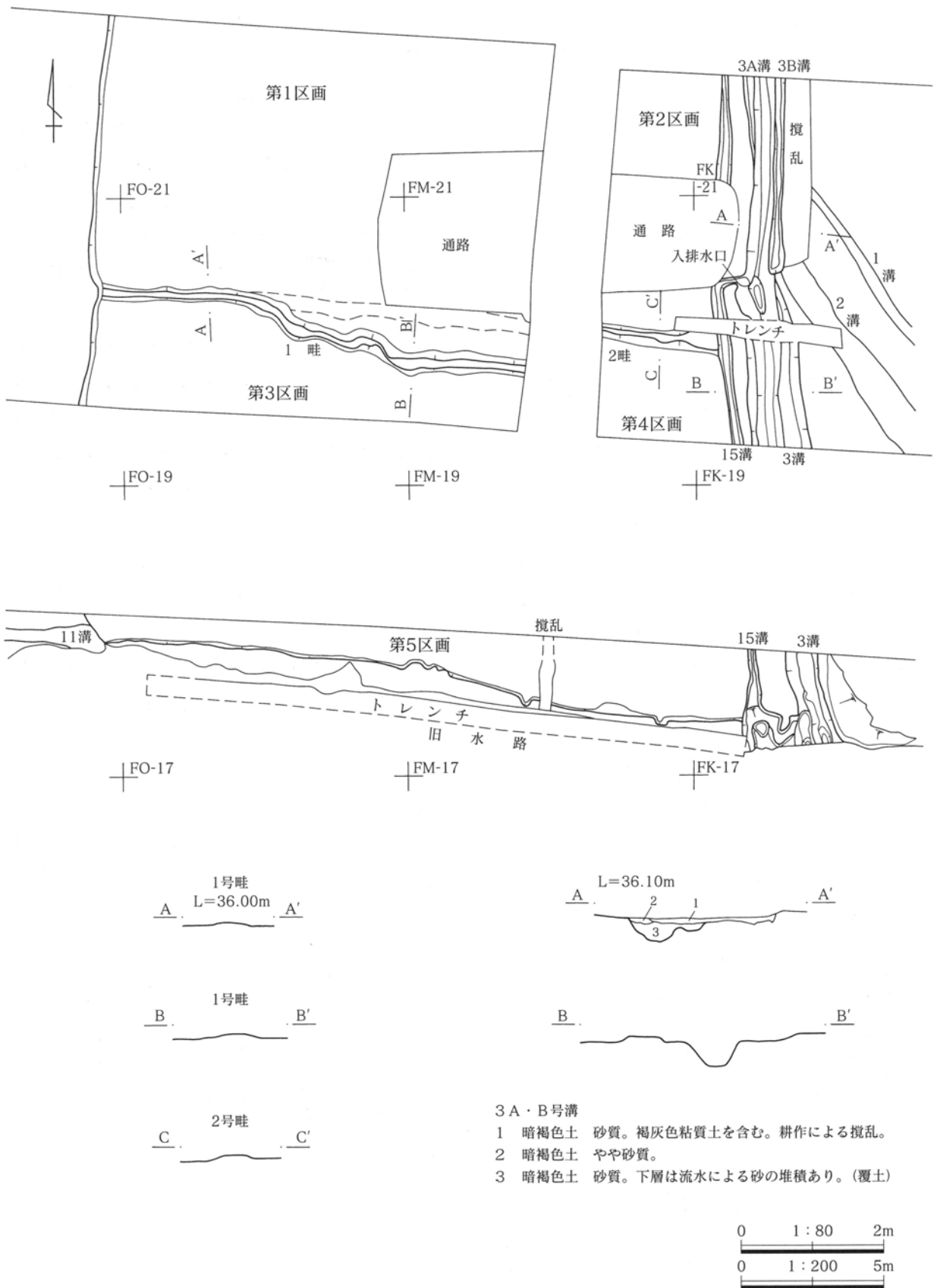
形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈す。

遺物 なし。

所見 3A溝と3B溝はほぼ同時期の水田に伴う水路である。



第197図 E区3号溝出土遺物



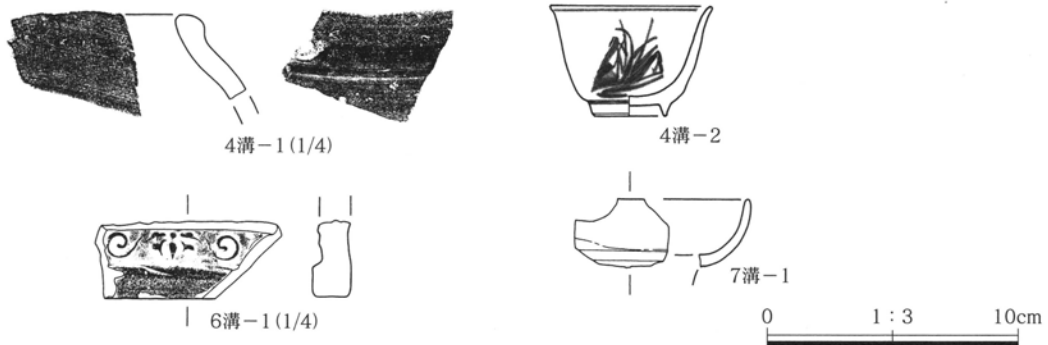
第198図 E区水田跡、3AB・15号溝

E区4号溝 (第199~201図、P L38・56)
 位置 GA-22~FR-22 (E-1区)
 重複 5号溝と重複している。本溝が古い。
 規模 検出全長14.83m、上端0.42~0.80m、下端0.13~0.39m、深さ0.09~0.16mを測る。
 走向 西から東へ (N-80° - E)
 形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 軟質陶器甕、陶器碗が出土している。他に、土師器片25g、須恵器片220g、軟質陶器片165g、陶磁器片15gが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。水田等に伴う水路と想定される。

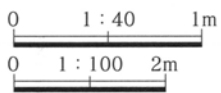
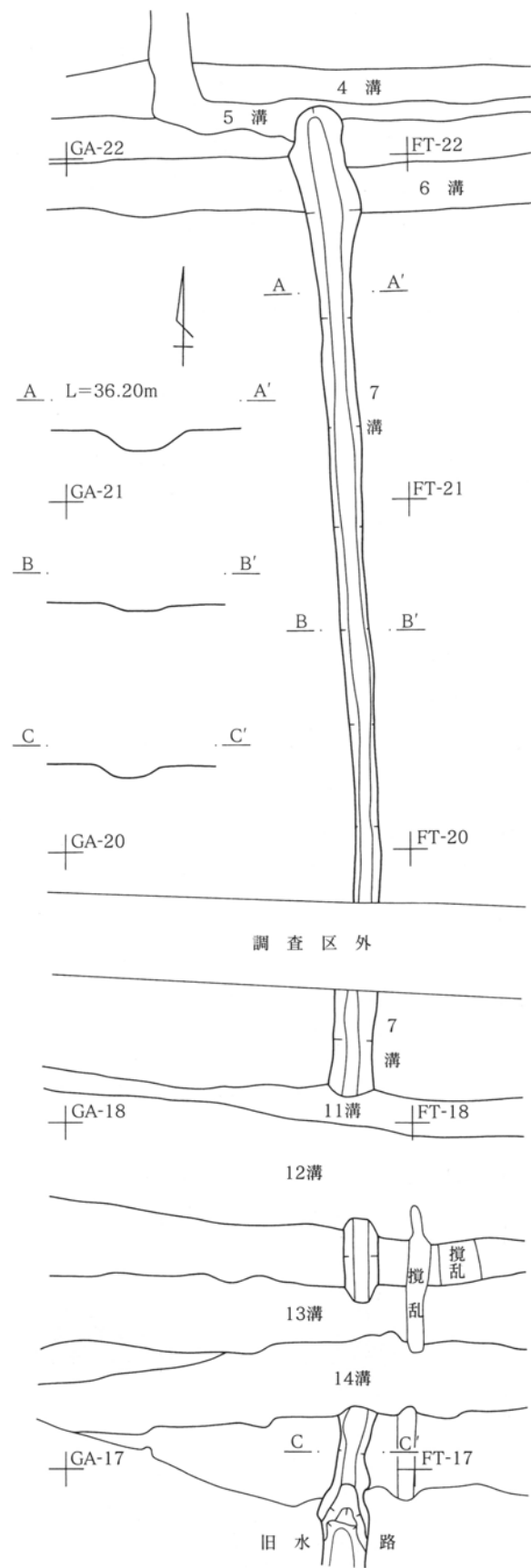
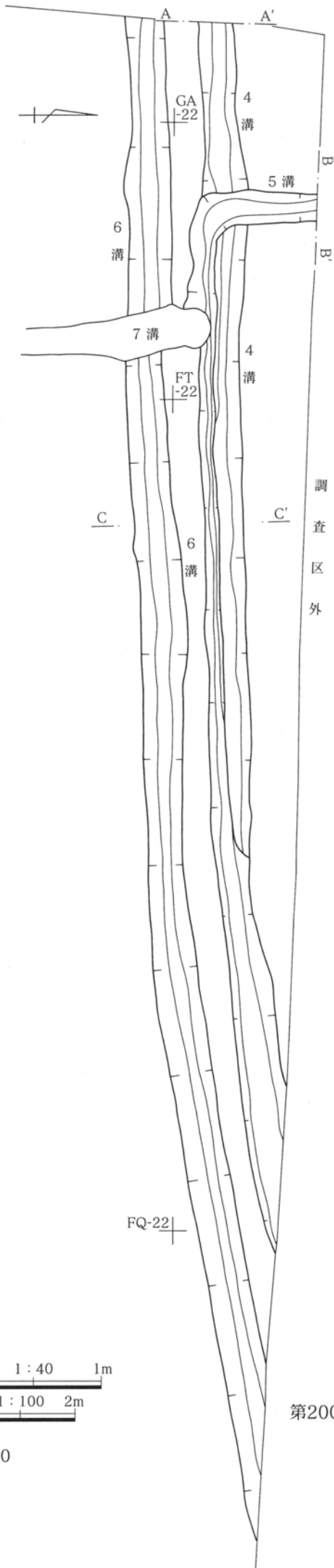
E区5号溝 (第200・201図、P L38)
 位置 FT-22~FQ-22 (E-1区)
 重複 4・7号溝と重複している。本溝が7溝より古く、4溝より新しい。
 規模 検出全長19.82m、上端0.47~0.75m、下端0.20~0.50m、深さ0.13~0.22mを測る。
 走向 北から南へ (N-2° - W) →西から東へ (N-80° - E)
 形態 ほぼ直角に曲がって、その後ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。
 遺物 掲載遺物はないが、土師器片10g、軟質陶器片33gが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。水田等に伴う水路と想定される。

E区6号溝 (第199~201図、P L38・56)
 位置 GA-22~FP-22 (E-1区)
 重複 7号溝と重複している。本溝が古い。
 規模 検出全長26.18m、上端0.62~0.87m、下端0.09~0.30m、深さ0.18~0.20mを測る。
 走向 西から東へ (N-81° - E)
 形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 瓦が出土している。他に、土師器片80g、須恵器片39g、軟質陶器片227g、陶磁器片183gが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。4・5号溝とほぼ並行に走向しており、水田等に伴う水路と想定される。

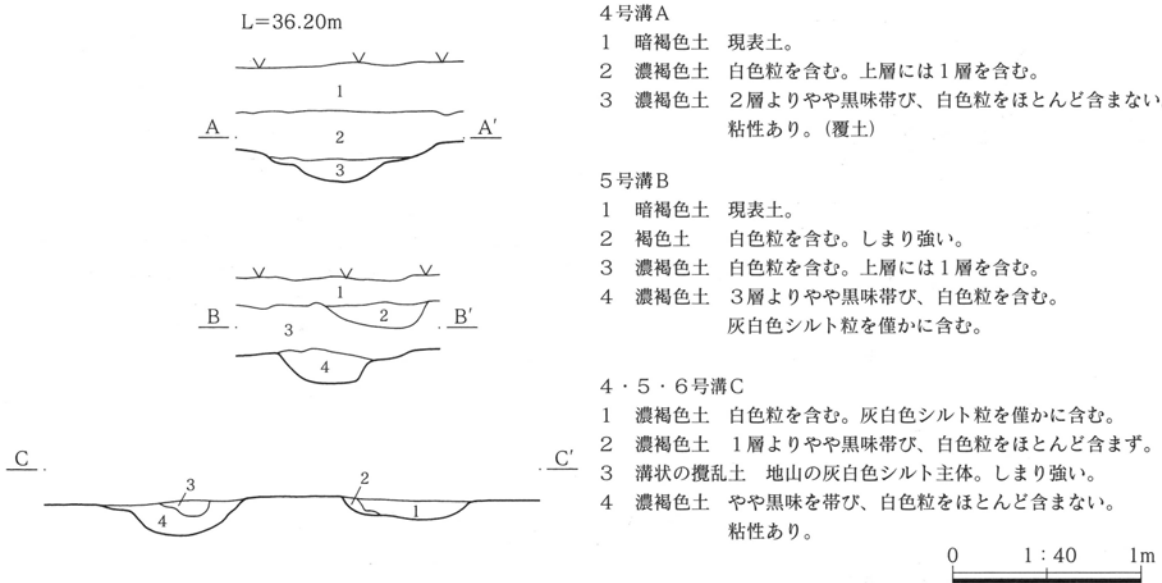
E区7号溝 (第199・200図、P L38・56)
 位置 FT-22~FT-19 (E-1・3区)
 重複 5・11・12・13・14号溝と重複している。本溝が5溝より新しく、11~14溝より古い。
 規模 検出全長15.92m、上端0.33~0.79m、下端0.15~0.29m、深さ0.05~0.29mを測る。
 走向 北から南へ (N-2° - W)
 形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 陶器小碗が出土している。他に、土師器片15g、須恵器片18g、軟質陶器片40gが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。水田等に伴う水路と想定される。



第199図 E区4・6・7号溝出土遺物



第200図 E区4~7号溝



第201図 E区4～6号溝

4号溝A

- 1 暗褐色土 現表土。
- 2 濃褐色土 白色粒を含む。上層には1層を含む。
- 3 濃褐色土 2層よりやや黒味帯び、白色粒をほとんど含まない。粘性あり。(覆土)

5号溝B

- 1 暗褐色土 現表土。
- 2 褐色土 白色粒を含む。しまり強い。
- 3 濃褐色土 白色粒を含む。上層には1層を含む。
- 4 濃褐色土 3層よりやや黒味帯び、白色粒を含む。灰白色シルト粒を僅かに含む。

4・5・6号溝C

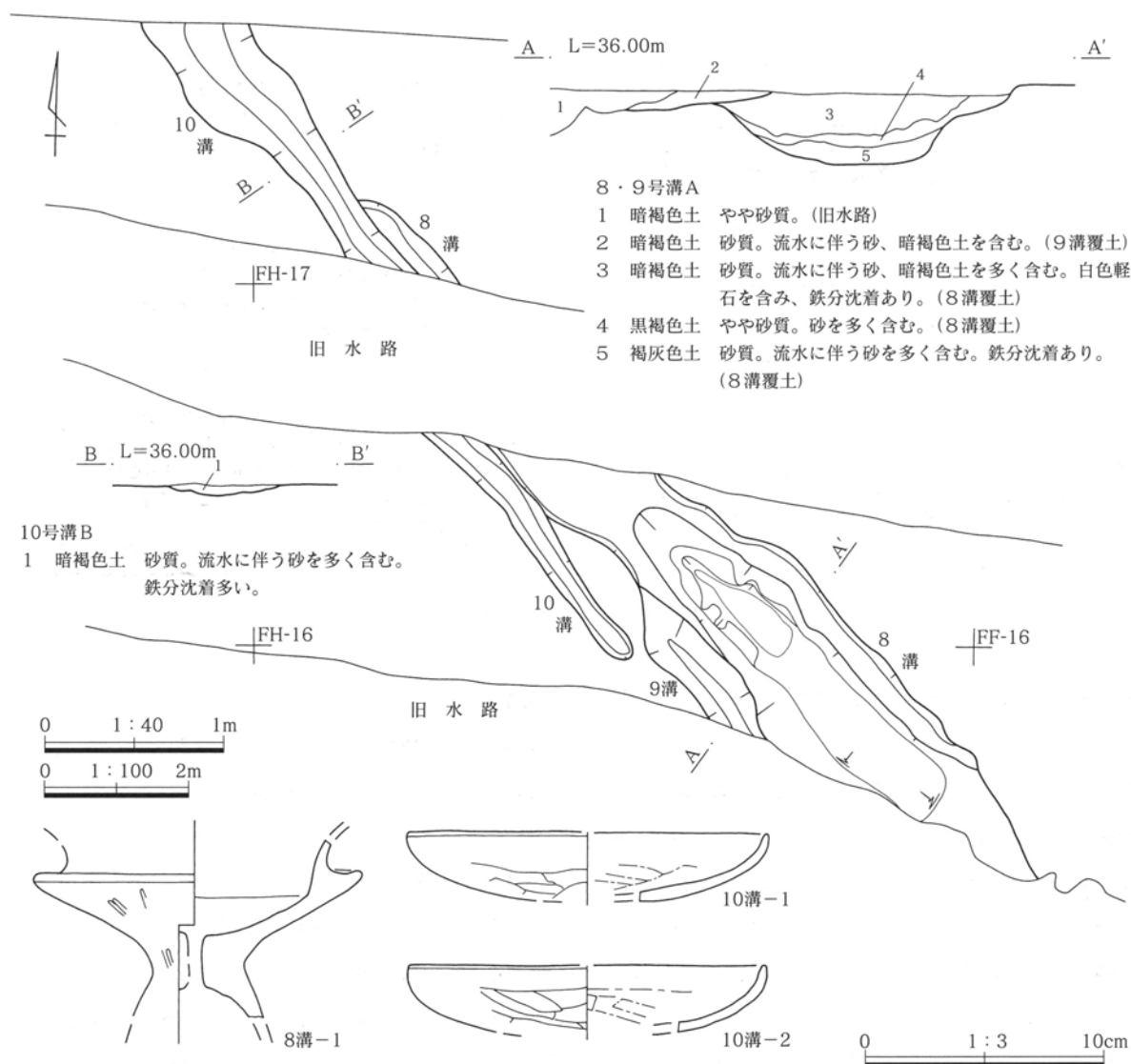
- 1 濃褐色土 白色粒を含む。灰白色シルト粒を僅かに含む。
- 2 濃褐色土 1層よりやや黒味帯び、白色粒をほとんど含まず。
- 3 溝状の攪乱土 地山の灰白色シルト主体。しまり強い。
- 4 濃褐色土 やや黒味を帯び、白色粒をほとんど含まない。粘性あり。

E区8号溝 (第202図、P L39・56)
 位置 FH-17~FG-16 (E-4区)
 重複 9・10号溝と重複している。本溝が古い。
 規模 検出全長10.10m、上端0.31~1.68m、下端0.17~0.80m、深さ0.04~0.13mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-45° -W)
 形態 途中を旧水路で壊されているが、ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。
 遺物 土師器結合器台が出土している。他に、土師器片415g、軟質陶器33g (旧水路からの混入か)が出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期はおおよそ古墳時代と思われる。

遺物 なし。
 所見 出土遺物がなく詳細は不明だが、重複関係・覆土から、時期はおおよそ古代と思われる。

E区9号溝 (第202図、P L39)
 位置 FF-16~FF-15 (E-4区)
 重複 8号溝と重複している。本溝が新しい。
 規模 検出全長2.13m、上端0.65~0.73m、下端0.12~0.19m、深さ0.03~0.13mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-43° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

E区10号溝 (第202図、P L39・56)
 位置 FH-17~FG-16 (E-4区)
 重複 8号溝と重複している。本溝が新しい。
 規模 検出全長8.10m、上端0.31~1.30m、下端0.16~0.52m、深さ0.03~0.15mを測る。
 走向 北西から南東へ (N-35° -W)
 形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。
 遺物 土師器坏が出土している。他に、土師器片237gが出土。
 所見 出土遺物・覆土から、時期はおおよそ古代と思われる。



E区11号溝 (第203図、P L39・56)

位置 GA-18~FQ-17 (E-3区)

重複 7・12号溝と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長34.98m、上端0.39~0.73m、下端0.10~0.30m、深さ0.32~0.43mを測る。

走向 西から東へ (N-83° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 陶器挿鉢が出土している。他に、土師器片32g、軟質陶器片57g、陶磁器片15gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。

E区12号溝 (第203図、P L39)

位置 GA-18~FQ-17 (E-3区)

重複 7・11号溝と重複している。本溝が11溝より古く、7溝より新しい。

規模 検出全長31.08m、上端1.12~1.80m、下端0.23~0.57m、深さ0.34~0.73mを測る。

走向 西から東へ (N-85° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片87g、須恵器片20g、軟質陶器片50gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。

E区13号溝 (第203図、PL39)

位置 GA-17~FQ-17 (E-3区)

重複 7・14号溝と重複している。本溝が7溝より新しく、14溝より古い。

規模 検出全長23.64m、上端0.87~1.13m、下端0.15~0.30m、深さ0.19~0.32mを測る。

走向 西から東へ (N-90° -W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は皿状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片120gが出土。

所見 覆土から、時期は中世以降と思われる。

E区14号溝 (第203図、PL39)

位置 GA-17~FP-17 (E-3区)

重複 7・13号溝と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長21.98m、上端0.70~1.10m、下端0.36~0.50m、深さ0.11~0.33mを測る。

走向 西から東へ (N-85° -E)

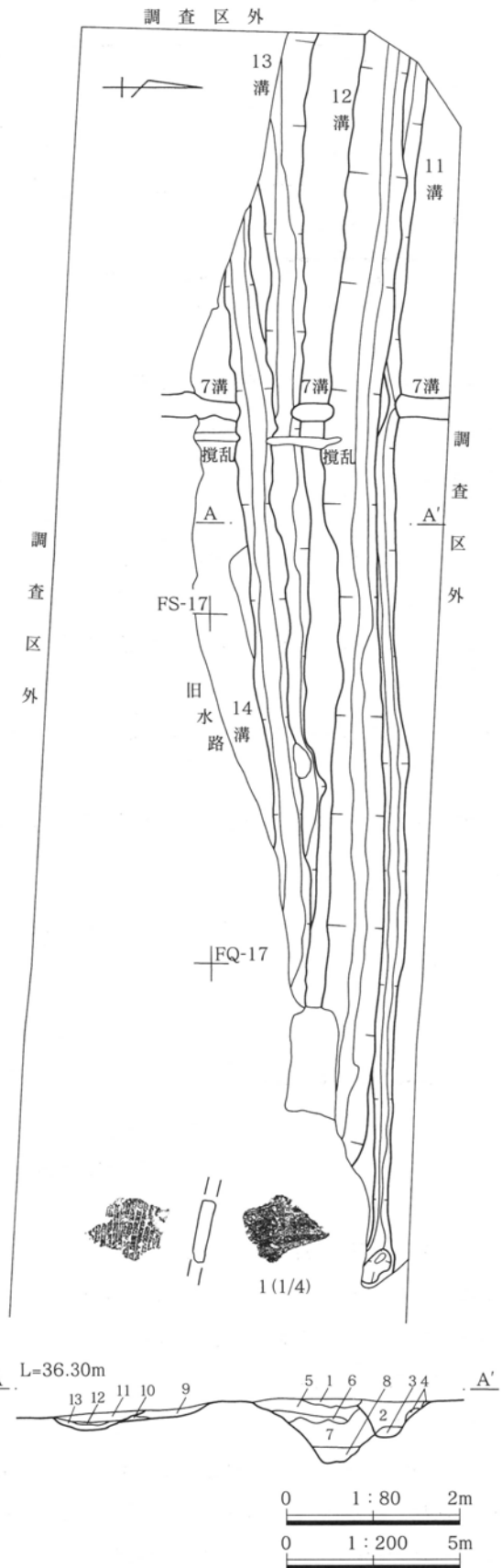
形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片15gが出土。

所見 覆土から、時期は中世以降と思われる。

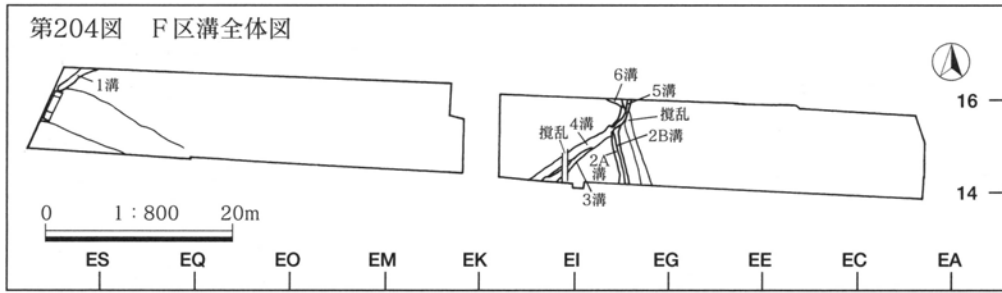
11~14号溝

- 1 濃褐色土 白色粒、白色及び黒褐色土ブロックを含む。
- 2 濃褐色土 上層に白色粒、白色及び黒褐色土ブロックを含む。
- 3 褐色土 やや砂質。鉄分沈着が斑状に認められる。
- 4 暗褐色土 鉄分沈着を多く含む。(2~4層が11溝覆土)
- 5 濃褐色土 白色粒、白色及び黒褐色土ブロックを少し含む。
- 6 黒褐色土 5層に黒褐色土ブロックを多く含む、黒味帯びる。
- 7 濃褐色土 白色及び黒褐色土ブロックを少し含む。
- 8 暗灰色土 粘質。白色粘質土を含み、鉄分沈着が認められる。
(5~8層が12溝覆土)
- 9 濃褐色土 砂質。白色粒・鉄分沈着が斑状に認められる。
- 10 濃褐色土 鉄分沈着が全体的に認められる。粘性ややあり。し
まり強い。(9,10層が13溝覆土)
- 11 暗褐色土 白色粒・鉄分沈着が均一に認められる。
- 12 黒褐色土 白色粒・鉄分沈着が斑状に認められる。
- 13 暗褐色土 白色粒・鉄分沈着が少し認められる。やや粘性あり。
(11~13層が14溝覆土)



第203図 E区11~14号溝、11号溝出土遺物

(6) F区溝



F区1号溝 (第205図、P L39・56)

位置 ES-16 (F-3区)

重複 なし。

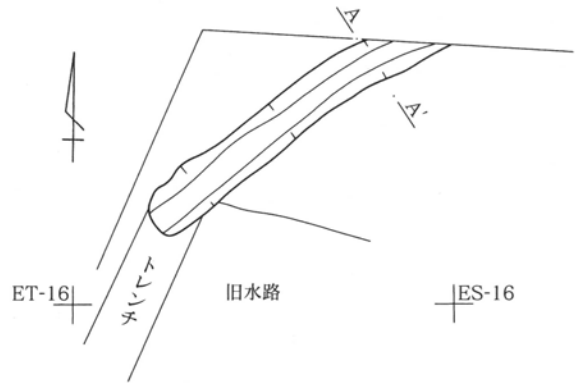
規模 検出全長4.01m、上端0.58~0.69m、下端0.21~0.32m、深さ0.18~0.33mを測る。

走向 北東から南西へ (N-55° - E)

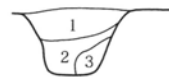
形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 土師器高杯が出土している。他に、土師器片250gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期はおよそ古代と思われる。

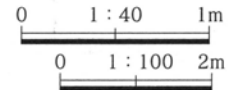
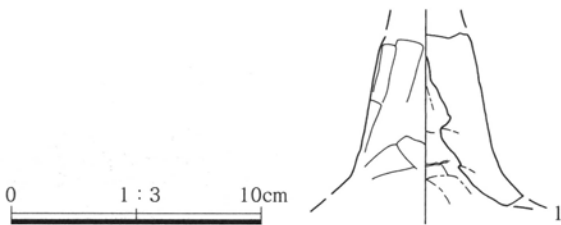


A L=36.40m A'



1号溝A

- 1 暗褐色土 ローム粒を少し含む。しまりやや弱。
- 2 暗褐色土 1層に近似。ローム粒を多く含む。しまり弱。
- 3 黄褐色土 ローム主体で、暗褐色土を少し含む。



第205図 F区1号溝、出土遺物

F区2号溝 (第207図、P L39)

位置 EG-15~EG-14 (F-4区)

重複 3・4・5号溝と重複している。5溝より新しく、4溝より古い。

規模 2A溝: 検出全長5.91m、上端0.30~0.54m、下端0.07~0.19m、深さ0.07~0.23m。2B溝: 検出全長8.12m、上端0.31~0.43m、下端0.14~0.30m、深さ0.15~0.19mを測る。

走向 2A溝: 北北西から南南東へ (N-13° -

W)、2B溝: 北北東から南南西 (N-28° - E) → 北北西から南南東へ (N-13° - W)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片205g、軟質陶器50gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。

F区3号溝 (第207図、P L39)

位置 EH-15~EI-14 (F-4区)

重複 2・4・5号溝と重複している。本溝が4溝より古い。

規模 検出全長4.13m、上端0.32~0.67m、下端0.18~0.28m、深さ0.10~0.20mを測る。

走向 北東から南西 (N-49° - E)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片75g、須恵器片5g、軟質陶器片40gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。

れる。

F区5号溝 (第207図)

位置 EG-15~EH-15 (F-4区)

重複 2・3・4号溝と重複している。本溝が古い。

規模 検出全長3.66m、上端0.29~0.37m、下端0.06~0.20m、深さ0.39~0.41mを測る。

走向 北北東から南南西 (N-7° - E)

形態 やや蛇行しながら走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片90g、須恵器片5g、軟質陶器片40gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代と思われる。

F区4号溝 (第206・207図、P L39・56)

位置 EH-15~EI-14 (F-4区)

重複 2・3・5号溝と重複している。本溝が新しい。

規模 検出全長8.86m、上端0.67~1.07m、下端0.15~0.22m、深さ0.47~0.60mを測る。

走向 北東から南西 (N-59° - E)

形態 ほぼ直線的に走向する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 カワラケ、軟質陶器土鍋、陶器碗が出土している。他に、土師器片590gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思わ

F区6号溝 (第207図)

位置 EH-16~EG-15 (F-4区)

重複 なし。

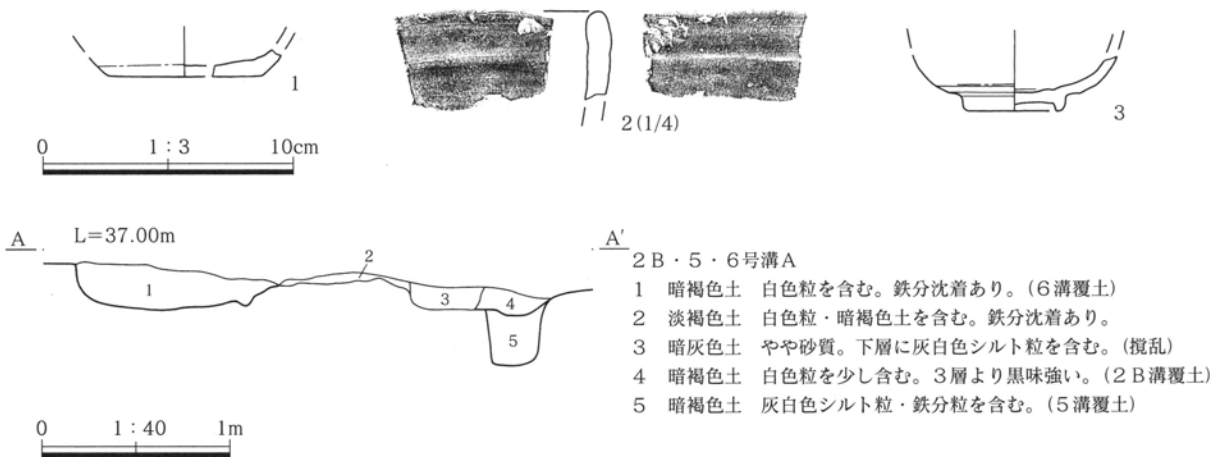
規模 検出全長1.50m、上端0.42~0.52m、下端0.22~0.34m、深さ0.05~0.20mを測る。

走向 北西から南東 (N-36° - W)

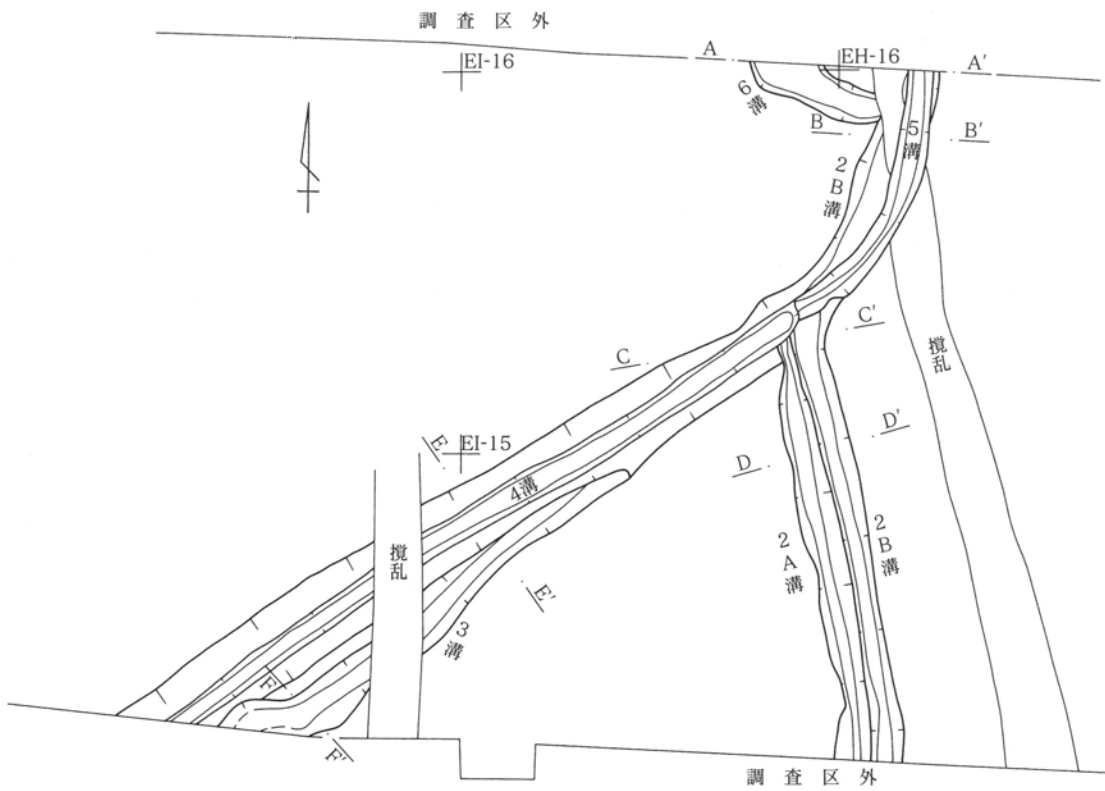
形態 ほぼ直線的に走向し、攪乱で消滅する。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、土師器片50gが出土。

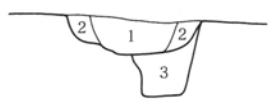
所見 出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。



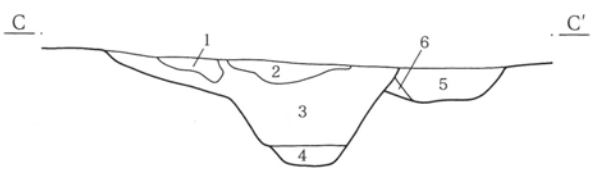
第206図 F区2~6号溝、4号溝出土遺物



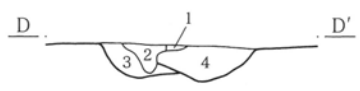
B. L=37.00m B'



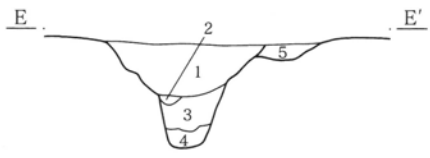
- 2・5号溝B
- 1 暗灰色土 やや砂質。下層に灰白色シルト粒を含む。(攪乱)
 - 2 暗褐色土 白色粒を少し含む。やや黒味強い。(2 B溝覆土)
 - 3 暗褐色土 灰白色シルト粒・鉄分粒を含む。(5溝覆土)



- 2・4号溝C
- 1 暗褐色土 粘質。灰白色シルトブロックを含む。攪乱。
 - 2 暗褐色土 粘質。灰白色シルトブロックを少し含む。攪乱。
 - 3 暗褐色土 やや砂質。灰白色シルトブロックを少し含む。(4溝覆土)
 - 4 淡灰褐色土 鉄分沈着が斑状に認められる。(4溝覆土)
 - 5 暗褐色土 白色粒を少し含む。3層より黒味強い。(2 B溝覆土)
 - 6 暗褐色土 白色粒を少し含む。(2 A溝覆土)



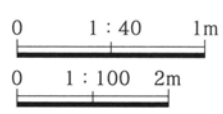
- 2 A・B号溝D
- 1 暗褐色土 粘質。灰白色シルトブロックを含む。攪乱。
 - 2 暗褐色土 粘質。灰白色シルトブロックを少し含む。攪乱。
 - 3 暗褐色土 白色粒を少し含む。(2 A溝覆土)
 - 4 暗褐色土 白色粒を少し含む。3層より黒味強い。(2 B溝覆土)



- 3・4号溝E
- 1 暗褐色土 やや砂質。灰白色シルトブロックを少し含む。
 - 2 灰白色シルト 1層が少し混じる。
 - 3 暗褐色土 やや砂質。灰白色シルトブロックを多く含む。砂質層、粘質層が混じる。
 - 4 淡灰褐色土 鉄分沈着が斑状に認められる。
 - 5 暗褐色土 粘性あり。やや固くしまる。(3溝覆土)



- 3号溝F
- 1 暗褐色土 粘性あり。やや固くしまる。



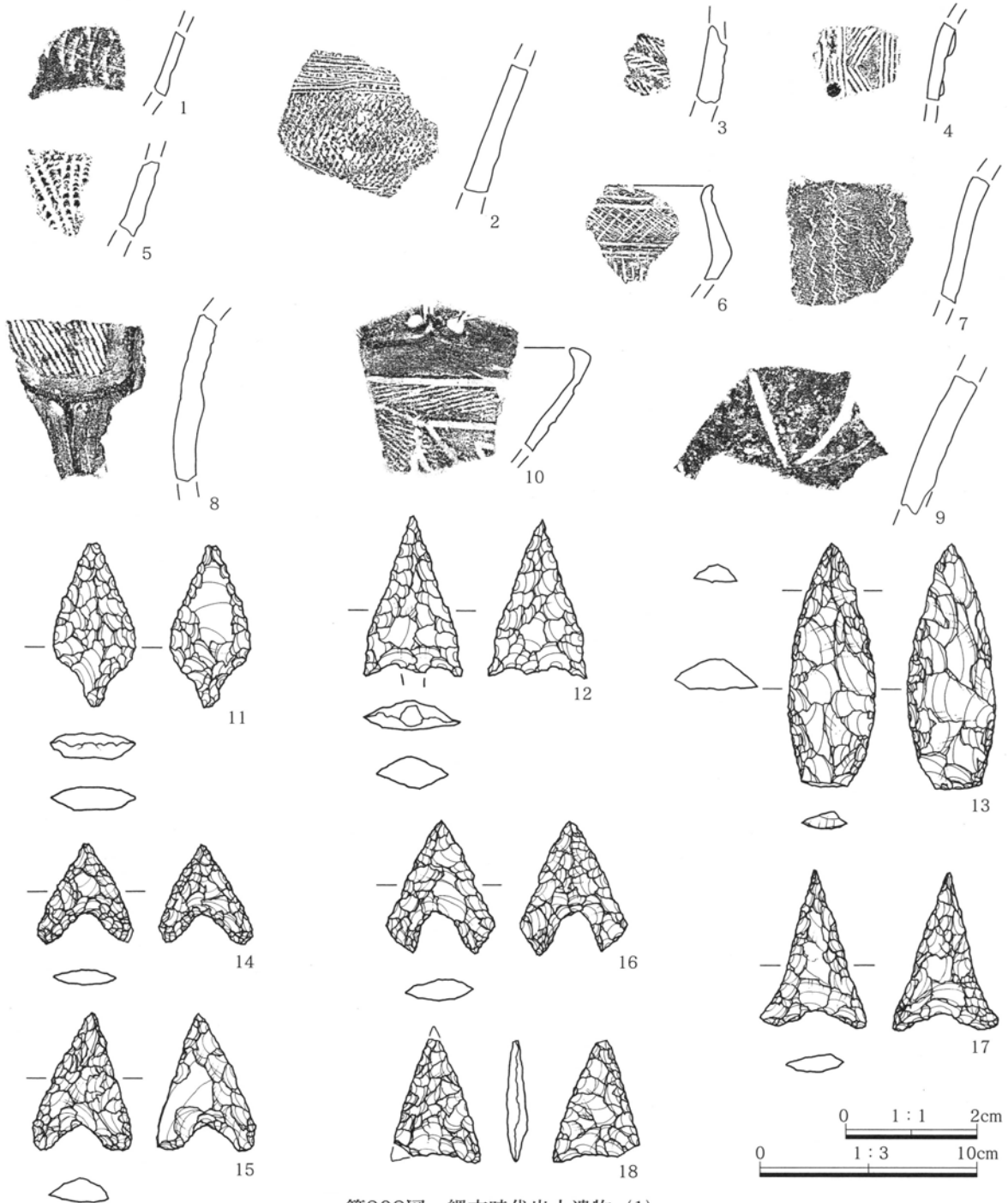
第207図 F区2～6号溝

第7節 遺構外出土遺物

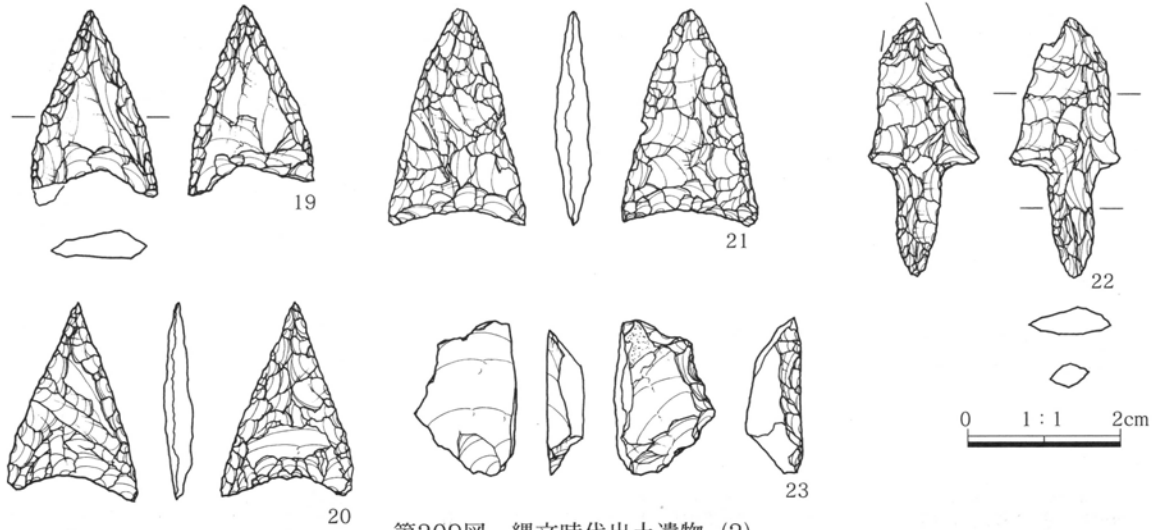
本節では、住居跡・溝・土坑等の遺構出土以外の遺物を扱う。また、表土掘削時出土のものや、遺構出土ながら帰属の不詳なものを取り上げた。縄文時代の土器・石器から中世以降の陶磁器・瓦等まで幅広い時期の遺物が出土した。

1 縄文時代 (第208・209図、P L56・57)

本遺跡では、縄文時代の遺構はA区で、土坑が1基検出されたのみである。遺物は、前期後半～後期前半までの土器片約100点、石器十数点である。



第208図 縄文時代出土遺物 (1)

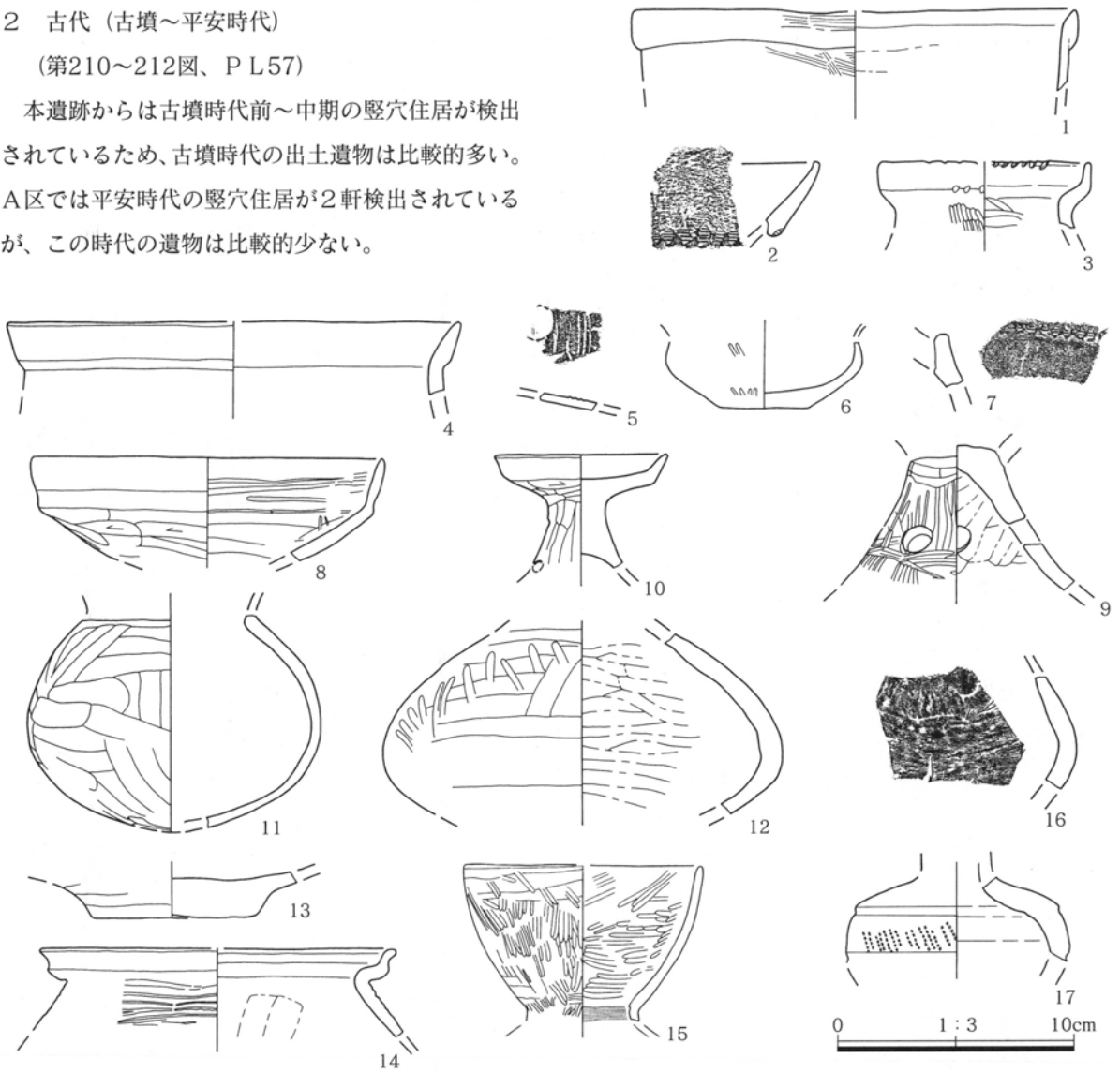


第209図 縄文時代出土遺物 (2)

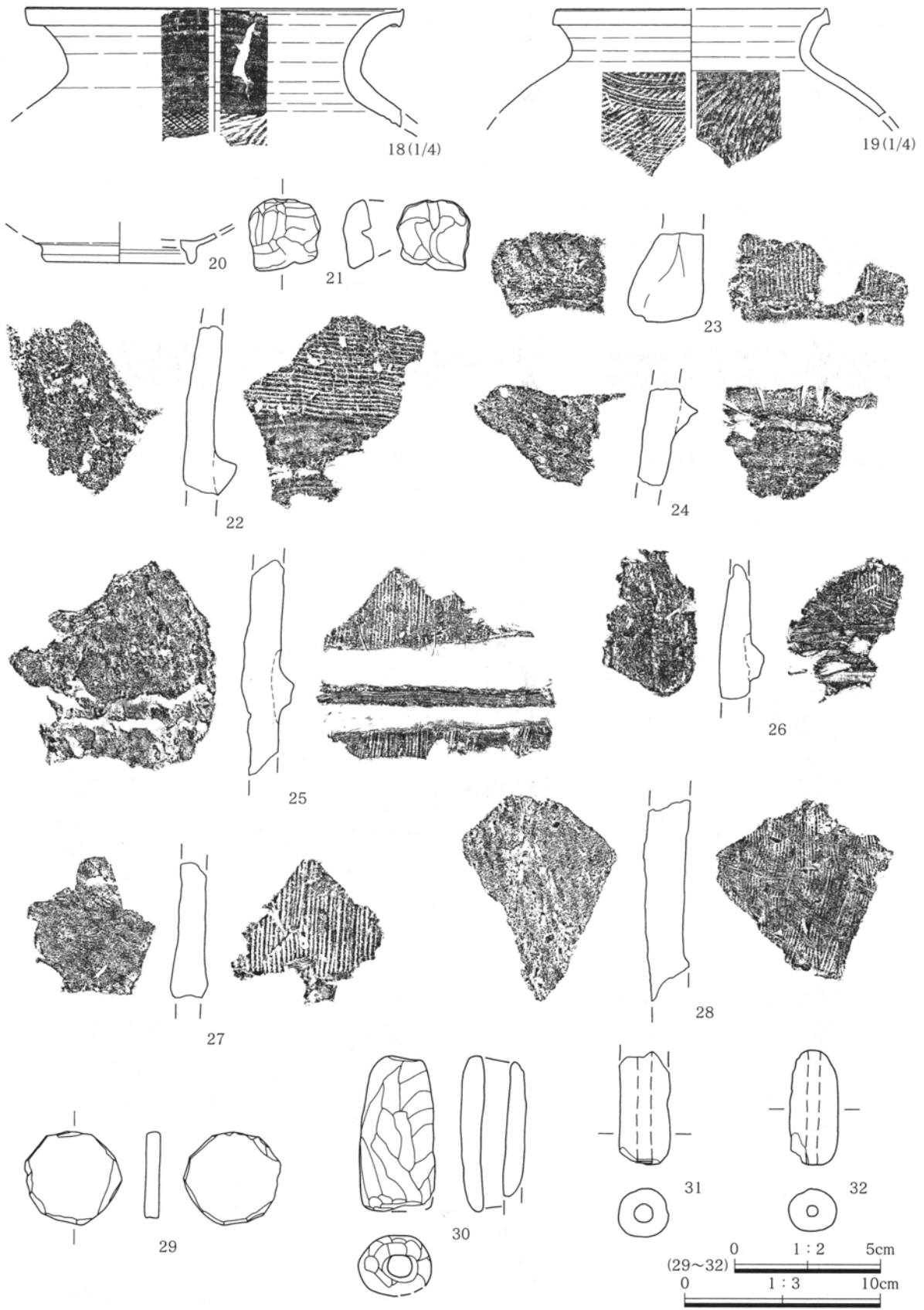
2 古代 (古墳～平安時代)

(第210～212図、P L57)

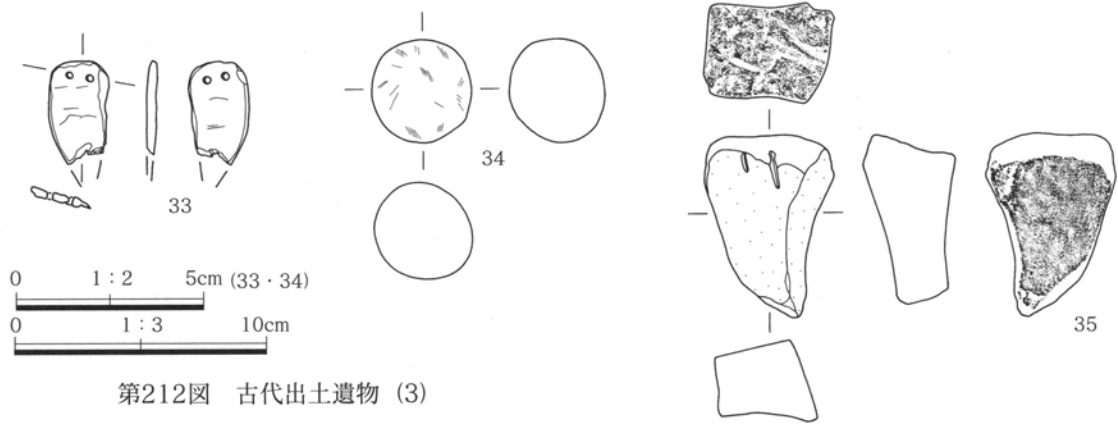
本遺跡からは古墳時代前～中期の竪穴住居が検出されているため、古墳時代の出土遺物は比較的多い。A区では平安時代の竪穴住居が2軒検出されているが、この時代の遺物は比較的少ない。



第210図 古代出土遺物 (1)



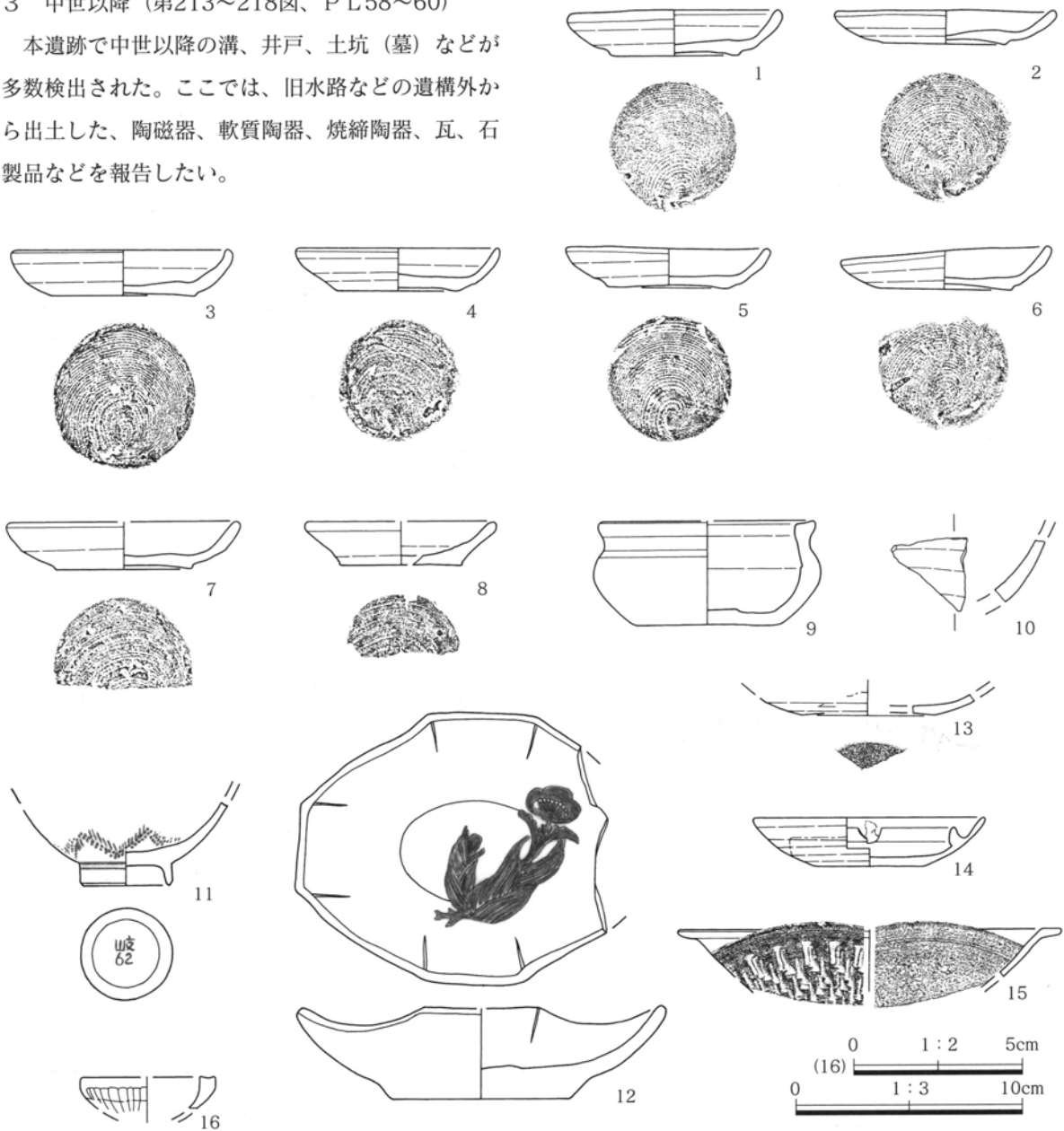
第211図 古代出土遺物 (2)



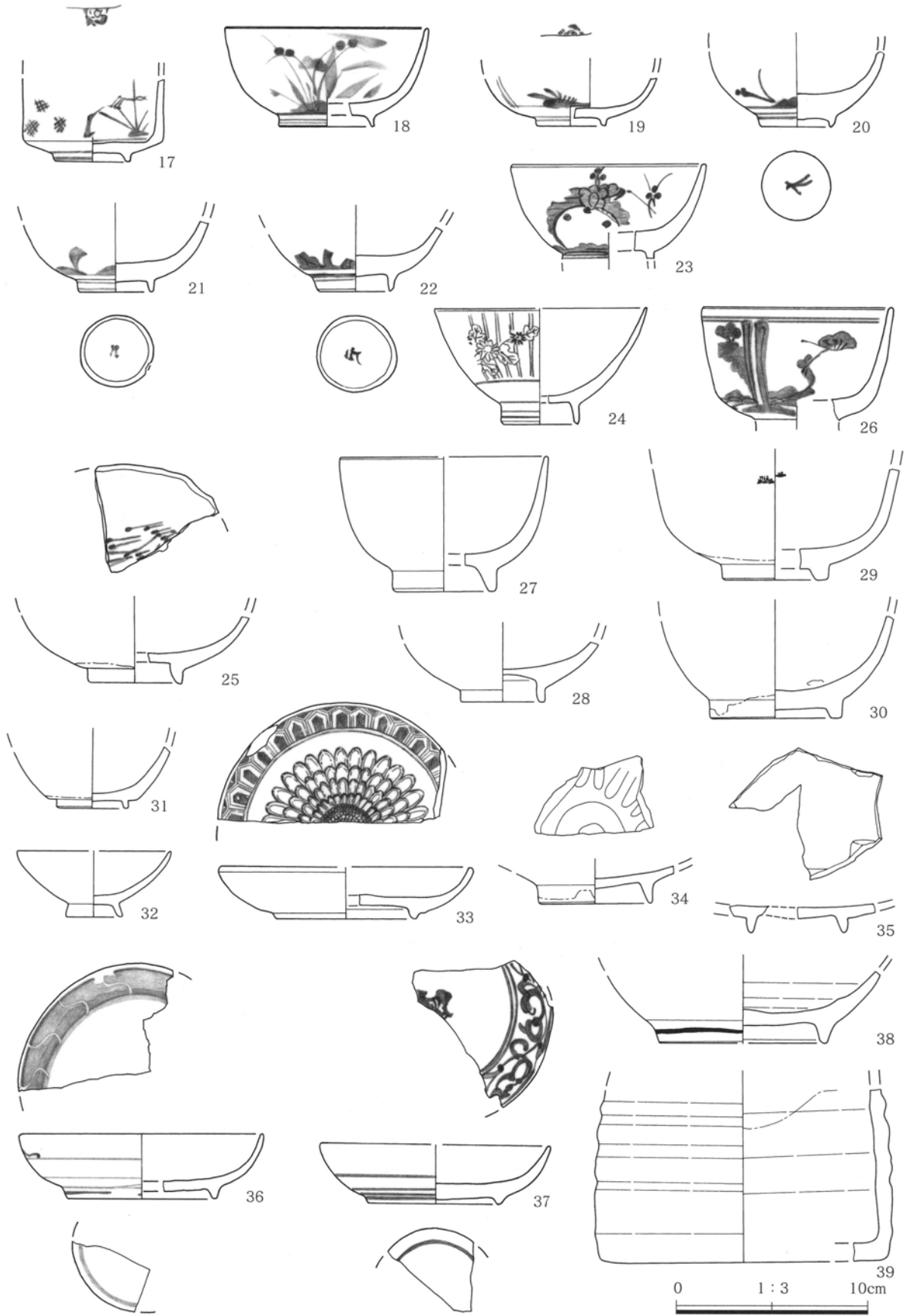
第212図 古代出土遺物 (3)

3 中世以降 (第213~218図、P L58~60)

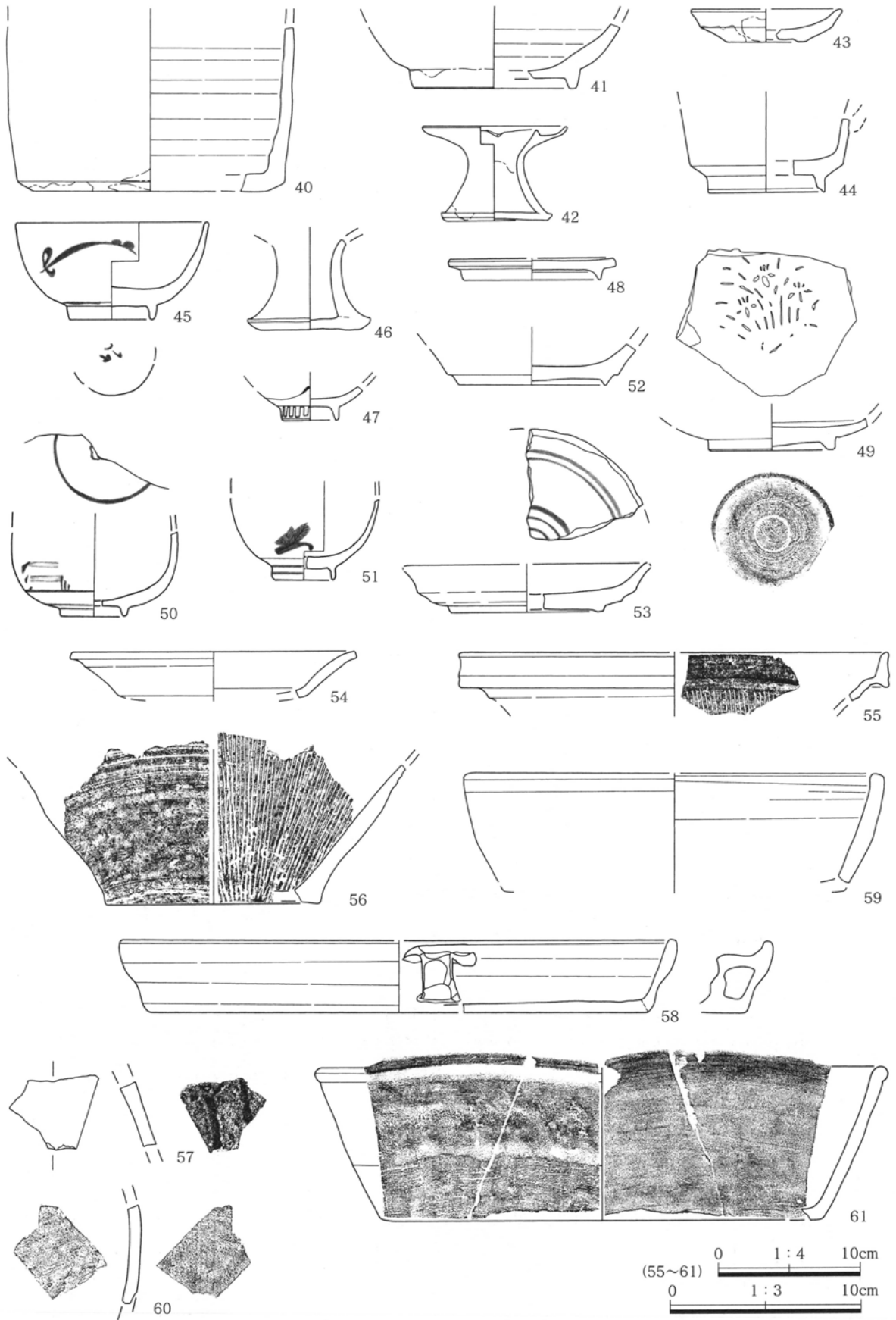
本遺跡で中世以降の溝、井戸、土坑(墓)などが多数検出された。ここでは、旧水路などの遺構外から出土した、陶磁器、軟質陶器、焼締陶器、瓦、石製品などを報告したい。



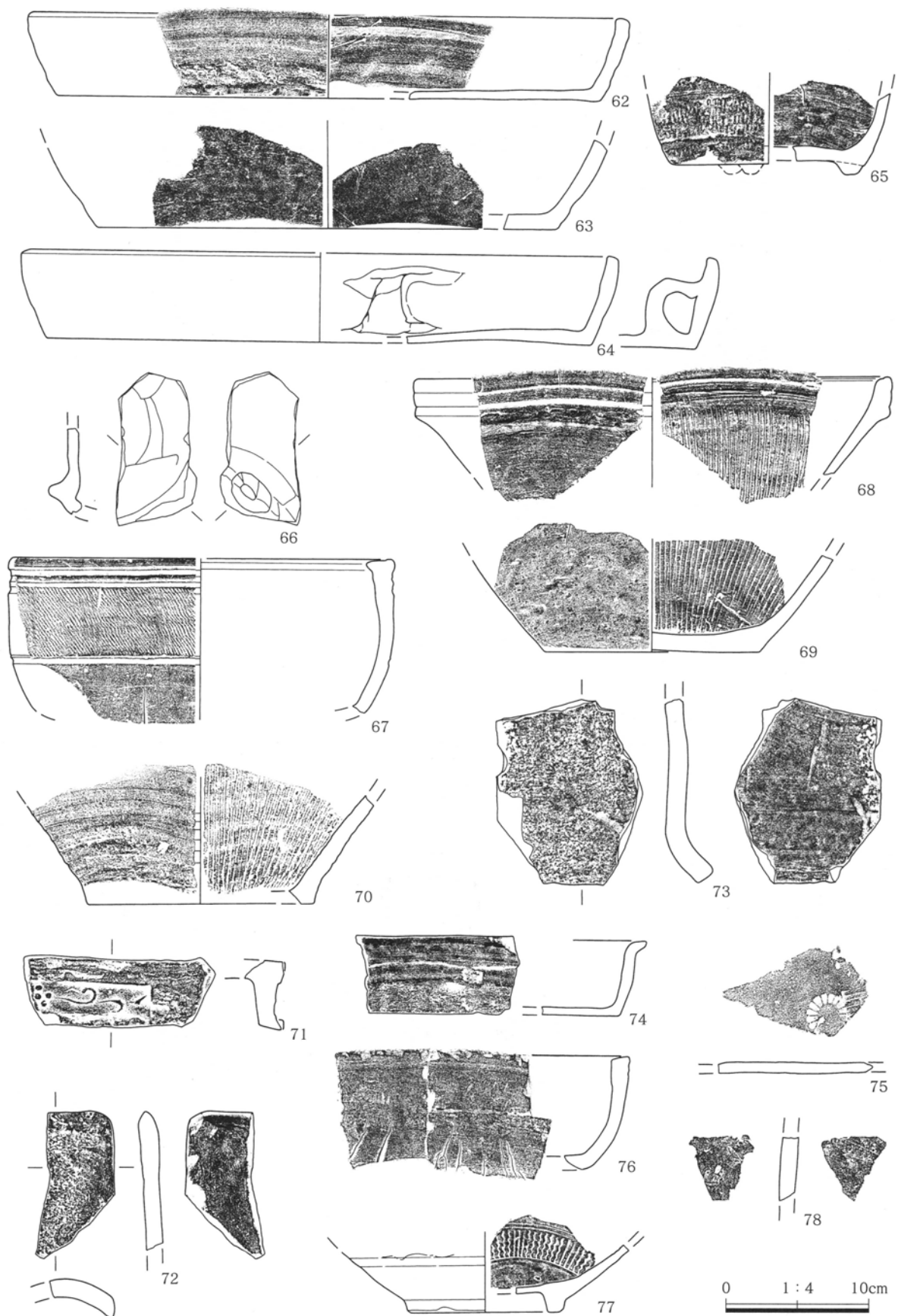
第213図 中世以降出土遺物 (1)



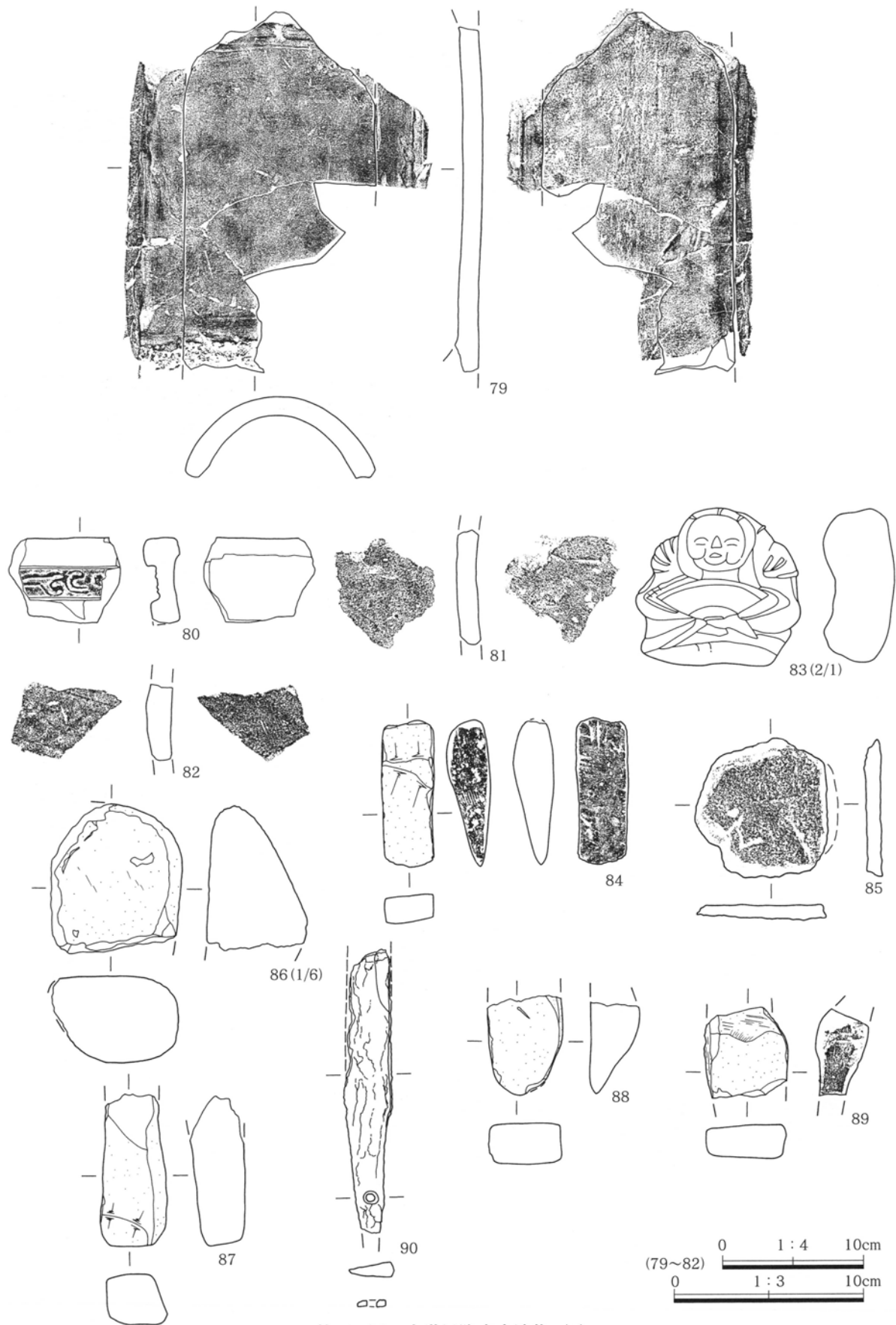
第214図 中世以降出土遺物 (2)



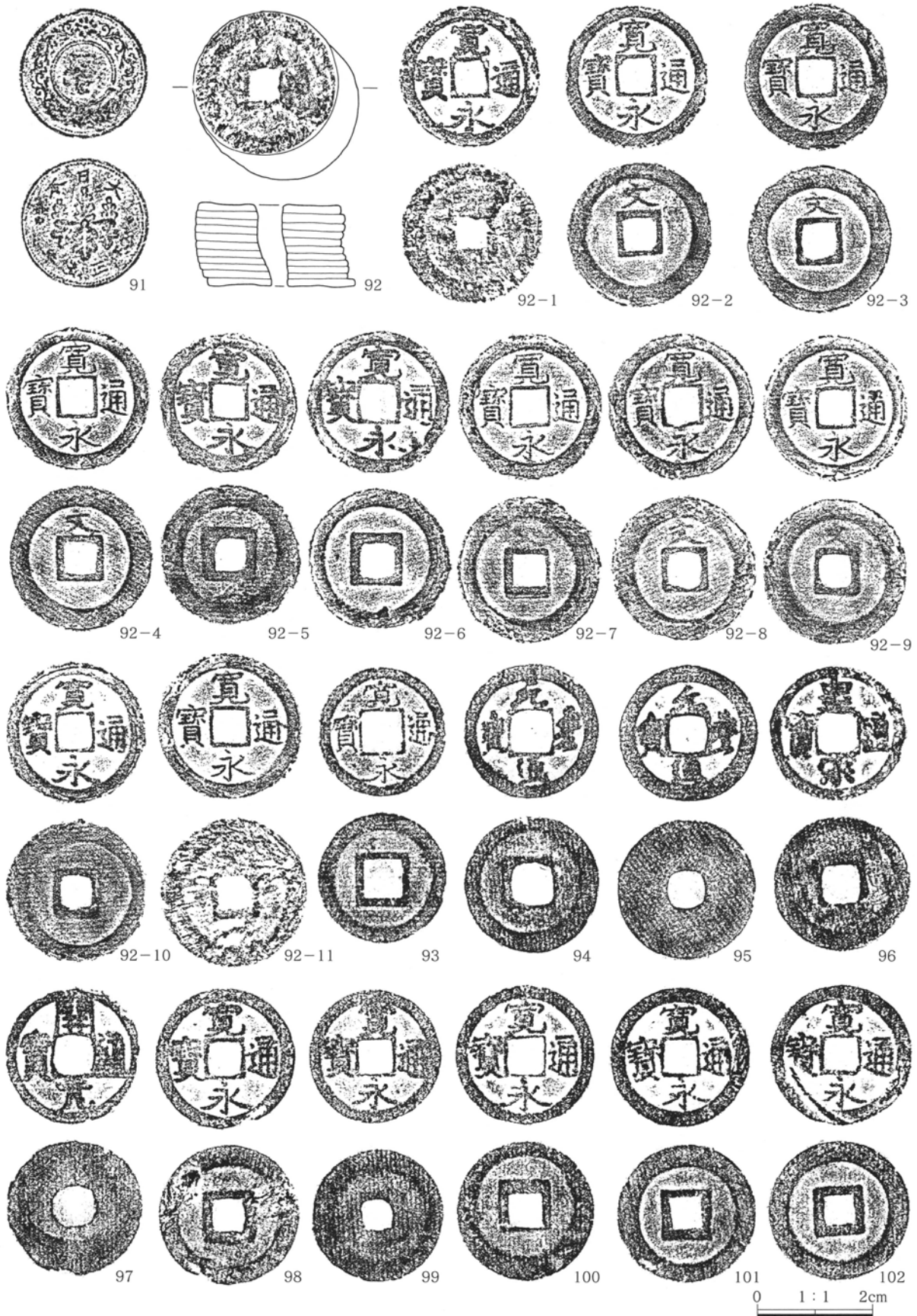
第215図 中世以降出土遺物 (3)



第216図 中世以降出土遺物 (4)



第217図 中世以降出土遺物 (5)



第218圖 中世以降出土遺物 (6)

第4章 八反田遺跡の遺構と遺物

第1節 八反田遺跡の概要

八反田遺跡では、岩瀬川と憩川に挟まれた沖積地に立地し、遺跡周辺は水田・畑が広がり、その周辺は宅地となっている。遺構確認面までの表土が薄く、篠竹などが繁茂していたこともあり、遺構の残存状態は良好ではなかった。Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ区は1面、Ⅲ・Ⅳ区は2面（上面は中世以降、下面は古代）を調査した。溝・土坑・井戸などの遺構が検出されたが、ほとんどが中世以降のもので、古代以前の遺構は少なかった。検出された遺構は溝46条、井戸5基、土坑6基、ピット15基である。以下、各時代ごとに遺跡の概要を記すことにする。

旧石器・縄文・弥生時代

本遺跡では、旧石器・縄文・弥生時代の遺構・遺物は検出されていない。

古墳時代

本遺跡からは古墳時代と思われる遺構は、溝1条が検出された。遺物としては古墳時代前期から中期の土師器・須恵器片・勾玉など出土している。

奈良・平安時代

溝18条、土坑1基（5号）、ピット1基（15号）が検出された。多くの溝覆土中より、8～9世紀の土師器・須恵器片が出土した。6号溝は、調査区を南北に走向する方向で検出され、覆土にAs-B混土を堆積し、巾2m・深さ1mほどの大規模な溝である。本溝は東山道武蔵路の側溝の可能性があるとされたが確証は得られなかった。

中世以降

溝27条、井戸4基（1・2・4・5号）、土坑1基（9号）、ピット10基が検出された。4号溝は、調査区を東西に走向し、規模も大きく近世まで機能していた可能性も考えられる。13号溝からは中国

青磁碗が出土した。その他の溝覆土中からは、カワラケ、陶磁器片などが出土した。ほとんどの溝は流水の痕跡があり、水田に伴う用水路と思われるが、数条の溝は直角に曲がるものがあり、区画溝と考えられる。井戸・土坑からは、古銭（開元通宝）やカワラケ・砥石などが出土した。

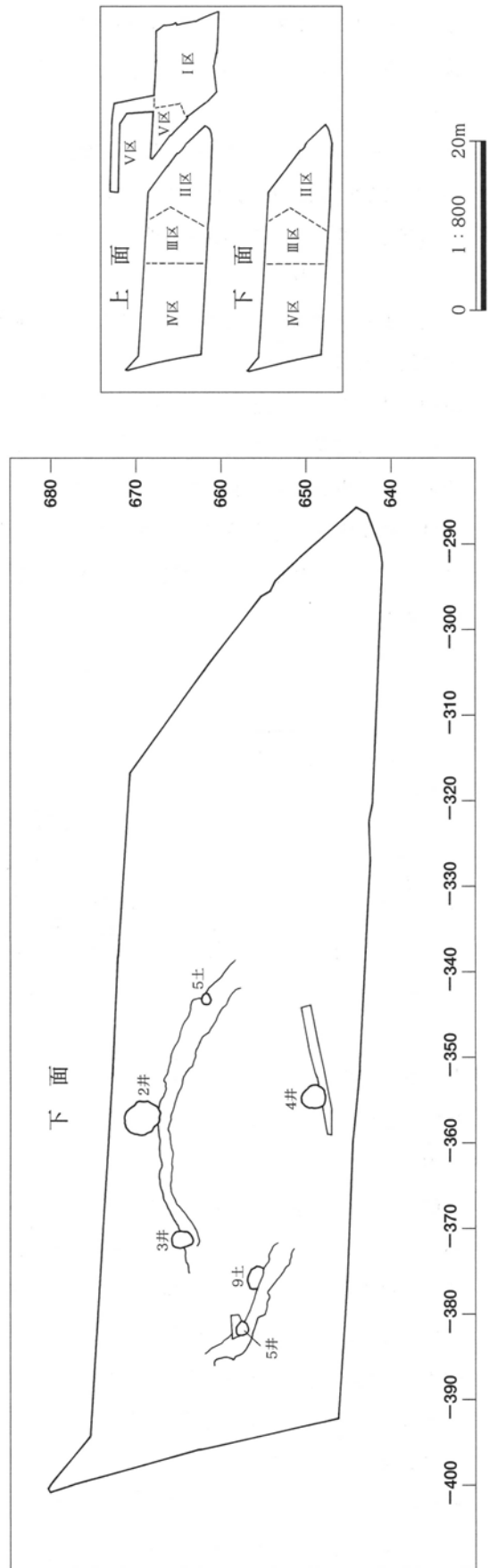
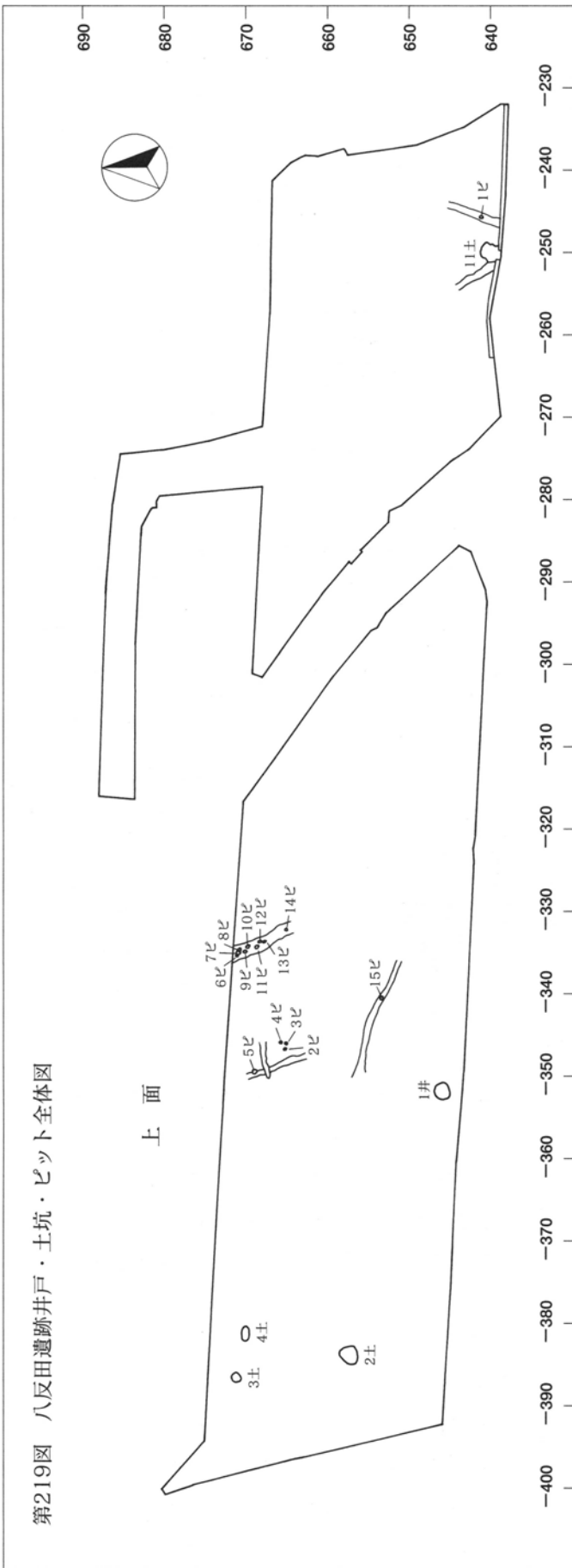
第2節 井戸・土坑・ピット

井戸・土坑・ピットの概要

本遺跡で検出された井戸は、5基である。5基とも、人力で掘削したため、2号井戸は深度が深く危険を伴うので完掘できなかった。時期は1・2・4・5号井戸は中世、3号井戸は時期不明である。

検出された土坑は、6基である。1・6・7・8・10号土坑は井戸へ変更したため、欠番である。多くは時期認定の決め手になる遺物が含まれていなかったため、覆土や形状から時期を判別したが、概ね古代から中世（古代1基、中世1基、時期不明4基）の所産と思われる。

また、本遺跡で検出されたピットは、15基である。ピットのほとんどは覆土から、概ね中世以降（古代2基、中世以降13基）の所産と思われる。井戸・土坑は、すべてを報告する。ピットは計測表で報告したい。



第4章 八反田遺跡の遺構と遺物

(1) 井戸

1号井戸 (第220図、P L63・69・70)

位置 III区上面、645-350G

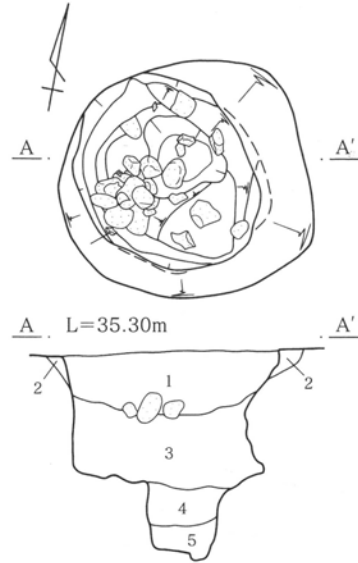
重複 なし。

形態 確認面でほぼ円形を成す。断面は上位から1mの地点で急に細くなり、その下位は径0.6m程の筒状を呈す。上位から0.9m地点の東側面にアグリの痕跡が見られる。

規模 長軸×短軸 上面2.1m×1.9m、下面0.5m×0.6m、深さ1.6m

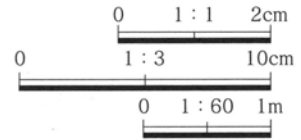
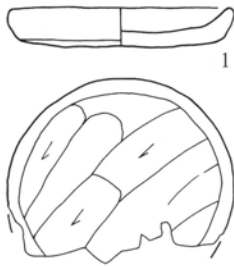
遺物 カワラケ、古銭 (開元通宝)、石造物 (五輪塔か) の未製品が3点出土している。他に、土師器片8g、須恵器片350gが出土。

所見 覆土中層には多数の礫が廃棄されており、人為埋没と想定される。出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。



1号井戸

- 1 暗褐色土 白黄褐色軽石を僅かに含む。粘性中。しまり中。
- 2 暗灰褐色土 灰褐色シルトブロックを多く含む。崩落土か。しまり強。
- 3 暗褐色土 白黄褐色軽石・白褐色シルトブロックを含む。粘性中。しまり中。
- 4 暗灰色土 粘質土。12号溝セクション 重複なし。
- 5 暗灰色土 粘質土。白褐色シルトブロックを少し含む。粘性強。しまり中。



第220図 1号井戸、出土遺物

2号井戸 (第221図、P L63)

位置 III区下面、665-355G

重複 なし。

形態 確認面で不整形を成す。断面は上位から1.5mの地点で急に細くなり、その下位は径0.9m程の筒状を呈す。人為掘削では危険を伴うため、完掘できなかったため、井戸下部の詳細は不明。

規模 長軸×短軸 上面3.5m×4.0m、下面不明 (約0.7m)、深さ 不明 (約3.5m)

方位 N-39° -W

遺物 掲載遺物はないが、カワラケ、土師器片55g、須恵器片1130g、軟質陶器片65g、埴輪片

190gが出土している。また、獣骨が出土しており、当事業団職員榎崎修一郎氏による鑑定で馬歯であると判明した。しかしながら、出土馬歯は、破片になっており歯種の同定は不可能である。

所見 出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。

3号井戸 (第221図、P L63)

位置 III区下面、660-370G

重複 26号溝と重複している。本遺構が新しい。

形態 確認面で不整形を成す。断面は上位から1.1mの地点でやや細くなり、その下位は径1.2~1.4m程の筒状を呈す。上位から1.0m地点の北側面に

アグリの痕跡が見られる。

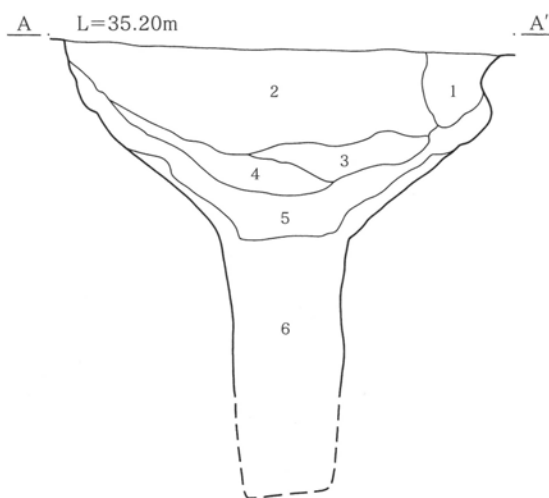
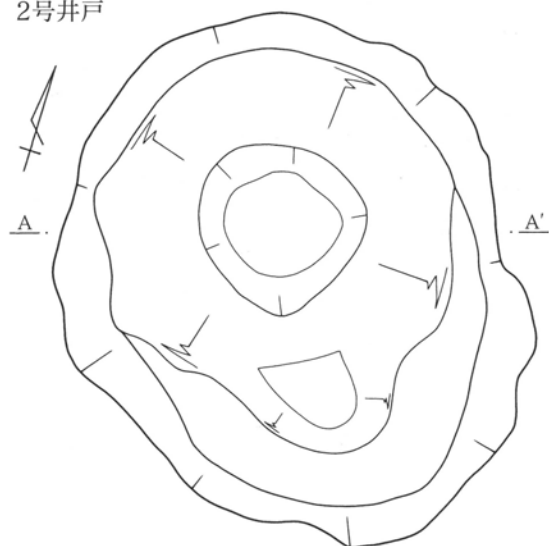
規模 長軸×短軸 上面 2.2m×2.5m、下面0.8m×1.2m、深さ2.5m

方位 N-17° - E

遺物 出土遺物はない。

所見 出土遺物もなく、時期は確定できなかった。

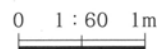
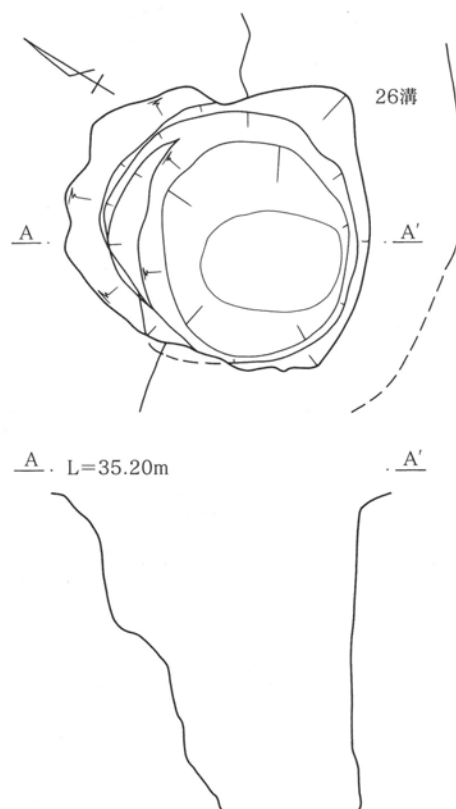
2号井戸



2号井戸

- 1 暗灰褐色土 白色軽石を僅かに含む。粘性中。しまり中。攪乱。
- 2 暗灰褐色土 小礫・青灰シルトブロックを僅かに含む。粘性中。しまり中。
- 3 暗灰褐色土 2層に近似。青灰シルトブロックを僅かに含む。粘性中。しまり中。
- 4 暗灰色土 白褐色シルトブロックを少し含む。粘性強。しまり中。
- 5 暗灰色土 白黒褐色シルト、青灰色ブロックを多く含む。粘性強。しまり中。
- 6 白褐色土 白褐色シルトブロックを多く含む。下層は青灰色。粘性強。しまり中。

3号井戸



第221図 2・3号井戸

4号井戸 (第222図、P L63)

位置 Ⅲ区下面、645-350G

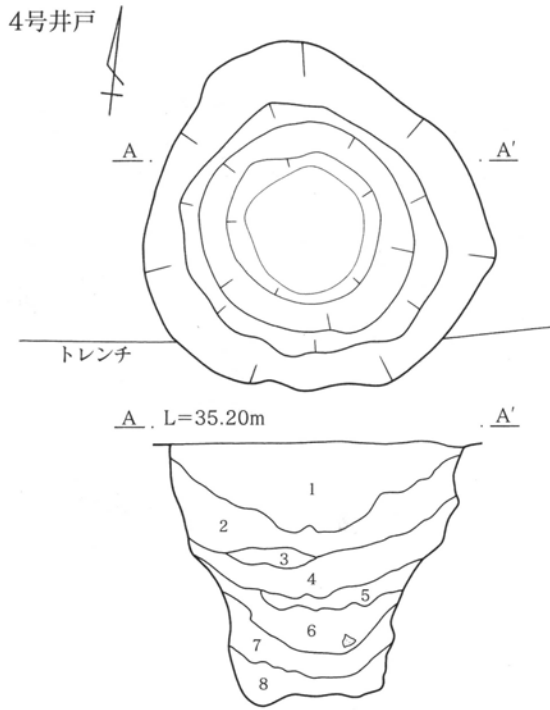
重複 なし。

形態 確認面ではほぼ円形を成す。断面は上位から緩やかに細くなり、下位は径1.0m程の筒状を呈す。

規模 長軸×短軸 上面 2.8m×2.7m、下面1.0m×0.9m、深さ2.0m

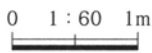
遺物 掲載遺物はないが、陶器甕片、土師器片8g、須恵器片160gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。



4号井戸

- 1 暗褐色土 白色軽石・白色粘土ブロックを少し含む。
- 2 褐色土 1層と近似。黄褐色粘質・黒褐色ブロックを含む。
- 3 褐色土 2層と近似。As-B軽石・黒褐色ブロックを少し含む。
- 4 灰白色土 灰白色土・白色シルト・黒色粘質土の混土层。
- 5 黒褐色土 As-B軽石を主体とする。黒色粘質土ブロックを少し含む。
- 6 黒褐色土 黒褐色粘質土を主体とする。白色粘質土ブロックを少し含む。
- 7 黒褐色土 As-B軽石・黄褐色粒を縞状に含む。一部に白色粘質土ブロックを少し含む。
- 8 黒色土 黒褐色粘質土を主体とする。白色粘質土ブロックを少し含む。



(2) 土坑

2号土坑 (第222・223図、P L63・69)

位置 III区上面655-380G

重複 なし。

形態 不整形

規模 長軸2.5m×短軸2.2m×深さ1.2m

方位 N-34° - E

遺物 砥石が1点出土している。他には出土遺物はない。

所見 出土遺物が少なく、時期は不明。

5号井戸 (第222図、P L63)

位置 III区下面655-380G

重複 なし。

形態 確認面で楕円形を成す。断面は径1.3m程の筒状を呈す。

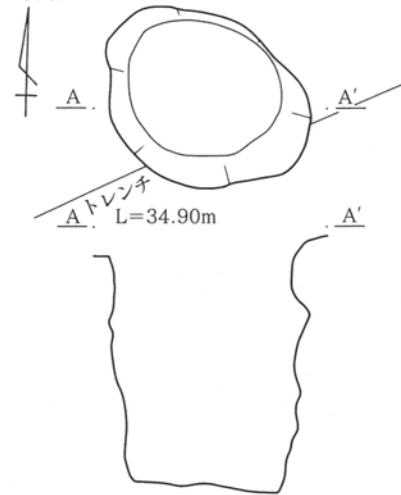
規模 長軸×短軸 上面1.8m×1.3m、下面 1.0m×1.2m、深さ2.0m

方位 N-59° - W

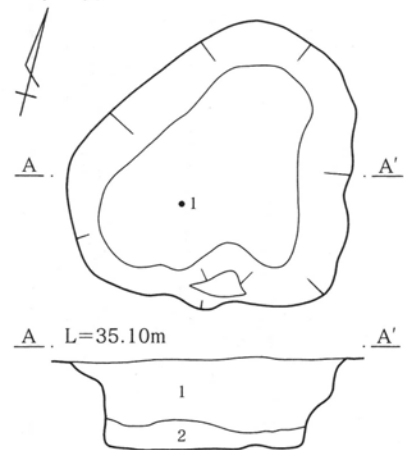
遺物 掲載遺物はないが、カワラケ、土師器片20g、須恵器片140gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。

5号井戸



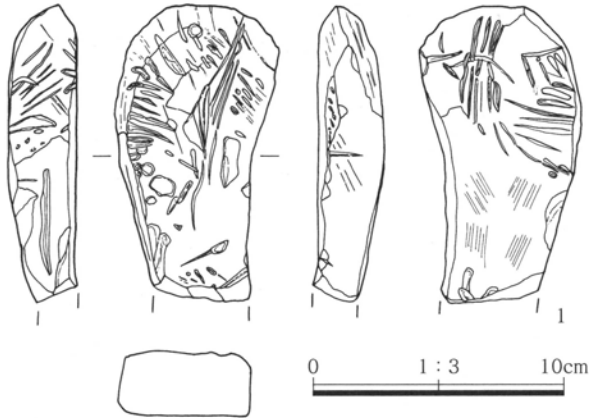
2号土坑



2号土坑

- 1 暗灰褐色土 白・黄褐色シルトブロックを多く含む。黄褐色軽石を少し含む。粘性中。しまり中。
- 2 暗灰褐色土 白・黄褐色シルトブロックを少し含む。粘性中。しまり中。

第222図 4・5号井戸、2号土坑



3号土坑 (第223図、P L63)

位置 Ⅲ区上面670-385G

重複 なし。

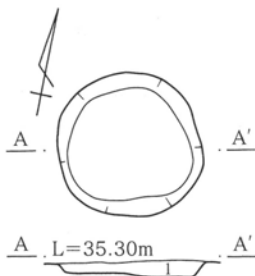
形態 円形

規模 径1.1m×深さ0.1m

遺物 出土遺物はない。

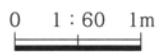
所見 出土遺物がなく、時期は不明。

3号土坑



3号土坑

1 暗灰褐色土 白・黄褐色シルトブロックを多く含む。白色軽石を僅かに含む。粘性中。しまり強。



4号土坑 (第223図、P L64)

位置 Ⅲ区上面670-380G

重複 なし。

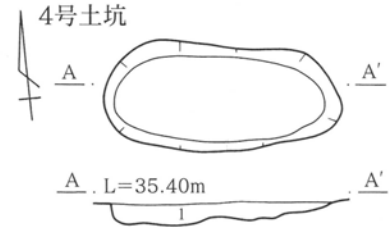
形態 楕円形

規模 長軸1.9m×短軸0.8m×深さ0.2m

方位 N-82° -W

遺物 出土遺物はない。

所見 出土遺物がなく、時期は不明。



4号土坑

1 暗灰褐色土 白・黄褐色シルトブロックを多く含む。白色軽石を僅かに含む。粘性中。しまり強。

5号土坑 (第223図、P L64)

位置 Ⅲ区下面660-340G

重複 26号溝と重複している。本遺構が新しい。

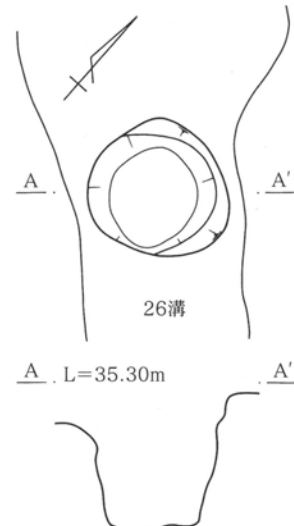
形態 円形

規模 径1.1m×深さ1.0m

遺物 出土遺物はない。

所見 覆土等から、時期は古代と思われる。

5号土坑



9号土坑 (第224図、P L64)

位置 Ⅲ区下面655-375G

重複 なし。

形態 9A土坑は不整形、9B土坑は楕円形。

規模 9A土坑 長軸・短軸不明×深さ0.2m

9B土坑 長軸1.6m×短軸1.2m×深さ0.3m

方位 N-74° -W

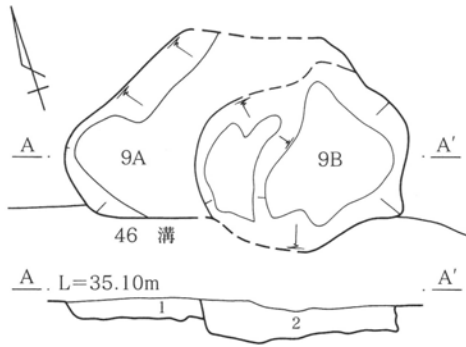
遺物 掲載遺物はないが、カワラケ片と土師器片68gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。

第223図 3～5号土坑、2号土坑出土遺物

第4章 八反田遺跡の遺構と遺物

9号土坑



9号土坑

- 1 暗灰褐色土 黒褐色シルトブロックを多く含む。白色軽石を少し含む。粘性中。しまり中。
- 2 暗灰褐色土 白・黒褐色シルトブロックを少し含む。白色軽石を少し含む。粘性中。しまり中。

11号土坑

- 1 黒褐色土 As-B軽石・白色シルトブロックを含む。粘性中。しまり強。
- 2 黒褐色土 As-B軽石・白色シルトブロックを多く含む。粘性強。しまり強。

11号土坑 (第224図、P L64)

位置 1区640-250G

重複 なし。

形態 不整形

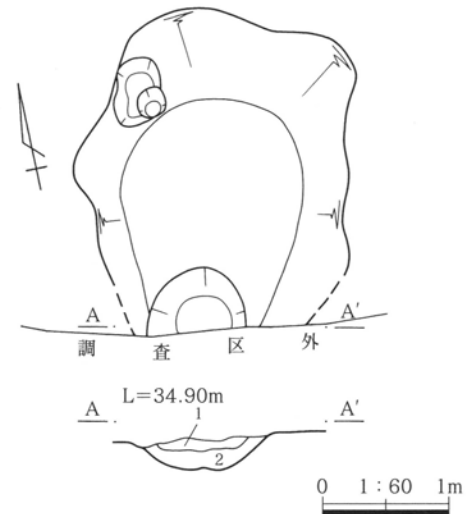
規模 長軸 (2.6) m×短軸2.1m×深さ0.3m

方位 N-11° -E

遺物 出土遺物はない。

所見 出土遺物がなく、時期は不明。

11号土坑



第224図 9・11号土坑

(3) ピット計測表

第33表 八反田遺跡ピット計測表

番号	区名	位置	形状	規模(長軸×短軸×深さ)	長軸方位	出土遺物	重複関係	備考
1	1区	640-245	楕円形	0.38×0.28×0.26	N-10° -E	須恵器34g	1溝	
2	3区	665-345	楕円形	0.23×0.21×0.10	N-11° -W			
3	3区	665-345	楕円形	0.40×0.33×0.17	N-83° -E			
4	3区	665-345	不整形	0.29×0.27×0.11	N-88° -W			
5	3区	665-345	楕円形	0.84×0.66×0.20	N-24° -W		9溝	
6	3区	670-330	楕円形	0.28×0.22×0.24	N-19° -W		7溝	
7	3区	670-330	楕円形	0.32×0.29×0.13	N-27° -W		7溝	
8	3区	670-330	楕円形	0.30×0.26×0.48	N-87° -E		7溝	
9	3区	670-330	楕円形	0.40×0.26×0.35	N-12° -W		7溝	
10	3区	670-330	楕円形	0.31×0.19×0.49	N-15° -W		7溝	
11	3区	665-330	楕円形	0.36×0.28×0.33	N- 2° -W		7溝	
12	3区	665-330	楕円形	0.40×0.37×0.34	N-51° -E		7溝	
13	3区	665-330	楕円形	0.30×0.24×0.43	N-14° -W		7溝	
14	3区	665-330	楕円形	0.29×0.22×0.34	N-60° -E		7溝	
15	3区	650-340	円形	0.34×0.34×0.30	-		29溝	

第3節 溝

溝の概要

本遺跡の調査で検出された溝は、古墳時代1条、古代17条、中世以降28条（中世16、近世9、近代3）計46条である。

I区で検出された4号溝は、調査区を東西に走向し、大規模で近世まで機能していた可能性が考えられる。13号溝からは中国青磁碗片が出土した。他の溝覆土中からは、カワラケや内耳、陶磁器片などが出土した。ほとんどの溝は流水の痕跡があり、水田に伴う用排水路と思われるが、数条の溝は直角に曲がるものがあり、区画溝と考えられる。6号溝は、調査区を南北に走向する方向で検出され、覆土にAs-B混土を堆積し、巾2m・深さ1mほどの大規模な溝である。本溝は東山道武蔵路と推定される現市道に沿って検出されたため、武蔵路の側溝の可能性があるとされたが、出土遺物の時期・その形状から、平成14年度の調査では側溝として確定するには至らなかった。また、平成16年度に行われた、現市道の東側（V区＝I区の残り）の調査でも反対側の側溝を確認できなかった。

1号溝（第226図、P L64）

位置 I区655-240～635-245G

重複 1号ピットと重複。新旧関係は不明。

規模 検出全長17.5m、上端0.4～1.1m、下端0.2～0.5m、深さ0.05～0.21mを測る。

走向 北北東から南南西へ（N-16°-E）

形態 ほぼ直線的に調査区外へ延びていく。断面形は椀状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片18gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。

2号溝（第226図、P L64・69）

位置 I区655-240～635-230G

重複 4号溝と重複しているが、本遺構が新しい。

規模 検出全長20.8m、上端0.5～0.9m、下端0.3～0.5m、深さ0.2～0.4mを測る。

走向 北西から南東へ（N-4°-W）→北北西から南南東へ（N-27°-W）

形態 ほぼ直線的に調査区外へ延びていく。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 軟質陶器焙烙が出土している。他に、覆土から陶磁器片5gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は近世と思われる。

3号溝（第227図、P L64）

位置 I区655-260～635-250G

重複 4号溝と重複しているが、本遺構が古い。

規模 検出全長18.6m、上端0.4～1.0m、下端0.2～0.4m、深さ0.1～0.2mを測る。

走向 北西から南東へ（N-32°-W）

形態 ほぼ直線的に調査区外へ延びていく。断面形は皿状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から陶磁器片9gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。

4号溝（第228図、P L64）

位置 I区655-235～650-275G

重複 2・3・5号溝と重複。本溝が2号溝より古く、3号溝より新しい。5号溝とはほぼ同時期。

規模 検出全長40.0m、上端1.2～3.0m、下端0.3～2.1m、深さ0.3～0.6mを測る。

走向 西から東へ（N-86°-E）

形態 西側は5号溝と合流し、ほぼ直角に曲がり、東側は直線的に調査区外へ延びていく。断面形は逆台形を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土からカワラケや土師器片33g・須恵器片40g・軟質陶器片50gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世と思われる。

第4章 八反田遺跡の遺構と遺物

溝の形状が逆台形でほぼ直角に曲がって、5号溝に合流していることなどから、館（屋敷）に伴う区画溝と考えられたが、内部施設等は検出されず、溝の用途は不明である。

5号溝（第228図、P L65）

位置 I区680-280~655-270G

重複 4号溝と重複。ほぼ同時期と思われる。

規模 検出全長30.4m、上端0.6~1.8m、下端0.3~1.2m、深さ0.3~0.6mを測る。

走向 北から南へ（N-14° -W）

形態 南側は4号溝に合流しほぼ直角に曲がり、北側は直線的に調査区外へ延びていく。断面形は逆台形を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土からカワラケや土師器片35gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世と思われる。溝の形状が逆台形でほぼ直角に曲がって、4号溝に合流していることなどから、館（屋敷）に伴う区画溝と考えられたが、内部施設等は検出されず、溝の用途は不明である。

6号溝（第229図、P L65・69）

位置 II~III区上面670-330~640-290G

重複 15・16・17・47号溝と重複している。本溝がこれらの溝より古い。

規模 検出全長46.6m、上端1.6~2.0m、下端0.5~0.9m、深さ0.5~0.6mを測る。

走向 西北から南東へ（N-48° -W）

形態 直線的に調査区外へ延びていく。断面形は逆台形を呈する。

遺物 須恵器坏（10世紀後半）が出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は古代（平安）と思われる。6号溝の時期はAs-B軽石で埋没しており、12世紀初頭以前に遡るものと考えられ、また、東山道武蔵路のライン上に位置することから、武蔵路の側溝の一部と想定された。しかし、周辺は現地形が削平改変されているため、道路であれば溝の沿

ってあるべき道路の硬化面に相当する地層状況が溝の両側には確認されず、対になるはずの東側の側溝も平成16年度の調査でも検出されなかった。ただし、溝の東方10mから東は幅員3mの市道となっているため、各地で検出されているその標準的な官道の幅員である12m前後であるとするれば、東側溝はちょうどこの市道の下に埋没している可能性も否定できない。したがって、調査では6号溝は東山道武蔵路の側溝であるという確証は得られなかった。

7号溝（第230図、P L65）

位置 III区上面670-335~650-325G

重複 13・16号溝、6~14号ピットと重複している。本溝が16号溝より古く、13号溝より新しい。ピット群はほぼ同時期。

規模 検出全長20.7m、上端0.4~1.7m、下端0.2~0.7m、深さ0.1~0.4mを測る。

走向 北北西から南南東へ（N-28° -W）

形態 ほぼ直線的に延びていき、2号トレンチ付近で消滅する。断面形は逆台形を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から古銭（銅銭）片1点、土師器片10g、須恵器片263gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。

17号溝（第230図、P L65）

位置 III区上面670-330~650-320G

重複 6・15・16号溝と重複している。本溝が6号溝より新しく、15・16号溝より古い。

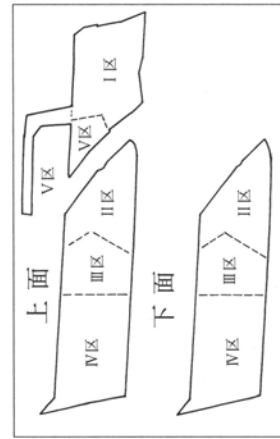
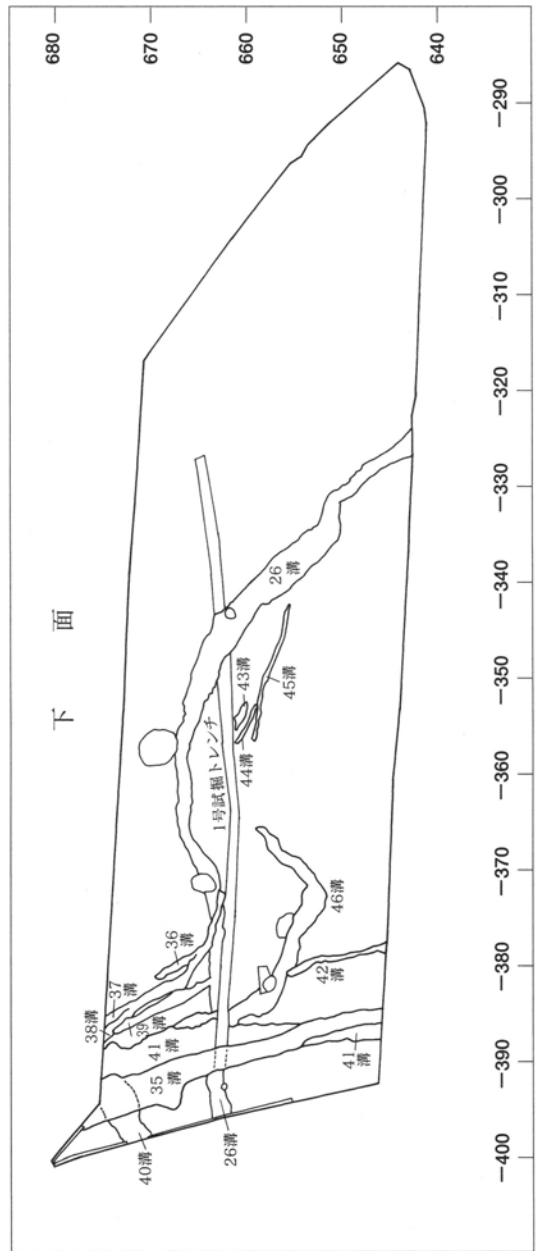
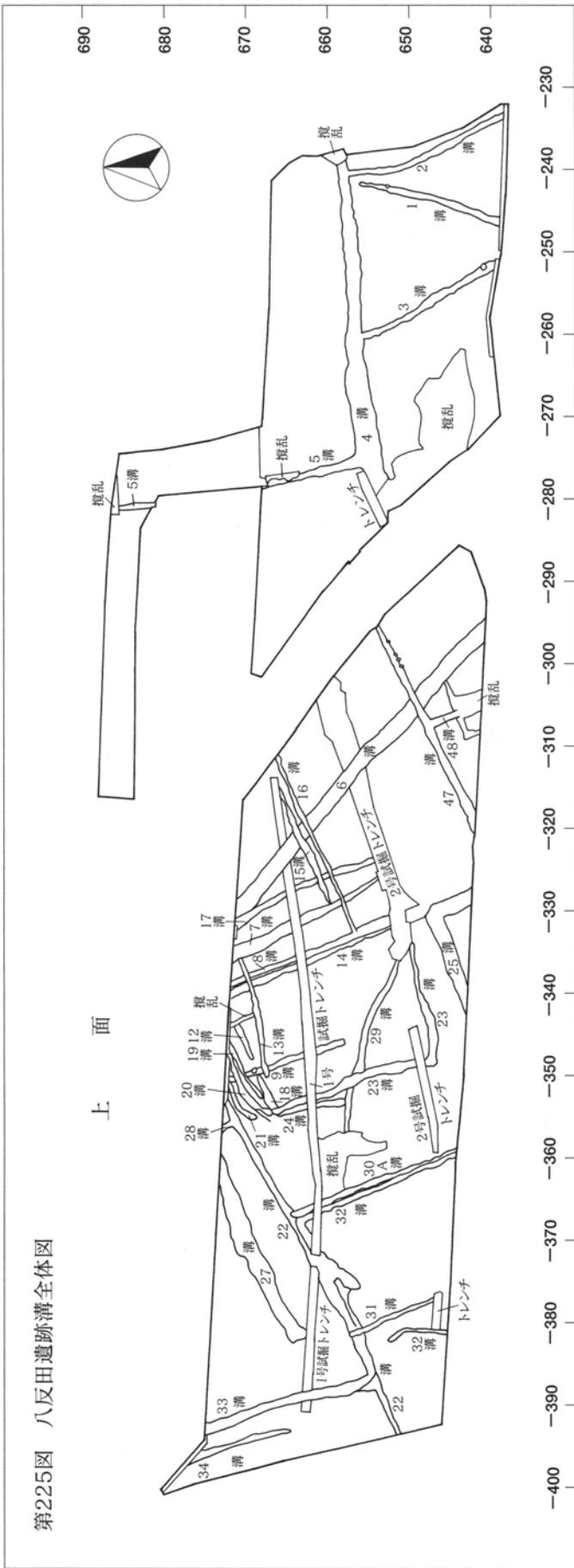
規模 検出全長19.0m、上端0.6~1.1m、下端0.3~0.8m、深さ0.05~0.2mを測る。

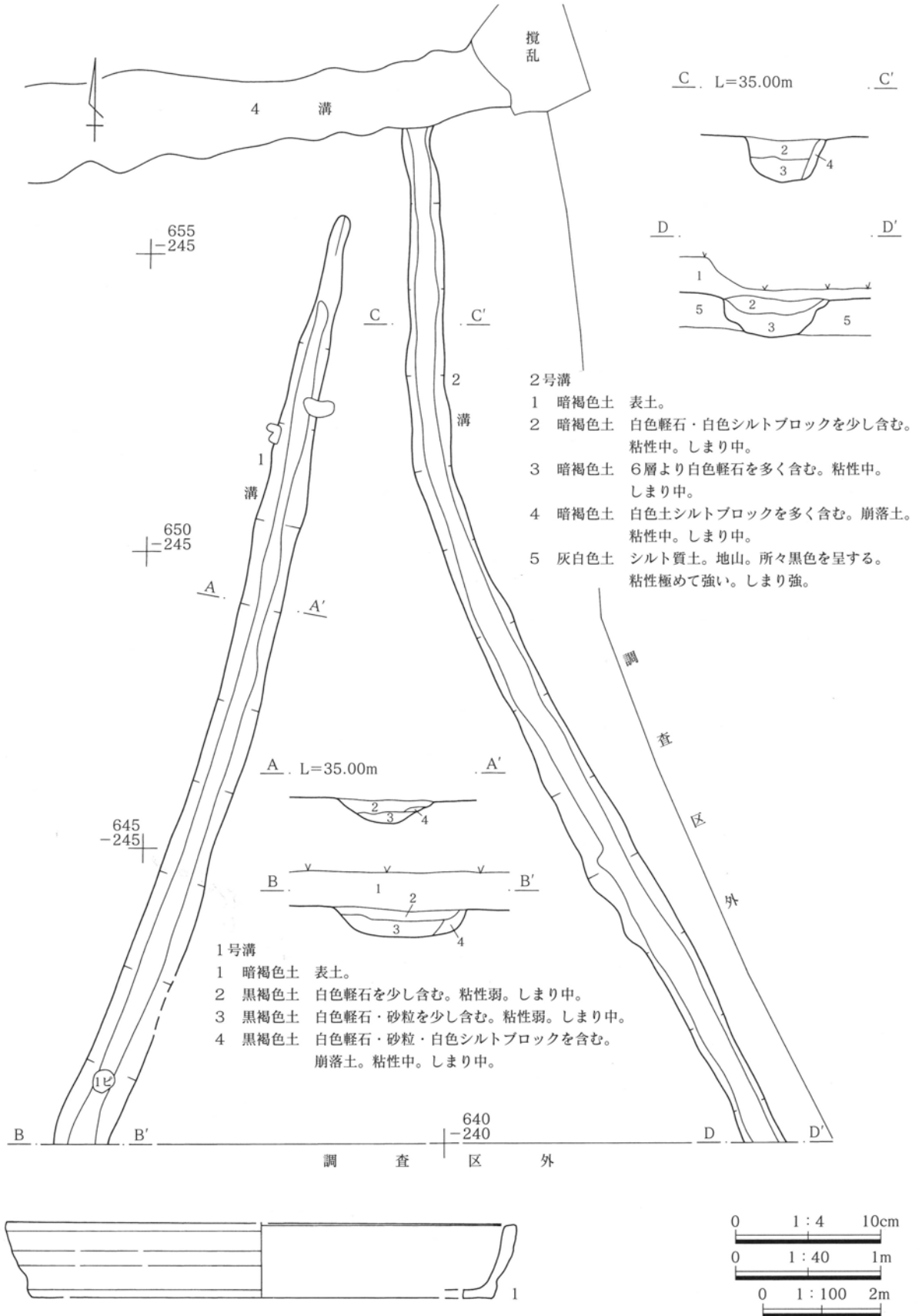
走向 北北西から南南東へ（N-27° -W）

形態 ほぼ直線的に延びていき、2号トレンチ付近で消滅する。断面形は浅い逆台形を呈する。

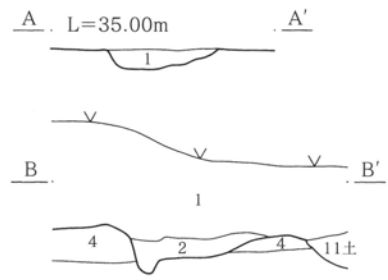
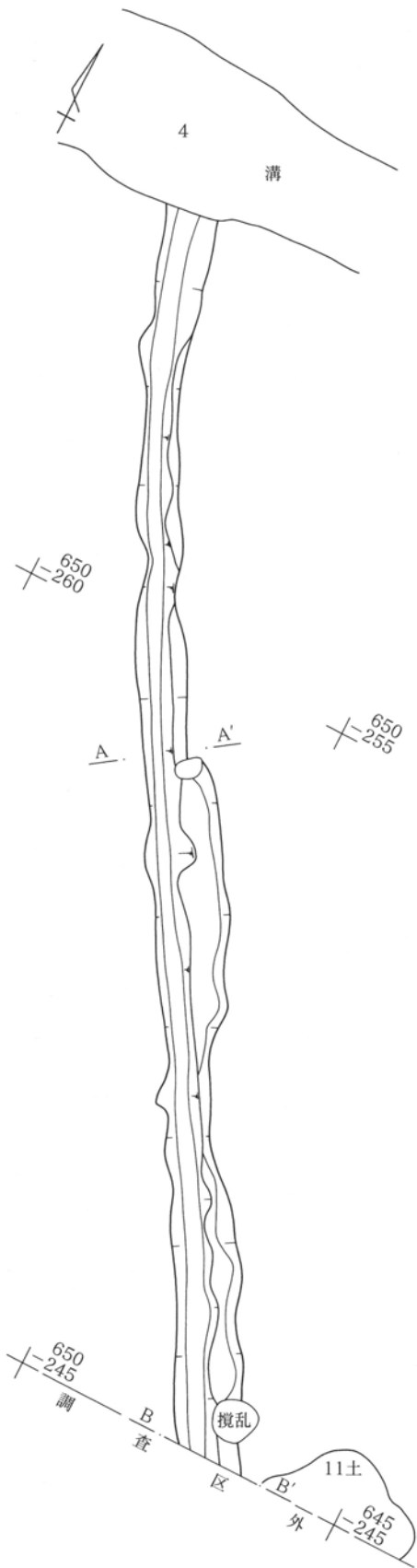
遺物 掲載遺物はないが、覆土からカワラケ片、須恵器片28gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は中世と思われる。





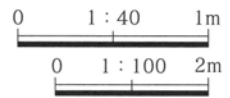
第226図 1・2号溝、2号溝出土遺物



650
-260

3号溝

- 1 暗褐色土 表土。
- 2 暗褐色土 白色軽石・白色シルトブロックを僅かに含む。
粘性中。しまり強。
- 3 暗褐色土 白色軽石・白色・黒色シルトブロックを少し含む。
粘性中。しまり中。
- 4 灰白色土 シルト質土。地山。所々黒色を呈する。
粘性極めて強い。しまり強。



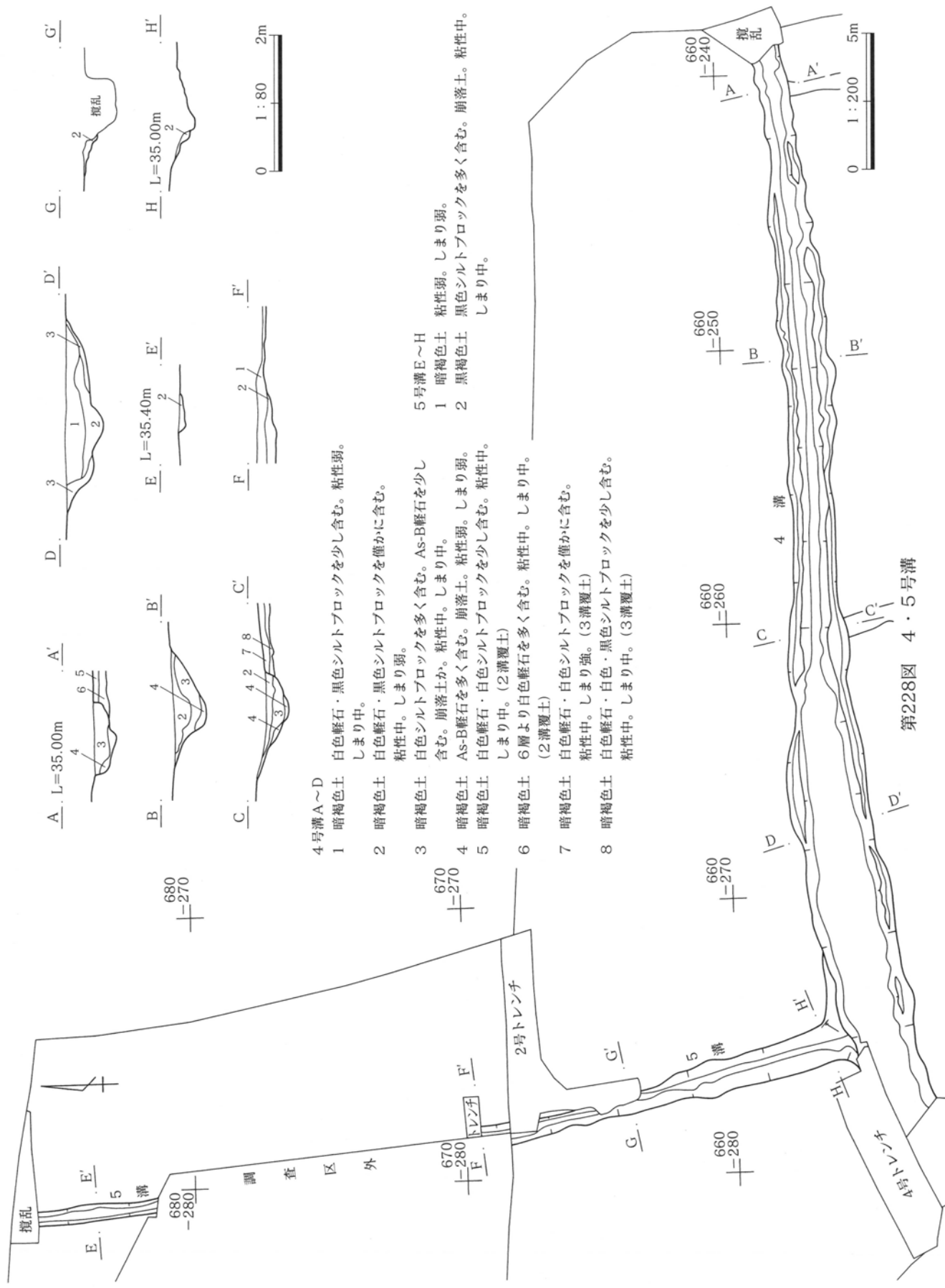
650
-255

645
-250

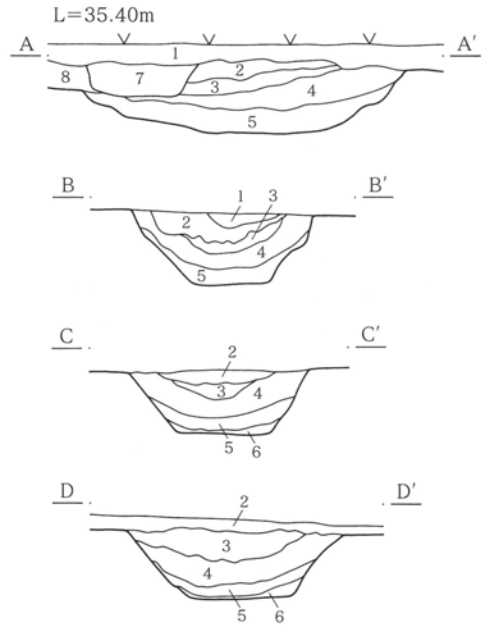
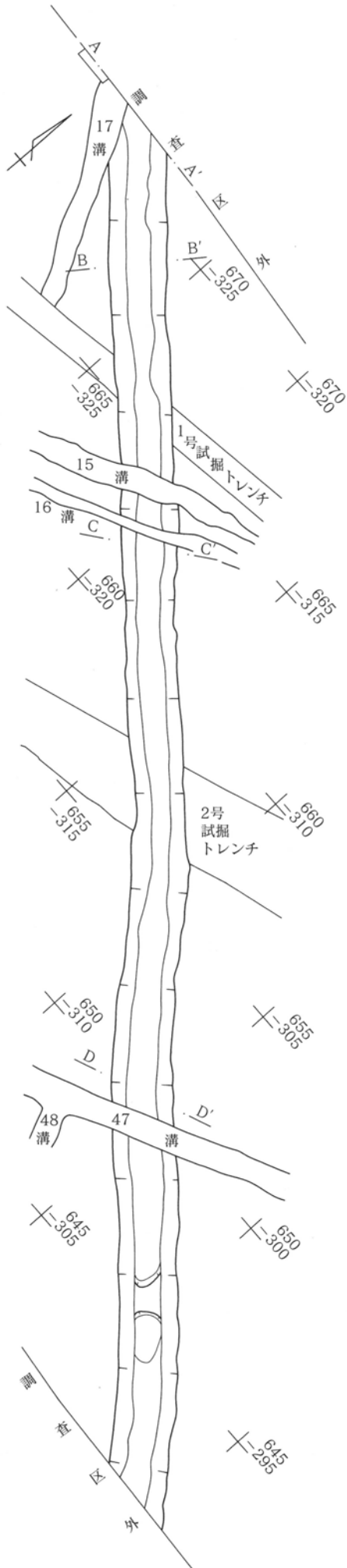
650
-245

645
-245

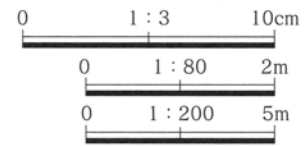
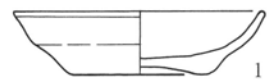
第227図 3号溝



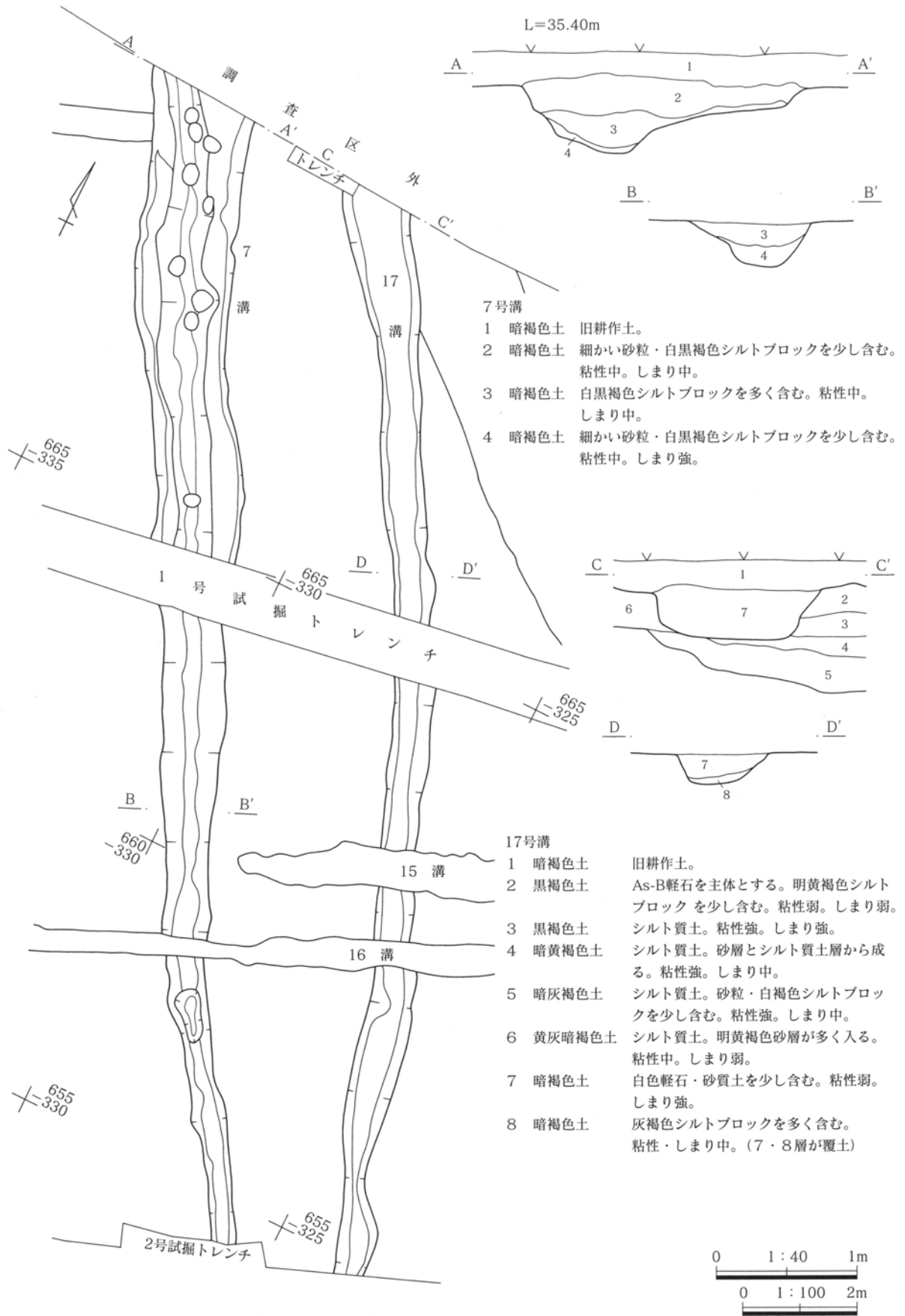
第228図 4・5号溝



- 6号溝
- 1 暗黄褐色土 As-B軽石を少し含む。粘性弱。しまり強。
 - 2 黒褐色土 As-B軽石を主体とする。明黄褐色シルトブロックを少し含む。粘性弱。しまり弱。
 - 3 黒褐色土 シルト質土。粘性強。しまり強。
 - 4 暗黄褐色土 シルト質土。砂層とシルト質土層から成る。粘性強。しまり中。
 - 5 暗灰褐色土 シルト質土。砂粒・白褐色シルトブロックを少し含む。粘性強。しまり中。
 - 6 黄灰暗褐色土 シルト質土。明黄褐色砂層が多くはいる。粘性中。しまり弱。
 - 7 暗褐色土 白色軽石・砂質土を少し含む。粘性弱。しまり強。
 - 8 黄褐色土 灰褐色シルトブロックを多く含む。粘性・しまり中。



第229図 6号溝、出土遺物



第230図 7・17号溝

8号溝 (第231図、P L65)

位置 Ⅲ区上層670-335~650-330G

重複 13・14・16号溝と重複している。本溝がこれらの溝より古い。

規模 検出全長21.3m、上端0.7~1.3m、下端0.3~0.4m、深さ0.3~0.5mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-23° -W)

形態 14号溝と並んで直線的に走行し、2号トレンチ付近で消滅する。断面形は椀状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片32g、須恵器片32gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は古代と思われる。

14号溝 (第231図、P L65)

位置 Ⅲ区上面670-340~650-330G

重複 8・13号溝と重複している。本溝が13号溝よりも古く、8号溝より新しい。

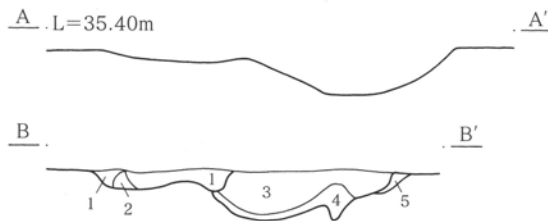
規模 検出全長21.7m、上端0.6~1.3m、下端0.4~1.0m、深さ0.1~0.2mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-23° -W)

形態 8号溝と並んで直線的に走行し、2号トレンチ付近で消滅する。断面形は皿状を呈する。

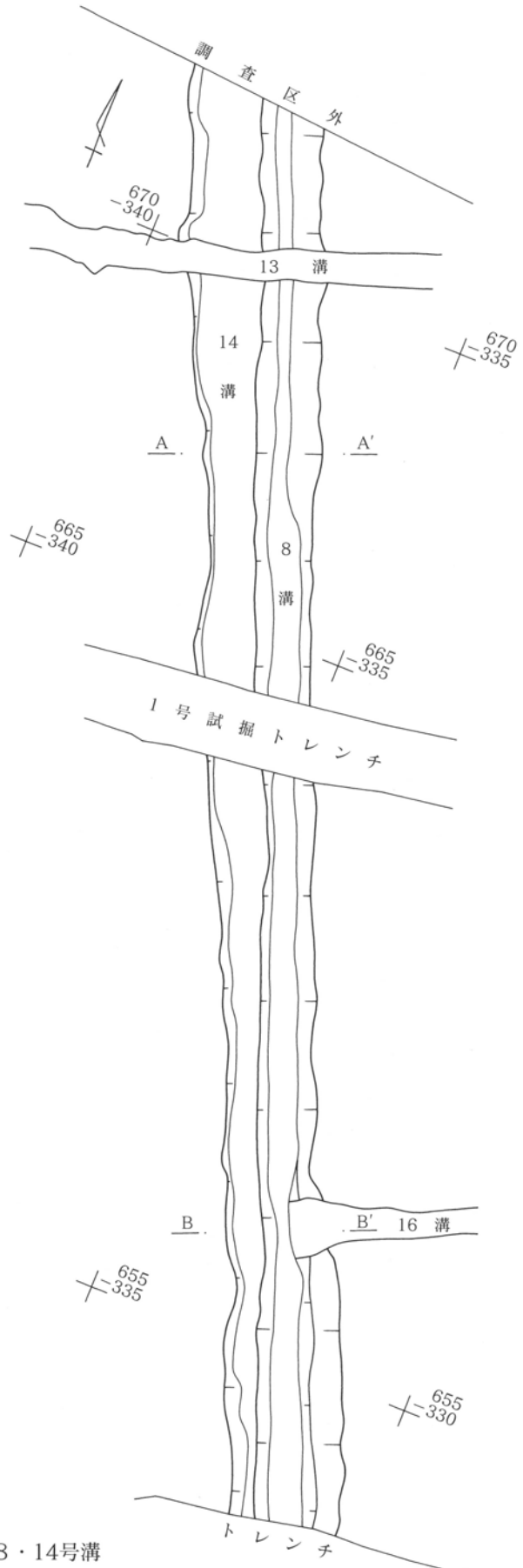
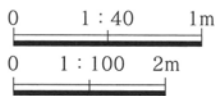
遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片19g、須恵器片24gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から時期は古代と思われる。



8・14溝

- 1 暗褐色土 白黒褐色シルトブロックを多く含む。白色軽石を僅かに含む。粘性中。しまり中。
- 2 明褐色土 明褐色シルトブロックを含む。粘性強。しまり中。
- 3 暗褐色土 細砂粒・白色軽石を僅かに含む。粘性中。しまり弱。
- 4 暗褐色土 砂粒・白色軽石・ロームブロックを含む。粘性中。
- 5 暗褐色土 細かい砂粒を少し含む。粘性中。(16溝覆土)



第231図 8・14号溝

第4章 八反田遺跡の遺構と遺物

9号溝 (第232図、P L66)

位置 Ⅲ～Ⅳ区上面670-350～655-345G

重複 13・19・20号溝、5号ピットと重複している。本溝が古い。

規模 検出全長15.1m、上端0.5～0.9m、下端0.4～0.7m、深さ0.05～0.1mを測る。

走向 西北から南東へ (N-20° -W)

形態 直線的に延びていき、調査区中央付近で消滅する。断面形は浅い蒲鉾状を呈する。

遺物 出土遺物はない。

所見 出土遺物もなく、時期は確定できなかったが、中世以降と思われる。

12号溝 (第232図、P L66)

位置 Ⅲ～Ⅳ区上面670-340～665-345G

重複 なし。

規模 検出全長4.7m、上端0.5～0.8m、下端0.2～0.6m、深さ0.05～0.1mを測る。

走向 東北東から南南西へ (N-68° -E)

形態 直線的に延びていき、調査区の途中で消滅する。断面形は浅い蒲鉾状を呈する。

遺物 出土遺物はない。

所見 出土遺物もなく、時期は確定できなかったが、中世以降と思われる。

13号溝 (第232図、P L66・69)

位置 Ⅲ区上面670-335～665-345G

重複 7・8・9・14号溝と重複している。7溝より古く、他の溝よりも新しい。

規模 検出全長14.8m、上端0.5～0.8m、下端0.2～0.4m、深さ0.1～0.3mを測る。

走向 東から西へ (N-78° -E)

形態 ほぼ直線的に延びていき、9号溝付近で消滅する。断面形は浅い逆台形を呈する。

遺物 須恵器甕、青磁碗が出土してる。他に、覆土から土師器片13gが出土。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世と思われる。

15号溝 (第233図、P L66・69)

位置 Ⅲ区上面665-310～660-325G

重複 6・17号溝と重複している。本溝がこれらの溝よりも新しい。

規模 検出全長18.2m、上端0.4～0.9m、下端0.2～0.6m、深さ0.05～0.1mを測る。

走向 東北東から西南西へ (N-66° -E)

形態 ほぼ直線的に延びていき、7号溝付近で消滅する。断面形は浅い皿状を呈する。

遺物 砥石が出土してる。他に、土師器片23g、須恵器片48g、軟質陶器片90g、陶磁器片20gが出土。

所見 出土遺物・覆土から時期は近世と思われる。

16号溝 (第233図、P L66・69)

位置 Ⅲ区上面665-310～655-330G

重複 6・7・14・17号溝と重複している。本溝がこれらの溝よりも新しい。

規模 検出全長23.4m、上端0.3～0.7m、下端0.1～0.4m、深さ0.05～0.12mを測る。

走向 東北東から西南西へ (N-65° -E)

形態 ほぼ直線的に延びていき、14号溝付近で消滅する。断面形は浅い椀状を呈する。

遺物 銅銭(寛永通宝)が出土してる。他に、陶磁器片10gが出土。

所見 出土遺物・覆土から時期は近世と思われる。

18号溝 (第234図、P L66)

位置 Ⅲ～Ⅳ区上面665-345～665-350G

重複 19・23・24号溝と重複している。本溝が19・24号溝より新しく、23号溝とほぼ同時期。

規模 検出全長4.8m、上端0.4～0.9m、下端0.2～0.6m、深さ0.1～0.2mを測る。

走向 東北東から南南西へ (N-63° -E)

形態 ほぼ直線的に延びていき、23号溝へ合流する。断面形は箱状を呈する。

遺物 出土遺物はない。

所見 覆土から時期は中世と思われる。本溝は、23

号溝に合流し、ほぼ直角に曲がって走向していることなどから、区画溝と考えられるが、内部施設等は検出されなかった。

23号溝 (第234図、P L66)

位置 Ⅲ～Ⅳ区上面665-350～650-330G

重複 18・24・29号溝と重複している。本溝が24・29溝より新しく、18溝とはほぼ同時期。

規模 検出全長34.4m、上端0.4～1.4m、下端0.3～0.6m、深さ0.2～0.3mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-18° -W) → 南南西から東北東へ (N-80° -E)

形態 18号溝と合流し、コの字状の方形区画を成す。断面形は蒲鉾状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土からカワラケの小片などととも陶磁器片90gが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世と思われる。本溝は、18号溝に合流し、ほぼ直角に曲がって走向していることなどから、区画溝と考えられるが、内部施設等は検出されなかった。

19号溝 (第235図、P L66)

位置 Ⅲ区上面670-345～665-350G

重複 18・20号溝と重複している。本溝が18号溝より古く、20号溝とほぼ同時期。

規模 検出全長9.2m、上端0.8～1.0m、下端0.2～0.5m、深さ0.1～0.2mを測る。

走向 東北東から南南西へ (N-60° -E)

形態 20号溝と並行して、ほぼ直線的に延びていき、18号溝に壊され消滅する。断面形は椀状を呈する。

遺物 出土遺物はない。

所見 覆土から時期は中世と思われる。

20号溝 (第235図、P L66・69)

位置 Ⅲ～Ⅳ区上面665-345～665-355G

重複 9・19号溝と重複している。9溝より新しく、19溝とほぼ同時期。

規模 検出全長9.8m、上端0.5～1.2m、下端0.2～0.6m、深さ0.2～0.3mを測る。

走向 東北東から南南西へ (N-51° -E)

形態 19号溝と並行して、ほぼ直線的に延びていき、途中で消滅する。断面形は椀状を呈する。

遺物 砥石が3点出土している。他に出土遺物はない。

所見 出土遺物、覆土から時期は中世と思われる。

21号溝 (第235図、P L66)

位置 Ⅳ区上面670-350～665-355G

重複 なし。

規模 検出全長5.8m、上端0.4～0.7m、下端0.2～0.4m、深さ0.05～0.1mを測る。

走向 東北東から南南西へ (N-71° -E) → 北東から南西へ (N-21° -E)

形態 ほぼ直線的に延びていき、途中でやや南方向へ走向を変えて、消滅する。断面形は浅い逆台形を呈する。

遺物 出土遺物はない。

所見 出土遺物もなく、時期は確定できなかったが、近世と思われる。

24号溝 (第235図、P L66)

位置 Ⅳ区上面665-350～655-350G

重複 23・29号溝と重複している。本溝が23号溝より古く、29号溝より新しい。

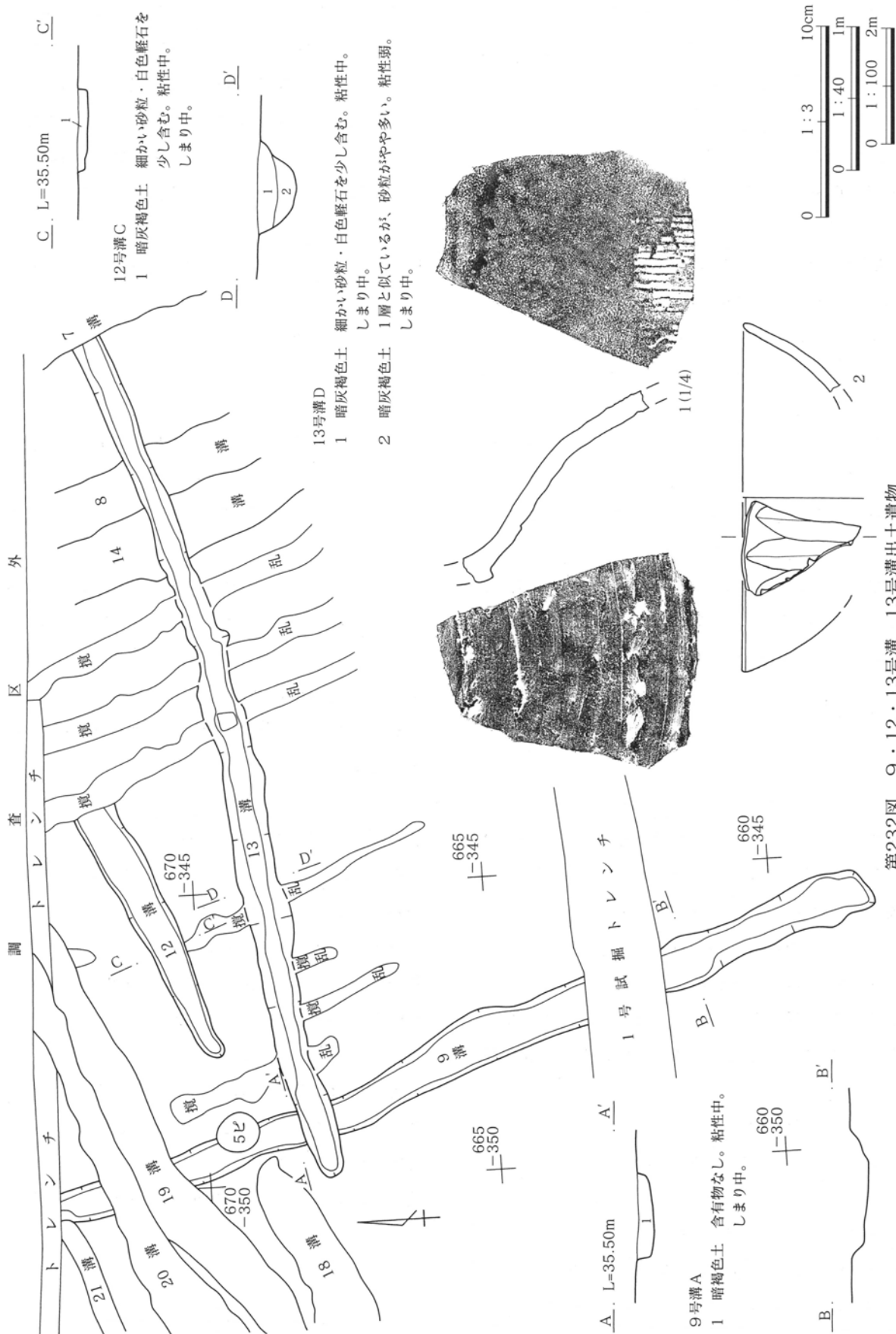
規模 検出全長7.6m、上端0.5～0.8m、下端0.3～0.6m、深さ0.2～0.3mを測る。

走向 北から南へ (N-10° -W)

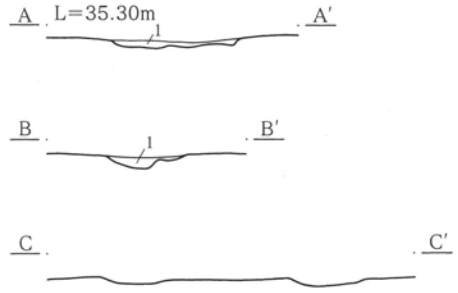
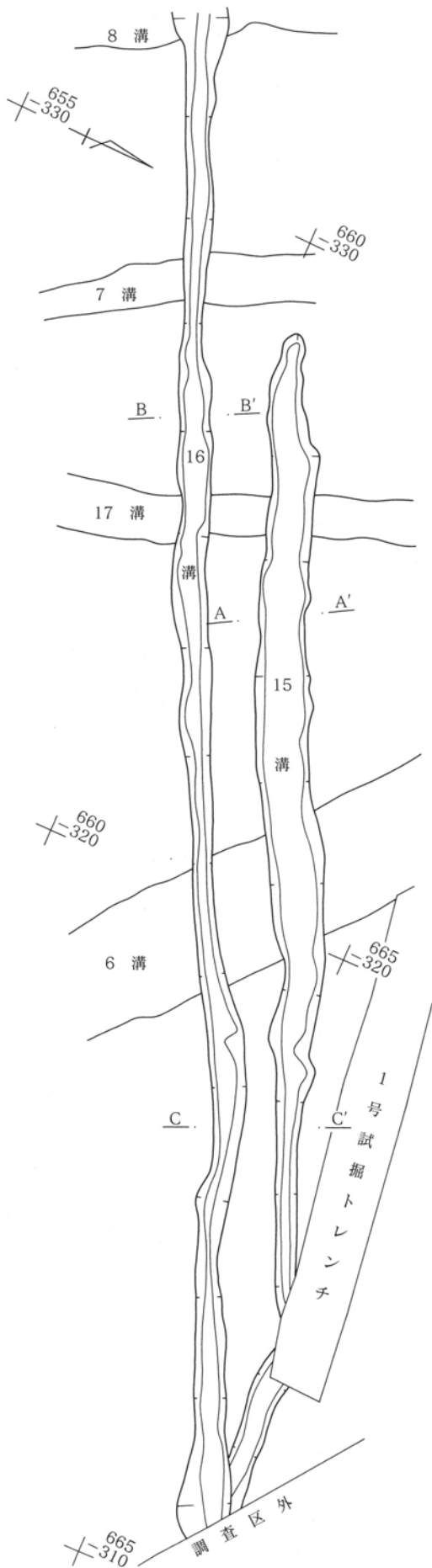
形態 ほぼ直線的に延びていき、29号溝付近で消滅する。断面形は浅い逆台形を呈する。

遺物 出土遺物はない。

所見 覆土から、時期は中世と思われる。



第232図 9・12・13号溝、13号溝出土遺物

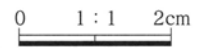
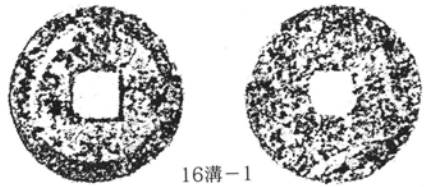
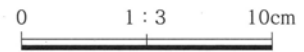
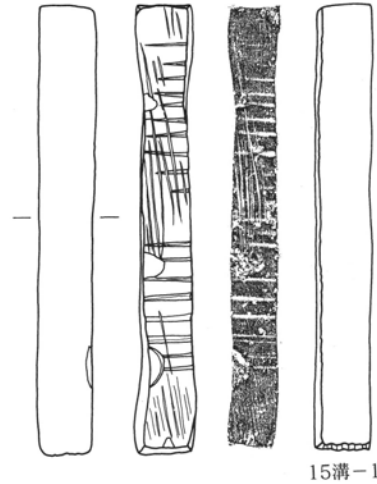
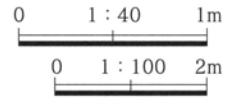


15号溝

1 暗褐色土 細かい砂粒を少し含む。粘性中。しまり弱。

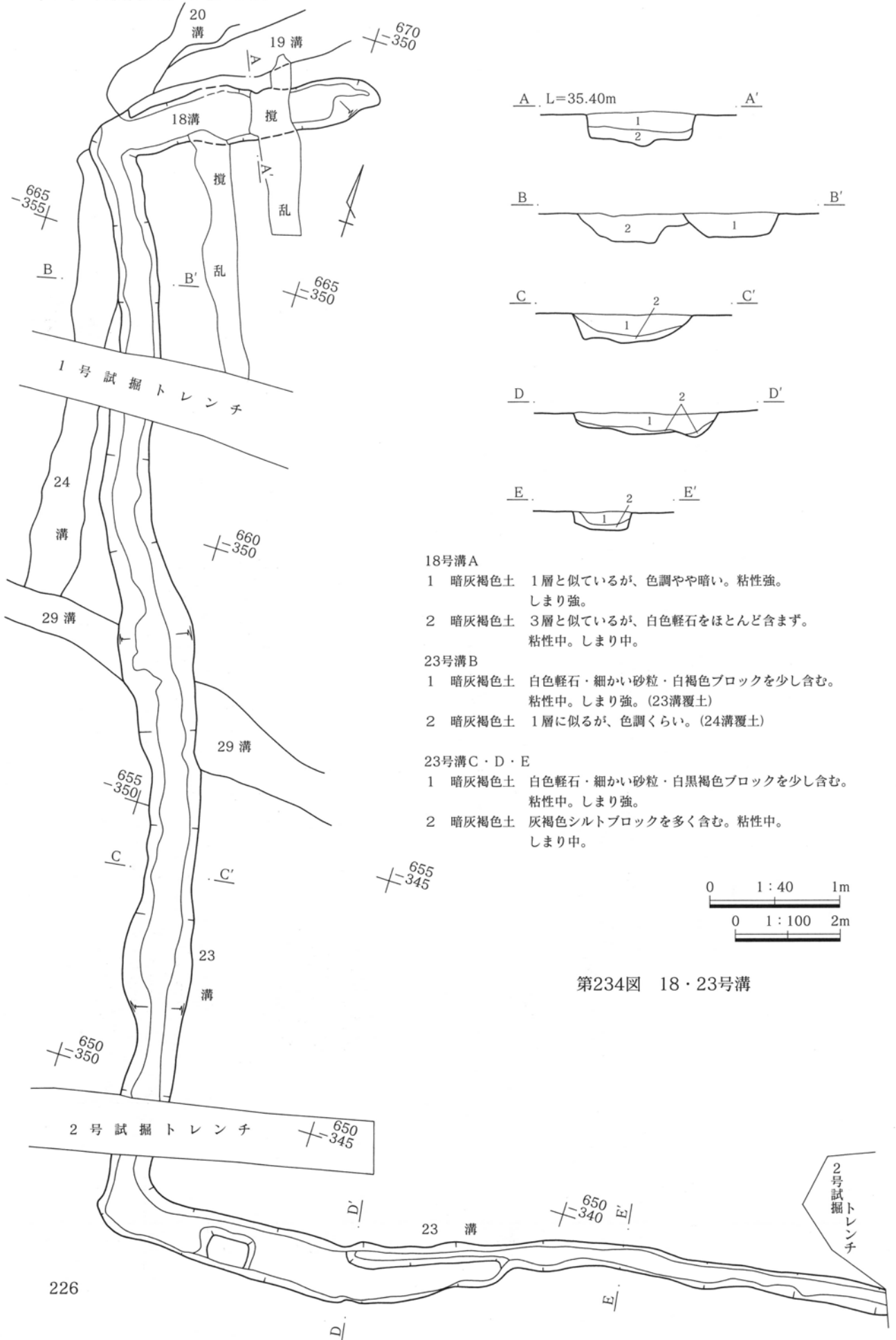
16号溝

1 暗褐色土 細かい砂粒を少し含む。粘性中。しまり弱。

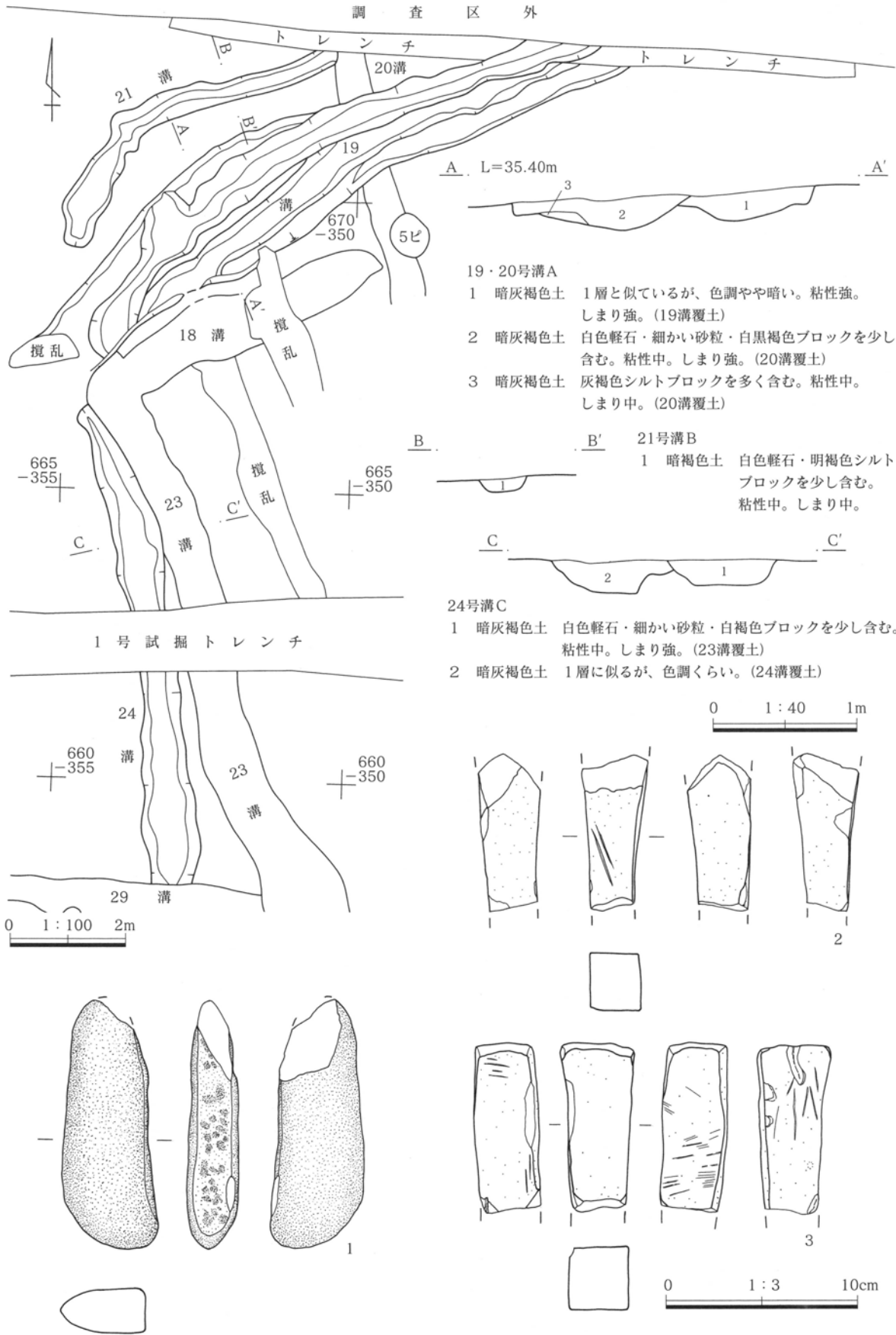


第233図 15・16号溝、出土遺物

第4章 八反田遺跡の遺構と遺物



第234図 18・23号溝



第235図 19~21・24号溝、20号溝出土遺物

第4章 八反田遺跡の遺構と遺物

22号溝 (第236図)

位置 IV区上面670-350~650-390G

重複 30・31・33号溝と重複しているが、ほぼ同時期と思われる。

規模 検出全長45.6m、上端0.6~1.4m、下端0.2~0.4m、深さ0.3~0.4mを測る。

走向 北東から南西へ (N-61° - E)

形態 ほぼ直線的に延びていき、途中で28・30・31・33号溝と合流し、直角に曲がる溝とそのまま直進する溝とに分かれる。溝の中央付近には流水(洪水)のためにできたと思われる落ち込みやピットが検出された。断面形は椀状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土からカワラケ・内耳の小片などとともに土師器片150g、須恵器片85g、軟質陶器片190g、陶磁器片32g、礫160gが出土している。

28号溝 (第236図)

位置 IV区上面670-355G

重複 22号溝と合流しており、ほぼ同時期の溝と思われる。

規模 検出全長1.4m、上端0.6~0.8m、下端0.2~0.3m、深さ0.1~0.2mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-25° - W)

形態 直線的に走向し、22号溝へ合流する。断面形は浅い逆台形を呈する。

遺物 出土遺物はない。

30号溝 (第236図、P L67)

位置 IV区上面660-365~640-355G

重複 22号溝と合流しており、ほぼ同時期の溝と思われる。

規模 30号溝は、30A溝と30B溝の二つの溝からなり、30B溝が新しい。30A溝 検出全長21.3m、上端0.5~0.8m、下端0.2~0.4m、深さ0.2~0.3m。30B溝 検出全長21.1m、上端0.6~1.0m、下端0.3~0.4m、深さ0.3~0.4mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-23° - W)

形態 直線的に走向し、22号溝へ合流する。断面形は浅い逆台形を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から土師器片58g、須恵器片30g、陶磁器片35gなどが出土している。

所見 出土遺物・覆土から、時期は中世と思われる。二つの溝は22号溝に合流し、ほぼ直角に曲がって走向していることなどから、区画溝と考えられる。

31号溝 (第236図、P L67)

位置 IV区上面655-380~645-375G

重複 22号溝と合流しており、ほぼ同時期の溝と思われる。

規模 検出全長9.8m、上端0.4~0.6m、下端0.2~0.3m、深さ0.1~0.2mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-23° - W)

形態 直線的に走向し、22号溝へ合流する。断面形は浅い逆台形を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土から内耳片などとともに土師器片30gが出土している。

33号溝 (第236・237図、P L67)

位置 IV区上面675-390~655-385G

重複 22号溝と合流しており、ほぼ同時期の溝と思われる。

規模 検出全長21.2m、上端1.0~1.6m、下端0.4~0.6m、深さ0.5~1.0mを測る。

走向 北北西から南南東へ (N-17° - W)

形態 直線的に走向し、22号溝へ合流する。断面形はV字状を呈する。

遺物 掲載遺物はないが、覆土からカワラケ・軟質陶器鉢片、須恵器片72gが出土している。

22・28・30・31・33号溝の所見

出土遺物・覆土から、時期は中世以降と思われる。5つの溝ともに、ほぼ直線的に走向し、直角に交わっていることなどから、水田等に伴う区画溝(用排水路)と考えられる。